教育・保育施設等における事故情報データベース【令和６年６月10日 更新】

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
1	令和5年9月28日	3.その他	14.子育て短期支援事業（ショートステイ・トワイライトステイ）	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	6									2	2（児童指導員）	16. 4歳	1.男児		8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折（全治１～２カ月）	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	数回/年	2.基準配置	事故予防に関する研修は適切に行われており、事故発生時の人員配置も適切であった。	実施施設には、今後も研修等を通して事故予防に関する知識の習得に努めていただくよう伝達した。	1.定期的に実施	12回/年	2.不定期に実施	使用の際のチェックと随時の修繕は行っている。	2.不定期に実施	使用の際のチェックと随時の修繕は行っている。	日常使用している、施設内の裏庭での出来事であった。	実施施設には、日常使用している設備であっても事業の利用児童にとっては慣れない場所であるという視点をもって、適切に養育を行っていただくよう伝達した。	1.集団活動中・見守りあり	他の自転車を片付けている間に小学生用の自転車が倉庫前に置かれており、職員としても危ないという認識はあった。	事故が事前に予見できる場合には危険を取り除く、児童を危険から遠ざける、そもそも事故が発生しそうな活動は行わないなどの方法により積極的に安全を確保するよう施設に伝達した。	1.いつもどおりの様子であった	当該児童は動きが多く、家でも自転車に乗りたい気持ちが強かった（後日確認した内容）。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	従事していた職員らは、児童が自転車に跨った段階で児童に「危ない」と声掛けを行ったが、間に合わず転倒してしまった	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	事故発生時、１名は自転車の片付けがあらかた終了し倉庫から外に出てきたところで、もう１名は倉庫前で全体を見つつ他児の対応をしていした。	事故については施設全体で共有し、職員会議やリーダー会議で振り返りを実施している。	今後も取り組みを継続していただくよう実施施設に伝達した。	
2	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	15							15		3	3	22. 10歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	5.下肢(足・足指)	左ひざ裂創 左ひざ膝蓋骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施	実施頻度(数)回/年	2.基準配置	特になし	職員会議での危険個所の周知の徹底。早急なマニュアルの作成。外遊びの見直し	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(数)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(数)回/年	特になし	クラブ前での遊び方、遊ぶ際の職員配置の検討	1.集団活動中・見守りあり	興奮状態の子ども達への声掛けをせず、やりたいようにやらせていた。	ルールの把握、職員の危険意識向上、遊びを中断させるなど、子どもも達にもその遊び方で大丈夫なのか考えさせるべきだった。危険個所にクッション材の設置を検討。	1.いつもどおりの様子であった	該当児童は、いつも通りであったが、周りが興奮状態にあった。該当児童も遊んでいるうちにヒートアップした様子。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	玄関付近(バスケゴール前)で見守りを行う	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	1名は玄関前で他の児童と縄跳びを行う。もう1名は道路側でバスケと鬼ごっこの見守りをしていた。	玄関前の柱にぶつかる危険を予測できなかった。危険個所の把握がされていなかった。ボールの取り合いに夢中になり周りが見えていなかった。	特になし	
3	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	1	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	13							13		2	1	21. 9歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足外果骨折（全治１か月以上）	8.その他	1.あり	3.未実施	実施頻度（０）回/年	1.基準以上配置	事故発生場所の図書室では、本を読んだり体を動かさない静かな遊びをするよう日頃から児童に伝えていたため、職員を配置していなかった。	図書室にいる児童同士が静かに遊んでいない様子であれば、その日の職員の人数によっては図書室に常時職員を配置する。また、図書室を定期的に巡回する。	3.未実施	実施頻度(0)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	特になし	特になし	4.個人活動中・子どものみ	長期間休む前から、図書室では動く遊びをしないように伝えていたが、久しぶりの来所で気持ちが高ぶり、動く遊びをしてしまった。	久しぶりに来所した際には一緒に改めて学童内のルールを確認し、説明をする。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	図書室で本読みをしていた児童は、隣に同学年男児が来た事で特に理由もなく相手にちょっかいをかけ、じゃれあいの遊びに発展。床に仰向けに寝そべっており、その足を同学年男児に踏まれ、そのまま体を回転させてしまう。結果、足を痛めた。	4.対象児の動きを見ていなかった	ホールには児童が９名おり、支援員はホールで動く遊びをしている児童の様子を見守っていた。図書室にいる児童から、対象児が怪我をしたという話を聞き図書室に向かう。腫れている様子だったため湿布を貼って対応。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	ホールで動く遊びをしている児童の様子を見ながら、洗濯物を干すなどの作業をしていた。	職員が２名しかいない状況で、ホールから廊下を挟んで別室にある図書室に１名配置できなかった。	どうしても体を動かした遊びがしたい場合は17時以降の動く遊びができる時間帯に、ホールでやるよう伝える。	
4	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	15							15		4	2	21. 9歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足中指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	2.基準配置	特になし	支援員が危険な状況を判断する力を高め、児童自身の危険を避けて身を守る能力が向上するよう事例を再検証する。	1.定期的に実施	実施頻度(290)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(290)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(290)回/年	特になし	図書室の物品の配置を変え、角に入り込めないようにした。	7.その他	特になし	お迎えを待つ時間帯なので、静かに過ごすよう声がけをする。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	事故直前にも同じ動きをしており、注意を受けている。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	児童全体を見渡せる位置に配置し、本児に対して直前に注意を行っている。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の部屋で事務処理を行っている。	特になし	職員全体で事故の状況および安全対策の情報を共有し事故防止に努める。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
5	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	3	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	8.学童	55							55		5	3	19．7歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	1.頭部	耳たぶ裂傷	3.子ども同士の衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度（１２）回/年	2.基準配置	特になし	全支援員が参加しての事例研修を実施するとともに、全児童を対象とした集会等の場を活用し安全意識の向上を図る。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１　)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	安全点検を引き続き計画的に実施する。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	全支援員が参加しての事例研修を実施するなど、より組織的な安全確保の取組を推進する。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	図書コーナーの周辺を走り回っていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児童がいるところには必ず職員が配置、見守りをしている。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他室の児童を見守っていた。	特になし	ボランティアの支援者の増員など、実効性のある改善策を具現化する。	
6	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	26							26		5	2	20．8歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面（口腔内含む）	歯の折れ	3.子ども同士の衝突によるもの	2.なし	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.基準配置	特になし	事故事例の共有など、様々な可能性を考慮した体制づくりに努める。	2.不定期に実施	実施頻度(0)回/年	1.定期的に実施	実施頻度（１）回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	特になし	今後も引き続き安全点検の実施を継続する。	4.個人活動中・子どものみ	特になし	児童だけで行動することのないような環境づくりに努める。	1.いつもどおりの様子であった		3.対象児から離れたところで対象児を見ていた		2.担当者・対象児の動きを見ていなかった		特になし	他児童に関しても、同様の事故が起きないよう指導を徹底する。	
7	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	72							72		7	4	18．6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面（口腔内含む）	外傷性亜脱臼（歯）	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(数)回/年	1.基準以上配置	特になし	児童への安全指導について職員全体で共通認識を持つとともに、出勤職員数を考慮した職員配置を行う。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	活動場所に危険個所がないか毎日点検する。	3.個人活動中・見守りあり	当該児童は図書スペースで靴を脱いだ状態で読書をしており、少し離れた本棚へ移動する際、上靴を履かないまま靴下でフローリングの上を歩いたことですべって転倒してしまった。	上靴を履いて落ち着いて活動するように指導を適宜行う。移動する際には、足元に一層の注意を払うよう再度安全指導を行う。	1.いつもどおりの様子であった	図書スペースから少し離れた本棚へと移動していた。	4.対象児の動きを見ていなかった	本棚へ背を向けた形で、他の職員と荷物の移動を行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	児童クラブ受入や保護者連絡、読書指導、インターフォン対応等を行っていた。	特になし	子どもたちが安全に過ごすことができるよう、児童への安全指導について職員で共通認識を持つと共に子どもたち自身も児童会館で安全に過ごすことができる態度を養っていく。	
8	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	1	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	13							13		4	2	21．9歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢（足・足指）	右足首骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(　)回/年	1.基準以上配置	当該児童は今シーズンのスキー初滑りであったため、滑走前に特に注意して滑走するなどといった指導が必要だったと思われる。	初滑りの際にはいつも以上に滑走について注意喚起を促す。	1.定期的に実施	実施頻度(　)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(　)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(　)回/年	特になし	天候の変化や雪質に注意する。	1.集団活動中・見守りあり	シーズン初すべりの際には、特に注意して滑走するよう児童に伝える。	滑走中にも、子どもの状況を見ながら指導方法を適宜変更する。	1.いつもどおりの様子であった		2.対象児の至近で対象児を見ていた	滑走中のため事故発生を予測するのは困難だった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)		特になし	特になし	
9	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	22							22		2	2	20．8歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢（足・足指）	右足関節外果骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(複数)回/年	2.基準配置	日々のOJTとミーティングで安全な環境構成と安全な遊び方についてかなり高い頻度で話し合われている。	各遊具、各玩具に関する安全に遊ぶ上での注意点をまとめ、園内研修等で共有する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１３)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)	全ての園庭の遊具の下、その他広い範囲に安全用のマットが敷いてある。	マットが固くなっている場所もあったため、場所に適したマットを購入、交換していく。	1.集団活動中・見守りあり	ブランコが園児用サイズであり、普段から注意して乗るよう指導しており、該当児童もその事を分かって当日も注意しながら乗っていた。	当日は天気も良く、ブランコや園庭の遊具の安全点検も終わったばかりで特に問題はなかった。	1.いつもどおりの様子であった	36.4℃でいつも通り元気であった。普段から園庭で遊ぶときは活発な児童で、特にブランコは大好きでいつもブランコに乗っている。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	支援員Bは、久しぶりにブランコで遊んでいる児童に「ブランコの点検が終わって良かったね」とブランコ付近で児童４名を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	ちょうど1年生を連れて園庭に来たところで、1年生、支援員Cともに園庭内にいたが、事故発生当時ブランコからは少し離れたところにいた。	特記事項無し	ブランコを高さが異なる２種類を設置済。こどもの身体の大きさに適した方のブランコを使用するよう指導する。	
10	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	5	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	31							31		2	1	20．8歳	1.男児		8.その他	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面（口腔内含む）	傷口3針縫合	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	特になし	廊下移動時の対応方法を見直して事故を未然に防止できるようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)/年	施設内に遊具なし	実施頻度(０　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)/年	特になし	引き続き、日々の確認を実施して安全点検を怠らないように努める。	1.集団活動中・見守りあり	児童の人数に対して引率する支援員が1人であったため、後方にいた当該児童に配慮できていなかった。	児童クラブ用の靴を取りに行く際は少人数（4～6人程度）で児童全員に配慮できるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	児童クラブ用の靴を取りに行くために廊下に並んでいた際に、列の最後方で他の児童とふざけあっていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	児童を学校玄関まで引率するために列の一番前にいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	施設教室内で他の児童の対応をしていた。	特になし	児童クラブ用の靴を取りに行く際の引率は一番前ではなく、最後方で児童全員に配慮しながら引率する。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制												事故			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事者		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳									うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他								死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】							理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
11	令和5年9月28日		15. 放課後児童クラブ	4	7. 午後	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	8. 学童	39							39		4	4	21. 9歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右橈骨遠位端骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	2. なし	2. 不定期に実施	実施頻度(0〜1)回/年	2. 基準配置	戸外全体での配置人数は限られた中では多く配置したが、全体を見ているつもりでも常に全児童が見えていたわけではなかった。	児童の人数は多く、支援員の人数は限られているので、遊ぶ場所を人数に応じて決めて支援員の目の届かない場所では遊ばないようにする。	2. 不定期に実施	実施頻度(12)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(12)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(12)回/年	児童は想像以上に激しい動きをするので、毎回遊び場所・ルール確認を行うべきだった。	遊びが始まる前に、児童に今遊んでいい場所・危険個所などの禁止事項や気をつけて欲しいことなどルールを話して支援員と児童が確認し合う。	3. 個人活動中・見守りあり	また新年度で進級した喜び、自分はできるんだという思い込みも相まって激しい遊びにつながった。	危険な遊び、行動についてはその都度注意し止めさせる。	3. いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	大型連休前、午前授業が続く週であったため、いつもより楽しく遊んでいたが、ベンチを飛んだ際に足を滑らせて転んでしまい手をついたところ、激しい動きだったので右手に全体重がかかってしまった。	4. 対象児の動きを見ていなかった	ベンチで痛がりじっと座っている児童を見つけて声をかける。理由を聞くと転んで手をつき痛みを訴えていたので、手の動かし方や腫れの状態、握る力なども確認した。痛がるので学童へ戻り冷やして様子を見るように児童に伝える。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	児童が外から戻ってくると痛いと右手首を抑えているので、動かせるか、握れるか確認した。腫れはひどくなく保冷剤で冷やし様子を見ていたら異常に右手が冷たくなり寒さを訴え始めた。痛みもひどくなる様子があったので至急保護者に連絡し受診をお願いした。	ケガをした瞬間を誰も見ていなかったために、手をどのようについたのか捻ったのかわからず、本児の証言も興奮状態で曖昧だったため、打撲ではないかと予想してしまった。	見れない場合でもケガをした児童や周りの児童などを落ち着かせ、きちんと状況の確認、ケガの様子などを聞き取りをする。	
12	令和5年9月28日		15. 放課後児童クラブ	5	8. 夕方(16時頃〜夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8. 学童	20							20		6	4	18. 6歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右上腕骨外顆骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	2. なし	2. 不定期に実施	実施頻度(0〜1)回/年	2. 基準配置	1年生の遊びの範囲内でサッカーやなわとび、追いかけっこなど様々な遊びをしている子が多かった。	狭い範囲でサッカーはやらないなど、怪我が起こりにくい環境をつくる。	1. 定期的に実施	実施頻度(4)回/年	3. 未実施	実施頻度(0)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(12)回/年	砂地と草が生えている部分に凹凸があり、平らではない。	小学校と協議し、凹凸のある部分に砂を入れ平らにしてもらった。	1. 集団活動中・見守りあり	１年生の遊びの範囲内で遊ぶ児童数が多く、注意散漫になりがちだった。	意識して児童の様子を観察し、声掛けをして注意を促す。	1. いつもどおりの様子であった	当該児童が他男子児童とともに、女子児童に対して追いかけてみて！と煽り、女子児童が追いかけてきたので逃げたところ転倒する。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	転倒した当該児童に駆け寄り、声をかける。特に痛みをうったえず再び遊びに戻ったので、児童から離れる。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	当該児童に声をかけ、特に変化は見られなかったのでその場を離れる。	転倒するまでの当該児童の様子を見ていた指導員はいなかった。転倒後の児童の様子を細かく観察する必要があった。	視野を広くし、児童がどんな遊びをしているかを常に確認する。怪我の程度を決めつけず、適切に処置をする。	
13	令和5年9月28日		15. 放課後児童クラブ	4	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	8. 学童	42							42		6	3	18. 6歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	逆関節骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 基準以上配置	全体の見守りが不十分だった。	全体の見守りを行う。また，今回の事例を職員間で共有して再発防止を図る。	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	大型ブロックの上に立って乗っていた。	大型ブロックは２個以上重ねた上には乗らないルールだが，遊び慣れていない１年生や，周囲の状況によっては1段でも上に立って乗らないようにする。	1. 集団活動中・見守りあり	児童の遊びに合わせて，前もって声がけができなかった。	大型ブロックで遊ぶ際の注意点や遊び方について声がけをする。	1. いつもどおりの様子であった	昼食後も普通に遊びだしていた。	4. 対象児の動きを見ていなかった	他の児童や遊びに関わっており，児童が転倒したところは見ていなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれ他の児童や遊びに関わっており，児童が転倒したところは見ておらず本児が泣き気づいた。	新1年生のほとんどが初利用日で個別対応が必要な場面が多く，全体の見守りが不十分だった。	–	
14	令和5年9月28日		15. 放課後児童クラブ	9	8. 夕方(16時頃〜夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8. 学童	72							72		8	5	19. 7歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	永久歯上顎前歯外傷性歯脱臼	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(３)回/年	2. 基準配置	–	事故防止マニュアルを研修を通して職員で再確認する。事故事案についてはヒヤリハット簿に対応内容や改善策を記録し，職員間の周知徹底を行う。	1. 定期的に実施	実施頻度（１２)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度（１２)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度（１２)回/年	–	定期的に施設・設備点検を実施し，劣化・損傷個所は修繕対応を行う。	1. 集団活動中・見守りあり	怪我防止のために周りを見て遊ぶような声がけが不足していた。	児童には校庭遊びの決まりや安全な遊具の使い方について重点的に指導を重ねる。遊んでいる最中も様子を見ながら適宜声がけする。	1. いつもどおりの様子であった	いつも通り他児と一緒にドッジボールで遊んでいた。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	ドッジボールをしている所から10メートルくらい離れた所から見ていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	校庭にいた他2名の職員はサッカーゴール前でのサッカー遊びや遊具での遊び，グラウンド内でのボール遊びと周辺での虫取りなどを見守っていた。	怪我防止のために周りを見て遊ぶような声がけが不足していた。	–	
15	令和5年9月28日		15. 放課後児童クラブ	4	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	8. 学童	78							78		7	4	19. 7歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左橈骨遠位骨折	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(12)回/年	1. 基準以上配置	特になし	見守りの職員を増やすか，遊戯室のあそびの制限をする。	1. 定期的に実施	実施頻度毎日2回	1. 定期的に実施	実施頻度(0)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度毎日１回	遊戯室にも多くの子どもが遊んでいる状態だった。	児童の人数や職員の人数を踏まえて，遊び種類や範囲を考慮する。	1. 集団活動中・見守りあり	本児はボール遊びに夢中になり，周囲の状況を把握できなかった。	ボール遊びは複数名で見守る。職員体制に合った遊戯室での遊びを提供する。周囲によく見ながら遊ぶよう声掛けをする。	1. いつもどおりの様子であった	春休みで制限の多い中で過ごしていたこともあり，遊戯室でのボール遊びを心待ちにしていた様子だった。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	審判をしていたため全体を見ており，突発的な個人の動きには対応できなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	遊戯室以外で児童の見守りと保護者対応をしていた。	ボール遊びの前に周りをよく見て他児との接触に気を付けるよう伝えているが、声掛けが足りなかった。	–	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
16	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	39							39		6	4	21.９歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度（1)回/年	2.基準配置	–	–	1.定期的に実施	実施頻度(60)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(60)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(60)回/年	室内の角のでっぱりに勢いよくぶつかった時に怪我につながる可能性がある	室内の角のでっぱり等に、保護材を設置	1.集団活動中・見守りあり	–	–	1.いつもどおりの様子であった	元気に登館し、友達と融資室でサッカー等で遊び、17時過ぎに退館した。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	遊戯室内で遊んでいる児童全体の見守りを行っていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	各部屋に配置しているので、遊戯室の子どもの動きは見ていない	子どもは遊びに夢中で痛みを忘れて遊ぶ場合がある。活動中の子どもの様子を確認するのはもちろんだが、遊び後の子どもの会話の中に痛みを訴えるタイミングがあるかも知れないのでその後の様子も見守る。	–	
17	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	57							57		7	5	19.７歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右ひじの骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.基準以上配置	準備運動等，遊びの前の準備が不足していた。	運動あそびをする前に準備運動をする。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	特になし	安全点検を継続して行う。	1.集団活動中・見守りあり	高学年児童との交流で気分が高揚している児童への声がけや対応が不十分だった。	今まで以上に見守りを行い，児童の様子を見ながら怪我をしないように声がけをする。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	お昼休憩が終わった後、すぐに運動あそびをしていた。いつもサテライトへ行っている高学年児童が本館に来ていたのもあり、気分が高揚している様子だった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	本児の怪我に気づき事務室へ本児を連れていく。館長に本児から聞き取りした怪我の状況を伝え、患部を保冷材で冷やし、作った添え木で腕を固定する。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の児童の対応をしていた。怪我に気づいてから本児を事務室へ連れていく。	気分が高揚している児童への声がけが不十分だった。	特になし	
18	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	45							45		8	4	18.６歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置	各部屋での見守りが中心となり、廊下等、移動時の見守りが不十分であった。	装具をしている等怪我の危険性がある児童がいる場合には，十分な見守りができるよう職員配置を考慮する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(14)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	安全点検を継続して行いながら，転倒や怪我の危険性がないかを普段から意識して確認する。	7.その他	脚に装具を付けている点を考慮し、特に移動の場面では一層の配慮が必要だった。	一斉に移動する際には近くに職員がつく等、すぐそばで見守る。	1.いつもどおりの様子であった	館庭への移動中だった。	4.対象児の動きを見ていなかった	他児童たちの移動を促していたところ、廊下で座り込んでいる本児を見つけ声をかける。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	各部屋で児童の対応。部屋の中から廊下は見えないため、本児の事故には気づかなかった。	各部屋だけでなく、全体を意識した見守りをする職員がいなかった。	なし	
19	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	26							26		3	1	20.８歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	2.顔面(口腔内含む)	不明	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	2.基準配置	遊びの特性上、接近しながらボールをやり取りすることがある。その特性理解と準備運動等の取組も必要であった。	各担当者は常に一人一人の子どもの動きを注視し、安全確保に努める。事故の際は速やかに職員に話すことができるよう、日頃の信頼関係を築く。	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	学校の校庭を借りていることもあり、日頃から整備や安全点検がしっかりされている。当館職員もその都度安全確認をしながらすすめている。	日頃の遊び方やゲームのルール等について、子どもたちとともに振り返り安全な遊び方について確認する。	1.集団活動中・見守りあり	見守る職員の人数確保には限界がある。遊び内容の特性を理解した上での働き掛けや声掛けを工夫する必要があった。	外遊びへの安全に対する事前の働き掛けを積極的に行い、子どもたちの安全意識や危険回避能力を高めていく。	1.いつもどおりの様子であった	いつもの仲間と一緒に元気に遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	2つのグループがサッカーをしていたこともあり、十分な見守りができていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれの担当か所を見守ることに集中していて、担当者や対象児童を見守ることはできなかった。	一人当たりの見守り範囲や集中の度合いについて、更に検討を加える必要があった。	子どもたちとともに日頃の遊び方を振り返り、よさや課題を具体的に整理しながら安全に対する意識をより高めていく。	
20	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	1	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	58							58		9	8	20.８歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左とう骨遠位端骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(常時　)回/年	1.基準以上配置	コロナ禍による運動不足で体力や筋力、バランス感覚が低下していることも原因として考えられる	児童により近い位置での見守りを行う	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	3.未実施	実施頻度(–)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(随時)回/年	大型ブロックには危険箇所などない為、問題はない	大型ブロックの他、周囲にも危険箇所などない為、問題はない	3.個人活動中・見守りあり	普段から小さい怪我をしやすい児童なので、事前の声がけが必要であった	児童の様子を見ながら、適度に声を掛け、休憩させる	1.いつもどおりの様子であった	他の児童とともに、並べた大型ブロックの上を歩いて遊んでいた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	離れたところからみていたが、本児が転倒したことに気付いて声をかけ手当をした	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	引継ぎをしながら、離れたところから見守っていた。	職員２名が遊びの状況を伝達するために、２名とも児童から離れた位置で見守りを行っていた	–	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
21	令和5年9月28日		15. 放課後児童クラブ	3	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	8. 学童	62							62		19	14	19. 7歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		1. 意識不明	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	痙攣	8. その他	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 基準以上配置	－	突発的な事柄に対して本児の様子を見る、撮影する、本児・他児とも怖がらないよう離す、保護者・救急要請・市へ連絡する、など各自役割を互いに理解してより迅速に動くことができるようにする。	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	3. 未実施	実施頻度(-)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	－	日常で床材の欠損やひび割れなどないかを確認し、転倒の際に怪我をすることがないようにしていく。	1. 集団活動中・見守りあり	－	自分の友達がいつもの様子と違う時は近くの職員にすぐに知らせる事を子どもたちに働きかけていく。	1. いつもどおりの様子であった	普段のように友だちと館庭で鬼ごっこを楽しみ、遊戯室に来る時も具合の悪そうな様子はなかった。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	子どもたちの後ろにいた職員が痙攣直後に本児の動きが普段と違うことに気づき、担当職員に知らせる。担当職員はすぐさま痙攣に気づき、他の職員にも応援を要請する。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	本児に職員が対応している間、他児を離し、落ち着かせる。また、動画撮影や他職員の応援要請を行うなどをしていた。	－	－	
22	令和5年9月28日		15. 放課後児童クラブ	3	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	8. 学童	18							18		4	3	20. 8歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	歯の欠け	8. その他	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 基準以上配置	休憩場所のベンチ付近で立つ児童、座る児童が混在していた。	鬼ごっこの途中で各自が休憩をとるときのルールを作り知らせる。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	特になし	1. 集団活動中・見守りあり	休憩場所のベンチ付近で、立つ児童、座る児童が混在していた。	休憩をする時は休むと声に出してもらい、安全に休憩を取れるように配慮する。休憩場所では座るようにしてもらい、休む場合の安全にも気を配ること。	1. いつもどおりの様子であった	氷おにのルールを守り参加していた。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	氷おにをする児童たちの見守りをしていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	各室でそれぞれの児童を見守っていた。	子どもたちが安全に休憩を取るための方法の周知が不足していた。	子どもたちと危険予知トレーニングを行い、危険回避をして遊ぶ。	
23	令和5年9月28日		15. 放課後児童クラブ	2	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8. 学童	62							62		18	17	21. 9歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2. 基準配置	－	活動当日の天候と路面の確認を実施する	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度毎日)回/年	－	滑りやすい、転倒の恐れがある箇所がないか点検実施する	1. 集団活動中・見守りあり	圧雪での転倒の危険性を声掛けしていなかった。	児童に転倒の恐れがあることの声掛けを行う	1. いつもどおりの様子であった	館庭で、他児数名と鬼ごっこをしていた	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	館庭を動き周り、全体をみていた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他児と砂場あそびをしながら全体を見ていた。	圧雪状態で滑りやすくなっていた。	雪や氷の上で全力で走ると、転倒に繋がる事を児童と再確認した。	
24	令和5年9月28日		15. 放課後児童クラブ	12	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8. 学童	56							56		6	3	19. 7歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	外傷による歯牙脱臼	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1・2)回/年	2. 基準配置	特になし	ヒヤリハット事例や事故事例を共有し，改善策について職員間で共通認識を作る。	1. 定期的に実施	実施頻度(13)回/年	3. 未実施	実施頻度(0)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	特になし	1. 集団活動中・見守りあり	体育館で遊ぶ際にフロアに座ったり横になっている児童がいた。	休憩をとる際は体育館の端など安全な場所で休むようその都度声がけをする。	3. いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	鬼ごっこ中でいつもより勢いよく、他児童を飛び越えようとしたと思われる。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	広い体育館内では２名が離れて遊び の様子見守っていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	多くの児童が動いていたので、本児の動きを予測することは難しかった。	運動遊びをする前に安全に遊ぶための注意点等の周知が不十分だった。	－	
25	令和5年9月28日		15. 放課後児童クラブ	3	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8. 学童	31							31		7	6	19. 7歳	1. 男児		7. 登園・降園中(来所・帰宅中)	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	永久歯欠損	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2. 基準配置	全員が下校するまでは開けないことになっていたドアを開けて外を歩いている子たちに声をかけていた。	再度勝手にドアを開けないことを子どもたちや職員間で確認。	1. 定期的に実施	実施頻度（１２）回/年	1. 定期的に実施	実施頻度（１２)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度（１２)回/年	子どもが勝手に鍵を開けられる状態だった。	子どもの手が届かない位置に鍵をかけるなど対応を取る。	3. 個人活動中・見守りあり	約束やルールについて理解が難しい場面が見られる。	個人的に話をして確認をする。	3. いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	他児より早く帰ってきたので気持ちが高ぶっていたのか、テンションは高めだった。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	受入時の態勢で、集会スペースに位置して広く子どもの様子を見ることができるようにしていた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	畳スペース・玄関スペース・事務スペースに位置し、子どもの受け入れ態勢をとっていた。	本児の様子を気にかけながらも声をかけないでしまった。	情報交換や情報共有をこまめに行い、しっかり連携できるようにする。	
26	令和5年9月28日		15. 放課後児童クラブ	4	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8. 学童	40							40		5	5	19. 7歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	歯損傷	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2. 基準配置	走り回る子どもへ、危険箇所の確認を行なう。	こどもたちのあそびの危険予知訓練を定期的に行なっていくとともに、職員同士声がけを徹底し、ケガを未然に防ぐように工夫を行なう。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	花壇や校庭にある段差などについて、普段から子ども達に話しているが、再度一緒に校庭を周りながら確認する。	今後も花壇や校庭にある段差などについて、丁寧に説明していく。	3. 個人活動中・見守りあり	夢中で駆け回っている子ども達に、巡回職員が声がけなどをしていく。	校庭で遊ぶときの職員の配置を確認し合い、見守りを徹底していく。	1. いつもどおりの様子であった	いつも元気に外遊びをする子どもで、かけっこや鬼ごっこをよくしている。	4. 対象児の動きを見ていなかった	見守りで近くにスタッフはいたが、転ぶ瞬間は見ていなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	危険箇所付近に職員を配置し、巡回しながら見守りしており、本児が花壇付近を走り転ぶ瞬間は見ていなかった。	走り回ったりする際に、普段から花壇付近は危険なことを子どもたちに話しているが、走るのに夢中になっており足下の危険を回避できなかった。	こどもたちと一緒に、あそびの中での危険予知訓練を定期定期に行なっていくとともに、職員同士の声がけを徹底しケガを未然に防ぐよう工夫していく。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
27	令和5年9月28日		15. 放課後児童クラブ	3	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8. 学童	137							##		18	11	18. 6歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		6. その他	5. 下肢(足・足指)	靭帯損傷	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2. 基準配置	特になし	-	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	3. 未実施	実施頻度(-)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	花壇内の砂が減り雨水桝が飛び出して段差になっている。	雨水桝のまわりに段差がなくなるよう砂を補充する必要がある。	1. 集団活動中・見守りあり	子ども達の遊び場の一部になっている為、鬼ごっこや移動時の通り抜け等に普段から花壇内の砂地に入っている。	雨水桝のまわりに段差がなくなるよう砂を補充する必要がある。	1. いつもどおりの様子であった	鬼ごっこをするなど元気に遊んでいた。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	本児の遊ぶ駐車場側を怪我やトラブル等にならないよう見守っていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	館庭側を重点的に怪我のないよう見守っていた。	外遊びから館内にショートカットして入ろうと、ふざけて飛び越えたと思われる。	支援児が多い中で職員は本館サテライトに分かれており、外遊びだけでなく見守る個所が多い。支援員の配置人数には限りがあり見守りに必要な人員の増が必要と思われる。	
28	令和5年9月28日		15. 放課後児童クラブ	3	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	8. 学童	59							59		5	4	21. 9歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	剥離骨折	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(11)回/年	1. 基準以上配置	職員配置は、受け入れ態勢を万全にする為に午前中を手厚くしており、夕方になるにつれて職員が少なくなってしまう体制となっていた。	どの時間帯にも職員がまんべん無く勤務するよう体制を整える。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	安全面を配慮して布ボールを使用していたが、ボールが転がらずに止まっているためかえって事故につながったかもしれない。	布ボール自体に問題が無いかどうかを使用前に十分注意する。	1. 集団活動中・見守りあり	春休み中ということもあり、少々子どもたちの気分が高揚している様子だった。	ケガの無いように、遊びに入る度にきちんと注意事項を伝えるようにする。	1. いつもどおりの様子であった	特に変わった様子は見られなかった。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	ドッジボールの審判をしていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	外遊びや児童クラブ室、図書室等、他の場所でそれぞれ子どもたちを見守っていた。	運動遊びを始める前に，怪我をしないよう準備運動とともに遊びの注意点を伝える必要があった。	遊びがあまり過熱しないように、適度に休憩を挟むなど、クールダウンしながら楽しく安全に遊ぶことができるようにする。	
29	令和5年9月28日		15. 放課後児童クラブ	3	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8. 学童	60							60		11	6	22. 10歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右手中指を骨折	1. 遊具等からの転落・落下	2. なし	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2. 基準配置	なし	館庭内の遊具で遊ぶ際は，各種遊具の危険性を事前指導を実施しながら遊具付近に職員を配置する。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	なし	ハード面に関して問題点・改善策はないと思われる。	1. 集団活動中・見守りあり	なし	環境面に関して問題点・改善策はないと思われる。	1. いつもどおりの様子であった	精神的にも安定しており普段と変わらない様子であった。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	当該児童が落下時，見守りの職員の視野に入っていたが，大きな事故になるとは思わなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の遊びを見守る職員は，該当児童が落下するところは見ていない。	なし	改善策なし。その他項目において問題点・改善策はないと思われる。	
30	令和5年9月28日		15. 放課後児童クラブ	4	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8. 学童	16							16		3	2	21. 9歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		6. その他	5. 下肢(足・足指)	骨挫傷	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(8)回/年	2. 基準配置	なし	なし	1. 定期的に実施	実施頻度(随時)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	なし	なし	3. 個人活動中・見守りあり	つき山にも担当はいたが、その場面を見た職員はいなかった。転んだことを近くの子どもが知らせてくれ、発見。膝の様子を見て冷やす対応をとった。	全てを見ることはできないものの、担当の職員が全体を把握できるよう気をつけていく。	3. いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	もともと児童館本館で過ごしていた児のため、分室での生活に慣れず、普段よりは活動的な様子があった。小高い山をかけ下りて転倒し、膝を強打した。	4. 対象児の動きを見ていなかった	山に担当職員はいたものの転倒した場面は見ていなかった。他児からの報告により転倒に気づき、すぐに膝の様子を見て冷やす対応をとる。その後、膝が痛むと児からの訴えがあり、保護者・児童館本館に連絡。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当している部分を見ていて、転倒した場面は見ていなかった。他児からの報告により転倒に気づく。戸外の児童の安全確保を行う。	山にも担当はいたが、山の別の部分を見ていたことで、児の転倒に気づくことができなかった。	築山に登る際は、降りてくる児に対して走らず歩いて降りるよう声をかける等、繰り返しルールの説明をして安全に遊べるよう見守っていく。戸外遊び前にルールを再確認してから遊びを始めるようにする。走るとどうなるか等、子ども達が自分で考え危険だという認識を持てるよう伝えていく。担当職員はいたが、その場面を見る職員はいなかったため、全体を見渡せる位置で見守れるよう気をつけていく。	
31	令和5年9月28日		15. 放課後児童クラブ	4	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	8. 学童	14							14		3	3	21. 9歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右手小指第二関節下部骨折	8. その他	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2. 基準配置	対戦相手との力の差があり過ぎた。（4年男児）	力の配分の助言や、学年を分けての遊びの実施	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/日	特記事項なし	異年齢による遊びのため柔らかいボールを使用したが防ぎようのない事故であった。	1. 集団活動中・見守りあり	遊びに夢中で少し興奮していた可能性があった。	落ち着いて、十分な距離を保って遊ぶよう何度も声掛けする。	1. いつもどおりの様子であった	遊びに夢中になっていた	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	瞬間は見ていたが、瞬間に手助けできる位置にいなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の遊びをしている児童に対応していた。	特記事項なし	その他に対する改善策なし	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制												事故		
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事者		年齢	性別	特記事項
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳									うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等			
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他					
32	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	3							3		1	1	19. 7歳	2.女児	
33	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	42							42		4	3	20. 8歳	1.男児	
34	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	25							25		4	2	18. 6歳	1.男児	
35	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	8	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	50							50		4	2	18. 6歳	2.女児	
36	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	2	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	25							25		3	3	20. 8歳	1.男児	
37	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	19							19		2	1	19. 7歳	2.女児	

No	事故状況							事故発生の要因分析											
	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面					
			死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検	
			死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】
32	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	鎖骨骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	2.基準配置	子どものテンションが上がり過ぎた	ゲームの楽しさの伝え方の工夫、見通しを持った助言	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/日
33	1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)	靭帯損傷、骨挫傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	特になし	事故発生時、グラウンドでサッカーをしていた児童８名に対し、職員１名は付いていた。人的不足ではないと判断できることから改善策はなし。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年
34	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(5)回/年	1.基準以上配置	とても活発な子で雲梯も得意であったため、見守っていた。	より一層の見守り、声掛け	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年
35	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	マニュアル、研修、職員配置については適切に実施している。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年
36	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足首剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	マニュアル、研修、職員配置については適切に実施している。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年
37	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕上腕骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	マニュアル、研修、職員配置については適切に実施している。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年

No	ハード面		環境面			人的面								掲載更新年月日
	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
32	特記事項なし	リングの大きさの見直し、代用品の検討	1.集団活動中・見守りあり	遊びに夢中だったこともあり少し興奮していた。	落ち着かせるための声掛け等をする。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	遊びに夢中になっていた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	小さめリングへ同時に向かって走っていた為、衝突が起きてしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の遊びをしている児童に対応していた。	特記事項なし	その他に対する改善策なし	
33	特になし	男児が遊んでいた場所は、学校のグラウンドできちんと整備されていた。グラウンドは広く、周りに危険な箇所はなかった為、改善策はなし。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	広い範囲で、児童を見守る。	1.いつもどおりの様子であった	屋外での活動（特にたまにしか行けない、学校のグラウンド）は、気持ちがハイになり、活動が活発。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	サッカーをする場合、指導員が付いて見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	遊具等で他の遊びをしている児童に付き添っていた。	特になし	気を付けてするように声掛けはしていたが、一層強化していく。	
34	校庭のため、雲梯の下が固い可能性あり	落下の時を考え、クッションを敷く等、学校側と相談する	1.集団活動中・見守りあり	なし	今まで通り、見守り状況にあわせて、声がけをする	1.いつもどおりの様子であった	元気に走り回っていた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	人にぶつからない様、転ばないように声掛け	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	トラブルにならないように、事前に声掛け	なし	事故対応の流れについて再度確認し、さらに速やかな対応を目指す。	
35	特になし	施設、設備については引き続き定期的に安全点検を実施し、学校と連携しながら危険を未然に防止することに努める。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	引き続き屋外での遊び時間には支援員が付き添い、危険な遊びはしないルールを守るよう指導を徹底していく。	1.いつもどおりの様子であった	特になし	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	支援員が決められた立ち位置で見守りを行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	支援員が決められた立ち位置で見守りを行っていた。	特になし	事故発生後の対応（怪我の程度の判断、保護者への連絡、病院受診）の流れについて再確認し、速やかな対応を目指す。	
36	特になし	施設、設備については引き続き定期的に安全点検を実施し、学校と連携しながら危険を未然に防止することに努める。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	引き続き屋外での遊び時間には支援員が付き添い、危険な遊びはしない、ルールを守るよう指導を徹底していく。	1.いつもどおりの様子であった	特になし	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	支援員が決められた立ち位置で見守りを行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	支援員が決められた立ち位置で見守りを行っていた。	特になし	事故発生後の対応（怪我の程度の判断、保護者への連絡、病院受診）の流れについて再確認し、速やかな対応を目指す。	
37	特になし	施設、設備については引き続き定期的に安全点検を実施し、学校と連携しながら危険を未然に防止することに努める。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	引き続き屋外での遊び時間には支援員が付き添い、危険な遊びはしない、ルールを守るよう指導を徹底していく。	1.いつもどおりの様子であった	特になし	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	支援員が決められた立ち位置で見守りを行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	支援員が決められた立ち位置で見守りを行っていた。	特になし	事故発生後の対応（怪我の程度の判断、保護者への連絡、病院受診）の流れについて再確認し、速やかな対応を目指す。	

No	初回掲載年月日	概要：認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期：月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制：発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳：0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故：年齢	性別	特記事項	事故状況：発生時状	事故の転帰	死亡：死因	負傷：負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面：マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面：施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面：教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面：対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
38	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	141							##		13	13	18.６歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	2.なし	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	特になし	準備体操後に遊びたい場所を選んで移動する際、子供たちに一斉に動き出すことがなく、落ち着いて移動するよう指導する。	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	特になし	安全点検を行っていく中で修理等が必要なものは早急な対応に心がける。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	支援員や児童にケガの事例を伝え、未然防止を重視する外遊びを心がける。	1.いつもどおりの様子であった	好きな遊びを選んで遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	各自、自分の担当箇所の見守りをしていたが、該当児童には気が付かなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	各自、自分が担当している箇所の見守りをしていた。	特になし	なし	
39	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	36							36		4	2	18.６歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折（左腕）	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	鉄棒に慣れていない1年生という怪我の可能性を伴う環境の中、それぞれ遊びが異なる10人程度の児童を見る職員が１人しかいなかった。鉄棒に取り組んでいることを把握しておきながら、怪我に繋がる可能性を考えて職員を配置していなかった。	鉄棒や雲梯など落下の危険が伴う遊具を練習中の児童には、注意喚起を怠らないだけでなく可能な限り補助に入り、怪我のリスクを予防する。怪我の可能性を予測し、予防に務められるよう職員配置を適切に行う。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(250)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	設備・遊具等に不備はなし	1.集団活動中・見守りあり	スイミングの送り出し、個別対応児童が重なり、職員が通常より手薄だった。	やむを得ず職員が不足していると感じた場合は、専属の見守りが必要な遊びをしている児童に声をかけ、遊びを中断してもらうなどして安全面を優先する。適切な人数で見守りが可能になるよう、都度周りの職員と連携を図り、常に安全が保障された環境で支援に臨む。	1.いつもどおりの様子であった	校庭にさける人員が確保出来るまで職員と鬼ごっこをして遊んでいた。一緒に遊んでいた職員が個別対応が必要な児童を所属クラブに引き継いでいる際に、本児は一人で鉄棒に向かった。逆上がり補助板を用いながら鉄棒に取り組んでいた。落ちた瞬間を目撃した人はおらず何が原因で手を滑らせたのか不明だが、本児によると左腕から地面に落下したとのことだった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	個別対応が必要な児童を所属クラブの職員に引き継いでいた際、本児が一人で鉄棒に向かっていたため遠くから見守る形となっていた。職員が不足している時間帯だったこともあり、鉄棒に専属で職員がつくことができず、校庭で遊ぶ10人程度の児童を職員が広く見守っている状態だった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	職員の動きが流動的だったため、本児の動きを常に見守っている職員は配置していなかった。他の職員は隣接する学校敷地内の遊具広場で遊ぶ児童の見守りを行っていた。本児が怪我をする直前に鉄棒に向かった職員が１名いたが、怪我を未然に防ぐには至らなかった。	本児の鉄棒を含め、職員の人数に対し個々の対応が必要な児童・遊びが多かった。	鉄棒に限らず、遊具が伴う危険性を児童に伝え、安全性を児童自ら確保出来るような声かけや注意喚起を徹底する。	
40	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	39							39		4	2	18.６歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外側顆骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	１年生に対して遊具の使い方についての周知がきちんとできていなかった	遊具の使い方について子どもたち全員に話す。遊具で遊んでいる時は、すぐに声掛けが出来るように遊具の周りに職員が一人つく。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	特になし	設備・遊具等に不備はなし	1.集団活動中・見守りあり	上級生が上に乗って遊ぶのを見て、対象児が真似をしてしまった	子どもたち全員に正しい使い方について話をした	1.いつもどおりの様子であった	上級生が上に乗って遊ぶのを見て、対象児も出来ると思って真似をしてしまった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	他児の様子を見ていたため、対象児が落下する瞬間に間に合わなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の様子を見ていたため	職員の交代の時間で、数分間外が手薄となり声掛けができなかった	学校とも遊具の使い方について共有し、遊具が伴う危険性を子どもたちに伝え、安全性を子ども自ら確保出来るような声掛けや注意喚起を徹底する	
41	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	35							35		6	2	19.７歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	第二人差し指裂傷、ひび	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	特になし	事故を予防する方法について職員間で協議・検討を定期的に実施する。	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	特になし	設備等が原因ではないため改善策はなし	1.集団活動中・見守りあり	児童が縄跳びの正しい使い方をしていなかった	玩具を使用する際は、正しい使い方をするように周知する。	1.いつもどおりの様子であった	児童2名が縄跳びを引っ張り合いをして遊んでいたが、1人の児童が手を離したため、グリップ部分が相手児童の指に当たってしまった。	4.対象児の動きを見ていなかった	第二保育室の施錠を行う10分前だったため、清掃作業を行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	第一保育室で支援を行っていた。	保育の終了時間が近づき、児童の数も少なかったことから職員の安全管理意識が薄れてしまっていた	安全管理意識が保たれるように、日頃から事故等の緊急事態を想定して職員間で協議・検討を行う。	
42	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	41							41		5	2	20.８歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	日常の生活や遊びの中で起こり得る事故やケガを防止するため、室内及び屋外の環境の安全性について毎日点検し、必要に応じて補修する。	1.定期的に実施	実施頻度（２）回/年	3.未実施	実施頻度(6)回/年	3.未実施	実施頻度(6)回/年	特になし	事故が予測される遊びについて、子どもに注意喚起と安全点検	1.集団活動中・見守りあり	特になし	本人の能力を超えていそうなあそびは、より注意深く見守る。	1.いつもどおりの様子であった		2.対象児の至近で対象児を見ていた		1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	近くで木登り中の児童を見守っていた。	特になし	子ども達が日頃より遊んで慣れている場所や遊具でも、怪我や事故に繋がりかねないことを念頭にしっかり見守ること、危機管理を持つことを忘れないよう心がける。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
43	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	27							27		5	4	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.基準以上配置	特になし	正しい遊具の使用法に対する指導の実施	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(49)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	特になし	遊具の設置状況等で問題がないか再確認する	1.集団活動中・見守りあり	特になし	児童一人ひとりの行動を注意して見守る。	1.いつもどおりの様子であった	普段はブランコの安全柵を越えることはないが、当日は柵に触れていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	常に2，3人で館庭全体に目を配り見守りをしているが、対象児が転倒した瞬間は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の遊びの様子を見ていた。	危険を避けるための柵であるが、乗り越えることを察知出来ず注意を怠った。	安全な遊び方をしない等全体の児童に注意喚起するとともに職員も安全管理に対して再度意識を高めるようにする。	
44	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	17							17		3	2	21.9歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	上顎前歯歯冠破折・ 下顎前歯部脱臼	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	特になし	研修内容を周知徹底させて運営をおこない、マネージャー巡回時に都度状況確認をする。	1.定期的に実施	実施頻度(開所日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(開所日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(開所日)回/年	特になし	遊具・施設等の確認は毎日指導員が実施する。また、児童が遊ぶにあたり危険な場所はないか、見えづらい場所がないかを確認しながら見守りを実施する。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	児童の見守りをする際は、全体を見られる配置につけるように指導、改善する。また、死角がないかを意識しながら見守りを行う。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	普段から仲の良い二人であったが、突発的に言い争い、もめてしまった。	4.対象児の動きを見ていなかった	事故発生場所（トイレ前）の室内反対側にて別児童の対応をしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	事故発生時は外遊びに出る前で、室内で使った玩具等の片づけやトイレ誘導をそれぞれ他児童と行っていた。	新年度ということで新しく入所した1年生に配慮し保育していくという共通認識があり、全体を見るという事が欠けていた。	事故を全体で共有して、様々な場面で事故が起きうることを認識して、児童の見守りにあたるようにする。	
45	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	1	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	25							25		3	1	21.9歳	2.女児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足間接外果骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	特になし	帰る時の危険箇所の周知や掲示、声掛けを行う。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	施設に起因する事故ではないため改善策なし	7.その他	特になし	職員がいない状況で発生したため改善策なし	1.いつもどおりの様子であった	クラブ内ではお友達と楽しく過ごしていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	自宅へ帰る途中に起きた事案のため、職員は確認できていません。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	自宅へ帰る途中に起きた事案のため、職員は確認できていません。	特になし	クラブ外には危険な箇所がたくさんあるので、安全に登所や降所が出来るよう子どもたちと一緒に危険箇所を確認し、話合いを行う	
46	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	101							##		9	2	20.8歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(6)回/年	1.基準以上配置	遊具の丸太を飛び越えようとする児童がいる。	危険なことを児童へ伝えて。子どもたちにもどうやって遊べばよいか考えさせた。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	設備の不備ではないので特記事項なし。	3.個人活動中・見守りあり	丸太を飛び越え遊ぶ児童が多数いる。	飛び越えるような危ない遊びはしないよう注意する。危険な状況にならないよう予測して声かけする。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りの様子で遊具のまわりで数名の児童が遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	見守りはしていたがバランスをくずして左腕を打つまで動作が一瞬だったので間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員は数人の児童に話しかけられ対応していて気付かなかった。	当該児童の動きを事前に予測して、もう少し早く声掛け等の対応ができた。	児童だけではなく職員配置にも気を配る。職員が気を配るのはもちろん子どもたち同士でも危険な遊びになってないかお互いに確認をさせる。	
47	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	34							34		4	3	21.9歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首骨折	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(10)回/年	2.基準配置	本人たちも支援員にも予測のできない怪我であった。	支援員の見守りの立ち位置など工夫して死角をできる限り少なくする。密集しないように配慮する。	1.定期的に実施	実施頻度(250)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(250)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(250)回/年	若干グラウンドが乾いていたので滑りやすかったかもしれない。	散水をして、滑らないように配慮する。	1.集団活動中・見守りあり	ゲームを中断させていた時の事故。	常に子どもたちの動向を観察しておく必要があった。	1.いつもどおりの様子であった	当該児童は行動も活発で、当日も元気に外遊びに参加していた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	散水のために一時遊びを停止させていたところ。至近で見守りをしていたが、咄嗟のことで事故を未然に防げなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	散水をしていたので見ていなかった。	普段仲の良い子ども同士の接触事故であり、ふざけあっていたことが起因。	特になし。	
48	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	41							41		4	3	19.7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	年一回程度実施	1.基準以上配置	特になし	事故との関連無し	2.不定期に実施	実施頻度（10～12）回/年	2.不定期に実施	実施頻度（10～12）回/年	2.不定期に実施	実施頻度（10～12）回/年	特になし	事故との関連無し	1.集団活動中・見守りあり	特になし	外遊び中は、事故発生の可能性の高い遊具付近については特に注意して見守るようにする。	1.いつもどおりの様子であった	普段と特段変わった様子はなかった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	雲梯の隣にある鉄棒付近にて見守りをしていた。本児が遊具から落下した瞬間は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	グランド全体を見て見守りをしていた。	特になし	遊具で遊ぶ際など注意が必要な時には、職員が分担して近くで見守るようにする。危険な行動が無いよう児童に声掛けをする。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
49	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	10							10		5	2	18. 6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	年１回程度実施	1.基準以上配置	特になし	事故との関連無し	2.不定期に実施	実施頻度（10～12）回/年	2.不定期に実施	実施頻度（10～12）回/年	2.不定期に実施	実施頻度（10～12）回/年	特になし	事故との関連無し	1.集団活動中・見守りあり	特になし	外遊び中は事故発生の可能性が非常に高いので、注意して見守るようにする。	1.いつもどおりの様子であった	普段と特段変わった様子はなかった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	サッカーをしており少し離れて全体の見守りをしていた。本児がシュートを止めようとした瞬間は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	グランド全体を見て見守りをしていた。	特になし	集団で遊ぶ際など注意が必要な時には、職員が分担して近くで見守るようにする。危険な行動が無いよう児童に声掛けをする。	
50	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	5	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	40							40		3	2	18. 6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	年１回程度実施	1.基準以上配置	特になし	事故との関連無し	2.不定期に実施	実施頻度（10～12）回/年	2.不定期に実施	実施頻度（10～12）回/年	2.不定期に実施	実施頻度（10～12）回/年	特になし	事故との関連無し	1.集団活動中・見守りあり	特になし	外遊び中は事故発生の可能性の高い遊具付近については、特に注意して見守るようにする。	1.いつもどおりの様子であった	普段と特段変わった様子はなかった。	4.対象児の動きを見ていなかった	ターザンロープを揺らして遊んでいた上級生２人にやめるよう注意していたところ、後ろで本児がマネをした。落ちた瞬間は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	グランド全体を見て見守りをしていた。	特になし	遊具で遊ぶ際など注意が必要な時には、職員が分担して近くで見守るようにする。また危険な行動が無いよう児童に声掛けをする。	
51	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	76							76		7	6	19. 7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度（1）回/年	3.基準以下	児童全体として疲労感がみられた時期でもあった。4月以降に制限がなくなり、児童の動きが活発となったが体がついてきていない。	児童全体へ、遊びだけでなく準備運動の重要性も含めた体力向上を図る。	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	特になし	ハード面の改善策はなし。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	石等の障害物はなかったが、ボールを除ける際につまづいてしまった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	タスケの監視	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	タスケ・なわとび等を監視	特になし	特になし	
52	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	124							##		15	9	18. 6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	ひび	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし。	研修に関しては、毎年意識して職員が受けていけるとよい。	1.定期的に実施	実施頻度(200)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(200)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(200)回/年	学校の遊具に対して、子どもたちが扱いなれていない部分がある。今回はサッカーゴールの網に引っかかったという所で、思いがけない本児の不注意もある。	学校の設備のためハード面での改善は難しい。ソフト面、環境面で対応していく。	1.集団活動中・見守りあり	学校の遊具に対しての理解についてはオリエンテーションの時に説明していることと、今回は自ら転んで生じてしまった怪我だった。	改めて、今回の怪我を子どもたちとも共有しながら学校の遊具に対しての理解を深めてもらう。	1.いつもどおりの様子であった	サッカーゴールの網に手を入れていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	サッカーゴールの近くで危険な動きをしていないことはわかるが、実際転ぶところまでは把握できなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれ自分の範囲の子どもたちを見守っていたため、サッカーゴールでの対象児の動きは見えていなかった。	網で遊んでいる訳でもなかったので、転んでしまったことが原因と考えられる。	怪我が起きたことを職員、子どもたちに共有する。	
53	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	53							53		6	4	20. 8歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	色々な動きの遊びを同時に行っていた。	遊びによって時間を分けるなど見守りやすい工夫をする。	2.不定期に実施	実施頻度(6)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(6)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	地面が若干、凸凹していた。	遊具や玩具だけでなく、小石など児童が遊ぶ場所の点検も行うようにする。	3.個人活動中・見守りあり	色々な学年の子が遊んでいる中で、遊びの区分けが十分でなかった。	動きの大きい遊びやそうではない遊びなど、遊び方によって場所を決め、お互いの干渉を減らしていく。	1.いつもどおりの様子であった	登所してからは、いつも通り支度、学習をして外へ出てきた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	集団遊びを見守りながらも全体を見ていたので、対象児が何をしていたかも視覚でとらえていて転倒時も見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	学童クラブでの生活に慣れていない1年生を中心に見守っていたため、対象児童が何をしていたかは知っていたが転倒するところは見ていなかった。	一人遊びをしていた対象児童に対し、集団遊びに誘う声掛けが積極的ではなかった。	一人で遊んでいる児童に対し遊びの誘いを増やしていく。	

No	初回掲載年月日	概要：認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期：月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制：発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳：0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故：年齢	性別	特記事項	事故状況：発生時状	事故の転帰	死亡：死因	負傷：負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析：ソフト面：マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面：施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面：教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面：対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
54	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	60							60		7	3	18. 6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	3.未実施	実施頻度()回/年	2.基準配置	学童クラブに入所して間もない１年生はジャングルジムなど危険な遊具の使用を制限するなど配慮が必要であった。	予防に関する研修への参加。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(１２)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(１２)回/年	特になし	ジャングルジムの使用制限、または使用禁止。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	普段より職員数が少ない場合は、活動エリアを制限する。	1.いつもどおりの様子であった	普段と特変はなく、仲の良い友達とドッジボール、ジャングルジムで遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	普段より職員数は少なかったが、外遊びの見守り配置はいつも通りであった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	ジャングルジムで遊んでいたことは把握していたが、隣のブランコの見守りも同時に行っていた為、転落の瞬間は目をはなしていた。	特になし	ジャングルジムの下に職員を配置する。	
55	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	2	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	36							36		6	4	19. 7歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕下腕骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施	実施頻度()回/年	2.基準配置	事故予防に対するマニュアルがなく事故予防に関する研修も行えていなかった。	マニュアルを作成し、事故予防に関する研修を施設内で取り組んでいく。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(２、３)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(２、３)回/年	園庭の砂利にでこぼこがあったためと思われる。	園庭は雨天時以外毎日ブラシをかけている。子ども達にも砂遊びの場所について話をしていく。整備は補助員が行っているが、常勤職員も入りながら状況の確認を行う。	1.集団活動中・見守りあり	園庭の砂利をいじる児童が多く、地面がでこぼこになっていた。外遊び中の帽子の着用が徹底されていなかった。	砂遊びは砂場でするように徹底をする。帽子の着用をするように徹底をする。	1.いつもどおりの様子であった	ドッジボールに参加をしていて、本児が帽子を被っていない事を他児が声をかけ、帽子を取りに走り出し転倒した。帽子は着用必須であったが、その時に本児はなぜ帽子をベンチに置いたままにしていたかは覚えていない。	4.対象児の動きを見ていなかった	ドッジボールに13名の児童が参加していて、発生時に本児とは反対側にいた児童に話かけられた為、本児が転倒時に見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	発生時3名の職員がいたが、２名はそれぞれ他児童の遊びを見守っていた。	園庭の砂利をいじる児童が多く、地面がでこぼこになっていた。外遊び中の帽子の着用の声掛けが徹底されていなかった。	特になし	
56	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	6	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	26							26		8	7	20. 8歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	2.顔面(口腔内含む)	鼻骨骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(3　)回/年	1.基準以上配置	遊び前、ボールを取りに行くといった状況についての約束を明確にしていなかった。	ボールが飛んで行った際には、児童の１人が取りに行くように声掛けをする。２人以上でボールを取りに行った際には、話し合い又はジャンケンでボールを所持者を決める様に指導する。子ども達が目のまえの遊びに集中しすぎないよう、１ゲームの時間を定めたり水分補給の声をかけるといった休憩時間を設ける。	1.定期的に実施	実施頻度毎日	1.定期的に実施	実施頻度毎日	1.定期的に実施	実施頻度毎日	遊びの内容と、参加人数に応じた十分なスペースが確保できていたか。	急に参加する子どもが増える遊びである為、人数状況に応じて場所を移動して十分なスペースを確保する動きや、子ども達に使えるスペースを伝えて、密集しすぎないように声掛けを行う。	1.集団活動中・見守りあり	遊びの約束事の事前確認が不足していた。また、トラブル発生時の職員の声掛けや速やかな介入が遅れてしまった。	遊ぶ子ども全体の動きと使用状況を把握し、事故怪我を未然に防ぐ為の声掛けを事前と新たに参加する子どもが増える都度行う。また、トラブルの予兆が見られた時には速やかに介入する。	1.いつもどおりの様子であった	ドッジボールの際、遠くに飛んで行ったボール友人と共に拾いに行く。友人がボールを拾ったが、自分が投げたかった為、友人からボールを奪おうとする。しつこくボールを奪い取ろうとした為、友人がボールを手元から地面に落とし、友人の手が空いた瞬間に、押し倒されて怪我をする。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	両児童がボールの取り合いをしているのを目撃し、職員はボールの取り合いを止めるよう大声で注意するが、声が届かなかった。注意後も両児童がボールの取り合いを続けていたので、職員は止めに入る為に両児童の元へ向かう。職員が向かっている途中で、友人が対象児のことを押し倒す形となり、怪我が発生する。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当職員が対象児と共にドッジボールをしていた為、その他の児童の様子を見守る。対象児の怪我の発生後、担当職員から声が掛かり、すぐに対象児の手当てに入る。	子どもが遊びに対して集中しすぎていないかの確認が不足していた。また、審判役の職員の声が掛かったら手を止めるといった約束が徹底されていなかった。	予め遊びに行く前に子ども達への休憩についての約束をする。目のまえの遊びに集中しすぎないよう、１ゲーム辺りの時間を定めたり水分補給の声をかけるといった休憩時間を設け、クールダウンをして落ち着いた状態を作る。	
57	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	3	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	8.学童	66							66		8	7	21. 9歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	左上１歯槽骨骨折、左上１脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	本児がボールを避ける時にバランスを崩し、手をつくことが出来ずに転倒してしまった。	自ら転倒したものであるが、職員は危険な状況にならないよう声掛けを行うようにする。児童の動きが無理なものにならないように全体周知を行う。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(0)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(週一)回/年	本児がボールを避ける時にバランスを崩し、手をつくことが出来ずに転倒してしまった。	今回は特に施設の不備などはなかったが、児童の転倒を招くような状態を作らないことを心掛ける。	1.集団活動中・見守りあり	見守りはしていたが、突発的な転倒の為、職員で防止できなかった。	自ら転倒したものであるが、職員は危険な状況にならないよう声掛けを行うようにする。児童の動きが無理なものにならないように全体周知を行う。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	他児数名と共にボール遊びに熱中していた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	ボール遊びを行う際には職員が付くようにしているため、当日もボール遊びのコートサイドから見守りをしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員は別の部屋の見守りを行っていた。	コート外で見守りをしており、突発的な転倒のため職員で防ぐことは難しい案件だった。	特になし。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
58	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	3	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	36							36		7	3	19. 7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足首剥離骨折(じん帯を痛めている可能性もあるとのこと)	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(0)回/年	1.基準以上配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	校庭の状態に問題はなかった。	特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	見守り自体は問題なく行われていたため、改善策については後述の人的面の要素からアプローチを行う。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	元々活発な性格であるうえに、屋外遊びを好む児童である。遊び場に早くたどり着きたいという気持ちがあり、つい走り出してしまった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	引率の支援員(1名)が見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の支援員及び補助員（計５名）も各々の持ち場の遊具のある場所から遠目に引率の様子を見守っていた。	特になし	特になし	
59	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	142							##		15	11	18. 6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	開放骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(　１　)回/年	2.基準配置	特になし	本児の不注意であったため、防ぐのは困難であった。	2.不定期に実施	実施頻度(毎日)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(毎日)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	本児の不注意であったため、防ぐのは困難であった。	4.個人活動中・子どものみ	特になし	児童と一緒に外に出れるよう外に記名簿を設置し、外で人数を把握する方法を実施。	1.いつもどおりの様子であった	一番に点呼を終えて外遊びへ。ジャンプ台の上で腹ばいになるようにして乗っていた。バランスを崩して落下。（高さ1mほど）	4.対象児の動きを見ていなかった	室内にて外遊びに行く児童の点呼をしており、外に出れていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	校庭開放スタッフ２名、放課後支援員1名	特になし	屋外活動での遊び方、遊具の使い方など再周知して児童自身も気を付けるように声掛けしていく。	
60	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	122							##		13	8	18. 6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	背骨にヒビ	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	急に職員2名の病休があり万全の態勢ではなかったが、見守りのポイントが外れていた。	見守りのポイントを職員数によって変更する。	2.不定期に実施	校庭施設については、危険個所を確認次第学校へ報告している。安全点検は学校の用務員が実施。	2.不定期に実施	子ども館の遊具は必要に応じて不定期で実施。	2.不定期に実施	子ども館の遊具は必要に応じて不定期で実施。	特になし	特になし	3.個人活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	鉄棒で回るのではなく、ただぶら下がりたかったという思いで遊んでいたとのこと。体力的にどこまでできるか本児も理解が難しかったと思われる。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	鬼ごっこや大縄跳びで遊びたい児童が多かった為、児童数が多い場所で見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	上の校庭でサッカーや野球で遊ぶ児童を見守っており、上校庭から現場は死角になっているので確認することは困難であった。	特になし	上下校庭に支援員は配置していたが、鉄棒付近にはいなかったため、今後鉄棒で遊ぶ児童がいる場合には、危険防止対策として支援員が近くで見守るよう配置する。	
61	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	162							##		17	11	20. 8歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(６　)回/年	2.基準配置	特になし	本児の不注意であったため、防ぐのは困難であった。	1.定期的に実施	実施頻度(12　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12　)回/年	怪我の起きにくい育成環境となっているかどうか職員全体で確認する。	危険箇所がある場合は速やかに職員全体で共有し、対策を施す。	1.集団活動中・見守りあり	砂場は放課後は使用しないので、ブルーシートがかけられていた。	実際に児童が使う遊具だけでなく、校庭に置いてあるものの危険性についても支援員が意識し児童に伝えていく。	1.いつもどおりの様子であった	いつものように数人の友達と鬼ごっこをしていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	特に気になる様子は見られなかったので、全体を視野に入れながら見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	砂場の周囲は危険な場所という認識はなかったので、特別に意識して見守っていなかった。	児童が走り回っている場所に、足を取られる等危険箇所があることを予測して声かけをすることができていなかった。	見守りの立ち位置を工夫し、隅々まで目が届くようにする。思いがけないもの怪我につながるということを支援員全体で共有する。	
62	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	2	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	95							95		9	5	19. 7歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(１　)回/年	2.基準配置	特になし	痛がっていないか職員が何度も確認の声掛けをする。	2.不定期に実施	実施頻度(毎日)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(毎日)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	子どもが使用するテーブルの高さを配慮していく。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	混み合う状況を作らないように配慮していく。	1.いつもどおりの様子であった	読みたい本を読み楽しんでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	同じ部屋にいた職員が全体を見ている中ですぐに気づき対応した。その状況を第2クラブの職員に知らせてくれた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	本人が本を読んでいたい。と言う間はそのまま様子を見守ることにし、手首を痛がり出したら第2クラブに戻ってもらい、腫れてきたので保護者に連絡をした。	特になし	痛がっていたらすぐに病院に連れていくようにする。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名
63	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	3	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	27							27		4	4	20.８歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	腓骨遠位端骨折
64	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	30							30		4	3	19.７歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左第5趾基節骨骨折
65	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	5	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	57							57		6	2	19.７歳	2.女児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	鎖骨骨折
66	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	74							74		6	4	20.８歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨折
67	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	5	9.夜間・早朝（泊り保育）	1.施設敷地内(室内)	8.学童	11							11		2	1	19.７歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨折

No	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策
63	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	3.未実施	実施頻度(０)回/年	1.基準以上配置	特になし	全体に改めて遊具の使い方の指導を行い、自分がやらないのはもちろん、自分以外の子や学童外の子が危険な行為をしていたら止めるか近くの指導員に知らせるようお願いした。指導員間でも安全に配慮した保育ができるよう情報共有している。	1.定期的に実施	実施頻度(３)回/年	3.未実施	実施頻度(０)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(１２)回/年	特になし	遊具に欠損や異常は無かったので改善するところは無いが、危険箇所を発見した場合は指導員間で共有し、子どもたちにも伝える。
64	8.その他	1.あり	3.未実施	実施頻度(０)回/年	1.基準以上配置	室内遊びの見守りを支援員が行っていたが、児童が全体的に落ち着いていたため注意がおろそかになった。	室内で静かに遊んでいるときもけがをするおそれがあることを指導員で共有し、見守りに努める。室内でけがをするおそれがある箇所を児童に共有する。全体的に児童を見守る支援員を配置する。	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	3.未実施	実施頻度(０)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	廊下等は指導員のいる室内からは死角になっており、様子がわかりづらかった。	欠損や異常のない壁で負傷したため、ハード面での改善は難しい。指導員の目が届きづらい箇所は児童に共有し、児童が近付く場合は、気を付けるように声を掛ける。
65	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(１)回/年	2.基準配置	今年度は１年生の在籍が50名と多く、１年生の迎えに支援員が必要となり、上級生への配慮が手薄になってしまった。	2年生以上の児童は支援員が付かず学校から一人で帰ってくるが、帰り道で見守ることができると事故防止または早い発見ができるのではないか。	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	学校から出てすぐの道は車が停車している場合が多く、縁石にも躓きやすい。	学校へ行き来する時に危険な場所や歩き方伝えを安全な歩き方の再確認をする。
66	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	2.基準配置	ヒヤリハットの検討がいかされていない	日頃よりヒヤリハット等、事故防止についての検討会を充実させる	1.定期的に実施	実施頻度(毎回)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎回)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎回)回/年	遊ぶ範囲の確認を怠った	支援員、児童共に遊ぶ範囲の確認、危険行為の確認を行う
67	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施	実施頻度(０)回/年	2.基準配置	事故予防マニュアルの作成がなく、事故予防に関する研修が行われていなかった。	事故予防マニュアルを作成し、危険予知トレーニング等を定期的に開催する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	集団遊びなどで子ども達が密になりやすい。	見守りが手薄になる時間帯は部屋を限定し見守れる体制とする。

No	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
63	3.個人活動中・見守りあり	特になし	広い校庭で15名ほどを２名で保育している中で、一人一人の全ての行動を把握する事や子どもの突発的な行動を防ぐ事は難しいが、できる限り注意する。	1.いつもどおりの様子であった	新しくお友だちになった学童外のお友だちと楽しそうに遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	アスレチックで遊んでいた様子は見ていたが、飛び降りた瞬間は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児童と関わっていた。	学童外の新しい友だちと遊んでおり、お互いの身体能力の差も分からない事を加味して注意深い保育が必要だった。既定の指導員数以上は配置しているが、既存の指導員数では付きっ切りで見守る事が難しく、安全を確保しきれない。	危険な行為をしないように当人及び学童全体に注意する。見慣れない友だちがいる時には特に注意して保育する。	
64	1.集団活動中・見守りあり	特になし	なし	1.いつもどおりの様子であった	室内遊びをしており、お手洗いに行くため廊下へ向かった。	4.対象児の動きを見ていなかった	お迎え対応や他児童の見守りを行っていた。児童から足をぶつけた報告がなかったため、後日けがの事実や発生状況を把握した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	室内の他の児童を見守っていた。	児童が周りが見えていないことも要因として考えられるので、指導員が周辺の状況を見ながら気を付けるように声掛けをする。	日常の生活の中でも危険があることを指導員が児童に伝え、室内でも落ち着いて過ごすように声掛けをする。	
65	4.個人活動中・子どものみ	いつも一緒に帰る同級生が欠席のため一人で帰った。遅くなり、両手に荷物を持ち走って帰ったとのこと。	走らずに余裕をもって安全に歩くように繰り返し伝えていく	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	いつも一緒に帰る同級生が欠席のため一人で帰った。	4.対象児の動きを見ていなかった	帰ってきて泣いていたため話を聞く。痛む箇所の手当てをする（冷やす）。保護者への連絡をして早いお迎えをお願いする。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	数名でケガの様子、児童の様子を確認。全員で共有。当該児童が安静に過ごせるように他の児童の遊びを見守る。	同級生が周りに誰もいない時間に一人で帰ることになり急いで走ってしまった。	定期的に支援員は帰り道を見守る。児童にも危険行為を目撃したら具体例を挙げて注意をし、安全にゆっくり帰ることを伝えていく。	
66	1.集団活動中・見守りあり	児童の体格に対し危険な高さであった	児童の体格や運動能力を見極め、早めに声をかける等の対応をする	1.いつもどおりの様子であった	普段と変わらない様子であった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	児童3名が藤棚付近で遊んでいたのを見守る	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他支援員1名補助員2名で担当の場所に配置	支援員はすぐそばで見ていたがクラブ外の保護者に話しかけられ児童に対する声掛けが遅れてしまった。	常に危険かもしれないということを意識し、共通認識を持っておく	
67	2.集団活動中・子ども達のみ	子ども達が自主的に遊んでいたため、部屋によっては活発的な遊びを行っていた。	自由時間であっても職員が常に見守れる体制をとって、子どもが危険な場面では声かけができるように支援を整える。	1.いつもどおりの様子であった	宿題を終えた後、室内遊びをしていた。激しい遊びはせず静かに過ごしていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	玄関で保護者対応をしていた。他児童から報告がありかけつける。本人に声かけをするも苦しそうに返事をする。児童の保護者(父)と連絡がつき、クラブに向かうとの返答あり。まわりにいた児童にも話を聞く。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	勉強部屋で他の児童の見守りをしていた。	保護者対応する際に見守りが手薄になってしまっていた。	保護者対応など、子どもの見守りから離れる際は、他職員に声をかけるなどしてすべての子どもを見守れる体制とする。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
68	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	9							9		2	1	23.11歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足親指成長軟骨の骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(数)回/年	2.基準配置	特になし	職員の配置も不足なく、事故防止のためのヒヤリハットの検証も行っているため改善点はなし。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	施設の安全点検や遊具、玩具の安全点検は適切に行っているため改善点はなし。	1.集団活動中・見守りあり	児童はつまづく前から、他の児童に体をぶつけたりしてふざけている様子があった。	日頃から、度が過ぎたじゃれあいは気をつけるようにしようと児童に伝えている。	1.いつもどおりの様子であった	友達とじゃれて遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	児童が友達同士でじゃれて遊んでいる様子を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	全体を見守りながら対象児童の動きを見ていた。他の児童も見守るため至近距離にはいなかった。	特になし	今回の件について、その他考えられる要因等はない。	
69	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	3	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	9							9		6	5	23.11歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肩骨折	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	児童の人数に対して、必要な配置人数の支援員が欠ける時は必ず代わりの支援員を配置するような連携をとることをマニュアルに追記した。	1.定期的に実施	実施頻度(４８)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(４８)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	今回の事故と関連性が低いため特になし	1.集団活動中・見守りあり	支援員を先頭に児童を列に並ばせ移動中に、門扉のカギを開けるために子どもたちの列に背を向けていた。	運動場での活動中は２人体制と取れていたが、先に保育室に帰る子に付き添った等１人で移動させることのないよう体制が整ってから移動を開始する。	1.いつもどおりの様子であった	戸外遊びが終わり、列になってならんで歩き門扉の前で支援員が鍵を開けるのを待っていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	１人の支援員が先導して戸外遊びから並んであるいていた。門扉の鍵を開けるため児童に背を向けている状態であった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	本来列の最後尾に１人支援員がついて引率するが、他児の対応のためその場を離れており鍵が開くのを待っている児童を見守ることができなかった。	戸外遊びをしていた児童の人数に対しての職員配置は適切であったが、入室する際の急な対応のため事故現場に支援員が１名欠けたこと。	その他考えられる要因がないため、特になし	
70	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	9	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	25							25		6	4	19.7歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	骨折	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	研修に対し伝講による危険予知に対する話し合いや見守りの際の立ち位置など具体的な話し合いが足りなかった。	館内で事故予防に関する勉強会を定期的に行いながら、各自の意識を高めていく。	1.定期的に実施	実施頻度(２４)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	部屋の一角に子どもがひとり入れるだけの隙間があるため、追い詰められると出られなくなるスペースがある。	部屋のレイアウトを変更することで一角にある隙間をなくした。	1.集団活動中・見守りあり	消毒、部屋の清掃、トイレ掃除などをするため、別の部屋にいた支援員もおり子どもたちの見守りが手薄になっていた。	消毒、部屋の清掃、トイレ掃除等の開始時間を変更して、より多くの支援員で見守りができるように改善する。	2.いつもより元気がなかった(理由を記載)	執拗に一緒に遊ぼうと誘ってこられることが嫌で泣いていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	険悪な状況であったため至近距離での見守りをしていたが、他児童が２人の状況について担当支援員に説明をし始めたため、そこに注意が向いてしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	別室で作業をしていたため気づくことができなかった。	手の届く距離に児童がいたにもかかわらず、話しかけてきた児童の方に気を取られてしまい２人のいさかいを止めることができなかった。	いつ如何なる時も児童の様子が視界の中に入るよう、立ち位置を考えながら支援に当たるようにする。	
71	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	18							18		4	3	23.11歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手首舟状骨骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	当該児童は児童の中でもドッジボールが上手く、下級生が投げたボールによる事故で初歩的な補球ミスによる要因以外は考えられない。	自分より下の学年にボールを投げるときは手加減をするように日頃から言っているため、引き続きその指導は継続し、緩いボールでもしっかり見て補球する指導を加えていく。	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	今回の事故は施設・設備等によるものとは考えにくい。	今後事故が起こることがないとは言えないので市教委の指導の下、上記安全点検を継続していく。	1.集団活動中・見守りあり	園庭のコンディションも良く、児童の人数やコートの大きさも適切であり、環境面での要因は考えにくい。	改善策としては見当たらないが、コートの大きさやグラウンドのコンディションに関してはこれからも最新の注意を払う。	1.いつもどおりの様子であった	2～6年生児童の男女8～15人がドッジボールをしており、ドッジボールが好きな当該児童は進んで中に入り楽しく遊んでいた。ボールが右手に当たった後もゲームを続けていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	指導員がホイッスルで審判をしながら全員の動きを把握していた。補球ミスに対してアウトにしたが、その後も当該児童がゲームを続けていたため異常には気付かなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	室内遊びをしている児童に1人、屋外遊びをしている児童に3人が指導に当たっていた。3人のうち1人は運動場で指導に当たり、1人がドッジボールの審判と指導をし、1人は屋内と屋外を見守ったりドッジボールの指導に入る等していた。	当該児童は児童の中でもドッジボールが上手く、下の学年が投げたボールによる事故であることから、初歩的な捕球ミスによる要因以外は考えられない。	今まで以上に児童の活動中の様子及び活動後の様子についてよく見て、いつもと違う様子はないか気にかけていく。	
72	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	32							32		4	1	24.12歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		6.その他	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	特になし	8.その他	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	アルバイトも含めてミーティング等で情報共有を図る。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(250)回/年	特になし	特になし	3.個人活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り元気に過ごしていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	対象児童とは違う児童と接していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	屋外遊びから室内へ戻るときだった為見れていない。	特になし	アルバイトも含めた指導員全体で、児童の注意すべき既往症やアレルギー等を共有しておく。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
73	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	99							99		10	4	21.9歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首骨端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	2.基準配置	特になし	児童からの聞き取りに重点を置き、異変を迅速に察知し行動する。	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(10)回/年	特になし	不定期から、定期的に検査するよう努めて実施する。	1.集団活動中・見守りあり	地域の子どもが自転車に乗り現れたことで気持ちが高揚し、自転車を追いかける。	気分が高揚したことに一早く気づき、落ち着きを取り戻せるよう声かけをおこなう。	1.いつもどおりの様子であった	普段遊んでいる子を見かけ、一緒に遊びたいとの気持ちが高まり、自転車を追いかけ道の端を通ったことによる怪我であった。	4.対象児の動きを見ていなかった	施設外の移動中に起こり現場を見ていなかったが、児童とのすり合わせで出血の手当は迅速に対応。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育場所以外での怪我で、対応は担当の指導員が行なっていたので、連絡・報告を対応。	特になし	特になし	
74	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	83							83		6	4	20.8歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左示指中指基節骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	特になし	3.個人活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	とくに変化はなくいつも通りの様子だった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	遊びを見守ることのできる位置で見守っていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	離れたところにいる指導員からは死角になる場所であった	特になし	特になし	
75	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	63							63		8	5	23.11歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折(左足の小指)	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1～2)回/年	2.基準配置	特になし	迅速な対応はできたが事故発生時後は支援員間で内容の共有、経過観察が必要である。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	ケガに繋がる行動をとっていないか、危ない場所がないかを確認し、安全に遊べる環境作りが必要である。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	外は広く子ども同士の距離感も室内よりはとれるが、動きが大きくなるため注意を払い、事故が起きる前に防げる声掛けが必要である。	1.いつもどおりの様子であった	室内で工作を作り終えてから同じ学年の児童２名がいる外にでてきた。人数も少なかったのでサッカーの試合ではなくサッカーボールを蹴っていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	同じようにボールを蹴っていて痛いと声がきこえ振り返ると左側面を地面につけうずくまるように倒れる。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童を見ていた為グラウンドから２名に支えられて室内に戻る様子を目撃していた。	特になし	児童のサッカーのスキルを理解し、事前に声掛けや注意を促す。	
76	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	3	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	125							##		17	8	19.7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘頭骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.基準配置	支援員によって見守りの仕方が異なる	マニュアルを制作する	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週	1.定期的に実施	実施頻度毎日	特になし	ジョイントマットを2重にする	1.集団活動中・見守りあり	特になし	児童の人数によっては見守りが不十分になる可能性があるため、その時は遊具の使用をやめる	1.いつもどおりの様子であった	元気に帰ってき、食欲もあった。活発に外で遊んでいた。ケガの後おやつも食べた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	1～2メートル離れたところで見ていた。児童は一つ一つのうんていを速いスピードで進んでいた。一瞬で落下したので守れなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	別の児童のほうの見守りをしていた	先に進もうとすると勢いをつけるため、手が届かないと落下する	うんていをするときは支援員が傍につき見守りを強化する	
77	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	43							43		4	4	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左前腕骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	2.不定期に実施	ミーティングでその都度実施	2.基準配置	小学３年生	職員同士で事故の原因等を振り返り、児童の見守りに際しては、十分注意するよう周知した。	1.定期的に実施	開所日は毎日実施	1.定期的に実施	開所日は毎日実施	1.定期的に実施	開所日は毎日実施	学校では禁止されていないものの、高さのあるうんていの使用が１年生にとって危険があるかもしれない。	高さのあるうんていを１年生に使用させることについて、安全面を考慮して検討する。	1.集団活動中・見守りあり	雲梯の高さが児童の能力に見合っていなかった可能性もあるが、バランスを崩して落ちたことが今回の怪我につながった。	児童の挑戦したい気持ちを尊重しつつ、高さのある雲梯の使用に当たっては、声掛けと見守りを強化し十分注意することとする。	1.いつもどおりの様子であった	いつも使用している遊具で手が滑り、バランスを崩して落下した。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	雲梯には4～5人の児童が順番を待っており、その周囲には2～3人の児童が遊んでいる中で、雲梯をやっている児童を手前から見守っていた。そうしたところ当該児童が落下するのを目撃し、すぐに駆け寄った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の場所で児童の見守りをしていたが、怪我をした児童がいる報告を無線で受け、周囲の児童への目配りをするとともに、支援員の抜けた場所の見守りに移動した。	見守る支援員の人数が不足していたことも一因だと思われる。	危険予知トレーニングの実施及びヒヤリハット事例の共有を再度行う。	
78	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	45							45		4	1	20.8歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘 骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	児童の運動場使用範囲を利用人数・支援員人数に合わせて変動させる必要があった。	正しい使い方をしていても怪我につながることがあることを共通認識する。ヒヤリハット研修を支援員ミーティングの時に導入する。	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	学校管理施設でも共有で使用する遊具は丁寧に点検する。	開所前の安全点検をより丁寧に実施する。危険だと思ったら学校に知らせる。	1.集団活動中・見守りあり	児童が遊びを選択する中で、他児童との関わりを援助する必要があった。	長期休業時など1日開所する場合、状況に応じて外遊びの範囲を限定する。	1.いつもどおりの様子であった	ほかの友達がけいどろをやっていたため、仲間に入るかどうか迷っている最中だった。	4.対象児の動きを見ていなかった	対象児以外の児童たちの様子を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	外の配置支援員は２名、室内に3名おり瞬間的な場面は見ていなかった。	外遊び中の支援員人数と配置場所を再検討する。	外遊びの時、支援員はインカムを使用する等して情報を共有する。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
79	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	40							40		7	5	18. 6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	2.顔面(口腔内含む)	鼻骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	特になし。	支援員間の情報共有を徹底し、再発防止に努める。	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	タイヤが滑りやすい	本年度内に安全計画を策定し、定期的な安全点検を実施していくよう計画する。危険な箇所・玩具を発見した場合は速やかに報告・対処するよう職員へ共有する。	3.個人活動中・見守りあり	特になし。	雨の後など、滑りやすい時にはタイヤ遊具を使用しないように児童に指導する。	1.いつもどおりの様子であった	他児童とタイヤ遊具遊びをしていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	当該児童を含め、児童たちの様子を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児童たちを見守っていた。	怪我直後は児童から訴えがなく、異変への気付きが遅れた。	保護者との情報共有を密に行う。	
80	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	44							44		4	3	19. 7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足首の剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	特になし。	支援員間の情報共有を徹底し、再発防止に努める。	3.未実施	実施頻度(0)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	特になし。	本年度内に安全計画を策定し、定期的な安全点検を実施していくよう計画する。危険な箇所・玩具を発見した場合は速やかに報告・対処するよう職員へ共有する。	1.集団活動中・見守りあり	特になし。	危険行為等に対して注意・呼びかけを行う。	1.いつもどおりの様子であった	他児童達とサッカーで遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	当該児童を含め、児童たちの様子を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児童たちを見守っていた。	怪我直後は児童から訴えがなく、異変への気付きが遅れた。	保護者との情報共有を密に行う。	
81	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	38							38		4	2	18. 6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手薬指骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(１)回/年	2.基準配置	支援員、補助員の立ち位置を見直した	グラウンドに配置する支援員、補助員の人数の見直しと見守りの徹底	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	ハード面は問題なし	ハード面は問題なし	1.集団活動中・見守りあり	支援員の見守る中、1人の児童が転倒し一瞬の出来事で防ぐ事が出来なかった	外での活動では夢中になっている児童への声掛けを多くし、落ち着いて行動するように指導する	1.いつもどおりの様子であった	外で他児童とサッカーを行っていた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	少し離れたところから見守っていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	痛がる様子等が見られなかった為、気付くことが出来なかった	研修等の徹底	準備体操をする。グローブをはめる。キーパーはグーで返すようにする。また児童が怪我をした場合にはすぐに申し出るよう、児童へ周知する。	
82	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	30							30		4	2	19. 7歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足首剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(１)回/年	1.基準以上配置	ソフト面は問題なし	ソフト面は問題なし	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(随時)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(随時)回/年	校庭を森と鉄棒付近に場所を区切って使用していたが目の届かない場所があった	全体を見通せるよう使用するエリアの見直しをした	1.集団活動中・見守りあり	落ち葉が多く、地面が見づらく滑りやすかった	その都度、環境整備と児童に声掛けをし注意喚起する	1.いつもどおりの様子であった	元気に友達と走っていた	4.対象児の動きを見ていなかった	支援員4名で外に出て分散し、児童全体の様子を見ていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	支援員4名で外に出て分散し、児童全体の様子を見ていた	森の中は見通しが悪く死角ができた	特になし	
83	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	48							48		6	4	21. 9歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	橈骨遠位端骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	怪我をしている児童については、室内で安静に過ごすようにする	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	ハード面は問題なし	ハード面は問題なし	1.集団活動中・見守りあり	環境面は問題なし	環境面は問題なし	1.いつもどおりの様子であった	いつもと変わらない様子だった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	担当を設けておらず、全体の見守りを実施	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	外遊びの見守りを実施	対象児童が外遊びに行くと言ったとき、引き留めたが、本人が大丈夫と言って行ってしまった	特になし	
84	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	32							32		3	3	22. 10歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右大腿骨肋骨不全骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	2.基準配置	低学年の児童を中心に見守りを実施	遊具の前には支援員を配置する	1.定期的に実施	実施頻度(３)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(３)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(３)回/年	ハード面は問題なし	ハード面は問題なし	1.集団活動中・見守りあり	支援員は見守りを実施していたが、鬼ごっこをしていると確認できていなかった	遊具の周辺で児童が走っている場合には常に配慮し注意を促す	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りの様子であり、問題なかった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	ジャングルジムの近くには居たが他の児童の対応をしていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の職員はグランド、ブランコの見守り	遊具の周辺で走っている児童への声かけが不足していた	特になし	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
85	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	27							27		3	2	21.9歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左中指中節骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	興奮状態の児童への声掛け、遊具で遊ぶときの危険性についての再認識	児童と支援員等とで再度危険個所について共有を行う	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	ハード面は問題なし	ハード面は問題なし	1.集団活動中・見守りあり	見守りをしていたが突発的な行動で防ぐことが難しかった。他の職員は他児童のトラブルの対応中であった。	その場の状態をよく分析して支援員等同士で連携し、危険個所への配置を検討する。突発的な行動を防ぐことは難しいため、児童の精神状態や危険な行為が見られる場合は、配置場所を含めて個別対応をしていく。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	下級生に注目されて嬉しいという感情が興奮状態につながった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	遊具で遊ぶ児童全体（10名前後）を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の遊びの見守りや、児童同士のトラブルの仲裁をしていた。	同時にトラブルが発生することを想定して見守りにあたる。	特になし	
86	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	53							53		6	4	19.7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	雲梯で遊ぶ時のルールは決められていたが、児童は決められた場所以外から雲梯に登り、雲梯の上に座りこんでしまった。	雲梯で遊ぶ際は西側から登り東側へ進むこと、それ以外の場所からは登らないことなど、遊具の正しい使い方を再度児童へ周知する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(6)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	ハード面は問題なし。	ハード面は問題なし。	1.集団活動中・見守りあり	グラウンドでは運動会の準備が行われており、邪魔にならないよう他の児童の誘導をすることに専念していたため、細部まで目が行き届いていなかった。	職員配置や役割分担の再確認し、グラウンド状況が日頃と異なる場合は、情報共有し状況に合わせた支援を行う。児童を含めて事故のリスクについて考える時間を設ける。	1.いつもどおりの様子であった	日頃から他の児童より元気に過ごしており、当日も変わりない様子だった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	他の児童を含め全体を見ていたが、事故の瞬間を目撃していなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	約50名の児童が外遊びに出ており、5名の職員が外遊びの見守りをしていた。室内には児童20名が残り、3名の職員が見守りをしていた。	見守る児童やエリアを事前に打合せし、状況が変化しても見落としのない見守り体制を維持できるようにする。	特になし	
87	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	1	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	24							24		4	3	19.7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度(-)回/年	2.基準配置	支援員の配置人数を考えるべきだった。	草や土が完全に乾いていることを確認する。危険な所に支援員を配置して立ち入らないようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	3.未実施	実施頻度(-)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(随時)回/年	外遊びをする広場は駐車場として利用される時がある為、地面が平ではなく土が削られていて水が溜まりやすい。体育館横で陰になる為、草・土が乾きにくい。	雨上がり後、中２日間を開けたがもう少し間を開けるべきだった。草・土が完全に乾くまで広場を使用しない。	1.集団活動中・見守りあり	地面の段差があるところは危険個所として注意を促した方が良い。	管理者に事故があった旨を報告し、環境整備について児童会も協力する。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	当該児童はサッカーが大好きな為、外遊びで活発だった。ボールを追いかけている時は周りが見えていないことが多い。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	道路にボールが出ないように道路との間にネットを張っていた。ネットを張り終えた時に滑った児童を目撃した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他３人の職員は室内の子供達を見守っていた。	特になし	管理者に相談して、今後土を入れる等改善策の協力をお願いする。	
88	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	62							62		5	2	19.7歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左小指基節骨骨端線損傷	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	研修が未実施だったため、周知徹底ができていなかった。	早急に研修を行い、事故時の対応の周知を図る。	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	2.不定期に実施	実施頻度随時	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	ハード面は問題なし	ハード面は問題なし	1.集団活動中・見守りあり	外での遊び方のルールが曖昧になっていた。	遊び方のルールを子供たちが考える時間を作る。	1.いつもどおりの様子であった	いつもと同じよう元気に外で走り回っていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	児童が鬼ごっこをしており、鬼から逃げていると認識して見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	全体的に見ていたため、けがをした際の対象児童の動きを見ることができなかった。	全体を見つつも遊具で遊ぶ児童を重点的に見ていた。	保護者とコミュニケーションを取り、関係を築き生活習慣などについての話ができるようにする。	
89	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	19							19		3	1	21.9歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(２)回/年	2.基準配置	ソフト面は問題なし	ソフト面は問題なし	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	3.未実施	実施頻度(-)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(200)回/年	ハード面は問題なし	遊びの前、児童が来所する前に必ず遊ぶ場所、環境を確認をする。	1.集団活動中・見守りあり	雨上がりでもなく、地面はぬかるんでいる様子はなかった。良好であった。つまづいた様な物もなかった。	職員の人数、配置を確認し遊びの内容や活動範囲を考える。	1.いつもどおりの様子であった	ケイドロをして遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	児童達の遊びの様子を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	別の児童の様子を見守っていた。	職員配置は適切であった。	外遊びに行く時は必ず準備体操を行う。遊んでいる中でも加減をしたり怪我を予測できるようにしたりと考えて遊べるようにに声掛けをする。	

No	初回掲載年月日	概要 / 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 / 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 / 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 / 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 / 年齢	性別	特記事項	事故状況 / 発生時状況	事故の転帰	死亡 / 死因	負傷 / 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 / ソフト面 / マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 / 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 / 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 / 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
90	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	24							24		3	3	19. 7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕肘骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(１)回/年	2.基準配置	当該児童が雲梯で遊ぶ上級生の真似をして、本人の実力以上の遊具で遊ぼうとした為と思われる。	年齢に合わせた遊具での遊び方をみんなで話し合った。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	ハード面は問題なし。	ハード面は問題なし。	1.集団活動中・見守りあり	特になし。	児童が遊具遊びをしていたら、特に注意深く見守るようにする。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りの様子で、特に問題はなかった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	遊具の近くにはいたけれど、落下する瞬間は見ていなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	校庭で児童の様子は見守っていたが、至近距離で見てはなかった。	天気が良く、おやつも食べた後で、外で遊ぶことをとても楽しみにしていた。	特になし。	
91	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	28							28		3	2	19. 7歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足首剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(１)回/年	1.基準以上配置	特になし。	遊びの時間配分や配置する職員数に注意する。	2.不定期に実施	実施頻度(数)回/年	3.未実施	実施頻度(０)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/週	特になし。	外遊びの前に、運動場において滑りやすい・躓きやすい箇所がないか確認を行う。	1.集団活動中・見守りあり	児童が運動場でおにごっこをしており、職員から距離が離れたため、怪我の予測が遅れた。	保育中の所在確認は支援員全員で行う。怪我や事故の対応は迅速に行う。怪我や事故の記録を取っておく。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	鬼ごっこで鬼から逃げることに夢中になっており、周りが見えにくくなっていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	いくつかのグループを少し離れたところから見ており、怪我の予測が遅れた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	見守りを行う児童の遊びグループの担当分けがされており、対象児の動きを見ていなかった。	特になし。	児童に関わる（見守る）職員数をしっかりと確保する。児童が遊びに夢中になり周りが見えにくくなっている際は、休憩を促したりクールダウンするように声掛けしたりする。	
92	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	23							23		4	1	21. 9歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左中指骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(３)回/年	2.基準配置	校庭での支援員は2名配置していたが、校庭も広いため危険への瞬時の判断力が必要である。	研修などを通して勉強すること。危険個所の把握の徹底、子どもたちへの定期的な指導を行う	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	遊具で遊ぶ前にも、不備がないか確認する。	ブランコの使い方を支援員・子供達ともに確認、指導する。	1.集団活動中・見守りあり	様々な場所で遊んでいたため、至近距離ではついていることができなかったため。	育成支援をする時に、もう少し全体を見ていくよう安全面に配慮していく。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り元気だった。放課後ということもあり疲れもあったかもしれない。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	ブランコ付近で対象児をみながら他児の遊ぶ様子も見ていた。対象児が落下した時には間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	対象児から離れて遊んでいた子供達の遊ぶ様子を見ていた。	友達と楽しくブランコ遊びをしていたが、使い方を誤ってしまったため。	子どもたちへ遊具の使い方の指導・支援を行う。職員同士の連携体制をしっかりとしていくようにする。	
93	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	27							27		4	1	21. 9歳	1.男児		8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肩鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	2.基準配置	児童間のトラブルや小さな怪我が起こった場合、職員1名が対応に当たるため見守りが手薄になる。また、集団活動を苦手とする児童に1名関わる場合も同じように手薄となり得る。	見守りが手薄となる場合は、目の届く範囲に児童を集め遊ばせたり、皆で同じ遊びを行う。	1.定期的に実施	毎日環境整備や、掃除を行うため、同時に点検を行っている。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	毎日の掃除時の片付けや遊びの前に、改善に必要な玩具は改善・修理を行い、定期的に消毒を行っている。	児童は大人が考えもつかない行動をとる時がある（本来の使い方ではない遊び方）また、遊びに夢中になると周りが見えなくなる。	遊具や道具は本来の使用の仕方があり、誤った使用をすると危険なことがあることを知らせ、声掛けを行う。	1.集団活動中・見守りあり	予測される行動の分析を行い見守り支援を行う。	予想される児童の行動分析を行う。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	夢中であった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	すぐそばで見ていたが、助ける暇もなく一人で転倒した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園舎に居る児童を見ていた。	集団遊びの苦手な児童に関わり、注意がそちらにそれてしまいがちになる。	日頃から遊び方に関して指導の充実を図り見守りを強化する。	
94	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	46							46		4	4	19. 7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手橈骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	1.基準以上配置	特になし	職員の配置や人数については特に少ないこともなく運営していたので今後の改善はない。今まで通りに児童の安全管理に努める	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	特になし	小学校の管理の遊具のため特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	危険な遊び方をしている場合は正しい使い方・遊び方を改めて児童に周知する必要があるが、今回は偶発的な事故なので遊具で日頃からよく遊び体の使い方を知っておく必要がある	1.いつもどおりの様子であった		2.対象児の至近で対象児を見ていた		1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)		特になし	他児とのトラブルや危険な遊び方であったり管理不足から起こった事故ではないと思うので、今後も遊ぶ前には声かけをし、職員配置等は今まで通り全体を見ながら対応していく。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
95	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	3	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	31							31		3	1	22.10歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	手首の骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	特になし	屋外での活動時には、指導員の人数を増やす	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	特になし	遊具に不具合などないかの点検を定期的に行うこと	1.集団活動中・見守りあり	特になし	特に遊具で危険な遊びがされていないかを注意する	1.いつもどおりの様子であった	特に変わりなかった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	離れたところでの見守り	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	離れたところでの見守り	特になし	学校の運動場で遊ぶ時は、子どもの人数に対して見守りの指導員の人数を増やし全体が見守れるところへ立つなど事故防止に努める。	
96	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	24							24		5	4	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	鎖骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	上級生達も同じコートにいてコートの中の人数が多めであったため、ぶつかりやすかった。	体力や身体の大小、運動力を考慮しぶつかりにくくし、コートも十分な広さを確保するよう支援員が判断する。	2.不定期に実施	実施頻度(毎)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(毎)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(毎)回/年	ボールも一番柔らかい種類を使用し運動場で凸凹もないところだが、夢中で遊んでいると足元が滑り転んでしまい、他の人も夢中になっていたため事故が起こってしまった。	上級生達とは別のコートでドッヂボールをする。ぶつかりにくくしコートも十分な広さを確保するよう支援員が判断する。	1.集団活動中・見守りあり	低学年は特に楽しくて熱中するあまり周りが見えにくくなる。	熱中症を避けるためにも、頻繁に水分補給等の休憩を取入れながら慎重に外遊びをする。	1.いつもどおりの様子であった	天気が良く、上級生や同級生と大勢が楽しく遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	他学年の支援員たちが多数で見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	広い運動場で多くの場所に児童がいたため、散りながら近くと全体を見守っていた。	その状態で骨折事故が起きると思っていなかったこと。	おやつは成分を気にしながら安全なものを用意しているが、成長期の児童により体に良いものを準備する(カルシウム等)	
97	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃~夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	35							35		5	1	19.7歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	亜脱臼(右中切歯永久歯)	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	ボール遊びや大型遊具を十分に見守るよう気を付けていたが、だるまさんがころんだに付いて見守りはしていなかった。	どんな遊びでも、視野に入れて見守りをする。	2.不定期に実施	実施頻度(毎)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(毎)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	遊具の裏になる場所であった	支援員の配置をマニュアル化	1.集団活動中・見守りあり	本児は遊具を使わずに遊んでいた	遊具を使用せずに遊んでいる子も気を付けて見守る。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	活発な本児と大人しめな男児4人の計5人がだるまさんがころんだをしていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	支援員は近くにいたが、けがの多い遊具遊びのほうを見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	何人程度の子どもがその場にいたかの把握はしていたが別のグループを見守っていた。	だるまさんがころんだで怪我をすると考えておらず、認識の甘さがあった。	何の遊びでも事故につながると、支援員全員で認識し、気を付けていく。	
98	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	2	8.夕方(16時頃~夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	28							28		5	4	20.8歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足脛骨遠位端骨折	8.その他	1.あり	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.基準配置	当該児童は和やかに過ごしていたのと畳の上だったこともあり、指導員も危機意識が甘かった。他に注意が必要な児童が分散しており手が取られていたことも目を離した要因と思う。	畳の上であっても常に危機意識、見通しをもって対応できるようにする。子ども達にも危険な遊びに対して注意喚起するとともに、根気よく声をかけていき、子ども達と一緒に考えながら子ども達の危険察知能力も高めていく。	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	3.未実施	0	2.不定期に実施	実施頻度(0)回/年	特になし	なし	1.集団活動中・見守りあり	指導員の危機意識が薄かった。当該児童の学年には日頃から激しい遊びをし注意をしていた為、おんぶに対してまだ大人しい遊びという認識があり、注意を怠った部分がある。	子どもたちの状態に関係なく、常に危機意識を持てるように、職員間で意識改善につとめていく。	1.いつもどおりの様子であった	普段と変わらず元気だったが、対象児童が相手の児童におんぶされている姿を見たのは初めてだった。笑顔でおんぶされていたため珍しく仲良く遊んでいるなという印象を持った。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児童の担当職員は特にいない。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	事故が起こった瞬間をどの職員も見ていなかった。おんぶされている状況を離れているところから見ている職員(事故の瞬間は別の子どもに目を向けていた)、対象児童を背にして他児のトラブル対応していた職員、子どもの宿題を見ていた職員、洗い物をしながら近くの児童を見ていた職員など。	分散して見守りは行っているが、トラブルや保護者対応等、その時々で全児童に目が行きわたらない場合もある。	室内での自由遊びの時間は、できるだけ全体を見守る職員を増やす。また、声かけしたり他職員の動きも気に掛けるようにしているが、更に職員間の連携がとれるようにミーティングを重ねて意識改善に務める。	
99	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	17							17		1	1	19.7歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	特になし	危険性の想定	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	座る間隔等の見直し	1.集団活動中・見守りあり	想定外のけがだった。	あらゆる危険を想定する。	1.いつもどおりの様子であった	昼食後の歯磨きから掃除開始の時間までテラスに座って待とうとしていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	歯磨きから掃除への移行の様子を、対象児を含め全体的に見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	全体的に児童を見ていた。	特になし	椅子に座って待ってたほうがよかったのか、座る間隔が悪かったのかなどを振り返り反省する。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
100	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	41							41		4	4	20．8歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左腓骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(毎日　)回/年	1.基準以上配置	特になし	事故予防に関する研修も取り入れながら安全対策に取り組む。	1.定期的に実施	実施頻度(毎週　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎週　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎週　)回/年	特になし	これからも定期的に安全点検を実施する	1.集団活動中・見守りあり	風が強く吹く時があった。	風の状況によっては、注意を促すようにする。	1.いつもどおりの様子であった		2.対象児の至近で対象児を見ていた		2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれの至近の児童をみていた。	特になし	準備体操の時に、念入りに足首と手首と指を動かす運動を取り入れる。	
101	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	45							45		5	5	19．7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左小指中筋骨骨端線損傷、左手のひら挫創、左手のひら皮膚びらん	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(１　)回/年	1.基準以上配置	外遊び中で沢山の児童の行動を把握できていなかった。	児童が好む遊びに準じて支援員配置を変えできるかぎり目が届く状況を作る。	1.定期的に実施	実施頻度(複数)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(複数)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(複数)回/年	校庭での遊びは児童の範囲も広く室内よりも目が行き届かない状況である。	支援員の数は増やせないので児童を目の届く範囲であそんでもらえるよう誘導したり、声かけをしていく。	1.集団活動中・見守りあり	行動範囲が広がるため。	声かけ、児童がまとまって遊べるよう誘導	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り楽しそうに外遊びをしていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	全体を見ていたためその瞬間の児童を見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	全体を見ていたためその瞬間の児童を見ていなかった。	それぞれの児童が好む遊びをしていたため支援員の見守りが追いついていなかった。	サッカーなど激しい動きの遊びはより一層注意をする必要がある。	
102	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	187							##		22	9	21．9歳	2.女児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	開放骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(２　)回/年	1.基準以上配置	学童からの帰宅途中の出来事であり、子どもの動きを把握を把握することは困難である	子どもが下校するときは、その都度交通ルールを守ったり正規の登校道路を帰るよう声をかける	1.定期的に実施	実施頻度(２　)回/年	3.未実施	実施頻度(０　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(３　)回/年	特になし	引き続き実施する	7.その他	近くに信号付きの横断歩道があり、道路を渡るときは必ず横断歩道を通るように指導している	子どもが下校するときは、その都度交通ルールを守ったり正規の登校道路を帰るよう声をかける	1.いつもどおりの様子であった	学校帰りは普通通りであり、今日はおやつをもらって帰ると施設長に元気に答えていた。また、担任には普段と変わらなく応対していた。	4.対象児の動きを見ていなかった	おやつを持って帰宅していたので、道路を横切る様子までは把握できていない	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	下校中のため指導員は見ていない。一人は教室前で子どもの受け入れを行っていたが、道路までは距離があり横断するのを確認はできなかった。	学童からの帰宅途中の出来事であり、子どもの動きを把握を把握することは困難である	子どもが下校するときは、その都度交通ルールを守ったり正規の登校道路を帰るよう声をかける。	
103	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	37							37		4	2	18．6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足首剥離骨折、左足関節外果骨折、左足外側外副じん帯損傷、左足外果離断性骨軟骨炎	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１　)回/年	1.基準以上配置	特になし	ケガをしたり、捻ったときの手当ての対処法の確認	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	周囲に気を付けながら遊ぶよう声掛けを行う	1.いつもどおりの様子であった	ドッチボール中で元気に逃げ回っていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	目の前で転び、立てなかったので抱えて安全な場所に移動し、応急措置	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれの持ち場で他の子たちを見守っていた。	ドッチボールのスペースが人数に対して狭いときがある。	足に合ったサイズの靴を履くように話す。ボールを使った遊びの経験を重ねられるように見守る。	
104	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	33							33		2	1	18．6歳	1.男児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足親指の甲骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１１)回/年	2.基準配置	特になし	見守りの強化	1.定期的に実施	実施頻度(293)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	特になし	3.個人活動中・見守りあり	見守り・声かけ	危険箇所の確認	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	教室に入る時から水筒を引きずり、注意をするが聞き入れず、運動場から正門へ向かうときに走って転倒。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	離れたところから全体を見守りしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の支援員も離れたところから全体を見守りしていたが、対象児の動きまでは見ていなかった	走ったことによる転倒	走らないように注意し、日頃から安全な下校方法を児童たちと再確認する。	
105	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	21							21		4	2	20．8歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外顆骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.基準以上配置	特になし	遊具の適切な遊び方を再確認し、危険な遊び方をしている際は声かけ等を徹底する。	1.定期的に実施	実施頻度(290)回/年	3.未実施	実施頻度(-)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(290)回/年	特になし	活動する前には注意点を入所児童に説明。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	特段の改善点はなし。	1.いつもどおりの様子であった	健康状態は通常通りで、いつもどおり外遊びをしていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	支援員は運動場全体を見守れる位置にいたため、対象児童からは少し離れた場所で危険な動きをしていないか見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	屋内に1名、屋外に担当職員以外に2名がいたが、他児童の支援を行っていたため、対象時の動きを見ていなかった。	特になし	走らないように注意し、日頃から安全な下校方法を児童たちと再確認する。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
106	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	6	8.夕方（16時頃～夕食提供前頃）	1.施設敷地内（室内）	8.学童	20							20		3	1	18．6歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢（腕・手・手指）	右手首骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度（11 ）回/年	1.基準以上配置	特になし	体育館内での適切な遊び方の再確認	3.未実施	実施頻度（０ ）回/年	1.定期的に実施	実施頻度（11 ）回/年	1.定期的に実施	実施頻度（290 ）回/年	特になし	活動する前には注意点を入所児童に説明。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	特段の改善点はなし。	1.いつもどおりの様子であった	友達と様々な遊びを展開。事故発生時はボールで遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	体育館内で複数の遊びが展開されていたことから、他児童の対応等で事故を目撃していなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	体育館内にいたものの、他児童の対応等で目撃していなかった。	特になし	特段の改善点はなし。	
107	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方（16時頃～夕食提供前頃）	2.施設敷地内（室外・園庭・校庭等）	8.学童	28							28		3	3	18．6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢（腕・手・手指）	左肘骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度（1）回/年	1.基準以上配置	児童が雲梯を一つ飛ばしで遊んでいたため、落下しやすい状況にあった。	遊具の適切な遊び方を再確認し、危険な遊び方をしている際は声かけ等を徹底する。	1.定期的に実施	実施頻度(290)回/年	3.未実施	実施頻度（０ ）回/年	1.定期的に実施	実施頻度(290)回/年	校内に雲梯が２つあるが、児童の体格に比べ高さのある雲梯で遊んでいた。	児童の体格にあった雲梯で遊ぶように指導を徹底する。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	特段の改善点はなし。	1.いつもどおりの様子であった	健康状態は通常通りで、いつもどおり外遊びをしていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児童は支援員の目が届く範囲におり、全体的に危険な行動をしていないか目配りをしていた。また、落下する状況に手を差し伸べたが間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	屋内に1名、屋外に担当職員以外に1名がいたが、他児童の支援を行っていたため、対象時の動きを見ていなかった。	特になし	支援員は視野を広く保ち、全体を見渡しながらも個々の児童対応をするように支援員全員で確認。	
108	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	12	8.夕方（16時頃～夕食提供前頃）	2.施設敷地内（室外・園庭・校庭等）	8.学童	64							64		6	2	21．9歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	2.顔面（口腔内含む）	鼻骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度（ー）回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度（１）回/年	1.定期的に実施	実施頻度（１）回/年	1.定期的に実施	実施頻度（—）回/年	―	特になし	1.集団活動中・見守りあり	―	特になし	1.いつもどおりの様子であった	いつもの様子と特に変わりなかった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	全体の見守りの中で当該児童も見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	当該児童の動きを見ていなかった。	支援員が見守りを行っている中で発生した事故。	今後も危機管理の手引きを用い，迅速な対応を行っていく。	
109	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	12	8.夕方（16時頃～夕食提供前頃）	2.施設敷地内（室外・園庭・校庭等）	8.学童	102							##		12	3	22．10歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢（腕・手・手指）	左手首骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度（ー）回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度（１）回/年	1.定期的に実施	実施頻度（１）回/年	1.定期的に実施	実施頻度（—）回/年	―	特になし	1.集団活動中・見守りあり	―	特になし	1.いつもどおりの様子であった	いつもの様子と特に変わりなかった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	全体の見守りの中で当該児童も見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	当該児童の動きを見ていなかった。	支援員が見守りを行っている中で発生した事故。	今後も危機管理の手引きを用い，迅速な対応を行っていく。	
110	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	10	8.夕方（16時頃～夕食提供前頃）	2.施設敷地内（室外・園庭・校庭等）	8.学童	163							##		11	5	23．11歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢（腕・手・手指）	右手首骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度（ー）回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度（１）回/年	1.定期的に実施	実施頻度（１）回/年	1.定期的に実施	実施頻度（—）回/年	―	特になし	1.集団活動中・見守りあり	―	特になし	1.いつもどおりの様子であった	いつもの様子と特に変わりなかった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	全体の見守りの中で当該児童も見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	当該児童の動きを見ていなかった。	支援員が見守りを行っている中で発生した事故。	今後も危機管理の手引きを用い，迅速な対応を行っていく。	
111	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	12	9.夜間・早朝（泊り保育）	2.施設敷地内（室外・園庭・校庭等）	8.学童	50							50		7	7	19．7歳	1.男児		7.登園・降園中（来所・帰宅中）	1.負傷		2.骨折	5.下肢（足・足指）	左くるぶし骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度（ー）回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度（１）回/年	1.定期的に実施	実施頻度（１）回/年	1.定期的に実施	実施頻度（—）回/年	―	特になし	1.集団活動中・見守りあり	―	特になし	1.いつもどおりの様子であった	放課後児童クラブでの活動中はいつもの様子と変わりなかった。	4.対象児の動きを見ていなかった	下校途中の事故であり、支援員による見守りはなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	下校途中の事故であり、支援員による見守りはなかった。	特になし	今後も危機管理の手引きを用い，迅速な対応を行っていく。	
112	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	12	8.夕方（16時頃～夕食提供前頃）	2.施設敷地内（室外・園庭・校庭等）	8.学童	52							52		6	2	21．9歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面（口腔内含む）	歯牙破折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度（ー）回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度（１）回/年	1.定期的に実施	実施頻度（１）回/年	1.定期的に実施	実施頻度（—）回/年	―	特になし	1.集団活動中・見守りあり	―	特になし	1.いつもどおりの様子であった	いつもの様子と特に変わりなかった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	全体の見守りの中で当該児童も見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	当該児童の動きを見ていなかった。	支援員が見守りを行っている中で発生した事故。	今後も危機管理の手引きを用い，迅速な対応を行っていく。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
113	令和5年9月28日		15. 放課後児童クラブ	1	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8. 学童	11							11		3	1	20. 8歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左示指基節骨骨端線損傷	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(ー)回/年	2. 基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(—)回/年	ー	特になし	1. 集団活動中・見守りあり	ー	特になし	1. いつもどおりの様子であった	いつもの様子と特に変わりなかった。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	全体の見守りの中で当該児童も見ていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	当該児童の動きを見ていなかった。	支援員が見守りを行っている中で発生した事故。	今後も危機管理の手引きを用い，迅速な対応を行っていく。	
114	令和5年9月28日		15. 放課後児童クラブ	10	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8. 学童	116							##		13	3	20. 8歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左中指基節骨骨端線損傷	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(ー)回/年	2. 基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(—)回/年	ー	特になし	1. 集団活動中・見守りあり	ー	特になし	1. いつもどおりの様子であった	いつもの様子と特に変わりなかった。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	全体の見守りの中で当該児童も見ていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	当該児童の動きを見ていなかった。	支援員が見守りを行っている中で発生した事故。	今後も危機管理の手引きを用い，迅速な対応を行っていく。	
115	令和5年9月28日		15. 放課後児童クラブ	1	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8. 学童	105							##		12	4	20. 8歳	1. 男児		7. 登園・降園中(来所・帰宅中)	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左腕（手首上）骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(ー)回/年	2. 基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(—)回/年	ー	特になし	1. 集団活動中・見守りあり	ー	特になし	1. いつもどおりの様子であった	放課後児童クラブの活動中はいつもの様子と変わりなかった。	4. 対象児の動きを見ていなかった	下校途中に発生した事故であり、職員の見守りはなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	下校途中に発生した事故であり、職員の見守りはなかった。	特になし	今後も危機管理の手引きを用い，迅速な対応を行っていく。	
116	令和5年9月28日		15. 放課後児童クラブ	9	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	8. 学童	73							73		6	2	20. 8歳	1. 男児		7. 登園・降園中(来所・帰宅中)	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	外傷性歯冠破折、外傷性下顎骨骨折疑い、外傷性口腔粘膜裂傷	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(ー)回/年	2. 基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(—)回/年	ー	特になし	7. その他	ー	特になし	1. いつもどおりの様子であった	放課後児童クラブでの活動中はいつもの様子と変わりなかった。	4. 対象児の動きを見ていなかった	下校途中の事故であり、支援員による見守りはなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	下校途中の事故であり、支援員による見守りはなかった。	特になし	今後も危機管理の手引きを用い，迅速な対応を行っていく。	
117	令和5年9月28日		15. 放課後児童クラブ	11	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8. 学童	46							46		6	2	21. 9歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左小指中接骨端軟骨端線	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(ー)回/年	2. 基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(—)回/年	ー	特になし	1. 集団活動中・見守りあり	ー	特になし	1. いつもどおりの様子であった	いつもの様子と特に変わりなかった。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	全体の見守りの中で当該児童も見ていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	当該児童の動き見ていなかった。	支援員が見守りを行っている中で発生した事故。	今後も危機管理の手引きを用い，迅速な対応を行っていく。	
118	令和5年9月28日		15. 放課後児童クラブ	11	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8. 学童	43							43		10	3	18. 6歳	1. 男児		7. 登園・降園中(来所・帰宅中)	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左腕上腕骨顆上骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(ー)回/年	2. 基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(—)回/年	ー	特になし	1. 集団活動中・見守りあり	ー	特になし	1. いつもどおりの様子であった	いつもの様子と特に変わりなかった。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	全体の見守りの中で当該児童も見ていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	当該児童の動きを見ていなかった。	支援員が見守りを行っている中で発生した事故。	今後も危機管理の手引きを用い，迅速な対応を行っていく。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
119	令和5年9月28日		15. 放課後児童クラブ	12	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8. 学童	172							##		13	6	19. 7歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	2. 顔面(口腔内含む)	鼻骨骨折、鼻の横を裂傷	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(ー)回/年	2. 基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(—)回/年	—	特になし	1. 集団活動中・見守りあり	—	特になし	1. いつもどおりの様子であった	いつもの様子と特に変わりなかった。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	全体の見守りの中で当該児童も見ていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	当該児童の動きを見ていなかった。	支援員が見守りを行っている中で発生した事故。	今後も危機管理の手引きを用い，迅速な対応を行っていく。	
120	令和5年9月28日		15. 放課後児童クラブ	2	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8. 学童	153							##		10	4	20. 8歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右中指骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1-2)回/年	2. 基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(—)回/年		特になし	1. 集団活動中・見守りあり		特になし	3. いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	ふざけていた。	1. 対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた)	配慮を要する児童であるためマンツーマンで接していた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	全体の見守りの中で当該児童も見ていた。		今後も危機管理の手引きを用い，迅速な対応を行っていく。	
121	令和5年9月28日		15. 放課後児童クラブ	3	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8. 学童	57							57		10	4	21. 9歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右ひじ複雑骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1-2)回/年	2. 基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(ー)回/年		特になし	1. 集団活動中・見守りあり		特になし	1. いつもどおりの様子であった	いつもの様子と特に変わりなかった。	4. 対象児の動きを見ていなかった	全体を見守っている中で当該児童の動きを見ていなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	全体を見守っている中で当該児童の動きを見ていなかった。		今後も危機管理の手引きを用い，迅速な対応を行っていく。	
122	令和5年9月28日		15. 放課後児童クラブ	5	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	8. 学童	199							##		16	5	18. 6歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		4. 創傷(切創・裂創等)	2. 顔面(口腔内含む)	右頬部挫創	5. 他児から危害を加えられたもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1-2)回/年	2. 基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(ー)回/年		特になし	1. 集団活動中・見守りあり		特になし	3. いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	当該児童と加害児童が喧嘩をしていた。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	喧嘩をしている児童らの仲裁に入ろうとしていた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	喧嘩をしている児童らの仲裁に入ろうとしていた。		今後も危機管理の手引きを用い，迅速な対応を行っていく。	
123	令和5年9月28日		15. 放課後児童クラブ	5	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8. 学童	156							##		12	3	21. 9歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右手小指骨折	8. その他	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1-2)回/年	2. 基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(ー)回/年		特になし	1. 集団活動中・見守りあり		特になし	1. いつもどおりの様子であった	いつもどおりの様子であった。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	全体の見守りの中で当該児童も見ていた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	全体の見守りの中で当該児童も見ていた。		今後も危機管理の手引きを用い，迅速な対応を行っていく。	
124	令和5年9月28日		15. 放課後児童クラブ	2	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8. 学童	71							71		6	2	20. 8歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		4. 創傷(切創・裂創等)	2. 顔面(口腔内含む)	唇裂傷、上歯のめりこみ	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1-2)回/年	2. 基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(ー)回/年		特になし	1. 集団活動中・見守りあり		特になし	1. いつもどおりの様子であった	いつもの様子と特に変わりなかった。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	全体の見守りの中で当該児童も見ていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	全体の見守りの中で当該児童も見ていた。		今後も危機管理の手引きを用い，迅速な対応を行っていく。	
125	令和5年9月28日		15. 放課後児童クラブ	3	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8. 学童	108							##		4	2	23. 11歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右手人差し指第一関節骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1-2)回/年	2. 基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(—)回/年		特になし	1. 集団活動中・見守りあり		特になし	1. いつもどおりの様子であった	いつもの様子と特に変わりなかった。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	全体の見守りの中で当該児童も見ていた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	全体の見守りの中で当該児童も見ていた。		今後も危機管理の手引きを用い，迅速な対応を行っていく。	
126	令和5年9月28日		15. 放課後児童クラブ	5	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	8. 学童	0							0		0	0	18. 6歳	2. 女児		7. 登園・降園中(来所・帰宅中)	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右橈骨近位骨端線損傷・右肘頭骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1-2)回/年	2. 基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(ー)回/年		特になし	7. その他		特になし	1. いつもどおりの様子であった	いつもの様子と特に変わりなかった。	4. 対象児の動きを見ていなかった	クラブを出た後に起きた事故のため見守りなし	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	クラブを出た後に起きた事故のため見守りなし		今後も危機管理の手引きを用い，迅速な対応を行っていく。	

No	初回掲載年月日	概要/認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期/月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制/発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳/0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故/年齢	性別	特記事項	事故状況/発生時状	事故の転帰	死亡/死因	負傷/負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析/ソフト面/マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面/施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面/教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面/対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
127	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	122							##		9	3	22.10歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右中指末節骨骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1-2)回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(―)回/年		特になし	1.集団活動中・見守りあり		特になし	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りの通りの様子であった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	見守りを行っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	見守りを行っていた。		今後も危機管理の手引きを用い，迅速な対応を行っていく。	
128	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	22							22		2	2	21.9歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	なし	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度4回/年	2.基準配置	特になし	今回の事故について市内他クラブでも情報共有し、今後の事故防止に役立てる	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度（１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	特になし	今回の事故については運動場入口段差が原因であるため、施設改善は難しい	1.集団活動中・見守りあり	特になし	運動場で遊ぶ際は、入口付近は避け中央付近で遊ぶよう指導する	1.いつもどおりの様子であった	通常どおり友達と遊んでいた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	運動場中央付近で遊んでいる児童に付き添いながら全体を見守っていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	通常　外遊び１名、室内１名体制で見守りをしている	運動場中央付近で遊んでいる児童の見守りを重点的に行う必要があった	運動場で遊ぶ際は、入口付近は避け中央付近で遊ぶよう指導する	
129	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	54							54		3	1	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕外顆骨折骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	3.未実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	外遊び中は支援員及び補助員が全体を見渡して見守りを行うが、見守りの配置につく職員よりも先に運動場へ行き遊び始めてすぐのことだった。	児童よりも先に支援員が外にでて見守りの体制が整った状態で児童に遊びを行わせる。	3.未実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/3年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	支援員よりも先に児童が運動場に行きすぐに雲梯にぶら下がり落ちたため、児童の近くで見守れていなかった	外遊び時間になったら支援員よりも先に児童を外に出さず、支援員が先に出て見守りの体制をとり、遊具で遊んでいる児童がいる場合、ケガ防止のため遊具付近で見守りを行い危険な時や転落時にすぐに対応ができるようにする	1.いつもどおりの様子であった	雲梯にぶら下がりつたっていたが、右手が届かずに左手でぶら下がる状態から手が滑って落下した	4.対象児の動きを見ていなかった	見守りに出る支援員は外遊び道具を準備していて、対象児童が先に雲梯にぶら下がり遊び始めていたのを見ておらず、落下し雲梯下にうずくまったのを確認した	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	外遊び時間になってすぐに対象児童が外に飛び出し遊びはじめた瞬間だったため、ほかの支援員が見守る前に起きた	特になし	特になし	
130	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	19							19		3	3	19.7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	若木骨折（左手首上部）	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.基準以上配置	特になし	事故防止に関する研修を実施する。	1.定期的に実施	実施頻度(250)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(250)回/年	特になし	十分に対策は行っている。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	十分に対策は行っている。	1.いつもどおりの様子であった	元気にサッカーボール蹴りをしていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	ボール蹴りを近くで見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	各々好きな遊びをしている児童たちを見守っていた。	特になし	ボールを蹴る際はボールの蹴る位置を確認することと目で見ながら蹴るように声掛けを行う。	
131	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	3	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	16							16		2	2	20.8歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足小指中節骨骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	具体的なマニュアルは作成していない。児童とルール決めはしていたが明文化していなかった。	マニュアル作成。ルールの遵守を徹底する。ドアは常に開放する。	3.未実施	実施頻度(0)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	手指挟みは想定して緩衝材で対策済だが、足指は想定外で無対策だった。	施設課に対応を相談。結果、常にドアを開放しておくことに決定した。	3.個人活動中・見守りあり	卒業を目前にした6年生との別れを惜しむが如く、普段以上に濃密な関係性で遊んでいた。支援員を含め全ての関係者が少し浮足立っていたかもしれない。	マニュアル作成。ルールの遵守を徹底する。ドアは常に開放する。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	数人の列の後尾にいたが、前にいた児童が入室し続いて入室するつもりがドアを閉められたため、右足小指をドアに挟んだ。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	室内で遊んでいる児童の相手をしている支援員が一名。ドア付近で遊んでいる児童の見守りをしている支援員が一名。	左記のとおり	上記の二名のみ。	卒業を目前にした6年生との別れを惜しむが如く、普段以上に濃密な関係性で遊んでいた。支援員を含め全ての関係者が少し浮足立っていたかもしれない。	マニュアル作成。ルールの遵守を徹底する。ドアは常に開放する。この事故を自分事として児童を含め全員で検証する。	
132	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	20							20		3	2	20.8歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手小指剥離骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	支援員全員で再発防止に注意喚起を図った。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	学校内グランドを使用しており、特に危険個所なし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	集団遊びでの見守りに対して個々の児童の注意を払う。	1.いつもどおりの様子であった	グラウンドでドッチボールをしていた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	外遊び中であったので、離れたところで全体を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	通常の遊びの範囲内のため、特に危険とは感じなかった。	特になし	ドッチボールを受け取る場合に手だけではなく体でも取るように指導する。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制												事故			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事者		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳									うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他								死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】							理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
133	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	4							4		5	2	19.７歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左ひじ骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度（0）回/年	2.基準配置	ボール遊びをするときは、靴下を脱ぐ約束だが脱いでいなかった。	靴下を脱いで遊びを行う。	1.定期的に実施	実施頻度(毎　)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	日々の活動内容だったので、支援員も慢心があったかもしれない。	事故はいつ起こるか分からないので、とっさの対応ができるように気を引き締める事。部屋でボール遊びをするときは、思い切りボールを投げない。	1.集団活動中・見守りあり	卒所式終了後でテンションが上がっていたことも要因	テンションが上がっていたこともあるので、行事後は落ち着かせる活動（読書）を取り入れるようにする。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	友だちとドッチボールをしていて足元付近にボールが来たので、よけることができずに足を払われる感じで転倒。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	見守っていたので状況の把握はできていたが、瞬間的な出来事だったので手を差し伸べたが間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	転倒した衝撃音に気づき、うずくまる本児を発見。他の児童と関わっていたため気づく事に遅れた。	靴下を脱いでいない事に気づいていたが、声かけを怠った。	ボール遊びは屋外でやる事。部屋を仕切ってボール遊びができない空間作りをする。	
134	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	45							45		4	2	18.６歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足脛骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(２)回/年	2.基準配置	マニュアルを確認したが、マニュアルの記載では判断ができなかった	マニュアルを再作成し、職員は研修・講習に参加する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	児童にとっては高さがある部分であった。	マットや低反発の素材に変更もしくは置く。	1.集団活動中・見守りあり	見守り支援はしっかり行っていたが、注意する判断力、声かけが欠けていた	研修を行い危険予知訓練などを実地する	1.いつもどおりの様子であった	いつものようにジャンプをして遊んでいたが、それを見ていた子に左足を向けながら片足ジャンプをし、見ていた子の肩にあたりバランスを崩し着地した	2.対象児の至近で対象児を見ていた	一瞬の出来事で声かけ、行動にすることが出来なかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	ホールにて他の児童と遊んだり、お迎えの保護者対応をしていた。	ジャンプをする前に近くに人がいることを注意できなかった。	遊ぶ場所をホールのみにして職員が児童を把握できる体制にする。	
135	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	30							30		5	4	19.７歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折(左手中指)	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度（1）回/年	2.基準配置	外遊びに行く際、本来３名で引率していたところを主任の保護者対応のため２名で引率することとなった。	外遊びに行く際に来客等で主任の対応がある際は、主任の対応が終了するまでもしくはその日の外遊びの育成支援に別の支援員が入るようにし、外遊びへ出発するときから３名で児童を引率できるようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	特になし	外遊びの際は、到着後だけでなく移動中の児童の様子もしっかりと見守ることができるよう、必要な支援員数を検討し配置する。	1.集団活動中・見守りあり	これまでなわとびやボール、フリスビー等の児童が遊ぶ道具は、使用する児童が上級生の場合は児童本人が校庭まで持っていくよう指示していたため、上級生の持つボールが地面で跳ねた際隣接するこども園の敷地に入った。	手から離れた際に遠方まで飛んでいく可能性のある遊具(ボールやフリスビー等)は、支援員が水筒用のかごに入れて持ち運ぶようにする。	1.いつもどおりの様子であった	学校からの下校時やクラブ室内、外遊びへの移動中に水筒の紐を持ち、自分の体に巻きつけるように振りながら持ち運ぶ様子が見られていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	先頭で14名の児童の引率をしており、列の中ほどにいた当該児の様子をしっかり見ることができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	引率する予定だった支援員３名のうち、主任は保護者対応のため移動の引率ができず、もう１名の支援員は隣接するこども園に入ったボールを取りに行くため児童の動きを見ることができなかった。	特になし	特になし	
136	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	46							46		3	1	19.７歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(毎日)回/年	2.基準配置	特になし	子どもの動きや状態、個々の運動能力を十分に見極め少しでも危険と判断したら声掛け、場合によっては活動を打ち切ることも考慮。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	利用人数・園庭の広さで担当職員はいつもどおり。声掛け指導を行うも危険を察したと同時であった。	危険個所の把握	1.集団活動中・見守りあり	学年に応じての声掛け、活動内容	危機管理意識を高める	1.いつもどおりの様子であった	いつもどおりに外遊びをはじめる。のぼり棒では、一人遊びをしていた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	のぼり棒を降りようとしていた児を、ちかくの職員が危険を察したが、上で手がすべり落下。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保護者対応、室内1名。園庭（コート側）1名。園庭固定遊具あたり（のぼり棒側）1名。	普段通りの注意を払い、見守っていた。	支援にあたる職員の意識を共通理解、共有する。	
137	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	10							10		3	2	18.６歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度（2）回/年	2.基準配置	ロープから手が滑るかもしれないと予測するべき	事故やけがの予測を見越しての声掛け	1.定期的に実施	実施頻度（１２）回/年	1.定期的に実施	実施頻度（１２）回/年	1.定期的に実施	実施頻度（１２）回/年	地面から高さがあり傾斜のある場所の為、ロープをかける場所の考慮が必要であった。	事故後、使用中止とした	1.集団活動中・見守りあり	当該児童が入所当日であったため、遊具の使用方法への理解がなかったのかもしれない。	特に入所日には、児童が納得するまで説明を行う。	1.いつもどおりの様子であった	入所初日で児童の様子が把握できていなかった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	３名ほどの児童を１名の職員での見守りをしていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の子どもの遊んでいる様子を見守っていた。	特になし	児童がいつも通りの様子でも事故が起こるかもしれないという意識を持つ。また、少しでも危険を感じた場合は、ためらわず注意喚起をし正しい使用方法を伝え理解させる。	
138	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	2	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	107							##		9	6	20.８歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度（１　）回/年	1.基準以上配置	特になし	遊び慣れている遊具であっても、万が一の事故に備える。	1.定期的に実施	実施頻度（１２）回/年	1.定期的に実施	実施頻度（１２）回/年	1.定期的に実施	実施頻度（１２）回/年	特になし	高さのない遊具でも大きなケガにつながる危険性を注意喚起すると共に職員も留意する。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	学年や遊び方に応じて休憩の時間を設けるなど配慮する。	1.いつもどおりの様子であった	普段から外遊びを活発に行う児童であり、この日も元気に遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	他の高さのある遊具のそばにいながら周囲で遊んでいる児童を見ていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	複数の職員で広い校庭を分担し、全体の児童を見られるようにしている。	特になし	児童の様子に気を配り、安全に遊ぶことができるよう声がけをおこなう。	

No	初回掲載年月日	概要：認可・認可外	概要：施設・事業所種別	事故発生時期：月	事故発生時期：時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳：0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故：年齢	性別	特記事項
139	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	35							35		4	1	19.７歳	1.男児	
140	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	26							26		5	2	21.９歳	2.女児	
141	令和5年9月28日	1.認可	5.幼稚園	10	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	17	0	0	0	5	12	0	0		2	2	16.４歳	1.男児	家で転んだりぶつかったりし、前歯がかけたり揺れていたりしているため、治療中であった。神経をとっていて、黒くなっている。
142	令和5年9月28日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	12	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	78	0	0	0	0	28	50	0		4	4	18.６歳	1.男児	特になし
143	令和5年9月28日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	1	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	7	0	0	1	1	3	2	0		3	2	18.６歳	2.女児	

No	事故状況：発生時状況	事故の転帰	死亡：死因	負傷：負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面：マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面：施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】
139	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左ひじ骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	ー	1.基準以上配置	一緒に走っていた子どもが先に部屋に入って転んでしまった。支援員が肘を握ってしまった。	後ろ向きに部屋に促すのでなく、一旦止めて次の行動に移すようにする。	2.不定期に実施	毎日の掃除時	2.不定期に実施	外遊び時	2.不定期に実施	毎日の掃除時
140	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足首剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度（１）回/年	1.基準以上配置	インラインスケートで遊び児童は４名と少なかったが、広範囲にちらばっていた。また配置職員はインラインスケート経験がなく、技量を計れなかった。	児童の技量レベルを把握し、それを大幅に超えるような行動は控えさせる。	1.定期的に実施	実施頻度（１）回/年	2.不定期に実施	実施頻度（３）回/年	2.不定期に実施	実施頻度（３）回/年
141	2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷性歯の亜脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	マスクをしていたため、口の中の怪我をしたことに気付けなかった。	泣いたり、血が出たりしておらず、歯を怪我をしていることに気づかなかった。もう一度確認するべきだった。	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	50
142	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左の肘を骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	特になし	マニュアルあり、研修実施、職員配置基準を満たしているため特になし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	300
143	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足脛骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2	2.基準配置	特になし	マニュアルあり、研修実施、職員配置基準を満たしているため特になし	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	278

No	ハード面：その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面：教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面：対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
139	長い廊下（約20m）の為、走りたがる。	注意看板掲示により周知徹底を図る。	1.集団活動中・見守りあり	事故当日を含め３日間雨が続いたため、外遊びが出来ていなかった。そのストレスで子ども達が部屋の中で走り回ったのかもしれない。	今後、雨が続いた時の学童での過ごし方を検討する必要がある。（学校の体育館利用や、部屋で出来るレクリエーション等）	1.いつもどおりの様子であった	普段から室内を走ることが多く、注意を促していた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	他の支援員が指導していたが、中々止まないので止めに行った。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の子どもの宿題を見たり、遊んでいる様子を見守りながら走らないよう対象児童に声掛けをしていた。	部屋での過ごし方については指導していても、子ども達に何故その指導が必要なのかが伝わっていない。	問題行動を起こしたときには繰り返しでも、最後まできちんと子どもに伝えてやめさせる。注意看板の設置、毎日の反省会	
140	インラインスケートで推奨されるヘルメット・膝・肘・手のひらのプロテクターは装備していたが、装着は児童に任せていたため固定が不十分だった可能性がある。	装備の装着状況を支援員が確認する。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	児童が広範囲に散らばる可能性がある場合は、まとまって行動するように促す。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	ひさしぶりのクラブでのインラインスケートで張り切っていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	他の児童を注視していて、事故当時当該児童を目視していなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれ担当箇所を指示し配置していたため、それ以外の場所を目視していなかった。また自由配置の１名はおやつ準備等雑務にかかっていた。	特になし	装備が適切に装着されているかを支援員が確認し、児童それぞれの技術レベルに合わせた遊び方を指導する。	
141	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	食事の片付け等をしていたため、子どもが転倒した瞬間を見ていなかった。	転ばないよう、落ち着いて遊ぶことを伝える。	1.いつもどおりの様子であった	ブロックであそんでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	食事の片付けや声掛けをしながら、子どもたちの様子を見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	食事の片付けや声掛けをしながら、子どもたちの様子を見ていた。	食事の片付け等をしていたため、子どもが転倒した瞬間を見ていなかった。	落ち着いて遊ぶように伝える。また、保育者が全体の様子を把握できるように気を付けていく。	
142	特になし	施設、遊具、玩具の安全点検は定期的に行っているので、特になし	1.集団活動中・見守りあり	子どもが遊具にぶら下がっている場面を、見守ることができていなかった。	職員の見守り配置を分散する	1.いつもどおりの様子であった	活発に戸外遊びを楽しんでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	遊具のそばで全体を見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	見守りの役割分担をしその場を見守っていた。1人は総合遊具の階段部分、2人は園庭を見渡せる所。	遊具の遊び方を事前に伝えていなかった。	遊びを始める前に遊具の遊び方を改めて子どもたちに伝えたり、状況に合わせて子どもたちに声をかけたりする。	
143	特になし	施設、遊具、玩具の安全点検は定期的に行っているので、特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	活動中、見守り体制があったため、特になし	1.いつもどおりの様子であった	友だちとボール遊びを楽しんでいた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	ボール遊びをしている当該児童をそばで見守っていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の2名の教諭も他の児童がボール遊びをしているところを見守っていた。	冬休み明けの預かり保育だった為、運動不足で、身体がしなやかに動かなかった可能性がある。	事前に柔軟体操をしてから、運動や遊びをはじめるようにする。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
144	令和5年9月28日	1.認可	5.幼稚園	1	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	80	0	0	0	20	30	30	0		3	2	17.5歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	2.不定期に実施	1	2.基準配置	特になし	遊具の点検等により想定される危険を洗い出し、マニュアルの見直し等により事故防止を図る	2.不定期に実施	1	2.不定期に実施	1	1.定期的に実施	1	園児が遊具の中に入り込んだことで死角になってしまった	園児が遊具の中に入り込むと死角になり危険が生じる可能性があるため、当該遊具を撤去した	1.集団活動中・見守りあり	特になし	正課保育終了後には担任以外の教職員が園児の保育にあたることになるが、その場合でも事故防止により一層留意しながら園児の保護にあたる	1.いつもどおりの様子であった	キノコ型の遊具付近または遊具の中で、友だちやひとりで遊んでいることが多い。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園庭を見回りながら、他児と遊んだり関わったりしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭を見回りながら、他児と遊んだり関わったりしていた。	特になし	想定される危険に応じた教職員配置を再検討する	
145	令和5年9月28日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	1	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	36									3	3	18.6歳	1.男児	特別支援児（自閉症スペクトラム）。状況や痛みなどは言葉で伝えることができる。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左腓骨遠位部骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	3	2.基準配置	特になし	マニュアルあり、研修実施、職員配置基準を満たしているため特になし	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	45	1.定期的に実施	89	特になし	施設、遊具、玩具の安全点検は定期的に行っているので、特になし	1.集団活動中・見守りあり	鬼ごっこをしている時に友達と交錯し足が引っ掛かり転倒した	相手が瞬時に接近することもあるということを知らせ、ぶつかりそうになった時は止まることを知らせる	1.いつもどおりの様子であった	クラスでよく遊んでいる遊びであり、担任がかかわっていなくても友達と一緒に遊ぶことができる。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児が友達と一緒に鬼ごっこをしていることを把握したうえで見守りをしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当クラスの子どもの様子を見ていた	特になし	見守り体制があったため、特になし。	
146	令和5年9月28日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	2	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	1.0歳児クラス	5									2	2	13.1歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷性歯の脱臼、上唇小帯裂傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	4	2.基準配置	特になし	今後も実際に怪我をした時、ヒヤッとした事の原因を追究し、改善策を職員間で共有していく。裾がひっかかる等衣服による原因が無いよう気を付ける。	1.定期的に実施	4	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	遊戯室の床は木で、柔らかくはないので、転倒時手をつけないとケガをする。	保育の中で、身体を使った遊びを多く取り入れ、しっかりと手をついて転ぶことができるように経験をさせる。	3.個人活動中・見守りあり	転倒時、本児は手をついたが間に合わなかった。	今後の保育の中で、運動遊びを多くし、手をしっかりとついて転べるように経験出来るようにする。	1.いつもどおりの様子であった		2.対象児の至近で対象児を見ていた	すぐそばにいて、転倒の様子を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	本児と少し離れたマットで遊んでいる園児を見ていたため、転倒時の様子は視界には入らず音のみ聞いた。		保育士間で見る子どもを状況に応じて分担し、意思疎通を取る。	
147	令和5年9月28日	1.認可	5.幼稚園	3	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	17									1	1	17.5歳	2.女児	ぜんそくの薬を飲んでいたこともあり、嘔吐したことが骨折と関係があるかは不明。	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	2.顔面(口腔内含む)	眼窩底骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	特になし	職員の数は適正であり本児の様子もきちんと把握していたが、鬼ごっこでは滑り台に上らない等のルールが守られていなかった為、より周知する	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	手すり等にウレタンを装着する	1.集団活動中・見守りあり	鬼ごっこを行なっていた	ホールは十分な広さがあったが鬼ごっこの際滑り台に上らないよう工夫する	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	鬼ごっこをしておりいつもよりテンションが上がっていた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	職員が鬼ごっこの鬼をしており、すぐそばで見ていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	バスに乗車していた為、見ていなかった	鬼である職員が追ってきた事でテンションが上がり普段と違う動きをしてしまった。また、職員自身も遊びを楽しむあまりルールを失念していた。	冷静な視点を持って関わる	
148	令和5年9月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	14									2	2	16.4歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)		1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	特になし	園児への指導の実施。職員へ事故に関する周知と保育環境の再検討	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	引き続き、定期的な安全点検を実施を行い遊具・用具を適切に管理する。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	体を動かした遊びの充実により身体諸機能の発達と、園児を対象とした安全指導を実施し周囲の状況把握や安全な遊び方が身に付けられるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	対象児は普段の様子と変わらなかった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	担任は対象児の近くで見ていたが、落下時に受け止めることができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当職員以外は、それぞれの場で保育等を行っていたため発生時の様子は見ていなかった。	特になし	教師間で事故発生に関する共有を行い、指導に関して再確認を行った。	
149	令和5年9月28日	3.その他	5.幼稚園	3	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	92	0	0	0	35	30	27	0		10	10	17.5歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨過剰骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	園庭の使い方として好きな場所で自由に遊ぶことをしていた	鬼ごっこをしても良い場所、サッカーをしても良い場所を区切るなど、遊ぶ場所の整理や時間の使い方を考えていく必要がある。	2.不定期に実施	1	2.不定期に実施	1	2.不定期に実施	1	園庭での活動であったため、危険がないものと認識していた。	危険個所がないと捉えずに、安全に遊べるのか職員同士で声を掛け合いながら確認を徹底していく	1.集団活動中・見守りあり	サッカーゴールの置き場所、サッカーをしている周知の仕方、	安全面を考え教師と一緒にサッカーゴールを運び活動場所を決めるラインを書き、周りから見てサッカーしていることがわかるようにする	1.いつもどおりの様子であった	逃げることに必死になり周りをよく見ていなかった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	鬼ごっこをしている把握はしていたが、他児と遊んでいた為実際に転倒した姿は見ていなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	鬼ごっこをして逃げているのを知り、転倒したときも目には入っていた	園庭の遊びを見る当番がいるが、視野に入っていなかった	園庭当番に限らず、外にいる職員全員が子どもの遊びを気にしながら過ごしていく	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
150	令和5年9月28日	1.認可	5.幼稚園	3	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	6									6	5	16.４歳	2.女児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手　第2.3.4 中手骨骨折、基節骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	3	2.基準配置	以前より入園式、卒園式、運動会等園児用椅子が必要な場合、園児が各クラスの部屋から運んでいた。当該園児については、体格が小さく椅子を持って階段を上がるときに、より丁寧な対応が必要であった。	椅子を持ち階段を昇降する際は、さらに丁寧に支援をする必要がある。また運びたい、運べる。という気持ちも尊重する必要があるため、講堂倉庫に全園児用の椅子を用意して、園児が椅子を運ぶことについては、安全を期する。具体的には階段等を園児が持ち運ぶことをやめる。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	特になし	3.個人活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	特になし	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	数名の園児が椅子を２階の部屋に運ぶ時に担任は階段の下にいた他園児への対応があり、当該園児を見ていたが、そばにいることはできなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	特になし	特になし	特になし	
151	令和5年9月28日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	3	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	10									3	2	14.２歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左小指基節骨骨端線損傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	4	2.基準配置	特になし	事故防止マニュアルのチェックシートの確認に加え、部屋、遊戯室、園庭等の危険個所がないか確認し、全職員で改善策を考え、改善する。	1.定期的に実施	4	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	転倒時、本児は手をついたが、小指に体重がかかってしまった。	段差のある場所を登る、降りるの運動遊びは、１歳児の発達状況をみて実際のステージの階段ではなくマットと積み木など転んでも危険の無い場所でできるようにする。そのためにお遊戯室の遊び場所をついたてにより分ける。	3.個人活動中・見守りあり	特になし	園児が、登る、降りる、走る等の足腰を使った運動遊びを安全な場所で十分に行い、転んだ時に身体をかばう転び方ができるよう、経験を多くできるようにしていく。危険個所で不必要なものは排除する。	1.いつもどおりの様子であった	特になし	2.対象児の至近で対象児を見ていた	すぐそばにいて、転倒の様子を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	１人はステージの反対側で遊んでいる園児をみていた。もう一人はステージから離れた場所で遊ぶ園児をみていた。	特になし	保育士間で見る子どもを状況に応じて分担し、意思疎通を取る。	
152	令和5年9月28日	1.認可	5.幼稚園	4	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	6.5歳以上児クラス	16									3	3	17.５歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨遠位端骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	経験年数や職種の違う職員も多くいるため、園外保育事前の丁寧な打ち合わせが必要。	園外保育中の職員の動きを綿密に打ち合わせをし、役割を明確にしておく。									1.集団活動中・見守りあり	経験年数や職種の違う職員も多くいるため、園外保育事前の丁寧な打ち合わせが必要。	園外保育先の慣れない遊具は使用を限定したり、職員が同じ対応をするよう事前に話し合ったりしておく。	1.いつもどおりの様子であった	雲梯に対して、「怖い」と恐怖を示し一度は辞めた。しかし、他児の遊ぶ様子や、安心できる教師の見守りのもとで、挑戦してみようと自己判断し、取り組んだ。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児の挑戦したいという気持ちを尊重した。進み出した時はすぐ側で手助けできる位置にいたが、対象児が調子良く進み出したため近くで見守っていた。バーを掴み損ねた瞬間に手を差し伸べたが、間に合わずに落下した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の固定遊具での見守りをしていたため、見ていなかった。	新学期が始まったばかりで、担任との信頼関係、子供自身の個々能力等理解できていない時期に園外に出て、慣れていない固定遊具で遊ぶことが不必要であった。	担任が個々の能力を知り得ない時期に、園外での固定遊具遊びは行わない。	
153	令和5年9月28日	1.認可	5.幼稚園	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	50									4	4	17.５歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨の開放骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	特になし	園庭で複数の活動をさせている際の教職員の立ち位置に関して指導した。	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	12	特になし	ブランコの周りの侵入防止用のコーンとゼブラバーを増やし、ブランコ周りのスペースを広げた。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	園庭での自由遊び中の監督は幅広い視野で園児の活動を見られるように指導した。	1.いつもどおりの様子であった	ブランコを乗っており、降りる際に飛び降りた。着地の際にバランスを崩して転倒した。	4.対象児の動きを見ていなかった	他の園児のかけっこを指導しており、ブランコを背にしていたために事故発生状況を見ることができていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	当該クラスは園庭の持ち時間であったために園庭で活動を行っていた。他クラスは持ち時間でないと保育室または遊戯室での活動であるために園庭で活動していたこのクラスの様子を見ていなかった。	特になし	園庭での自由遊び中の監督は幅広い視野で園児の活動を見られるように指導した。また、他クラスも含めて遊具の使い方について再度指導するように指示を出した。	

No	初回掲載年月日	概要: 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期: 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制: 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳: 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故: 年齢	性別	特記事項	事故状況: 発生時状況	事故の転帰	死亡: 死因	負傷: 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面: マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面: 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面: 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面: 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
154	令和5年9月28日	1.認可	5.幼稚園	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	21									2	2	17.5歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘尺骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1～2	2.基準配置	特になし	鉄棒で遊ぶ際は手を離さないようにする等、安全に遊ぶための約束事を子ども達と話し、再確認・再認識をうながす。また、保育者間で連携を取り、安全に遊べるように子ども達の様子を見守っていくことを再確認した。	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	2	2.不定期に実施		特になし	園庭や遊具の点検をしっかり行う。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	引き続き子どもたちの身体づくりを行うと共に安全教育に努める。	1.いつもどおりの様子であった	鉄棒に座ることはいつもの姿であり、本児の好きな遊びであった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	戸外でクラスの子ども達がそれぞれに遊んでいたため、本児を含む複数の女児が鉄棒で遊んでいることは把握していたが、落下時は他児の対応をしていた為目視できなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭にはいたが、それぞれ別の場所で遊んでいた担当児の保育をしていたため。	特になし	子ども達の様子を常に見守り、不測の事態に適切に対応できるようにする。	
155	令和5年9月28日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	5	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	9					7	2			2	1	16.4歳	1.男児	特記事項なし	8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	特記事項なし	事故発生時の対応などの研修の回数を増やす	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	3	特記事項なし	安全点検、確認の実施回数を増やす	1.集団活動中・見守りあり	目の前のトラブルだけでなく、背後のこどもの動きにも注意すべきだった	出来るだけ園児の様子全体を把握できるように常に保育者は考えておく	1.いつもどおりの様子であった	普段はあまり活発な動きをするほうでないが、他の園児をまねて柵に座ろうとするような事があった。	4.対象児の動きを見ていなかった	目前の園児がブランコの交代の事でもめたため、視線がそちらに取られてしまい、背後の園児に気づくことが出来ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭の他の場所にも園児がいたため少し離れたところで他の園児に係っていた。	特記事項なし	職員が常に園児の様子を把握できるように心がける事を確認する	
156	令和5年9月28日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	16				4	9	3			6	6	17.5歳	2.女児	特に無し	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左脛骨骨幹部骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	2.不定期に実施	0	2.基準配置	特になし	様々なケースを想定した事故に対応できるよう研修を実施する。事故後、園内の危険箇所について職員で洗い出し共有する。職員の安全面への意識を高めるとともに、幼児への生活指導の内容を確認する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	随時	特になし	ハード面での不備による事故では無いため施設・整備等での改善策は考えていない。	3.個人活動中・見守りあり	特になし	環境面での不備による事故では無いため施設・整備等での改善策は考えていない。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り元気にブランコで遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園庭全体を見ており、本児がブランコで遊んでいる様子は目にしていたが、落下を予見し防ぐことはできなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の降園支度を確認したり、保護者に受け渡しをしたりしていた。	特になし	園児が遊具でより安全に遊ぶことができるよう必要に応じて職員が園児の補助を行う。	
157	令和5年9月28日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	5	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	26									2	2	15.3歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外顆骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	3	1.基準以上配置	特になし	事故予防の研修を強化する。	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	特になし	事故発生場所は、屋上で人工芝を敷いており破損等はなく問題はなかった。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	先生を追いかけ転倒した事故であり問題はなかった。	1.いつもどおりの様子であった	特になし	2.対象児の至近で対象児を見ていた	特になし	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	特になし	特になし	担任も、他の職員も対象園児を見ており問題はなかった。	
158	令和5年9月28日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	5	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	30					14	16			6	4	18.6歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	3	1.基準以上配置	基準以上に配置していたが、園児から目を離す時があった	園児が落下の危険のある遊具を使う時は、保育者は傍で見守るようにする。保育者が傍にいない時は園児が保育者に見ていてなどと声をかけるよう指導する。	2.不定期に実施	1	2.不定期に実施	2	2.不定期に実施	3	鉄棒の下に人工芝やマット等の安全対策が取られていなかった	落下の危険のある遊具には人工芝やマットを敷くなど、落下の際の衝撃を押える工夫をする。事故後、衝撃を抑えるマットを鉄棒の下に設置した。	2.集団活動中・子ども達のみ	複数の職員で見守りを行っていたが、遊具の片付け対応と支援児の補助のため目を離す時間があった	片付けの時間帯には固定遊具で遊ばないように指導する	1.いつもどおりの様子であった	まだ一人ではできないが、友だちの様子を見て自分も前回り挑戦したいと思った。しかし回転の際に手を離してしまった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	鉄棒付近に数人の子どもがいることは確認していたが、片付けの対応で事故の瞬間はその場を離れていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	支援児の見守りを行っていた	保育者は、自分の片付けが終わり遊んでいる子どもたちに注意が向いていなかった	片付けの時間帯には保育者の視界に入る場所に子どもたちを集めておく	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
159	令和5年9月28日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	60									7	7	17. 5歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨外果骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施		2.基準配置	特になし	転倒しやすい場所を見つけ、共有し、改善できそうな場所は改善する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	芝生とコンクリートの境目なので気を付けて歩くよう促す。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	慌てず、落ち着いて行動するよう声をかける。	1.いつもどおりの様子であった	園舎内の便所へ行き運動場に戻ってくるところだった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	運動場にいる子どもたちを見守り、便所から戻ってくる子もみていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	便所と運動場の間で、便所から戻ってくる子たちを見守っていた。	特になし	転倒しやすい場所は職員が近くで見守るようにする。	
160	令和5年9月28日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	5	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	4.3歳児クラス	57									11	11	15. 3歳	1.男児	普段からよく動き、静止の指示が伝わりづらい。	1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	前歯損傷	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2	1.基準以上配置	特になし	正規職員だけではなく、パートの職員に関しても定期的な研修受講などで事故防止の意識を高める。また、今回は園外であったが、園内活動時も職員配置については、基準以上の配置を続けていく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	240	特になし	城北公園での事故であるため、公園管理事務所所管	1.集団活動中・見守りあり	大勢の児童が滑り台に集まっていた。	遊具で遊ぶ際には、密集しないように児童を分散させ、安全を確保する。また、入念に下見を行い、時期・内容・遊ばせ方をよく考え、危険と感じる遊具があれば使用しない。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	すべり台を下から登った。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	滑り台の登り口と降り口に職員がついていたが、降り口についていた職員が他児の対応をしていたときに、当該児童が下から登り始め、上から滑ってきた他児と衝突した。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	事前に打ち合わせていた担当場所についていた。	当該児童は気になる姿があるため、職員が傍に付くようにしていたが、すべり台を下から登り始めた際は、誰も当該児童を見ておらず、止めることができなかった。	大型の遊具で遊ぶ際は、傍に付く職員を増やす。	
161	令和5年9月28日	1.認可	5.幼稚園	6	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	15									2	2	17. 5歳	2.女児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷性歯の脱臼、下顎骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	ゲームボックスを使用したジャングルジムの高さや組み方が子どもの力量に合っていなかった。マットの設置をすべきであった。	発達を考慮し、段階を経た遊具の組み方を検討していく。職員が近くで見守るなどすぐに援助できる環境（遊具の構成）を行う。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	運動あそびや固定遊具を好む姿があり、ゲームボックスのジャングルジムに繰り返し挑戦していた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	大型の遊具がジャングルジムだった為常に１人の職員がついて補助ができるような体制をとっていた。しかし、トンネルくぐりの場に重点を置いていた為、本児が跳び降りた際に補助が間に合わなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	鉄棒や側転などポイントを抑えるべき場所を巡回しながら、全体を見て援助をしていた。	子どもへの跳び降り禁止の声かけが十分にできていなかった。	子どもへの指導の徹底をする。	
162	令和5年9月28日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	6	7.午後	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	18									2	2	16. 4歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	若木骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	2.不定期に実施	1～2	2.基準配置	特になし	どんなものでも事故につながる、という意識を常に持つように日々の注意喚起や研修の充実を図る。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	3	今年度初めて保育室内に出した枠積み木で、子ども達がとても興味を持ったため出したままにしてあった。	使用後は速やかに片づける。	1.集団活動中・見守りあり	対象児は第一便の降園ではなく、他児の降園準備を待っていた際の事故であり、時間を持て余し、興味本位で枠積み木に登ったと考えられる。	玩具や施設の使い方で誤った使い方をすると危険なことが起きる可能性もあるということを園児に伝え、安全に楽しく過ごせるように環境を整える。	1.いつもどおりの様子であった	体調も変わりなく、いつも通りの様子であった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	第一便の園児の降園準備を補助しながらも教室全体の様子、個々の園児の様子を見ていた。対象児が枠積み木に登りバランスを崩す瞬間も見たが、対象児とは離れた場所にいたため対応が間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	第一便の園児の降園準備を補助していたため、対象児の動きは見ていなかった。	特になし	担当職員、他の職員とともに全体の状況を把握するように努める。	
163	令和5年12月15日		13.子育て援助活動支援事業（ファミリー・サポート・センター事業）	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	2			1		1				援助会員１名		14. 2歳	2.女児	以前も利用していた	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨下端骨折	8.その他	2.なし	1.定期的に実施	1	2.基準配置	ケガや事故が想定される遊具などの使用について、マニュアル設置がない。	安全管理に関する研修内容に、ケガや事故が想定される遊びや遊具について加えると共にマニュアル作成を行う。	ー	ー	ー	ー	ー	ー	サポーターが１人で安全を管理できる遊具の大きさではなかった。	安全な遊び方など確認がとれるまでは、トランポリンは使用しないよう注意喚起を行う。	3.個人活動中・見守りあり	トランポリン上に複数の子どもが乗って遊んでいたため、子ども達が安全な体制を保つことが出来ていなかった。	複数のこどもを預かる場合、一人のサポーターが安全を保てる活動を行い、遊具の使用時は一人一人が交代で行う、または安全に遊べる環境ではないと不安がある場合は、一旦その遊びはしないよう注意喚起を行う。	1.いつもどおりの様子であった	楽しく過ごしていた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	サポーターは子ども達と一緒にトランポリン上にはおらず、トランポリンの外にいて遊びを見守っていた。	ー	ー	転倒しケガをするリスクを考えて見守っていたが、危険を取り除くことまでは配慮出来ていなかった。	サポーターの所有するトランポリンで何回か遊んだことがあり、これまでケガはないという慣れの意識があった。都度安全管理の意識を持ち、遊びの前に危険チェックを行うよう注意喚起を行う。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
164	令和5年12月15日		15. 放課後児童クラブ	6	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	8. 学童	116							##		5	2	20. 8歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	骨折	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	3. 未実施	実施頻度(0)回/年	2. 基準配置	特になし	マニュアルの周知徹底を図る。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(ー)回/年	机の配置等は普段通り。	机の配置を見直す。	1. 集団活動中・見守りあり	たなばた飾り製作期間中のため、部屋内の児童数が多かった。	製作活動を行う際の環境整備、人員配置を見直す。	1. いつもどおりの様子であった	普段と変わった様子は無し。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	職員１名は、七夕飾り製作を指導していた。もう１名の職員は別のトラブルで他の児童と話をしていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	２名の職員はホールで他の児童を見ていた為対象児童から離れていた。１名の職員は玄関にいた為、対象児童から離れていた。	当該児童間には学校においてもトラブルがあったことが確認できた。その流れから来館後言葉のからかいをきっかけに事故に繋がった。	児童１人ひとりの様子を観察し、言葉のやり取りに少しでも変わった様子が伺えたら、すぐに間に入り暴力に発展しないよう気を付けて見守る。	
165	令和5年12月15日		15. 放課後児童クラブ	8	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	8. 学童	4							4		4	3	21. 9歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	3. 未実施	実施頻度(0)回/年	1. 基準以上配置	なし	事故予防に関する研修の実施	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/年	3. 未実施	実施頻度(0)回/年	3. 未実施	実施頻度(0)回/年	なし	遊びの活動内容の変更。遊びの活動場所はマットや畳の上で行う。	1. 集団活動中・見守りあり	なし	最低１人は見守りをすることを徹底する。	1. いつもどおりの様子であった	体調面は問題なし。	4. 対象児の動きを見ていなかった	他児のトラブルに対応していたため見ていなかった	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児のトラブルに対応していたため見ていなかった	なし	指導員へ事故防止マニュアルの再周知	
166	令和5年12月15日		15. 放課後児童クラブ	4	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	8. 学童	6							6		8	6	18. 6歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	骨折（右腕、手首から肘にかけて)	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度（1）回/年	1. 基準以上配置	特になし	折に触れて、マニュアルを読み、事故防止につなげていく。	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/月	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/日	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/日	特になし	事故発生場所に関しては転落防止策を設置。児童が窓の縁に座ったり、足をかけたりできないようにした。	3. 個人活動中・見守りあり	特になし	窓の縁に座ったり寄りかからないように利用児童へ指導した。	1. いつもどおりの様子であった	1人遊び（スライドパズル）をしており、比較的穏やかであった。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児童が遊んでいる状況で、3～5mの距離には見守りをしていた職員はいた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	児童の動きは見ていたが「特に危険はない」と認識してしまった。	特になし	児童に危険と思われる行動が見られた場合には即座に注意。保育の時間内では、遊びの輪に職員が入っていなくとも、何をしているか誰と遊んでいるかを常に把握して見守りをする。	
167	令和5年12月15日		15. 放課後児童クラブ	4	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8. 学童	84							84		8	6	20. 8歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	骨折とひび	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1. 基準以上配置	特になし	事故予防に関する研修を不定期ではなくケガの多い時期前に行う等、定期化していく必要がある。	2. 不定期に実施	実施頻度(1～2)回/年	3. 未実施	実施頻度(0)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(1～2)回/年	特になし	遊具の不具合がある時は小学校へ伝えてはいるが、安全点検も小学校と一緒に行っていく必要がある。	1. 集団活動中・見守りあり	特になし	外遊びの見守りは必ず複数体制で支援員が一か所に集中しないよう気をつけているので、現段階ではこれ以上の改善策はない。	1. いつもどおりの様子であった	春休み中のため朝から学童へ登所。新年度も迎え多少の環境の変化はあったが、いつもどおりの様子であった。	4. 対象児の動きを見ていなかった	近くにはいたが手を差し伸べられる距離ではなく、他児と遊んでいたため事故が発生してから気付いて駆けつけた。他の外遊び担当職員へケガをした児童を室内へ連れていくことを伝え、代わりに中遊び担当の職員1名に外へ出てもらった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	距離が離れていたため、動きは見ていない。	新1年生が入所してから日が浅く、要見守りの対象が1年生向きがちなところがあった。	タイヤ跳びはケガをしやすい遊具であるので、至近距離での見守りを行う必要があった。	
168	令和5年12月15日		15. 放課後児童クラブ	8	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	8. 学童	34							34		3	3	22. 10歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左腕骨折	8. その他	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(３)回/年	1. 基準以上配置	正式なコート（10m×10m）を確保できない施設でのドッジボールクラブの練習を行った。	守備練習と攻撃練習とに分けて行うなど、施設の面積に合わせた練習方法を導入する。	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	3. 未実施	実施頻度(0)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(250)回/年	正規のドッジボールコートの面積を確保できない施設だったため、縮小したコートで活動した。	片面だけのコートにするなど、施設の面積に合わせた活動領域を設定する。	1. 集団活動中・見守りあり	上級生と下級生の体格差によるもの。	上級生が下級生にボールを投げる場合は、加減するように指導する。	1. いつもどおりの様子であった	体格差のある６年生の強いボールを、体の正面ではなく左腕のみで受けた。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	職員はドッジボールの指導・審判も兼ね近傍で指導していた。ボールの受け方、逃避の方法について実践と口頭で指導した。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	ドッジボール以外の活動に従事していた。	上級生が下級生との体格差を考慮した力加減をしなかったことによる。	ソフト面の改善策同様、練習方法を工夫し、試合形式に慣れてない間は下級生が混合チームとなっている際、力を加減するように指導する。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
169	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	27							27		2	2	20．8歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		1.意識不明	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	無熱性けいれん	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	職員は基準配置で，本児が倒れた際の対応も迅速に行うことができたが，てんかん発作等の緊急対応について改めて全職員に周知する必要があった。	てんかん等の発作が起きた時の緊急対応について全職員で確認する機会を定期的につくる。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	3.未実施	実施頻度(0　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	－	継続して安全点検を行い，危険個所がないか確認する。	1.集団活動中・見守りあり	－	全体の様子を把握し，緊急時にもすぐに対応できる体制を継続する。	1.いつもどおりの様子であった	ふだんどおり登館し，友達と遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	室内で卓上ゲームや読書等と軽い運動している様子を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当職員，子どもたちから当該児童の様子を聞き，対応した。	－	担当職員と他の職員での迅速な連携，情報共有ができていたので，継続して行う。	
170	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	81							81		9	5	22．10歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左前腕若木骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	各部屋の見守りはできていた。鬼ごっこ等の運動遊び時に起き得る怪我とその予防策，対処法について職員間で共有しておくと良かった。	職員会議や事故が起きた時，起きそうだった時等に運動遊びで起き得る怪我の事例を職員間で共有し，予防策や対処法について考える機会を作る。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	－	施設の安全点検等は徹底しているため，継続して実施する。	1.集団活動中・見守りあり	準備運動等，運動あそび前に体の準備をする時間を取ると良かった。	運動遊び前に準備運動の時間を設ける。また，休憩は現在もこまめにとるように促しているので今後も継続し，怪我を予防する。	1.いつもどおりの様子であった	いつものとおり、元気に来館してきていた。げんぺいもいつものとおり行っていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	遊戯室の全体を見れるように、職員2人を別々に配置し、げんぺいの様子を見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	遊戯室の全体をみれるように配置し、げんぺいの様子を見ていた。	おにごっこ等の運動あそびの前に，怪我をしないように注意喚起すべきだった。	運動遊びを始める前に，おにごっこは転倒や人とぶつかる危険性があると事例を交えて伝え，怪我のないような遊び方について話す。	
171	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	5	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	64							64		4	4	20．8歳	2.女児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	橈骨遠位端骨折・右尺骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	2.基準配置	登館途中に起こりうる怪我や事故の想定をする必要があった。	全職員で登館ルート上の危険箇所の把握、共通理解を図り，集会等で子どもたちに危険箇所や登館中の事故例などについて伝える。	1.定期的に実施	実施頻度(１２　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	登館ルート上の危険箇所を再度把握する。	職員による登館ルートの確認。危険箇所を把握し，共通理解を図る。	7.その他	登下館中の怪我についての注意喚起が不十分だった。	登館途中は大人の目が届かない状況になるので，怪我に注意して帰ってくるよう子ども達に声がけを徹底して行う。	1.いつもどおりの様子であった	友人と会話を楽しみながら歩いていた。荷物を持った状態では動きにくい服装であった。	4.対象児の動きを見ていなかった	順次登館する児童の受け入れを行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	各居室で子どもたちの見守りを行っていた。	登下館中に起こりうる怪我や，周りを見ながら安全に登下館を行うことについての周知が不足していた。	子ども達が安全に登下館できるよう登下館中どんな怪我が起きやすいか，どんなことに気を付けるべきかを定期的に伝える機会を作り，声がけをする。	
172	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	4	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	83							83		11	8	20．8歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右第一中足骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	子どもたちが遊びに夢中になった時も落ち着けるような声がけや休憩を促す声がけが不足していた。	ボール遊びの際は，常に複数名で子どもたちの様子を見る。子どもたち一人ひとりの状況も確認しながら，適宜声がけ等を行えるよう全職員で共有する。	1.定期的に実施	実施頻度毎日2回	1.定期的に実施	実施頻度１回/月	1.定期的に実施	実施頻度毎日１回	特になし	改めて遊具の点検，起こりうる怪我や事故の想定をし，全職員で共通理解を図る。	1.集団活動中・見守りあり	遊びの間や終わりの際に，子どもたちが落ち着けるようにするべきだった。館内では上靴を使用していないため、遊戯室で遊ぶ際には安全面から裸足で遊ぶことにしていた。	遊びの前に事故防止の諸注意を行い裸足で遊ぶ場合どんな事故が起こり得るか、事故の可能性について周知を図る。ボール遊び前にウォーミングアップを行い，遊びの間に休憩を入れ都度落ち着く時間を作る。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	春休みで制限の多い中で過ごしていたこともあり，遊戯室でのボール遊びを心待ちにしていた様子だった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	審判1人，見守り1人で対応していた。突発的な個人の動きには対応できなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	各居室で児童の見守りをしていた。	ボール遊びの前にウォーミングアップをして，動ける体にするように声がけすべきだった。	遊びの前や遊びの途中などにも子どもたちに頻繁に声を掛け，安全に遊びを行えるよう徹底する。	
173	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	5	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	99							99		9	7	18．6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	2.基準配置	遊具の正しい使い方や注意点についての周知が不足していた。	現在実施している研修や事故の振り返りを継続して行いながら，職員間で遊具の使い方や注意点，児童への声がけについて共通理解を図り周知する。	1.定期的に実施	実施頻度２回/日	1.定期的に実施	実施頻度１回/月	1.定期的に実施	実施頻度１回/日	特になし	改めて遊具の点検，起こりうる怪我や事故の想定をし，全職員で共通理解を図る。	1.集団活動中・見守りあり	当該児童は入学してまだ間もないこともあり，遊具を使った遊びに慣れていなかった。	一人ひとりの状況を確認しながら必要に応じて声がけを行い、楽しく安全に遊べるよう支援する。遊具での遊び方，怪我の危険性について児童と確認する機会を設け，適宜声がけも行う。	1.いつもどおりの様子であった	１年生の外遊び開始後，1人チェーンクライムに登り遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	１年生40名ほどの児童を，間隔を空けて4人の職員で見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	各居室で児童の見守りをしていた。	子どもたち全体を見守る方に意識が集中していた。	全体を見守るだけではなく，子どもたち一人ひとりの状況も確認するよう，全職員で共通理解を図る。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項
174	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	7	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	42							42		9	6	19.7歳	1.男児	
175	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	20							20		3	2	21.9歳	1.男児	
176	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	3	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	24							24		4	2	19.7歳	2.女児	
177	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	110							##		8	5	22.10歳	2.女児	
178	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	7	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	8.学童	120							##		6	6	18.6歳	1.男児	

No	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策
174	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手小指骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(10)回/年	2.基準配置	ヒヤリハットに加え，実際の事故事例についても随時共有する必要があった。	これまでの話合いに加え実際の事故事例の共有を行い，事故を防ぐための解決策や事故が起きた時の対応についても確認する機会をつくる。
175	1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	2.顔面(口腔内含む)	外傷性歯牙脱臼	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	外遊びに出る際，児童より先に見守りに出る職員の数が少なかった。	外遊びの際は，職員を先に配置してから児童を外に出す。
176	1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	脾損傷	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	タイヤ付近に職員の配置がなかった。	こどもたちの遊びの危険予知訓練を定期的に行なうとともに、職員同士声がけを徹底しケガを未然に防ぐ工夫をする。
177	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手薬指剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	効果的な見守りの配置について、機会を捉えて協議していく。
178	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	夏休み開始直後で館内には児童クラブ登録児童，自由来館児童等多数の児童がおり，職員それぞれがトラブル等の対応にあたり，見守りの職員配置が薄くなってしまった。	館内の利用人数が増えた場合の子どもたち動きとその際の職員の動きをシミュレーションし，考えれる事故を想定して対応策を講じる。

No	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策
174	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	－	安全点検を継続して実施し，安全に遊べるようにする。
175	1.定期的に実施	実施頻度(14)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	－	これまで行ってきた点検を継続して行い，怪我を防ぐ。
176	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	タイヤが滑りやすい素材で、子どもの身長とのバランスが合わなかった。	今後も滑ったりすることがあると思われるので、子どもたちと危険予知等丁寧に行なっていく。
177	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	3.未実施	実施頻度(－)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	多目的ホールは障害物等全くないため
178	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	今後も継続して安全点検を行う。

No	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
174	1.集団活動中・見守りあり	1～4年生まで体格差のある児童が一緒に運動遊びを行っていた。また，気温が高く外遊びが難しかったため，遊戯室で多くの児童が遊んでいた。	激しい動きのある遊びでは学年を分ける等の対応をする。また，一度に遊ぶ人数を制限したり時間で交代する。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	体は小さいが運動遊びを好み，上学年と一緒に遊ぶことが多い	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児より指を踏まれた報告を受けたため患部を確認し，腫れや痛みはないため様子を見ることにした	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	遊戯室全体を見守っていたが，対象児が手を踏まれた瞬間は見ていない。	児童への事故事例の共有や事故防止のための声がけが不十分だった。	運動遊びを始める前や集会時等に事故事例を共有し，遊んでいる時も怪我をしないための声がけをこまめに行う。	
175	1.集団活動中・見守りあり	外遊び前に，怪我無く安全に遊ぶための注意喚起が不十分だった。	外遊びの前に怪我なく安全に遊ぶための約束を話し，落ち着いた状態で児童に注意事項を伝える。	1.いつもどおりの様子であった	仲良しの児童とはしゃぎながら遊具に遊びに行ったので気持ちが高ぶっていた様子	4.対象児の動きを見ていなかった	遊具で遊んでいる姿は見ていたが，遊具に顔をぶつけた瞬間は見ていなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	遊具で遊んでいる姿は見ていたが，遊具に顔をぶつけた瞬間は見ていなかった	新1年生の見守りに職員を多く配置した。	状況に応じてバランスよく職員を配置してすべての児童の状況を把握できるようにし，安全に遊べるような声がけを行う。	
176	3.個人活動中・見守りあり	タイヤ付近に職員の配置がなかった。	こどもたちの遊びの危険予知訓練を定期的に行うとともに、職員同士声がけを徹底しケガを未然に防ぐ工夫をする。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り元気に外遊びをしていた。タイヤ跳びが上手に出来るようになってきていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	見守りで近くにスタッフはいたが、転ぶ瞬間は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	危険箇所付近に職員を配置し、巡回しながら見守っており、本児がタイヤ跳びで遊んでいるのを把握していたが、転ぶ瞬間は見ていなかった。	タイヤ跳びは飛び損ねると大きなケガに繋がることの認識を改め、見守りを手厚くする必要を考慮していく	子どもたちの遊びの危険予知訓練を定期的に行なうとともに、職員同士声がけを徹底しケガを未然に防ぐよう工夫する。	
177	1.集団活動中・見守りあり	特になし	最適と思われる場所で見守りを行っていたが、今後も効果的な見守りの配置を協議していく。必要に応じ掌の開閉等準備運動を行わせ、子ども達自身へも怪我に気をつけるよう十分な意識づけを行う。	1.いつもどおりの様子であった	いつもどおり楽しんでゲームに参加していた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	主審はコート中央に立っていたため	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	指を突いた瞬間は見ていたが、至近距離ではなかった	特になし	引き続き注意深く見守ること。怪我の予防に努め、万が一怪我等が発生した場合は迅速な対応を心掛ける旨一同で共有する。	
178	1.集団活動中・見守りあり	館内の利用人数が多かったので接触の可能性を考えて細心の注意を払う必要があった。また，児童への声がけが不十分だった。	職員同士声を掛け合い，きちんと見守りができるようにする。館内の利用人数が多い時は児童が他児とぶつからないよう自ら意識し，走らず周りに注意して動けるように注意喚起する。	1.いつもどおりの様子であった	対象児の動きは普段と変わった様子は見られなかった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	本児がいた場所を見ていた職員も他児の対応で，その場を離れざるを得なくなり，本児がぶつかった場面を見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	職員はそれぞれ遊戯室の見守りやトラブル対応，電話対応等で本児の近くにおらず気付けず，本児からの誰かとぶつかって足が痛くなったという訴えで発覚した。	児童が他児とぶつかった際にすぐに確認，対応できる位置に職員がいなかった。	その場を離れる際には職員同士声を掛け合い，見守りの目が無くならないように対応する。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
179	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	5	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	49							49		6	4	18.６歳	2.女児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨外顆骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置	登下館中の事故について職員間で確認し，共通理解を図る必要があった。	登下館中の事故事例の共有を定期的に行い，予防策・改善策を話し合う。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	特になし	4.個人活動中・子どものみ	登下館中の事故や怪我について，児童への注意喚起が不十分だった。	登下館中の事故や怪我について，事例を伝えながら児童に注意喚起する機会をつくる。	1.いつもどおりの様子であった	受傷部位よりも、擦り傷等を痛がっていた	4.対象児の動きを見ていなかった	下校時（来館途中）のため	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	下校時（来館途中）のため	安全に登下館するための児童への注意喚起が不十分だった。	登下館中の事故や怪我，安全に登下館するための注意点等を児童に伝える機会をつくったり，日ごろから声がけをしたりする。	
180	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	21							21		2	2	20.８歳	2.女児		8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	安全面の確保を行いながら引率していたが，移動中の事故や怪我についての事例、予防策を職員間で共有しておくと良かった。	移動中の事故や怪我について事例を共有し，予防策や改善策について職員間で共通理解を図る。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	特になし	7.その他	移動中に起こり得る事故や怪我についての周知が不十分だった。	移動中の怪我について，危険性や事例を伝える機会を定期的につくる。移動前に安全な移動について声がけをする。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	本館に早く戻りたい気持ちが強かった様子。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	本児が目の前でバランスを崩し転倒した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の引率児童の様子を見ていた。	移動中に走り出した児童への声がけ，注意喚起が不十分だった。	移動中は安全に移動することを優先し，走り出した時や怪我の危険性がある場合はすぐに声がけをする。	
181	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	89							89		13	11	20.８歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度（2）回/年	1.基準以上配置	特になし	安全管理に関する研修を受講する機会を積極的に設けるとともに、職員の安全に関する意識を高める。	1.定期的に実施	実施頻度（１２）回/年	1.定期的に実施	実施頻度（１３）回/年	2.不定期に実施	実施頻度毎日	小学生用のドッジボールを使用していたが、3年生以上が使用するものとしていた為、本児はまだ扱いに不慣れであった。	学年が上がり、3年生以上用のボールを使用したが、ボールのキャッチの仕方等ゲーム形式の前に経験する場を設ける。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	個人差があまりにもある場合は、ボールを柔らかいものに交換したり、安全に遊べる配慮、工夫をする。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	進級して気持ちが昂り自信がついて、ボールに対して逃げるだけでなくキャッチしてみようとする姿がみられていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	相手チームの投げたボールをキャッチしようとして、うまくキャッチできなかった。指が当たったように見えたので大丈夫？と声をかけた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	担当職員からの伝達を受け、室内に入ってから保冷剤と氷のうで患部を冷やす。	特になし	保護者の判断で受診が3日後となったが、アプローチの仕方を工夫し、早めの受診を促すようにする。	
182	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	109							##		7	6	18.６歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手首骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置	特になし	遊具の遊び方について再度指導が必要である。	1.定期的に実施	実施頻度(50)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(50)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(50)回/年	特になし	今後もより一層安全点検を実施する。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	児童たちへ遊具の誤った使い方をさせないよう指導するとともに職員がより一層安全面に配慮して見守る。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	いつもより活発にブランコ遊びを楽しんでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	児童の近くにいたが，ブランコを漕いでいる最中に突然手を離して跳び下りるとは思わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	おやつの時間となり他の児童を室内入るよう誘導していたため見ていなかった。	特になし	全職員で遊具の遊び方を再確認し、危険な遊び方をしている児童には事故や怪我をしないよう未然に声がけをする。	
183	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	69							69		10	10	20.８歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯の損傷（口腔内）	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度（１２）回/年	2.基準配置	図書室に移動したら座って落ち着いてテレビや本を見ることになっているが，このときは児童が移動して来たばかりで立った状態でテレビを見ていた。支援員が座るよう声掛けをしていたら事故は起こらなかったかもしれない。	図書室では座って落ち着いてテレビを見たり読書したりする約束を児童に伝え，児童がいるときは必ず職員１名が室内に入り約束を守るよう声を掛けることにする。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度（１２）回/年	1.定期的に実施	実施頻度（１２）回/年	安全点検または活動中に施設内に異常を発見した時はすぐに他の職員に伝え対応策を講じる。職員が対応できない異常があった場合は，館長から委託会社に報告し修理を依頼する。	安全点検表の見直しをするとともに，未然防止のため定期点検を確実に行い必ず対応を講じる。また，日常の活動中の目視確認を必ず行うことを徹底する。	1.集団活動中・見守りあり	自由来館児童は16:30に１人帰りをするが，それ以降残っている児童は17時までに保護者が迎えに来ることになっている。17時を過ぎても迎えが来ていない加害児童については，話を聞いたり事務室で待たせたりする等配慮が必要だった。	夕方の迎えを待つ時間帯は児童が落ち着かなくなるので，特に図書室は複数の職員で見守りをするように改善する。特に落ち着かない児童には側に付いて話を聞き，安心させたり事務室で待たせる。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	本児は周囲の雰囲気や様子に合わせる傾向があり，図書室に立っている子がいたので，それに合わせて立ってテレビを見ていたと考えられる。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	担当職員は図書室入り口で見守りをしているが，役割交代の時間になり次の担当職員が来るのを待っていたため，室内だけ見守るのではなく時々廊下を見る等，図書室の様子に集中できない状況だった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	担当職員と交代する職員は急いで遊戯室から図書室に移動し，入るとすぐにDVDの操作をしたので室内の児童の様子はよく見ていなかった。	図書室の担当者は室内の児童の様子を見守ることに専念し，交代職員が来るまで移動しないこと。交代職員が来たら児童の様子を伝え，必ず児童の様子を見守らせる。少しでも様子が気になる児童がいたら声を掛けて話を聞く。	児童と職員のより良い関係づくりを心掛け，落ち着きのない傾向の児童に対しての関わり方を学ぶ研修会の実施や参加の呼びかけをしていきたい。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
184	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	36							36		7	4	18. 6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折（左腕肘部）	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度（１２）回/年	2.基準配置	日頃遊んでいた雲梯であるが、遠くに飛ぶ遊びは当該児童の身長や発達段階と雲梯の高さを考慮すれば、多少の無理があったのかもしれない。	今後はさらに学年や発達段階を考慮し、無理のない遊びであるかどうか判断し、声がけを徹底する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度（１２）回/年	1.定期的に実施	実施頻度（１２）回/年	遊具(ジャングルジム)によっては１年生に利用を制限しているものもあるが、雲梯については特に制限を設けていない。	雲梯本来の遊び方については適切に指導する。	1.集団活動中・見守りあり	普段、雲梯遊びはしていたものの、遠くへ飛ぶ遊びは、本児の発達段階には合っていなかったかもしれない。	雲梯の高さには問題はないと考える。雲梯本来の遊び方について適切に指導することが大切であると考える。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	活発な本児は、４年男児二人といつも通り元気に遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	事故直前に気を付けて遊んでねと本児に声がけした後死角ができない位置に移動して見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の２名もそれぞれが死角ができない位置に立ち見守っていた。	いつもしていることと油断していた可能性があるかもしれない。	最悪を想定した意識でこまめに声がけしていく。	
185	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	41							41		6	4	19. 7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度（１２）回/年	1.基準以上配置	特になし	提供する遊びの予想される怪我についてや遊びに対しての適切な人数などを話し合い、事故予防に努める。	1.定期的に実施	実施頻度（４８）回/年	1.定期的に実施	実施頻度（４８）回/年	1.定期的に実施	実施頻度（４８）回/年	砂が乾いた状態で、滑りやすい状態になっていた。	砂の状態を確認し、乾いたり滑りやすい時は水で湿らす等の対応を行う。レーキ等でならし砂が減らないよう一定の量を保つ。砂の入れ替えを行い滑りにくい状態を保つようにする。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	遊び始める前にルールの確認とともに、ケガに繋がるような危険な動きについて子どもたちへ伝え、注意して遊べるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	昨年度から児童館を利用してる児のため、いつも通りサッカーをやりたいと友だちと誘い合って遊び始めた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	全体に向けて声がけをし、サッカーの審判的役割をしながら見守りを行った。児の転倒後はすぐに気が付き声掛けを行い、事務室にいる職員へと引き渡した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	遊具付近での見守りを1名、スクーターを正しく乗れているかの見守りを1名、それぞれの場所で行っていたため、グラウンド付近の見守りは出来なかった。	特になし	職員間で声をかけ合いながら子どもたちの遊びの様子を見守り、危険な場面を見逃さずに適切な対応が出来るようにしていく。	
186	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	7	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	75							75		7	6	22. 10歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足中指骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	見守りの職員が2人同時にボールを取りに行った時点でぶつかるリスクも予見できなかった	事故予防に関する研修を定期的に実施していなかったので、あらためて開催を検討し実施していく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)	1.定期的に実施	実施頻度（毎日）	ボールが当たっても痛くないように柔らかく、弾みやすくボールを使用していた	ボールが当たった衝撃を考えつつ、使用するボールを少し重みがあり取りやすいもの変える	1.集団活動中・見守りあり	部屋のスペースに対してや子どもの体格、体力面など適正ではなかった	体格や体力面など学年に応じて1回に使用する人数を明確に示す	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	同学年の遊びだったので、男女がお互いに負けたくないと気持ちが熱くなっていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	横方向から全体の見守りを行う	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	横方向から全体の見守りを行う	子どもたちが大好きな運動遊びゆえに始まる前から、気持ちが高ぶっていた。	–	
187	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	27							27		3	1	21. 9歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕骨折	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
188	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	5							5		2	2	20. 8歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	2.顔面(口腔内含む)	鼻骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.基準配置	マニュアルがなくしっかりした研修も行っていなかった。	事故防止に関する研修を職員内で行う。	1.定期的に実施	実施頻度（２）回/年	2.不定期に実施	実施頻度(随時)回/年	1.定期的に実施	実施頻度（１２ ）回/年	遊具の使い方によっての危険性もあった。	見回り点検などを行い気を付けていく。	1.集団活動中・見守りあり	子どもが少なくなり外遊びの時間も間もなく終了だったため、使っていない遊具を片付けていて背を向けていた。	できるだけ子どもたちに背を向けない。	1.いつもどおりの様子であった	いつものように元気に友達と遊んでいたが、友達が帰ってしまったので、その後は１人で遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	子どもの人数も減り、遊んでいない遊具（道具）を片付けしていて背を向けていた瞬間だった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	室内での見守りをしていた。	職員が1名休みだったため、基準は満たしているがいつもより手薄になっていた。	手離しで乗ることの危険をもっと細やかに周知していくことが必要である。	
189	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	5	5.おやつ時（学童）	1.施設敷地内(室内)	8.学童	25							25		3	2	21. 9歳	1.男児		5.食事中(おやつ含む)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.基準配置	マニュアル作成やしっかりした研修を行っていなかった。	事故防止に関する研修を職員内で行う。	1.定期的に実施	実施頻度（２ ）回/年	2.不定期に実施	実施頻度(随時)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	今回の事故は施設・設備等とは関係ないが、畳などの段差もあるので今後も気を付けたい。	見回りの点検など気を付けていく。	6.食事(おやつ)中	好きなお菓子をおかわりしたくて、気持が焦ってしまった。	焦らず走らないように、注意喚起する。	1.いつもどおりの様子であった	職員や友達と楽しくおしゃべりし、気持ちがいつもより少し高ぶっていたかもしれない。	4.対象児の動きを見ていなかった	転んだところはみていたものの、勢いよく飛び出した瞬間は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の子と接していたり、見ていたりした。	楽しい雰囲気でもあり、その子の気持ちや性格まで目を向けられていなかった。	個別に焦らないように声掛けする。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
190	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	29							29		5	4	19.7歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	特になし	マニュアル等を再確認し安全面の確認をする	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	床の上につまずきやすい物が置かれていないか確認してから遊ばせる	1.集団活動中・見守りあり	特になし	床には何もなかったため、環境面での改善はなし	1.いつもどおりの様子であった	いつもどおり元気に過ごし、友達と遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	突発的な事故で、防ぐことができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	1階の遊びを見守っていた。	子ども達への声がけが足りなかった。	子ども達への声かけを今まで以上に行うとともに、けがのリスクを下げるため当該スペースで同時に遊ぶ子どもの人数に制限を設けることを検討する。	
191	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	27							27		5	3	21.9歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左踵骨骨折・左足打撲	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.基準以上配置	施設外の公園で遊んだ為、危険箇所の把握ができていなかった。	児童に注意を促す。支援員同士危険箇所を共有し、見守り指導する。	3.未実施	実施頻度(0)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	危険箇所について市へ報告し確認してもらう。	危険個所にカラーコーンを置き、児童の認識を促す。	1.集団活動中・見守りあり	遊びに夢中になっていたため危険箇所に気づかず、転倒してしまった。	園外活動の際は繰り返し指導する。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	鬼ごっこに夢中になっており、走ることに集中していた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児から離れたところで見守っていたので転倒する瞬間に間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童への対応をしていた為、手が回らなかった。	支援が必要な児童であったが、同時間帯に他児の対応を行っており対応しきれなかった。	支援員を増員する。本児の特性、発達状況を共有する。	
192	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	22							22		5	3	21.9歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右中指骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(4) 回/年	1.基準以上配置	ブランコから降りる時に手をついた。降り方に問題はなかったか(ブランコは止まっていたか・ジャンプして降りていないか)	ブランコの乗り降りについて日頃より見守り声掛けしていく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	いつも遊んでいる学校の校庭で、本児は変わらない姿で遊んでいた。	1.集団活動中・見守りあり	支援員は、支援児について見守りは出来ていたが、固定遊具(ブランコ)に付き見守る支援員がいなかった。	支援員は、子ども達が遊ぶ姿を見守る配置について配慮していく。	1.いつもどおりの様子であった	宿泊学習から帰って来てからの利用であり、外遊びを選択し遊んだが、気持ちの高ぶりや体が疲れていたのではないか。	4.対象児の動きを見ていなかった	支援児に付き遊びを見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	築山や土手に登りそうな子がいたため見守りと声掛け、雲梯などの遊具の見守りの付いていた。	外遊びに付く支援員の人数は十分ではあったが、見ていた支援員がおらず、事故の状況を把握できていなかった。	事故防止について再度確認し、適切な対応を目指す。	
193	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	50							50		3	3	20.8歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	足首(右)剥離骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(4)回/年	2.基準配置	特になし	職員間で情報共有をし、再発防止のため、児童の見守りや注意の声掛けを行う。	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/月	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/月	1.定期的に実施	実施頻度(1) 回/日	特になし	引き続き施設や設備の安全点検を実施し、損傷は修繕する。	1.集団活動中・見守りあり	子ども同士のボールの取り合いの為、力の加減が出来なかった。	事前に怪我への注意を子どもへ周知し、子ども自身にも安全意識を植え付ける。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り活動に参加していた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	講師が主導でサッカー教室を行い職員は見守りはしっかりと行っていたが、当該児童の怪我を予測できなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	役割分担(サッカー全体や室内に残った児童の対応)をして見守りを行っていた。	なし	事前に怪我への注意を子どもへ周知する。職員間で見守りのエリアを分担し、全ての児童を見守れるようにする。	
194	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	33							33		4	3	20.8歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	職員が一定児童の対応に集中しており、他の職員も一定作業を行っていたため、走ってくる児童に対して危険性の意識が欠けていた。	職員が一定の児童を対応する際に、他の職員は全体を見るようするなどチームワークを強化する。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週	特になし	今回の事故でハード面での分析はないと考える。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	登所直後は児童も落ち着かないため、活動に入る前にはじまりの会を実施し、本日の流れを児童に伝えてから活動に入る。	1.いつもどおりの様子であった	おやつをもらうために座って並んでいたところ、加害児童が被害児童の後ろに並ぼうと思い走りこんできた。	4.対象児の動きを見ていなかった	一定児童の対応、下校した低学年の対応、出欠確認の対応、おやつ配付の対応。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	一定児童の対応、下校した低学年の対応、出欠確認の対応、おやつ配付の対応。	特になし	並ぶ場所を変更し、児童が密集しないようにする。	

No	初回掲載年月日	概要：認可・認可外	概要：施設・事業所種別	事故発生時期：月	事故発生時期：時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制：発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳：0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故：年齢	性別	特記事項	事故状況：発生時状況	事故の転帰	死亡：死因	負傷：負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析：ソフト面：マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面：施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面：教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面：対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
195	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	25							25		2	0	21.９歳	2.女児		2.室内活動中	2.死亡	6.その他	0.死亡	0.死亡	ー	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(１)回/数年	2.基準配置	特になし	緊急時の対応について、危機管理マニュアルにより再確認するとともに、必要な備品の設置、講習会などを受講する。	ー	ー	ー	ー	ー	ー	特になし	ー	1.集団活動中・見守りあり	特になし	不測の事態にも対応できるよう引き続き注意を怠らず児童の見守りを行う。	1.いつもどおりの様子であった	登室時の体調不良もなく、昼食・おやつとも変わった様子はなく通常通り食べ、事故発生時は他の児童と一緒に室内で過ごしていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	すぐ近くにいたが、キッチンで麦茶の用意をしており、児童が倒れる瞬間は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	屋外で遊ぶ児童の見守りをしていたため、室内にいなかった。	特になし	当該児童は登室時特に体調不良もなく、倒れる直前まで普段と変わりない様子であったが、不測の事態が起こる可能性は常にあることを意識し、児童の見守りに従事するよう日頃から備える。	
196	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	7	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	8.学童	19							19		3	1	19.７歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨近位骨幹部骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(２)回/年	2.基準配置	特になし	ソフト面に要因は見られないが、再度基準やマニュアルを職員間で確認する。	2.不定期に実施	実施頻度(適宜)回/年	3.未実施	実施頻度(０)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(適宜)回/年	特になし	ハード面に要因は見られないが、再度点検方法等について職員間で確認する。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	育成支援の状況環境面に要因は見られないが、再度育成支援状況の環境について職員間で確認を行う。	1.いつもどおりの様子であった	職員が各部屋を見守っていたが、活動室担当の職員(支援員)が突発的な来客対応のため目を離した時に事故が起きてしまった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	最も活発な行動をしている部屋を見守る職員が、来客対応に出てしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれ担当の部屋を見守っていた。	最も活発な行動をしている部屋を見守る職員(支援員)が来客対応に出てしまった。また、自由活動とはいえ、室内での活動として活発過ぎる内容だった。	各部屋の見守り担当割等の見直し及び活動内容の見直し。該当部屋への入室制限。	
197	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	29							29		3	1	20.８歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左腓骨遠位裂離骨折、捻挫	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度(０)回/年	2.基準配置	特になし	すぐわかる場所にマニュアルを備え付ける。児童に対し、遊んでいる時に痛み等がある場合は速やかに職員に伝えるよう話をした。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	施設や遊具に問題なし。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	環境面に問題なし。	1.いつもどおりの様子であった	健康状態も良好であったため、他の児童と一緒に園庭でサッカーをしていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	サッカーをしている児童たちのすぐそばで見守りをしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	１名は室内の児童の見守りを行っていた。もう１名は屋外の他の児童に対応していたため、対象児は見ていなかった。	特になし	退所後、児童に痛みなどがある場合は速やかに連絡して知らせるようクラブの月刊誌に記載し、保護者への周知を図った。	
198	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	7	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	22							22		3	2	18.６歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘の脱臼・ひび	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	1.定期的に実施	実施頻度(1~2)回/年	1.基準以上配置	特になし	早急に事故防止マニュアルを作成、いろいろな場面を想定・再確認する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	特になし	踏み台を使用しないと手が届かない児童には支援員がすぐ近くで見守るようにする。	1.集団活動中・見守りあり	対象児が乗った踏み台が支柱から離れていたため両手がフリーになり、バランスを崩した際、左腕から落下した。	踏み台を支柱の近くに配置し、片手は支柱を掴み、もう片手で雲梯を掴めるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	雲梯をする際、踏み台に上って右手を上に伸ばした時バランスを崩し、左腕が体の下敷きになる形で落下した。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	園庭にて各自自由に遊んでいるのを2名の支援員などで見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	室内で他児に対応していた。	支援員などが雲梯の近くに2名いたが、対象児に手が届く距離にいなかった。	起こりうる危険を予測して事前の防止に努める。この子だったら大丈夫など過信せず、低学年への見守りは特に配慮していく。	
199	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	25							25		5	4	19.７歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕の頭骨と尺骨の骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(２)回/年	2.基準配置	児童本人の不注意	遊具を使う際の使い方を声掛ける	2.不定期に実施	実施頻度(２)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(２)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(２)回/年	児童本人の不注意	遊具の撤去、使用する学年の改定	1.集団活動中・見守りあり	児童本人の不注意	使用する際の声掛け	1.いつもどおりの様子であった	活発に遊んでいた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児童を含め、３人程度の児童も同時にみていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	体育館、学習室、庭に一人ずついてそれぞれ対象児童以外の見守りをしていた	児童本人の不注意	使用する際の声掛け	
200	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	8	4.昼食時（学童）	1.施設敷地内(室内)	8.学童	27							27		5	5	19.７歳	2.女児		5.食事中(おやつ含む)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	小指末節骨骨折及び小指爪下血腫（右手）	8.その他	1.あり	3.未実施	実施頻度(０)回/年	2.基準配置	なし	全支援員等へのマニュアルへの再共有、更にミーティングにて事故事例の検証を行う。	3.未実施	実施頻度(０)回/年	3.未実施	実施頻度(０)回/年	3.未実施	実施頻度(０)回/年	なし	なし	6.食事(おやつ)中	これまで昼食時（おやつ）の水筒の置き場所が様々であった事が今回の事故の要因の一つと考えられる。	水筒の取り扱いについて、子ども達及び支援員等も水筒の設置場所を決めて、事故の再発防止に努めたい。	1.いつもどおりの様子であった	お弁当を食べ終えて、テーブルを拭く為に布巾を取り行く時に、四つん這いになり取りに行った。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	約1m位の所で椅子に座って見ていた。2年の男児が支援員の目の前を通り過ぎた途端事故が起きた。とっさの出来事で身動き出来なかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	約1m位の所で椅子に座って見ていた。2年の男児が支援員の目の前を通り過ぎた途端事故が起きた。とっさの出来事で身動き出来なかった。	通常より支援員の人数が少なかったため、とっさの女児及び男児の行動に対応できなかった事が要因の一つと考えられる。	なし	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
201	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	51							51		6	2	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	下唇の下に傷	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	特になし	研修内容を周知徹底させて運営を行いマネージャー・統括巡回時に都度状況確認をする。	1.定期的に実施	実施頻度(開所日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(開所日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(開所日)回/年	特になし	遊具・施設等の確認は、毎日指導員が実施する。また、児童が遊ぶにあたり危険な場所はないか、見えづらい場所がないかを確認しながら見守りを実施する。	3.個人活動中・見守りあり	特になし	児童の見守りをする際は、全体を見られる配置につくように指導、改善する。また、死角がないかを意識しながら見守りを行う。	1.いつもどおりの様子であった	特段変わった様子もなくいつも通りだった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	鉄棒付近におり、対象児の事も認識はしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	鉄棒からは離れた場所で対象児と他の児童の見守りを行っていた。	危険だという認識をしていたが、危ないからやめよう等の声掛けをしなかった。自分の身長よりも高い所の鉄棒なので万が一落ちた時のケガの深刻さの指導員の予測が甘かった。	事故を全体で共有し、様々な場面で事故が起きうることを認識して、児童の見守りにあたる。	
202	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	35							35		3	1	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕単純骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.基準配置	新規職員への研修等が不十分であった。	支援にあたる職員の安全管理に対する意識等、共通認識を持つための会議を定期的に実施する。	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	遊具の危険性の認識と、児童の年齢や発達に応じた利用についての認識共有がなされていなかった。	利用前の安全点検、各遊具に対する危険性の確認を会議内等で行っていく。	1.集団活動中・見守りあり	児童の発達に応じた遊びの時間、遊具の利用、説明が不足していた。	対象児童の発達に応じた遊びの提供や遊具の利用、声掛け、見守り方をしていく。	1.いつもどおりの様子であった	動き回ることはあったが、特に注視する児童であるという意識がなかった。	4.対象児の動きを見ていなかった	丸太の遊具の近くには居たが、遊具を背にして外遊びを見守っていたため、事故の瞬間は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	校庭に30人程の児童が遊んでおり、2人の支援員が間隔をとって見守りしていたので対象児童の近くには居なかった。	保育者の配置位置について認識が不足していた。	一番事故の起こる環境の校庭には必ず保育経験者を配置する。室内対応は他の支援員に任せられるよう時間配分を考えて活動を行っていく。	
203	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	8	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	8.学童	80							80		10	5	19.7歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)	左足 踵骨のひび	4.玩具・遊具等施設・設備の安全上の不備によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	事故発生時及び発生後の保護者への連絡など、即時対応の徹底を各職員へ促す。	ミーティングにて事故の状況・原因の全職員への周知の徹底。及び職員の時間等の制限はあるが、研修等の受講の推奨。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	学校側が設置している冷蔵庫のコードがたわんでいることが要因	冷蔵庫のコードがたわまないよう壁に密着させる等の対策が必要。教室内でどこが危険個所となりうるかを配置職員が極力注意・指導を徹底する。	1.集団活動中・見守りあり	保育人数も多く、角椅子に座っているため、家庭科室の通路はとても狭く歩きにくい。	コンセント付近は気を付けて通るようにする、またはコンセント付近は通らない。	1.いつもどおりの様子であった	通路に椅子が出ており、歩きにくい状態であった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	作文の個別指導を行っていた為、対象児童から離れたところにいた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	作文の個別指導を行っていた為、対象児童から離れたところにいた	個別に指導をしていた為、対象児童から離れていた。通路の確保が出来ていなかった	ミーティングにて事故の状況・原因の全職員への周知の徹底。及び職員の時間等の制限はあるが、研修等の受講の推奨。	
204	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	10							10		1	1	18.6歳	2.女児		8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨折	8.その他	1.あり	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.基準以上配置	長期休暇中の為、人員不足であった。	特に長期休暇時の増員が望まれる。	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	特になし	清掃時に積み上げる机の位置を窓側から壁面に変更。清掃後は必ず元の配置に戻す。(実施済み)	4.個人活動中・子どものみ	特になし	外遊び中はAB合わせて２名以上で室内保育にあたる様にする。(実施済み)	1.いつもどおりの様子であった	活発な児童で外で鬼ごっこを楽しむ姿はあるが、普段室内では静かに室内遊びを楽しんでいたが、広いスペースができたことにより走り回れる環境であったことが大きな要因である。	4.対象児の動きを見ていなかった	玄関にてお迎えに来た保護者対応をしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	外遊び中のため、校庭にでていた。	おやつ後の清掃のために積み上げていた机を、いつもは元に戻していたが当日は積み上げたままにしており、児童にとっては走り回れる状況にあった。	固定された柵・バーの設置。(設置に向けて調整中)	
205	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	9	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	43							43		4	4	19.7歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左小指基節骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	2.なし	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.基準以上配置	その他特記事項なし	危機管理意識の向上に努め、緊急事態の際は的確な対応を実践し、児童の安全確保に関連する研修を継続実施する。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	その他特記事項なし	施設、設備等による原因の事故を防止するため、今後も継続して点検・安全確認を実施する。	3.個人活動中・見守りあり	支援員が走らない等の危険行動について注意をしていたが、指示や指導が児童へ的確に伝わらない状況になってしまったことが考えられる。	児童への安全対策として、児童ホーム室内外での過ごし方やルールについて、引続き周知徹底していく。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	翌日に体育祭が予定されており、全体的に児童の気持ちが高揚している雰囲気であった為、全児童に対し落ち着いて過ごすよう話したが、一部児童はその後も活発に活動していた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	見守りの支援員は全体の行動を確認しながら、対象児童への対応、室内玩具の運搬や他児童からの声掛け等に応じていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	カウンターでの作業や保護者対応をしており、注視していなかった。	児童の危ない行動を注意した際一時的に静止したため、その後は当該児童から目を離し、全体の様子を気にかけていた。	室内での行動について基本的な安全対策走らない等を徹底し、児童の注意行動に関しては、一時的に静止しても暫く動向を継続注視しながら全児童への見守りを行う。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
206	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	7	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	106							##		13	7	19.７歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(４)回/年	2.基準配置	特になし	見守り方の見直しを検討する。学童クラブ利用児童に対して、遊ぶ際の注意点を再度指導する。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	特になし	他学童クラブ、児童館、区担当課と情報共有をし、同じような事故が起こらないように心がけていく。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	校庭遊びの際の見守り職員の配置について見直しを検討する。	1.いつもどおりの様子であった	バスケットボールに夢中になっていた。シュートの際勢いが余って転んでしまった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	一人で遊んでいることは確認していたが、転んだ際の手の付き方までは声をかけていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	バスケットボールで遊んでいることは把握していたが、各自決められた場所の見守りを行っていた。	特になし	見守りの仕方の見直しを検討する。学童クラブ利用児童に対して、遊ぶ際の注意点を再度指導する。	
207	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	8	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	8.学童	34							34		3	3	19.７歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(１)回/年	2.基準配置	遅番職員の出勤直後という事もあり、事故時の遊戯室は職員1名の配置となり、全体を見渡せる場所に立ち遊びの見守りを行っていた。	遊戯室の職員配置数を増やすなど改善を行った。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	遊具玩具等での怪我ではなかったが、ボール遊びの際は大きさや空気の入れ過ぎ（固くなってしまう）に注意していく。	遊具玩具等での怪我ではなかった為、改善策は特になし。引き続き、施設等の点検などを行っていく。	1.集団活動中・見守りあり	遊びを決める際は子供達が主体的に決められるよう話し合いを行っていたが、学年の違いによる体格差などの職員側の配慮が足りていなかった。	遊戯室にて活動的な集団遊びをする際の、児童数や学年分けを適切に行い支援し、引き続き見守りをしていく。	1.いつもどおりの様子であった	朝学習、朝の会に参加後、自主的に遊戯室での運動遊びに参加。顔色も良く、食欲もあり、いつも通りであった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	児童約12名に対し支援員1名で全体を見渡せる場所に立ち、遊びの見守りを行っていた。人数に対し空間の広さは適切に取れていた。事務室、遊戯室と隣にあることから何かあった際は、状況に応じて応援体制が速やかに取れる様にしている。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	こどもクラブ職員早番2名/遅番1名/事故時は、クラブ職員はクラブ室内にて保育及び引継ぎ中。児童館職員日勤5名/遅番3名/事故時、遊戯室は職員1名の配置となり、全体を見渡せる場所に立ち、怪我やトラブルが無いよう遊びの見守りを行っていた。	小学校1年生から高校生が一緒にボール遊び（天下）行っていた。小学生と高校生では明らかな体格差があった。	児童数を考慮し、遊戯室の職員配置数を増やすなど改善を行った。	
208	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	45							45		5	4	21.９歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	肘骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	乗る前に降り方や転倒時の注意喚起をする	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	一輪車の点検を行う	1.集団活動中・見守りあり	特になし	子供の数に合わせた見守りをしていく	1.いつもどおりの様子であった	17:00過ぎクラブ室内で他児と共にごっこ遊びをした後、児童館の遊戯室にて一輪車で遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	児童館職員が本児を含めた遊戯室全体を見守り	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	クラブ職員はクラブ室にて全体を見守り	特になし	特になし	
209	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	70							70		8	5	20.８歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足小指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度約(１～２)回/年	2.基準配置	自らの転倒・衝突による怪我のため特記事項なし。	自らの転倒・衝突による怪我のため特記事項なし。	1.定期的に実施	実施頻度約(500)回以上/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回程度/年	1.定期的に実施	実施頻度(50)回以上/年	自らの転倒・衝突による怪我のため特記事項なし。	自らの転倒・衝突による怪我のため特記事項なし。	2.集団活動中・子ども達のみ	自らの転倒・衝突による怪我のため特記事項なし。	自らの転倒・衝突による怪我のため特記事項なし。	1.いつもどおりの様子であった	心身共に健康であったが，ボールを蹴ろうとしたところ空振りをし床に小指を強打した。	4.対象児の動きを見ていなかった	児童館遊戯室で発生した事故のため，巡回をしていた児童館職員が対応しその後学童担当職員に情報共有をした。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	児童館を巡回していた児童館職員が，怪我をした児童本人の申し出により事故発生時の詳細な状況を認識し対応をし、学童職員に情報共有をした。	自らの転倒・衝突による怪我のため特記事項なし。	自らの転倒・衝突による怪我のため特記事項なし。	
210	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	7	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	8.学童	63							63		14	7	20.８歳	2.女児		6.水遊び・プール活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	口腔内裂傷・顎の上の部分の裂傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	2.基準配置	特になし	多様な事態に備えて改めて研修資料等を見直す	1.定期的に実施	実施頻度(３)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	特になし	更衣室を1階に変更し、階段を児童の動線から外す	3.個人活動中・見守りあり	特になし	階段を上っている際、プールタオルを首から被っていた為、腕を出すように指導する	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りの様子で、特別に注意する事項は無かった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	2階の更衣室内に職員はいたが、階段に職員は配置していなかった為、対象児童の動きは見ていなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	各部屋で児童育成と着替え対応をしていた	特になし	職員間で今回の情報を共有し、怪我防止に努める。児童にも危機管理意識を周知する	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
211	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	6	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	101							##		15	9	18.６歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし。	研修に関しては、毎年意識して職員が受けていけるとよい。	1.定期的に実施	実施頻度(200)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(200)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(200)回/年	丸椅子が柔らかいマットの上に置かれていた為、バランスが崩れやすかった。	椅子は育成中に座る用途で使うことがあるので育成室から排除することはしない。環境面で対応していく。	1.集団活動中・見守りあり	室内には他にも子どもが複数人いたため、対象児のすぐそばにはいられなかった。	このような事故が起きた事は常に頭に入れ、子どもが丸椅子を使う時は気に掛ける。子どもたちと怪我について共有し声掛けをする。	1.いつもどおりの様子であった	お気に入りのぬいぐるみを持ちながら丸椅子の上に立っていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	丸椅子の上で立った姿は見ておらず、転倒後に気づき駆けつけた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の子どもたちを見守っていたため、対象児の動きは見えていなかった。	特になし。	物を持ちながら椅子の上に立つ危険性を改めて子どもたちに伝えていく。	
212	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	7	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	118							##		14	9	18.６歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし。	研修に関しては、毎年意識して職員が受けていけるとよい。	1.定期的に実施	実施頻度(200)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(200)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(200)回/年	特になし。	特になし。	3.個人活動中・見守りあり	室内には他にも子どもが複数人いたため、対象児だけを見守れる環境ではなかった。	各グループの集合時、子どもたち全体へ今回の出来事を周知すると共に、部屋でのじゃれ合いには危険が伴う(骨折する場合がある)事、部屋での過ごし方を再確認した。	1.いつもどおりの様子であった	仲良しの友達と一緒にじゃれ合う。くすぐり合う、ちょっかいを出し合う。	4.対象児の動きを見ていなかった	室内でのじゃれ合いは危険な場合もある為、担当職員がやめるよう何度か声を掛けた。落ち着いた様子を受けその場を離れたが、再度じゃれ合いをしていた為止めることができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の子どもたちを見守っていたため、対象児の動きは見えていなかった。	特になし。	特になし。	
213	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	48							48		6	4	18.６歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右ひじ骨折（ひび)	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(１　)回/年	1.基準以上配置	特になし	危険個所の把握、事故の起こりうる場面を想定し、共通認識できるように職員間で再確認する。	1.定期的に実施	実施頻度(12　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12　)回/年	特になし	公園の遊具のため直接設備を改善することは難しい。遊具から飛び降りたりしないよう、また危険個所の把握を職員間で共有しておく。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	安全に遊具を使用できるよう職員の配置位置を再確認する。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り登所し、宿題も済ませおやつも全量食べた。戸外遊び前の室内遊びも変わった様子はなく積み木で遊んでいた。戸外遊びに出る際は、片づけを済ませて皆と同じように準備をしていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	遊具は危険を伴うため、職員が必ず1名ついて見守りを行っている。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	近くにいた職員もたまたま遊具の方向を見ており、本児が視界に入っていた。	特になし	鬼ごっこの場所を決めて遊ぶ。遊具の上では鬼ごっこをしないよう見守る。	
214	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	6	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	60							60		9	7	20.８歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手小指骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12　)回/年	2.基準配置	児童に対して怪我の予防となる声掛けが不十分であった。また、準備体操等で効果的な予防を行うことが出来ていなかった。	体を動かす遊びを行う際には必ず必要な声掛けや準備体操などを行わせる。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	体を使う遊びに関する注意事項等を記載した張り紙などは行っておらず、児童自らが事故防止に関する情報を確認できていなかった。	ドッジボール等の事故の多い種目に関しては、目に見える形でけがの予防ができる掲示物等を使用する。	1.集団活動中・見守りあり	児童に対し、けがの防止に取り組む適切な声掛けや様子を観察する部分が不足していた。	個々の児童に応じて状況や周りの環境に合わせて、けがが起きないよう声掛けをしていく必要がある。	1.いつもどおりの様子であった	ドッジボール大会に向けて、ボールをキャッチする練習に熱心に打ち込んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	遊戯室中央に立ち全体を見回せる状態にあった。対象児がけがをした際も至近で見守りを行っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	遊戯室内の職員は1名のみであった。	至近から目視していたが防ぐことができない事故であった。	あまりに近すぎる場合は強すぎるボールは投げないよう声掛けを行う。	
215	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	119							##		13	10	20.８歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手小指剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(３)回/年	2.基準配置	特になし	ボールを追いかけ始めた際、早めの児童への声掛けをする。事前に注意事項を確認する。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	3.未実施	実施頻度(０)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(１００)回/年	特になし	これまで通り準備運動などをしっかりと行う。遊び中も職員が子ども達の動きを予測し声掛けを行う。	1.集団活動中・見守りあり	他児童と一緒にボールを取りにいってしまった。遊びに夢中になり、周りの状況が見えていなかった。	これまで通り準備運動などをしっかりと行う。遊び中も職員が子ども達の動きを予測し声掛けを行う。夢中になり過ぎないようクールダウンの時間を設ける。	1.いつもどおりの様子であった	久しぶりに三歩当てをした。転がったボールを他児も追いかけていたため、先に取ろうと走っていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児童がボールを追いかけるのを見ていたが、危険性は感じなかったため静止などの声掛けはしなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	各自配置箇所付近から児童の見守りをしていた。	どういったときに怪我がおきやすいのか、子どもたちへのリスクマネジメントが不十分だった。	子どもの特性を捉え、動きを予測しながら見守りを行うよう、職員を指導する。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
216	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	3	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	13							13		3	1	19. 7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足首骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	屋外遊びを好む児童ではあるが、突発的な行動をするような性格ではなく、普段の遊び方にも問題はない。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	引率の支援員(1名)が見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の支援員及び補助員(計4名)も各々持ち場の遊具のある場所から遠目に引率の様子を見守っていた。	特になし	特になし	
217	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	32							32		5	1	20. 8歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足脛骨らせん状骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	なし	2.不定期に実施	年に1～2回	3.未実施	なし	2.不定期に実施	月に1回	特になし	なし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	なし	1.いつもどおりの様子であった	同左	2.対象児の至近で対象児を見ていた	同左	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	同左	特になし	なし	
218	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	48							48		5	5	19. 7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	なし	2.不定期に実施	実施頻度 毎日チェック	3.未実施	ー	2.不定期に実施	実施頻度(週一回チェック)	特になし	なし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	なし	1.いつもどおりの様子であった	同左	2.対象児の至近で対象児を見ていた	同左	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	同左	特になし	定員に対して不足なし	
219	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	7	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	110							##		8	5	20. 8歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)	右2趾靱帯損傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(3～5)回/年	2.基準配置	ケガへの危険度が高いものの研修が中心になっている	子どもは思ってもいない行動をとると思うこと	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	遊具以外の物でのケガ、事故	今回のように木や遊具以外のものへの注意喚起	1.集団活動中・見守りあり	危険行為としての優先順位が低いと思われるため巡回に留まっていた	静かに遊んでいる児童にも大丈夫だろうと思わず、積極的に声がけをする	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り虫好きな本児童は、友だちと虫探しをしていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	時に近くに時に離れたところから見守る（1ヵ所留まって見守ることなく常に動きながら見守るので)	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	外遊びに出た職員全員が外遊び担当として動くため、本児童に専属でつくような配置ではない。基本的には危険性の高い遊具で遊んでいる児童の所を重点的に見守る。	危険行為としての優先順位が低いと思われるために、他の児童よりも目に入りにくかったことが考えられる	常にケガの危険があることの言葉がけをしながら巡回する	
220	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	49							49		5	3	18. 6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	外遊びで気をつけることをより細やかに職員や児童と共有する	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	特になし	遊具や器具で起こりえる怪我や事故について職員で想定認識の徹底を行う	1.集団活動中・見守りあり	特になし	定期的に全児童に安全で正しい遊具などの使い方を伝える	1.いつもどおりの様子であった	代わった様子もなく過ごしていた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	校庭の中心で児童全体を見守っていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	全体の児童の動きを把握するため距離を置いて見守っていた	特になし	職員間で児童の様子や起こりえる怪我や事故について共有の徹底を行う	
221	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	28							28		6	3	19. 7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足首骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	外的要因がなく、本児自身の転倒によるため	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	特になし	外的要因がなく、本児自身の転倒によるため	1.集団活動中・見守りあり	上級生がルール説明や進行等きちんと行っていた。リレーを行うのが久しぶりだったため、児童の気持ちが高ぶっていた。	全体の見守りを行うと同時に、気持ちが高ぶっている児童に対して落ち着かせるような声掛けが必要だ。	1.いつもどおりの様子であった	他児たちとリレーをしようということになり、本児も参加した。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	本児が校庭に座っていたため声をかけたところ、リレーで足を痛めたと訴えたため、児童とともに先にクラブ室へ戻った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	クラブ室に戻るため、遊具の片づけや児童たちへの声掛けを行い、クラブ室へ引率した。	普段は児童が多いためリレーは行っていないが、当日は児童数が少なかった為リレーを行った。	児童が落ち着くような声掛けを行い、更に徹底していく。校庭での職員配置を熟慮する。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
222	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	43							43		6	4	20.８歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足首剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(11　)回/年	1.基準以上配置	特になし	開室前のミーティングで事故状況をスタッフ全員に説明した。入念な準備体操やストレッチを行い、無理な動きをしないように声掛けの徹底を再確認	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度（毎日)回/年	特になし	バランスよく身体を使えるよう基礎体力を向上する。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	こんにちはの会で、日頃から無理な動きをしないよう周知し、スタッフはできるだけ声掛けをして見守る。	1.いつもどおりの様子であった	前年度に怪我をした部分と同じ個所だったので動きの癖があるのかもしれない。ボールを追いかけるあまり無理な体勢になってしまった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	瞬間的な動きで転んだわけではなかった。足を気にしていた為、近くに走り寄り声掛けをして一緒に部屋に戻り幹部を冷やす等の簡易的な処置を行った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当以外の部分にも目を向けてスタッフ同士でも声掛けをしていく。	特になし	準備体操を更にしっかり行う。体調面などに不安が残る児童には声掛けをし、右足首に気を付けるよう促す。	
223	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	80							80		3	5	20.８歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左前腕骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	特別な配慮を必要とする対象児童の行動を予測できなかった。	特別な配慮が必要な児童対応について優先順位が刻々と変わることに迅速に対応する。一人で対応せずに経験者とペアで行い、困った事があればすぐにリーダーへ伝え対応する。特別な配慮を必要とする児童についてスタッフ間で共有し研修を行う。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	アリーナ（体育館）での遊びを対象児童が理解していなかった。	利用前後に窓を開け、床や壁、舞台の上、倉庫の扉等、安全確認を継続して行っていく。	1.集団活動中・見守りあり	遊ぶ前に児童全員に対して注意事項を伝えたが、アリーナ（体育館）での遊びを対象児童が理解していなかった。	体育館（アリーナ）での約束を都度口頭で伝えるだけでなく、模造紙に約束を記入し、目で見てわかるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	対象児は今年度初めての利用だった為、遊びの前にドッジボールをする約束を伝えて参加したがすぐに離脱した。アリーナからプラザ室に戻ろうとした時、側転をしてみようと思い立ち初めて挑戦してしまった。	4.対象児の動きを見ていなかった	対象児童が両手を上にあげたところを見たスタッフが危険な行為をしないように注意したが、その後スタッフが目を離すと側転をしてしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	体育館（アリーナ）で高学年と低学年に分かれて２面を使ってドッジボールをしていて、それぞれ支援員１名を含む２名ずつで見守りをしていたため、対象児童の動きを見ていなかった。	ドッジボールから離脱し、部屋に戻るところを見守れなかった。対象児童の突発的な行動を予測できなかった。	危険な行為を注意するだけでなく、児童の側に行き声を掛けて見守るなど、もう一歩進んだ対応を行っていく。また他のスタッフに応援を頼むなど、迅速な対応をするようにしていく。	
224	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	65							65		7	5	19.７歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1　)回/年	2.基準配置	考えられる要因・分析は、バランスを崩すことを予見できなかった。	遊びのルール変更及び今年度、事故対応研修を実施予定。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	引き続き、日々の点検を徹底する。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	個々の運動能力の把握に可能な限り努め、適切な声かけ等をおこなっていく。	1.いつもどおりの様子であった	ジャンプボールをしてバランスを崩し左肘から地面に落下した。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	ジャンプボールを上げた。対象児転倒後、すぐに応援を呼び支援員と一緒に傷害状況を確認した。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	少し離れたコートの端で全体を見守りしていた。対象児転倒後、その他児童の見守りをした。	ジャンプボールは目線がボールにいき、地面（着地）を見ないことから、バランスを崩すことが考えられる。	ミーティングで事故状況を共有し、児童の運動能力差もあるため今後はジャンケンでボールの保持を決めることとした。体育館や校庭で遊ぶ際は準備運動をしっかり行うことを再確認した。こまめに声をかけ見守りを強化し、何かあればすぐに支援員に伝えるよう確認を行った。子ども達に対して今後はジャンケンでボールの保持を決めること、準備運動をしっかり行ってから遊ぶように周知した。	
225	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	90							90		7	3	20.８歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	2.顔面(口腔内含む)	鼻の骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(15　)回/年	2.基準配置	特になし	ミーティングで事故の経緯をスタッフ全員に説明し、見守りの強化と共に子ども達への声かけについて確認を行った。注意しながら遊ぶことの大切さを伝えるために数々の事故、怪我についてのヒヤリハットについて子ども達と一緒に考えた。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	ミーティングで事故の経緯をスタッフ全員に説明し、見守りの強化と共に子ども達への声かけについて確認を行った。注意しながら遊ぶことの大切さを伝えるために数々の事故、怪我についてのヒヤリハットについて子ども達と一緒に考えた。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	ミーティングで事故の経緯をスタッフ全員に説明し、見守りの強化と共に子ども達への声かけについて確認を行った。注意しながら遊ぶことの大切さを伝えるために数々の事故、怪我についてのヒヤリハットにつて子ども達と一緒に考えた。	1.いつもどおりの様子であった	体育館でバスケットボールをしていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	近くで子どもたちの様子を見守りをしていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	近くで子どもたちの様子を見守りをしていた。	特になし	ミーティングで事故の経緯をスタッフ全員に説明し、見守りの強化とともに子ども達への声かけについて確認を行った。注意しながら遊ぶことの大切さを伝えるために数々の事故、怪我についてのヒヤリハットについて子ども達と一緒に考えた。	
226	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	100							##		10	5	19.７歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右鎖骨	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	特になし	スタッフ会議やミーティングにて、怪我を未然に防止するため準備運動、遊び場の安全確認、人数に合わせた広さの設定、児童への安全な遊び方の声掛けを徹底することを話し合った。	1.定期的に実施	実施頻度活動日毎日	1.定期的に実施	実施頻度活動日毎日	1.定期的に実施	実施頻度活動日毎日	ドッジボールの参加人数が途中から増え、コートが人数に対して手狭になっていた。	集団遊びをする際には、その都度参加人数に合わせた広さの設定を行う。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	日頃から周りをよくみて人との距離を適切に保つことを繰り返し伝える。	1.いつもどおりの様子であった	ドッジボールで遊んでいたところ、一緒に遊んでいた関連児童の足に当事者の足がひっかかり転倒した。その際に右肩を地面に強く打ち付けた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	ドッジボール担当のサポーターがいたが、ボールの進行方向を中心に見守りをしており対応ができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の遊びの見守りをしていたため、その瞬間は見ていなかった。	特になし	担当する遊びの様子、児童のを観察し、必要に応じて休憩をとるなどクールダウンの判断を各々が行えるようにする。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
227	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	29							29		4	4	23.11歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘関節脱臼、上腕骨内側上顆骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	乗り終えた一輪車を玄関前に集めて横倒しに置かれていたことが危険要因を作ってしまった。	使用後は各自、倉庫近くのフェンスに立てかけておくことで、遊び場の安全スペースを作ることとする。	3.未実施	実施頻度(0)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(10)回/年	特になし	危険回避策が必要と判断した時には学校や所管自治体の担当課に相談し、改修することも視野に入れる。	1.集団活動中・見守りあり	他児童が乗り終えた一輪車を玄関前に集めて横倒しに置かれていたこと。	使用後は倉庫（一輪車保管場所）近くのフェンスに一列に立てかけておくことで、遊び場の安全スペースを作る。	1.いつもどおりの様子であった	一輪車遊びの後、ブランコをしてトイレに行くため、玄関より入室しようとした。	4.対象児の動きを見ていなかった	対象児童の一輪車の練習を見守っていたが、他児から大縄に誘われ対象児に背中を向ける位置に移動したため、玄関に向かう前を確認できなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	おやつ担当1名、室内担当1名、外遊び担当2名の配置に分かれていたが、もう一人の外遊び担当は別の位置にいた。	大縄の児童しか目視できない立ち位置にしてしまったこと。	個々人の判断だけでなく保育現場での伝え合いを事例をもとにリスクとハザードについて検証も必要。	
228	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	35							35		5	2	21.9歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	4.上肢(腕・手・手指)	ヒビ	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	怪我等についてのマニュアルを見直して、全職員に周知徹底をする。	3.未実施	実施頻度(0)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(13)回/年	遊具の直下にソフトマットが設置されていたら、防げた可能性がある。	遊具の直下地面に衝撃吸収マットの設置する	1.集団活動中・見守りあり	低い場所からの落下の為、また激しい動きをする児童ではない為の油断。	今回の低い場所でも事故になることを全職員に周知して予防に努める。	1.いつもどおりの様子であった	落ち着きのある行動をとる児童	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	当該児ひとりで低い場所で足をかけているだけなので、事故につながる認識はなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の場所の配置の為その場にはいなかった	低い場所からの落下の為、また激しい動きをする児童ではない為の油断。	低い場所でも事故になることを全職員に周知して、配置人数を増やす。または全員が遊具の環境を把握するようにする。	
229	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	8	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	39							39		7	4	22.10歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足関節外果骨折（全治まで２か月程）	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(2~3)回/年	1.基準以上配置	指導員も子どもも慣れていないスケートというイベントで、骨折を想定していなかった。	スケートに関するリスクを考え、もっと準備や練習をする。	2.不定期に実施	実施頻度(3~4)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(3~4)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(3~4)回/年	今回はリンクに出る際の段差に躓いたのが、滑って転んだきっかけだったとのこと。	スケート靴を履いた状態での段差等やリスクを子どもと話しておくべきだった。	3.個人活動中・見守りあり	練習専用の小さなリンクが、今回使用中で最初に使えなかった。	次回は最初に使える時間も確認しつつ予約する。	1.いつもどおりの様子であった	怪我をするまでは笑顔で元気に過ごしていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	痛みを訴えた対象児をベンチに誘導しすぐにスケート靴を脱がし冷やす。手当をした後は暖かい部屋で見学させる。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	全児童に声をかけながら回っていた。対象児童がケガをした後は合流し協力して対応。	怪我や様子の対応がしやすい見守り専門の指導員の割合を増やす。	今後はスケートでのリスク・事故や怪我の可能性を洗い出し、職員と子ども共同で準備や練習をする。	
230	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	6	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	29							29		3	1	19.7歳	2.女児		7.登園・降園中（来所・帰宅中）	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折（右くるぶし）	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	登所中の事故のため該当なし	事故発生時、迅速に対応できるよう、マニュアルを振り返る。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	登所中の事故のため該当なし	施設内・施設外の危険個所がないか、点検を行う。	7.その他	登所中の事故のため該当なし	クラブへ来る際は足元に気を付けるよう声掛けをする。	1.いつもどおりの様子であった	小学校からクラブへの登所中	4.対象児の動きを見ていなかった	保育室内で児童対応をしていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育室内で児童対応をしていた	登所中の事故のため該当なし	該当なし	
231	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	15							15		3	1	18.6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	上顎骨折・歯の破折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	当該児は死角になる場所で危険な動きをしていたが、職員はそれぞれ他の児童の対応をしており注意の声掛けができていなかった。迅速に救急車を要請する判断・対応をすべきであった。	迅速に対応できるよう、マニュアルや研修を振り返る。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	該当なし	危険個所がないか保育前に確認を行う。	1.集団活動中・見守りあり	当該児童は死角になる場所で危険な動きをしていたが、職員全員がそれぞれ他の児童の対応をしていたため、注意の声掛けができていなかった。	危険な動きはしないように普段から声掛けをする。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	遊びで楽しくなり気持ちが高ぶった状態のまま片付けの時間となっていた。普段しないような動きをしていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	他の児童の片付けを手伝ったり、帰りの準備を促していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童と一緒に片付けをしていた。	職員全員がそれぞれ他の児童の対応をしていたため、玄関のスペースが死角になり当該児童を見ることができていなかった。	該当なし	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
232	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	34							34		4	2	19．7歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	該当なし	該当なし	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	段差があり足元が安定しない場所で鬼ごっこをしていた。	足元が安定しない場所での外遊びは、怪我に繋がるリスクが大きいため行わず、校庭等児童にとって見通しが利く場所で外遊びを行う。	1.集団活動中・見守りあり	鬼ごっこを楽しんでいて周りの児童もかなりヒートアップしていた。	足元が安定しない場所での外遊びは、怪我に繋がるリスクが大きいため行わず、校庭等児童にとって見通しが利く場所で外遊びを行う。	1.いつもどおりの様子であった	友達と鬼ごっこして遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	外遊びの担当だった職員が見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の職員も全体が見えるところにいたため、当該児童の様子を見ることができる状況であった。	足元が安定しない場所での外遊びは怪我に繋がるリスクが大きいことを職員が認識できていなかった。	該当なし	
233	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	7	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	38							38		4	3	20．8歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨遠位端骨折、左肘関節脱臼	8.その他	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	職員は十分配置されていた。今回は木登りをしようとしたわけではないが、木に登るときには必ず指導員が一緒にいる時にするように伝えているので、今後も徹底したい。	再度、子どもたちには木登りについての約束などを確認する	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	ぶら下がった木の枝が見た目以上に子どもを支えるほどの強度がなかった	ある程度子どもがつかまりそうな木は定期的に強度を確認する	1.集団活動中・見守りあり	目に見えて危ない場所については保育前に確認はしていた	確認の際に目で見てわかりずらい箇所についても意識する	1.いつもどおりの様子であった	セミ取りをしている最中、木の枝にぶら下がった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	至近で対象児童を見ていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	対象児童の動きを見ていなかった	職員の配置は十分にされていた	事故やケガについて防げることについては徹底する	
234	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	8	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	8.学童	77							77		5	3	19．7歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨の骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(52)回/年	2.基準配置	職員配置の基準が明確にされておらず配置が良くなかった。動く遊びを行う遊戯室２の方が児童数が多かったが、遊戯室１に2人配置していたため（遊戯室２：40名程、遊戯室1：20名程）に怪我の発見ができなかった。	部屋に配置する職員の基準を設ける。部屋に子どもが19人以下の場合は支援員を1人、20人以上になる場合は支援員を2人配置する。ただし遊戯室２は動く活動の部屋なので、職員配置の優先度は遊戯室2が一番高いものとする。	1.定期的に実施	実施頻度(52)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(52)回/年	人気の遊びでもあるフリスビードッジをするということで、遊戯室2で活動する児童が20名ほどから40名ほどに増えて子どもの動けるスペースが狭くなっていた。	人数制限を設ける。フリスビードッジをする際、40名を超える場合は参加できる人数を制限（30名まで参加可能）し子ども達の遊ぶスペースを確保する。	1.集団活動中・見守りあり	真剣に遊んでフリスビーに集中してしまい児童が周りをみたり、力を加減することが難しい状況だったと考えられる。	長期休みは全クラブが一緒に過ごすことが多くなり（登館予定人数95名程）部屋で遊ぶ人数が増えるので、朝の会で怪我が起きやすい場面を支援員から子どもに伝えて怪我の予防に務める。	1.いつもどおりの様子であった	フリスビーを投げたいという気持ちが強くあり、フリスビーしか見えていない様だった。怪我をした後も支援員に伝えず、迎えがくるまで遊戯室1で将棋等をして過ごしていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	遊戯室２の入り口付近に立ち、全体を見渡せる位置で保育をしていたが本児が他児とぶつかった時に怪我をしたと気づけなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	遊戯室2で遊ぶ人数が増えた（40名程）が遊戯室1で保育をしていたままだった。保育室も支援員を1名配置して保育を行っていた。（児童数10名）	いつも行っている活動なので、事前に注意事項を伝えていなかった。動く遊びを行う室の方が児童数は多かったが、遊戯室１に2人配置しており怪我の発見ができなかった。職員配置の指示を出す者が曖昧だった。	長期休みで朝から動いて遊ぶ場合は、準備運動をしてから活動をする。	
235	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	27							27		2	1	20．8歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左前腕骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施	実施頻度（0）回/年	2.基準配置	特になし	マニュアルの作成や研修の受講等を行い、事故防止に努める	1.定期的に実施	実施頻度（1）回/日	1.定期的に実施	実施頻度（1）回/日	1.定期的に実施	実施頻度（1）回/日	子ども会の部屋には大型の遊具はなく、傷んだおもちゃはその都度撤去	椅子や机の上には絶対に上がらないように声掛けをする	1.集団活動中・見守りあり	遊び疲れてきた頃でもあり、子どもたちの人数が減りつまらなくなってきた	16：30以降は帰る準備として教室内を走り回らず読書等で静かに過ごす	1.いつもどおりの様子であった	活発に身体を動かすことが好きなため、友達が静かな遊びを始めるとつまらなくなったと思われる	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	2～3m離れたところから対象児を見ていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	指導員2名で子どもを見ていたが、事故当時は指導員1名は清掃中で子どもに背を向けていた	特になし	事故予防のため、普段から気を付けるよう児童に声掛けを行う	
236	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	94							94		6	6	19．7歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手小指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度（0）回/年	1.基準以上配置	特になし	事故を防ぐための研修を行い、予防に努める	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	3.未実施	実施頻度（0）回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	今回は他児童の足につまずいたが、転びやすいところはないか確認する	1.集団活動中・見守りあり	特になし	他の児童と近い場所で活発な運動はしないよう声をかける。	1.いつもどおりの様子であった	室内の人数が少なくなり活発な活動ができるようになったので、おんぶ鬼ごっこを始めた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	２～３m離れた場所で後片付けをしながら見守り。転んだ瞬間は見ていない。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	受付で事務処理をしながら見守り。他児のトラブルが多く事務処理が遅れており作業に集中していた。	室内は歩く（走らない）側転や逆立ちはしないと指導していたが、おんぶは容認していた。	児童への声掛けによって普段から気を付けてもらう。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
237	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	7	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	22							22		5	3	20．8歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(（1）回/年	1.基準以上配置	無し	児童全員にもう一度危険な事はしないように話し合う	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	窓の近くで遊ばせない	窓ガラス破損防止をクッションシートに変更。	1.集団活動中・見守りあり	窓ガラス破損防止のためにウレタンを紐で固定していたのが要因	ウレタンマットを紐で固定していたため撤去しクッションシートに変更した	1.いつもどおりの様子であった	ウレタンマットは児童が乗れる位の大きさで高さが1.2m程ある。好奇心からか遊んでいる最中に登ってしまった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	児童同士で遊んでいるためすぐ隣ではなく少し離れたところで見ていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員は別の児童を見ていないといけないため、事故当時も違う児童と遊んでいた	無し	無し	
238	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	6	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	111							##		6	4	19．7歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕部肩下付近骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(5)回/年	2.基準配置	特になし	職員会議での見守りのポイントの確認と周知	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	施設設備については問題なし	なし	3.個人活動中・見守りあり	特になし	見守り方法の再確認	1.いつもどおりの様子であった	センター1階にて鬼ごっこをして遊んでいる際に発生。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	通常の活動であったので特別な見守りはしていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	通常の活動であったので、特別な見守りはしていなかった。	特になし		
239	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	7	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	23							23		6	1	18．6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(5)回/年	2.基準配置	特になし	職員会議での見守りのポイントの確認と周知	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	施設設備については問題なし	なし	3.個人活動中・見守りあり	特になし	見守り方法の再確認	1.いつもどおりの様子であった	多目的室（プラザ室）にて他児童と遊んでいる際に発生。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	通常の活動であったので特別な見守りはしていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	通常の活動であったので、特別な見守りはしていなかった。	特になし		
240	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	6	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	155							##		8	5	19．7歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足首剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(5)回/年	2.基準配置	特になし	職員会議での見守りのポイントの確認と周知	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	施設設備については問題なし	なし	3.個人活動中・見守りあり	特になし	見守り方法の再確認	1.いつもどおりの様子であった	センター2階にて他児童と走って遊んでいる際に発生。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	通常の活動であったので特別な見守りはしていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	通常の活動であったので、特別な見守りはしていなかった。	特になし		
241	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	46							46		3	2	19．7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	（今回は特に危険な遊びをしているわけではなかった）	より児童の遊びを注視し、こまめに声掛けをする	1.定期的に実施	実施頻度（１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度（１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度（１２)回/年	特になし	現状通りの点検継続	1.集団活動中・見守りあり	特になし	要配慮児童を中心に、よりこまめに声掛けと見守りをする	1.いつもどおりの様子であった	鬼ごっこ遊びの後、鉄棒遊びをしていた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	外遊び児童を３名で見守っていた。けがをした際すぐにトランシーバーで連絡を入れる	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	いつ連絡が入ってもいいようトランシーバーを持ち、室内遊びの児童の見守りをしていた	特になし	今回は違うが、要配慮児童の動きを中心に見守りと声掛けをした方がよいのかもしれない	
242	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	11							11		5	4	22．10歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		1.意識不明	1.頭部	外傷性くも膜下出血	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.基準以上配置	事故予防に関する研修等が未実施であり、各職員の危機管理レベルや緊急時の対処法、危ない時に子どもに注意する感覚に違いがあった。	事故予防に関する研修等を定期的に実施し、職員の危機管理能力の向上を図る。危機管理に関する職員間での考え方の見直しや統一を図る。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	特になし	ハード面の整備・点検の不備などが要因で発生した事故ではないが、引き続き施設、設備の管理を適切に実施していく。	1.集団活動中・見守りあり	最後に残った逃げ役のA児童を鬼役2人（当該児童を含む）で追いかけ、Aを挟み撃ちする状態になった。正対した片方の鬼役から逃げるため、Aが反転したところ、Aの背後から迫ってきた鬼役の当該児童と衝突した。	公園でのルールや遊び方を子ども達と一緒に考え、危険のないルールに変更する。施設前にある公園（事故発生場所）では狭いため走る遊びを禁止し、走って遊びたい場合は近隣の広い公園へ行くこととする。	1.いつもどおりの様子であった	いつものように午前中は漫画を読んだり、他児と遊んだりしていた。午後からは虫取りに行った。夕方になって児童数が減り、室内で走り回っていたが、外で遊んでいる子がいるのを見て外に出ていった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	子ども達は鬼ごっこで動き回っていたため、外遊び全体を見渡せるように、対象児から距離をとって遊び全体が見えるところにいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	室内にも児童がいたため室内で保育していた。	外遊びを見守る職員を複数配置していたが、ともに遊具の内側に配置する形となっていた。	周囲に注意しながら活動できるよう、引き続き、放課後児童支援員等が子どもたちに声掛けをしていく。	
243	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	7	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	15							15		2	1	22．10歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手小指ひび	8.その他	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	国から示されたひな形を参考に屋内・屋外等場面に添ったマニュアルの作成をしていく。	2.不定期に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(４)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(48)回/年	特になし	今後も引き続き点検を行っていく。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	児童各々の遊びの見守りができるよう支援の配置を考える。	1.いつもどおりの様子であった	２人で室内でキャッチボールをしていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	数人でボールを投げ合っていたが、柔らかいボールだったので突き指等の心配はしていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	支援室内で他の児童の見守りを行っていた。	ないであろうという考えではいけなかった。	室内（支援室等十分なスペースの取れない所）でのボール遊びについては控える。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
244	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	3	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	20							20		4	2	19.7歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	—	怪我をした際の処置の仕方やマニュアルを再度確認していく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	—	引き続き施設内の管理に気を配っていく。	1.集団活動中・見守りあり	—	職員に周知し安全面の再確認・共通理解を促していく。	1.いつもどおりの様子であった	鬼ごっこをして遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	全体の様子を見ながら、鬼ごっこをして遊んでいる姿を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	違う場所にいる子どもたちを見守っていたため、見ていなかった。	—	無理な行動はしないことや周りを見ながら遊ぶように子どもたちに声をかけていく。	
245	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	74							74		8	8	20.8歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手小指骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	2.基準配置	職員配置を9人体制にできれば、3部屋すべてに支援員を3人ずつ配置することができ、充実した見守りに繋がるものと思われる。	運動を伴う集団遊びを行う場合には、原則として支援員が複数配置となるよう、マニュアルの見直しを図る。	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	遊戯室は運動を伴う活動をするため、床面や壁面の状態、コーナーガードの状態等について日常の安全点検を行う必要がある。	遊戯室においては、特に遊具等の置き方や壁面の突起部を覆うクッションの状態等、細部を入念に点検する必要性を改めて認識した。	1.集団活動中・見守りあり	児童が活動に夢中になり、危険を伴うような激しい動きが見られがちである。	安全に活動するために事前にルールや心構え、活動中における支援員の声掛けの仕方等を工夫する必要がある。活動人数については今後も安全に活動できる適正な人数での実施を心がけたい。	1.いつもどおりの様子であった	対象児は日頃から活発な動きをしているが、事故当日、特に変わった様子は見られなかった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	児童の動きが遊戯室内の広範囲に広がり、動きも早いため、近くで見ることはできていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	職員それぞれが担当場所の見守りを行っていたため、1名の担当者以外に対象児の動きを見ることはできなかった。	できれば複数での見守りが望ましい場面であったが、事故発生時には活動場所が遊戯室と集会室に分かれたため、1名での見守りとなっていた。	運動を伴う活動の前は支援員と児童でルール確認するとともに、危険な動きをしないよう指導が必要。活動中は児童の活動の様子を注意深く観察するとともに、児童同士が交錯する等心配される場面があった時は、活動を止めて状況を確認する。児童に対して、痛み、けが等の異常があった際はその場ですぐに申し出ることを約束する。	
246	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	54							54		6	5	19.7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足首骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	特になし	ボールを追いかけ躓き転んだので、今回は近くに指導員がいてもどうしようもなかったが、外遊びに出る時一言充分気をつけて遊ぶよう声掛けが必要と思った。今後、研修で共有し改善に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(6)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(6)回/年	特になし。	運動場の安全を確認してから利用する。	1.集団活動中・見守りあり	早く遊びたいという、我先に外へと思う子供の思いがある。	自由にする前に事故・怪我を起こさないようにする為の声掛けが必要。	1.いつもどおりの様子であった	学童以外の遊びに来ている友達と遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	運動場の真ん中で遊んでいる様子を、外遊び担当の支援員が一緒にサッカーをして、見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	一輪車やドッチボール等他の遊びをしている児童を見守っていた。	特になし	子ども達全体に慌てない・気をつける等注意喚起をすることを毎回する必要がある。	
247	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	20							20		3	3	22.10歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘ひび	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	戸外遊びの際に遊具の使い方、注意事項をその都度喚起することを職員間で周知する。	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	今回の事故と関連性が低いため、特になし	今回の事故と関連性が低いため、特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	事前に児童の遊ぶ範囲を決め、遊びエリア毎に見守り視点を再確認し、実践する。	1.いつもどおりの様子であった	いつもどおりの様子であり、鉄棒で遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	鉄棒を含む遊具で遊ぶ児童らを見守っていたが、ケガをした場面は他児童を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童の動きを見ていたため、鉄棒で遊ぶ児童らを見ていなかった。	特になし	正しい遊具の使い方や注意事項について児童に再度注意喚起する。	
248	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	4	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	70							70		7	3	19.7歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	—	今回の事故と関連性が低いため、改善策なし	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	—	引き続き施設内の管理に気を配っていく。	1.集団活動中・見守りあり	各々好きな遊びをして支援員が見守っていた。	職員に周知し安全面の再確認・共通理解を促していく。	1.いつもどおりの様子であった	遊戯室でボール遊びをしていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	トイレに行く本児の後ろ姿を見送った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	トイレに行く本児の後ろ姿を見送った。	—	何が起こるか分からないため、早めにトイレに行くように児童全員に周知した。	
249	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	8	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	28							28		2	1	21.9歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	—	今回の事故と関連性が低いため、改善策なし	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	—	引き続き施設内の管理に気を配っていく。	1.集団活動中・見守りあり	各々好きな遊びをして支援員が見守っていた。	職員に周知し安全面の再確認・共通理解を促していく。	1.いつもどおりの様子であった	館内を走ったり好きな玩具で遊んだりゴロゴロと寝ていたりしていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	本児が館内を走り回っている様子を見て、声をかけ止めに入ったり遊びに誘いかけたりした。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	声をかけた職員以外は他の児童を見ていたため対象児を見ていなかった。	—	館内で走り回ったり暴れるとけがに繋がることを伝えた。人員配置の都合で入室できる部屋を制限する時は、入室できないと分かるよう掲示する。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
250	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	20							20		3	3	21.9歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	特になし	引き続き基準以上の職員配置を守って見守りを続けていく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	特になし	引き続き定期的に施設の安全点検を実施する。	1.集団活動中・見守りあり	外遊びで遊んでいた場所の床がウッドデッキの様なものであるため、湿気で滑りやすかった可能性がある。	該当の場所では遊ばない。	1.いつもどおりの様子であった	転倒するまでは元気にケイドロの遊びに参加していた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	9人を二人の指導員で見守っていた。転倒した場面も見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	9人を二人の指導員で見守っていた。転倒した場面も見ていた。	特になし	児童が転倒しやすい場所などを指導員間で共有し、児童の転倒が無くなるよう注意して保育を行っていく。	
251	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	7	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	40							40		3	2	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	2.基準配置	外遊び時の職員配置に対して遊び場（グラウンド）が広いため目が離れた瞬間があった。	職員数を増やせない場合、遊び場を目の届く範囲に絞る。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	雨上がりでなく、鉄棒に不備もなかったが多少足元に凹みがあった。	足元にも目を向け、凹み等ないかチェックする。	1.集団活動中・見守りあり	ちょうど当該児童を見れていない場面で事故が起こった。	グループ分けをし、職員の見守れる範囲で遊ぶよう促す。	1.いつもどおりの様子であった	通常の遊びの一環としての鉄棒遊び	2.対象児の至近で対象児を見ていた	いつも通り二手に分かれ大まかなグループごとに全体を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	ほかのグループの見守りをしていた。	事故は他の児童に目がいっていた瞬間だった。	低学年の場合特に高さに関係なく怪我の要因に繋がるため、気を付けて目が届く範囲で見守る。	
252	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	83							83		6	4	20.8歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左示指中指基節骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	特になし	3.個人活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	とくに変化はなくいつも通りの様子だった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	遊びを見守ることのできる位置で見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	離れたところにいる指導員からは死角になる場所であった。	特になし	児童一人一人の行動を見守り、適切に声掛けをしていく。	
253	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	83							83		7	4	21.9歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	口腔内裂傷	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1～2)回/年	2.基準配置	特になし	迅速な対応はできたが事故発生時後は支援員間での内容の共有が必要だった。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	ケガに繋がる行動をとっていないか、危ない場所がないかを確認し、安全に遊べる環境作りが必要である。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	見守る範囲が広いので、児童に背を向ける形にならないよう支援員が立ち位置を考えて見守り、事故が起きる間に防げる声掛けをする必要がある。	1.いつもどおりの様子であった	友達とふざけてすべり台を逆走して遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	児童がすべり台から落ちる前、高い鉄棒に登っていた別の児童の対応をしている際に、児童がすべり台から転落した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	事故のあったすべり台から離れたグランドでサッカーをしていた他の児童を見ていたためすべり台の方は見ていなかった。	特になし	すべり台、ブランコ、鉄棒のところにいる児童をすべて見渡せる位置に職員が立ち、事故が起こる前に児童本人に危険を声掛けするべきだった。	
254	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	22							22		2	2	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(３)回/年	1.基準以上配置	安全マニュアルの整備に努める。職員配置は適正である。	事故の要因等を分析し、職員会議等を活用して安全意識を高め、支援に反映させる。人気のある遊具で職員が約束事を伝え、危険な状況を回避するよう声を掛ける。	2.不定期に実施	実施頻度(１２)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(３)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(４８)回/年	遊具（遊具）の高さ、設置の間隔を検討。	高さの調整、ぐらつき防止のため遊具（丸太）を掘り起こし調整。間隔を狭く設置。また、丸太の角を電動サンダーで削る。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	見守り位置の再確認。	1.いつもどおりの様子であった	たくさんの人数で丸太あそびを楽しんでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	丸太あそび全体を見ていたが、遊具の長さがあり対象児童の動きは見ておらず、落下を防げる位置にはいなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	外遊びの見守りは常時複数体制だが、落下の場面は見ていなかった。	特になし	職員の見守り位置の確認とともに児童の動きを見守りつつ、場を捉えて安全に遊ぶためのルールの確認を行う。	
255	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	24							24		4	4	20.8歳	1.男児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足剥離骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	下校する際の注意事項について、児童へ周知出来ていなかった。	下校の際には、人と人の距離を十分にとり無理な追い越しをしない。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	ソフト面の事故なのでハード面は問題なかったと考える。	ソフト面の事故なので、改善する予定なし。	7.その他	正門を出てからの児童の行動について見ていなかった。	下校途中に事故が発生しないように、注意喚起を行う。	1.いつもどおりの様子であった	普段通り、集団下校をしていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	下校途中（学校の敷地外）のため、指導員は対象児童の動きを見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	下校途中（学校の敷地外）のため、指導員は対象児童の動きを見ていなかった。	集団下校で正門を出てからの事故のため、指導員の目が行き届いていなかった。	下校時等指導員の目が行き届かない場面での児童の行動を予測し、事前に危険と思われる行動について児童へ指導を行う。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
256	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	21							21		4	2	22.10歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	特になし	予期しないことで怪我をすることが有る為、危険な可能性が有る場面について職員間で検討し注意喚起を行う。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	今回の事故については特に問題はなかったと考える。	3.個人活動中・見守りあり	特になし	各児童の動きを注意深く見守り、声掛けを行っていく。	1.いつもどおりの様子であった	特になし	2.対象児の至近で対象児を見ていた	遊んでいる児童の見守りを行っていた。転倒後直ぐに声を掛け、怪我の状態を確認し手当てを行った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の場所で遊んでいる児童の見守りや、一緒に遊んでいたため事故の状況を見ていない。	特になし	今回の事故については特に問題はなかったと考える。	
257	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	18							18		2	2	21. 9歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	職員は児童の見守りをしていた。	危険な可能性がある場面を想定した研修を強化する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	運動場に凹凸はなかったため、今回の事故については特に問題なかったと考える。	特になし	3.個人活動中・見守りあり	特になし	児童の骨折に気づかなかったので、見守りを強化していく。	1.いつもどおりの様子であった	３年男児と追いかけっこをしている際に自分で転倒しそうになり、態勢を立て直そうとして左足を捻る。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	主にドッジボールの輪の中でコートの中心に立って審判をしながら対象児童も含め全体を見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	1名はコート審判と対角線上の位置に立ち全体を見ていた。1名はドッジボール近くの縄跳び台で他の児童を見ていた。	活動中の児童の見守りを行っていたが、児童がこけそうになった際にはフォローできなかった。	今回の事故については特に問題なかったと考える。	
258	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	19							19		2	2	21. 9歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	打撲	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	今回の事故については、振り向き様に自ら転倒したため転倒を予期することは出来なかった。	研修の機会等を通じて、事故につながりそうな行動について事例をあげて情報共有する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	今回の事故については、特にハード面の問題はなかったと考える。	特に必要はない。	1.集団活動中・見守りあり	今回の事故については、自ら足を滑らせ転倒したため転倒を予期することが出来なかった。	活動中の児童の見守りを強化する。	1.いつもどおりの様子であった	友達と「ままごとごっこ」をする為の準備をしようと思い歩いていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児童のすぐ横で見守りを行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育室入口付近で、5時帰りの児童たちの対応をしていた。	怪我をした児童の横で見守りを行っていたが、障害物等がない中で転倒することは予期できなかった。	今回の事故については特に必要はないと考える。	
259	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	7	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	71							71		9	5	20. 8歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	特になし	事故が起こった時に職員が連携して対応できるように話し合い研修をしていきたい。	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	特になし	指導員の死角を減らす。何でどのようにして遊ぶかを考えるように促す。	1.集団活動中・見守りあり	高い遊具に上っている時は、特に気を付けるように見守り声をかける必要がある	自分が出来るかできないかをよく考え遊びに参加するように見守り声をかける。	1.いつもどおりの様子であった	いつもと変わりない様子で友達との活動を楽しんでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	虫取り、ボール遊びなどを見ており遠目で活動の内容を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれの場所で子どもの活動を見ていた。	高い遊具に上っている時は、特に気を付けるように見守り声をかける必要がある	子ども達がどのような動きに発展しているかをよく見守る。遊び方について日頃から意識できるように話をしていく。	
260	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	52							52		10	6	21. 9歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	橈骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	特になし	事故発生時に職員が連携して対応できるよう、話し合い研修をしていきたい。	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	特になし	指導員の死角を減らす。何でどのようにして遊ぶかを考えるように促す。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	人的環境・物的環境を整えて活動できるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	普段通り元気に入室しおやつを食べて、体育館で遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児童が遊んでいるのを確認しつつ、子どもたちの遊びを見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の場所で遊んでいる児童を各場所で見守っていた。	特になし	子どもたちがどのような動きに発展しているかをよく見守る。	
261	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	62							62		9	4	19. 7歳	2.女児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足小指付け根の骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	下校中寄り道しないように指導。	下校中寄り道しないように指導。	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	特になし	ハード面の事故ではないので改善する予定なし	2.集団活動中・子ども達のみ	特になし	集団下校中の在り方の指導	1.いつもどおりの様子であった	1日通して普段通り過ごしていた	4.対象児の動きを見ていなかった	児童クラブ終了後の下校時の事故であるため	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	児童クラブ終了後の下校時の事故であるため	特になし	集団下校中の在り方の指導	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
262	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	39							39		5	3	20.８歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	児童を注意深く見守り、再発防止策を支援員間で検討し共有する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	プレイルームで遊ぶ子どもの数、支援員の配置を考える。	1.集団活動中・見守りあり	2年と3年がプレイルームを半分に分け別の遊びをしていた為、遊ぶ場所が狭かった可能性もある。	支援員は児童をもっと注意してみておく。低学年だけでなく、高学年にも配慮する。	1.いつもどおりの様子であった	最近この5人で遊ぶ事が多く、今日も何をするか考えて遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	子ども達の考えた遊びをさせたかったし、3年生だから大丈夫だろうという思いもあった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童を見ていた。	フラフープを投げる役があることに気がつかなかったので、気がつけば早めにやめさせる事ができた。	特になし	
263	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	9	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	25							25		2	1	18.６歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.基準配置	特になし	職員配置については規定人数を配置しているが、送迎時の職員配置についても工夫し、安全に見守れるようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	点検に応じての対応をしており、改善策は特にないため今後も引き続き行っていく。	3.個人活動中・見守りあり	特になし	個人活動中はそれぞれが好きな活動をしてバラバラの動きをしているため、その場の職員は状況を見ながら環境構成を考え、見守りの体制を整える。	1.いつもどおりの様子であった	特になし	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	全体の見守りを行っていた為対象児から離れたところにおり、転倒する際に手を差し伸べることができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	事故発生場所に支援員が1人しかいなかった。	特になし	送迎の関係で職員配置が手薄な状況での事故だった為、職員が揃うまでの活動を見直し、児童の近くに職員が配置できる環境を作る。	
264	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	8	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	43							43		7	5	20.８歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手親指骨折（保護者から聞いた内容）	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	特になし	安全管理マニュアル（市作成）をもとによりきめ細かな安全計画を策定する。支援員等に研修を実施し、徹底を図る。	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年 遊具がない	2.不定期に実施	実施頻度(250)回/年	特になし	当児童クラブは貸しビルの2階にあり外遊びや遊具で遊ぶ環境に乏しいため、近隣の広場や公園の利用を進める。その際、交通事故等がないよう十分に配慮して取り組む。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	児童たちの遊び方をルール化する。当面のこととして、室内では「走りまわらない」「飛びついたり、おんぶ、だっこ禁止」「ボール禁止」とした。	1.いつもどおりの様子であった	３年生児童と室内で遊んでいる最中、振り回された格好となり倒れた。その際、左手親指を床（畳敷）に強打する。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	主任が当該児童の大きく痛がる様子に気付き、親指付近が腫れがっていることをこと確認した。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	主任の指示で他の支援員等が直ちに救急病院に連れて行った。	特になし	児童たちの遊び方を見直す。特に室内での遊びに配慮する。	
265	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	9	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	36							36		4	4	20.８歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足人差し指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	3.基準以下	事故発生時間は職員が３名しかおらず、４．５部屋に分かれていたため各場所につくことが出来なかった	職員が少ない中では、個々での遊びを制限をして、集団での遊びに切り替え、目が行き届くように努める。	1.定期的に実施	実施頻度(250)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(250)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(40)回/年	特になし	ボール遊びをする部屋の床にマットを敷き、足指への衝撃を和らげる様改善した。	1.集団活動中・見守りあり	他の職員を呼ぶ前に、パーテーション裏でボールを蹴ったため、一時的に職員から死角になり、怪我を防ぐことが出来なかった。	他の職員が来るまで待たせるなど、安全に遊べるよう配慮する。衝動的な行動が多い子供であるため家庭でも行動に関して話し合ってもらう。	1.いつもどおりの様子であった	同じ部屋で野球をしていたが、当該児は野球のルールが理解できないため集団に馴染めず、ボールを蹴りたくなった。違う遊びをするためパーテーションを使った。	4.対象児の動きを見ていなかった	職員は野球の審判をしており、当該児がパーテーションで仕切ってすぐは見ることが出来なかった。仕切って間もなく泣き声が聞こえ、すぐ駆けつけたがすでに足を床に打ち付けていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	活動毎にクラブ内4つの部屋を分け、基本的に職員は各部屋に１名いるようにしているが、加配児童に手が取られることもあり、当該児一人のために職員がつくことは不可能だった。各部屋からは他の部屋が見えず死角が多くある。	特になし	ボールを使う部屋をパーテーションで仕切る場合、必ず2人以上の職員で関わるようにする。	
266	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	7	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	24							24		4	2	21.９歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(２)回/年	2.基準配置	環境の安全だけ注視し、学校では高学年体育科で行う走り高跳びの危険性に支援員が気付けていなかった。	室内遊びにふさわしい遊びをリスト化。職員で共通認識をもつ。	2.不定期に実施	実施頻度(２)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(４)回/年	室内で行い、着地場所にクッションがない部分があることを見過ごしていた。	クッションの使い方を、本来の休憩場所として使うように児童に周知。	1.集団活動中・見守りあり	走り高跳びを遊びとして、するべきではなかった。	事故防止研修を受講し、職員の意識改善に努める。	1.いつもどおりの様子であった	数回は上手に走り高跳を跳んでいた。事故発生時は着地点に転ぶように落ちていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	当遊びをしていない児童にぶつかる危険はないか、周りにぶつかるような障害物はないかを確認していた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	机で事務作業をしながら、時々周囲の安全を見守っていた。	走り高跳び等、室内遊びに動きが伴っていないものはさせない。	走り高跳びは今後しないが、激しい遊びの時は至近距離で安全確認し事前に注意点を子どもに伝える。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
267	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	31							31		4	1	20. 8歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足中足骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	児童への声かけの強化	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	児童数が多いため、机の数（本数）が多い。	できるだけ机の配置の間をあけるようにする。遊ぶ時間などは机をかたずける。	1.集団活動中・見守りあり	夏休み中の気温が高く、外遊びがほとんどできず体力を持て余していたかもしれない。	落ち着いて過ごせる環境づくりの工夫する。また、靴下をはいて走ると滑りやすいのでワックスを滑りにくいものにする、上履き利用も検討する。	1.いつもどおりの様子であった	室内で走り回ることが多い児童。今回も走りトイレに行こうとした時にぶつけている。	4.対象児の動きを見ていなかった	おやつの後の片づけのため、見ていなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	おやつの後の片づけのため、見ていなかった	トイレに行きたいため、走っていた	忙しくしていても支援員が４人いたので、1人は児童の動きを見ていればよかった。今後は予想される事故や怪我の防止に万全を尽くす。	
268	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	25							25		2	2	20. 8歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手薬指骨折	4.玩具・遊具等施設・設備の安全上の不備によるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.基準配置	特になし	事故予防に関する研修を行い、児童の見守りを強化していきたい。	3.未実施	実施頻度(0)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	ミーティング等で危険箇所の確認をしていたが、使用禁止等の措置をとらなかった。	危険個所の点検とその後の対応を徹底していきたい。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	児童の見守りを強化していきたい。	1.いつもどおりの様子であった	虫取りをしていて休憩のためベンチに座った。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	複数のグループで遊びをしていたので、公園全体が見える位置で見守りをしていた。対象児がベンチに座ったのを見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	複数のグループで遊びをしていたので、公園全体が見える位置で見守りをしていた。対象児と担当者のやり取りを見ていた。	特になし	公園管理所管課との一層の連携を図り、児童が安心安全に遊べるようにしていきたい。	
269	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	44							44		7	6	18. 6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨骨幹部骨折（全治２か月）	3.子ども同士の衝突によるもの	2.なし	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.基準配置	なし	緊急事故対策職員会議を開催し、事故防止徹底を図った。毎日の職員ミーティングでも危機感と緊張感を持って業務を遂行するよう指導している。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	数日前からの晴天続きで、中庭の地面が乾き滑りやすくなっていたかもしれない。	児童が安全に遊べるよう、毎日中庭の様子を確認する。中庭で走る遊びを禁止した。	1.集団活動中・見守りあり	なし	中庭で遊ぶ日は児童の遊びの内容を制限し、それぞれの遊ぶスペースが交わらないよう遊ぶ場所を決める。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り通所していた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	外遊びは支援員３名で見守り、事故当時は2名で2方向に分かれていた。中庭全体が見られる場所で見ていたが、鬼ごっこをしていた他児と接触し、本児の転倒した瞬間は気づかず、他児の報告で事故に遭ったことに気づき、すぐに児童を介抱しながら館内に連れ戻った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	児童館玄関前で離れた他の児童の遊びを見守っていた。転倒した瞬間は、事故箇所から離れており他児童の動きに注意しており気づかなかった。	なし	なし	
270	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	27							27		3	2	20. 8歳	1.男児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右腓骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	安全に下校することを促す。特に階段の上り下りを注意することを伝える。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	点検時に不備が発見された場合は、学校等に報告する。	7.その他	特になし	安全に下校することを促す。特に階段の上り下りを注意することを伝える。	1.いつもどおりの様子であった	通常通り決まった時間に下校した。歩道橋の階段も慌てず降りたが、最後の一段で転んだ。	4.対象児の動きを見ていなかった	下校後のため未確認だった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	下校後のため未確認だった。	自宅が歩道橋を下りてすぐなので、気が急いてしまったことが考えられる。	歩道橋では1段1段注意して下りるよう指導した。当面保護者の車での送迎となった。	
271	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	6							6		3	3	23.11歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右母趾末節骨骨端線損傷及び右母趾外傷性趾爪甲剥離	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.基準配置	遊びの内容に危険因子があったと考えられる。	児童の発達段階に応じ運動機能等を考慮した遊び方を検討し、児童へも注意を呼び掛ける。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	玩具の不備ではなかったが、日頃から危険な箇所がないか点検時以外にも意識をして確認をする。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	児童の行動すべてを監視するのは困難な為、日頃から遊び方・気を付けるように話をする等して注意を促す。	1.いつもどおりの様子であった	落ち着いてルールを守って遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児を含み同じ遊具で遊んでいる児童たちを見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	別の遊具で遊んでいる児童を見守りながら対象児も見ていたが、事故発生時は見ていなかった。	特になし	あらゆる状況を考え、児童の動きを予測し危険を防ぐことができるよう見守っていく。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
272	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	15							15		3	1	18. 6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨頭骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	今回の事故は不慮の事故であったが、見守りをより強化する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	遊具の不備ではなかったが、日頃から危険な箇所がないか点検時以外にも意識をして確認をする。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	児童の行動すべてを監視するのは困難なため、日頃から遊び方・気を付けることについて話をする等して注意を促す。	1.いつもどおりの様子であった	一人でボールをドリブルして遊んでおり、転んで負傷した。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	ボール遊びをしているそばで見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の補助員２名は、他の児童の見守りをしていた。	特になし	あらゆる状況を考え、児童の動きを予測し危険を妨げられるよう見守っていく。	
273	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	32							32		5	3	19. 7歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手首橈骨遠位端骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	今回の事故は不慮の事故であったが、見守りをより強化する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	遊具の不備ではなかったが、日頃から危険な箇所がないか点検時以外にも意識をして確認をする。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	児童の行動すべてを監視するのは困難なため、日頃から遊び方・気を付けることについて話をする等して注意を促す。	1.いつもどおりの様子であった	日頃から体を動かすこと、外遊びが好きなため、いつも通りあそんでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	すぐ近くで見守っていたが、あっと思った時には転落し、手を差し伸べるのは難しかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	広い範囲での外遊びのため、各場所で見守りをしている。そのため見ていなかった。	特になし	あらゆる状況を考え、児童の動きを予測し危険を妨げられるよう見守っていく。	
274	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	26							26		2	1	18. 6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.基準以上配置	特になし	支援員のミーティング時にヒヤリハット事例の共有、事故防止マニュアルを再度確認する。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	桜の木の根っこが広範囲に張り出しているため、伐採なども含め担当課と協議する	3.個人活動中・見守りあり	特になし	木の近くでは遊ばないように声かけを行う。	1.いつもどおりの様子であった	鬼ごっこをしていて、桜の木の根っこでつまづき右足首を捻る	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	グラウンド全体の見守り	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	３支援合同でグラウンド全体を４名の支援員が見守っていた。	特になし	他クラブであった事故も情報を共有し、同じような事故が起こらないように支援員一人一人が見守りを強化する。	
275	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	15							15		4	4	19. 7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨外顆骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	子どもたちはそれぞれ希望の遊具で遊ぶので、全てを把握することは困難。	その日の子どもの人数や動き方を見て、職員配置を行う。	2.不定期に実施	２回程度/週	2.不定期に実施	3回程度/年	2.不定期に実施	12回程度/年	吊り輪は落下の可能性がある遊具であるが、子どもたちは常にスリルを求めてしまう。	落下の可能性のある遊具(吊り輪、ブランコ、鉄棒、雲梯等)を使う時の注意点を子どもたちと確認し、遊び方を考えるようにしたい。	1.集団活動中・見守りあり	広い運動場の中で、子どもたちはそれぞれ希望の遊具で遊ぶので、全てを把握することは困難。	落下の可能性のある遊具(吊り輪、ブランコ、鉄棒、雲梯等)を使う時の注意点を子どもたちと確認し、遊び方を考えるようにしたい。	1.いつもどおりの様子であった	仲良しの子と一緒に吊り輪で遊び、吊り輪の一つを両手でつかみ身体を押してもらっていた。飛び降りた際着地に失敗した。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	吊り輪から落下した男の子は以前も同様の遊びをしていたため、太鼓橋とブランコの低学年の子の見守りを優先していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	運動場全体を見渡せる位置にいた。広い運動場にはそうすることも必要。	落下の可能性がある遊具で遊んでいる子には、たとえ遊び慣れていたとしても一言注意喚起をするべきだった。	支援員の人数に限りがあり、傍に付いていられない時も、外に出る前に全児童に対して遊び方の注意点を伝える。	
276	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	9	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	9							9		3	1	19. 7歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	2.顔面(口腔内含む)	左目眼窩底骨折、結膜下出血、角膜上皮損傷、網膜振盪	3.子ども同士の衝突によるもの	2.なし	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.基準以上配置	これまで室内で走る児童に対して注意や制止を行っていたが、今回のように走り回ることで事故に繋がることについて児童に浸透しきれていなかった。	ガイドラインを基に職員全員で改善策検討を行った。併せて今後事故防止マニュアルの作成を進め、職員で共有を図る。	3.未実施	実施頻度(0)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	施設内玄関ホール、和室、手洗い場、会議室が走り抜けることができる状態であった。	玄関ホール、手洗い場の出入口を締め切り、走り抜けができないようにし、会議室、和室、玄関ホールの通路については児童と一緒に警告を促す色付きテープを張ることで意識づけを実施。	3.個人活動中・見守りあり	事故発生前に体育館で１時間程度遊びを行っていたが、施設に戻り静に遊ぶことの習慣づけが不十分であった。	室内遊びを工夫し、室内遊びに興味を持たせ、低学年の児童がすぐに飽きないように見守り・支援を行う。	1.いつもどおりの様子であった	お絵描き帳に描いた絵を支援員に見せ、別室に歩いて引き返すところであった。特に異常はなし。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	和室入口で和室内と玄関ホールを見渡せる場所にいた。会議室方向から歩いてくる児童も見えていたが、手洗い場方向から走ってくる児童が速く、制止する時間がなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	１名は別室内で死角となっていた。また、もう１名についても別室で活動している児童を見守っていたため死角となっていた。	特になし	室内での走る、投げる、ふざけあうなど第三者への事故に繋がる行為を禁止し、そういった際は体育館や外遊びなどで体を動かすようルールを作る。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項
277	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	14							14		2	2	19.7歳	1.男児	
278	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	23							23		3	2	20.8歳	1.男児	
279	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	41							41		4	3	18.6歳	1.男児	
280	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	34							34		4	3	18.6歳	1.男児	
281	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	32							32		3	3	20.8歳	1.男児	

No	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策
277	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.基準以上配置	特になし	なし
278	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左ひじ骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	難しいところではあるが、遊びの要素、危険かどうかの判断を支援員間で深く考え、共有し合うことで防止できる。	今回は床が板張りのところであったため起きたとも考えられる。畳かマットを準備して遊ばせることで改善する。
279	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘頭骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	特になし	室内遊びに危険が伴わないよう指導し、支援員も今後同じようなことが起こらないよう十分注意して見守る。
280	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右第一指基節骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.基準以上配置	職員の配置はしていたが見守りが行き届いていなかった。	見守りを行き届かせるようにする。
281	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右第５手指基節骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2～3)回/年	2.基準配置	特になし	遊び方の指導をする

No	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策
277	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(40)回/年	特になし	なし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	なし
278	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	遊びの種類によってはマットを準備する必要がある。	今回のプロレスごっこは畳かマットでさせる。今後室内での遊びの危険な事をもっと見極める必要がある。	1.集団活動中・見守りあり	危ないのではという認識で２回程止めに入っていて起きた事故だけに止められなかったことが悔やまれる。気をつけることをもっと丁寧に話すべきであった。	プロレスごっこについてはたたみ部屋か板張りではしないことを決まりごとにする。
279	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	特になし	机等の配置について支援員で話し合い、改善点がないか検討します。	3.個人活動中・見守りあり	特になし	室内で遊んでいて起こってしまった事故で、もう少し児童にわかるように注意し、見守り時十分注意を払うよう徹底する。
280	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週	1.定期的に実施	実施頻度（1）回/週	特になし	今まで以上に施設、設備面で危ないところがないか点検する。	1.集団活動中・見守りあり	気が付きにくいところでおんぶごっこをしていたようだった。	今まで以上に全支援員が心して見守りを強化したい。
281	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(週１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	石ころを取り除いたりして、滑りにくくする	1.集団活動中・見守りあり	特になし	広い校庭で、見落としがないよう支援員を配置する。

No	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
277	1.いつもどおりの様子であった	他児4名とそれぞれブランコを漕いでおり、ブランコが動いている状態でジャンプして着地。着地を失敗し右腕が体の下敷きとなった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	従来通り子どもたちの外遊びを見守り、様子を伺っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当職員と二手に分かれ外遊びの子どもたちを見守り、様子を伺っていた。	特になし	外遊びの前に危険行為をしないよう注意事項を説明する。遊具遊びを禁止する。	
278	1.いつもどおりの様子であった	いつもじゃれ合ったりケンカしたりしている二人で遊び感覚でやっていたが力が入りすぎ、同時に倒れて起きた事故。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	ケガをしないよう見守りしていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	外の活動の見守りに出ていた	怪我しないよう机等引いてスペースを作ったが床が板張りであったことが事故の要因と思われる。	支援員会議の中で危険な遊びについて認識を深める。研修等に積極的に参加して児童が怪我無く安全で安心できる環境、居場所を作るよう努める。	
279	1.いつもどおりの様子であった	机の周りをグルグル追いかけっこをしていた時にバランスを崩した。楽しかったので怪我をするとは思ってなかった様子。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	ふざけてはいたので、注意したらやめたが又始まってしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれ自分の近くにいる児童を中心に、屋内全体を見守っていた。	特になし	緊張感をもって見守りすることを心がける。	
280	1.いつもどおりの様子であった	普段から気の合う友達と遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	二人で室内を見守っていたが、対象児が仲良くしていることは見えていたが、倒れる瞬間は気づかなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	4人のうち2人は外遊びの見守りをしていた。	支援員の気付きにくいところでおんぶをしてバランスを崩して倒れたため。	支援員同士の連携を図り、事故に繋がりそうな状況について情報を共有し対策を考える機会を増やす。再発防止に努めたい。	
281	1.いつもどおりの様子であった	キーパーだったので両手でボールを止めようとしたが、止められずボールが手からすり抜けた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	サッカーをして遊んでいる子どもたちの妨げにならないよう少し離れて見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	校庭で遊ぶ他の子供たちを見守っていた。	特になし	緊張感をもって見守りすることを心がける。	

No	初回掲載年月日	概要：認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期：月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制：発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳：0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故：年齢	性別	特記事項	事故状況：発生時状	事故の転帰	死亡：死因	負傷：負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析：ソフト面：マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面：施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面：教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面：対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
282	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	32							32		3	2	19. 7歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左側関節外果剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2～3)回/年	2.基準配置	特になし	遊び方の指導を行う	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(週1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	外遊びする場所を定期的に点検する。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	広い校庭で見落としがないよう支援員を配置する	1.いつもどおりの様子であった	外遊びの時間、何人かの児童と鬼ごっこをしている時に、一段高い所で転んで左足を捻って擦りむいた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	校庭で遊ぶこどもたちを見守っていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	校庭で遊ぶこどもたちを見守っていた	特になし	怪我は室内でも起こりうるので室内外に関わらず声掛け指導を繰り返す。保護者にも注意喚起して、家庭でも怪我をしないよう指導いただく。クラブだよりにてお願いする。	
283	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	6	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	44							44		4	4	19. 7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	4.上肢(腕・手・手指)	骨折はしていないが経過観察中	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.基準配置	特になし	外遊び前に注意事項を子どもと確認しているが今後は雲梯の事も追加し、無理しないよう声かけする。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/月	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	特になし	点検はしっかりとする。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	外遊びでは各々好きな遊びをするため、特に注意を要する遊具で遊ぶ子たちにはしっかり声かけをする。	1.いつもどおりの様子であった	校庭の遊具で一人だけで遊んでいた	4.対象児の動きを見ていなかった	特にその子の担当の職員はいなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	外遊び開始直後であり、いろいろな場所で遊ぶ子どもたちを見守っていた。	特になし	子どもたちにも危ない遊具で遊ぶときは気を付けるようにしっかりと声かけする	
284	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	27							27		3	–	19. 7歳	2.女児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	姉と帰宅していたが，なぜ転んだかわからない。足元・周りの注意をしていなかった。	クラブ退所前に注意して帰るよう声掛けしていたが，退所時にも再度声掛けをする。	–	–	–	–	–	–	特になし	–	–	特になし	–	–	–	–	–	–	–	–	児童クラブ退所前に，安全に注意して帰るよう声掛けをする。	
285	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	5	1.朝(始業～午前10時頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	26							26		3	3	24. 12歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足　親指　骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.基準配置	特になし	特になし	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	全員が裸足の状態で練習。	今後はシューズを着用するなど改善を考えていく。	1.いつもどおりの様子であった	相手チームに対しアタックをする際に、足の指に負荷がかかり負傷。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	痛がる様子を確認したあと。すぐに応急処置。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童の安全管理をしていた。	ドームを利用する際は、全員シューズ着用を義務付ける。	ドッジボール等激しい運動の場合はシューズの着用を義務付ける。	
286	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	7	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	25							25		5	3	20. 8歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左第２中骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	竹馬をする場所は、手薄になり目が届きにくい	竹馬をしている児童がいる場合は、時々声掛けや見守りを職員一同心掛ける。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	排水の水の痕があった。	排水の水の痕の清掃をする、または排水口を移動。	4.個人活動中・子どものみ	竹馬も上手に乗れる児童なので、大丈夫だと過信していた。	上手に乗れる児童でも、見回りをする。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りの遊びをしている	4.対象児の動きを見ていなかった	他児童と遊んでいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭外へいたので、対象児童は見ていない	竹馬を上手に乗れる児童なので大丈夫だと過信していた。	上手に乗れている児童でも、無理せず危ない乗り方しない様に声掛けや目をかける。	
287	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	41							41		4	2	18. 6歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手　人差し指骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	子どもたちの動き、危険行為の回避ができなかったため。	危険行為を予測し、声掛けだけでなく回避するための方策を考えて実施する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	人数に対して広さが足りなかった。	備品等(テーブル)を片付ける。人数制限を行う。	1.集団活動中・見守りあり	子どもたちと遊びに夢中になっていた。	ルールの改善、こどもたち同士での配慮	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	寝そべったり、座ってドッジボールに参加していた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	危険を察知し声掛けをした。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	秘密基地で遊ぶ児童の見守り。事務作業。	危険を察知し声掛けをしたが、立つまでの様子は見ていなかった	こどもたちの動きをしっかりみる。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
288	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	187							##		22	9	21.9歳	2.女児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	開放骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	学童から帰宅途中の出来事であり、子どもの動きを把握を把握することは困難である	子どもが下校するときは、その都度交通ルールを守ったり、正規の登校道路を帰るよう声をかける	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	特になし	引き続き実施する	7.その他	近くに信号付きの横断歩道があり、道路を渡るときは必ず横断歩道を通るように指導している	子どもが下校するときは、その都度交通ルールを守ったり、正規の登校道路を帰るよう声をかける	1.いつもどおりの様子であった	学校帰りは普段通りで、おやつを貰って帰ると施設長に元気に答えていた。担任には普段と変わらなく応対していた。	4.対象児の動きを見ていなかった	おやつを持って帰宅していたので、道路を横切る様子までは把握できていない	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	下校中のため指導員は見ていない。一人は教室前で子どもの受け入れを行っていたが、道路まで距離があり横断を確認できなかった。	学童からの帰宅途中の出来事であり、子どもの動きを把握を把握することは困難である	子どもが下校する時は、その都度交通ルールを守ったり正規の登校道路を帰るよう声をかける	
289	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	37							37		4	2	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足首剥離骨折、左足関節外果骨折、左足外側外副じん帯損傷、左足外果離断性骨軟骨炎	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	特になし	ケガをしたり、捻ったときの手当ての対処法の確認	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	周囲に気を付けながら遊ぶよう声掛けを行う	1.いつもどおりの様子であった	ドッチボール中で元気に逃げ回っていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	目の前で転び、立てなかったので抱えて安全な場所に移動し、応急措置	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれの持ち場で他の子たちを見守っていた。	ドッチボールのスペースが人数に対して狭いときがある。	足に合ったサイズの靴を履くように話す。ボールを使った遊びの経験を重ねられるように見守る。	
290	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	20							20		2	1	20.8歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手小指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(11)回/年	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(293)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	ボールをどのように捕球すればよいかの判断が難しかった。	全体でも個別でもドッチボールの安全な遊び方(投げ方、捕球の仕方等)を再確認する。怪我に繋がりやすいことは支援員でも話し合い、全体に周知する。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りの様子	2.対象児の至近で対象児を見ていた	見守りをしながら声掛けをしていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	全体を見ていたが対象児の動きまでは見ていなかった。	特になし	特になし	
291	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	55							55		5	3	23.11歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	剥離骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	2.基準配置	サッカーゴールのポール上に帽子をおいていた。	外遊びの時は水筒置き場所を用意しているので、帽子等もそこに置くように子ども達に伝える。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	今回は、施設、遊具はなし	施設や遊具を活用する際にはリスクを考え、共有する。	1.集団活動中・見守りあり	帽子をサッカーゴールのポールの高い所にかけていた。ジャンプしないと取れない位置であった。	高い場所には置かないよう、子どもたちに集団指導を行う。	1.いつもどおりの様子であった	外遊び中、ドッジボールをしていて帽子が邪魔になり近くのサッカーゴールのネット上に置いた。帰るよと言われて慌ててしまった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	傍で見守りをしていたが17：00の音楽がなり他の子ども達が帰りの準備を始めた為、そちらに目が行き見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	帰りの準備対応で見ていなかった。	基本外遊びの際には帽子着用は必須にしているが、曇りだったので帽子を取って下に置くと汚れるのでサッカーゴールネットにかけた。	帰りの時間間際だったこともあり、支援員が他の子ども達の方ばかり見ていた為、気づくのが遅かった。	
292	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	138							##		15	10	22.10歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手中指第二関節骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1-2)回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(ー)回/年	———	引き続き定期的に安全点検を行う。	1.集団活動中・見守りあり	———	見守りが必要な場面では引き続き支援を行っていく。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りの様子であった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	集団活動中見守りを行っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	集団活動中見守りを行っていた。	———	今後も危機管理の手引きを用い，迅速な対応を行っていく。	
293	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	8	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	106							##		8	5	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手薬指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1-2)回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(ー)回/年	———	引き続き定期的に安全点検を行う。	1.集団活動中・見守りあり	———	見守りが必要な場面では引き続き支援を行っていく。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りの様子であった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	集団活動中見守りを行っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	集団活動中見守りを行っていた。	———	今後も危機管理の手引きを用い，迅速な対応を行っていく。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
294	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	8	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	149							##		11	6	18.6歳	2.女児		8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左前腕部骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1-2)回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(ー)回/年	―――	支援員が転倒した箇所の段差に簀子を敷いた。引き続き定期的に安全点検を行う。	1.集団活動中・見守りあり	―――	児童の誘導の仕方を支援員間で再度共有し、引き続き見守りを行っていく。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りの様子であった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	集団活動中見守りを行っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	集団活動中見守りを行っていた。	―――	今後も危機管理の手引きを用い，迅速な対応を行っていく。	
295	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	8	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	146							##		11	6	22.10歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1-2)回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(ー)回/年	―――	引き続き定期的に安全点検を行う。	1.集団活動中・見守りあり	―――	見守りが必要な場面では引き続き支援を行っていく。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りの様子であった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	集団活動中見守りを行っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	集団活動中見守りを行っていた。	―――	今後も危機管理の手引きを用い，迅速な対応を行っていく。	
296	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	8	4.昼食時(学童)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	39							39		5	2	20.8歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		6.その他	1.頭部	脳しんとう	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	夏休み期間で保育時間が長いため、昼食の時間帯は職員の交代等を行っていて支援員等が手薄になった。	職員が交代する時は児童の様子等申し送りをし、手薄な時間帯となる12時代は支援員同士の声掛けでカバーする。	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	3.未実施	実施頻度(－)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	－	3.個人活動中・見守りあり	昼食の片づけ後はフリーの時間となり様々な遊びをするため、安全に遊んでいるか確認をしている中で事故が発生した。	それぞれの児童に対応する職員以外に、個々ではなく全体の状況を把握する職員を配置する。	1.いつもどおりの様子であった	昼食後児童同士で遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	次の活動の準備をしていたため。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の対応をしていたため。	夏休みから入所した児童でもあり、学童の友達と過ごすことに慣れてきて、ついからかってしまったと思われる。	相手が嫌がる発言や行動をしないよう指導する。	
297	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	59							59		7	4	18.6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1～2)回/年	2.基準配置	特になし	児童に施設の危険箇所について周知を行う。	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	3.未実施	実施頻度(-)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	指を挟んだトイレ自体に不備は無かったが定期的に点検は行う。	4.個人活動中・子どものみ	トイレのドアを強く閉めた。	トイレのドアでケガをすることが有ると児童に周知をする。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り落ち着きのない状態だった	4.対象児の動きを見ていなかった	トイレに行くときだったので見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	トイレに行くときだったので見ていなかった。	トイレに行っているからと当該児童を注視していなかった。	トイレの出入りの時も目を配る。	
298	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	7	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	188							##		16	8	23.11歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨頚部骨折・左手関節捻挫	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1-2)回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(ー)回/年	―――	特になし	1.集団活動中・見守りあり	―――	見守りが必要な場面では引き続き支援を行っていく。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	休憩時は座るよう支援員が何度も注意を促すも、聞き入れない状況だった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	集団活動中見守りを行っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	集団活動中見守りを行っていた。	―――	今後も危機管理の手引きを用い，迅速な対応を行っていく。	
299	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	14.学童	182							##		9	6	19.7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	成長骨軟骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1-2)回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(ー)回/年	―――	特になし	1.集団活動中・見守りあり	―――	見守りが必要な場面では引き続き支援を行っていく。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	いち早くボールを確保しようと急いでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	集団活動中見守りを行っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	集団活動中見守りを行っていた。	―――	今後も危機管理の手引きを用い，迅速な対応を行っていく。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
300	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	6	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	17							17		5	3	19.7歳	1.男児		8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	学校の規模が大きく、沢山のデイサービスや児童クラブ利用者で混雑するため、児童の見守りが弱いと反省してタクシー送迎時の職員配置を2名～3名の現状から常時3名の職員を配置に変更する。	職員配置を見直して密な連携が取れるよう情報交換をする。保護者の協力をいただきながら児童の様子等の情報交換を徹底する。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	集合場所で躓いて怪我をしている事、ランドセルの扱いと待つ姿勢にも問題が有ったが、見守る体制にも不備があった。	見守り強化の為、タクシー送迎集合場所での職員の人数を増やし、タクシーを待つときはランドセルや荷物を降ろして待つ、座って待つ事を徹底する。	1.集団活動中・見守りあり	学校におけるタクシー送迎の見守りでは、マンモス校のため下校時の校庭が賑やかになることを認識し、職員の配置と見守りの人員を増やす必要があった。	人員配置を改め、待ち時間の体制を改善する。保護者にも協力をお願いし児童の意識向上を目指して、自分の命を守る大切さを身に付けられるよう指導する。	1.いつもどおりの様子であった	いつも遊んでいた友達が集合場所に先に移動していたため、少し焦っていたと思われる。職員が声かけを行った。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	タクシーが集合場所に到着しておらず、児童達は集合場所で落ち着いて待っていた。少し遅れて当該児が合流し、お友達に駆け寄った時に躓いて転んだ。起き上がり手が痛いと言うので座って待った。同時にタクシーが到着し児童クラブについた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の校舎から出てきた児童と共に集合場所に行った。当該児が座っていて、事情を聴き転んだことが分かった。本人が直ぐにタクシーに乗ってたので詳しい事は分からなかったが、芝生の上で転んだようだった。なお、集合場所は雨が降るとぬかるむ場所であるが当日は乾いていた。	見守りをしていた支援員は別の児を見ていて、本人が転んだ所は見ていないが、転んだ後は大丈夫？と声掛けをした。本人が手が痛いと訴えたため、座って待たせたところタクシーが到着したためそのまま乗せた。	職員研修を行い、担当者が利用学童の発達や素質等をふまえた見守りができるよう資質の向上を図る。また事故を想定した配置の見直しも行う。利用学童にも事故についての理解を深めてもらえるよう働きかけを行っていく。	
301	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	58							58		6	4	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	いつもと変わりなく外遊びへ行った。ブランコに座り、ブランコを漕ごうと地面を蹴った際に蹴り損ねてしまい、ブランコの前方に向けて転倒した。	4.対象児の動きを見ていなかった	サッカー、鬼ごっこ、バトミントン、ブランコ等の外遊びを5人で見守っていた。ブランコについていた支援員は他児を探している保護者に気づき対応のため、その場から離れていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	室内にて保護者対応、室内遊びの見守りを行っていた。	特になし	特になし	
302	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	6	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	30							30		3	3	19.7歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	前歯打撲	3.子ども同士の衝突によるもの	2.なし	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	特になし。	事故の発生状況について職員間で情報共有を行い、再発防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(不定期)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(不定期)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週	特になし。	定期的に施設内の点検をし、故障・破損等の危険個所がないか確認していく。	1.集団活動中・見守りあり	特になし。	危険行為等を発見した際は、随時、注意・呼びかけを行う。	1.いつもどおりの様子であった	学童内で友達と仲良く遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	当該児童を含む3名を近くで見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の児童の様子を見守っていた。	児童の様子に注意を払っていたが、怪我の発生が一瞬で起きたため発生を防ぐことが間に合わなかった。	随時、職員間で安全保育の意識共有・情報共有を徹底していく。	
303	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	27							27		4	2	19.7歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		6.その他	4.上肢(腕・手・手指)	右手人差し指の靭帯損傷	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(２)回/年	2.基準配置	特になし。	マニュアルに沿って迅速に対応し、事故の分析を行う。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(随時)回/年	ハード面は問題なし。	ハード面は問題なし。	1.集団活動中・見守りあり	特になし。	今回の事案と同様に、事故が発生した際には迅速な対応を心がける。	1.いつもどおりの様子であった	バスケットボールを友達と一緒に楽しんでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	近くで、児童の遊びを見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	体育館には職員が３名おり、それぞれ子どもたちの動きに合わせて動きながら見守っていた。	特になし。	特になし。	
304	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	53							53		6	4	19.7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	雲梯で遊ぶ時のルールは決められていたが、児童は決められた場所以外から雲梯に登り、雲梯の上に座りこんでしまった。	雲梯で遊ぶ際は西側から登り東側へ進むこと、それ以外の場所からは登らないこと等、遊具の正しい使い方を再度児童へ周知する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(6)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	ハード面は問題なし。	ハード面は問題なし。	1.集団活動中・見守りあり	グラウンドでは運動会の準備が行われており、邪魔にならないよう他児の誘導をすることに専念しており、細部まで目が行き届いていなかった。	職員配置や役割分担を再確認し、グラウンド状況が日頃と異なる場合は情報共有し状況に合わせた支援を行う。また、児童を含めて事故のリスクについて考える時間を設ける。	1.いつもどおりの様子であった	日頃から他の児童より元気に過ごしており、当日も変わりない様子だった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	他の児童を含め全体を見ていたが、事故の瞬間を目撃していなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	約50名の児童が外遊びに出ており、5名の職員が外遊びの見守りをしていた。室内には児童20名が残り、3名の職員が見守りをしていた。	見守る児童やエリアを事前に打合せし、状況が変化しても見落としのない見守り体制を維持できるようにする。	特になし	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項
305	令和5年12月15日		15. 放課後児童クラブ	6	7. 午後	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	8. 学童	32							32		6	4	22. 10歳	2. 女児	
306	令和5年12月15日		15. 放課後児童クラブ	6	4. 昼食時(学童)	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	8. 学童	5							5		2	2	21. 9歳	1. 男児	
307	令和5年12月15日		15. 放課後児童クラブ	6	8. 夕方(16時頃〜夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	8. 学童	45							45		2	2	22. 10歳	1. 男児	
308	令和5年12月15日		15. 放課後児童クラブ	5	8. 夕方(16時頃〜夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8. 学童	38							38		2	2	19. 7歳	2. 女児	
309	令和5年12月15日		15. 放課後児童クラブ	5	8. 夕方(16時頃〜夕食提供前頃)	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	8. 学童	18							18		2	2	22. 10歳	1. 男児	

No	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策
305	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕骨骨折(全治30日以上)	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(20)回/年	2. 基準配置	特になし	遊具傍に職員1名いたが、他児のケアをしており事故の詳細は見ていなかった。バランスを崩し転倒の恐れがある遊具であるため、職員の配置を増やすか利用を短時間に制限して遊ぶ改善が必要。
306	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	足関節捻挫による右足首靭帯損傷、及びそれに伴う剥離骨折。(全治30日以上)	2. 自らの転倒・衝突によるもの	2. なし	3. 未実施	実施頻度(0)回/年	1. 基準以上配置	事故予防マニュアルが無く、事故予防に関する研修も未実施。	上記について今後検討していく。
307	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左手小指骨折(小指基節骨骨頭骨折)	5. 他児から危害を加えられたもの	2. なし	2. 不定期に実施	実施頻度(１２)回/年	2. 基準配置	特になし	全支援員参加の事例研修を実施するとともに、全児童を対象とした集会等の場を活用し安全意識の向上を図る。
308	1. 屋外活動中	1. 負傷		4. 創傷(切創・裂創等)	2. 顔面(口腔内含む)	裂傷	5. 他児から危害を加えられたもの	2. なし	2. 不定期に実施	実施頻度(１２)回/年	2. 基準配置	特になし	全支援員参加の事例研修を実施するとともに、全児童を対象とした集会等の場を活用し安全意識の向上を図る。
309	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	上腕骨骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	3. 未実施	実施頻度(１２)回/年	2. 基準配置	特になし	子どもが足を滑らせて落下した為改善策が難しい

No	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策
305	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(その都度)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	持ち運び可能な遊具で、設置の際は職員が行っていた。強度がある道具ではあるが、遊ぶ前の点検、使い終わった後の破損の有無について都度行うよう徹底する。	1. 集団活動中・見守りあり	特になし	スラックラインの特徴としてバランスをとって遊ぶ遊具なので常に転倒の危険が伴う。設置場所は土や草がある柔らかい地面に限る。
306	2. 不定期に実施	実施頻度(５０)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(５０)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(５０)回/年	特になし。	屋外保育（遠足に出かけた公園）で発生した事故のため、施設設備等の要因ではないため。	1. 集団活動中・見守りあり	児童に変わった様子は見られなかったが、前週の週末に運動会を終えたばかりで身体的疲労が残っていた可能性はあった。	単独転倒なので事故発生を防ぐのが難しい事案ではあるが、学校行事の後等は児童の身体的疲労を考慮し、走って遊ぶ場合は足を取られやすい場所ではなく平坦な場所で行う等、支援員が活動場所の配慮するよう職員間で共有した。
307	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(8)回/年	特になし	安全点検を引き続き計画的に実施する。	1. 集団活動中・見守りあり	特になし	全支援員が参加しての事例研修を実施するなど、より組織的な安全確保の取組を推進する。
308	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(8)回/年	特になし	安全点検を引き続き計画的に実施する。	1. 集団活動中・見守りあり	特になし	全支援員が参加しての事例研修を実施するなど、より組織的な安全確保の取組を推進する。
309	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	室内、屋外で支援員が分かれており、常時その子どもの側で様子を確認することは出来なかった	遊具の遊び方に関して常時子ども達への声かけが必要	2. 集団活動中・子ども達のみ	当該児童が高学年だったためその場を任せていた	支援員の人数に限らず見回りが必要だった

No	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
305	1. いつもどおりの様子であった	普段と変わらず元気であった。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	職員1名配置していたが、他児の補助についており職員は背中を向けていたため転倒した瞬間は見ていなかった。目撃していた児童から状況を伝え聞いた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	公園は道路を挟んでボールで遊ぶエリア、遊具で遊ぶエリアに分かれている。遊具側のエリアも木や遊具があり他の職員は事故状況を見ていなかった。	特になし	特になし	
306	1. いつもどおりの様子であった	午前中は元気に走りボール遊びをしていた。昼食の時間になり、遊びを終了しようとしていた矢先、支援員と遊具周辺の砂場をおいかけっこをして遊んでいて、滑り台下のラバーマットような部分で右足首を捻って転倒。	1. 対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	当該児とマンツーマンで遊具周辺を追いかけっこをして遊んでいた。振り返った時はすでに転倒した後で、当該児がその場に座り込んでいた。痛がる様子を見せていたので介助に行った。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	昼食準備のため他児４名と移動していたことと、当該児が別の支援員と遊んでいて遊具の向こう側にいたため、対象児の動きは見えていなかった。３人目の支援員が現地に到着した直後だったので４名の児童を任せ、当該児の救護に行った。	児童に変わった様子は見られなかったが、前週の週末に運動会を終えたばかりで身体的疲労が残っていた可能性はあった。	特になし。	
307	1. いつもどおりの様子であった	特になし	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	遊戯室内で見守っていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他室の児童を見守っていた。	特になし	見守りとともに声掛けや注意、具体的な安全指導を行う。	
308	3. いつもより活発で活動的であった。	すべり台の遊ぶ順番をめぐって数名の児童との間で不満があったかもしれない。	4. 対象児の動きを見ていなかった	すべり台から少し離れた場所で鬼ごっこで遊ぶ集団を見守っていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他室の児童を見守っていた。	特になし	職員側の見守り体制の改善と児童の遊びルールの指導を徹底する。	
309	1. いつもどおりの様子であった	いつものように遊具で元気に遊んでいた	4. 対象児の動きを見ていなかった	その他の子どもの様子を見守っていたため	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	室内に待機していた子ども達を見守っていた為	特になし	特になし	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
310	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	16							16		4	3	21.9歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨尺骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	3.未実施	実施頻度(毎朝)回/年	2.基準配置	特になし	事故発生時はマニュアルに沿って必要な支援を要請し迅速な対応ができたと考えるが、予防的な措置について再度指導員会議等で確認する。	1.定期的に実施	実施頻度(毎朝)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎朝)回/年	特になし	今回の事故においては設備の不備による事故ではないが、今後起こりうるリスクを想定し、点検等を行っていく。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	遊具での遊び方を再度、児童と確認し、危険な遊び方や乗り方をしないように指導していく。	1.いつもどおりの様子であった	いつもどおり、他児と外遊びをしていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	鉄棒で遊んでいる様子は把握していたが、落下は一瞬の出来事であったことから対応できなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童の対応をしていた。	特になし	指導員を遊具の近くに配置し、遊ぶ際はその都度児童に声掛けをして、注意喚起を徹底する。	
311	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	29							29		4	2	18.6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度不定期	2.基準配置	死角になる場所に児童がいた	死角になる場所に児童が近寄らないよう指導	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(6)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	-	フローリングでの転倒だった為、緩衝材になるようカーペットを敷く範囲を広げる。（事故後実施済）	1.集団活動中・見守りあり	-	-	1.いつもどおりの様子であった	室内での活動中。特記事項なし。	4.対象児の動きを見ていなかった	死角になる場所だったため事故発生時の様子は見ていない	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	死角になる場所だったため事故発生時の様子は見ていない	なし	なし	
312	令和5年12月15日	1.認可	5.幼稚園	2	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	50									4	4	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	右目瞼の裂傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1回/年	2.基準配置		保育中に園児の動きを把握できる教職員の立ち位置も含めての見直しを行った。	1.定期的に実施	3回/年	1.定期的に実施	3回/年	1.定期的に実施	毎日		つまずいた場所にはスロープを設置し、ぶつけたと思われる箇所には安全クッションを設置した。	1.集団活動中・見守りあり		保育室内と廊下からトイレが見える位置で園児を見守るように指示を出した。	1.いつもどおりの様子であった		4.対象児の動きを見ていなかった	活動後の園児にトイレに行くよう促し、活動中の園児の見ていたため、トイレ周辺での園児の動きは見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	5保育室に5名の担任と2名の補助教員がいたが、それぞれの保育室で活動中であったため当該児の動きは見ていなかった。		保育室内と廊下からトイレが見える位置で園児を見守るように指示を出した。	
313	令和5年12月15日	1.認可	5.幼稚園	3	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	102				29	30	43			16	12	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	2.顔面(口腔内含む)	鼻骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1回/年	2.基準配置	ブランコ使用時は必ず保育者を配置しているが、ブランコの周りに柵があるためすぐに助けに行けない状況にあった	引き続きブランコ使用時には必ず保育者を配置し、ブランコの乗り方、飛び降り禁止の再確認を子ども達と行う。	1.定期的に実施	毎日目視	1.定期的に実施	毎日朝点検	1.定期的に実施	毎日清掃の時に点検	遊具、床のゴムマット、柵には特に問題なし	今後も毎日の点検を徹底する	1.集団活動中・見守りあり	着地場所に砂があったこと、靴底が滑りやすかった可能性	ブランコ下にゴムマットを敷いているが、マット上の砂利で滑った可能性があるため、毎朝掃除を行い遊ぶ前にも砂や落ち葉等を取り除く。	1.いつもどおりの様子であった	他児が飛び降りをし着地しているのを見たことがあり、自分も行えると思って行った。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	ブランコ柵の外で、園庭全体の安全を見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	ブランコに配置されている職員（1名）はいたが、他児の見守りも行っていたため着地の援助は行えなかった	飛び降りはしないように伝えているが、きちんと着地ができると思ってしまった	ブランコから飛び降りない約束を徹底する。危険な遊び方を見つけたら注意をする	
314	令和5年12月15日	1.認可	5.幼稚園	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	15									13	12	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左すね骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	適時	2.基準配置		引き続き必要な研修等を実施する。	1.定期的に実施	24回/年	1.定期的に実施	24回/年	1.定期的に実施	毎日点検	雲梯下の緩衝材の劣化により硬化し、着地時の衝撃が緩和されなかった。	雲梯周辺の緩衝材の交換及び 定期的な点検	1.集団活動中・見守りあり		引き続き戸外遊び時の見守りを行う。	2.いつもより元気がなかった(理由を記載)	家庭より左手親指を怪我し、傷テープを巻いていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	雲梯傍で見守っていたが、他児の対応で目を移した瞬間に落下し泣きだしたため、すぐに駆け寄った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	対象児の遊びを見ていたが、落下の瞬間は見ていなかった。		引き続き戸外遊びでの見守りを行う。	
315	令和5年12月15日	1.認可	5.幼稚園	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	164				22	42	##			9	9	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕開放骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1回/年	2.基準配置		職員配置に問題はなかったため、引き続き見守りを行い強化していく。	1.定期的に実施	12回/年	1.定期的に実施	1回/年	1.定期的に実施	1回/年		遊具等での事故ではないため改善策なし。点検は今まで通り行っていく。	1.集団活動中・見守りあり		戸外活動中の園児数や職員配置に問題はなかったため、引き続き見守りを強化していく。	1.いつもどおりの様子であった	いつもどおりであった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児から離れたところで対象児を見ていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)		職員配置に問題はなかったため、引き続き見守りを行い強化していく。	

No	初回掲載年月日	概要: 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期: 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制: 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳: 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故: 年齢	性別	特記事項	事故状況: 発生時状	事故の転帰	死亡: 死因	負傷: 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面: マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面: 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面: 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面: 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
316	令和5年12月15日	1.認可	5.幼稚園	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	50									4	4	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	1回/年	2.基準配置		園庭で複数の活動をさせている際の教職員の立ち位置に関して指導した。	1.定期的に実施	3回/年	1.定期的に実施	3回/年	1.定期的に実施	保育室の玩具は毎日、消毒時に安全点検を行っている。		ブランコ周りの侵入防止用コーンとゼブラバーを増やし、ブランコ周りのスペースを広げた。	1.集団活動中・見守りあり		園庭での自由遊び中の監督は幅広い視野で園児の活動を見られるように指導した。	1.いつもどおりの様子であった	ブランコに乗っており、降りる際に飛び降りた。着地の際にバランスを崩して転倒した。	4.対象児の動きを見ていなかった	かけっこが終わり自由遊び時に起きた事故である。他園のかけっこを指導しており、ブランコを背にしていたため事故発生状況を見ることができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	当該クラスは園庭の持ち時間であったため園庭で活動を行っていた。他クラスは持ち時間でないと室内活動であるため園庭で活動していたこのクラスの様子を見ていなかった。		他クラスも含めて遊具の使い方について再度指導するように指示を出した。	
317	令和5年12月15日	1.認可	5.幼稚園	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	25				1		24			1	1	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨通過骨折	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	1.定期的に実施	1回/年	2.基準配置		もう一度固定遊具の使い方について話し合いをした。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	朝の掃除のとき毎日	1.定期的に実施	使用前、毎回		引き続き点検を実施する。	1.集団活動中・見守りあり	遊具の一部は年長のみ使用するので、担任が付いて約束事をしてから行ったが、後ろの園児が押してしまった。	もう一度約束事を守る様に指導した。	1.いつもどおりの様子であった	いつもどおりであった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	当該児は遊具を使う順番待ちをしていた。担任は前の園児をサポートしていた為、すぐ横には付いていなかった。後ろの園児に押されて落下する瞬間手を差し伸べたが間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員はいなかった		もう一度、遊具の使い方について話をした。	
318	令和5年12月15日	1.認可	5.幼稚園	4	7.午後	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	20									2	2	16.4歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左第5指基節骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1回/年	1.基準以上配置	子どもが走り出したらけがをする可能性があることを認識する必要がある	子どもが走っていたら注意をする。	1.定期的に実施	3回/年	1.定期的に実施	3回/年	2.不定期に実施	50回/年	堅い壁面に、足をぶつけたため怪我をした	走り回ると危険な個所があることを子どもたちに伝える	3.個人活動中・見守りあり	走り出したことを、急に制止できなかった	教室内で走ると危ないことを伝える	1.いつもどおりの様子であった	ままごとをしてあそんでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	子どもたちの様子を見ていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	子どもたちの様子を見ていた	ぬいぐるみを持って走っていたため、洗い場の様子が良く見えていなかったと考えられる。	教室内で走らないよう注意を促す。	
319	令和5年12月15日	1.認可	5.幼稚園	4	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	3					2	1			3	1	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	1.頭部	開放性外傷性くも膜下出血後頭骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	3回/年	2.基準配置	保育時間終了後は、保護者の見守りで活動をしている。	より安全に子ども達が活動できるよう安全確認と安全対策をしながら、保護者の見守りの指導を強化する。	1.定期的に実施	3回/年	1.定期的に実施	3回/年	1.定期的に実施	3回/年	不意の時に、捕まることが出来る場所が少なかった。	上り台から誤って落下することがないようクリアパネルを設置し、安全対策を実施した	7.その他	森の中の広い敷地、園内も教室がないオープンスペースのため、安全対策と保護者の見守りが必要。	より安全に子ども達が活動できるよう、安全確認と安全対策をしながら保護者の見守りの指導を強化する。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り、園内で過ごしていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	保育時間外なので、保護者の見守りの下で活動していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育時間外なので、保護者の見守りの下で活動していた。	保育時間終了後は、保護者の見守りで活動をしている。	より安全に子ども達が活動できるよう安全確認と安全対策をしながら、保護者の見守りの指導を強化する。	
320	令和5年12月15日	1.認可	5.幼稚園	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	－	1									0	0	17.5歳	1.男児		8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左前腕骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	12回/年	2.基準配置	話し合い及び園児への指導は行っている。	引き続き定期的に事故防止について職員で話し合い指導していく。降園後の遊び方について保護者にも注意を促していく。	1.定期的に実施	12回/年	1.定期的に実施	12回/年	1.定期的に実施	12回/年	現時点で施設に不備はない。	今後も定期的に点検を実施し、危険箇所等はすぐに修理、修繕していく。	7.その他		引き続き遊具の点検及び子供たちへの指導、保護者への注意喚起を行う。	1.いつもどおりの様子であった	できることが増え、様々な遊びに意欲的に挑戦しようとしていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	対象児の動きを見ていなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	降園後に保護者と遊んでいた。		引き続き遊具の点検及び子供たちへの指導、保護者への注意喚起を行う。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制												事故			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事者		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳									うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他								死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】							理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
321	令和5年12月15日	1.認可	5.幼稚園	5	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	8					3	5			2	1	16.４歳	1.男児	雲ていの一番初めの棒を掴む際の事故だった為、いつもより勢いがついてしまっていた。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨遠位骨端線損傷	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	3.未実施		2.基準配置	なし	マニュアルの周知ができていない為、定期的に事故防止の研修に取り組む。	2.不定期に実施	3回/年	2.不定期に実施	3回/年	2.不定期に実施	3回/年	雲梯に問題はなかったが、雲梯での遊び方に気を付ける必要があった。また、安全点検の回数が少なく不定期に行っていた。	雲梯の遊び方をもう一度園児に伝え、月に一度は各点検を行うよう徹底していく。雲梯の下は地面だった為、衝撃を和らげるようグリーンマットを2枚重ねで敷いた。	1.集団活動中・見守りあり	自由遊びが終わり園児達は職員から部屋に入るよう促されていた。当該児は雲梯を止めず怪我に至った。雲梯の近くにいた職員は別の園児の対応をしていた。	多くの園児が室内に入っていた為、ほとんどの職員は室内へと移動していた。全園児が室内へ入るまで園庭の様子も見守るよう、職員に周知した。	1.いつもどおりの様子であった	普段から活発な園児で雲梯でもよく遊んでいた。自由遊びが終わり、室内へ入るよう促されたが聞こえていなかったのか、職員が雲梯から離れたタイミングで怪我をしてしまった。	4.対象児の動きを見ていなかった	当該児の近くにいたものの、他児同士で片付ける遊具を取り合うけんかがあり対応していた。話が終わり振り向くと、当該児が雲梯下に倒れていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	朝の自由遊びの際は職員が見守りを行っている。しかし、事故の起きた時には全園児を室内へ誘導する方へまわっていた。	遊びに夢中になっていた園児に声掛けができていなかった。職員の目も園児が動く方に注目してしまった為、園庭での遊びに気づけなかった。	園児と共に動く職員とは別に全体の様子を見守る職員を配置し、すぐに声をかけられる体制を作る。	
322	令和5年12月15日	1.認可	5.幼稚園	7	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	－										8	8	16.４歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	3～4回/年	2.基準配置		子どもの動きに合せ園庭の使用スペースを分割し、進行方向を揃えて遊ぶようにする。常に子ども達の動きをみて事故を未然に防ぐ声かけを増やす。	1.定期的に実施	12回/年	1.定期的に実施	12回/年	1.定期的に実施	毎日		今回の怪我では特に問題点がないため、定期的な安全点検を継続していく。	1.集団活動中・見守りあり		異年齢の子ども達が遊んでいるため、体格差や運動能力の違いにも配慮して職員が一緒に遊ぶ、仲介するなど保育上の配慮を増やしていく。	1.いつもどおりの様子であった	保育後、外に出てお友達一緒に楽しく遊び過ごしていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	担当職員は定位置につき見守りをしていた。遊具の安全を配慮しながら園庭側を見ているので、すぐ手がでる状況ではなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	降園準備、順次降園となる時間でそれぞれ担当に入っているため外遊び担当以外は対象の園児の動きを把握できていなかった。		フリーで動ける職員を増員し、動きながら子ども達の遊びを見守れるよう配慮する。	
323	令和5年12月15日	1.認可	5.幼稚園	7	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	87				14	38	35			6	6	17.５歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	3～４回/年	2.基準配置		個別の運動能力や身体の動きを把握し、個別の声かけをより的確にできるよう日頃から見守るよう努める	1.定期的に実施	12回/年	2.不定期に実施	12回/年	1.定期的に実施	基本的に毎日		今回の怪我では特に問題点がないため、定期的な安全点検を継続していく。	1.集団活動中・見守りあり		朝の時間帯は身体が慣れていないため、よく動かしてから遊びに入る工夫をする。	1.いつもどおりの様子であった	通常通り元気に登園し、友達と外遊びを楽しんでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	担当の職員が配置につき子ども達の遊びを見守っていたが、一瞬のことで手が出せなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	外担当の職員は担当場所が決まっているため、持ち場の安全確保と園児の見守りに努めていた。		子ども達が遊んでいる場面ではいつでも素早く補助ができる準備と予測を心掛ける。子ども達の動きについて意見交換を行い情報共有しておく。	
324	令和5年12月15日	1.認可	5.幼稚園	6	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	60					30	30			2	2	17.５歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨にひび	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1回/年	2.基準配置	転倒した際左側方に倒れ、肘に体重がかかってしまった。	遊び方や園児の様子など状況に応じて、職員の配置を考えたりすぐに手を差し伸べられるようにする	1.定期的に実施	12回/年	1.定期的に実施	12回/年	1.定期的に実施	週1回消毒	安全点検の更なる徹底	これからも引き続き定期的に安全点検を行う	3.個人活動中・見守りあり		遊具使用上のルールや注意点の更なる指導の徹底	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り遊んでいたが転んでしまった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児から離れたところで対象児を見ていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	別の場所で他児と対応中で直接的には見ていなかった	戸外遊び時の職員人数	戸外遊び時の職員の数や配置を見直す。	
325	令和5年12月15日	1.認可	5.幼稚園	9	7.午後	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	85									3	3	17.５歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	若木骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	3回/年	1.基準以上配置		職員の配置場所の確認と、子どもたちへの遊び方の指導	1.定期的に実施	週1回	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日		チェックシート等を作成し、確認を実施	1.集団活動中・見守りあり		人数等をグループ分けをすべきだった	1.いつもどおりの様子であった	活発に遊んでいた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	他のところに意識が向いており、対象児には目が行き届いていなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他のところに意識が向いており、対象児には目が行き届いていなかった		職員配置の見直し等により改善に努める。	
326	令和5年12月15日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成				1	14					2	2	15.３歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	手首骨折（右）	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	3回/年	1.基準以上配置	転倒した園児を後続の本児が避けきれず覆い被さるように転んでしまった	集団でかけっこ等をするときは、間隔をあけ順番にスタートするよう配慮する	2.不定期に実施	1回/年	2.不定期に実施	2回/年	2.不定期に実施	3回/年	園庭に躓きの原因になりうる凹凸がある	毎朝の受け入れ準備時に砂を入れるなどして凹凸を減らすようにする	3.個人活動中・見守りあり	練習を始めて間もないため、子どもたちが張り切り全体的に気分が高揚していた	始める前に、順番を守って落ち着いて走るなどの約束を子どもたちとする	1.いつもどおりの様子であった	年少クラスに所属する満3歳児であり他の3歳児に比べて体格や体力に差があるが、同じように活動しようとしている	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	ゴール地点で園児のゴールを確認した後、次のスタートの合図を送っていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	ゴール地点の保育士からの合図を見て、スタート地点で並んでいる園児にスタートするように促していた	ラインを引かず走っていた為、子どもたちが一箇所に集中してしまった	かけっこをする時はコースのラインを引き、まっすぐ走れるようにする	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
327	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	38							38		2	2	19. 7歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	裂傷	5.他児から危害を加えられたもの	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(１２)回/年	2.基準配置	特になし	全支援員が参加しての事例研修を実施するとともに、全児童を対象とした集会等の場を活用し安全意識の向上を図る。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(8)回/年	特になし	安全点検を引き続き計画的に実施する。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	全支援員が参加しての事例研修を実施するなど、より組織的な安全確保の取組を推進する。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	すべり台の遊ぶ順番をめぐって数名の児童との間で不満があったかもしれない。	4.対象児の動きを見ていなかった	すべり台から少し離れた場所で鬼ごっこで遊ぶ集団を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他室の児童を見守っていた。	特になし	職員側の見守り体制の改善と児童の遊びルールの指導を徹底する。	
328	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	7	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	26							26		4	3	19. 7歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.基準以上配置	特になし	支援員の人数は十分に足りているが、ケガのないように保育することができていなかった。子どもたちを安全に遊ばせられるよう研修に参加し、支援員の保育力向上に取り組んでいる。	2.不定期に実施	実施頻度(０)回/年 未実施	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(３)回/年	特になし	ネットは取り外すより設置した方が安全であるためそのままとしたが、ネットに近づくことを防ぐため、床に黄色い線（ここから先危険）と赤い線（絶対に入らない）を貼り、子どもたちに説明した。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	ルールを守ること、ケガをしないように節度をもって遊ぶことを子どもたちに伝えている。	1.いつもどおりの様子であった	体調が悪いなどはなく、いつもどおりにホールで遊べる時間に他の子どもたちと活発に遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	場所ごとに割り振りされた支援員が児童を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員は、別な場所で児童を見ているため、ケガをした児童を見ていなかった。	特になし	支援員が、子どもたちに対して危険な遊び方をしないように、適正な指導ができるようになった。	
329	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	11							11		1	1	23. 11歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		6.その他	4.上肢(腕・手・手指)	右小指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	2.基準配置	キャッチに関する事前対策・対応知識の不足	キャッチに関する事前指導を周知していたが、より実技に近い形で指導を行う。指も含めた柔軟体操の時間を増やし、キャッチボール等の基礎練の時間をしっかりと設ける。技術の差が大きい時には別メニュー対応も考える。	1.定期的に実施	実施頻度(250)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(250)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(250)回/年	特記事項なし	引き続き施設等の安全点検を徹底し、管理不備による事故発生の防止に努める。	1.集団活動中・見守りあり	審判をしながらの支援だったのですべての児童の細部まで見守ることができていなかった。	児童の表情や様子の変化に気を配り、異変があれば活動を止めて確認する。	1.いつもどおりの様子であった	練習開始後、痛めるまではいつも通りの様子で参加していた。痛めたあとは迎えまで指を気にする様子があった。また痛みを感じた時すぐに抜けず違和感を感じながら試合が終わるまで参加したようだ。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	審判を行いつつ児童を見守っていた。本児がキャッチミスをした時はボールが抜けていっただけのように見えたので試合を止めたり声をかけたりしなかった。試合終了後全体に痛い所がある人は知らせてほしいと伝え、本児からの訴えで気づいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	活動場所にいなかったため記載事項なし。	特記事項なし	痛みを訴えた時点で参加を止めさせるべきだった。	
330	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	10	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	8.学童	37							37		3	2	21. 9歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足骨折（ヒビ）	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	事例の共有とともに対応策や予防策を考え，備えておく必要がある。	事故事例やヒヤリハットの共有・マニュアルの確認を継続して行い，事故が起きた際の対応や予防策についても職員全員で考える機会をつくる。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	–	遊びを始める前に危険物等がないか目視で確認。遊戯室の床をモップで清掃する。	1.集団活動中・見守りあり	本児は普段体を動かして遊ぶことが大好きで運動能力も高いため，怪我の予防策が不十分だった。	遊びを始める前に怪我につながり得る行動や事例を児童と確認する。各部屋に１～２名職員を配置し見守りを強化する。準備運動を行い，怪我をしにくい体の状態をつくる。	1.いつもどおりの様子であった	体を動かして遊ぶことが大好きで運動能力も高い活発な児童。この日もいつも通りドッジボール（源平）で遊んでいて，夢中になってボールを取りに行く姿が見られた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	遊戯室でドッジボール（源平）の審判役で見守りをしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	児童クラブの受け入れと，出欠確認を行っていた。	ドッジボール（源平）が白熱し，本児も夢中になって積極的にボールを取りに行こうとする様子が見られた。	全体、個別の様子を確認して、興奮しすぎている時は一度落ち着けるよう促す。児童の様子を確認できるよう、全体の見守りを行う。	
331	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	9	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	18							18		2	1	21. 9歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	門歯（左下１番）外傷性歯牙亜脱臼、歯の破折C、門歯（左下２番）Hys	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	館内研修時に、実際に起きた事故の共有と合わせて事故が起きた要因・背景まで細かく分析し、具体的な事故防止策を考えられると良かった。	事故が起きた際の振り返りを継続して行い，事故が起きた要因や背景を共有し，防止策を考えることで今後の事故防止につなげる。	1.定期的に実施	実施頻度（ 2）回/日	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/月	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	–	週1回ロッカーや座卓等の細部にわたる安全点検を実施する。	3.個人活動中・見守りあり	児童が落ち着けるような声がけや働きかけが不十分だった。	児童の様子を見て，特に登館後すぐは注意をしながら落ち着いて活動ができるように働きかける。	1.いつもどおりの様子であった	座卓を囲んで学習やテーブルゲームを行っており、立ったり座ったりを何度か繰り返していた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	児童全員に目が届くように見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員はサテライト1,本館にいた	見守りはしていたが，児童の状況や動きに合わせた注意喚起の声がけが不十分だった。	児童の様子や状況に合わせて、普段通りの動きをしていても怪我をしないように声掛けを行う。また、実際にけがに繋がった事故の事例について児童に伝える機会を作る。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
332	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	7							7		7	4	19.７歳	1.男児		8.その他	1.負傷		2.骨折	1.頭部	骨折（第一頸椎、顎、後頭骨、前頭眼窩）挫傷（左目付近、肩、腰、背中）	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度（1）回/年	2.基準配置	―	―	1.定期的に実施	実施頻度(60)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(60)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(60)回/年	―	―	7.その他	暗くなり車の運転手からは見えにくい時間帯に母親は付き添っていたが、交通量が多い道を渡って、忘れ物を取りに児童館に向かったため	忘れ物については電話で児童館に確認してもらう（実際は忘れ物は児童館に無かった）	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り友達と折り紙で作品を作ったりして遊んでいた。17：50頃に母が児童館に迎えにきて17：55頃帰宅した。	4.対象児の動きを見ていなかった	迎えが来るまでは、いつものように友達と工作をしたり作った物で遊んでいる様子を見守っていた。事故が帰宅後のため、また起きた場所は児童館館外（建物より200m位離れた所）であり発生当時は見ていなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童の支援を行っていた。帰宅後の事故のため見ていなかった。	―	児童クラブを利用している児童に、再度横断歩道の渡り方や暗くなった時の安全確認、服装や反射板で知らせる等大切なことを集めて話し、周知した。	
333	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	29							29		4	4	19.７歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕肘部内側不全骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度（4）回/年	2.基準配置	遊具で遊ぶ際に起き得る怪我について職員間での共通認識が必要だった。	定期的に遊具を使う際に起き得る怪我・事故の事例や予防策について話し合い，共通認識を持つ機会をつくる	1.定期的に実施	実施頻度（１２）回/年	1.定期的に実施	実施頻度（１２）回/年	1.定期的に実施	実施頻度（１２）回/年	-	特に外の遊具に対して、破損箇所がないか等の他に水滴がついていないか、高温の部分がないか等、その都度事前に確認することを継続して行う。	1.集団活動中・見守りあり	一人ひとりの運動能力や発達に合わせた遊びを考える必要がある。	継続して遊びの前にケガをしないよう具体的な助言を行い、必要以上に気持ちを高ぶらせないように支援していく。また，子ども個々の運動能力、同学年間や異学年間での発達段階を考慮し，より安全で楽しい活動ができるよう工夫していく。	1.いつもどおりの様子であった	特に体調に問題はなく、精神的にも落ち着いていた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	大型遊具で遊ぶ児童の見守り役として職員1名を配置、さらにすぐ近くに大型遊具と周辺を見守る職員１名を配置していた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	この時、大型遊具１名、ボール遊び１名、全体確認１名の、全３名体制で外遊びを見守っていた。	気持ちが高ぶって怪我につながらないように，遊びの最中にも声がけや落ち着けるような働きかけをする必要があった。	見守り体制を維持していく。危険な行動が予知、予感される事態を感じたならば、速やかに活動を中止し、クールダウンさせながら落ち着いた活動ができるように支援する。	
334	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	10	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	20							20		4	4	19.７歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	5.下肢(足・足指)	挫創、打撲	4.玩具・遊具等施設・設備の安全上の不備によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度（5）回/年	1.基準以上配置	ケガの状況判断について、職員によって差があった。	マニュアルの見直し、職員の心構えについても確認し明記した。	1.定期的に実施	実施頻度(20)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(20)回/年	3.未実施	実施頻度（0）回/年	自然の風化、天候	一級建築士と今回点検を行った。定期的に専門家と点検する。	1.集団活動中・見守りあり	なし	職員は危険に対しての声がけを行っていく。子どもたちにそういう心構えを持ってもらう。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	職員の注意を聞けないほどかなり高揚し活発に動き回っていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	初めからはしゃいでいたので、職員は気を付けて見て声がけしていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他児の安全も見守りながら、本児の動きも見ていた。	本児自身の危険に対する考えが全くないようだ。職員が注意してもなかなか聞けなかった。	子どもとの信頼関係の見直しを行い、職員のあるべき姿についても共有する。	
335	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	79							79		6	6	21.９歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	歯ぐき裂傷	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	本児・加害児童含め，児童の普段の様子やその日の様子，興奮した時の傾向などを職員間で共有し，すぐに対応できるようにしておくと良かった。	児童の様子について共有する時間を作る。遊びの中でも職員間でこまめに情報共有を図り対応する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	-	施設等の安全点検を継続して行い，危険個所があれば迅速に対応できるようにする。	4.個人活動中・子どものみ	以前から仲の良い本児と，加害児童が久しぶりに児童館で遊べるということで登館直後から興奮気味であった。	本児と加害児童に対して注意喚起は行っていたが，遊びの最中にも休憩を挟む等気持ちが落ち着くような働きかけを行う。また，児童の様子を見て活動内容を設定する。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	登館時から興奮気味で館内を走る等安全面で心配な行動が見られた。	4.対象児の動きを見ていなかった	事故が起きた瞬間は見ておらず，怪我をした後すぐに気づき対応した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	怪我の発生を受けてから迅速に処置，保護者への連絡に当たった。	事故が起きた際に職員の目が届いていなかった。	児童の登館時の様子や日頃の情報を職員間で共有し、連携を取りながら児童を見守る。	
336	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	7	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	60							60		8	5	22.10歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		6.その他	4.上肢(腕・手・手指)	骨端線離開（骨折の一種）	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度（1）回/年	2.基準配置	特になし	危険予知と具体的事例についての情報共有	1.定期的に実施	実施頻度（１２）回/年	1.定期的に実施	実施頻度（１２）回/年	1.定期的に実施	実施頻度（１２）回/年	体育館の床の状況と本児の精神的なコンデションはどうだったか。当日特別滑りやすさは感じなかった	事前に施設の点検を行う	1.集団活動中・見守りあり	体育館という限られた空間で児童14名くらいで思い切り走り回った	活動前開始前にルールの説明や安全面について具体的に伝え、児童自身が安全に遊ぶ意識を持つよう配慮する。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	暑さでめったにしない鬼ごっこができることがとても嬉しい様子であり、興奮気味だった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	児童たちが王様陣取りをしている様子を時間を測りながら審判をしている職員と別な角度から児童を見る職員の２名で担当していた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	事故は館外（小学校体育館）で起きたので、担当職員以外は児童館にいた。担当職員から応援要請があったため１名すぐに駆け付けた	特になし	活動前、開始前にルールの説明や安全面について、今後より一層具体的に伝え、児童自身が安全に遊ぶ意識を持つよう配慮する。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
337	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	10	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	16							16		9	4	21.９歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)	左ひざ捻挫	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(24)回/年	1.基準以上配置	足場の安定しない山の斜面を一人で重い（10kg超）丸太を引き上げようとして起きた事故であった。	子どもの自発性を尊重していた活動中だったので、声がけが必要だったかもしれない。	2.不定期に実施	実施頻度（２）回/年	1.定期的に実施	実施頻度（２）回/年	3.未実施	実施頻度(０　)回/年	この活動では、のこぎりを使って木を切ったりする活動を人を配置して実施している。さらに何人かで同じ木を丸太に切り分けることもしていた。	このエリアでの活動は、●●小児童クラブだけでなく他市の児童クラブで実施している。そのため、切り分けられた丸太があちこちにある状況であった。今後この場を利用している他の児童クラブと連絡を取り合いながら、安全に留意していく必要がある。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	人的配置に問題があったとは思わない。今後このような行事を実施する際も同じような人員配置をと役割分担をしていきたい	1.いつもどおりの様子であった	この場所での活動が大好きで通算４回目の参加だった。そのため場所に慣れている感じで一人でいろいろなことに取り組んでいた。今回は丸太を引き上げ、別の木に登るための足場にしようとしていたらしい。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	その動きをする際には、引率責任者である室長が「気を付けて」の声がけはしていたが、その動きにはついて行っていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	その子の動きを把握していなかったようだ。その子からの申し出で事故発生に気付いたスタッフが、事情を聞きテーピングの措置を行い「あまり動かないように」と指示をした。	特になし	特になし	
338	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	8	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	8.学童	40							40		6	4	21.９歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	なし	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度（１２）回/年	1.基準以上配置	なし	提供する遊びの予想される怪我について、また遊びに対しての適切な人数や学年などを話し合い、事故予防に努める。	1.定期的に実施	実施頻度（４８）回/年	1.定期的に実施	実施頻度（４８）回/年	1.定期的に実施	実施頻度（４８）回/年	なし	遊戯室の床の状態を定期的に目視や触るなど確認を行い、必要箇所については修繕を行うようにする。	1.集団活動中・見守りあり	体力や体格差を考えて2年生以上の男女としていたものの、男女の体力や体格差も検討する必要があった。	遊び始める前怪我に繋がる危険な動きについて子どもたちへ伝え、注意して遊べるようにしていく。遊びによっては学年別だけでなく男女別で行うようにしていく。	1.いつもどおりの様子であった	いつも2年生以上の男女での活動に混ざって遊んでいた児のため、その日も自分からドッチボールへと参加した。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	審判をする職員とコートを挟んで向かうように立ち、真ん中付近で全体の子どもたちの動きを見守っていた。児が他児と衝突した後、すぐに気が付き声掛けを行い、事務室にいる職員へと引き渡した。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	担当職員と向かい合うようにして全体の児童の動きを見守りつつ、審判を行っていた。ボールを行方を目で追っていたため、児童同士の衝突もすぐに気づいた。	なし	なし	
339	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	10	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	7							7		2	2	19.７歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右の鎖骨骨折	8.その他	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(１　)回/年	2.基準配置	年齢に応じた声かけ見守り支援の位置、方法について配慮する。	配置基準に合わせて人数を配置しているため、特になし。	1.定期的に実施	実施頻度(２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１　)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(１　)回/日	特になし	遊ぶ前に遊具に不具合や危険箇所がないか確認を行う。	1.集団活動中・見守りあり	出来ない側転に挑戦した。	激しく動いているときは、落ち着かせるように声をかける。	1.いつもどおりの様子であった	利用登録はしていたが実際の利用は事故当日が初めてであり、興奮気味であった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	事故発生時の利用児童は７名。勉強やトランプで遊ぶ児童を見ながら当該児童の様子を見守り。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の児童とオセロをしていた。	怪我をした児童を見ていたが、他の児童を見た時に怪我につながった。	怪我などの可能性が高いことをしている児童への目配りや寄り添いを心がける。	
340	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	134							##		11	7	19.７歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手首骨折、右ひじ打撲	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	3.未実施	実施頻度(０　)回/年	2.基準配置	特になし	事故予防マニュアルを早急に作成し、職員全体で事故防止のための対応を共有する。	3.未実施	実施頻度(０　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(開館日)/年	特になし	遊具について定期点検を行い安全を確認しており、今回は遊具起因の事故ではない。ただし、遊具自体が徐々に老朽化しているため、事故につながらないよう引き続き注意する。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	館庭で遊ぶ際は、引き続き学年ごとに時間を区切る等で人数を調整し、支援員の目が行き届くようにする。	1.いつもどおりの様子であった	健康状態に異常はなく、言動も普段と変わりがなかったため。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	担当している学年の児童の動きを全体的に監視していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	各職員が、担当している学年の児童の動きを全体的に監視していた。	雲梯にぶら下がり、体を振ってそこから飛び降りようとする動作は、着地が上手くいかなかった場合は事故につながることが予想できる。	児童たちに外遊びで起こりうるケガ・事故について考えてもらい、安全を意識するよう機会を設ける。	
341	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	82							82		10	10	21.９歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(１　)回/年	2.基準配置	見守り時に死角がないよう対角線配置で見守ることは理解できているが、実際の場面での臨機応変な対応や支援員間の連携については課題がある。	全体を見守る時の支援員の立ち位地や支援員間の連携について、再度共有を図っていく。	1.定期的に実施	実施頻度(２　)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(１　)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(１　)回/年	和机の角部分にはクッションを貼って対応しているが、長辺部分にはクッション対応をしていない。	室内遊びの時は机を寄せる等して遊びの空間を確保し、和机に乗ったりぶつかったりすることが少なくするよう工夫する。	1.集団活動中・見守りあり	室内でついつい走ってしまう子もいて、支援員が注意するも場面もあった。	室内で走ること、和机をまたぐ等の行為が危険であることを繰り返し子供たちに伝え、実践的な態度が身につくようにしていく。	1.いつもどおりの様子であった	友だちによばれたことに気持ちが集中していたので、走って和机をまたごうとした。	4.対象児の動きを見ていなかった	他の児童の遊びを見守っていたため対象児童の動きを見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員にはそれぞれの分担があり、分担された見守りをしていて、担当者や対象児童を見てはいなかった。	支援員が３名配置されていたが、他の児童対応をしていたり分担して業務に当たっていて、対象児童の急な動きを把握できなかった。	個別に児童対応する支援員と、全体を見守る支援員等で声を掛け合いながら、全体の把握に努めていく。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
342	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	28							28		5	4	20.8歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	2.基準配置	安全点検等日頃から徹底していたが、グランドのロープが緩んでいたり児童の脚が引っ掛かかる可能性までは想定していなかった。	声掛け、見守りの強化。更なる危険予測をし全体で共有する。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)	遊具などの点検はしていたが、地面に張られているロープまでは意識していなかった。	危険だと思われる箇所の見直しをする。	1.集団活動中・見守りあり	外遊び時のグランドの地面に張られているロープのたるみの危険性を予測出来なかった。	外遊び時の見守りの強化。児童が遊ぶ範囲は定期的に点検を行う。	1.いつもどおりの様子であった	屋外活動中でボール遊びをしていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児童を近くで見てはいたが、動きを予測出来なかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の児童の見守りをしながら対象児童も見てはいたが、ロープの危険性まで予測出来なかった。	グランドのロープが緩んでいた。注意して遊ぶよう声掛けが不十分であった。ロープに足が引っ掛かり転倒してしまうという事が予測出来なかった。	全職員が危険行為、危険個所、起こりうる事案を予測及び把握をし、児童全体にもしっかり説明し共有していく。	
343	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	22							22		3	3	21.9歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(手・手指)	右橈骨遠位骨幹端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.基準配置	ゆるやかではあっても、坂道では転倒するリスクが大きい。	坂道を走るのは危険が伴うため、鬼ごっこは平坦な広い場所で行うよう指導。	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	外遊び担当の支援員は、距離をとり全体が見まわせる場所で声掛けや目配りで見守っていた。今後も配慮をして支援していく。	1.いつもどおりの様子であった	朝、登校時から下校時まで体調は問題無し。元気な様子であった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	事故が発生した坂の中程に立って周囲を見ていた。児童は支援員の前を走り過ぎ、1.5m程離れた場所で転倒した。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	担当職員とは5～6m離れた、坂の上の平坦な場所で全体を見守っていた。	特になし	坂を上ったり下ったり、走って鬼ごっこをするのは危険が伴うため、平坦な場所でのみ活動をさせる。声掛けと目配りでより注意を払う支援をする。	
344	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	10	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	27							27		3	1	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨遠位端骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	支援員が全体をに守る。	見守り個所になるべく早めに行く。	1.いつもどおりの様子であった	一番初めに遊具を取りたかったから走ってしまった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	先に走って行ってしまったため、追いつくことが出来ず離れたところだった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	先に走って行ってしまったため、追いつくことが出来ず離れたところだった。	子どもがいつも通り出来ると思ってしまった。	特になし	
345	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	47							47		6	5	20.8歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右ひじ骨折(全治3か月)	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.基準以上配置	なし	マニュアルの確認	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	床が棘だらけでケガ防止の為にマットと畳を使用している。	市と協議し、床の改善等を検討する。	1.集団活動中・見守りあり	自分の体力にあった活動が必要。	事故を予測する力を育む。	1.いつもどおりの様子であった	新しくなったフロアマットから畳へ他の児童と共に飛び越える遊びをしていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	痛がる声を聞きケガの状況確認をした。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	室内にいる児童が少なかったため支援員一人が室内保育をし、他の支援員は外遊びの保育をしていた。	室内にいる支援員が一名だったため、見守りの目が不足していた。	身体にあった活動を行って行くように児童に指導を行う。支援員の配置について検討を行う。	
346	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	11	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	17							17		4	4	22.10歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	戸外保育のため2支援あわせて8人体制。事前に6人で下見。	子どもたちの普段の様子から遊具等の正しい使い方をしてほしいことは伝えていたが、周知の徹底。	2.不定期に実施	実施頻度(-)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(-)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(-)回/年	安全マットが全体に敷いてあったが、裸足で過ごすスペースだったためボールを蹴ろうとした時に足の指がとられて負傷	遊具等の正しい使い方を下見の際に施設職員さんから指示を受け子ども達と共有していたが、ボールに関しては下見の際になかったこと、大人側の予想外の使い方をしたことから、児童への日常的な注意喚起の声かけを徹底していく。	1.集団活動中・見守りあり	猛暑の影響で例年より夏休みの外遊びの機会も減り、遊具等の正しい使い方の周知共有が日常的にできなかったこと。	遊具等の正しい使い方を下見の際に施設職員さんから指示を受け、子どもたちと共有していたが、ボールに関しては下見の際になかったこと、大人側の予想外の使い方をしたことから、児童への日常的な注意喚起の声かけを徹底していく。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	戸外保育（アスレチック施設）での活動	2.対象児の至近で対象児を見ていた	エリアごとに指導員を配置し注意喚起の声かけをしていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれが担当のエリアにいた	下見後に指導員全体で再度危険が予想されるエリアの共有、子どもへの周知内容の確認もしたが、予想外の使い方をしたため。	普段とは違う環境での自由時間だったため遊具等の使い方の共有。児童への注意喚起の声かけ	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
347	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	11	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	14							14		3	3	21. 9歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	事故予防に対して外部講師の研修が足りなかった。	各職員が事故予防研修に参加をする。また、参加した職員は他の職員と共有をし、マニュアルの見直しも検討していく。	2.不定期に実施	実施頻度(-)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(-)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(-)回/年	遠足先の公園だったので、普段の保育とは違う環境で遊んでいた。事故が起きた遊具は園のグラウンドにはない遊具で高さもあった。	園のグラウンドにはない遊具や、ある遊具でも極端に大きさや形状が違う場合は、必ず職員がすぐ近くで見守り声掛けをする。	3.個人活動中・見守りあり	全体での活動が終わり、帰園する前の時間に起きた事故だった。疲れ等が出ていたことも考えられる。	遠足の後半等疲れが出やすい時間には遊具遊びを行わない。	1.いつもどおりの様子であった	登室時から遠足に行くことを楽しみにしている様子だった。歩いている時はたくさん話し、遊具で遊んでいる時には特に興奮している等の様子はなく通常通りだった。	4.対象児の動きを見ていなかった	2クラスで遠足に行き、当日は6名の放課後児童支援員がいた。職員は分散して児童を見守っており、担当職員は少し離れた所にいた児童を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	すぐ近くに2名の職員がいたが、1名は別の方向を見守り、もう1名はその近くの遊具で遊ぶ児童の動きが大きく危険だと感じて注意をしていたので、落下の瞬間は見ていなかった。	遊ぶ前に遊ぶ場所の範囲や注意事項は話したが、一つの遊具の使用の仕方については確認をしておらず、注意喚起の声が足りなかった。	園外活動時は、子どもたちに各遊具の使用の仕方、注意喚起等の声掛けを行う。	
348	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	85							85		10	9	18. 6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	打撲、剥離骨折	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置	特になし	支援員全員で、定期的にマニュアルを確認し、危機管理についての共通認識を行う。	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	一緒に遊びたかったが、混ざれない児童がいた。	支援員は、子どもたちが一緒に遊べるよう促していく。	1.いつもどおりの様子であった	対象児は、ボールを取りに行くことに夢中になっており、周りが見えていなかった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	近くで全ての様子を見ていたが、突然起きたため止めることができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の見守りをしていたので、見ていなかった。	児童がバスケットボールを蹴る事を想定していなかった。	危険な行動を予測して早めに声掛けしていく。見守りをする際は、遠くにいる支援員でもトラブルになりそうな動きを早めに見つけられるよう全体を見守る。子ども達にもどんな事が危ないか普段から話し注意を促す。	
349	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	9	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	31							31		4	3	18. 6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右脚小指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	特になし	室内での過ごし方のルールの徹底する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	ロッカーは木製のため角がとれている。また、備え付けのため壁面から飛び出ておらず、現状より改善は難しい。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	室内での過ごし方のルールを指導する。	1.いつもどおりの様子であった	特に目立つ様子がなく、クラブ来所後は友達と遊び始める。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	近くで走っている児童に、複数回注意した。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の児童と会話しながら同じ室内にいた。	特になし	児童は事故後も課外の運動教室に参加し走っていたとのこと。また、保護者からも過ごし方について指導するとの話があった。室内での過ごし方について職員間でも再度周知し、指導を続けていく。	
350	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	29							29		3	2	22. 10歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手小菱形骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	特になし	屋外での遊び方を指導する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	園庭は障害物もなく見通しも良い。遊ぶスペースもゆとりをもって確保でできているため、改善の必要はない。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	屋外での遊び方を指導する。	1.いつもどおりの様子であった	特に目立つ様子がなく、クラブ来所後は友達と遊び始める。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児を含め、全体を見渡せる場所から見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	対象児を含め、全体を見渡せる場所から見守っていた。	特になし	児童は事故後も遊び続けていた。屋外での過ごし方について職員間でも再度周知し、指導を続けていく。	
351	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	35							35		5	2	20. 8歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	下前歯脱臼	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	本児の変化への対処不足や校庭到着後すぐに活動を始めてしまったこと。	いつもと様子の違う児童への対処を職員間で話しておく。到着後すぐ遊び始めないよう職員が配置についてから活動をすることを約束として話をする。	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	本児自身の服（幅広のズボン）にひっかかったとのこと。	当日の児童の服装に危険がないかの確認。	1.集団活動中・見守りあり	配置前に遊びたい場所へ走って行ってしまう（校庭へ行くまでに時間がかかり遊び時間が無くなってしまうため到着後まとめてから遊ばせていなかった）	遊び時間に余裕を持ち活動をしていく	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	普段外遊びは好んでいかないが、その日は得意に外へ行きたがった。わくわくそわそわした様子であった。	4.対象児の動きを見ていなかった	配置につく前だったため、一緒にいた児童が気づき声をかけてきた。配置担当は向かう列の後方にいたため校庭についていなかった。その日は向かう列も長くなってしまっていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれの配置場所につくところだった。	職員が全員配置場所・校庭につく前に遊びだし人員が足りないなりの体制が取れなかった。	普段外遊びに出ない児童への配慮。学年関係なく注意をしてみていく。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制												事故			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事者		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳									うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他								死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】							理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
352	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	8	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	108							##		10	8	19.７歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足踝の骨にひび	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(１　)回/年	2.基準配置	落ち着きに欠ける子どもであった為、もう少し注意して見ておくべきであった。	児童の些細な発言でも職員で共有し、保護者に伝える。児童が処置しなくても大丈夫と言っても処置する。	2.不定期に実施	実施頻度(３)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(３　)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(３　)回/年	特になし	危険個所を点検し支援員同士で共有し確認する。	1.集団活動中・見守りあり	落ち着きに欠ける子どもであった為、もう少し注意して見ておくべきであった。	階段の近くは歩くよう指導する。	1.いつもどおりの様子であった	ボール遊びをしていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	他児童と遊んでいたり、体育館内の児童を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	近くにはいたが個人的には見ていなかった。	特になし	児童の些細な発言でも職員で共有し、保護者に伝える。児童が処置しなくても大丈夫と言っても処置する。	
353	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	136							##		9	7	18.６歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	事故発生時の支援員の体制、配置、連携が良く適切に対応してくれる。（ケガをした児童への対応、保護者への連絡、その他児童への対応、状況確認等）これからも連携して対応していくことの大切さを改めて確認する機会とする。特に今回は危ない遊びをしていた訳ではないが、児童の安心安全を守るため支援員全員が常に全体の状況や様子を把握することの大切さを再認識する。（高い所に上らないなどの声掛け）	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	今回のケガと直接的な関係にはないが、落ち葉、小枝、樹木の刈込みなどケガの要因になりうる状態ではある。	子どもたちが安心安全に活動できるよう、環境整備に努める。	3.個人活動中・見守りあり	遊具の後ろに茂み部分があり、見えずらい環境にある。ケガやトラブルなどの早期発見、早期対応に支障がある場合も想定される。	支援員は常に全体を把握するよう流動的に動くこと、また支援の目が行き届くよう樹木の伐採などの環境整備を行う。	1.いつもどおりの様子であった	普段通り、他の児童と外遊びをしていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	事故現場となったブランコ付近に1名職員が配置されていた。対象児童の動きは目で追う程度だった。該当児童と一緒に遊んでいた児童がすぐ近くにいた職員に声をかけてくれ、対応するに至る。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	校庭にいた職員が気付き、現場近くにいた職員と一緒に対応する。校庭にいた他の職員に、校庭にいる児童の部屋への誘導をお願いする。施設前に該当児童を搬送後、部屋にいた職員に保護者への連絡と病院に行く手配をお願いする。	今回は職員の体制、配置が適切になされていたので、みなが連携し対応することができた。	救急車を呼ぶ判断について再検討し学校にも意見を聞いて見る。（以前、救急車を要請した際に受け入れ先の病院を探すのに30〜40分以上かかったことがある。直接病院に連れて行った方が治療が早いことがあるので、救急車要請の判断は迷うところ。患者を動かせないような病状であれば救急車の要請は必須だが、ケガなどは救急車任せにすると悩ましい面もある。）	
354	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	31							31		7	4	21.９歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手人差し指　粉砕骨折（爪・皮膚の損傷あり）	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置	特になし	事故やケガの防止に向けた対策や発生時の対応を職員間で共有する	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	3.未実施	実施頻度(０)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(開所日数)回/年	特になし	非常口の張り紙、安全カバー（緩衝材シートで扉蝶番側の隙間全面を覆う）を付ける	1.集団活動中・見守りあり	特になし	児童が危険を回避できる力『安全対応力』を身に着けられるように話をしていく	1.いつもどおりの様子であった	室内（非常口近く）で遊んでいた。外から何度も非常口を叩く音が聞こえ、扉越しに注意するが続く。非常口を開け注意しドアを閉めようとした。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	保護者対応中、「開けないよ」と声がけする	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当職員に対応を任せ、他児の見守りをしていた	日常的にクラブ生活のルールを守るよう、繰り返し継続的に支援をしていた。保護者にもその件で相談していた。なかなか改善が見られなかった。	『資質向上研修』で怪我発生の際の対応の知識・環境整備等の安全対策を学ぶ	
355	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	70							70		6	3	19.７歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨頭骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(２　)回/年	2.基準配置	特になし	児童の転びやすさやこれまでの骨折歴などの情報を予め把握し，安全面への配慮と事故防止を徹底していく。	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	特になし	支援員の配置人数に問題はなく，怪我の状況のみを考慮すると防ぐことが可能な事故であった。	1.集団活動中・見守りあり	地面とコンクリートの土台とのわずかな段差だが転倒に繋がり，受け身の体制を取ることが出来なかった。	固定遊具の近くで鬼ごっこをしないように改めて注意，指導する。	1.いつもどおりの様子であった	鬼ごっこに夢中で，足元に注意がいかなかった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	児とは少し距離があったので，転倒時を見ていない。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれの場所で見守りについていたので，転倒時を見ていない。	特になし	他に考えられる要因がないため。	
356	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	9	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	75							75		7	3	20.８歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(２　)回/年	2.基準配置	特になし	児童が遊びの中で予期せぬ怪我をする危険性を孕んでいることを，事故防止対応マニュアル等で再度確認し対応を徹底していく。	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	特になし	支援員の配置人数に問題はなく，怪我の状況のみを考慮すると防ぐことが可能な事故であった。	1.集団活動中・見守りあり	鉄棒で空中逆上がりをしようとして，落下した。	鉄棒を含め固定遊具は落下しケガに繋がる可能性も含め，遊び方の注意喚起をしていく。	1.いつもどおりの様子であった	活発だが落ち着きがあり理解も早く運動神経も良い。事故当日は鉄棒の練習に熱心であり，水分補給休憩後もいち早く鉄棒に向かい練習を始めた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	水分補給休憩後，本児が先に鉄棒へと走っていったのですぐに追いかけた。本児がうずくまっているのを見つけた。落下の瞬間は見ていない。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれの遊具の見守りについたので，落下時を見ていない。	泣いていたが保育室に戻った時には泣き止んでいた。落下時を見ていないので，念の為に病院へ行った方が良いという認識だった。通院したか保護者に確認をするために電話を入れた。	他に考えられる要因がないため	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
357	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	32							32		3	1	21.９歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手薬指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(２)回/年	2.基準配置	特になし	打撲等のケガは30分ごとに腫れや痛みを確認する。保護者と受傷部位を確認する際は，可能な範囲で湿布を外して行うようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	特になし	支援員の配置人数に問題はなく，怪我の状況のみを考慮すると防ぐことが可能な事故であった。	1.集団活動中・見守りあり	芝生にはマンホールの蓋や埋設表示物が置かれており，校庭との行き来に通っていたが，特に注意を促すことはしていなかった。	埋設表示物（給水）にコーンをかぶせ注意を促す。	1.いつもどおりの様子であった	校庭から集合場所へ地面に注意することなく走ってきた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	児とは少し距離があったので，転倒時に手を差し伸べることが出来なかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれの場所で見守りについていたので，転倒時を見ていない。	特になし	他に考えられる要因がないため。	
358	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	10	8.夕方(16時頃〜夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	15							15		3	3	20.８歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手首骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	特になし	マニュアルの共有を引き続き行う。日頃から基準配置、またはそれ以上の職員配置を行っているため、引き続き見守りを徹底していく。	3.未実施	実施頻度(0)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週	特になし	引き続き必要な点検を行う。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	活動の内容や児童数に合わせて必要な職員数で見守りを行う。	1.いつもどおりの様子であった	いつもと変わらず元気に遊んでいた。遊びの内容も日頃から遊んでいるもので、参加児童もいつもと特に変わりはなかった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	動きが活発な児童であり衝動的に行動してしまうこともあった為、当日も至近で対象児の見守りを行っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	動きのある活動だった為、目を離すことがないよう活動全体の見守りを行っていた。対象児・担当者の動きも全体の動きの中で一緒に見守っていた。	特になし	体を十分解してから運動遊びを行えるよう準備運動を徹底する。遊びの中での危険に気付き回避出来るよう普段から児童に話し、準備運動等安全に遊ぶための体づくりの必要性を伝える。見守り時には今まで以上に危機意識を持ち、対応出来るよう職員間で共有する。危険に繋がる行動について施設全体で注意喚起する。	
359	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	10	8.夕方(16時頃〜夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	23							23		3	3	18.６歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	3.未実施	実施頻度(０)回/年	1.基準以上配置	最初は鉄棒の下の砂場で複数の児童で砂遊びをしており、鉄棒をしていなかったため注視はしていなかった。	今後も更に全体を見守りながら、遊具を使っている児童がいたら声かけをしてから遊具を使ってもらう。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(36)回/年	施設面に関しては特に要因は見当たらなかった。	施設面に関しては問題はなかった。	1.集団活動中・見守りあり	最初は鉄棒の下の砂で複数の児童で砂遊びをしており、鉄棒をしていなかったため、その時は注視していなかった。	児童は鉄棒を使用する際は、職員に声かけをするようにする。	1.いつもどおりの様子であった	最近、1年生は体育の授業で鉄棒に取り組んでおり、一生懸命練習をしている。当日対象児童は鉄棒をした際に手を離してしまった。	1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた)	すぐに室内に戻り、冷やす処置を行った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童を見守っていた。	普段から鉄棒で楽しく遊んでいる児童が多いが、この日は当該児童が手を放してしまったために起った。	怪我があった際の連絡を保護者・弊社へ速やかに行えるように再度確認をする。	
360	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	7	8.夕方(16時頃〜夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	25							25		2	1	18.６歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)	左足関節外果不全折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1〜２)回/年	2.基準配置	特になし	事故予防に関する研修への参加を更に徹底し、職員一人ひとりの意識を高めていく。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(0.５)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(適宜)/年	特になし	該当児は遊具は使用しておらず、校庭に障害となる物も落ちていなかったため、ハード面の瑕疵はなかったと考える。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	児童自身が自分の体調に気を配れるような声掛けを行う。また、疲れている様子があるか体調面をよく観察し、静と動の活動に配慮する。	1.いつもどおりの様子であった	鬼ごっこが白熱しており、自身の身体能力についていけなかった面が見られた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	少し離れた所から、該当児を含めた複数の児童の遊びを見守っていた。該当児の側で一緒に並走している状況ではなかった為、体勢を崩した児童を抱きかかえことはできなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	外遊び中であった為、他児童の見守り中であった。鬼ごっこの場面は見ていたが、他児を見ている間に該当児童が転び、うずくまっているのを目撃した。	週の終わりであった為、該当児の疲れが溜まっている状態の配慮にかけていた。	特になし	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
361	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	33							33		5	2	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左ひじ骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1～2)回/年	2.基準配置	今回怪我人発生時のマニュアルに沿って迅速な対応はできたものの、救急車要請に至る対応の有無の判断は難しかった。	転倒や落下の恐れのある遊具に対しての見守り職員の常駐。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	鉄棒の下に落下によるケガ防止のマット設置なし	鉄棒からの落下に対し、マットレス等（衝撃を緩和）の設置を講じる。	1.集団活動中・見守りあり	一年生の授業が今鉄棒を行っており鉄棒で遊ぶ児童が増えている。また、一輪車やボール遊びをする児童もいるため見守りしながら声掛けをしなければならない状況。	短時間でも子どもたちに休憩をするよう声をかけること。職員が鉄棒の側に行見守りを行う事。	1.いつもどおりの様子であった	体調不良もなくいつも通りに学童に登所していた。	4.対象児の動きを見ていなかった	一輪車やボール遊びをする児童もいるため見守りしながら声掛けをしている状況だった。校庭が狭いため一つ一つの遊びのグループが近いので子ども同士の接触を避けるため声掛けをしている。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	別の場所で対応や見守りを行っていた。特別支援学級の児童もいるため、対応に時間がかかることもある。	特になし	鉄棒に限らず、怪我が起こりやすい場所には集中して職員を配置し見守りを行う。	
362	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	10	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	48							48		5	5	20.8歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	2.顔面(口腔内含む)	左鼻骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	各部屋にいる際には、廊下にも目を配るようにし、走ることがないよう注意喚起を行う	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	蝶番にクッションカバーを取り付けた。階段、廊下の床にテープを貼り、右側通行が出来るようにした。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	子供達の数に合わせた見守りをしていく	1.いつもどおりの様子であった	廊下の角を曲がった際、向かい側から来た他児の手が自分に当たると思い避けた	4.対象児の動きを見ていなかった	職員がそれぞれの部屋で見守りを行っていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他のクラブ職員は別の場所で行事を行っていた。また、クラブ室内にて全体を見守っていた	特になし	子供達全体へ廊下を歩く際には周りに気をつけて通行するよう注意喚起を行う	
363	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	3							3		2	1	21.9歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	転倒した際捕まるものや支援員が手の届く所にいなかったため	加配対応に戻し職員を増やし常に手の届く範囲で見守り、職員ミーティングで当日の配置について細かく確認を行う	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(52)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	通路が当該児童にとっては若干狭いため、通る際には障害物になりえる物（テーブル等）を端に寄せ可能な限り広くする	1.いつもどおりの様子であった	特になし	2.対象児の至近で対象児を見ていた	目の届く場所にはいたが手は届かなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童の対応をしていた	加配対応にしていなかったため付きっきりにできていなかった	ー	
364	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	9	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	30							30		5	4	20.8歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨端線損傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	事故当時、対象児は上履きを履いていなかった	片付けでは児童が机を移動しない事とし、上履きを履くことを徹底する	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	特になし	児童が1人で移動するのは難しい机であるので、環境面、人的面での改善策をしっかり行う	3.個人活動中・見守りあり	特になし	児童の片付けは椅子のみとし、机は職員が片付けることとする	1.いつもどおりの様子であった	職員の片付けを手伝いたいという気持ちを普段から持っている	4.対象児の動きを見ていなかった	職員が机と椅子の片付け作業中に対象児が声がけせずに入室し、職員の背後で机の移動を始めたため気づくことが出来なかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	対象児が手伝いを始めていたことに気づいていなかったため、声をかけることも出来なかった	特になし	今後、事故が発生しないよう、帰りの会などで定期的に子どもたちに周知するとともに、常に声掛けをする	
365	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	10							10		7	5	18.6歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.基準以上配置	特になし	子ども達が分散しないよう延長時間は図書室に集め見守っているが、夕方の職員数を増やし、他所を掃除している間も見守れるよう手厚くした。	2.不定期に実施	実施頻度(4)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	特になし	夕延長の時間に一部の職員が掃除をしている際に起きた事故だったので、児童の導線になる箇所の掃除は18時以降に行うことにした。	1.集団活動中・見守りあり	マットの掃除のためモップがけをしていたので、滑った可能性もある。	モップがけは児童がいない時間帯に行うことにした。	1.いつもどおりの様子であった	普段から室内で走ってしまうことが多かったので、しばしば職員が注意をしていた。事故当時も直前に危ないから走らないでと職員が何回か声をかけていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	延長利用の児童が10名おり2名の職員が児童を見ていた。児童が転んだ瞬間を見ていた職員はいなかったが、鳴き声がしたので振り向くと児童がうつぶせに倒れていた。職員が駆け寄り痛いところはないか声をかけた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	図書室内で別の児童を見ていた。その他3名は掃除をしながらトイレや水飲みに行く児童を見守っていた。	夏休みの体制のため延長時間の職員が少なかった。施設長は出張のため不在だった。	怪我を軽く考えず、常に最悪の状態を想定して動くよう職員間で確認した。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
366	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	88							88		12	6	21. 9歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	鎖骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	遊びの際に加減や危険予測(接触)について、指導がしきれていなかった。	事前に遊びに混ざっている児童全員を止めて、指導と注意喚起を行う。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	校庭で遊んでいるため、勢いよく走ると砂で滑りやすい。	普段から滑り込まないよう声をかける。ぶつかりそうな場面では、ボールを取り合うのではなくジャンケンで決めるようにする。	1.集団活動中・見守りあり	人数変化に応じた遊びの広さを調整行っていなかった。	人数、年齢などに合わせてその都度範囲の調整を行う。	1.いつもどおりの様子であった	同級生と共に、自ら遊びに参加していた。	4.対象児の動きを見ていなかった	見守りの職員が学校用務員から落とし物を渡されて、しまうために持ち場を離れていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	見守りの職員が、その場から離れたことに気づかず他児童の見守りを行なっていた。	見守りの職員が持ち場から離れる際に他職員に伝達が行われず、接触前に注意喚起ができなかった。	地域児童も含めて、力の加減や危険予測、距離感について指導を行う。	
367	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	11	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	8							8		1	0	20. 8歳	2.女児		8.その他	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足小指ヒビ	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	3.基準以下	当動作を行う際、顔面保護の為マットを使用していたが、体全体を覆うマット上で行うことも必要であった。	当動作は着地の際、当該児童自身の足を踏んでしまったことにより発生したが、事前に当動作には負荷がかかることを伝えることが必要である。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	動作の内容を踏まえ、必要に応じて靴の着用を促す。	1.いつもどおりの様子であった	いつ通り、講師の指示を聞いていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	通常の体育プログラム時間と同様全体を見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	外部委託のプログラムのため放課後支援員は対応せず。	特になし	体育プログラムであるが、動作一つ一つにある危険を伝える。	
368	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	25							25		3	2	20. 8歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	事故発生時、校庭見守り職員(放課後児童クラブ職員+校庭開放スタッフ)⇒放課後児童支援員４名　補助員３名※その他職員は各育成室・●●配置	事故予防に関する研修を年数回でなく定期的に行う。安全管理マニュアルに基づいた支援体制だった為、職員配置の改善点は無し。	2.不定期に実施	実施頻度(３)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(３)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(３)回/年	なし	事故発生場所の校庭は、学校の設備を利用しており、点検等は学校の基準に準じて行っている。従って、当事故においては改善策無し。	3.個人活動中・見守りあり	本児を含む集団の見守りを近くでしている大人がおらず、事故発生の瞬間を見た大人がいなかった。	子ども達のみで遊びが成立している場合でも、常に大人の視界に入るような大人の配置をする。	1.いつもどおりの様子であった	サッカークラブに所属しており、毎日校庭ではサッカー遊びをしている。本日もいつもと同じメンバーで校庭にてサッカーをしていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	他児童と長縄(回し手)を校庭で行っていた。⇒サッカーをしている方向に対して、背を向ける形で行っていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	ドッチビーやブランコ等をしている児童を見守っていた。⇒サッカーをしている児童の近くで見守っている支援員はいなかった。	普段児童が校庭で遊ぶのはおやつ後１回のみ。しかし、この日は４時間授業であり、おやつ前後で２回校庭遊びの時間があった。また、学校授業では運動会練習が始まっており、疲れが見える児童もいた。	技能や身体能力に差がある子ども達が一緒に遊ぶ際は、適度に力を調整しながら遊ぶ必要性を適宜伝えて行く。	
369	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	78							78		9	5	18. 6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(10)回/年	1.基準以上配置	事故発生当日は、小学校の全校遠足で疲労が溜まっているであろう予見が不足していた。	疲れが予想される場合には、全体に注意喚起を行ったうえで、職員も意識をしていく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	発生日に遊具の異常は見られなかった。	引き続き遊具等に異常がないかを点検していく。	1.集団活動中・見守りあり	鉄棒付近で職員が様子を見ていた。上手に遊べていたため、職員が目を離している間に起きてしまった。	直前まで遊びの様子を確認しており、安全と判断できたため別の場所を見るために目を話したので、改善策はない。	1.いつもどおりの様子であった	遠足だったが、通常通り元気に遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	鉄棒付近で職員が様子を見ていた。上手に遊べていたため、職員が目を離している間に起きてしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員は、ドッジボールや一輪車、野球などそれぞれの遊びを見ていた。	事故発生当日は、小学校の全校遠足で疲労がたまっていたと考えられる。	特にないため、改善策なし。	
370	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	12	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	60							60		6	5	20. 8歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	2.基準配置	特になし	マニュアル順守・研修実施・職員体制を基準配置は行えているため、ソフト面に関しての改善策は特になし。	1.定期的に実施	実施頻度（毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(週1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(週1)回/年	特になし	施設・設備等に問題はないため、ハード面での改善策は特になし。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	支援員が3名で見守っており、あそび方についてもルールを守って遊んでいたため、改善策は特になし。	1.いつもどおりの様子であった	2,3年生男児とサッカーをして過ごす。一緒に遊んでいた3年生男児がボールに夢中になりボールを取ろうと体を入れた際に対象児がバランスを崩し転倒、左肩付近を地面に打つ。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児の近くで校庭の全体の見守り、他の児童と関わっていた。対象児うずくまって泣いていることに気が付き、すぐに駆け寄り室内へ移動し冷却する。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員は他の児童の対応や、各配置場所で児童を見ていたため。	特になし	特になし	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
371	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	9	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	77							77		8	5	20.8歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷性歯の脱臼、亜脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(15)回/年	1.基準以上配置	学童職員も外に出ていて見守り活動をしていたが、把握できていなかった。	目の前の子どもだけを見るのではなく全体を見るという事をクラブミーティングで確認する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	遊具や木など物が乱立している場所では不意の事故も起きやすい。	改めて職員が危険個所を認識し事故の情報を共有する。	1.集団活動中・見守りあり	子どもはいついかなる時でも大人が考えもしない行動をとる。	子どもが危険な行動をとっていた場合はすぐに注意する。	1.いつもどおりの様子であった	変わった様子もなくいつもとおり元気だった。	4.対象児の動きを見ていなかった	マンション側遊具のそばにいたので見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	昇降口付近にいたので見ていなかった。	校庭内で職員がいる場所は決められているが、そこだけを見ているという意識だと異変を見逃してしまう。	子どもたちへ今まであった事故を伝え危険な場所はどこなのかを考えてもらう。	
372	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	44							44		11	9	20.8歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	特になし	危険な躱し方をしないように注意喚起	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	今回の事故はハード面での問題はなかったと考えている。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	今回の事故は環境面での問題はなかったと考えている。	1.いつもどおりの様子であった	見たところいつも通りの様子であった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児のそばでドッジボールを見守っていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	室内での保育を見守っていた	特になし	その他の要因がないため特になし	
373	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	127							##		16	9	21.9歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	特になし	児童に対しては運動をする前には十分な準備運動を行うよう注意喚起を行った。職員に対しては子ども達の準備運動の状態を把握するように伝えた。	1.定期的に実施	実施頻度(10回)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(10回)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(10回)回/年	特になし	今回の事故はハード面での問題はなかったと考えている。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	準備運動に関して、今後も児童一人一人に伝えていく。	1.いつもどおりの様子であった	ドッジボールでパスをしていた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	当該児童含め児童の見守りを行っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	当該児童含め児童の見守りを行っていた。	特になし	その他の要因がないため特になし	
374	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	11	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	40							40		9	8	20.8歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手小指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	特になし	少人数であっても他の階へ行くときは職員が先頭に立ち、並んで連れて行く。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	今回はハード面での問題はなかったと考える	3.個人活動中・見守りあり	特になし	少人数の移動でも、きちんと並んで移動する。	1.いつもどおりの様子であった	階段の登りで躓いた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	3階のトイレに連れていくために一緒に移動中であった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の活動場所で児童の対応に当たっていた	特になし	その他の要因がないため特になし	
375	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	11	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	21							21		8	5	21.9歳	1.男児		8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手小指骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	特になし	児童に対し運動前に十分な準備運動をするよう注意喚起を行った。職員に対しては異学年が集まる練習時にそれぞれのレベルに合わせるように気をつけることとした。	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	特になし	今回の事故はハード面での問題はなかったと考えている	1.集団活動中・見守りあり	特になし	どんな活動でもケガにつながることの無いように今後も十分に配慮していく	1.いつもどおりの様子であった	いつもと同様ドッジボールの練習をしていた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	試合形式の練習をしていたので審判をしていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれの持ち場で他の児童を見守っていた	特になし	運動前に十分な準備運動をする。無理な練習はしないように指導する	
376	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	11	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	21							21		3	2	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	職員間での情報共有を行い、再発防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	今回の事故はハード面での問題なかったと考える。	3.個人活動中・見守りあり	転落前に同じ体勢を取ることができて、達成感を得ていた。	注意を促す声かけをする。	1.いつもどおりの様子であった	特にいつもと変わらない様子だった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	当該児童含め児童の見守りを行っていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	それぞれの持ち場で他の児童を見守っていた。	当該児童以外も周りで遊んでいたため、側についていることが出来なかった。	鉄棒の使用方法について再検討し、危険な方法での使用はさせない。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
377	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	21							21		6	4	19. 7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足首剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	特になし	外遊びや運動をする前には必ず準備運動をしているが、寒くなってきたためより念入りに準備体操を行うよう注意喚起を行った。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	今回の事故はハード面での問題はなかった。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	転倒等があった場合にも、すぐに応急処置ができるよう十分に配慮していく。職員間で速やかに連絡がとれるようトランシーバーを増設した。	1.いつもどおりの様子であった	準備運動後、バスケットコートでシュートを打っていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	当該児童含め児童の見守りを行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれの持ち場で他の児童を見守っていた。	特になし	外遊びや運動をする前には必ず準備運動を行うよう注意喚起を行った。	
378	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	12	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	65							65		8	7	20. 8歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	特になし	児童に対し運動前には準備体操を充分行うように注意喚起を行った。また、人の近くでボールを蹴ると大きい事故に繋がることもあるので気を付けるように話をした。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	ハード面での問題はなかったと思われる。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	ボール遊びでは、当たり所によっては大きな事故につながることを認識し、見守りや声掛けを行っていく。	1.いつもどおりの様子であった	普段通り校庭で集団遊び（サッカー）をしていた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	当該児童含め児童の見守りを行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれの持ち場で他の児童を見守っていた。	特になし	その他の要因がないため特になし	
379	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	11	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	144							##		14	12	22. 10歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	準備運動を十分に行い、初めから強いパスを行うのではなく徐々にパスは強く早く行うように注意喚起を行う。	2.不定期に実施	実施頻度(6)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(6)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎回)回/年	特になし	今回の事故はハード面での問題ではなかったと考えている。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	今後も準備運動を十分に行い、ケガ防止を行っていく。	1.いつもどおりの様子であった	ドッジボールのパスを練習していた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	ドッジボールコーチをしていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	ドッジボールコーチをしていた	特になし	その他の要因がないため特になし	
380	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	12	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	50							50		8	5	20. 8歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	成長軟骨という部分が欠損	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	特になし	児童に対して運動をする前には、十分な準備運動を行うよう注意喚起を行った。職員に対しては職員同士でなるべく児童が視界に収まるように気を付けることとした。	1.定期的に実施	実施頻度(使用時毎回)	1.定期的に実施	実施頻度(使用時毎回)	1.定期的に実施	実施頻度(使用時毎回)	特になし	今回の事故はハード面での問題はなかったと考えている。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	用具をソフトにしていても怪我につながることがないよう、今後も充分に配慮していく。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りドッジボールをしていた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	当該児童含め児童の見守りを行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれの持ち場で他の児童を見守っていた。	特になし	その他の要因がないため特になし	
381	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	22							22		3	2	18. 6歳	1.男児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	8.その他	1.あり	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.基準配置	本クラブは目の前が芝生広場で見通しが良いので、下校時間は外の様子を気にしつつ保育室から外を見ている。しかし、怪我が起こった場所は死角になる所だった。	保育室から死角になる場所になるので、下校時間には側に立ち見守る。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	安全点検の項目に屋外の項目がない。	安全点検の項目に屋外の項目を取り入れる。	7.その他	特になし	保育室から死角になる場所になるので、下校時間には側に立ち見守る。柵の開閉は職員で行う。	1.いつもどおりの様子であった	当施設の敷地に入ったところで体勢を崩し、柵に掴まる。後から帰ってきた他児が柵を閉めた際、本児の右手中指を挟んだ。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	学校から徒歩で帰ってきた所を窓から目視。右手を左手で押さえた状態で怪我したことを訴えきた本児にすぐガーゼで止血。看護師を呼び、看てもらい保護者に連絡する。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	怪我をさせてしまった子、他の子が動揺しないように児童たちを室内に集め、いつも通りの関わり努めた。	特になし	保育室から死角になる場所になるので、下校時間には側に立ち見守る。子ども達に、柵の開閉は職員で行うことを伝える。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
382	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	36							36		5	3	21.９歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手小指の剥離骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	体育館で30人程の児童がドッチボールやバスケ等分かれて遊んでいたが、職員は３人の配置だったため見るところが多く注意が散漫になってしまっていた。	一つのゲームに必ず一人は職員を配置する	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	無し	無し	1.集団活動中・見守りあり	無し	無し	1.いつもどおりの様子であった	仲のいい４人組でバスケをしていた。怪我をした際も痛がる様子はなく、そのまま遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	他の児童のグループを見ていたため見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童グループを見ていたため。	児童が数グループに分かれて違う遊びをしているのを一人の職員が交互に見ていたため事故にあったときは見れなかった。	職員一人で見るのが厳しい場合は、グループを合併して遊ぶ等児童を見守りやすくする様に対応を変えていきたい。また、児童にも誰かとぶつかったり転んだりした際は職員にすぐに伝える様お願いする。	
383	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	10							10		2	2	21.９歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足中足骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度(0　)回/年	2.基準配置	特になし	支援員研修の際に当該事故の状況と、その対応策を他教室の支援員等にも周知していく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	特になし	対象児童が単独で側転を行い、着地の際に足のつき方を誤ったために骨折した事故であるが、今後他の要因により事故が起こらぬよう定期的に安全点検を実施するよう支援員に依頼した。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	教室を利用している児童には禁止事項(前転をしない、側転をしない、叩かない、引っ張らない)を伝えてはいたが、今回のことがあったため、教室全員で禁止事項を再確認した。	1.いつもどおりの様子であった	来室時も帰宅時もいつもどおりの様子であった。	4.対象児の動きを見ていなかった	対象児に背を向けており、対象児を見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	迎えに来た保護者と会話をしており、対象児の方を見ていなかった。	特になし	体調に変化があった時や、けがをしたかもしれない時には支援員に報告するよう教室内の児童に改めて周知した。	
384	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	30							30		4	3	21.９歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘上腕骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(随時)回/年	1.基準以上配置	特になし。	本年度内に安全計画を策定し、定期的な安全点検が実施できるよう計画する。また、平時からも危険な箇所・玩具を発見した場合は速やかに報告・対処するよう職員へ共有する。	1.定期的に実施	実施頻度(随時)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(随時)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(随時)回/年	特になし。	定期的に施設内の点検をし、故障・破損等の危険個所がないか確認する。	1.集団活動中・見守りあり	児童が遊びに夢中になっている際には、ケガに気をつけるよう声掛けをする。	職員同士の連携で危険個所から目を離す時には引継ぎで見守り、全体フォローができるようにする。地面が湿っている時は靴の裏に土がつき遊具から滑りやすいので、そのような日は使用しない等の約束を決める。その他使用ルールを徹底する	1.いつもどおりの様子であった	小学校グラウンドのタイヤ遊具で友達と仲良く遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	ケガをした児童を含め、児童数名を近くで見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童の動きを見守っていた。	特になし。	職員が危険と思った行動には声掛けをして止める。児童へなるべく「気をつけて遊ぶ（使う）ように」と繰り返し声掛けをする。	
385	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	9	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	36							36		5	4	20.８歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘付近骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度（１　）回/年	1.基準以上配置	特になし	毎日の児童の健康状態を的確に把握することを一層心がける。	1.定期的に実施	実施頻度（１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度（１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度（１２)回/年	特になし	遊具を利用するのにふさわしい技量と体力を持っているか掌握する。	3.個人活動中・見守りあり	特になし	年齢学年、体格、技量によって遊具の利用を制限する。	1.いつもどおりの様子であった	平常日課通り、外（グラウンド）での遊び時間になり友達と遊具（雲梯台）に向かい利用した。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	グランド外遊びの小学校グラウンドは広いため職員は全体が俯瞰できる三箇所の地点を決め見守りをしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	グランドが広く、職員それぞれ分担して児童を見守るため該当児童を見ることが出来なかった。	特になし。	学校との連携をより密に行い安全確保に努める。	
386	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	6							6		2	2	21.９歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨頭骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(随時　)回/年	2.基準配置	特になし。	事故発生状況について職員間で情報共有を行い、再発防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(不定期　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(不定期　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(随時)回/年	特になし。	定期的に施設内・運動場の整備を点検し、故障・破損等の危険個所がないか確認する。	1.集団活動中・見守りあり	特になし。	危険行為等を発見した時は、随時注意・呼びかけを行う。踵を踏んで靴を履いている時には転倒防止のためしっかり声掛けをする。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	学童内で友達と仲良く遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	当該児童を含む6名を近くで分散して見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の児童の様子を見守っていた。	児童の様子に注意を払っていたが、一瞬の出来事であったため発生を防ぐことができなかった。	随時、職員間で安全保育の意識共有・情報共有を徹底する。事故発生時には速やかに事務局へ報告を入れるよう連絡体制の再確認を実施する。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
387	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	31							31		4	2	20. 8歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足関節外果骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	2.基準配置	特になし	研修を定期的に実施し、事故発生時の対応を職員間で共有する	2.不定期に実施	実施頻度(随時)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(随時)回/年	他団体管理の遊具を使用	ハード面は問題なし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	事故の発生が予測される場合は、特に注意深く見守る	1.いつもどおりの様子であった	普段と変わりなく、過ごしていた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	少し離れた場所から見守りをしていたが、事故には気づかなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	外遊びをしていた、他児童の見守りをしていた	ケガをした児童は外遊び後も変わった様子もなく、支援員も怪我に気付かなかった	外遊び後には、ケガや痛みがないか声掛けをして児童が伝えやすい環境を作る	
388	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	28							28		4	3	19. 7歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	職員ミーティング等で定期的に確認する時間を設ける。また、オンラインにて研修を受講できるため、主任だけでなく他の職員にも研修の受講の時間を設ける。	2.不定期に実施	実施頻度(随時)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(随時)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(随時)回/年	特になし	現状の対応（運動場の石や木など、目に見える部分の整備）に加えて定期的に遊具の点検を実施。	3.個人活動中・見守りあり	環境面は問題なし	環境面は問題なし	1.いつもどおりの様子であった	普段から活発に行動し、1つの物事に集中するタイプであり、事故当日も雲梯に熱心に取り組んでいる様子だった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	雲梯傍で見守りをする職員が1名いた。繰返し取組んでいたため、疲れている可能性を考慮し、職員は休憩するよう声かけをしていた。他の児童もいたため事故の瞬間は見ていない。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	すべり台に1名、ブランコに1名、登り棒などの複合遊具に1名、東門付近に1名、全体の見守りに2名配置。	特になし	児童の意思を尊重しつつ、休憩時間が適切に取れるよう、給水の時間を設けるなどの対応を検討する。	
389	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	11	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	27							27		4	2	18. 6歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手中指付け根の骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	2.基準配置	特になし	マニュアルに沿って迅速に対応すると同時に、事故の分析をする	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	児童の来会前及び遊びの前には必ず遊ぶ場所、環境を確認をする。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	椅子の使い方について児童と確認をし、適切な使い方をするように伝えた。	1.いつもどおりの様子であった	テーブルに着いて好きな遊びを楽しんでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児が遊んでいる様子を離れたところで見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	おやつの準備、他児の荷物の片付け等を見守っていた。	3.4年生が登所してくる時間であり、所在確認で目を離した時に椅子を跳び箱代わりにして跳んだ。	椅子の使い方について児童全体に周知すると同時に、物の使い方について職員間で話し合い周知した。	
390	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	24							24		3	1	19. 7歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足首剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(１)回/年	1.基準以上配置	特になし。	職員配置を再確認し、児童の身体能力や以前のけがについて職員間で把握する。	2.不定期に実施	実施頻度(数)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	特になし。	外遊びの前に、運動場において滑りやすい・躓きやすい箇所がないか確認を行う。	1.集団活動中・見守りあり	特になし。	以前のけがを配慮しながら見守りをする。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りの体調で、特に目立った不調は見られなかった。	1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	当該児が台を上り下りする際に、職員が近くにおり様子を見ていた。ケガをした際は以前の骨折を考慮し対応した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の外遊びをしている児童を見ていた。	特になし。	特になし。	
391	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	17							17		2	2	21. 9歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(１)回/年	1.基準以上配置	特になし	外遊びの職員の立ち位置を確認する。	2.不定期に実施	実施頻度(数)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/日	特になし	ケガをしやすい場所について、こまめに確認を行う。	2.集団活動中・子ども達のみ	特になし	保育室から出るときは支援員が先導し、児童を先に出させない。	1.いつもどおりの様子であった	体調は通常通りだった。	4.対象児の動きを見ていなかった	いつもは職員が先に外に出てから児童が外に出るが、この日は先に児童が出てしまった。別のクラブ室にいる職員もおやつの時間がずれたため外にいなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	別のクラブ室にいる職員も、そのクラブ室にいる児童のおやつの時間が後だったため外にいなかった。	特になし	特になし	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
392	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	44							44		5	3	19. 7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕　右上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(３　)回/年	2.基準配置	児童に遊び前の注意・危険に対する意識付けが不十分で、職員も事故に対して危険を予知出来なかった。	職員配置は園庭に3名配置したが、雲梯で落下する事が想定出来なかったので注意する様に言葉掛けが必要であった。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(4)回/年	定期的に点検がなされており、問題はなかった。	小学校にて点検されており雲梯に問題はなかった。引き続き点検をしていただき、結果について確認し遊具そのものの状態を共有していく。	3.個人活動中・見守りあり	見守っている職員が不足している認識は無いが、職員の育成向上を図り、児童の遊びの向上を図れる様にする事が出来なかった。	職員3名に対して、遊んでいる児童が多かったので支援が出来るように遊びを制限する事も必要であった。	1.いつもどおりの様子であった	うんていで移動していたが、手が滑って落下した。	4.対象児の動きを見ていなかった	ブランコと雲梯の間に職員がいたが、ブランコの方を見ていたので、落下した時の音で振り向いた状態であった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童が遊んでいるので、外に出ている主任支援員を呼びクラブ棟に移動させた。	配置上、職員が広く見守れる様に打合せ等で確認が出来なかった。	支援員がブランコと雲梯を同時に見る設定では、前と後ろの両方で見なければならないため、配置や立ち位置を変える必要がある。	
393	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	115							##		8	6	21. 9歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(3　)回/年	2.基準配置	ケガをした時の対応についてはマニュアル記載があるが、ボール遊び時に発生しやすい怪我や注意点については、記載がなかった。	遊びの内容により起こりやすいケガや注意事項に対して検討し、ヒヤリハット事例に追加する等、日常で起きる怪我に対する職員の共通理解を行う。	1.定期的に実施	実施頻度(2　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12　)回/年	使用していたボールは、目視による日常的な点検をしており、特に問題はなかった。	定期的な安全点検を行う事と日常的にも気にかけている結果、特段対応する事はないが、引き続き安全管理に努めていく。	1.集団活動中・見守りあり	特になし。	引き続き児童の安全が確保されるよう適切に支援員を配置していく。	1.いつもどおりの様子であった	普段と同じように遊んでいて、事故の原因となる動きは、特になかった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	普段と同様にドッヂボールで遊んでいる児童を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	ドッヂボールで遊んでいる子から離れた場所で他の児童を見守っていた。	特に問題なし。	今回の事故について特段考えられる要因等はないが、引き続き安全に遊ぶよう児童に声をかけていく。	
394	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	56							56		7	7	20. 8歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左くるぶし剥離骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	人数配置においては問題がなかった。今後も子どもの個々の動きを見ることができる配置を考えていく	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(随時)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(随時)回/年	１人で点検を実施していた	複数での点検を行うことで、詳細箇所の気づきを増やしていく	3.個人活動中・見守りあり	特になし	見守りは適切であったが、今後も運動場で遊ぶ鬼ごっことは違う危険性について伝えていく	1.いつもどおりの様子であった	タイヤを使用した鬼ごっこをしていた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	室外の児童が５人でタイヤを使用した鬼ごっこを見守っていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	遊びの状況を見守っていた	特になし	特になし	
395	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	21							21		5	4	20. 8歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右尺骨近位部位骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	今後も外遊びを行う際には怪我を防ぐために遊び方と注意点を伝えていく	1.定期的に実施	実施頻度(４　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(随時　)	1.定期的に実施	実施頻度(随時　)	特になし	今後も児童が使用する遊具の点検を適切に実施し、遊びの内容に適した場所で遊ぶ・指導していく	1.集団活動中・見守りあり	走り回るスペースが狭い所で遊んでいた	人数によって適さない場所もあるため、参加する人数に応じた場所で遊ぶよう、他の遊びで使用するスペースと共に調整していく	1.いつもどおりの様子であった	友だちと鬼ごっこのため広場を走っていた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	屋外で児童の遊びに加えて近くにある遊具の使用状況を見ていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	別の場所で遊んでいた他の児童を見守っていた	特になし	特になし	
396	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	45							45		6	4	24. 12歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左小指第２関節骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１　)回/年	2.基準配置	支援員間でいつもと同じという気持ちが少しでもあった	遊びの中で起こりうる怪我を改めて確認し、引き続き事故予防に努める	1.定期的に実施	実施頻度(４　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(随時)	1.定期的に実施	実施頻度(随時)	１人で点検を実施していた	複数での点検を行うことで、事故につながる恐れのある箇所の気づきを増やしていく	3.個人活動中・見守りあり	ドッジボールで遊ぶ人数が多く、遊ぶためのスペースが通常より狭かった	参加人数に適したスペースで遊ぶか、グループ分けを行い時間設定を設けながら実施していく	1.いつもどおりの様子であった	たくさんの人数でドッジボールで遊んでいた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	屋外で児童の遊びに加えて近くにある遊具の使用状況を見ていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	別の場所で遊んでいた他の児童を見守っていた	特になし	特になし	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
397	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	27							27		3	1	24. 12歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左前腕骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1，2)回/年	1.基準以上配置	なし	各部屋に配置された職員が、立ち位置や子どもへの声掛けについて確認する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(６)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(24)回/年	なし	ハード面が要因の事故でなかった。	1.集団活動中・見守りあり	下校後の児童館では子どもの気持ちが開放的になるため、危険に対する意識が学校よりも低下する。子どもに意識してもらう工夫が必要と考える。	遊びを始める前に、危険行為について確認して行う。	1.いつもどおりの様子であった	遊戯室で運動をするなどいつも通り、元気に過ごしていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	危険な行動をとることが多いため本児の近くで見守り、必要に応じて声をかけたり本児に遊びを一時中断してもらい、何が危険か伝えたりした。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	本児と担当者の反対側の見守りをしていた。	なし	その他の要因は考えられなかった。	
398	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	35							35		6	5	20. ８歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左間指中節骨頸部骨折	8.その他	2.なし	3.未実施	実施頻度(０　)回/年	1.基準以上配置	特になし	ドッチボールを楽しむ中でも怪我に気を付けるよう、投げ方や受取り方について子どもたちと話し合った。事故防止マニュアルや安全計画の作成を検討し研修に務める。	1.定期的に実施	実施頻度毎日	2.不定期に実施	実施頻度(数)回/年	1.定期的に実施	実施頻度毎日	使用しているボールは目視による日常的な点検をしており、特に問題はなかった	引き続き、児童の安全が確保されるよう点検を実施していく	1.集団活動中・見守りあり	特になし	引き続き、児童の安全が確保されるよう適切に支援員を配置していく	1.いつもどおりの様子であった	本人の様子も変わりなく、身体をよく動いておりドッチボールを楽しんでいた中でボールを取り損ねてしまった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	子どもたちが投げるボールの勢いが強いので怪我のないように近くで見守るようにしていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の支援員は他の子どもたちの遊び、動きをそれぞれの場所で見守っていた	特になし	集団での遊びを楽しむなかでも安全には気を付けるよう児童全員に話す	
399	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	54							54		5	5	19. ７歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首若木骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(１　)回/年	1.基準以上配置	なし	事故予防に関する研修を定期的に実施し、予測できる危険を回避するため、常時他の職員と連携し全体を見守る支援員と児童の近くにつく支援員で役割分担する	1.定期的に実施	実施頻度(12　)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(6　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度毎日	特になし。	ハード面の点検等の不備などが要因で発生した事故ではないが、引き続き施設・設備の管理を適切に実施していく。	1.集団活動中・見守りあり	本人が鬼ごっこの鬼から逃げ気を抜いて歩いていた所へ鬼から逃げていた友達に不意に後ろからぶつかり避けようがなかった。その勢いで体勢を崩し前に転倒した際強く左手をついた。	児童が活動する前に事故・怪我を起こさないようにする為の声掛けが必要。	1.いつもどおりの様子であった	学童以外の遊びに来ている友達と遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	子ども達と一緒に遊んだり移動しながら鬼ごっこの集団の外側で子どもの見守りをしており、別の児童を見ていたため転んだ様子は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童と鉄棒で遊んでいたり野球で遊んでいる子を見守っていたため、転んだ様子は見ていなかった。	特になし	子ども達全体に慌てない・気をつける等注意喚起をすることを毎回する必要がある。	
400	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	7	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	24							24		2	1	20. ８歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１　)回/年	2.基準配置	なし	子どもの人数や職員の立ち位置など必要な事項は定めており、当該事故はソフト面の不備に起因したものではないと認識している。	1.定期的に実施	実施頻度(12　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12　)回/年	なし	定期的な点検も行っており、危険個所も見受けられなかった。当該事故はハード面の不備に起因したものではないと認識している。	1.集団活動中・見守りあり	なし	遊んでいた部屋やルール、参加人数等マニュアルに沿って適切に行っており、環境面に通常と違った点もなかったことから当該事故は環境面の不備に起因したものではないと認識している。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り、ドッジボール遊びを楽しんでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児の近くで見守っていた。即座に対象児が体勢を崩したことに気付いたが支えられなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	対象児のやや近くで見守っていた。即座に対象児が体勢を崩したことに気付いたが、支えられなかった。	転倒は突然起こるものなので、職員、児童ともに予防的な意識が必要である。常に児童への声掛けは心掛けているものの、やや抽象的な声掛けで職員の考えが子どもに伝えきれていなかった可能性がある。	職員間で予め危険個所や注意点を共有し、子どもへ具体的な声掛けをするよう心掛ける。	
401	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	60							60		8	4	18. ６歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足首骨折	1.遊具等からの転倒・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(１　)回/年	1.基準以上配置	なし	今回だけでなくタイヤ遊具で足を滑らせる事が有る為、再度十分気をつけて遊ぶよう児童に話をした。また職員間で共有し予防に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(12　)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(２　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度（毎日）	今回遊んでいたタイヤ遊具は目視,触診による日常点検はしており特に問題はありませんでした。	運動場は使用する時はチェックシートを作成し毎日の安全を確認してから利用する。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	自由にする前に事故・怪我を起こさないようにする為の声掛けが必要。	1.いつもどおりの様子であった	一人でタイヤからタイヤへ移動していた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	遊具周りを中心に指導員1名が見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	サッカーやドッチボール等他の遊びをしている児童を分散して見守っていた。	特になし	子ども達全体に慌てない・気をつける等注意喚起をすることを毎回する必要がある。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
402	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	9	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	106							##		11	2	20. 8歳	1.男児		8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	特になし	児童からの聞き取りに重点を置き、異変を迅速に察知し、行動する。	1.定期的に実施	実施頻度(２５０)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(２５０)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(２５０)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	遊びを楽しみながらも、一定の冷静さをもてるよう声かけをおこなう。	1.いつもどおりの様子であった	普段通りの過ごし方をしていた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	体育館にて他の児童をみていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	施設にて他の児童をみていた	特になし	コロナ禍で暑さ指数もあり、外で体を動かして遊ぶ機会が不足していたため、少しずつ体を慣らしてから活動を開始する。	
403	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	59							59		6	6	18. 6歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	口腔内受傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	安全管理マニュアルの予防対策の部分の復習を行う。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(250)回/年	特になし	施設の定期点検の実施をすること。	3.個人活動中・見守りあり	特になし	見守り中にも時間と共に変化する子どもの様子に気を配ること。	1.いつもどおりの様子であった	危険な動きはなかった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児の全体を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	室内での遊びで見落としがあった。	特になし	あそび場所の事前の安全確認を行う。	
404	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	77							77		8	5	21. 9歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左小指基節骨裂離骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	外遊びの際には、遊びの内容によって職員の配置を考慮する。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	危険性が低い遊具であっても、安全性に考慮して遊具を選んだりする。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	とくに変化はなくいつも通りの様子だった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	遊びを見守ることのできる位置で見守っていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	全体の動きを見守っていた為、対象児童だけを見ていなかった。	特になし	遊びに入る前に考えられる要因を注意事項として児童に伝える。	
405	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	141							##		17	8	24. 12歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手小指基節骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	1年生から4年生までは人数が多いため、学年別、男女別などで分けて、出来る限り少人数で遊んでもらっている。	見守りをしている支援員が児童に対して、事前に危険性の声掛けが出来れば良かった。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週	1.定期的に実施	実施頻度毎日	特になし	日々の設備や玩具の安全点検を徹底する。	1.集団活動中・見守りあり	体育館等で活動する際は学年に応じて、人数制限等を行っている。	特になし。	1.いつもどおりの様子であった	元気に帰ってき、宿題をすませおやつを食べた。いつものように身体を動かす遊びをしていた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	2～3メートル離れたところで見ていたが、危険は感じなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	その他の職員は、別の活動場所で保育をしていた	当該児童は自信過剰になりすぎるところがある。	児童の特性を理解し、声掛けをする必要があった。	
406	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	10	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	58							58		5	5	19. 7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足捻挫及び腓骨遠位端骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2,3)回/年	2.基準配置	事故後、普通に登所していたため重症と判断しなかった。	怪我をした際は保護者への報告と共に病院を受診した場合は報告してもらうようにする。	—	—	—	—	—	—	—	特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	外遊びは危険が伴うことを児童に徹底し、支援員が目配りの範囲を決めグループ分けをする等、常に全員が見渡せるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	—	4.対象児の動きを見ていなかった	—	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	—	ケガをしたことは把握できていたが、その後の経過を確認することを児童、保護者どちらにも出来ていなかった。	ケガをした際などは、その後もケガの状況を確認するように心掛ける。	
407	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	81							81		9	5	18. 6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)	左足首の捻挫	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	特になし	どの場面・場所で怪我が多いのかミーティングで共有しヒヤリハット事例の報告をする。	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	特になし	どの場面・場所で怪我が多いのかミーティングで共有しヒヤリハット事例の報告をする。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	周辺を見る意識、死角を作らないように視野を広く持ち意識するよう声掛け。	1.いつもどおりの様子であった	普段通り元気よく登室し、外で遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	校庭で別の児童の対応をしていたため十分に見守りができていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	様々なあそびを児童たちとしていた。	特になし	どの場面・場所で怪我が多いのかミーティングで共有しヒヤリハット事例の報告をする。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
408	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	19							19		2	1	19.７歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手小指骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(３)回/年	2.基準配置	特になし	外遊び前に、全体にケガをしないように注意事項を伝えるなどの声掛けを行う。	1.定期的に実施	実施頻度(４)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(４)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(４)回/年	特になし	引き続き点検等を行っていく。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	日頃から児童に遊びの中の危険について話をする	1.いつもどおりの様子であった	本人がボールをキャッチした際に当たったもので、他児童との接触等によるものではない。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	全体の見守りを行っており、児童本人からの申し出により応急処置（湿布を貼る）を行った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	遊びに一緒に参加していたが、ケガが起きた時の児童の動きは見ていなかった。	特になし	RICE処置を含む応急手当が適切であったか、負傷した指の腫れ、色、など児童の様子を注意深く観察する必要がある。負傷後の処置の仕方で経過も変わってくることを知っておく必要がある。	
409	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	41							41		7	6	20.８歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(１)回/年	2.基準配置	特になし	事故、ヒヤリハット事例の共有及び分析の強化	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	特になし	小学校施設・遊具で発生した事故について小学校と情報共有を行う。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	今後は事故防止のため、サッカーの規模縮小や児童にプレー時の注意喚起・指導を行う。	1.いつもどおりの様子であった	いつもどおり元気に通所し、大好きなサッカーをしていた。サッカープレー中に接触事故が起きた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	館長が対象児の様子を見ていた。サッカープレー中に接触事故が起きた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	支援員は接触事故の様子は見ていなかったが、支援員2人が事故後直ぐに現場に駆け寄り館長と共に迅速に応急措置を行った。氷で患部を冷やしたり代用三角巾を作り患部を支えたりした。	特になし	支援員を含め職員に、事故防止の注意喚起を行うよう徹底する。支援員を含め職員に、事故後の応急措置・介抱・保護者連絡等の重要性を再認識させる。	
410	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	33							33		4	2	21.９歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	4.上肢(腕・手・手指)	橈骨近位端不全骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１　)回/年	2.基準配置	一輪車遊びを含めた園庭での支援員配置は支援員1名、補助員2名体制	補助員も多いことから、けがをした時の応急処置等の研修や訓練を行い、情報共有をする。	2.不定期に実施	実施頻度(６　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２　)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(６　)回/年	地面に敷かれているゴム製のマットにわずかの段差やずれている箇所もあり、地面もアスファルトであるためバランスを崩しやすい。	こまめにゴミや小石を取り除き、マットのずれや段差を失くす。	1.集団活動中・見守りあり	途中で止まった時に捕まる箇所が少ない。	手すり以外にもコーン等で捕まれる箇所を増やす。	1.いつもどおりの様子であった	体調もよく仲の良い友達とも楽しそうに遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児のそばにはいたが、一瞬のことだった為その瞬間に手を差し伸べようとしたが間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の補助員はその他の遊びの見守り（ゴムとび）をしていた為、同時に見ることはできなかった。	2名の補助員は一輪車以外の遊び（ゴムとび）の見守りや児童の持ち物等の確認などをしていた。	外遊びのけがのリスクを考慮し、経験豊富な支援員を配置する。	
411	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	22							22		3	2	20.８歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(随時)回/年	1.基準以上配置	子どもたちの特性を把握することが必要だった。	遊びの前にルールを確認することを更に強化していく。	2.不定期に実施	実施頻度(随時)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(随時)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(随時)回/年	特になし	なし	1.集団活動中・見守りあり	広い運動場で遊んでいた。	遊びの範囲を考えて、制限する。	1.いつもどおりの様子であった	複数の鬼がいる鬼ごっこで、背後も警戒しつつ後ろ向きに走っていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	追いかけ合っている児童が一ヶ所に集まる状態になっており、近くにいた児童が「こけました」と知らせて来てから本児の元に駆け寄った。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	迎えに来た保護者の対応や他の児童の見守りをしていた。	子どもたちの遊びに夢中になった時に力加減ができなくなったり、安全に配慮できなくなったりする。	子どもたちの特性を常に把握しておくことや子ども同士の力加減に注意する必要があった。支援員同士の連携を図る。	
412	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	16							16		2	1	20.８歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足剥離骨折	8.その他	1.あり	3.未実施	実施頻度(０　)回/年	2.基準配置	外から全員が帰って来ていない状態で、トイレに行っている児童の状態が把握出来ていなかった。	部屋に入っていない児童に対しても最後まで何をしているのか把握すること。	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	追いかけられる児童が階段を走って降りてしまった。	部屋の前の階段は歩いて降りるよう徹底する。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	夕方の保護者への引き渡しなどで職員の見守りが手薄になる時間帯であるが、注意して児童を見守る。	1.いつもどおりの様子であった	トイレに行っていたA君を部屋から見た別のB君が「A君が女子トイレを見てた」と言って追いかけだした。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	スロープを駆け上がってきた児童を止めたが、そのまま階段を駆け下りた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	部屋遊びの子どもの見守りをしていた。	特になし	児童が施設を走ったことに起因して生じた事故であるが、活動は職員で協力して見守り体制を堅持する。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
413	令和6年3月27日		15. 放課後児童クラブ	11	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	8. 学童	1							1		4	1	18. 6歳	2. 女児		8. その他	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右手小指骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	3. 未実施	実施頻度(0)回/年	1. 基準以上配置	何もないところでの転倒は予測ができない。	なお一層の注意と声掛けをしていきたい。	1. 定期的に実施	実施頻度(開設時)/年	1. 定期的に実施	実施頻度(随時)/年	1. 定期的に実施	実施頻度(随時)/年	特になし	今後も継続して点検をしていきたい。	1. 集団活動中・見守りあり	特になし	ケガをしそうな場所はないか、支援員で点検し相談していきたい。	1. いつもどおりの様子であった	いつもと変わらず落ち着いていた。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	入口付近で、児童と一緒に話をしながら見ていた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	児童の至近距離で一緒に保護者のお迎えを待っていた。	特になし	なお一層の注意と声掛けをしていきたい。	
414	令和6年3月27日		15. 放課後児童クラブ	10	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8. 学童	4							4		2	2	21. 9歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	骨折	8. その他	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2. 基準配置	受けでの体制までは、予測出来なかった。	支援員も十分配慮して見守っていたが、より一層安全面に努める様に気をつける	2. 不定期に実施	実施頻度(毎)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(毎)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(毎)回/年	柔らかいボールを使用していて、スピードも出ておらず高く上がる事を想像出来てなかった。	ボールも柔らかい種類を使用しているが、尚検討する。	1. 集団活動中・見守りあり	ボール遊びをしている時は、人数に関わらず注意が必要。	個人差がある事もふまえ、より慎重に見守る必要がある。	1. いつもどおりの様子であった	2年生の男子2人と仲良く遊んでいた。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	ボールの行方と児童の動きを見ていた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	児童3人を1人の支援員が注意深く見守っていた。	激しいドッジボールではなかったので骨折事故が起こるはずないと思ってしまった	外遊びの前にはより一層注意を促す。過度になったら休憩をさせる。	
415	令和6年3月27日		15. 放課後児童クラブ	12	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8. 学童	17							17		3	2	18. 6歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	肘頭骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(毎)回/年	2. 基準配置	支援員の充分な見守りが足りなかった。	日頃より全体の見守り、見回りを再度意識し、全体に注意が行き届くよう努める。	1. 定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	正しい遊び方の指導が徹底できていなかった。	正しい遊び方、遊具の使い方の指導を徹底する。	1. 集団活動中・見守りあり	正しい遊び方ができていなかったが注意が足りなかった。	正しい遊び方が出来ない場合は遊具は使えないようにする。	1. いつもどおりの様子であった	いうことをきかない	4. 対象児の動きを見ていなかった	付近で見守っていたが当該児童から目を離していた	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	各自分散して他の児童を見守っていた	正しい遊び方をしていなかった。	支援員一人ひとりが子どもたちの行動を把握できるよう努め、正しい遊び方ができていなかったらやめさせる等意識を統一させる。	
416	令和6年3月27日		15. 放課後児童クラブ	10	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8. 学童	184							##		16	5	22. 10歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左橈骨頚部骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1-2)回/年	2. 基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(ー)回/年	―――	引き続き定期的に安全点検を行う。	1. 集団活動中・見守りあり	―――	見守りが必要な場面では引き続き支援を行っていく。	1. いつもどおりの様子であった	いつも通りの様子であった。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	集団活動中見守りを行っていた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	集団活動中見守りを行っていた。	―――	今後も危機管理の手引きを用い，迅速な対応を行っていく。	
417	令和6年3月27日		15. 放課後児童クラブ	11	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	8. 学童	176							##		16	6	22. 10歳	2. 女児		7. 登園・降園中(来所・帰宅中)	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右遠位橈骨末端骨折・左膝擦過傷	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1-2)回/年	2. 基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(ー)回/年	―――	引き続き定期的に安全点検を行う。	2. 集団活動中・子ども達のみ	―――	見守りが必要な場面では引き続き支援を行っていく。	1. いつもどおりの様子であった	いつも通りの様子であった。	4. 対象児の動きを見ていなかった	集団下校中のため、見守りなし	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	集団下校中のため、見守りなし	―――	今後も危機管理の手引きを用い，迅速な対応を行っていく。	
418	令和6年3月27日		15. 放課後児童クラブ	10	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	8. 学童	77							77		7	3	20. 8歳	2. 女児		7. 登園・降園中(来所・帰宅中)	1. 負傷		4. 創傷(切創・裂創等)	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	首・肩・ひざの打撲および裂傷	8. その他	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1-2)回/年	2. 基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(ー)回/年	―――	引き続き定期的に安全点検を行う。	7. その他	―――	下校前の指導を引き続き行っていく。	1. いつもどおりの様子であった	いつも通りの様子であった。	4. 対象児の動きを見ていなかった	下校中の事故であるため、見守りなし。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	下校中の事故であるため、見守りなし。	―――	今後も危機管理の手引きを用い，迅速な対応を行っていく。	
419	令和6年3月27日		15. 放課後児童クラブ	11	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8. 学童	65							65		11	3	21. 9歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左手小指骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1-2)回/年	2. 基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(ー)回/年	―――	引き続き定期的に安全点検を行う。	1. 集団活動中・見守りあり	―――	見守りが必要な場面では引き続き支援を行っていく。	1. いつもどおりの様子であった	いつも通りの様子であった。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	集団活動中見守りを行っていた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	集団活動中見守りを行っていた。	―――	今後も危機管理の手引きを用い，迅速な対応を行っていく。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
420	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	100							##		9	3	19.7歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手小指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1-2)回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(—)回/年	———	引き続き定期的に安全点検を行う。	1.集団活動中・見守りあり	———	見守りが必要な場面では引き続き支援を行っていく。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りの様子であった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	集団活動中見守りを行っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	集団活動中見守りを行っていた。	———	今後も危機管理の手引きを用い，迅速な対応を行っていく。	
421	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	15							15		2	1	21.9歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手示指中節骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1-2)回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(—)回/年	———	引き続き定期的に安全点検を行う。	1.集団活動中・見守りあり	———	見守りが必要な場面では引き続き支援を行っていく。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りの様子であった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	集団活動中見守りを行っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	集団活動中見守りを行っていた。	———	今後も危機管理の手引きを用い，迅速な対応を行っていく。	
422	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	33							33		4	4	19.7歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左脛部骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	3.未実施	実施頻度(-)回/年	1.基準以上配置	以前上級生が昇り棒で危険な遊び方をしていたのを見ていて、自分もやれると思い真似をした。	事前指導を行い、危険な遊び方をしていたら直ちに注意をする。それでも改善が見られなければ、その遊具で遊ぶこと自体を禁止する。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(-)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(-)回/年	登り棒の2本の支柱を支える横棒(高さ2m50cm)があるため、そこに座ることが可能となっている。	2本の支柱の頂上(3m)から横棒(2m50cm)の間にスペースをテープで塞ぐ等して物理的に座ることができないような対策を学校と協議する。	1.集団活動中・見守りあり	まさか1年生がそんな危ないことはしないだろうという先入観があった。	日頃どんな風に遊具で遊んでいるか、間違った使い方をしていないか支援員間で周知し、危険な遊び方をした場合は個人指導及び集団指導にて注意をする。	1.いつもどおりの様子であった	しばらく室内で遊んでいたが、あと10分程で自由遊びが終わるという時に外へ出た。他の児童はそれぞれ数人で遊んでいたが、その中には入らず一人で登り棒で遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	登り棒で遊んでいる様子は確認していたが、他の児童が鉄棒で危険な事をしようとしていたので、そちらに注意がいった隙に落ちてしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	男子がサッカーで遊んでいたので、ボールが駐車場や他の児童が遊んでいるところへ行かないよう、そちらを注意して見守っていた。	当日は支援員4名が勤務しており、屋外は2名の支援員で見守りをしていた。児童は運動場全体で遊ぶので、何かトラブルが発生すればついそちらの方に注意が行ってしまう。	特になし	
423	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	8	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	33							33		5	1	19.7歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨内顆骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.基準配置	特になし	危険そうな遊びを見た時は声かけをする。注意する。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(250)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	室内、室外とも遊びを見守る。声かけ注意する。	7.その他	特になし	遊びではなく休息（お昼寝）準備の方をするよう声かけ見守りをする。	1.いつもどおりの様子であった	特になし	4.対象児の動きを見ていなかった	休息（お昼寝）準備をしていたので見守りが十分でなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	休息（お昼寝）準備をしていたので見守りが十分でなかった。	特になし	休息（お昼寝）準備をしていても、常に全体を見守る。	
424	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	9	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	9							9		4	2	19.7歳	2.女児		8.その他	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足第四指骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	特になし。	特になし。	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(その都度)回/年	水筒を置いた棚が水筒を置いておけるような棚ではなかった。	廊下に並ぶ際には、水筒を自分の足元に置くよう指導する。	1.集団活動中・見守りあり	特になし。	児童の見守りを強化する。	1.いつもどおりの様子であった	廊下に並んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	整列している児童を全体的に見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の場所で活動している児童の見守りをしていた。	特になし。	特になし。	
425	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	20							20		4	4	21.9歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(0-1)回/年	2.基準配置	特になし	マニュアルの再確認及び新規作成「●●児童クラブ事故防止・事故対応マニュアル」	2.不定期に実施	実施頻度(2-3)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(3程度)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(3-5)回/年	特になし	点検記録の整備。安全点検を定期的に年間計画に入れる。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	支援体制の在り方を見直す。	1.いつもどおりの様子であった	早く遊びに戻ろうとして急いでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	転倒場所の側面で他の児童3名に対応中。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童と活動中、保護者対応中。室内で他の児童と活動中。	対象児童に口頭説明を聞くだけで、転んだ時の状況を現場まで行き、詳細に聞いて判断すべきだった（何処で、どんな風に、どんな体制で、転んだか）	事故発生後の経過を保護者に確認	
426	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	10	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	55							55		9	7	18.6歳	2.女児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右尺骨近位部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.基準以上配置	特になし	来所・帰宅時の注意事項について児童に呼びかけを行う。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(週0)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	来所・帰宅中の事故のためなし。	7.その他	特になし	来所・帰宅中の事故のためなし。	–	–	–	–	–	–	–	児童クラブへの来所・帰宅時も安全に注意するよう声掛けをする。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
427	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	19							19		3	3	20.8歳	2.女児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕骨折・顔面打撲	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	学童クラブへ帰ってくる際の交通ルール等を徹底する	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(週1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	来所・帰宅中の事故のためなし。	7.その他	特になし	来所・帰宅中の事故のためなし。	–	–	–	–	–	–	–	児童クラブへの来所・帰宅時も安全に注意するよう声掛けをする。	
428	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	6							6		3	2	21.9歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	危険個所に対する認識不足。	確認作業研修回数の頻度を増やす。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	遊ぶ箇所が屋内から死角となっている。	見守りの増員による安全性を高める。遊ぶ時間帯の変更。	1.集団活動中・見守りあり	遊ぶ時間帯を検証する。	見守り箇所を一か所にまとめ、死角がないところで遊ぶように場所を決める。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	宿題を素早く終わらせ、早く遊びたいと落ち着きを抑えられない様子だった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	技量が足りないのを把握していなかった。手を差し伸べたが、間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	職員の見守り体制が分散し、監視体制が手薄になっていた。	児童の技量の把握不足、遊ぶ箇所の危険度の察知の認識不足。	各児童の怪我事故歴を職員と共有し、一人一人の個性の把握と事故の予防に努める。リスクを減らすノウハウを高め職員間で共有する	
429	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	8	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	58							58		6	3	19.7歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	右前歯を破損	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	事故発生後、予防マニュアルを作成し職員間で共有する。	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	特になし	事故発生後、安全点検を実施、今後は学期始めの年3回実施する事とした。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	改めて職員の人員配置を検討し、危険が予測される場合は、事前に注意指導を行う。	1.いつもどおりの様子であった	–	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	職員は、ドッジボールの様子を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	学童ルーム・学習室の児童の様子を見守っていた。	特になし	予防マニュアルの作成、全児童対象にかかりつけ医の登録をしている。	
430	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	5							5		5	2	19.7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕上腕部骨折	8.その他	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	お迎え時に親と今日の様子等のコミュニケーションを取っている時に子ども達の荷物の管理、声掛け等がおろそかになっていた	遊び場に怪我につながる状況を作り出さないこと	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	遊び場に怪我につながるものが置いてあるときすぐに片付ける	遊び場に怪我につながるものが置いてあるときすぐに片付ける。声掛けをする	1.集団活動中・見守りあり	薄暗くなってきた時刻とも重なりランドセルが見えずらかった	お迎えに来た保護者と話す支援員、子ども達の見守りや一緒に遊ぶ支援員等の振り分けをしっかりする。ランドセル等あそび場に事故の原因になるような物を置かない。気づいたらすぐにどかす	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り元気に遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児とは別の保護者と話しながら遊びを見守っていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	片付け、掃除に入っていたので子ども達の見守り担当がいなかった	お迎え時親と話す指導員子ども達の安全を見守る指導員等の配置を再確認すべき	特になし	
431	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	5	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	23							23		2	1	19.7歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	右頬部裂創	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	転倒して角にぶつけるところ予想しえなかった。	事故予防に関する研修頻度を増やし、マニュアルの周知徹底を図る。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	定期的に点検等しているが見落としがあるかもしれない。子供の目線での注意がもっと必要だった。	全てにおいての安全点検を増やし細部まで実施する。改善が必要な場合は最短で対応するよう努める。	1.集団活動中・見守りあり	中の荷物を出そうとしていた他児童のリュックサックが、たまたま床に置いてあった。	他児童が踏んでしまわないような場所で荷物の出し入れをさせるよう徹底し、また速やかに出し入れするよう促す。	1.いつもどおりの様子であった	複数の児童での遊び中であった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	他児童を見ながら、本児童と遊んでいる複数の児童に対して気を付けるようにと声掛けしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	同じ室内にいたが少し離れた所で他児童を見ていた。	急な児童の動きに対応できなかった。	児童に対する注意喚起、見守りの職員の増員に努める。	
432	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	22							22		5	2	22.10歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手小指骨折	8.その他	2.なし	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	事故発生場所である多目的ホールに厚生員1名・学童室前に放課後児童支援員1名で見守りを実施。	事故防止マニュアルの作成が必要。職員の配置として、運動遊びを行う際は2名体制で見守りを行うようにする。ただし、他の部屋を見守り・巡回もしなければならないので、臨機応変な対応が必要。	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(48)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(48)回/年	施設・遊具・玩具の安全点検表を作成し、1日1回点検を行う。職員全体で把握できるように掲示または管理ファイルに綴る。	安全点検表を作成し、職員で共通理解を行う。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	なし	1.いつもどおりの様子であった	本人への聞き取りをもとに普段通り過ごし、多目的ホールでドッヂドッヂへ参加。相手が投げた柔らかいフリスビーをキャッチするはずが、うまくとる事が出来、思いっきり自身の手を強打した。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	事務室前にて見守りをしていた支援員が多目的ホールから手を押さえて、打ったと言いいながら笑って出てくる対象児に気づく。すぐに声をかけ、学童室へ移動し手当てや保護者への連絡を行った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	ドッヂドッヂは12名で行っており、対象児だけではなく他の児童の動きを見ていた。	自損事故ではあるが、支援員として運動遊びを行っている児童を重要視するべきであった。	早急に事故時対応のマニュアルを作成し、職員での共通理解が必要と考えられる。また、日々の見守りの中で子どもたちが安心・安全に過ごせるよう環境の見直し、毎日の施設・遊具・玩具の点検を欠かさず行う必要がある。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制												事故			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事者		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳									うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他								死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】							理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
433	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	10	9.夜間・早朝（泊り保育）	1.施設敷地内(室内)	8.学童	22							22		3	1	19.７歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘の骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	2.基準配置	怪我や事故に繋がる可能性がある場合も想定し、改めて保育施設内での適切な遊びについて職員間でミーティングを行います。	支援員・補助員全体で大人に対して遊びも求めてくる児童に対し、保育や配慮、対応等よりこども達同士で遊びをつくりあげることが出来るような保育、関わり方について職員間のミーティングを行う。	1.定期的に実施	実施頻度(毎回)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎回)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎回)回/年	保育施設内の床には、ジョイントマットを使用し衝撃等の吸収、角などにはクッション材で対応していますが、消耗している部分もあるため環境整備を怠ってしまいました。	事故防止の為にもジョイントマットも買い替えを行い、環境の改善に取り組みます。危険個所について再度職員間で協議を行い、確認を行いたいと思います。	1.集団活動中・見守りあり	保育施設内での育成支援としての適正な遊びではなく、事故に繋がってしまった。	職員間で自分達の保育、支援、遊び等、充分に行き届いているか俯瞰して確認を行い、子供達の過ごしやすい保育環境・支援体制が整えられているか、話し合いをもつ場を設けたいと考えております。	1.いつもどおりの様子であった	子ども達同士の遊びにも参加はするものの、支援員や補助員など大人との1対１の遊びを求めておりました。	1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	事故当日、支援員におんぶやだっこをしてほしいと学童来所時より頻繁に要求をされていた。支援員は夕方以降、児童人数が少なくなった時に一緒にジャンプする遊びの対応を行った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他補助員はお迎え保護者対応や、他児童の対応を行っておりました。	支援員が児童の要求してくるマンツーマンの遊びに対して、事故を想定することが出来ませんでした。	研修等を通して学童クラブの遊びについて職員間で学び、子ども達同士が関係性を築けるよう声掛けや遊びの提案が出来るよう職員間で動いていきたいと思います。	
434	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	29							29		3	2	21.９歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右撓骨遠位端骨折、右尺骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	レクレーション前に無理な体制や行動にならないように楽しむこと伝える	遊びやレクリエーションの中でも危険な行動を行っていないか注意が必要	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	事故場所は広大な（土）芝生状であり周囲へ配慮も行われていた	レクレーションに見合った施設設備なのかを考え行う	1.集団活動中・見守りあり	転んでも怪我の無い敷地なのかを事前察知能力を活かす	地面などにガラス、石など危険物が無いかの事前確認	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りの様子で登園。外遊びの際もいつも通り元気よく遊ぶ。運動神経が良い子の為、反射的にボールをよけたときの姿勢と着地のタイミングが重なってしまい思わぬ手の付き方をしてしまった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	ボールをよけた後に対象児童が手首を痛がる様子が見られたので、保冷材で冷却した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	遠くから全体を見守りをしていたが、他の児童虫取りの安全の見守りも行っていた。	児童達が楽しむ中で興奮を抑える声掛けに気をつける	全体活動を見渡し、遊具等の横には必ず職員を配置する	
435	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	15							15		3	3	20.８歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手小指骨折	8.その他	2.なし	3.未実施	実施頻度(０)回/年	1.基準以上配置	－	安全計画の策定と安全管理マニュアルを作成する	3.未実施	実施頻度(０)回/年	3.未実施	実施頻度(０)回/年	3.未実施	実施頻度(０)回/年	特になし	体育館という広い場所でボールを使って普通の行動・運動だったため、ハード面における要因はないと思われる。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	指導員と一緒に遊んでいて、危険なことをしていた訳ではなかった。今後さらに注意を払い児童を見守っていく	1.いつもどおりの様子であった	シュート練習後、バスケットボールでキャッチボールをしている支援員と他児童に加わった。初めは1対1（支援員：他児童）でキャッチボールをしているところに該当児童と他児童（2名）が加わり1対４でキャッチボールをした。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	初めは１対１（支援員：他児童）でキャッチボールをしているところに該当児童と他児童（２名）が加わっていき1対４でキャッチボールをした。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	近くにいる職員もいれば、離れて他の児童の見守りしている指導員・支援員がいた。	キャッチボール前に指を痛めていたことに気付かなかった。4対１だった為、児童それぞれに合わせた力加減がしづらくなっていた。	ボールの種類や数を調整する	
436	令和6年3月27日	1.認可	5.幼稚園	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	54									9	9	18.６歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	2.不定期に実施	3	1.基準以上配置	高い段を跳べる園児ほど跳び方は安定しているが、地面からの高さがあるので、落ちたときのリスクが高いこと。	高く跳べる子ほど落下距離があることを考慮したり、落下した時のことを考えてて配慮をしていく。そばにつき、落下の際は必ず止める気持ちを持つ。	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	シートやマットを敷いているが、外ということ。	周りに敷くマットを増やす等。	1.集団活動中・見守りあり	特に危険な個所に配置を集中させる。	子どもに対する教員配置を増やした際、増やした人数に対応できる資金がしっかり出せるシステムにしてほしい。	1.いつもどおりの様子であった	運動会に向け張り切っていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	全体把握をしていたため、落下に気づいてもすぐ手を差し出せる距離ではなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	様子は見ていたが、突発的に落下には対応できなかった。	運動会が近づくと、保護者の期待が高まり、跳ばせたい・跳ばせなくてはという意識が強くなってしまいがちになる。	「跳べるよ」と励ますことは大切だが、「失敗するかもしれない」との意識を常に忘れず接していく。	

No	初回掲載年月日	概要：認可・認可外	概要：施設・事業所種別	事故発生時期：月	事故発生時期：時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制：発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳：0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故：年齢	性別	特記事項	事故状況：発生時状況	事故の転帰	死亡：死因	負傷：負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面：マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面：施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面：教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面：対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
437	令和6年3月27日	1.認可	5.幼稚園	10	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	28									1	1	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	右頬部挫滅創	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	ピアノに激突する可能性があることを認識する必要がある。	子どもがピアノの近くを走っていたら注意をする	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	2.不定期に実施	50	ピアノがあることを認識するべきだった。上部はカバーがあるが、下部はカバーが無いためむき出しの部分がある。	ボールがピアノの近くに行ったら気を付けることを伝える	3.個人活動中・見守りあり	ピアノに走っていくことを阻止できなかった	ボールがピアノの近くに行ったら気を付けることを伝える	1.いつもどおりの様子であった	ボールを使って遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	子どもたちの様子を見ていたが、ちょうど他の子どもたちと縄跳びの相手をしているときに怪我をした。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	なし	どこに飛んでいくかわからないボール遊びをする際には注意をする必要がある。	ボールがピアノの近くに行ったら気を付けることを伝える	
438	令和6年3月27日	1.認可	5.幼稚園	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	115			8	38	27	42			16	12	17.5歳	2.女児	天気：晴	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左示指基節骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置		遊具で遊ぶ際、近くに行き見守り、声かけをおこなう。	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	特になし	当該園児の手を友達が誤って踏んでしまったことから、ハード面に対する改善策は不要と考える。	3.個人活動中・見守りあり	歩いていて、しゃがみ込んだところを近くの子が誤って踏んでしまった。	近くに友達がいるときには、周囲に気を付けて行動するように園児に声掛けを行う。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り、仲良しの年長児の仲間と園庭のウッドデッキ上で遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	該当遊具の近くで、当該児の遊びを見守りつつ、記録用の写真を撮影していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭の様々な場所で子どもが遊んでいたため、それぞれのエリアに分かれて子どもの安全を見守っていた。	立て続けに起きた要因分析：いずれもケガをした園児の意識外で起きている。	危険につながりそうなことを想定し、職員による注意喚起を行う。また、園児には、事故に関しての状況等を伝え注意喚起を行う。	
439	令和6年3月27日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	10	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	23									16	3	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肩挫傷、左鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	3	1.基準以上配置	当日は研修日だったため、外部の人が10名ほど参観していた。いつもと違う雰囲気に気持ちが高揚していたことが考えられる。	いつもと違う環境の時は、園児たちの様子をよく見ながら遊び方をその都度知らせていく。また、職員間の声かけや職員の配置も配慮していく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	12	マット設置場の芝生の凹凸の確認やマット運動スペースを十分確保する。	マットの枚数を増やし、着地点を増やす。	1.集団活動中・見守りあり	マット運動の自分の番で出るタイミングが早くなってしまった。	運動遊びの前には、注意点を伝え、園児にも注意を促す。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	外部の人がいたことにより気持ちが高揚し、いつもより動きの多さが見られた。	4.対象児の動きを見ていなかった	他の園児の対応中で目を離していた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	対象児の遊んでいる場所にいたが、他の園児の対応中で目を離していた。	前日に雨が降り、芝の一部がしめっていた。いろいろな場に行き遊んでいたため、靴が湿っていたことも考えられる。	マット運動の前に滑らないか確認する。	
440	令和6年3月27日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	28	1	1	3	6	7	5	5		4		17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左下肢骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	上記に記載したとおりマニュアルや研修については取り組んでおり、職員配置も基準を満たしていたが、事故の現場を目視していた保育者がいないことから、職員の配置や役割分担が不明確なことで当該児の危険に気付き、対応することができなかった	戸外での活動の際は、固定遊具などの危険個所には必ず保育士が付くようにする。保育者の配置と役割を明確にし、それぞれが責任をもって対応する。子どもの行動を予測し、危険が回避できるような対応・声掛けを行う。	1.定期的に実施	1回/日	1.定期的に実施	1回/日	1.定期的に実施	1回/日	ブランコの周辺に柵などの侵入防止のものがない。	ブランコの前を横切ることができないように、物理的に侵入を防止できるようなものを設置する	1.集団活動中・見守りあり	異年齢児の活動のため戸外活動時のルールや約束の理解に差があった。いつもは理解しているルールでも環境等の違いや変化で抜け落ちることがある。	園庭で活動する前に、子ども達に活動の際の注意事項やルールなど各年齢が理解できるよう丁寧に再確認する。その日の子ども達の状況に合わせた活動の提供を心掛ける。	1.いつもどおりの様子であった		3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園庭内全体を見渡せる場所に配置し、危険があった場合声をかけるなどしていたが、当該児の動きには気付かなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	砂場付近で、子ども達の様子を見ていたため、当該児の動きには気付かなかった。	保育者2名で対応するには、活動内容や範囲が広かったのでは？保育者の配置や役割分担が曖昧だった。	その時の人数や年齢によって、子どもの活動内容や範囲を保育者の対応が可能な範囲に設定する。保育者の配置場所や役割について事前に話し合い、決定しておく。異年齢児保育の場合加配の職員を配置する。	
441	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	62	12	28	22						15	15	13.1歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	4	1.基準以上配置	テンションが上がってしまうと危険につながる。	一人一人の遊びをしっかり把握し、安全面での対応をしっかり行う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		引き続き、安全管理を定期的に行い、年齢に応じた遊びの配置を行うようにする。	1.集団活動中・見守りあり		一人一人の遊びをしっかり把握するともに、危険を回避できる距離に職員が付くようにする。	1.いつもどおりの様子であった	普段から元気な本児であり、いつものように活発に遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	職員間で立ち位置を連携していたが、こけた本児に手を出すことが出来なかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれの場所で、それぞれの園児を見ていた。		遊具の数を減らす等の対応を行い、安全に遊びを楽しめるようにする。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
442	令和6年3月27日	1.認可	5.幼稚園	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	35			3	9	12	11			3	3	15. 3歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左肩の骨折（全治2か月）	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置		園児個々の運動能力を十分見極め、安全第一の活動を行う。	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	10	1.定期的に実施	3		今回の事故は設備等は関係していない。	1.集団活動中・見守りあり		今回の事故に教育環境は関係していない。	1.いつもどおりの様子であった	マラソンに参加し、目標の周に取り組んでいた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	担任1名、マラソンの様子を応援しながらスタート地点で周を数えていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	担任1名が対象児の後ろから一緒に走っていた。		運動機能の向上をはかる関わりを持つ	
443	令和6年3月27日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	10	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	6.5歳以上児クラス	61									6	6	17. 5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨遠位端骨折	8.その他	1.あり	3.未実施		1.基準以上配置		今後は園外での事故やケガが起こるリスク等について、定期的に教職員研修を行う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	250		園庭の遊具等については日頃から複数の目での安全確認を徹底し、チェック項目などで全職員に向けて可視化する。室内の玩具等についてはこのまま継続して安全確認をする。	1.集団活動中・見守りあり		園外の公園ではあるが、園児の怪我等が起こりやすい場所等を教職員で話し合い、見守りの足りないであろう部分に職員配置をできるように改善する。	1.いつもどおりの様子であった	対象児は、友達と楽しそうに元気よく遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	担当職員は対象児のすぐそばにいたが、事故がおこった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当職員が、対象児の事故にすぐ気づき助けを求めたため、他の職員がその声を聞きすぐに駆け付けた。		今回は至近距離で見守っていたにもかかわらず、怪我を防ぎきることが出来なかった。園外の公園での活動であったため、普段から遊びなれている遊具ではないため、より見守りの目が必要であると感じた。	
444	令和6年3月27日	1.認可	5.幼稚園	10	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	113				47	17	49			16	11	16. 4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	近くの遊具の援助を行っていたため、高いところに上ろうとする園児の側についていることができなかった。	高い遊具に上る場合は、必ず保育者が側につき援助する。他の保育者との連携を強化し、声を掛け合いながら子どもが一人で高い遊具に上ってしまうことがないよう援助することを話し合った。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	特になし	持ち手などが砂などの汚れで滑らないように毎日の点検を徹底する。	1.集団活動中・見守りあり	近くの遊具の援助を行っていたため、保育者が側で見守ることができなかった。	高さのある遊具は必ず保育者の見守りのもと行う。児の援助を行っており他児の援助が難しい場合は、順番で遊具に取り組むようにしたり他の職員に援助を求める等更なる工夫を意識し、必ず側で見守りをする。遠くからでもひとりで上ろうとする児の姿を見つけた場合には、大きな声で一番近くにいる職員に声を掛け、援助を行うよう求めるようにした。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り元気に遊ぶ。いつもはそれほど遊具に上るより走っていることが多い。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	担任は、他児の世話の為、保育室に戻っていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	すぐ隣の遊具に職員はいたが、他の園児の様子を見ていたため、落下の援助はできなかった。	本児は普段あまり上まで登る経験は少なかった。遊具の上から、棒にぶら下がって下りようとした際に、保育者が近くにいることができず、勢いが付き手が滑ってしまった。	高さのあるものを行う時には、保育者が近くにいない場合、子ども達にも保育者に声を掛けるよう再度指導し、保育者は必ず近くで見守りを行うようにする。また他児の援助などですぐに見守り援助が行えない場合には、必ず他の職員に声を掛け、子ども達が一人で行わないようにする。	
445	令和6年3月27日	1.認可	5.幼稚園	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	22									2	2	16. 4歳	1.男児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1～2	2.基準配置	特になし	園児保護者に対し、挨拶後は速やかに降園することや子供から目を離さないように伝えた。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	職員で事故現場を確認し、以後気をつけるよう共通理解をした。	4.個人活動中・子どものみ	特になし	保護者に対しての声掛けを増やし、自分のクラスのみではなく、近くにいる子には声をかけたり目を配ったりするようにする。	1.いつもどおりの様子であった	一人で遊具に登り、遊ぼうとしていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	降園中であったため、母親に引き渡すまでは把握していたもののその後の動きについては、把握していなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	事故発生直後は、保護者に引き渡しした後であったことから職員は近くにいなかった。	普段から遊んではいたが、事故発生時は慌てたと思われる。	園児や保護者に対しての声掛けをこまめにするよう話し合いをした。	
446	令和6年3月27日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	10	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	1									1	1	17. 5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足首剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	3～4	1.基準以上配置	特になし。	マニュアル有り、研修実施、職員配置基準もみたしているため、特になし。	2.不定期に実施	1～2	1.定期的に実施	5～6	2.不定期に実施	3～4	特になし。	階段には手すりと滑り止めを設置。勾配は緩やか。安全点検も行われているので特に改善策はなし。	1.集団活動中・見守りあり	担任教諭がその場にいて気を付けるように声掛けをしていたが、直後に足を挫いた。	全園児に階段を昇降する際の約束等、安全確認の指導を行う。	1.いつもどおりの様子であった	手すりを持ち、ゆっくりと階段を降りていたが、一段飛ばしでバランスを崩した。	1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	近くで声掛けをしながら見守っていたが、バランスを崩した瞬間は支えられなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の複数の園児と共に保育室に居た為、気付けなかった。	階段を一段飛ばしで降りる事を禁止していなかった。	安全な階段の昇降方法について、再度職員で確認し、こども達に指導を行う。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
447	令和6年3月27日	1.認可	5.幼稚園	11	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	32				8	7	17			6	6	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨外顆骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	3	1.基準以上配置	特になし	高さのある遊具からの飛び降りへの危険性を園児に知らせる	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	6	1.定期的に実施	12	特になし	安全点検の際、修繕や障害となるもの、危険なものを取り除くようにする。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	職員配置に配慮。子どもへの危険行動の指導。	1.いつもどおりの様子であった	運動会を経験し、体を動かすことや自分の力を試すことが楽しくなっていた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	他児の指導にあたっていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	同じ場で他児とかかわっていた	特になし	子どもへの危険行動への指導。職員間では、怪我事故予防対策や起こった時の対応について共有していく。	
448	令和6年3月27日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	51									18	15	17.5歳	1.男児	加配対象児（自閉症スペクトラムの診断有）	2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	下顎挫創	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	3	2.基準配置		引き続き、子どもの動きを予測し、職員体制や保育環境を見直し工夫する。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	24		引き続き、子どもの動きを予測し、職員体制や保育環境を見直し工夫する。	1.集団活動中・見守りあり	担当保育者が休憩時間のため、休憩代替え職員が本児を対応中であった。本児の特性と当日の様子が大まかにしか引き継げていなかった。本児への対応が不慣れな職員に担当を任せてしまったという采配ミスも要因の一つである。	日頃から園全体で加配児の特性を共有しておく。また、担当保育者以外が加配児を担当する場合は、当日の様子を細かく引継ぎ、本児の行動を予測しながら対応する。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りではあったが、知っている保育者を見かけて瞬時に興奮気味になってしまった。	4.対象児の動きを見ていなかった	対象児にマンツーマンで付いていたが、本児が着席しているのを確認して、一瞬だけ場を離れてしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	給食準備中であったため、学級全体やそれぞれの担当児への対応をしていた。対象児の動きを遠方から見ていた職員もいたが、一瞬の出来事で止めに行けなかった。	園全体における職員の慢性的な欠員状況に加え、事故当日は他にも２名の欠員がいたため、勤務している職員で何とかカバーし合っている状況であった。また、園の行事も重なり慌ただしかったのも要因の一つだと考えられる。	行事や欠員が重なっている時ほど慎重に、また、丁寧に子どもを見守っていく。職員間での声のかけ合いや、加配対象児への対応の共通理解を重ねていく。	
449	令和6年3月27日	1.認可	5.幼稚園	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	45									3	3	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨骨幹部骨折、右尺骨骨幹部骨折、右橈骨尺骨骨幹部骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	遊具の使い方について正しい使い方の確認をする。	職員全員が正しい遊具の使い方を子ども達に伝える。	1.定期的に実施	毎回	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	正しい遊具の使い方について確認をする。	子ども達に遊具の使い方を伝える。	1.集団活動中・見守りあり	異年齢の子ども達が遊んでいる環境の中、子ども達は個々に好きな遊びをみつけて遊んでいる。遊びの変化に気が付きにくい。	怪我が起こりやすい遊具で子どもが遊び始めたら職員が近くで見守る等、子どもの遊びに応じて職員の配置を変えていく、声を掛け合うようにする。	1.いつもどおりの様子であった	雲梯が上手にできるようになり、戸外遊びで自ら進んで雲梯で遊ぶ姿があった。雲梯の前進ができたので、バックで進みたいと挑戦していた。	4.対象児の動きを見ていなかった	自由保育時間の戸外遊びだったので、園庭にいる他の子ども達と遊んでいた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	雲梯を含んだ遊具の近くで子ども達を見守っていた。(雲梯をする子に手の届く範囲ではなかった)	本児のできることが増え自信がつき、さらにやってみたいという挑戦する気持ちから怪我に繋がってしまった。	雲梯の落下による怪我を防ぐため、雲梯をする園児がいた場合は職員が雲梯をする園児のそばで見守ることを徹底する。	
450	令和6年3月27日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	36									4	4	15.3歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外顆骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	3	2.基準配置		落下の危険を速やかに察知し対応できるようにする。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	走ってブランコに飛び乗ったため、勢いがつきすぎて鎖をきちんと握れず、後ろへ落下してしまった。	遊具で遊ぶときは急がず、安全に使用できるように保育士が声をかけ、事故を未然に防げるよう職員の配置をする。	1.集団活動中・見守りあり		落下の危険を速やかに察知できるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	午後の戸外遊びにおいて、砂場で遊んでいたが戸外遊び終了の声かけを聞き、最後にブランコに乗ってから保育室に戻ろうと走ってブランコに向かい、その勢いで飛び乗ってしまった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	園庭には４名の保育士がおり、大型遊具の滑り台付近に２名、園庭奥のブランコの付近、アルミ遊具付近で子どもを見守っていた。砂場から対象児がブランコに走って飛び乗ろうとしたのを見ていたときに対象児がブランコから後方に落下。同時に駆け寄ったが間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	大型遊具の滑り台付近で他の園児を見守っていたため、対象児の事は見ていなかった。	落下の危険箇所が死角にならない場所での見守りを徹底する。	落下の危険を速やかに察知し対応する。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況
451	令和6年3月27日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	6		1	5						2	2	14. 2歳	1.男児		1.屋外活動中
452	令和6年3月27日	3.その他	5.幼稚園	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	37	0	0	0	51	47	44	0		13	13	17. 5歳	2.女児		1.屋外活動中
453	令和6年3月27日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	13									3	3	17. 5歳	1.男児		1.屋外活動中
454	令和6年3月27日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	11	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	16				4	9	3			6	6	17. 5歳	1.男児		1.屋外活動中
455	令和6年3月27日	1.認可	5.幼稚園	12	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	17									1	1	17. 5歳	1.男児		8.その他

No	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】
451	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	①肘頭骨折(左腕)②尺骨近位部骨折(左腕)	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	上記に記載したとおりマニュアルや研修については取り組んでおり、配置基準も基準を満たしていたが、配置箇所において責任をもった対応をしていなかった。	それぞれの職員が配置箇所での役割を理解し、責任をもった対応を徹底する。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日
452	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	3	1.基準以上配置		事故予防に対する教職員の危機管理意識の向上を徹底する。	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3
453	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左第３中足背頸部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	4	1.基準以上配置		保育者が園児に対し、鉄棒につかまり地面を蹴る際の動作を指導する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	200
454	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	2	2.基準配置		様々なケースを想定した事故に対応できるよう研修を実施する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	毎日
455	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘内側骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	5	1.基準以上配置	特になし	職員配置に問題はないが、手が足りないと感じたときは補助の先生に声かけをする	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3

No	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
451	遊具の素材がツルツルしていて滑りやすいものであった。	座る部分に滑り止め加工ができるか業者と検討し、安全対策として適当であれば実施する。※滑りにくくなることで新たな危険に繋がらないか、遊具の特性から検討し判断する。	1.集団活動中・見守りあり	1・2歳児には自分で乗り降りできない遊具であり、足がつかないことからも遊具が年齢や発達に合っていなかった。2人乗りにしたことでバランスを崩しやすかった。	当該遊具配置の保育者は使用している児童が降りるまで責任をもって対応し、目を離さない。足が届かない未満児に対しては、そばで補助できない際は利用を制限する。（乗せない）	1.いつもどおりの様子であった		4.対象児の動きを見ていなかった	対象児の近くには立っていたが、対象児から目を離していた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の園児と関わりながら全体を見ていた。対象児が落下する際にも気付き、声を出したが離れていたため支えたりすることができなかった。	遊具の特性を理解した上で遊具を提供したとは言えず、足の着かない1歳児にとって補助がなければ落下に繋がりやすかった。2人乗りでさらにその危険性が増した。	遊具の特性や、正しい提供の仕方について全職員で理解・情報共有を徹底する。遊具が児童の発達や身体能力と合っているか判断した上で責任もって対応する。落下の危険を予測し、落下に備えてすぐに対応可能な状態で提供する。未満児について子ども2人のみでの2人乗りは禁止する。	
452		鉄棒の下に人工芝マットなどクッション性のあるものを敷設する。	1.集団活動中・見守りあり	日常、鉄棒は教師の見守りのもとで遊ぶ約束事となっていたが、幼児が近くに教師がいない状況で鉄棒で遊んだ。また、園庭にいた４人の教師は、それぞれ他の幼児の対応をしていて鉄棒で幼児が遊んでいることに気が付かなかった。	園庭で好きな遊びの時間帯を見守る教師のうち一人は、必ず園庭全体の見守りをすることを徹底する。幼児には、鉄棒で遊びたいときには必ず教師に声をかけることを指導する。	1.いつもどおりの様子であった	棒に居合わせた他児が当該児に「これできる？」と言って、鉄棒に腰かけた。当該児はそれに応えて自分でも、鉄棒に腰かけようとして落下した。	4.対象児の動きを見ていなかった	他の幼児の対応をしていて、当該児が鉄棒に腰かけようとするところを見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の幼児の遊びの見守りをしたり、近くにいる幼児に話しかけられてその対応をしたりしていて、事故発生の瞬間を見ていなかった。		幼児に安全な鉄棒の遊び方について再度指導する。	
453		当該遊具（鉄棒）直下の地面の状況を日々確認し、凹凸などが有る場合は平面になるよう整備する。	1.集団活動中・見守りあり	高さの有る遊具で遊ぶ、鉄棒で技に挑戦するなどの行動特性がある。	子どもたちの行動や遊びを全体俯瞰できるよう、見守る体制が取れるよう再確認する。	1.いつもどおりの様子であった	いつもどおり母親と機嫌よく登園し、保育を受けていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	全体を俯瞰して見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	数名が交代で鉄棒遊びをしていたため、そばで見守っていた。	特になし	子どもたちの行動や遊びを全体俯瞰できるよう、見守る体制が取れるよう再確認する。	
454		今後、田で遊ぶ際には田の状況を事前に確認し、大きなくぼみや段差がある場合にはならす等の対応を行う。	1.集団活動中・見守りあり		環境面での不備による事故ではないため、施設・環境面での改善策は考えていない。	1.いつもどおりの様子であった		2.対象児の至近で対象児を見ていた		2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	田にはおらず園庭で活動している園児の動きを見ていた。		普段から安全指導を徹底する。	
455	玩具の箱が出しっぱなしになっていた	玩具の量を減らし、更に日によって玩具を限定して出す	1.集団活動中・見守りあり	特になし	玩具は決められた場所にあるか、整理整頓できているか日々確認する	1.いつもどおりの様子であった	友達に追いかけられ逃げていた	4.対象児の動きを見ていなかった	同室で他の児童と話をしていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれ担当の部屋にいた	室内で走っていた。走らないよう声かけをしていなかった	室内では静かな遊びをする。走っている子には声かけをする	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
456	令和6年3月27日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	12	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	32					14	18			2	1	16. 4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)	右足首靭帯損傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	特になし	マニュアル有り、研修実施、職員配置基準も満たしているため、特になし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	施設、遊具、玩具の安全点検を定期的に行っているため、特になし。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	園庭にはつまずくような窪み等はなかった。また、見守り体制があったため、特になし。	1.いつもどおりの様子であった	活発に戸外遊びを楽しんでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	他の職員と役割分担し、子どもたちの様子を見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	担当職員と役割分担し、子どもたちの様子を見守っていた。	特になし	今後も、職員同士連携を図りながら見守りを行っていく。	
457	令和6年3月27日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	9	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	125				45	41	39			16	16	16. 4歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		6.その他	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	頚椎捻挫	3.子ども同士の衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	1	2.基準配置	安全対策マニュアルの欠如	安全対策マニュアルの作成	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	死角になっている	死角になっている場所の使用を許可制にする	7.その他	自由遊び中は、移動が自由で保育室外でも遊べる状況にある	自由遊び中の保育体制の確認、検討	2.いつもより元気がなかった(理由を記載)	友だちとごっご遊び中だったが、いつもより元気がない様子だった。	4.対象児の動きを見ていなかった	教師は保育室担当であった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭担当は配置しているが、保育室外のフリースペースの担当は配置がされていない	園児のケガの要因をその場で把握できなかった	自由遊び中の保育体制の確認、検討	
458	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	21									2	2	17. 5歳	1.男児	無し	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	6	1.基準以上配置	特になし	職員配置も基準以上であり、事故防止に関する研修も実施しており、改善策は特にない	1.定期的に実施	36	1.定期的に実施	36	1.定期的に実施	12	特になし	施設・遊具に問題はなく、定期的に安全点検を実施しており、改善策は特にない。	1.集団活動中・見守りあり	登り棒に登る励みとして鈴をつけていたが、総合遊具のデッキから子どもが鈴を触ろうとする可能性を予測できていなかった。	子どもの行動をできる限り予測し環境構成を行う。登り棒の励みとして鈴をつける必要性の有無、付ける場合は時期や配慮事項について検討する。	1.いつもどおりの様子であった	特に変わった様子はなく、いつも通りに遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	近くにいたため落下の瞬間は見ていたが、手が届く距離ではなかった。落下後すぐに対応した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	少し離れたところで他児を保育していた。	登り棒をしていた時に、近くにはいたが見守りが十分でなかった。	子どもが登り棒をしている時には側で見守るようにし、子どもの様子にすぐに対応できるようにする。	
459	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	12									1	1	16. 4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	大腿骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年 他随時	2.基準配置	八角ジムの辺りに、他の学年の担当者がいて、落下したことに気付いた。	八角ジムを使用している園児がいる場合は職員が側につく。複数のクラスが同時に園庭で遊んでいる場合は、各担当場所を決め、園庭全体に目が行き届くようにして戸外遊びを見守るようにする。また、3歳児以下が1クラスしか園庭に出ない場合は、2名以上の職員を配置し見守りを行う。	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	52	1.定期的に実施	52	園庭が砂の為、高い位置からの落下の際は衝撃が強かった。	運動器具の下には、マットや芝生を敷くなど、誤って落下した際にも衝撃が少ないように対策をとる。	3.個人活動中・見守りあり	八角ジムの4段目に園児が登っていることに職員が気付かず、止められなかった。	八角ジムの4段目を3歳児が使用する際には、職員が側で見守る。	1.いつもどおりの様子であった	運動能力が発達してきて、より活発に遊ぶ姿が見られるようになっていた。八角ジムに上ることにも慣れ、より高い所に登ってみたいという意識が芽生えていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	園庭内で他の場所の遊びの様子を見守っていた為、対象児が八角ジムの4段目まで登っていたことに気が付かなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他のクラスの担当者が八角ジム付近で他の園児の対応をしており、職員の後ろで音がして対象児が落下したことに気付いた。	園児がどこでどんな動きをしていても対応できるように、園庭全体を見守れる体制をとる必要がある。	園児がどこでどんな動きをしていても対応できるように、園庭全体を見守れる体制を整える。外遊びの際は職員配置を増やす。	
460	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	13									2	2	16. 4歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左側鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2	1.基準以上配置	無し	日々の子供の活動等について情報共有をする。安全管理マニュアルの確認。環境構成の配慮、子どもへの注意注意喚起（3歳以上児）	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	環境の整備が甘かったと思う。	事故状況の共有と何故発生したかを深堀し環境設定配慮を再確認	1.集団活動中・見守りあり	危険場面では声掛けはしているが、元気な子で走り回っている中での転倒であった。	活動前の環境設定や子どもの予想される活動がしっかりと保育に活かされるようにしていかなければいけない	1.いつもどおりの様子であった	健康状態良好で元気に遊んでいた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	全体が見える位置に立ち、遊びを見守っていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	13人を２人でみていた。転倒後すぐに報告し、冷却材で幹部を冷やした	無し	遊びの中で予想される子どもの姿を共通理解していく	
461	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	6.5歳以上児クラス	16									2	2	18. 6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手首骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	公園のハザードマップを作成していたが、今回の公園は未作成だった。	散歩で訪れる公園は、全て作成する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12	子どもの遊具と大人の健康器具が混在していた。	公園内で使ってよい遊具を再指定する。	7.その他	低くても園児用の遊具ではなかった。	使用してよい遊具を明確にし、子どもに明確に伝える。	1.いつもどおりの様子であった	保育園の最終日ということもあり、テンションが少し高かった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	園児の至近距離で見ており、対象児が落下する瞬間に手を差し伸べたが、間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の遊具に一人ずつ、ついていた。	自閉症児がたまたま当遊具の近くに来たため、一瞬反応が遅れた。	使用してよい遊具を明確にし、子どもに明確に伝える。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
462	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	13				1	12				1	1	16.4歳	1.男児		8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左尺骨遠位端骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	2	2.基準配置		外遊びの時に先生が一人配置にならないように考える	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3		環境面でも触れているが、人工芝の張り替えを行う。	7.その他	雲梯の高さは年長児がぶら下がっても足がつかない程度。人工芝がやや固くなっている。	遊具を新しくする予定なので、人工芝も改修する。	1.いつもどおりの様子であった	直前に友だちが雲梯をする様子を見ていた。その後、自分もやってみようと雲梯にぶら下がった。部屋へ戻る為に片付けを呼び掛けた後、雲梯から手を離してしまった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	友だちの様子を見ていた本児に声をかける。違う遊びをしていた（のぼり棒をしていた）別の子の方に移動し、その後、片付けの時間になったため、片付けを呼びかける。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭に出ているのが該当クラスのみだったので他職員はその場にいなかった	園庭遊び終了を告げられたことで手を離してしまった可能性もある。	戻る時間を予告しておく。もうすぐ戻る時間だと子どもが意識できるようにしておく。本児がどれくらい雲梯ができるのかを見極め、そばについておくべきだったかもしれない。全体の遊びを把握し、危険が伴うところには側につくようにする。	
463	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	10									2	2	17.5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘橈骨頭頸部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(12　)回/年	1.基準以上配置	生活の切り替わりの時間（延長保育）で見守り体制に死角が生じた。	保育者同士の声掛けと引継ぎを徹底する。	1.定期的に実施	実施頻度(12　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1　)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12　)回/年	保育室前廊下のベンチは保育室に沿って設置しているが、保育室入り口へ15cm程度はみ出ていた	保育室入り口へはみ出ないようにベンチの位置を変える	7.その他	職員（保育者）がお迎えの時間帯に保護者対応をしており、子どもを見守る職員が手薄となった。	保護者対応をする人、子どもを見る人の役割分担で、もれのないように徹底する。	1.いつもどおりの様子であった	ベンチに座って製作していた。帰る直前のため上靴を脱いで片付けていた。靴下だったので滑ってバランスを崩し転倒した。	4.対象児の動きを見ていなかった	担当職員は保護者対応をしており、子どもを見ることができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭の園児を見ていた。	職員（保育者）がお迎えの時間帯に保護者対応をしており、子どもを見守る職員が手薄となった。	保護者対応をする人、子どもを見る人の役割分担でもれのないように徹底する。	
464	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	4	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	2.1歳児クラス	1											13.1歳	1.男児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	8.その他	2.なし	3.未実施	実施頻度( )回/年	2.基準配置	子どもを抱っこしながらの階段昇降は足元が見えづらく注意が必要である。（朝の登所時は気持ちが急いている場合もある。）	声かけや掲示等で注意喚起を行うとともに、スロープの利用を積極的にすすめる。（送迎の多い時間帯には所務を配置しているが、保育中や職員勤務時間外の場合は人員配置が難しいので、掲示等での注意喚起となる。）	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度( )回/年	施設の構造上、安全対策の為にコーンバーを階段下に二本設置。昇降スペースを狭め子どもが飛び出していかないようにしているが、保護者がすれ違うことに関しては十分なスペースとは言えない。	階段横に設置してあるスロープ使用をすすめる。コーンバーを一本に減らし、昇降スペースを広げ保護者がすれ違う際のゆとりを持たせた。	7.その他		子どもを抱っこしての階段昇降の際の注意喚起を配信や掲示等で行う。また、スロープの利用の声かけを適宜行う。	1.いつもどおりの様子であった	特に変わった様子(泣いたりぐずったりするなど)はなかった。	4.対象児の動きを見ていなかった	子ども達の登所時は室内で保育中のため玄関外の子どもの動きを見ることはできない。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	登降所の際、時間帯によって保育所内駐車場の誘導に保育所所務が対応している。所務がすぐに転倒に気づき、親子の状態を確認後すぐに朝の打ち合わせ最中の所長・看護師に報告しに来た。		駐車場案内と登降所の見守りを同時に行うことが難しい場面もあるが、状況によって声かけやスロープへのご案内を適宜行っていく。	
465	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	4	7.午後	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	17									2	2	15.3歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	無	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	3	1.基準以上配置	保育士が予想される子どもの行動について見守ってはいたが、とっさの行動に対処できなかった。	運動機能を高めたり、俊敏性を養う。また、子どもへの安全教育を行う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		つまずきやすいような物が落ちていないか、突起物は無いか園内を確認する。	3.個人活動中・見守りあり	対象児や他児の運動機能を過信せず関わるべきだった。	安全な遊び方について、子どもと一緒に保育士も再確認する。	1.いつもどおりの様子であった	子ども数名で追いかけっこをしていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	そろそろ保育室に戻ろうと全体に声を掛けながら、片づけを一緒に行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育室で午睡の準備をしていた。	子どもの行動をきちんと確認し、危険な行動に発展するか予測することが出来なかった。	何事も大丈夫と思い込まず、子どもの行動には危険が伴うことを常に意識する。	
466	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	41			10	10	10	11			6	6	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2	1.基準以上配置	職員は2歳児2名、3歳児2名、4歳児1名、5歳児1名。	転倒後の対応として、保護者への連絡等の判断を速やかにする。骨折かどうか不明な時はすぐ受診を勧める。	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	随時	2.不定期に実施	随時	友達と走り出してバランスを崩した。	遊具設定の工夫をしていたが、様々な事態が起こりうる予測が必要である。	3.個人活動中・見守りあり	友達と一緒に、速く走ろうという思いがあったと思われる。	ぶつからないような間隔で広いところで走るよう伝える。	1.いつもどおりの様子であった	普段通り登園し、変わった様子はなく保護者からの連絡事項もなかった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	ベンチで友達と水を飲む様子を確認している。そこから一緒に走り出し、バランスを崩して転倒した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	異年齢の子どもたちが遊んでいたため、それぞれの担任は主に自分のクラスの子どもや近くにいる子どもを見守ったり、一緒に遊んだりしていた。	遊びの約束や遊具設定の工夫をしており、保育士一人一人が離れた場所で子どもと遊んだり見守ったりしていた。	遊具設定の工夫をしていたが、とっさのことに対応しきれなかった。様々な事態が起こりうる予測が必要である。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
467	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	14					0				2	2	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右脛骨骨幹部骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置		園児への指導の実施。職員へ事故に関する周知と保育環境の再検討	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		引き続き、定期的な安全点検を実施を行い遊具・用具を適切に管理する。	1.集団活動中・見守りあり		体を動かした遊びの充実により身体諸機能の発達と、園児を対象とした安全指導を実施し周囲の状況把握や安全な遊び方が身に付けられるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	対象児は普段の様子と変わらなかった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	担任は対象時児の近くで見ていたが、落下時に受け止めることができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当職員以外は、それぞれの場で保育等を行っていたため発生時の様子は見ていなかった。		教師間で事故発生に関する共有を行い、指導に関して再確認を行った。	
468	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	4	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	3									3	3	13.1歳	1.男児	入園時より、乳全般・卵アレルギーの既往歴があり、乳成分表示のもの全て提供不可、粉ミルクも乳成分なしのものにて対応。令和●年●月●日より、卵全解除との診断を受ける。	5.食事中(おやつ含む)	1.負傷		6.その他		食物アレルギー（乳全般）によるアレルギー症状	6.アナフィラキシーによるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	緊急時の個別対応マニュアルは作成していたものの、食事時のマニュアルは口頭で全職員周知のみであった。	食事時マニュアルを文書化し、全職員の意識の徹底を行なう。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	6	2.不定期に実施	10	本児固定の机と椅子が決まっておらず、他児のものとの区別がなかった。	本児固定の机と椅子として目印を付け、ランチルームに配置する。	6.食事(おやつ)中	除去の無い時には、同じテーブルで食していたことが、混乱の一つにもなった。（他児と食せる時にはそうしてあげたい願いがあった）	給食・おやつ共に、除去の有無に関わらず、本児固定の机と椅子を設定する。	2.いつもより元気がなかった(理由を記載)	少し風邪のひき始めであった。	4.対象児の動きを見ていなかった	担任1名は、手洗いを済ませた子から机の席についていく受け入れをしたが、本児用の机や椅子の用意及び本児が他児に交ざって長机に座っていることに気付けなかった。もう1名は、一旦子ども達の元に来たものの、本児用の机や椅子がないこと、本児が長机に座っていることに気付けず、補助保育士の声掛けで部屋に戻ってお知らせボードを記入していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児と共に本児が座っている長机の側に居たが、本児用の机と椅子や本児が他児と共に長机の席についていることに気付けなかった。	保育士間の意思疎通が出来ておらず、声の掛け合いが乏しい状態であった。（持ち上がり担任1名、4月より入職担任1名、副主任1名）	保育士間の連携を取りながら、人任せにせず、役割の明確な分担をすると共に、必ず「いただきます」時には保育士着席と、名前の確認をする。	
469	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	41									4	4	15.3歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(4)回/年	2.基準配置	保育担当とは別に駆けつけられる職員は園内にいが、園庭に配置されていなかった	研修は行っているものの、常に事故やケガを予測し事前回避することが必要	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(20)回/年	施設・設備に関する不備は見当たらなかった	園庭に向けた防犯カメラにより、事故後に状況の見直しができた	1.集団活動中・見守りあり	年度始めで外遊びの慣れていない状態であった。遊具の正しい使い方が子どもたちにまだ浸透していなかった	学年全体の現状を把握し、職員が遊び場や子どもの遊び方をチェックする	1.いつもどおりの様子であった	久しぶりの外遊びで喜んで遊んでいた。遊具の使い方も理解しているはずだった	4.対象児の動きを見ていなかった	対象児とは離れた場所で他の園児を見ていた。昨年度からの在園児より、新園児に対して注意を払っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	早い降園の子がいたため、見送りのため園内に入っていた。	慣れない新園児もいて、職員も余裕を持って子どもをと見ることができていなかった	どの職員も子どもの活動全体が見える位置で見守ることができるような配置をすることを心掛ける	
470	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	4	1.朝(始業〜午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	47				13	19	15			5	5	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外顆骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	3	2.基準配置	太鼓橋を安全に使用するための周知、確認	太鼓橋の下はくぐらない、子どもの発達を担任がしっかり周知してから使う等、安全に遊べるように使い方を職員間で再度話し合い、周知する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	太鼓橋の下にある安全マットが砂で滑りやすくなる。	安全マットを細目にほうきで掃いたり、場合によっては体育マットを使用する。	1.集団活動中・見守りあり	手を離し着地しようとした際、バランスを崩して両肘を地面に着いたため。	太鼓橋で遊ぶ際には必ず保育者が側に付き、その子の力量によっては手を添える等援助をする。	1.いつもどおりの様子であった	太鼓橋に登って7段目からぶら下がり手を離し着地した際、バランスを崩して両肘を地面に着いた。涙をこらえる姿があったが腕に傷や腫れなどは見られなかった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	両肘を確認するが腫れや出血がなく、自分で腕を動かすことが出来たため様子を見た。翌日、給食中左腕を庇う姿があったため、看護師、主任に報告(さほど痛みを訴えず自分で動かしていた)。翌々日、腫れや痛みが出たため受診する。(発生時より都度保護者には様子を伝達した)	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	別の子どもたちの見守りをしていたため(安全の為、点在し子どもの様子を見ていた為)	発生当日の報告・相談をしなかったこと。	自己判断せず、周囲の保育者や上司への報告・連絡・相談を細目に行う。	
471	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	24									5	5	16.4歳	2.女児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右ひじ骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	2.不定期に実施	3	2.基準配置	年齢発達の認識不足だった	教育・保育施設等における事故防止及び事故発生の対応のためのガイドラインをもとに事故防止のためのマニュアルを作成し職員間で共通理解する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		年齢発達に適した遊具であるか設置前に分析する必要がある。	3.個人活動中・見守りあり	対象児の運動能力を過信せず関わるべきだった。	設置した遊具に保育士が必ず1名は配置できるよう、設置する遊具の数を考慮していく。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	遊戯室に設置してある遊具に興味をもって1つ1つ挑戦していた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	●●BOXの上で遊んでいる子がいなくなったので、子どもが密集しているところへ移動しようとしていると対象児が●●BOXの上を歩いていた。近づいていったが間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	遊戯室にある他の遊具で遊んでいる子と遊んだり対応したりしていたので見ていなかった。	以前から当該遊具で遊んでいたため、当日も危険がないと保育士が認識していた。	設置した遊具に保育士を必ず配置する。何事にも大丈夫だからと思い込みで判断せず、子どもの行動には常に危険が伴うことを常に意識して関わる。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
472	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	55				8	8	39			4	4	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	一瞬での転倒であったため、即座に対応ができなかった。	すぐに対応できる位置に職員を配置するようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(40)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎回)回/年	安全基準を満たした遊具であったが、事故が起こってしまった。	遊具の下にマットを設置する。	1.集団活動中・見守りあり	保育士は近くにいたが、一瞬で転倒してしまった。	職員、子供の数に応じて、使う園庭の場所を限定する。	1.いつもどおりの様子であった	特に変わった様子はなかった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	一瞬で転倒したので、その後すぐに当児の状態を確認し、職員室にて安静にした。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	自分の担当の場所を見ながらも全体を見守っていた。	特になし	園庭を見守る保育教諭の人数を増やし、より注意深く見ていく。	
473	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	10				3	4	3			2	2	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	3	2.基準配置	子ども達が速く走っていた時でなかった為、このような怪我や事故につながることを予測していなかった。	子どもの発達や遊び方についてしっかり把握し、常に怪我や事故につながることを想定して職員の立ち位置や環境を整えいく。	1.定期的に実施	100	1.定期的に実施	100	1.定期的に実施	50	大型遊具は点検前の為、まだ遊んでいなかったが、遊び方の把握ができていなかった。	普段遊び慣れている場所でも大きな事故につながる可能性があることを常に意識して保育する。	1.集団活動中・見守りあり	大型遊具が点検前で遊べなかったので、活発な動きのある遊びで遊んでいる子が多く、環境整備が十分にできていなかった。	日々の活動の中で行動を予測して、遊び方について子ども達に事前に知らせていく。	1.いつもどおりの様子であった	友達とかけっこをしたり、だるまさんがころんだなど楽しんでいたが、ルールがわからず、虫探しやかけっこを楽しんでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	２歳児と保育士１名が園内に入った直後だったので、担任が１名と３歳以上児10名が園庭にいて、そろそろ園内に入ろうとしているところであった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	２歳児の担任が、５名の子どもの靴や帽子を玄関で脱がせて対応していた。	普段気持ちが高ぶると行動が荒くなり、抑えられなくなり注意されることが多い。危険な行為になり得るであろう子どもの動きを把握できず、怪我に繋がってしまった。	保育士の立ち位置の確認と、子どもの動きを把握し、職員同士で声を掛け合い事故防止に努めていく。	
474	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	12									2	2	15.3歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨通顆骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	6	1.基準以上配置	年度始まりの時であり、中でも本児の所属する新3歳児は生活拠点が１階から２階でになったばかりであった。個々の階段を下りてからの園庭に出ていく行動パターンや体の使い方、意識の変化が予想できていなかったのではないか	特に年度当初はゆとりを持っての職員配置を行う。担任と子どもの関係づくりを築くとともに、子どもの行動パターン、発達、育ちを再度丁寧に全担任と連携し活動を計画する。特に生活拠点が大きく変化する3歳児では、子どもたちと一緒に行動することや、ゆとりをもって行動する事。また園庭と二階にいる職員が声をかけあい連携を取りながら移動するように再度確認対応する	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	園庭が多少凸凹していたため走り出した時にバランスを崩したのではないか	園庭整備を行い、プレートで固めるとともに、凹凸に気づいたときには平らにならしていく	1.いつもどおりの様子であった	保育者や友だちと一緒に外階段を下りてきた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児と一緒に外階段を下りて、園庭南側にある砂場の方に向かう。本児が他児とともに走って保育者を追い抜いていた直後、保育者の前で転倒したためすぐに近づき対応した	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	１歳児の職員1人は、子ども3人と園庭南側の砂場で遊んでいたため見ていない	特になし	園庭にいる職員と二階にいる職員が声をかけあい連携を取りながら移動するようにする。	
475	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	30									2	2	18.6歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	尾てい骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1.基準以上配置		特に改善策はありません	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		特に改善策はありません	1.集団活動中・見守りあり		特に改善策はありません	1.いつもどおりの様子であった	普段から活発な子で、いつも通りの様子であった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	至近距離にいて、児童が玄関に向かって移動する様子をみていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	至近距離にいて、児童が玄関に向かって移動する様子をみていた。		しっかり準備を終わらせてから落ち着いて移動するように声がけをする。園児を目をはなさず見ておき、移動する際は気をつける。	
476	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	32	2	2	6	10	10	2			6	2	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘の骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	加配のついている園児の動きは予想していない動きをするので、見守るだけではなくその都度そばについてすぐ対応できるようにする必要があった。	子どもの動きの色々な場面を想定して動けるようにしていく。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	48	2.不定期に実施		おもちゃ小屋の棚が子どもが登りやすい高さでおいてあり、すぐに登ってしまった。	危険が伴うので、おもちゃ小屋は人手の少ない朝夕の特例時間は子どもが入れないように鍵を閉める。棚に登れないようおもちゃを置くなどして対応する必要がある。	1.集団活動中・見守りあり	クラス担任がいない状況で、本児の動きや性格など詳しく把握できていない職員による保育だったため、丁寧な関わりができていなかった。	他の子よりも激しい動きをする本児の状況を、普段から、職員間で共有し、対応できるようにしておく必要がある。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	おもちゃ小屋に縄跳とびの縄をしまいにいった。普段保育士がしているのをまねして高い所に縄をかけようとして、棚に登り落ちてしまった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	他の子どもの見守りが必要で、本児に対しては見守るだけで、近くにいくことができていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他のクラスの子どもの保育にあたっていて、本児の動きには気づいていなかった。	それぞれ担当している子どものことしか把握できていなかった為、危険な行為に気づくことができなかった。	担当職員だけではなく、他の職員も視野を広げて、全体の子どもの様子もみていくようにする。	

No	初回掲載年月日	概要：認可・認可外	概要：施設・事業所種別	事故発生時期：月	事故発生時期：時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳：0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故：年齢	性別	特記事項
477	令和6年3月27日	1. 認可	6. 認可保育所	4	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	25					13	12			2	2	16. 4歳	1. 男児	特になし
478	令和6年3月27日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	4	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	38	0	0	0	12	8	18	0		4	4	17. 5歳	2. 女児	日頃より、立体砂場にある丸太で組んだ枠の上に乗って遊ぶことが多かった。
479	令和6年3月27日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	4	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	72			18	18	16	15	5		6	6	17. 5歳	2. 女児	運動が得意ではない。
480	令和6年3月27日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	4	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	23									1	1	17. 5歳	1. 男児	特になし
481	令和6年3月27日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	4	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	33	1	3	9	7	4	9	0		10	8	16. 4歳	1. 男児	

No	事故状況：発生時状	事故の転帰	死亡：死因	負傷：負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面：マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面：施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】
477	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	1	1. 基準以上配置	特になし	定期的な研修やマニュアル作成も行い、職員配置も基準以上を満たしていた。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12
478	1. 屋外活動中	1. 負傷		6. その他	5. 下肢(足・足指)	左足くるぶしひび	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1. 基準以上配置	なし	マニュアルにそった対応を行っていた。今回の事故を契機としてマニュアルの見直しなども検討していく。	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年
479	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左手首橈骨遠位端骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	1～2	2. 基準配置	保育者の話を聞いていた分足元に注意をしていなかったと判断している。	他人の話を聞いていると注意が散漫になることをわかりやすく伝える。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12
480	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	基節骨骨折	4. 玩具・遊具等施設・設備の安全上の不備によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	8	2. 基準配置	遅番勤務の担任に代わっての保育中でのけがということもあり、代替職員との引継ぎを更にしっかり行う事	ヒヤリハットの意識を高め、事故防止に努める	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12
481	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2. 基準配置		園庭遊び時の危険状況の再確認	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年

No	ハード面：その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面：教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面：対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
477	特になし	定期的に安全点検も行っており、鉄棒の下にもマットを敷いて安全対策をとっていた。	3. 個人活動中・見守りあり	特になし	固定遊具の危険性を知らせ、その都度約束をしてから遊ばせる事を徹底する。	1. いつもどおりの様子であった	鉄棒の上に足をかけることに挑戦してみたかった。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	鉄棒の目の前で見守りを行っていたが、泣いている園児の対応に気を取られた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他園児の見守りを行っていた。	特になし	固定遊具で遊んでいる子どもを見守る場合は、見守りに徹し、他園児の対応は他保育士に任せる等、連携を図る。	
478	立体砂場の砂が少なくなっていた。	砂が流れ出ないような対策と砂を定期的に入れ込みを行う。	1. 集団活動中・見守りあり	なし	屋外活動での注意点を児童に伝える。	1. いつもどおりの様子であった	仲良しの友だちとの遊んでいた。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	各児童の危険な行動がないよう、広く見渡せる位置で見守っていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれの担当の見守りの位置で見守りを行っていた。	想定外の事態であり、予測が困難である。	滑りやすい場所や行動に対して注意するよう声掛けを行う。	
479	砂場のへりは広く安定していたので昇り降りしても大丈夫と本児が無自覚に判断した。	バランスを崩すこともあるということを認識させる。	1. 集団活動中・見守りあり	危険行為になってしまうという判断をできていない。	危険行為になる可能性もあると判断ができるようにする。	1. いつもどおりの様子であった	心身の状態はいつもどおりであった。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	転倒した本児を挟む距離で保育の見守りをしながら会話をしていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	ほかの児童の保育に対応していたので、事故の現場は見ていなかった。	話を聞いていて保育者の間に入り、砂場のへりを昇り降りしていた。	事故が予想できなかったので、このような事故も転倒危険があると認識する。	
480	危険予知の意識をもっと高く持つ事。	ヒヤリハットの意識を高めることで、点検の見逃しを防ぐように努める	1. 集団活動中・見守りあり	環境を整える上で、園の職員による手作りで設置していた。日頃の点検を含め、最善の注意・配慮が必要であった。	ベンチの修繕・見直し	1. いつもどおりの様子であった	変わらず、元気に過ごしていた。	4. 対象児の動きを見ていなかった	自由遊びをしていた本児が、担当のところに泣いてきたことで気づく。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員はいなかった。	全体把握ができていなかった。	日頃の遊びの中でもヒヤリハットの意識を高め、危険性を早期発見、早期処置を心掛け、事故防止に努める。また、全体を把握しながらも一人ひとりの違和感に気づき、声掛けなどを行い未然に防ぐ意識を持つ。	
481	夕方だったが、暗くもなく視界は良好。やや風が強かった。本児は普段から対象の丸太付近にいることが多かった。丸太は通常他児も上に登ったりしているため、危険認識が低かった。	丸太にうつぶせで寝ることや、遊びの延長にそのような遊びに繋がる恐れがある場合は、注意しやめさせる。	1. 集団活動中・見守りあり		低年齢の丸太遊びは常に保育者が付くようになっているが、本児の年齢では常についてはいなかった。体力・筋力面など考慮して遊びの内容を変えたり、違う場所へ誘う等していく	1. いつもどおりの様子であった	夕方、その丸太に乗って遊んでいることがよく見られる。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児の近くにいたが、他児と遊んでおり、常に対象児を見てはいなかった	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の対応をしており、本児が丸太にいることは把握していたが、見てはいなかった	夕方ということもあり、本児も疲れていたのかもしれない。丸太から起ち上がろうとしたときにバランスを崩してしまったのかもしれない	普段と違う体勢をしていたり、バランスを崩してけがをしそうな場合には通常の見守りではなく、すぐに対応できるようにそばに保育者が付くようにする。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
482	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	14									2	2	17.５歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折(左肘)	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施		2.基準配置		朝の打ち合わせで状況を報告し、何気ない行動でも怪我に繋がる可能性があることを知らせ、緊張感を持って保育するようにする	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施			定期的な点検を続ける	3.個人活動中・見守りあり		あらゆる場面で怪我や事故が起こる可能性があることを保育士自身も念頭に入れ、子どもたちにも更に伝えていく	1.いつもどおりの様子であった	運動会に向け逆上がりができるようになりたくて練習に励んでいた	1.対象児とマンツーマンの状態(対象児に接していた)	本児から手伝ってほしいと言われ補助をしていた。お尻を持ち上げた後、胸の方へ手をかえようとした一瞬手を開いた時に事故が起きてしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の見守りをしていた		遊具の使い方、補助の仕方などをもう一度確認し合い、子どもたちにもその都度声をかける	
483	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	4	7.午後	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	1									1	1	16.４歳	1.男児	日常的に支援を要するため個別に保育士が対応していた。突発的、衝動的な行動あり。多動的な行動が見られる。	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足脛螺旋骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	３～４	1.基準以上配置	29名の園児に対し２名の職員を配置しているが、様々な特性を持つ園児が多く、２名配置していても目が行き届いていないと感じられることがある。	個別対応時はフリーの保育士を配置する。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	ウレタンマット（２㎝）の上に布団を敷いていたが、布団、マットの上は柔らかく足下が不安定であった可能性がある。	転倒に繋がる恐れがある時は声掛けや制止を行う。	3.個人活動中・見守りあり	床に直接布団を敷かずウレタンマット（2㎝）の上に布団を敷いた。周囲に足を取られるような物はなかったが、敷いてある布団に足を取られた可能性がある。	転倒につながる恐れがある時は声を掛ける。周囲に転倒の原因となる物を置かない。	4.具合が悪かった(熱発・腹痛・風邪気味等理由を記載)	腹痛の訴えがあり保育士と共に入室、トイレへ行く。排便なし。当日は午睡をしておらず眠気もあり不安定な状態であった。保育士が布団を敷くと一変し気分が高揚して掛け布団を手に持ち振り回しながら敷布団の周りをグルグルと回りだす。	1.対象児とマンツーマンの状態(対象児に接していた)	一緒に入室後、トイレへ誘導する。本児が不安定な状態だったため、保育室に布団を敷く。本児が高揚していたため近くで見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭遊び中のため、他園児２８名の保育をしていた。	普段より突発的な行動を制止すると強い反動が出るため、本児のペースに合わせられるよう、個別に保育士を配置し見守るようにしていた。	園児の特性を理解し、普段と違った様子や状況の時にはより注意を払うようにする。室内は走らないようその都度伝え、興奮状態にある時は気持ちを抑えられるよう別室に移動したり、他の事へ興味を向けられるよう心掛ける。	
484	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	37				12	17	8			18	18	16.４歳	1.男児	乳・キウイのアレルギー有(3歳児まで卵アレルギー有り。現在は解除されている)	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	近年やっていない	1.基準以上配置	注意力や、気持ちと体が異なる場合がある	本児の体調や、気持ちの状態を見極め、更に行動を把握し、遊具の危険個所の安全を確保できるように保育教諭が連携を取る	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	目に見える玩具は毎日	日頃より、破損、紛失を知らせるように早期発見、対応に心がける	遊具の点検を行っている。遊具としての不備はなかった。	3.個人活動中・見守りあり	以上児クラスで異年齢が混合していたので、年上児がする事を憧れ模倣、仲の良い友達と同じことをしたい等気持ちが高ぶる。	危険箇所には、見守る姿勢について話し合う。他クラスの子供を見ることがあるため、各クラスの子供の特徴を細かく知る。周知する。	1.いつもどおりの様子であった	最近になり●●の遊具で遊べることが増え、何度も楽しんでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	頻繁に同じ場所で遊んでおり、安全が確認した上で見守った	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の場所で他の子供を見ていた	本児が独自の遊びから、他児の遊びに興味を示し、他児のやっていることを模倣することが増えてきた時期であった。	本児はできるようになった自信がついてきたことも視野に入れてもう少し丁寧に配慮すべきと考える	
485	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	105	5	20	20	19	22	19			12	12	15.３歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右脛骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	2.基準配置		園庭での自由遊び時間は、園庭にいる職員全体で連携をとれるよう声を掛け合い、職員が同じ場所に重ならないような配置にする	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	大人の援助なく一人で登り、降り出来る遊具であった。	大人の見える場所に移動した。	1.集団活動中・見守りあり	側にいたが他の子に対応していた。	高さのある遊具には職員を配置しておく。	1.いつもどおりの様子であった	体調も良く活発に遊んでいた。運動機能も発達し日頃の遊びの中でも「走る」「ジャンプする」「くぐる」「転がる」「ぶら下がる」動きが可能だった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	すぐそばにいて視野に入っていたが、他の園児が指さした方を一緒に見ていたため、ジャンプする前に止めることができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭の別のところで、ほかの園児の対応をしていた。	運動能力や発達を把握していたが、着地に失敗してしまったため援助できなかった。	職員間で事故状況を共有し、同じような事故が起こるかもしれないと常に意識する。	
486	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	14									2	2	15.３歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		6.その他	4.上肢(腕・手・手指)	切り傷、じん帯損傷	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度( )回/年	2.基準配置	普段３歳児クラスは２人配置をしているが、当日急な職員配置の変更があり一人配置となった為、子ども達も落ち着きがなく１日過ごしていた。	子ども達が落ち着かない時や忙しい時は１人手伝いに行っていたが、それでも落ち着かない時は１対１で対応する等、少人数ずつ話をしたりする。	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年		玩具の片付けの際、玩具につまづいたり滑ったりするなどの事故ではなく、人対人の事故の為改善策なし。	3.個人活動中・見守りあり	片付けを行う際、たくさん片付けをしようと勢いよく片付けを始めてしまう子もいる為、他児との事故やトラブルが起きやすい。	周りを見ながら落ち着いて取り組むことができるように声掛けを徹底し、安全を意識できるよう職員が配慮・促しを行う。また、子ども達も意識できるように働きかける。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	朝から気持ちがたかぶっている様子が見られた。夕方も少し活発であり、玩具の片付けの際は、片付けに集中していて周りを見ていない姿もあった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	全体の子ども達に片付けの声掛けを行いながら、保育者も一緒に片付けを行っていた。走っている子には落ち着いて行うよう声を掛けていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	玩具の消毒を数名の子ども達と一緒に座って行いながら全体の様子を見ていた。もう一人の保育者がお迎えの対応をしている時は作業をやめて全体を見ていた。	片付けの際は、ほとんどの子どもが立って歩き回ったり走ったりしながら片づけをしており、その中でお迎えが来ると1人保育士が対応に出たり気持ちが高ぶったりする子もいる為、トラブルが起きやすい。	片付けに夢中になり、走って玩具を取りに行く子には、落ち着いて行うよう声を掛ける。お迎えの対応に出る際は、もう1人の保育者に伝えてから対応する。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
487	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	12	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	11									1	1	17.5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左拇趾開放性骨折、指脱臼	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	2	2.基準配置	保育用具における危険性に対する認識の不備	日常的に使用する保育用具対しての危険性を職員間で共通理解していく	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	机の縁は角が立たないよう面取りしてあるが、重さに対しての配慮に欠けていた	机をなるべく軽い素材(木材）で作れるか検討する	1.集団活動中・見守りあり		いつも使用している机が扱い方によっては危険物になりうるという事を職員間で共通認識としたうえで、園児にもその事を伝えていく	1.いつもどおりの様子であった	普段は一人で運びなれている机ではあったが、その時は寒さもあったのか長袖の袖で手を覆ったまま運び、滑って机の天板の縁を足の指の付け根に落とし怪我をする	4.対象児の動きを見ていなかった	台布巾やおしぼりを洗濯するためその場を少し離れる	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	担任の代わりに当該児童の傍で全体を見守っていた		いつも使用している机が扱い方によっては危険物になりうるという事を職員間で共通認識としたうえで、園児にもその事を伝えていく	
488	令和6年3月27日	1.認可	3.保育所型認定こども園	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	71			5	18	16	32			7	7	16.4歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左脛骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	2.基準配置	特になし	ベンチの上に乗っている時は傍について、落下しないように注意する。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	ベンチに乗っている時は傍に保育士がついて見守ることが必要	ベンチを撤去した	1.集団活動中・見守りあり	直前まで加配保育士が児の傍について見守っていたが、他児のトラブルに対応し児から離れてしまい、その後周りの職員との連携が十分でなく、適切な対応ができなかった。	児の行動や遊びを把握し、職員で情報共有ができるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	機嫌よく異年齢の子と関わりながら、真似をして遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	加配保育士は少し離れた所で他児のトラブルに対応していた。担任は離れた所で児の様子を見守り、年長児の知らせと共に児の傍に駆け付けた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児以外の児童の対応をしていたため、対象児が落下した時に間に合わなかった。	ベンチの上に乗ってバランスを崩して落ちてしまった。	戸外遊びで遊具を使用している園児の傍から離れる際に周りの職員に声を掛けるなどの連携を十分に図るようにする。	
489	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	60									4	4	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左前腕橈骨、尺骨骨折、左母指挫傷	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	特になし	園庭見守りの強化	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	特になし	遊具等の点検を行っている	4.個人活動中・子どものみ	特になし	見守りの強化	1.いつもどおりの様子であった	園庭で戸外遊びをしている	4.対象児の動きを見ていなかった	他児の対応をしていたため気づかなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	泣き声に気づいて駆けつけた	保育者の見守りの人数	保育者間で連携をとり、全体を見守り、ケガや事故防止に努める	
490	令和6年3月27日	1.認可	3.保育所型認定こども園	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	57				18	39				4	4	15.3歳	2.女児	発育状態：良好、両肘脱臼しやすく、昨年には園の3歳未満児用滑り台から飛び降りてバランスを崩し、左肘を骨折して手術している。発生時の天候：曇り	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	3	2.基準配置	職員の異動で、昨年度の事故報告やヒヤリハット事例が共有できておらず、本児が経過観察中である認識が薄くなっていた。	年度当初から気をつけないといけない児童については、初日に情報共有を行う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	腰かけを適切に使用する分には問題がない。	遊具の安全な遊び方を再度確認する。	1.集団活動中・見守りあり	自由遊びの活動範囲が広すぎた。	安全の確保が難しい状況の場合は遊ぶ範囲を決める。	1.いつもどおりの様子であった	ぞうの腰かけに座ったり、立ったりして遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	少し離れた総合遊具で遊んでいる子どもを中心に見ながら、腰かけ付近で遊ぶ子どもの様子も見ていた。落ちる瞬間も観たが、間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担任以外の職員は、他のコーナーで遊んでいる子どもを見ていた。	担任２名のうち１名は振休で代替保育士が補助で入っており、いつもと違う雰囲気だった。	職員が複数いる場合は声を掛け合い、協力・分担して、子ども達の安全を見守るようにする。担任が休みの場合は子ども達の雰囲気も変わるため、特に気をつける。	
491	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	16									2	2	18.6歳	2.女児	なし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(２)回/年	2.基準配置		今回の事例では、ソフト面での要因はないものと思われる。	1.定期的に実施	実施頻度(２６４)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(２６４)回/年		今回の事例でのハード面での要因はないものと思われる。	3.個人活動中・見守りあり	ほかの園児と関わっていて、本児の慌てた様子に気づくのが遅れた。	園児に慌てている言動が見られるときは、声をかけて落ち着かせるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	本児が遊んでいたおもちゃを他の子が使うのではないかと不安になり、離れたところから慌てて走ったことが原因おもちゃのところへ向かった。ステージの手前で転倒し、ステージの側面に肩を強打した。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	ほかの園児と遊んでいた。本児とは離れた場所にはいたが、本児が転倒する場面は見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	ほかの園児と遊んでおり本児とは距離があり、本児が転倒する場面は見ていなかった。本児が転倒後、園長に報告にいった。		園児に慌てている言動が見られるときは、声をかけて落ち着かせるようにする。	
492	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	15									2	2	17.5歳	2.女児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	裂創、挫創	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	降園時間帯で保護者対応のため、保育者の見守りと声掛けが十分ではなかった。	本児やクラス全体でも今回のケガについての話をし、座って待つことを約束する。安全に待つことができるよう、より一層気を付けて見守りや声掛けを行う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	12	近くに子どもが入り込みたくなる布付きのテーブルがあった。	降園を待つ時間帯には、布付きのテーブルを片付けておく。	7.その他	降園時間帯で保護者対応のため、保育者の見守りと声掛けが十分ではなかった。	本児やクラス全体でも今回のケガについての話をし、座って待つことを約束する。安全に待つことができるよう、より一層気を付けて見守りや声掛けを行う。	1.いつもどおりの様子であった	座って待つことが難しく、廊下を行き来しており保育者に声を掛けられ布付きテーブルの前に座る。しかし、その中に入り込んでしまい姿が見えなくなってしまった。	4.対象児の動きを見ていなかった	保護者対応のため玄関で対応したり、クラスの子ども達の声掛け・見守りたりしていたが、本児が入り込んだところまで確認することができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	クラスの子ども達の声掛け・見守りをしていたが、死角となり本児が入り込んだところまで確認することができなかった。		本児のそばには保育士がつき、見守りと声掛けを行うようにする。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制												事故			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事者		年齢	性別	特記事項	発生時状状	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳									うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他								死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】							理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
493	令和6年3月27日	1.認可	3.保育所型認定こども園	4	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	24					0				3	3	16．4歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１　)回/年	2.基準配置	特になし	保育士の配置等に問題はないと考える。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	遊具の種類や高さ、保育士の配置の仕方等、危険な点はなかったと考える。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	年齢に合わせた遊具を選び設定していた為。	1.いつもどおりの様子であった	サーキット遊びで友達と関わりながらブロックを渡っていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	鉄棒の補助をしながら、ブロックで遊ぶ園児の様子を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	平均台と跳び箱の補助をしていたので、対象児の行動からは目を離していた。	ブロックを渡る時に後ろの友達の方を向き、話しながら渡ったので次のブロックにうまく乗れず踏み外した。	前を見て進むことなど、遊び方について活動の前に園児に再確認をする。職員は園児の様子を見守り、危険な遊び方をしている時はすぐに対応する。	
494	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	4.3歳児クラス	12									4	3	15．3歳	1.男児	受傷後すぐに近医の整形外科を受診したが、その時は骨折なしとの診断あり、痛みが持続した場合は受診の指示あり。翌日に本児が痛みを訴えた為、総合病院を受診した結果、骨折が判明、病院名には骨折を診断した病院名を記載した。2歳10か月ごろ、病院で協調性運動障害の診断あり。支持の弱さ、左右差があり、訓練を定期的に受けている。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右脛骨骨幹部骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	3	1.基準以上配置	沢山の保育士がいたが本児が担任の側にいたことは知っていたが、危険につながるという認識がなかった。	担任だけでなくそこにいる保育士が児童の安全を見守るよう心掛ける。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	事故現場は、3歳児には広すぎた公園だった。	3歳児には広すぎた公園だったため、児童は不安に思い保育士のそばにいたのかもしれない。今後は発達に応じた環境（公園）を選ぶことが必要。	1.集団活動中・見守りあり	しっぽを渡すときには少し落ち着かせるような対応をすべきであった。	しっぽの配布の時は座らせるなど。危険がないようにする。	1.いつもどおりの様子であった	しっぽとりを楽しみにして集まってきた。	4.対象児の動きを見ていなかった	身体の動きに敏感な子だったので担任にぶつかるとどのような動きで転ぶなど予想がついていなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	本児の事は見ていたが、そのように転ぶという予想がついていなかったので声をかけることができていなかった。		病院で協調性運動障害の診断あり。支持の弱さ、左右差があり、訓練を定期的に受けているので、集団行動の際には気をつけてかかわっていく。	
495	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	2	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	46				0					4	4	16．4歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	剥離骨折（全治1か月）	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(数)回/年	2.基準配置	午前中の戸外遊びでは、会議の為保育教諭2人が抜け、４人で保育していた。	全体を見渡しながら過ごすことをより意識し、保育教諭も広がりながら保育を行っていく。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(４８)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	園庭の木など周りを見ておらず、足をぶつけた可能性がある。	周辺に砂場道具を置いているため、木との配置間隔を十分に取る。周りを見て行動することを意識できるよう、側で見守りつつ声を掛けていく。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り戸外で好きな遊びを楽しんでおり、泣いたり機嫌を悪くするなど変わった様子は見られなかった。	4.対象児の動きを見ていなかった	園庭で遊ぶ子どもたちを全体的に見ており対象児の動きもその中で見ていたが、木にぶつかった姿は見ていない。又、痛みの訴えや泣く様子もその日は見られなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当職員と同じく、全体を見ていたが、対象児が木にぶつかる姿は見ていない。	翌日の一度だけ保育教諭に痛みの訴えがあったが、見た目からは分からず、変わらずよく動けていたため、発見までに時間がかかってしまった。	痛みを一度訴えたことを保護者に伝え、家庭での様子を聞きながら話をし、病院への受診を進めたり、様子を見たりしていく。	
496	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	3	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	63	0	0	13	15	16	19	0		4	4	15．3歳	2.女児	令和●年●月に、肘内障で病院に行ったことがあり、今回も肘内障の疑いがあった。	8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1　)回/年	2.基準配置	肘内障を疑い、腫れなども確認したが見当たらず。初診の際にレントゲンを撮ってもらえば良かった。	発達に合わせた遊びの提案、実践。肘内障疑いの時は、レントゲンも視野に入れる。	1.定期的に実施	実施頻度(４　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１　)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(１　)回/日	特になし	肘内障を疑う際は、レントゲンを視野に入れつつ、今回同様複数人で相談・受診検討を行う。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	発達に合わせたリズム体操の項目を選択して楽しむ。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りリズム体操を楽しんでいた。手を繋いで回っていた際、転んだか引っ張られたのか、左肘を痛める様子が見られた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	他児の近くで待機。次の番がくるのを一緒に待ち、本児が楽しんでいる様子を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の動きや座っている様子を見たり、全体を見ていたが、怪我をする瞬間を見ることができなかった。	特になし	本児が遊びに参加した際、肘内障を懸念して本児の間に入って遊びに入る必要があった。	
497	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	17	0	0	0	3	14				3	3	17．5歳	2.女児	１か月程前から鉄棒で前回りをするようになり、進んで取り組む姿が見られた。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足関節外踝剥離骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(　)回/年	2.基準配置	特になし	インシデント、アクシデントレポートの活用の継続。OJT等で経験の浅い保育士への事故予防研修の実施。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	鉄棒の下に事故防止用人工芝を敷いていたが、勢いで人工芝のない前方部分に落下し、怪我をした。	児童の運動発達や状況にあわせ、マット等を敷いて鉄棒を使用する。	1.集団活動中・見守りあり	化繊の素材、防寒着をきたまま鉄棒をしていた。体を回転する際、動きにくかったり、鉄棒と体の間が滑りやすかったと考えられる。	運動する際の素材、服装に配慮する。	1.いつもどおりの様子であった	前回りができるようになって間がなく、意欲はあるが、動きにぎこちなさがあった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児の隣で鉄棒をしている児を補助しており、対象児が手を離した際に、手を伸ばしたが間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の遊びをしている児の動きを見ていた。	本児の運動の運動能力にあわせた、見守りや運動補助が不十分だった。	児の運動能力にあわせ、状況により一人ずつ鉄棒をして補助を行う。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
498	令和6年3月27日	1. 認可	6. 認可保育所	3	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	26				7	11	8			3	3	17. 5歳	2. 女児	令和●年●月に、家庭で同じ箇所を骨折し、4週間ギプスをし、その後添え木で2週間過ごした後、完治した。	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左腕（手首付近）骨折	8. その他	1. あり	3. 未実施	実施頻度( )回/年	1. 基準以上配置		危険箇所についての確認の時間を会議や部会等で取り、把握したうえで安全に過ごせる働きかけ等を行えるようにする。また、研修の機会を取り入れたい。	1. 定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(4)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(使用の都度)回/年		定期的な遊具や玩具の点検を継続して行い、危険箇所等の共有をもっとこまめに行うとともに、必要に応じて修繕や改善等を行えるようにする。	1. 集団活動中・見守りあり		遊び方の確認を子ども、職員とともに行い、危険が少しでも減らせるよう目を配れるようにする。	1. いつもどおりの様子であった	ブランコには一人で乗って遊んでいた。特別危険なことをする様子はなく、いつもどおりの様子であった。	4. 対象児の動きを見ていなかった	複数の職員が、本児がブランコに乗っていたことは把握していたが、事故があった場面は確認できていなかった。担当という形でついてはいなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	複数の職員が、本児がブランコに乗っていたことは把握していたが、事故があった場面は確認できていなかった。担当という形でついてはいなかった。		危険な箇所や子どもの状況など情報をこまめに共有するとともに、全体に目を向ける一人一人の意識を高めていきたい。	
499	令和6年3月27日	1. 認可	3. 保育所型認定こども園	11	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3. 2歳児クラス	7									1	1	15. 3歳	2. 女児	発育状態：良好、両肘脱臼しやすい。発生時の天候：晴天（前日雨）	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	3	2. 基準配置	子どもの発達段階と保育士の危険予測についての認識の差。職員が１名であった。	子どもの運動発達についての再確認が必要。ヒヤリハット報告の重要性。職員が複数で見守り対応できるようにする。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	滑り台を適切に使用する分には問題がない。誤った使用による事故。	正しく使用することの指導。雨露等で濡れている時はふき取り、完全に乾いている状態で使用する。飛び降り遊びをする際には、クッションを敷くなど安全な環境を準備してから行う。	1. 集団活動中・見守りあり	発達にふさわしくない高所からの飛び降りについての危険認識。	遊具の安全な遊び方を再度確認する。発達年齢にふさわしい活動計画。	1. いつもどおりの様子であった	過去にも同様の飛び降り遊びを行っていた。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	至近での見守りではあったが、全体を見渡せるようにしていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	担任以外の職員はそれぞれのクラスの保育中であった。	過去にも同様の飛び降り遊びをしていたがけがはなかったので、危険と感じていなかった。	リスクマネジメントについて理解する。保育士２名の場合は安全が確保できる範囲で遊ぶ。できるだけ、複数で安全を見守れるようにする。	
500	令和6年3月27日	1. 認可	6. 認可保育所	4	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	22		2	5	8	3	4			9	8	17. 5歳	1. 男児	無	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左脛骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	6回/年	2. 基準配置		事故防止や発生時の対応について職員間で周知徹底する。	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年		今後も安全に留意し、確認や点検を行っていく。	1. 集団活動中・見守りあり	太鼓橋で遊んでいてぶら下がって降りた時に、着地でバランスを崩し転んだ。	常に危険意識をもって見守る。遊具の安全な使い方を知らせ、危険な遊び方をしている場合には注意を促す。	1. いつもどおりの様子であった	太鼓橋で遊んでいてぶら下がって降りた時に、着地でバランスを崩し転んだ。左足を痛がり、激しく泣き、震えていた。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	遊具の傍に立ち、本児が遊具から降りるところを見守っていた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	傍で見ていた職員が２名いた。他の職員も５名近くにいたが、降所する子どもの対応をしたり園庭全体を見ながら、クラスの子ども達が園庭で遊ぶ様子を見守っていた。		保育者は、子どもが安全に遊んでいるように見えても危険な状態に陥ることがあるので、常に危険意識をもち補助が出来るような態勢で見守りをする。子どもたちにも遊びを通して安全についての心構えや、理解を深めることが出来るように話をしていく。	
501	令和6年3月27日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	4	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	11									1	1	17. 5歳	2. 女児	友達とはよく遊ぶが、戸外遊びでは活発に動きまわる事が少なく、身体の使い方が上手ではない。	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	3	1. 基準以上配置	鉄棒で遊んでいる時保育教諭は近くにはいたが落下を防ぐ間がなかった。	鉄棒で遊ぶ時は必ず保育教諭が横につき指導する。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	足の届く鉄棒での事故を予測できず傍らでの見守りができなかった。	何気ないところで転んだりぶつかったり、いつ怪我をするか予測ができません。常に気を配り事故が起こるかもしれないという思いで、安全に過ごせるようにする。	1. 集団活動中・見守りあり		事故の起きる要因は予見できない為日頃から、かもしれないを念頭に事故防止に努める	1. いつもどおりの様子であった	登園時の検温では36. 7度。午前中は運動会に向けバルーン、遊戯の練習を行い、昼食後園庭で遊んでいた。平常時と変わらず過ごしていた。逆上がりの練習中、他園児が足を持ち上げる手伝いをしていた。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	給食後の歯磨きで、使用したコップを洗いながら見守りを行うが、遊具からは2メートル程離れていたため落下を防げなかった。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	当日4歳児担当の主幹保育教諭は室内から見守っており鉄棒からの落下に気づく。	事故当時の人員等園庭での見守り保育教諭数1名　園庭にいた園児数11名	室外での活動は園児数と職員配置に無理がある場合は取りやめる。	
502	令和6年3月27日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	4	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	5. 4歳児クラス	10									2	2	16. 4歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	外傷性歯の打撲	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(２)回/年	2. 基準配置	特になし	園全体でもう一度マニュアルの確認をする。	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	特になし	1. 集団活動中・見守りあり	特になし	今後も引き続き子どもたちの環境に配慮していく。	1. いつもどおりの様子であった	普段通りの様子であった。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	対象児の至近で対象児を見ていた	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	担当者・対象児の動きを見ていた	特になし	どんな時でも怪我をすることがあることを念頭に置き、保育に努める。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
503	令和6年3月27日	1.認可	7.小規模保育事業	4	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	6		2	4						2	2	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕骨折(ひび)	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	2.不定期に実施	2	2.基準配置	手作り玩具の安全面が不十分だった。	手作り玩具を作る場合は、危険な所がないかをしっかりと確認しながら作製する。 また、事故予防マニュアルを作成し保育士で共有する。	1.定期的に実施	1	3.未実施		1.定期的に実施	1	牛乳パックで出来ているため、安定感が少なく倒れやすい。	乗り物の重さを重くしたり、着座する面積を広くしたりして安定感を増やし転倒しにくくする。	1.集団活動中・見守りあり	乗り物の使い方について子ども達に正しい乗り方を伝えきれていなかった。	遊ぶ前に、正しい乗り方をきちんと伝えてから遊べるようにする。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	普段遊ぶことがあまりない遊びなので、楽しくなりふざけてしまった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	２歳児の保育室で３人の園児を見ていた。対象児が楽しくなってしまいふざける姿が見られたので、その都度正しく乗るように声をかけていたが、そのまま遊び続けていた。落下する瞬間に手を差し伸べたが間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	すぐ隣で、もう一つのコーナーを見ていた。(園児３名・保育士１名)そのコーナーを見ていたため、対象児の動きを見れていなかった。	普段遊ぶことがあまりない遊びなので、楽しくなりふざけてしまった。保育士の注意で止めることができなかった。	保育士が正しく乗るように伝えても守れなかった時点で、一度遊びを中断し、再度約束をしてから遊ぶようにする。もう一人のコーナー遊びを見ていた保育士も、乗り物で遊んでる園児を気にかけ、注意ができるようにする。	
504	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	19				6	4	9			4	4	16.4歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右第３指中節骨々折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	2	2.基準配置	事故発生時の場所、時間など記録をし、共有化する	職員環境（場の配置人数）を整える	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	毎日	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	子どもの人数確認、保育教諭の配置	1.いつもどおりの様子であった	普段通り元気に登園してきた。	4.対象児の動きを見ていなかった	異年齢保育中、園庭全体を注意して見ていたところ、当該園児が泣いている様子で気づいた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の園児の遊具使用補助等をしていた	特になし	特になし配置人数的に問題なし	
505	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	5									1	1	18.6歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右脛骨骨幹部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2	2.基準配置	事故発生時の場所、時間など記録をし、共有化する	職員環境（場の配置人数）を整える	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	毎日	特になし	特になし設備利用をしている最中の事故ではないため	1.集団活動中・見守りあり	特になし	子どもの人数確認、保育教諭の配置	1.いつもどおりの様子であった	普段通り元気に登園してきた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	当該園児と他の園児のドッヂボールを至近で見守りしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	対象児ら数名以外、室外活動をしていなかった。	特になし	特になし配置人数的に問題なし	
506	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	17	0	0	0	5	7	5			2	2	16.4歳	1.男児	前方不注意が多かったり、自分の力量が分かっておらずケガをすることが多い	1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	上唇小帯裂傷	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度( )回/年	1.基準以上配置		職員会等で職員に周知する	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度( )回/年		特になし	3.個人活動中・見守りあり	コーンの上に登っていた事と、たまたま横に鉄棒があった事	物の使い方の正しい使い方を教える（コーンの上には立たない）	1.いつもどおりの様子であった		4.対象児の動きを見ていなかった	他の園児もいたため見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の園児もいたため見ていなかった。	保育士同士の連携が取れていなかった。1人1人の子どもの遊び方など把握ができておらず、上に乗る行為などがケガに繋がる遊び方を止めることが出来なかった。	保育士が変わる時に全体、またはケガをしやすいこどもを集めて遊び方などを改めるようにする。子ども達に正しい道具の使い方を指導する	
507	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	27									1	1	17.5歳	2.女児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	18	2.基準配置	—	全職員への事故の詳細の周知、環境の整備、子どもが自身の行動について意識できるような指導をおこなう。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	—	遊具の不具合による事故ではないため、改善策なし。	1.集団活動中・見守りあり	雲梯遊びをしているときに、目を離したことが原因と考える。職員配置の少なさも今後の課題と考える。	雲梯を園児が使用している間は、見守りを強化すること。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	登園時刻が遅く、身体も十分に起きている状態ではなく、固定遊具（雲梯）で遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	他児の問いかけに答えようと雲梯を離れた瞬間に転落。痛みを訴え激しく泣いたため、すぐに駆け寄り様子を見た。痛がり方が通常ではないと判断し、職員室へ連れていき処置・保護者への連絡を行った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	泣き声に反応し、数名の職員が駆け付けた。氷を用意し患部を冷やしたり、横になるための簡易ベッドと用意したりする対応を取った。	—	眠そうにしている園児については、特に注意して見守りを行う。	
508	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	30									3	2	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	3	2.基準配置		子ども達はゲームなどでテンションがあがってしまうので、しっかりルールの確認や準備運動をし、転倒防止に努めていくように注意する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		特に改善策はありません。	1.集団活動中・見守りあり	ゲームのルールの理解が出来ていなかった事も転倒の原因の１つなので、子ども達が理解出来るようにする。	活動中も子ども達がぶつかり合わないよう、十分距離を保ちゲームや活動を行うように改善策を考える。	1.いつもどおりの様子であった	ゲームの際中、より速く走りたいという思いが強かったか、慌ててしまったか、勢いよく走りぶつかってしまう	2.対象児の至近で対象児を見ていた	ゲームの際中、３人の職員で見守っていたが、転んだ瞬間は、間に合わず手をさしのべる事が出来なかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	ゲームの際中だったので、少し距離を保って見守っていた。		ゲームのルール、走り方、方向などが的確だったか、けががにつながらない為のゲームの進め方はどうしたらよいかを話あう必要がある。	

No	初回掲載年月日	概要・認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期・月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制・発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳・0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故・年齢	性別	特記事項	事故状況・発生時状	事故の転帰	死亡・死因	負傷・負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析・ソフト面・マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面・施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面・教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面・対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
509	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	58				19	20	19			3	3	17.5歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左母指骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	特になし	余裕のある職員配置を行い、怪我等あれば速やかに対応する	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	特になし	すべり台に不具合なし	3.個人活動中・見守りあり	特になし	園内園外を問わず、体を動かしたり、粗大運動や微細運動を意識して取り入れる	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り、好きな滑り台をしていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	少し離れた場所で、他児の遊びを見守っていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	離れた場所で、他児の遊びを見守っていた	特になし	受け身が取れるように、運動機能を高める遊びをする	
510	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	20									1	1	17.5歳	2.女児	雨上がり後の、体を大きく動かしたいと思う時間帯であった。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手小指付け根の骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	14	2.基準配置	おにごっこで逃げる時、園庭の外側を走る傾向がある。	園舎に近づかないで広い場所で遊ぶように予め知らせる。適宜、ウッドデッキ近くで見守る。	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	48	テラスのウッドデッキの隙間に少し指が入った。	テラスのウッドデッキの上にマットを敷く。隙間を埋める。	1.集団活動中・見守りあり	鬼がテラス寄りに迫ってきたが、テラス手前で横に逃げられなかった。	おにごっこを始める前にテラス手前にライン等目印をつける。	1.いつもどおりの様子であった	逃げている本児がテラス付近を走っている時に後ろからタッチされ、転んで小指をつき全体重を支えてしまった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園児全体の動きを注意していたが、咄嗟の出来事だった。すぐに保冷剤で幹部を冷やし、応急処置をした。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員は給食準備で各クラスの部屋にいたため見ていなかった。	ウッドデッキ近くに園児か保育者がいたならば、タッチされた時にウッドデッキに手をつかずに済んだかもしれない。	保育者の人数配置に余裕が必要。	
511	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	15									1	1	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	ずれのない骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	3	1.基準以上配置		ドッジボールや器具を使う活動の時は、職員を１人多く配置できるようにしていく	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎週月曜日	1.定期的に実施	毎日		芝生に物が落ちていないか、足が躓きそうなところがないかなど日々点検していく	1.集団活動中・見守りあり	普段からボールを取りたいという意志が強い	ドッチボールを行う際、ボールを取りに行くときはどう取ればいいのか確認していく	1.いつもどおりの様子であった	ドッチボールを行っており、外野にいた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	ドッチボールコート中央で審判をしながら全体を見ていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他学年の職員は同じグラウンド内にいたが、他の遊具にいる園児の様子を見ていた為、対象児の動きは見ていなかった	ボールを取りに行く事で、怪我をするとの危険予知ができていなかった	ボールを取りに行く際の約束を確認した	
512	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	5	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	59					30	29			4	3	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	4	1.基準以上配置	特になし	職員会議等で事故予防について職員周知を図り、安全についての意識を高めていく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	2	2.不定期に実施		特になし	安全点検、事故防止チェックリストなど職員におけるチェック方法の見直しを図る。（あり得るかもしれないことを予測したチェックの仕方の意識づけを行う）	3.個人活動中・見守りあり	鉄棒下に敷いているマットの大きさが不十分であった。	安全に遊ぶための環境を再検討し、改善を図る。	1.いつもどおりの様子であった	最近鉄棒に興味をもちだし、楽しむ姿が見られる様になっていた。この時も友達のように鉄棒をしたいという気持ちから、担任のいるそばで鉄棒に取り組もうとしていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	担任は近くで他児を見ながら鉄棒で遊ぶ子ども達を全体的に見ていた。近くにいながらも本児の行動を把握できておらず、また本児の能力に対して適切な補助ができなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	担任補助は近くで他児を見ながら鉄棒で遊ぶ子ども達を全体的に見ていた。近くにいながらも本児の姿を把握しておらず、本児の補助ができなかった。	特になし	安全について職員の意識を高めるために、職員会議や園内研修などに意図的に組み入れていく。また個々の子どもの姿など職員周知をしていく。安全が確保できないこと、危険だと思うことを常に言葉にし、職員周知と改善を図る。	
513	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	5									1	1	17.5歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨頚部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	3	1.基準以上配置	5歳児で、動きも活発になり、少しの油断が大きな事故につながる。	今回の事例を周知し、危険予知及び安全管理に対する意識を高める。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12	木のベンチから飛んだため。	安全な用具で遊ぶようにする。	3.個人活動中・見守りあり	保育従事者は、隣でベンチに座っていたが、他児と関わっていたため、対象児を見ていなかった。	子どもの動きに気を配るようにするとともに、正しい用具の使い方を知らせていく。	1.いつもどおりの様子であった	園庭にて、友達と鳥になって遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	保育従事者は隣にいたが、他児と植物の種取りをしていて、対象児を見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他のクラスの職員１名いたが、クラスの子どもと遊んでいたため、対象児に背を向けていた。	担任1名のため、全ての子どもの様子を把握していないことがある。	子ども全体を見るように意識する。また、他クラスの職員と連携していく。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
514	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	14				9		5			2	2	15.3歳	1.男児		8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	14	2.基準配置		職員でヒヤリハットを共有し、事故予防に対する意識の向上を図る。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	280		玩具の点検を行い、破損したものがあれば修理または処分する。施設、遊具等、安全点検をしっかりと行うとともに、必要に応じて早急に業者に依頼し修理する。	1.集団活動中・見守りあり	子どもたちが座るのを確認してから、DVDの準備を行わなかったため。本児が座ろうと走った先に、不意に他児が座ったため。	DVDの準備は子どもたちが座るのを確認してから行う。（複数の職員で行い、必ず子どもの様子を見守る）	1.いつもどおりの様子であった	本児は体の使い方が不器用な所があり（バランス感覚）、友だちにぶつかることがある。今回は不意に友達が現れ、転ぶ。	4.対象児の動きを見ていなかった	保育士一人はDVDの準備のため、子どもたちから目を離していた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	もう一人の保育士は保育室内だが、離れたところから対象児を見ていた。	本児の動きのぎこちなさについて配慮していなかった。	合同保育の時は担任以外の保育士が保育することも多い。園の職員全員が子ども一人ひとりのことを理解し、配慮できるようにする。（特に配慮が必要な子については、担任がしっかりと引継ぎを行う）	
515	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	10				4	6				1	1	16.4歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左中指末節骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	13	1.基準以上配置	採用３年目の保育士であり、保育経験が浅い。	今回の事故内容を全職員に周知し、事故防止に努める。ヒヤリハットや主管課から情報提供される事故例を十分に活かした研修を行う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	4歳児8名、3歳児5名が一斉に安全に走ることができる広さではなかった。	人数を分けるなど、その時々の状況に合わせた対応をする。	1.集団活動中・見守りあり	休みたいと訴えた対象児を、ステージ上で休ませた。ステージ上で休んでいる対象児の側で、体を動かす児童がいた。	休憩場所を保育士の目が届き、他児の活動に影響のない場所に設定する。子ども達が、危険なく、落ち着いて活動できる場所の設定をする。	1.いつもどおりの様子であった	マラソンをしていたが休みたいと訴えたので、活動から離れ、遊戯室のステージ上に座っていた。走ることが苦手で、マラソンなどでは休むことが通常。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	急に止まったり、無理に追い越しをしたりすることを制止しながら一緒に走っていた。別の児童が転倒し対応していていたため、離れた場所から対象児を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育室の清掃をしていたため、その場にいなかった。	複数の児童が同時に転倒するなどアクシデントの予測が足りなかった。転倒した児童への対応で、他児への働きかけが不十分であった。	単数で保育を行う場合、全体への目配りや対応が困難な場合には、活動の内容を変更したり、複数の保育士で対応できるよう配慮する。	
516	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	4	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	22				7	7	8			5	5	15.3歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	尾骨腫れ	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	12	2.基準配置	異動した職員が多く、遊び、子どもの姿など把握できていない部分があった。	職員の配置、連携をとり、その都度話し合う。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	6	1.定期的に実施	48	特になし。	特になし。	1.集団活動中・見守りあり	特になし。	特になし。	1.いつもどおりの様子であった	ジャングルジムが好きでいろいろな方向から登ったり下りたりして遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	複数の子ども達が同時に遊び始めたため、見れなくなり人数を減らしながら本児を見ていたが落下する瞬間に距離が届かず間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	砂場、園庭、草花等の遊びに分かれて職員がいた。	職員が異動し、園での遊具の約束、対象児の行動の把握ができていなかった。	遊具の約束を確認、保育士の位置確認を行った。	
517	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	19				7	5	7			1	1	17.5歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	年長児男児。定型発達児。	事故予防研修は行っているので、職員もしっかりマニュアル通りに見守る事ができていた。一瞬でケガにつながる事になることを今一度周知していく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	365	鉄棒の下に衝撃吸収マットなどを敷いていない。	少人数で鉄棒はしていたが、まだ経験が浅い児童に対しては、個別についていきたいと思う。	1.集団活動中・見守りあり	雲梯・鉄棒を1人で見ていた。	鉄棒の時間、雲梯の時間と分けて遊ぶようにし、目をしっかり向けていきたい。また、フリー職員を配置し、鉄棒に1人、雲梯に1人の職員体制をとっていく。	1.いつもどおりの様子であった	雲梯と鉄棒でクラスの子どもたちと遊んでおり、前回りをしていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	雲梯と鉄棒の時間を設け、雲梯の方に子どもが多くいたため、雲梯側にたち、本児に目を向け、次に雲梯の方に目を向ける。その時に落下した。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	クラスの子どもと遊んだり、他の遊具の見守り等をしていた。	1人で前回りをしていたが、転落の予想がつかなかった。	雲梯と鉄棒は体全身を使う運動なので、瞬間で危険も多い、遊び慣れていない児童に対しては、個別対応をしていく。	
518	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	36					16	20			4	4	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置		職員4名は、それぞれの遊び場に配置していたが、遊び場での子ども達との関わりになり、フリー（鬼ごっこ等）で遊んでいる園児の危険に気づくことができなかった。各遊び場の職員の立ち位置を見直し、職員間で声をかけ合っていく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		定期的に点検をしているが、遊ぶ前に遊び場点検をし、遊びの環境を整備していく。	1.集団活動中・見守りあり	鬼ごっこで友達をつかまえることに夢中になり転倒したので要因はなし。	遊びに夢中になり体のバランスを崩し転倒となることもあるので、遊びの前後に子どもたちと話し合う場を設定し、危険のないように遊ぶにはどのように注意をしていくか等、考え・気づけるようにしていく。	1.いつもどおりの様子であった	健康面でもいつもと変りなく元気に遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	鬼ごっこに参加していることは確認していたが、転んだ場面は目視確認していなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	固定遊具や砂場等の各遊び場や個別対応の子どもに付き添っていた。		普段から遊びについて予測されるこどもの動きに、配慮しながら見守り、声かけをする。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
519	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	25				10	5	10			2	2	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左ひじ関節の骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	7	1.基準以上配置		遊具の使い方、遊び方を検討していく。	1.定期的に実施	12回/年	1.定期的に実施	1回/年	2.不定期に実施	12回/年		遊具を使用前にも点検を行っていく	1.集団活動中・見守りあり		異年齢で過ごす中で安全に遊べる環境を考えていく	1.いつもどおりの様子であった	ブランコが好きで日頃から他児と2人乗りをしていた。当日もよく一緒に乗っている友だちと2人乗りをしており、片手を離すことが危険だという認識が薄れていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	年長児はブランコの2人乗りを日頃から行っていたこともあり、保護者の対応の方に目を向けていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭で他児のトラブルに対応していたため見ていなかった。		個別の対応に入る際は別の職員に声掛けをする等、必ず1人は全体を見ることができるよう、職員同士の連携を密にしていく。	
520	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	68				31	37				5	5	15.3歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	右上A打撲	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	子どもの発達状況を考慮し危険予知が十分にできなかった。	事故防止マニュアルの読み合わせを行い、安全保育の力を高める。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	ベンチが園庭の角にあったので子どもの突然の行動に対応できなかった。	ベンチの場所を変えて子どもが安全に遊べるようにした。	1.集団活動中・見守りあり	子どもの行動が予想外であり発達状況を考慮し危険予知が十分にできなかった。	子どもの行動特性について情報共有し、事故パターンを予想する。	1.いつもどおりの様子であった	対象児はかくれんぼをしていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児から1m程離れたところで対象児の様子を見ていたが、瞬時の出来事に事故を防ぐような動きがとれなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	長縄跳びや集団遊びで他児と遊んでおり見ていなかった。	対象児をA男が背中から押す行動を予想しなかった。	子どもの行動特性について情報共有し、事故パターンを予測する。	
521	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	17									2	2	18.6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	特に問題はなかった。	園児の動きを常に把握し、危機意識を持つ。職員全員による事故予防研修を実施する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特に問題はなかった。	今後も危機管理意識をもって、安全に過ごせる環境面に気を配る。	1.集団活動中・見守りあり	絵本を交換するため、寝ころんで遊んでいた友達を跨いで本棚に行こうとした。	子どもの動きを予見して、安全に遊べる遊びの場の確保をする。	1.いつもどおりの様子であった	寝ころんでいた友達を跨ごうとした。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	一人は少し離れたところで見ていた。もう一人は他の子どもたちと一緒に遊んでいた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育室には、担当保育士のみだった	寝ころんで遊んでいる子どもに声をかけ、座って遊ぶように促す。子どもの動きを予見し、安全な遊びの場を確保する。	可能な限り、危機が起こる前に予見し、安全管理・危機管理の視点に立って、子どもたちが安心して過ごせるように、また責任をもって保育していく。	
522	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	3	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	15		4	11						3	3	16.4歳	2.女児	片足を上げて座る癖がある。小柄である。	2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷性歯の脱臼、外傷性歯牙亜脱臼、G・GA	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1　)回/年	2.基準配置	子どもに声をかけず、机を動かしてしまった。	職員会で、職員に共有し注意を促した。	1.定期的に実施	実施頻度(12　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1　)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12　)回/年	子どもが不安定な姿勢でイスに座っていた。	職員会で、姿勢を正して座ることの重要性を確認した。机・イスの高さを低いものに変更した。	1.集団活動中・見守りあり	子どもの姿勢をよく見ずに、机を動かしてしまった。	丁寧に子どもを見る。職員会で、職員に共有し注意を促した。	1.いつもどおりの様子であった	当該児はいすに腰掛け、机の前に座っていた。左足は椅子の上で右足は降ろした状態で、両手を机につき前かがみの姿勢だった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	机を並べるため、側にいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	2名とも、自分の担当児の喫食のため自分の机の周りに注意を向けていた。机は保育士一人につき一台あり、そこに自分の担当児を座らせ喫食する。	机をずらすことで、手が外れて転倒すると思っていなかった。	職員会で、職員に共有し注意を促した。（丁寧にみて机の移動等の際は注意する。普段からお互いに声を掛け合う。）	
523	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	15									1	1	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	１人の保育者で見ていた。	外に出る時間を検討したり、保育者の人数を増やす。	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	1		事故発生との関連性がなかった。	1.集団活動中・見守りあり	園庭に出た時間帯が夕方で疲れが出て集中力が切れやすかった。	静の遊び(砂場)や、職員が見きれる範囲内での遊びを取り入れる。	1.いつもどおりの様子であった	うんていで遊んでいる際、手を滑らせて落下。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児がうんていで遊んでいるところから少し離れた場所で、別の児童と関わっていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	少し離れたところで他児と関わりながら見守っている状況であった。		全体が見渡せる場所にいるようにし、遊び方を工夫する。必要に応じて人員を増やす。	
524	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	18									1	1	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左小指基節骨骨端線損傷	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(3　)回/年	2.基準配置	境内で鬼ごっこをしていた為、地面がアスファルトで硬かった。鬼ごっこに夢中になり、周りとの距離が近い中突発的に動いてしまった。	集団ができている際は、声をかけ周りと距離をとるよう声をかける。	1.定期的に実施	実施頻度(12　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12　)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	環境づくりが不足していた。	外に出る際は1名以上で保育士が細かな声がけや見守りができる環境を作る。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り、元気に鬼ごっこを楽しんでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	鬼ごっこをしている園児全体が見える位置取りをしていた。対象園児とは10～20m程距離はあったが目視していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	クラスに残り汚物処理・消毒作業を行っていた。	子どもたちとのルール共有が不足していた。	まとまって逃げない。逃げる時は友達と距離を置いてぶつからないように逃げる。等の声がけやルール設定をする。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
525	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	5	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	33				10	11	12			3	3	17.5歳	1.男児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	子どもの主体性を尊重する中で、ある程度自由に遊ばせていた。	転倒のリスクがあることなど、二輪車を使用させる際の注意事項を再確認する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	2.不定期に実施	12	園庭に防球ネットが設置してあり、少し手狭になっていた。	他の場所に防球ネットを移動した。	1.集団活動中・見守りあり	子どもの主体性を尊重する中で、ある程度自由に遊ばせていた。	朝夕の職員が手薄な時間には、職員が遊具を選定して遊んでもらうようにする。	1.いつもどおりの様子であった	年長児数名が二輪車で遊んでいて、そのうちの２名が衝突して１名が転倒した。	4.対象児の動きを見ていなかった	異年齢で園庭で過ごしていて、特に対象児を注視している訳ではなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	３才以上児と３歳未満児が別のエリアで遊んでいたため、それぞれの持ち場の園児を見守っていた。	登園した園児が順に遊びに加わっていく状況であり、また、自由に遊びを選択できる状況下での事故であった。	衝突を回避するような声掛けをしていく。	
526	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	31				9	10	12			8	8	15.3歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	前歯（中切歯・側切歯）打撲	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	園内で危険個所やケガの報告等を随時行っているが、様々な活動時の危険予測について職員で検討すべきだった。	安全会議や活動内容検討時に安全面の検討を行う。	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	実施頻度(４　)回/年	遊戯室に3～5歳児のコットが積んである為、遊戯室を広々と使うことが出来なかった。	リトミックなど体を動かす活動で、尚且つクラスが合同で活動する際にはコットを廊下に出すなどして遊戯室を広く使えるようにする。	1.集団活動中・見守りあり	入ったばかりの新入園児がリトミックの動きを理解していない事を配慮しなかった。3クラス合同ということもあり、もっと遊戯室を広く使うべきであった。	新入園児が加わる時や新しい種目がある時は子どもの動きを予想し、配慮が必要な子どもには保育士がつく。また、遊戯室も広く使う。	1.いつもどおりの様子であった	ピアノの音に合わせ、走る、止まる、寝転がるなど体を動かしていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	子どもの見本となるように子どもと一緒に体を動かしていた。前の週もリトミックをして問題なかったことから、プログラムも特に変更せず行ったが、新入園児の動きには配慮しきれていなかった。また、新入園だが活動に積極的に参加していることから、問題を感じていなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	子どもが内回りや逆回りをしないように要所に立ったり、動きの補助をしていた。しかし、新入園の動きを予想できなかった。	配慮が必要な子が複数いるため、新入園児の動きにまで気が回らなかった。	予想される子どもの動きを話し合い、参加する職員に周知し、必要な配慮をする。	
527	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	30			6	8	9	7			4	4	16.4歳	2.女児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(１　)回/年	1.基準以上配置	危険箇所に子どもはいなかったことや、付近の築山では2歳児数名遊んでいたが危険がないと認識、また、人数がいることで過信し雑務業務(玩具の片づけ等)を始めてしまったため危険箇所から目を離してしまった。	リスク要因の高い危険箇所の再確認をし、職員配置を徹底する。雑務等の業務は園児帰園後に行う。	1.定期的に実施	実施頻度(240)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(240)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった		4.対象児の動きを見ていなかった	遅番業務中、担任ではない職員が配置され、鉄棒横の築山にて本児と友達が仲良く遊んでいるところを確認。心配ないという状況だった為、他の園児の方へ見守りに行った。目を離した隙に気がつくと鉄棒付近にて本児が転倒しているところを発見した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	規程の人数以上の配置であったため、入室準備のため雑務（玩具等の片づけ）を付近の子どもたちと一緒に始めてしまい、危険箇所への見守りを怠った。	普段より危険箇所である鉄棒へは見守りを必ずするよう職員は意識し実践していたが、子どもがいなかったのでその場を離れてしまった。気がついた時には本児が転倒している形となってしまった。また、職員人数が減少する時間に合わせて雑務業務をこなそうとしてしまったことが要因と考えられる。	リスク要因の高い危険箇所の再確認をし、職員配置を徹底する。雑務等の業務は園児帰園後に行う。	
528	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	22									2	2	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	12	1.基準以上配置		職員間で事故について共有し、今後の事故防止について話し合った。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		凹凸部分がない場所のため、特別な改修等は考えていないが、これまで通り園庭整備を行う。	1.集団活動中・見守りあり		これまで通り年齢や人数に配慮し、安全に遊べるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	大型遊具の方から園庭中央に向かって走っていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	事故の瞬間は見ていなかったが、遊んでいる様子は把握していた。後に防犯カメラで事故の様子を確認した。他児のトラブルの対応に１名、大型遊具付近にて見守り１名	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	クラス担任ではない職員が遊具付近で見守り		各大型遊具設置場所に１名以上の職員を配置する。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制												事故			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事者		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳									うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他								死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】							理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
529	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	21									2	2	17.5歳	2.女児	発生時の天候は晴れ、室内では子どもたちの間隔をあけて並び順番に跳び箱を跳ぶようにしていた。また、転倒の際に体を支えられるように保育者がそばについていた。	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左中指基節骨骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	特になし	安全確保ができるよう人員配置ができていた。	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	48	特になし	安全を考慮し、室内用の跳び箱を使用し、安全確保をしていた。	3.個人活動中・見守りあり	特になし	準備運動をし、怪我を未然に防ぐようにする。	1.いつもどおりの様子であった	運動会で跳び箱を跳んでみたいという子どもの希望を受け止め、跳び箱に取り組むことになった。	1.対象児とマンツーマンの状態(対象児に接していた)	跳び箱を跳んだ時に転倒し怪我を防ぐよう跳び箱の着地付近に保育者が立っていた。子どもが跳ぶ際にどんな跳び方をしているか、手の位置はどこか、踏み切り台への着地について足の位置や踏み切りはできているか等、注意を払って補助をしていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	自由遊び時であったため、跳び箱以外で遊んでいる子どもたちについていた。	特になし	跳び箱をしていくにあたり、手の位置や跳ぶタイミングなど再度個々に指導する。	
530	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	17					8	9			2	2	17.5歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左小指中節骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	特記事項	ケガや危険の予測をし、事前の声掛けや遊びの内容を見直す。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	36	1.定期的に実施	12	保育室内で行うには手狭で適切な空間が取れない遊びであったので、広いスペースのとれる遊戯室や園庭など適した場所で行うようにする。	園児用テーブルは仕切りとしては適していないので、テーブルの用途以外では使用しない。	1.集団活動中・見守りあり	雨天だったので、戸外遊びが出来ず体力を発散させる遊びが出来なかった為やりすぎてしまったのではないか。	雨天でも身体を動かす遊びが安全に出来るように、遊戯室や広い安全なスペースで遊ぶ機会を作るようにする。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	雨天で戸外で遊ぶことが出来ず体力が有り余っていた。そのためいつも以上に活発に遊びに参加しており、気分が高揚して手加減が上手く出来なかった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	遊びこんでいたため、近くでケガのないように様子を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	加配児で遊びになかなか入れない子がいたので担当児を見ていた。		戸外遊びのできない雨天の日はどのような遊びが適しているのかを考えて取り入れていく。	
531	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	12			6	1	2	3	0		12	10	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	3	1.基準以上配置	保育士は子どもの状況把握に努めるようにする。お迎えがあったとすぐに動かずに周囲を確認してから部屋に入る	新年度ということもあり、鉄棒あそびは時間を決めて遊ぶようにした。鉄棒の使い方の方法を聞く。子どもの状況（発達）を見て、手を支えたり保育士がそばにつく等確認をする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	安全面のため鉄棒の下には、必ずマットを敷いていた。子どもの動きにあった保育士の立ち位置を考える。	保育士が見守って声をかけたり、そばにつくこと	1.集団活動中・見守りあり	状況把握、人数が少ないからと油断しない。	お互いの行動に声掛けをする。声をかけられた職員は、全体把握をする。	1.いつもどおりの様子であった	鉄棒ができるようになったことが嬉しくてみんなに見てもらっていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	落ちるのを止められなかったが、すぐに看護師、保育士が対応する	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	声をかけて子どもの様子を見る人、他の子どもを見る人、連絡をする人に分かれて対応をする。	入園式当日で、職員も子どもたちもいつものように流れがうまくいっていなかったのか、夕方の子どもの少ない時間帯の見守りを考え直す。	職員間の連携を見直す。お迎えに子どもたちも興奮したりするので、子どもにも声掛けの大切さと安全面の見守りを続ける。保護者との連絡の取り方の工夫をする。	
532	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	75				23	23	29			4	4	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	18	1.基準以上配置	園庭に凹凸があったため足を取られた。子どもも自身が怪我を回避できるように園庭に出る前に指導をしているが、危険回避の感覚を身に着けることと、実際の危険回避との線引きは難しいと感じる。	全職員への事故の詳細の周知、環境の整備、子どもが自身の行動について意識できるような事前、及び保育中の指導を行う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	園庭に凹凸があったため足を取られた。子どもも自身が怪我を回避できるように園庭に出る前に指導をしているが、危険回避の感覚を身に着けることと、実際の危険回避との線引きは難しいと感じる。	園庭の凹凸について点検を行い、起伏が激しい箇所については平坦にするなどの対策をとる。	1.集団活動中・見守りあり	子どもが集団で園庭に出ている場合は速い動きをすることによる事故の確率が上がると考えられる。	園庭での自由遊びに際しては、子どもの人数、動き、年齢を見て遊びの種類を変えるような促しを行う。	1.いつもどおりの様子であった	３歳以上児の午後保育の子どもたちが年齢に関係なく自分の好きな遊びをしている状況。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	保育者４人が園庭に間隔を置いて立つ。鉄棒、雲梯など危険性が高いと考えられる遊具には、特に近くでアドバイスをしながら見守っていた。対象児が泣き出して一番近くにいた職員が駆け寄って、子どもを職員室の方へ連れて行った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	こどもの泣き声で気づき、対象児のほうへ近づいて援助を行った。職員室にいた職員に渡したあとは、元のように園庭の見回りに戻った。	—	—	
533	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	39				12	14	13			7	6	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨内側上顆骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	3.未実施		1.基準以上配置	すべての職員が全体の見守りをしているが、登園、所持品の始末をしている子がいたため、見守りの体制が通常時に比べて手薄となった。	職員会議や園内研修で、事故報告の情報を共有して、全職員の安全危機管理意識を高めていく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	240	隣接する椿の木の枝が伸びていた。	隣接する椿の木の枝を切る。	1.集団活動中・見守りあり	前の週から裸足での水遊びを始める。固定遊具で遊ぶ際はズックを履くように伝えていたが、新しい流れが見についていなかった。	固定遊具で遊ぶ際は、必ずズックを履くことを徹底する。	1.いつもどおりの様子であった	裸足で泥遊び、水遊びをしていたが、友達に誘われて太鼓橋に向かう。椿の葉を取ろうとして足を滑らせ転落。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	泥水遊びのコーナーに配慮の必要な子がいたので、泥山コーナーから見守っていた。本児が裸足のまま太鼓橋に向かったことに気が付かなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育者それぞれが配慮を要する子について見守っていた。	本児が裸足であることに誰も気付かなかった。運動能力が高い子なので、遠くからの見守りで大丈夫だと思ってしまった。	総合遊具で遊ぶ際には必ずズックを履く（裸足、長靴は危険）の約束をする。総合遊具で遊ぶ際には必ず、職員がそばにつく。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
534	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	5	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	24									3	3	16.４歳	2.女児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度（5)回/年	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(12) 回/年 実施頻度（3) 回/年	1.定期的に実施	実施頻度(96)回/年 実施頻度（48) 回/年	1.定期的に実施	実施頻度（１２)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	新年度で、子どもたち一人一人の動きの把握が十分にはできてない。	固定遊具を使用しているときには職員間で連携し目を離さないようにする。手を離さないなどのブランコの遊び方や、固定遊具の使い方を子どもたちと再確認する。	1.いつもどおりの様子であった	他児と一緒にブランコで遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	ブランコで遊んでいる児を見守っていたが、他児に呼ばれその場を離れた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育士1名は怪我をした児に付き添い事務室にいた。保育士1名はジャングルジムの側で子どもを見守っていた。	ブランコで見守っていたが、場を離れてしまった。	他児と関わるため、ブランコや鉄棒の側から離れる時も保育士は全体を見渡せる位置に立つ。ブランコから離れる時には、他の保育士と連携し見守ることができるようにする。	
535	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	5	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	50				11	19	20			7	3	17.５歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	０～１	2.基準配置		危機管理意識を高めるための考察後の情報共有	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		遊具の位置の確認・安全点検	1.集団活動中・見守りあり		職員の立ち位置を考えながら、丁寧に見守り声をかけていく	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	室内から園庭に出てすぐということで、気持ちが高揚していた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	友だちと追いかけごっこをしている姿は見ていたが、砂場の方から見守っていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	太鼓橋のところにおり、本児が慌てて登った状況は把握したが、一瞬なことで阻止できなかった	鬼ごっこの時は遊具に乗らないというルールはあったが、気持ちの高まりもあり登ってしまった。	遊び方を見直し、ルールを子どもたちと再確認するとともに、職員の立ち位置や視界の確保など職員の配置を検討する	
536	令和6年3月27日	1.認可	3.保育所型認定こども園	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	3									3	3	16.４歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１　)回/年	1.基準以上配置		特になし。事故があった時間は職員3名、園児15名で基準は満たしている	1.定期的に実施	実施頻度(１　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１　)回/週	1.定期的に実施	実施頻度(１　)回/月	踏み台になる物(積木)を自分で持ってきて棚に登り、マットのない所へとんだ	低めのとび箱と登って遊べるカラーボックスを常設し、そばにはマットを敷いた	1.集団活動中・見守りあり	声かけだけでは降りなかったので一人ずつ降ろしていた。対象児はその間にジャンプした	登りそうになる前に声をかけ止めるようにする	1.いつもどおりの様子であった	外遊びの延長で入室後も落ち着いた遊びができていなかった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	棚に登っている複数の園児に気づき、声をかけ順番に降ろそうとしていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	排泄室に1名、2mほど離れたままごとコーナーに1名の職員がいた	棚に登る行為は危険であることを声掛けで促していたが、気付いた時にすぐ降ろせば飛び降りることはなかった	職員同士で連携し、棚に登る前に止めるようにする。踏み台になる遊具を棚の近くに置いた際は動きを見て、判断する	
537	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	21									3	2	18.６歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	園庭の草や砂で滑ることによる転倒、鬼ごっこでの追いかけっこ	改めて重大事故防止マニュアルの確認を行い、職員一人ひとりが内容を熟知する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施		雨上がりでいつもより園庭が滑りやすかった。	定期的な点検を行い、不備が見つかった場合は修繕を行い改善する。	1.集団活動中・見守りあり	滑りやすかった。	園庭の定期的な除草や整地。活動の見守りのなかで、子どもの動きの予測等安全に配慮する。	1.いつもどおりの様子であった	楽しみな活動だったので意欲的に走り、転倒後もすぐに走り出し活動に参加する。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	全体の活動を見守っていた。すぐそばに走ってきて転倒したので声をかけたが、すぐに活動にもどり走りだした。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の園児の動きを見ており、側に走ってきて痛みを訴えて座り込んだ際に声をかけた。		個々の状態を把握し、行動の予測を行ったり、ケガの際の適切な処置ができる様に実践する。	
538	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	19					11	8			4	4	16.４歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨骨折・骨嚢腫	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	3	1.基準以上配置	熱中症や誤嚥など看護師目線での研修の機会はあるが、職員の立ち位置や動きについての研修は特にされていなかった事。	職員の立ち位置や動きに問題があった「ヒヤリハット」を用いた研修を行っていく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	日除けテントのヒモが垂れ下がっていた事。	園庭に出た時に１人が全体に危険のない物がないか確認し、活動の途中でその場から離れる事がないようにする。	1.集団活動中・見守りあり	4歳児という事と園児の人数も少なかった事もあり危機感が薄れていたと思われる。	少ない人数だからこそ１人１人の保育教諭が危機感を持ち、4歳という子どもの特性（何でもできるようになり子どもの発想から危険な行動をとる事もある）を理解し保育にあたるよう周知していく。子ども達にも事故のことを話し注意を促していく。	1.いつもどおりの様子であった	柵につかまりながら50センチほどの高さの水道に登った	4.対象児の動きを見ていなかった	テントから垂れ下がっていたヒモを他児が指に巻きつけていたので危険に思い、切る為に室内にハサミを取りに行っていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	機嫌の悪い他児を抱いて関わっていた	園庭に２名の保育教諭がいたが、１名がその場を離れる際にはその事をもう１名に伝えていかなかった事。	保育教諭が自分の持ち場を離れる時はその事を他の保育教諭に伝え、全体を見てもらうようにする。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
539	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	5.4歳児クラス	38									5	5	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足首剥離骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	10	1.基準以上配置		職員会議、幼児ミーティングで事象の振り返りをし、指導の改善を図る。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		ハード面に関わる事象ではなかった。	1.集団活動中・見守りあり		職員が一人一人に目を配ることができる配置を工夫する。	1.いつもどおりの様子であった	友だちが走っている本児を抱きかかえた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	児童の見守りをしていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	児童の見守りをしていた。		友だちを抱きかかえる行動について気をつけるよう指導を行う。	
540	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	22	2	3	4	5	4	4			2	2	18.6歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	大尺骨骨間部骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	3	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	人数に対し、靴取りの枠が少し小さく、衝突に繋がってしまったのではないかと考えられる。	靴取りの枠を人数に適した大きさにし、環境を整えていく。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りであった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	本児から離れた場所で他児と遊んでいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	本児の動きを見ていなかった。	その場に保育者が居らず、怪我に気づくことが出来なかった。	本児の特性から、傍で遊びを見守ることが必要であったため、保育者の配置を適切に行う。	
541	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	3									3	3	15.3歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨通顆骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(10)回/年	1.基準以上配置	入室への切り替え時で子どもが焦ってしまったか、後に食事が控えていたため、気持ちが浮足立ってしまったかもしれない。	入室時に子どもの気持ちを焦らせることなく、落ち着いて保育室に向かうことができるようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	地面に気付かないくらいの傾斜があったのかもしれない。	地面に凹凸がある際はトンボをかけて平らにしているが、気付いた人がいたら声に出してもらい、習慣化していく。	1.集団活動中・見守りあり	直前まで本児は追いかけっこをしていたので、気分が高揚していたのと、お腹が空いて食事を早く食べたくて、気持ちが急いだのかもしれない。	急がず落ち着いて入室できるよう、保育者が言葉かけをする。	1.いつもどおりの様子であった	直前まで、仲良しの友達と追いかけっこをしていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	職員は入室への切り替え時だったため、室内、戸外、テラスと三か所に分かれて子どもについていた。事故前後の対象児の動きは把握していたが、一人は最後の子どもと砂場の片付け、一人は入室した子どものトイレの見守りをしていたため、事故発生の瞬間は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	テラスにいた入室担当の保育士が事故発生後に気付き、担任に報告した。	追いかけっこの延長気分で高揚していたのに、それに対しての言葉かけをしなかったせいかもしれない。	場面の切り替え時は子どもは気が緩み、保育者は慌ただしい時なので、意識しながら保育をする。	
542	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	57				17	24	16			6	6	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足関節外果裂離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置		ブランコの乗り方は日頃から指導しており、当日も危険な乗り方降り方をしたわけではなく、職員の配置にも問題がなかったため、改善点は見いだせなかった。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	3	2.不定期に実施			安全点検は上記の通り実施しており、当日もブランコや着地面に不備はなかったため改善点は見いだせなかった。	3.個人活動中・見守りあり		園庭全体に子ども達が分散して遊んでおり、特に混雑して遊んでいる様子はなかった。ブランコからも自分の意志で普通の降り方で降りたため、改善点は見いだせなかった。	1.いつもどおりの様子であった		4.対象児の動きを見ていなかった	6人の職員が園庭の各場所に配置され、ブランコの近くにいたものの足をひねった場面は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	6人の職員が園庭の各場所に配置され、ブランコの近くにいたものの足をひねった場面は見ていなかった。		職員の配置も遊具ごとに分散していたが、たまたまその場面を職員が見ていなかった。自分で足をひねったことが原因だったので、見ていたからと言って防げる事故ではなかったと考えるが、職員配置を今一度考え、今以上に子ども達の活動の様子全体を見守っていくように努めていく。	
543	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	41					19	22			3	3	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨端線離開	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	5	1.基準以上配置		事故の原因等についてヒヤリハット・事故報告等で職員間で情報共有する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		運動玩具の点検を継続し、使用に際しては年齢に適したものを利用するように職員間で共有する。	1.集団活動中・見守りあり		異年齢での活動の際には職員間で遊びの内容を共有するなど、事故防止に努める。	1.いつもどおりの様子であった	迎えまでの時間を園庭で竹馬の練習をして待っていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	異年齢児での自ら選んだ遊びの活動中で、竹馬の練習を行っている該当児の近くで保育教諭が様子を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭全体で3歳以上児が遊んでいたため、遊びの状況に合わせて異動しながら遊びの見守りを行っていた。		園庭遊びの見守りの際の保育者の動きや園児の動きに合わせた見守り方について再度職員間で研修する。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
544	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	73				17	29	27			9	9	15.３歳	1.男児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨のひび	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	異年齢交流のため、園児の動きが予測しきれていなかった。	職員全体で、築山のあらゆる事故を想定し直し、遊び方の再検討をして年齢ごとのルールを再確認し、保育教諭が必ず横について遊ぶように話し合った。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	幅広い年齢に対応できる築山にしたため、自分で遊びを工夫して楽しむ遊具になっていたが、あらゆる事故を予測し、発達段階に応じたクラス毎ルールを細かく決めていないと安全な遊びにならないことがある。	遊ぶ前には、子どもたちとルールの確認をし、保育教諭が必ず横について遊ぶようにする。	1.集団活動中・見守りあり	横について見守っていた保育教諭が5歳児担当であり、園児の担任でなかったため、姉と同じ遊び方をすることを予測しきれていなかった。	園児への説明を徹底し、けがをしない遊び方を自分で身に付けるよう指導する。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	姉と一緒に遊んでいたため、うれしくて様々な遊び方を試していた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	他の園児の遊びを危険のないように横について見守っていたため。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	園庭で他の遊具で遊んでいる園児の横について事故防止を図っていた。	保護者対応をしていたため、3歳児の保育教諭の人数が十分に足りていなかった。	3歳児の保育教諭の人数が十分に揃ってから園庭に出るようにする。	
545	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	77				24	24	29			3	3	15.３歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈尺骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	4	2.基準配置	特になし。	所庭で保育をする際に保育者の立ち位置を確認し、共通理解する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	所庭にボール使用に適さない斜面がある。	所庭が緩やかに斜めになっているところではボールを使用しない。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	職員数と遊びのコーナーの数を適正にする。	1.いつもどおりの様子であった	ボールが転がったので追いかけていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	数人がボール遊びをしていたのでその場所にいた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児と遊んだり、保護者対応をしていた	特になし。	ボールを走りながら蹴るのではなく止まった状態で蹴るように指導をする。	
546	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	32				18	10	4			7	6	16.４歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右脛骨遠位骨端線損傷 右脛骨骨幹部骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(１　)回/年	2.基準配置	３～５歳児の保育士が園庭の使い方について話し合い、共通理解しながら職員配置や援助を日々行っている。事故発生時もジャングルジムの側と隣の色水遊びのコーナーに職員がいたが、瞬間を見ることができていなかったのは、ジャングルジムを含めた周辺の子ども達のことを見ていたためであり、ジャングルジムに対しての安全面の意識が低かったと振り返る。	ブランコ・滑り台・雲梯・ジャングルジム等、危険が予測される遊具には、専用に職員がつくことができるように考えることと、安全面について意識を高く持って子どもを見守り援助することを共通認識した。	1.定期的に実施	実施頻度(約４８)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(約４８)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(約２４０)回/年	遊具や設備に不備はなかったと考える。	日々の点検を継続し、不備が見つかった場合は使用を止め、修繕など適切な対応を行う。	3.個人活動中・見守りあり	４歳児ということもあり、自分でできることも多くなってきているが、危険に対する対応はまだまだ難しいと考える。急いで降りようとして足を掛けそびれ落下に繋がったことからも、側に保育士がついて本児が安全面に配慮しながら降りられるように言葉がけや見守りの援助が必要だった。	友だちと一緒に遊ぶ中で急ぐことはあるが、そんな時でもジャングルジムから降りる時には足場を確認することや、気をつけて降りることなどを保育の中で適時に伝えていくことを積み重ねたり、クラス全体で確認できる機会を意識して行ったりしていく。	1.いつもどおりの様子であった	ジャングルジムに３人で上がった後、先に降りた友だちを追って急いで降りようとしていたところであった。足場があると思っていたのにない箇所だったので急な対応が出来ず手も放してしまい落下したと考える。	4.対象児の動きを見ていなかった	ジャングルジムの側にはいたが本児の側にははおらず、また近くの色水あそびの子どもの様子等も見ていたため本児が落下した瞬間を見ることができていなかった。発生後直ぐの対応はできたが、事故を未然に防ぐための援助や発生時に助けるための手立てが出来なかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれの保育士が園庭の様々な場所で、子どもの安全を見守ったり、一緒に遊んで楽しさを共有したりしていたため、本児の落下は見ていなかった。	ジャングルジムは高くまで上ることが出来る遊具である分、危険が考えられる。子どもが利用している時に保育者がジャングルジムだけに注目して見守ることができていれば、本児に言葉をかけること等ができ未然に防ぐことに繋がったのではないかと考える。	他の子どもに求められるとジャングルジム以外に目を向けたり、その場を離れなければならない場合が出てくる。その時には職員同士で声を掛け合い、代わりに誰かがジャングルジムにつくように人的環境を整えなければならないと考える。	
547	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	8	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	14									3	3	16.４歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右環指末節骨骨折	4.玩具・遊具等施設・設備の安全上の不備によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	水着に着替える前で排泄を見る担任と着替えを見る担任に分かれていた。	押し入れに手を挟まないように、ガードを付け、声を掛け合うようにした。	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(１　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	子どもの力で簡単に戸が開閉できる状態だった。	押し入れの戸が完全に閉まらないよう（隙間のあくように）対策した。	1.集団活動中・見守りあり	ガラス戸は気を付けて声をかけて注意していたが、押し入れの戸については伝えていなかった。	子どもたちに対しても危険なのでとの開閉はしないことなど約束をした。	1.いつもどおりの様子であった	プール準備中で着替えが後、手持ちぶさたとなり戸を開閉していた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	他児の着替えの援助をしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の援助・排泄に行っている子の援助をしていた。	水着への着脱・プール準備・排泄の補助等でバタバタし、目を離していた。	生活の節目であっても、子どもたちから目を離さないよう徹底した。	
548	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	3	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	22									18	18	18.６歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕の骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度( )回/年	2.基準配置	マニュアルの更新も含め事故防止の為に努めていきたい。	見守りの強化、事故防止マニュアルの徹底を行う。	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	見守り方の不備を改善できるように努める。	落ち着きをもって過ごせるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	日頃と変わらない様子で元気で過ごしていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	担当職員のすぐ近くでこけた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員は他の園児を対応していいたため近くにはいなかった。	1人の職員で見守りをしていたことが要因。	1人の職員で見守らず2人以上で見守りができるように職員の動きを考える。	
549	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	49				16	17	16			5	5	16.４歳	2.女児	曇り	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	両肩関節打撲傷 左鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施		1.基準以上配置	特になし	事故予防に関する研修等を今後受けていく方が良いと思う。	2.不定期に実施	6	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	12	園庭が乾いていたので、カーブは滑りやすかったかもしれない。地面が滑りやすい時には散水を行うが、この時は散水をしていなかった。	園庭の状況によっては、まめに散水を行うようにする。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	スタートラインより元気に走り出していた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	かけっこのスタートラインの近くでスタートの合図の笛を鳴らしながら、走る姿を見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他のクラスの子どもを見ながら、走っている子を応援していた。	特になし	特になし	

No	初回掲載年月日	概要：認可・認可外	概要：施設・事業所種別	事故発生時期：月	事故発生時期：時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳：0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故：年齢	性別	特記事項	事故状況：発生時状	事故の転帰	死亡：死因	負傷：負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面：マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面：施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面：教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面：対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
550	令和6年3月27日	1. 認可	6. 認可保育所	1	8. 夕方(16時頃〜夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	31			11	7	7	6			2	2	16. 4歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	2. 顔面(口腔内含む)	眼窩底骨折	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	3. 基準以下	職員が動く際に、配置の見直し・人員補充ができていなかった。	室内にいる職員に声をかけ、職員配置を整えてから屋内へ戻るようにする。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	3. 未実施	実施頻度( )回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(48)回/年	遊具がなく、見通しが良いため、子どもたちが勢いよく走る。	グランドラインを引くこと、三角コーンを立てることで鬼ごっこで走る範囲をわかりやすく知らせる。また、人数や遊びの内容に応じて園庭をコーナー分けし、広いスペースを確保する。	1. 集団活動中・見守りあり	危険物がないか見回った後、子どもたちとルールの確認をして遊びを始めている。子ども同士での衝突やトラブルについての注意が促せていない。	グランドラインを引き、走って遊ぶ範囲を分かりやすくするとともに、線や逃げる範囲を意識したゲーム（田んぼの田、ドロケイなど）を取り入れる。	1. いつもどおりの様子であった	鬼ごっこを気に入る子が多く、園庭でいつも遊んでいる。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	鬼ごっこコーナーの近くで、全体を見渡せるように立って見ていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	砂場の近くで、玩具を使って遊ぶ園児を見ていた。	特になし	園庭へ出た際には職員の立ち位置等を確認し合う。	
551	令和6年3月27日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	5	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	22									1	1	17. 5歳	2. 女児		8. その他	1. 負傷		2. 骨折	2. 顔面(口腔内含む)	鼻骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	8	2. 基準配置	ヒヤリハットの意識の低下。	階段の昇降時の留意点を、職員・子ども共に意識を高める。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	階段は濡れていなかった。淵が尖っていなかった事で傷はなかった。	ヒヤリハットの意識をさらに高める。	7. その他	見守り・声掛け。	日頃からの階段の上り下りの際の留意点を子どもたちと共有しておく。1階へ降りた子どもへの見守り、声掛け。	1. いつもどおりの様子であった	変わらずいつも通り過ごしていた。	4. 対象児の動きを見ていなかった	おやつ後、残っていた本児の荷物に気づき、一人で1階へ持って行っていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員はいなかった。	見守り・声掛け	日頃からの階段の上り下りの際の留意点を子どもたちと共有しておく。1階へ降りた子どもへの見守り、声掛け。	
552	令和6年3月27日	1. 認可	6. 認可保育所	4	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	26		17	9						7	7	13. 1歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		4. 創傷(切創・裂創等)	4. 上肢(腕・手・手指)	右示指挫滅創	4. 玩具・遊具等施設・設備の安全上の不備によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	14	1. 基準以上配置	特になし。	ヒヤリハット委員会の際に、全職員でマニュアルの再確認を行った。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	特になし。	器具の安全な使用について、子どもが園庭で遊んでいるときには、絶対に移動させない。	1. 集団活動中・見守りあり	晴れていたので日陰を作るために、子どもが遊んでいる中で、広げていたパラソルを動かした。	常に声を掛け合い、子どもの安全を確認する。	1. いつもどおりの様子であった	パラソル付近で砂場玩具を持って遊ぼうとしていた。普段はずさないパラソルのネジが外れ、いつもと違うことに興味を持ち近づいたと思われる。	4. 対象児の動きを見ていなかった	子どもが遊んでいるところに日陰を作るために、近くに子どもがいないことを確認しパラソルを動かそうとしたが、背後から近づいてきていた本児に気付かなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	砂場遊びと蝶々の観察をしていた他児の対応をしていたため、本児がパラソルに近づいたことに気付かなかった。	いないだろう。見てくれているだろう。大丈夫だろう。と思い込んでの行動。	一人だけの思い込みはやめ、必ず職員同士で声を掛け合い行動する。	
553	令和6年3月27日	1. 認可	6. 認可保育所	11	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	12									11	11	18. 6歳	2. 女児	特になし	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左腓骨遠位端骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(3)回/年	2. 基準配置	腫れがなくても、痛みが続く場合は病院を受診する。	子どもたちに起きやすい骨折、怪我など把握しておく。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	園庭の滑りやすさなどを確認しておく。	砂場の砂で、走ったとき滑りやすくなることもあるので、朝庭を掃くとき、確認しながら掃く。	1. 集団活動中・見守りあり	9：30〜10：50まで室内で活動し、11時から園庭に出て鬼ごっこをする。椅子に座ってする活動から走り回る活動へ移行する。	ストレッチをするなど、動く前に心も身体も準備をする。	1. いつもどおりの様子であった	７：10登園。９：30から10：50迄文字指導に参加する。その後園庭に出てしっぽとりをする。タッチされて鬼になり、友だちを追いかけた時転んで足を捻ったという。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	一緒に走ってしっぽとりをしており、本児の泣き声で転倒に気が付く。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	前の保育の片付けをしており、室内にいる。	園庭にはすべり台等の遊具があり、追いかけっこは転倒しやすい。	広い場所で活動する。	
554	令和6年3月27日	1. 認可	6. 認可保育所	5	8. 夕方(16時頃〜夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	16		1	4	5	3	3			6	5	18. 6歳	1. 男児		7. 登園・降園中(来所・帰宅中)	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	2. なし	3. 未実施		2. 基準配置		様々なケースを想定した事故に対応できるよう研修を実施する。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	1	2. 不定期に実施	随時		標準装備の転落防止柵はあるので、施設・整備等での改善策は考えていない。	7. その他	他の保護者にジャンプしようとする自分を見て欲しくて、気分が高ぶっていた。	園児と再度正しい遊具の使い方を確認する。	1. いつもどおりの様子であった	いつもと同様であった。	4. 対象児の動きを見ていなかった	保育外	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育外	園児には妹（２歳児）がおり別保育室で保育していた。母親は妹を迎えにいっており、保護者の目が行き届いていなかった。	兄弟別々で保育をしているご家庭への引き渡しには、時間を要するので、引き渡した後も該当家庭には気を配る。	
555	令和6年3月27日	1. 認可	6. 認可保育所	5	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	22									3	3	17. 5歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2. 基準配置	担任が子どもの動きを把握しきれなかった。	活動と活動の間の時間に一人一人の子どもの様子が把握できるよう保育者を配置する。外傷後止血困難な持病がある子どものケガの防ぎ方を話し合い、職員間で周知する。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	ホール、保育室の2つの空間に園児が分散していた。	広い場所での遊び方を子ども、職員と一緒に考えていく。	1. 集団活動中・見守りあり	相撲をしている友達をみていると楽しくなり、遊びに入って行った。	遊び方を知らせながら年齢の発達に応じた遊びの提供。	1. いつもどおりの様子であった	相撲をしている友達の中に入って行った。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	ホールにて担任が全体を見ていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児と一緒に遊んでいた。	クラスに保育者が3人いることで、安心し、危険認知の甘さがあった。	子どもの行動を注意深く見て保育者同士の声掛け連携を強める。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
556	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	33				11	11	11			5	5	16.4歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足首骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2	2.基準配置	高いところから飛ぶ危険認知がまだ年中4歳児には難しく、予想しながらの職員の声かけや確認がさらに必要	職員会で再度共有し,日々の保育の中でヒヤリハット意識を持って場面ごとに職員で協力し合って子どもの保育に関わっていく	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	2	高い場所（畑との敷居）の場所が死角になりやすい場所	園庭にでている場合は，担任だけでなく園の職員全体で気がけて見ていく	1.集団活動中・見守りあり	年齢的にチャレンジしたいが危険認知がまだ不十分な為	意欲を大事にしながら危険な遊び方等を，繰り返し子ども達に伝え，一緒に考えていく	1.いつもどおりの様子であった	好きな遊びを自分で見つけ，いつもどおり元気に遊び過ごす	4.対象児の動きを見ていなかった	自由に園庭で遊ぶ場面の中、全体の子どもを見ながら過ごしていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	自由に園庭で遊ぶ場面の中、全体の子どもを見ながら過ごしていた	その場面の近くに職員が離れていたとこだった	死角にあたる場所でもある為，職員全体でその場面や場所の様子を見ていく	
557	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	3	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	80			16	22	24	18			10	9	17.5歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘頭骨棘、左手関節部打撲傷	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	3.未実施		2.基準配置	日頃から本児は雲梯や太鼓橋で遊ぶことがなく、遊び方に慣れておらず危険を伴う遊び方になったのではないかと考えられる。	子どもの動きや遊び方に注意しながら子どもにも知らせたり、高さのある固定遊具では保育者が十分に見守るようにしていく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	引き続き雲梯や太鼓橋、鉄棒などの下にはマットを敷き配慮していく	3.個人活動中・見守りあり	日頃から本児は雲梯や太鼓橋で遊ぶことがなく、遊び方に慣れておらず危険を伴う遊び方になったのではないかと考えられる。	高さのある遊具の下にはマットを敷いたり、保育者が近くで見守るようにしていく	1.いつもどおりの様子であった	普段、雲梯で頻繁に遊ぶ方ではないが、時々雲梯から飛ぶようなことはしていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	園庭にはいたが、雲梯とは離れた場所で、別の子どもと遊んでいた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	近くでは見ていたが、手を差し伸べて届く距離ではなかった。	危険な動きに繋がる行動への予測が十分にできていなかった	危険な動きやその子どもにとって無理のある動きや遊び方に注意し、子どもに知らせたり見守りを強化したりしていく	
558	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	9				3	3	3			2	1	17.5歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	5.下肢(足・足指)	爪剥離症表在性皮膚感染症爪甲変形症	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施	実施頻度( )回/年	1.基準以上配置	特になし	見守りの対応を職員で検討した	2.不定期に実施	実施頻度(6)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	該当なし	該当なし	1.集団活動中・見守りあり	トイレの入り口の近くにピアノを置いていて、他の職員からトイレに行く子どもの姿が見えにくい状況だった。	柱にコーナークッションを設置した。トイレの入り口のピアノを移動した。	1.いつもどおりの様子であった	特になし	4.対象児の動きを見ていなかった	職員はトイレにおり、トイレにいる子と部屋からトイレにくる子どもたちの様子を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員は、部屋に居て他の子ども達の動きを見ていた。	トイレに行く子どもの動きを、部屋に居る保育士も出来るだけ見るように気をつけたら良かった。	子どもの動きによって、保育士も出来るだけ移動し、細かな子どもの動きを把握する。	
559	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	9		1	1	3	1	3			4	4	17.5歳	1.男児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨遠位端骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	遊具の正しい使い方・遊び方の説明が足りなかった。	職員間でも共通認識をしておく。遊具の固定のチェックをする。子どもたちには年に数回話をする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	48	雲梯の近くには遊具を置かない	遊具の安全点検を複数の職員で行う	7.その他	降園中などに見守りが行き届かなかった	園庭全体に目が行き届くように保育するよう徹底する	1.いつもどおりの様子であった	居残り中に同年齢の子どもと遊ぶ中で雲梯近くに高さ30センチぐらいの遊具をもってきて飛び移ろうとしていて落下した。	4.対象児の動きを見ていなかった	降園する園児の保護者と話をしていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	少し離れた園庭で遊んでいた子どもを保育していた。	いつもは遊具を動かさないように話しているが注意喚起できなかった。	危険がないように職員会で話し合いを重ねて安全配慮を徹底する	
560	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	5	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	3				1	1	1			3	3	17.5歳	1.男児		8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手首若木骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	行事の集合時間に合わせての職員の配置が整っていなかった。	行事当日の職員の役割分担を再度確認する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	安全点検は定期的に実施していても使い方によっての危険性は考えられる。	安全性の確認と使い方の指導	3.個人活動中・見守りあり	園庭を開放していたにもかかわらず職員配置がされていなかった。また、遊具で遊ぶことについての注意（使用しない等）を行わなかった。	遠足の出発前には、園庭の遊具で遊ばないようにする。事前に園児と保護者に伝える。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りにみえたが行事（遠足）で、うれしくて気持ちが高ぶっていたかもしれなかった。	4.対象児の動きを見ていなかった	集合時間前で、園内で行事の準備を行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当保育士同様に園内で行事の準備を行っていた	園児が園庭に入った時点での見守りができていなかった。	園児が一人でも集合した時点で職員も園庭にでて見守りを行う。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制												事故			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事者		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳									うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他								死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】							理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
561	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	5	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	56				19	20	17			5	5	16. 4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨骨折	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	本児を押してしまった園児はADHDの疑いがあり、申請に向けて進めているが、その子の衝動的行動を止めることができなかった。	合同保育の中で衝動的な行動がみられるため、職員間で共有し、再発防止に努める。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	築山上に柵は設置できないため、後ろから押されると転落する危険性が高い。	事故防止の観点から園庭の築山付近には人工芝を設置しているが、それに加えて保育士の立ち位置の確認や情報共有を強化し、未然に防げるよう努めたい。	1.集団活動中・見守りあり	築山での活動の様子を見守ってはいたが、未然に防ぐことができなかった。	あらゆる危険を予測し、常に安全に気を配りながら保育にあたるよう職員で再確認する。ヒヤリハット事例として事故防止委員会に共有し、子どもたちが安全に遊べるよう努める。	1.いつもどおりの様子であった	築山付近や砂場付近で虫探しをしていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	築山付近で、対象児やその付近で遊ぶ子どもの様子をみていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれの場所で子どもを見守りながら、保育していた。	築山の際の部分で遊ぶことは転落の危険もあるということを、園児たちに事前に伝えていなかった。	あらゆる危険を予測し、常に安全に気を配りながら保育にあたるよう職員で再確認する。	
562	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	49									4	4	15. 3歳	1.男児	特になし	5.食事中(おやつ含む)	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	刺創	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	２～３	2.基準配置		定期的に保育環境を点検する。登園前毎日確認をさらに強化する。	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施		点検の項目が遊具中心であったため、保育室・廊下等身近な環境の点検が不足していた。	全クラスのロッカーを確認点検し、名札入れのケースを取り外し、名前のみ直接テープで貼った。園舎内の1階、2階の廊下と1階の保育室・多目的ホールにカメラを設置するため業者に依頼した。	1.集団活動中・見守りあり	廊下にあるロッカーにカバンをしまうことは子どもがそれぞれ一人で行っていた。	職員配置を再度検討し、常に危険個所や破損等がないか点検をさらに強化する。	1.いつもどおりの様子であった	特に変わった様子はなく、落ち着いていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	給食後の片付けの時間帯に起きたけがで、それぞれの子どものペースで行動していた。担任は保育室内にいる子どもの給食の介助中だった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれの保育室内で保育中であった。	廊下での行動の見守りがなく、確実な原因の特定が難しい状況になってしまった。	保育補助の職員の動きを確認し、職員で連携をとる。	
563	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	12				4	4	4			2	2	17. 5歳	2.女児	無し	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	橈骨遠位端骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	無し	定期的に予測される危険について話し合う。	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	毎	1.定期的に実施	毎	近くの公園の遊具について、どんな遊具があり、どんな危険性が考えられるのか保育士間で周知する。	公園の遊具は使用前に必ず点検をする。	1.集団活動中・見守りあり	園児に遊ぶ場所を移動するときの約束を伝えていなかった。	広場から遊具へと移動する際は保育士に伝えるよう園児に伝える。	1.いつもどおりの様子であった	本児が滑り台のアーチ型の階段を登っていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	始めは滑り台と広場に配置していたが、園児全員が広場に行ったため保育士も広場へ行った。しばらくすると数名が滑り台に戻ったため、保育士が向かっている途中だった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	広場の園児たちの見守りをしていたため気づかなかった。	本児が「やめて」と他児に言っていたが再度押された。	保育士がそばにいて声掛けできるように一緒に移動するようにしていく。	
564	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	5	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	61					29	32			3	3	17. 5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	環軸頸椎亜脱臼	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	6	2.基準配置	４・５歳児(3クラス)同時に戸外遊びをした際、各固定遊具に保育士を配置する方法ではなく、コーナー遊びを想定しての保育士配置をした為に見守り範囲が広くなってしまい、危険行為に対して制止することができなかった。	可能な限りの職員増員配置や使用できる固定遊具を限定するなどより見守りが充実するようにする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	2.不定期に実施	随時	特記なし	待機場所とブランコまでの距離を考慮し、安全に遊べるような待機場所の位置や交代する時の動線について確認し約束事を検討。職員に周知した。	1.集団活動中・見守りあり	特記なし	ブランコ付近で遊ぶ時の安全な遊び方や約束、順番を待つ場所や柵の意図、危険行為について子どもたちと確認をした。	1.いつもどおりの様子であった	いつも対象児と遊んでいる友だちがブランコに乗り少し離れた所にいた対象児を呼び寄せ、呼ばれた対象児はブランコを囲むタイヤ内にはいってしまい、ブランコを漕いでいた他児と接触した。	4.対象児の動きを見ていなかった	ブランコ付近ではないところで子ども達を見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	ブランコと登り棒を一緒に見ていた。対象児は接触時に転倒することがなくそのままジャングルジム付近にいた担当保育士の方に向かったため、様子をみてその後担当の方へ状況を伝えた。	特記なし	職員の協力体制の見直しを行い、子どもの遊びの様子や状況に合わせて声を掛け合い臨機応変に対応できる職員体制がとれるよう周知した。	
565	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	20					11	9			4	3	17. 5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	3	2.基準配置	特になし	保育士の立ち位置の確認をする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	園庭の安全点検をする。	3.個人活動中・見守りあり	走れるスペースの確保はしていた	園庭整備をする。	1.いつもどおりの様子であった	戸外で走り縄跳びをしていた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園庭全体を見守っていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	個別に子どもたちに関わっていた	左ひじの痛みを訴えたのが数時間後だったため、気づきが遅れた	けがの原因となる事故の後は速やかに職員間で情報の共有をし、一日様子をみて本児の様子の変化に十分に気を配る。	
566	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	52				21	14	17			6	6	17. 5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	橈骨遠位端骨折	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置		特になし	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		特になし	1.集団活動中・見守りあり		特になし	1.いつもどおりの様子であった	天気も良く園庭で活動していた。仲の良い友だちとごっこ遊びを楽しんでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	園庭には職員を配置していたが、対象児を見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭の各コーナーで職員は配置し対象児を見ていたが、怪我の発生時は見ていなかった。	保育基準は揃っていたが、滑り台の活動の様子を把握し声掛けができていなかった。	園庭で過ごす時は、保育教諭の配置を考え全体を見て、活動によっては声掛けをしていく。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
567	令和6年3月27日	1. 認可	6. 認可保育所	4	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	44	0	0	8	13	11	12			10	10	15．3歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	口唇裂傷・ALA外傷性歯の脱臼	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	3. 未実施	実施頻度( )回/年	1. 基準以上配置	急いで階段を上がっていた時に足を踏み外した。	急いで上がっている様子が見られた時は、声をかけて落ちついて階段を上がれるようにする。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	特になし	1. 集団活動中・見守りあり	特になし	特になし	1. いつもどおりの様子であった	登園時より変わった様子は見られず、好きな遊びを楽しんでいた。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	園庭に出て、他児とあそびながら本児を含めた園児の様子を見守っていた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	園庭に出て他児と関わって遊んでいるときに、本児の様子も見ていた。	急いではしごを登り、バランスを崩して歯をぶつける	急いでいる様子が見られたときに、声をかけ落ち着かせる	
568	令和6年3月27日	1. 認可	7. 小規模保育事業	3	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	4. 3歳児クラス	8									3	3	15．3歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		6. その他	5. 下肢(足・足指)	脛骨（左足）ひび	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 基準以上配置	園外保育時の怪我対応マニュアルはあるが、遊具の使用に関する安全マニュアルはなかった。	園外保育で利用する公園の遊具を確認し、子どもたちが怪我をするリスクを考え、職員全員に周知する。	3. 未実施	実施頻度( )回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(10)回/年	3. 未実施	実施頻度( )回/年		公園の遊具を利用する際は、危険がないか確認してから使用する。	1. 集団活動中・見守りあり		年齢差がある子どもがドームで遊んでいる時はドーム上で座って待機させるのではなく、ドームから降ろして待機させる。	1. いつもどおりの様子であった	遊具に座っていた。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	対象児が座っていたので、そばでみていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	園児が全員で8名いて、それぞれ２，３名ずつの園児をみていたため、対象児をみていなかった。	一つの遊具で年齢差がある複数の子どもが遊んでいた。座っていても小学生が飛んだ反動が伝わり、対象児の体が浮くかもしれないという予測が出来ていなかった。	3歳から使用可能な遊具で全員が3歳になっていたが、2歳児はまだバランスをとる感覚が未熟なため、使用方法を考え直す（使用しない、小学生とは一緒に使用しないなど）。	
569	令和6年3月27日	1. 認可	6. 認可保育所	5	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	15					7	8			2	2	17．5歳	1. 男児	特になし	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左第3中手骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	2	2. 基準配置	けがにつながる器具、を使う時は思っている以上に無理をしたり自分の力以上の事をするかもしれない、ということを想定することが大事。	本児が痛みを我慢しすぎていることもあるかもしれないと配慮すること。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	48	1. 定期的に実施	48	子どもの気持ちを尊重するとともに、活動限度を見極めることも必要。	本児の気持ちを理解し無理のないよう見守ったり、できることできないことを把握し対応する。	1. 集団活動中・見守りあり	本児の跳び箱に対する思いを理解し、無理しすぎないように配慮する。	本児の気持ちを尊重するとともに、本児の運動量、体力の限界を想定することが大事。	1. いつもどおりの様子であった	跳び箱に意欲的に何度も繰り返し挑戦していた。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	本児が跳び箱を跳ぶ様子を見ながら補助をしていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	跳び箱以外で遊ぶ子どもたちをみていた。	子どもの動きや内面を想定し頑張りすぎていないか見極めることも必要であった。	子どもの背景を理解し思いもよらない事からケガにつながることを意識し子どもと関わる。	
570	令和6年3月27日	1. 認可	6. 認可保育所	4	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5. 4歳児クラス	15									2	2	16．4歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折　左手首捻挫	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	4	1. 基準以上配置		施設の危険箇所を図式化するなどして事故防止について職員で研修を行う	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	12		定期的な点検を続けて実施していく	1. 集団活動中・見守りあり		今後も園児の状況に合わせて人員配置していく	1. いつもどおりの様子であった	登園時の視診では普段通りだった。保育中も変わった様子は見られなかった。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	至近距離にいて園児の遊びの様子を見ていた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	全体を見渡せる位置にいた。		園児の発達段階や体の使い方などを考慮し、遊びの場面を見守る体制を構築していく。	
571	令和6年3月27日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	6	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	17									2	2	17．5歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右橈骨、尺骨骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	3. 未実施		2. 基準配置	加速して滑り台に突入したことと、らせん状滑り台で遠心力により体をコントロールできなかった。	らせん状滑り台の場所に、職員を配置	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	12		らせん滑り台だけ撤去した	1. 集団活動中・見守りあり		大型遊具での遊び方を再確認させ、鬼ごっこ等はしないように指導した。滑り台は、おしりをつけてすべるように指導した。	1. いつもどおりの様子であった		3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	遊びはじめは大型遊具の所にいたが、他児との対応でその場を離れた為、落下時は見ていなかった。落下した園児が腕を抑え泣きながら保育士の所に駆け寄った為、即座に対応した。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	遊具の場所の反対側で他児とのトラブルに対応していたため、見ていなかった。		鬼ごっこ等スピードが出る遊びは、遊具に登ってやらないように声をかけて、滑り台はきちんとお尻をつけて滑るようにさせる。遊具全体を見渡せるように職員を配置する。	
572	令和6年3月27日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	5	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	7. 異年齢構成	91				33	22	36			15	15	15．3歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	4	2. 基準配置		保護者引率のもとであっても、園児の様子を把握する。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12		園内でも起こりうる事故なので、安全管理の再確認を行う。	1. 集団活動中・見守りあり		一人一人の遊びをしっかり見守ると共に、危険な遊具のそばには必ず職員が付くようにする。	3. いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	親子遠足に両親と共に参加し、普段よりも気持ちは高ぶっていたかなと思われる。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	近くにいた職員は落ちたことを見ており、保護者にもその時に声をかけていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	広い園内だったので、それぞれ分散して様子を見ていた。		親子遠足なのでテンションが上がることを予想して、声をかけたり行動を見守ったりしていく	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
573	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	4	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	19									4	4	16.４歳	2.女児	２週間前に園庭のベンチとテーブルのところで自らの転倒により頬を打撲しており、怪我が続いている。	8.その他	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	●/● 左足打撲 ●/●左足骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	12	1.基準以上配置	特になし	常に事故予防を意識した保育が提供できるよう、定期的に研修に参加したり重大事故が起こる前にヒヤリハットを出し合い、意識を高めていく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	293	1.定期的に実施	293	特になし	設備の問題はないと考えられる。	1.集団活動中・見守りあり	何につまづいたか⇒着替えコーナーのござは位置的に要因とはなりにくい。遊んでいた玩具は足元には散らばっていなかった。子ども達がロッカーの前に集まっていた。	子どもの動線を考えた配置、分散できるように職員が保育・対応する	1.いつもどおりの様子であった	排泄後、自分のロッカーに着替えをとりに行くが、他の様子が気になり行ったり来たりする中で転倒した。	4.対象児の動きを見ていなかった	一人の職員の後ろで転倒。転倒に気付いてすぐに抱き起した。一人の職員は正面で他児２名の着替え越しに転倒を確認。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	遊びコーナーから全体を見ていて本児の動きを把握。（2ｍほど離れたところから）転倒の瞬間を確認している。	本児自身が転びやすい特性があることを認識し、意識的に行動を見守る事ができていなかった。	配慮を要することを職員周知し、怪我や転倒のリスクを考えて保育・対応する。	
574	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	40									8	8	18.６歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)	右足首じん帯損傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	4	2.基準配置	特になし	研修は行っているが、常に事故やケガを予測し事前回避することが必要である	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	20	特になし	園庭の小石や草も定期的に除去する	1.集団活動中・見守りあり	片付けを始めようとする時だった	年齢ごとの発達に配慮しながら異年齢での遊びを見守る	1.いつもどおりの様子であった	同学年の友達と連れ立って園庭を駆け回っていたが、他の子とぶつかったり前を見ていないなどの不注意な行動はなく、走る速さも全力走でなく楽し気に軽く走って移動していた。	4.対象児の動きを見ていなかった	対象児が園庭で友達と遊んでいるのは把握していたが、足を捻った様子は見ていなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	異年齢オープンでの外遊びのため、担当学年の子を中心に見守っていた	対象児は園生活も3年目で年長児であり、異年齢児への配慮もあるし、危険を回避する能力もある。	園庭での自由遊びでは子ども同士の衝突や転倒などが予想されるので、視野を広くみていく必要がある	
575	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	49									2	2	18.６歳	2.女児	本件事故と既往症及び発生時の天候等は、関係はないと思われる。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨外側顆骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	3.未実施		2.基準配置	日頃、全職員で安全面については最優先事項として取り組んできたところであるが、事故予防マニュアルに基づいた定期的な研修等により日常場面で実効性をもつような取組が今後必要である。	事故予防マニュアルを策定する。また、定期的な研修会を実施し、職員の事故防止意識を高めるとともに、園児の行動予測等に基づいた事故防止に努める。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎日		各担当による定期的な安全点検は行っているが、遊具や園庭、体育館等で活動する前及び最中にも各担任が安全点検を実施するようにする。	1.集団活動中・見守りあり	対応可能な場合は担任外の職員も園児の見守りにつくようにしているが、事故発生時は担任のみであった。	今後も対応可能な場合は、担任外の職員も見守りにつくようにし、特にも安全面に留意して複数の目で園児を見守ることを継続する。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り友達と遊具を使う等して外遊びを楽しんでいた。普段と特段変わっている様子はなかった。	4.対象児の動きを見ていなかった	担任は随時園庭の全体の様子を把握していたが、事故発生時は他の子どもに対応していたため、当該児が落下するのを目撃していなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他クラスの担任も上記と同様であった。	事故発生率の高さ等に留意した目の配り方も必要であった。	事故予防マニュアルを作成し、具体的な目の配り方等に留意し、今まで以上に安全な教育保育活動の展開に努める。	
576	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	24									4	4	16.４歳	1.男児	晴れ	1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷性歯の脱臼	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置		職員が固定遊具に対する危険予測を意識する。	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	1	なし	事故発生との関連性がなかった。	3.個人活動中・見守りあり		固定遊具の階段の砂をこまめに掃くようにする。	1.いつもどおりの様子であった		3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	滑り台の近くに職員が見守っていたが手を差し伸べ防ぐことはできなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児と遊びながら見守っている状況であった。		園児の行動予測に努める。	
577	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	3	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	21									3	1	17.５歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右外果骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施	実施頻度( )回/年	2.基準配置		マニュアル作成、職員間での研修	1.定期的に実施	実施頻度（ ３ ）回/年	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		園庭は芝生化としてある。	1.集団活動中・見守りあり		怪我の多い児童は家庭と情報共有。サッカー教室へ内容等確認検討	1.いつもどおりの様子であった	他児とトラブルもなく、サッカーを楽しんでいる様子であった。本児がシュートしようとした時に転倒してしまった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	試合中である為、コーチ２名がコート内にいるため、担当職員は、コートの外より全体を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭は、５歳児クラスだけで使用。そのため、他の職員は見ていない。		通常通りの動きであっても、無理な態勢ではないか注視する。子供の動きを観察する。ノートに記録する。	
578	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	16									6	6	16.４歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	（１）左中指末節骨骨折、左中指爪下血腫（２）左環指挫傷（３）左環指爪脱臼	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(293)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(293)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(293)回/年	保育室入り口の扉を閉めた際に隙間ができず、子どもが手を挟んでしまった。	その日のうちにウレタン積み木を利用して戸の上部に取り付け、戸を閉めた際に隙間ができるようにした。	3.個人活動中・見守りあり	特になし	落ち着かない園児に対しては、すぐに手が届くような位置で見守りをする。	1.いつもどおりの様子であった	新入園児でまだ生活に慣れておらず、気持ちは不安定であった。また、外国籍であり日本語の理解が不十分である。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	活発な園児のため一対一で見守り、後を追っていたが、すぐに手が届く位置ではなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	2歳児保育室内で他の子の保育をしていた。	本児が3歳児クラスの戸を開閉するという咄嗟の行動に対応できなかった。	すぐに手が届くような位置で見守りをする。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
579	令和6年3月27日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	6	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	40				16	11	13			5	5	17. 5歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右足親指付け根の骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 基準以上配置	手をつないでジャンプをしたことで体制が崩れてしまった	自分の身を守りながら安全に遊ぶ方法を伝えていく。怪我を予防するための体力づくり	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	必要に応じて点検の回数を多くする	子どもの年齢、体格にあった遊具の選定や安全点検の強化	1. 集団活動中・見守りあり	当該園児が、それまで衝突の多かった子と仲良く遊び始めたので、多少の危険を感じながらもその遊びを黙認していた	遊具の使い方、遊び方、ルールについてあらためて確認し職員間で共有する	1. いつもどおりの様子であった	該当園児は、運動能力も高く、普段であれば怪我をすることなく飛び降りることが出来たと思う	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	遊具の上に立っていたので危ないということはわかっていたが、友だちと嬉しそうにしていたので注意するまでは至らなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員は近くにはいたのだが、破損したものをなおしていて、対象児の動きは見ていなかった	遊具の高いところから飛び降りに危険を感じたり、他の子が真似を始める可能性を心配に思う職員もいた。2，3日前から継続的に行われていた遊びに対して職員がどう対応していくか、子どもの動きのどこまでが許容範囲か決められていなかった。	子どもの遊び方について少しでも疑問がある場合は職員間ですぐに話し合う子どもたちが納得するかつ、安全が保障されるルールをみんなで決める	
580	令和6年3月27日	1. 認可	6. 認可保育所	5	3. 昼食時・おやつ時	1. 施設敷地内(室内)	4. 3歳児クラス	7									1	1	15. 3歳	1. 男児	走り方がややつま先走り気味で、バランスが悪い。	8. その他	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	外傷性歯根破折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	1	2. 基準配置	担当保育士の関心を引きたく、事務所で担任が迎えに来てくれることを期待している様子。転ぶときに手をつかず直接顔を床にぶつける。	体の動きがぎこちない部分があり、大きなけがにつながりやすいため、バランスが崩れそうなときに手をつく動作を促したり、本児の気持ちを受け、走らないような言葉がけを工夫する。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	昼頃の明るい時間帯であり、節電のため廊下の電気は消してあったが、暗さも要因の一つであったかもしれない。	事務所からクラスまでの行き来を予測し、電気をつけておく。	4. 個人活動中・子どものみ	活動が切り替わる場面で、部屋から出ていく。	移動する前に個別に話しかけるなど、個別対応が必要。	1. いつもどおりの様子であった	最近はよくある行動で、事務所に来ることで担任が迎えに来たり、個別的な関わりをしてくれることを理解している。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	事務所からクラスへ戻る様子を見守りながら後ろから追いかけるように歩いていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他クラスや事務所職員も食事中であったため、廊下の様子は見ていなかった。	対象児が後ろから来る担任を気にしながら走っていた。	転ぶかもしれないことを考え、手をつないで一緒に歩いて戻る。	
581	令和6年3月27日	1. 認可	6. 認可保育所	5	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	23									3	3	18. 6歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右第１趾捻挫（当初の診断）経過観察後●月に受診した際骨折だったと判明	4. 玩具・遊具等施設・設備の安全上の不備によるもの	1. あり	2. 不定期に実施		1. 基準以上配置	年長児は自分たちで自主的にできることもあり主体性を育てているが、安全面については保育士の最終確認を必ずすること。子どもだけにまかせない	上記の通り、職員の共通理解をする。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	2	1. 定期的に実施	12	サッカーゴールは問題なし、組み立ての際安全確認を目視のみだった	安全確認は目視のみではなく、手で触れて確認する。	1. 集団活動中・見守りあり	本児は体を動かすことが好きで活発、サッカーにも意欲的でゴール設置後すぐシュートを決めていた、その際他児が触れたゴールが下がり足を挟んだ	ハード面と同様安全確認をしっかり行うこと	1. いつもどおりの様子であった	１週間前にサッカー教室があり、サッカーにとても興味をもっていた。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	複数担任のクラスで、一人は近くで見ていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	加配児の近くにいたため、本児の動きはみていなかった。	１週間前にサッカー教室もあり、みんなのテンションが高かった。	ハード面と同様安全確認をしっかり行うこと。	
582	令和6年3月27日	1. 認可	6. 認可保育所	6	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4. 3歳児クラス	11									2	2	15. 3歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕骨亀裂骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2. 基準配置		今回の事故の検証、マニュアルの再度の周知を行い、再発防止に努める。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年		毎日の安全点検の実施と危険と思われる個所等の報告や改善	1. 集団活動中・見守りあり		夕方の時間帯は1日の疲れも出やすいので、特に子どもの動きに注意しながら保育を行う。	3. いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	友だちと一緒に繰り返し楽しんで、テンションが高くなっていた。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	遊びのすぐ近くにつき子どもたちの様子を見守っていた。人数が少なかったため全体も把握できる状態で、本児の側にいたが転倒を防ぐまでの対応はできなかった。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	人数も少なかったため、遊びのすぐ近くにつき子どもたちの様子を見守っていた。	広いスペースを確保して保育士が側につき見守りながら遊んでいたが、時間帯と人数から遊びの内容は適切だったか。	広いスペースを確保し、保育士が側につきながら危ないと感じた場面ではすぐに止めて、子どもたちを落ち着かせてから安全に遊びるようにする。	
583	令和6年3月27日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	4	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	2. 1歳児クラス	20									5	5	13. 1歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右小指打撲傷、右小指骨折	8. その他	1. あり	1. 定期的に実施	3	1. 基準以上配置		マニュアルには今回の事案そのものについての内容はなかったため、追記するとともに職員研修にて情報共有をおこなった									3. 個人活動中・見守りあり	子どもを膝に抱っこした状態でタブレットを持って操作したため	ショルダーベルト付きタブレットケースを購入した。タブレットを使用する際にはショルダーベルトを装着して利用することを徹底した。	1. いつもどおりの様子であった	担当保育者とふれあい遊びを楽しんでいた	1. 対象児とマンツーマンの状態(対象児に接していた)	対象児とふれあい遊びをした後、膝の上に座らせた状態でタブレットの操作をしようとして、タブレットを落としてしまった	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当する他児の遊びを見守ったり、一緒に遊んだりしていた		タブレットを使用する際には、ショルダーベルト付きのタブレットを子どもから離れた場所で使用しすることとした	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
584	令和6年3月27日	2. 認可外	18. その他の認可外保育施設	5	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	5. 4歳児クラス	15									2	1	16. 4歳	1. 男児	●月●日に再診、アレルギー検査の結果、キウイフルーツは6段階中２との結果報告を保護者より受ける。その日の体調で疲れていたりする場合、普段食べているものでも、アレルギーが出やすいとのことを主治医より伝えられる。今後は、キウイフルーツは、食べないとの主治医からの指示。今後園では、本園児に対し、キウイフルーツの提供はしない。また、キウイフルーツ以外のアレルギー検査結果の一部コピーをスクールにご提出していただいたので、園児の記録と一緒に保管している。	5. 食事中(おやつ含む)	1. 負傷		6. その他		食物アレルギー	6. アナフィラキシーによるもの	2. なし	3. 未実施	実施頻度(0　)回/年	2. 基準配置		エピペン等の使用研修をする。症状が発生した際のシミュレーションをする。	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	実施頻度(48　)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(48　)回/年		食事の時に使用するテーブル、イスにがたつきがないか壊れていないかなど、安全に食事ができるよう目視だけでなく、触ったり力をかけたりしながら確認するようにする。	6. 食事(おやつ)中		各クラスに掲示してあるアレルギーリスト（保護者より提供情報）の掲示を大きく見やすく変える。外国人日本人両方の保育者が提供時に、確認点検をするようにする。これまで同様、飲食中は子どもたちがよく見える位置に配置し、いち早く異変に気づくようにする。	1. いつもどおりの様子であった	午後15：20頃、おやつにキウイフルーツが提供され、男児はキウイフルーツを少し噛んだ１、２分後に違和感を感じた様子で、立ち上がりティッシュを取りに行き、口を拭いた。その後、席に戻ろうとした時に大量に嘔吐。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	嘔吐後、その場にいた日本人保育士が介抱し、一階の事務所へ男児を連れ、簡易ベットの上に横にさせる。事務スタッフが話しかけながら園児の様子を確認する。もう一人の事務スタッフが保護者に状況の説明、緊急のお迎えを要請。この時体温は、35.9度。保育士は、一旦クラスへ戻り、クラスに残った外国人講師に状況の説明。施設長に報告。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	その後、見守りをしていた事務スタッフが男児の目の腫れが酷くなり、目を擦るようになる事を確認。首から下の症状（なし）確認。他の保育士にも状況を伝え、目の腫れを確認、呼吸（あり）の確認、アレルギー症状が出ていることから救急車の要請をする。16：10頃救急車が到着。保育士が園児を抱きかかえ、救急車へ同乗。迎えに来られた保護者（父親）も救急車へ同乗。事務スタッフが自家用車で病院へ向かう。		飲食の時間において、安全な環境作り、また、食事中の園児の安全を守るためのサポート、見守りに関しての注意を全スタッフで、見直し、徹底をしていく。	
585	令和6年3月27日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	3	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	50				18	32				7	3	17. 5歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左足関節外果骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	2	2. 基準配置	事故発生防止のための指針は作成されているが、「安全な保育環境を確保するための配慮」について改めて確認する必要がある。	「安全な保育環境を確保するための配慮」について職員間で話し合いを行い、必要な配慮を話し合った。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	12	事故発生場所の芝は伸びておらず、地面に穴や石などはなかったが、場所によっては傾斜の箇所もあるので、バランスを崩す要因につながった可能性も考えられる。	園庭に玩具や石などが落ちている場合には、その都度寄せるようにする。虫探しで園庭の端をスコップで穴を掘った後は埋めるようにする。	1. 集団活動中・見守りあり	対象児は、足に合ったサイズの靴を着用していたが、サイズの合わない靴の着用は、バランスを崩したり転倒したりしてケガにつながる危険性がある。	足のサイズに合っていないものや古くなりマジックテープがはがれやすくなっているものなどは、保護者に知らせ交換してもらうようにする。	1. いつもどおりの様子であった	普段通りの様子で、友達と二人でサッカーをしていて、右足でボールを蹴った際にバランスを崩し、左足首を外側にひねる体勢で転倒した。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	コンビネーション遊具の滑り台に付いていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭内にいた保育教諭３名は、それぞれコンビネーション遊具、築山、砂場についていた。	雪遊びから春先の園庭での遊びへと切り替えに体が十分に慣れておらず、更に利き足ではない方の足でボールを蹴ったこともバランスを崩す要因につながった可能性も考えられる。	普段繰り返し楽しんでいる遊びでも、思わぬケガに繋がることがあるという意識を保育者がもちながら遊びを見守り、園庭での遊び方について子どもたちと再確認を行った。	
586	令和6年3月27日	1. 認可	6. 認可保育所	6	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5. 4歳児クラス	10									2	2	17. 5歳	1. 男児		7. 登園・降園中(来所・帰宅中)	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右尺骨・橈骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(３)回/年	1. 基準以上配置		降園時は保護者管理となるため、保護者に対し園児から目を離さないよう周知する。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年		施設等に危険がないか確認し、本来の使用方法以外の使用をしないよう明示する。	7. その他	本来座るべきでない金属製のポールに座り転倒。	本来の使用方法以外の使用しないよう明示し、園児に対しても指導する。	1. いつもどおりの様子であった	いつもと変わらない様子で、体調面も問題はなかった。	4. 対象児の動きを見ていなかった	対象園児を引き渡した後、降園中の駐車場での事故のため、対象児の動きは見ていなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	同上		降園時に保護者及び園児に対し、気を付けて速やかに降園するよう指導する。	
587	令和6年3月27日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	5	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5. 4歳児クラス	20									2	2	16. 4歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆部骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	3. 未実施		2. 基準配置		職員会を行い、危険箇所のピックアップとマニュアル作成を実施した。令和5年度の職員研修に事故予防の研修を計画中	1. 定期的に実施	毎日	2. 不定期に実施	1	1. 定期的に実施	毎日	鉄棒下のクッション材が十分ではなかった。丸太を踏み台として使用していた。	クッション材を新しく敷きなおした。丸太を第二園庭から撤去した。	3. 個人活動中・見守りあり		クッション材を新しく敷きなおし遊具周辺に玩具等が置かれていないか随時確認する。遊具の安全性を毎日確認する	1. いつもどおりの様子であった	他児が第一園庭より運び込んだ丸太を使用して、鉄棒の上に登ろうとしていた	4. 対象児の動きを見ていなかった	主担任は対象児が鉄棒に近づいていることに気が付いていた。しかし木登り中の児童がトラブルを起こしそうだったため、そちらに気を取られてしまった。副担任は第一園庭で遊ぶ児童を砂場付近で見守っていた。両者とも対象児が鉄棒から転落したところは見ておらず、対象児の泣き声で気づいた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	昼食準備のため、児童たちと園舎内へ移動していた。対象児のクラスと担任二人だけになってしまうが、第二園庭を閉める等の助言や児童たちの移動を促す行動を行えなかった。		保育士同士で移動する旨の声掛けをおこなう。また、児童・保育士の人数が減るに伴って第一園庭へ移動し、くまなく目を配ることができる環境を維持する。	
588	令和6年3月27日	1. 認可	3. 保育所型認定こども園	6	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	31					17	14			4	4	16. 4歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左足首剥離骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	4～5回	1. 基準以上配置		特になし	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	2. 不定期に実施			上記の点検を継続し、異変があればすぐに対応し安全に努める。	1. 集団活動中・見守りあり		見守りを強化し安全に努める。	1. いつもどおりの様子であった	転倒後も様子を見ていたが、普通に遊んでいた。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	園庭なので全体が見渡せる位置にいた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれ、自分のクラスを重点的に見ていた。	本児が内股で歩く時に不安定さは感じられることもあった。それが要因であるとは言いきれないが、バランスを崩す要因となったのかもしれないとも分析する。	見守りを強化し安全に努める。	

No	初回掲載年月日	概要：認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期：月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制：発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳：0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故：年齢	性別	特記事項	事故状況：発生時状況	事故の転帰	死亡：死因	負傷：負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析：ソフト面：マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面：施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面：教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面：対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
589	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	5	7.午後	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	14									2	2	15.３歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		6.その他	2.顔面(口腔内含む)	右目眼球破裂	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	職員の子どもの目が届いていなかった	旧型のタオル掛けを破棄し安全な物と交換した	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		園児の安全を配慮した設備の確認	7.その他		降園準備の園児の立ち位置を改善	1.いつもどおりの様子であった	通常の降園準備を行っていた	4.対象児の動きを見ていなかった	保育室で2名の職員が見ていたが、ちょっと目を離した時に起きてしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育室内は２名の職員で見ていたが、ちょっと目を離した時に発生。他の職員は別のクラスにて対応。		保育室での職員の目配りを徹底する	
590	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	4	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	14				6	5	3			2	2	16.４歳	1.男児	事故との因子関係のある特記事項はなし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2、3)回/月	1.基準以上配置	職員の目の届く位置ではあったが、走る本児を静止することができなかった	室内では靴下を脱ぐ。保育室内は歩くなどの環境を整えていく必要がある	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/月	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週	2.不定期に実施	実施頻度(2、3)回/月	特になし	今後も定期的に安全点検を実施し、設備の安全確認に努める。	1.集団活動中・見守りあり	保育室内を靴下を履いた状態で走ったこと	保育室内は歩いて移動するようその都度本児に伝え、意識づけできるようにする	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	戸外に出かける準備で、排泄後に並ぶ指示を受け1番に並びたいという思いから、保育室の入り口に向かって走った	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	他児のトイレの見守りで離れていたために、目視はしていたが対象児の転倒を防ぐことはできなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	隣りの保育室で他児の準備に対応していたため、対象児の転倒の瞬間を見ていなかった	進級したことを喜び、気持ちが高揚していたため室内を走ってしまった	靴を脱ぐ際に靴下も脱ぎ、靴を履く場で靴下を履くように統一し、室内では靴下を履かないように周知する	
591	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	30					16	14			5	5	17.５歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足関節外果剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.基準以上配置	担任と非常勤の職員がついていた。	足が弱く何もない所で転倒など、足の怪我の頻度が多いので、活動時職員が一人つく。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１３)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/週	いつもと違う公園内で遊んでいた。長縄を使用すると横移動が発生する。	活動が無理そうな時は、本人の意思を確認した上で見学する。	1.集団活動中・見守りあり	長縄を７人で飛んでいたので、短くしてもう少し少人数にするべきであった。	児童の特性などを考慮し、環境の変化に対応できるように、職員同士の連携を図っていく。	1.いつもどおりの様子であった	長縄を飛び越えた後、横移動する際、バランスを崩す。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	長縄の傍につき見守っていたが、対象児がバランスを崩した瞬間止められなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	長縄を持っていた。	４歳児と５歳児、分かれて公園内で遊ぶ。５歳児に二人の職員がついていた。	４・５歳児同じ空間で遊ぶようにし、職員全体で園児を見守るようにする。	
592	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	不明	不明	7.異年齢構成	120	9	16	21	23	23	28		※発生時間不明のため、当日の登園人数を記載	20	19	18.６歳	1.男児	本児は全体活動への指示が通りにくく、感情の起伏が激しく他児とトラブルを起こすことが度々みられた。自分の思いを上手く相手に伝えられないことが要因であり、保育者が仲介に入り本児の思いを代弁し、問題を解決してきた。今回も身体の異常を担任に伝えられなかったことが、園が事故の把握が遅れたことに繋がったと考える。	園内（園庭・保育室）での活動中であると想像する	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手橈骨遠位端骨折	不明	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	保育者と園児の密なコミュニケーション。保護者とは連絡を密にすること	園児と保育者との日頃からのコミュニケーションを密にすることで、園児の一日を保育者がより深く把握することが大切であり、そのための言葉かけを園児一人ひとりに行っていくことが大切である。	1.定期的に実施	実施頻度（１２ ）回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	特に無し	安全点検を的確に実施することを徹底し、異常個所等の発見に努める。	1.集団活動中・見守りあり	保育中に負傷したのであれば、保育に関わった者が見逃したことが要因であるかもしれない。	事前の役割分担と事後の異常の有無の確認を徹底する。	1.いつもどおりの様子であった	日頃の自分の行動を顧みる習慣が本人に身についていなかった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象園児は当日問題なく保育活動に看過しており、特別に個別に支援する機会が無かった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担任からの該当園児への支援依頼が無く、保育室でも問題なく保育活動に参加していたため	負傷場面を特定できなかったことは、見落としがあったかもしれない。	園児が負傷（骨折）した事実を深く受け止め、役割分担と園児・保護者とのコミュニケーションを深めることを重要視していく。	
593	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	1.0歳児クラス	3									2	2	12.11か月	1.男児	食物アレルギー（卵）	5.食事中(おやつ含む)	1.負傷		6.その他		食物アレルギーによるアレルギー反応	6.アナフィラキシーによるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(３)回/年	1.基準以上配置	保育教諭と調理員の連携不足	食物アレルギーについての認識を深めるための園内研修を定期的に実施する。現実践中の食物アレルギーの子どもの一覧表についての再確認をする。ダブルチェック体制の強化。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/月	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/月	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	特になし	引き続き定期的に設備等について点検をおこなう。	6.食事(おやつ)中	０．１歳児のおやつが同じカゴにあり、０．１歳のおやつがはっきり分かる表示が不足していた。	おやつも給食同様クラスごとに分け、０歳児の分にはラップに名前を書いて、視覚で判断できるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	自分でたべることがまだ難しいため、保育教諭が手伝い食べていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児斜め前で、他の子どもにおやつを食べさせていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	対象児の横で、対象児におやつを食べさせていた。	おやつの材料について、担任と調理員間で口頭でのやり取りで済ませ、献立に対する最終確認が十分でなかった。プリンを０歳、１歳児が同じカゴに入っていたことも反省である。	0歳児については、一人ひとり食事が違うので、アレルギーでない子どもについてもラップに名前を書いたものを皿に掛けることを引き続き行う。おやつについても給食と同様のチェックを行い、提供するようにする。おやつも調理員から手渡しで受け取れるように調理員の勤務時間も含めて検討する。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
594	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	23									3	2	16. 4歳	1.男児	特になし。	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左第５中足骨若木骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	近くにいた保育者が他児に気を取られていた。	事故予防マニュアルを確認し、職員への周知を行う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	木組み角度によって本児の姿が見えにくい状況が生まれてしまった可能性。	木組みの周辺は整理し、障害物や破損がないか毎日点検する。	1.集団活動中・見守りあり	近くにいた保育士が他児に視線を向けていた可能性も考えられる。	子どもたちと現場で危険な遊び方について話し合い、ルールを確認する。	1.いつもどおりの様子であった	朝から健康視診をしながら本児の様子を見ていたが、いつも通り元気に遊ぶ姿が見られた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	普段から子どもたちが木組みの段を上り下りして遊んでいて、飛び降りることのないよう注意しながら近い場所で見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	本児が落ちた瞬間、担当職員から呼ばれて救急用品を持って現場に駆け付けた。	本児に遊びのルール(飛び降りは危険)を意識づけできていなかった。	個別での指導・声がけを継続していく。	
595	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	7.午後	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	28									3	3	15. 3歳	2.女児	障害名：タウシッヒ・ビング症候群による心臓機能障害（１級）	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘骨折（右橈骨骨折）	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	近くにいた保育者が他児に気を取られていた。	事故予防マニュアルを確認し、職員への周知を行う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	椅子を片付けた場所が近くにあったため本児が興味を示し遊び始めた。	椅子には寄りかかれないように設置する。	1.集団活動中・見守りあり	傍にいた保育士の位置から下側にあった右手が見えていなかった。	椅子本来の使い方をしないと危険であることを指導する。	1.いつもどおりの様子であった	朝から健康視診しながら本児の様子を見ていたが、いつも通り元気に遊ぶ姿が見られた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	椅子にうつぶせになって遊んでいる本児に帰りの準備をするよう促していたが、右側にコロンと転がってしまい落下。半回転して仰向けに倒れる。至近であったが受け止めきれなかった。すぐに本児のけがの有無や痛い場所はどこか確認した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	本児に背を向けていたため、転落後に仰向けの状態の本児を見つけた。担当職員と共に本児に駆け寄り、けがの有無や場所の確認をした。	傍にいた保育士の位置から下側にあった右手が見えていなかった。	咄嗟の事態にもすぐ対応できるよう本児の近くに寄り添う。	
596	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	15									1	1	17. 5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	右上A歯の打撲、外傷による下唇裂傷、右上A歯の打撲<Per、外傷による下唇裂傷	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	遊具の安全に関する基準への確認不足、各遊具の正しい使用方法の指導不足	グループ活動時の職員配置・各遊具の正しい使用方法を園内研修で再確認し、事故予防に取り組む。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	事故当日、ホールに数種の室内遊具を設置し遊んでいた。各遊具にマットを敷くなどの安全対策を行っていたが当該事故が発生したネットジャングルの降り口は高さが280mmであり、マットを設置していなかった。	遊具の安全領域と落下高さを再確認し、設置面への落下に対する衝撃の緩和措置(マットを敷く)を徹底する。	3.個人活動中・見守りあり	足をかけ、降り口まで三点確保を基本として慎重に取り組んでいたが、あと2歩くらいのところで跳びおりようとしてしまい、ネットに足がひっかかり顔面から落下した。	園児へ三点確保や昇降時のルール等遊具の遊び方を再指導し、職員、園児ともに安全領域等、周囲の状況にも気を配るように再徹底する。	1.いつもどおりの様子であった	ネットジャングルで降りる際に、前向きになり三点確保し辛い状況になろうとしたので、声をかけて三点確保を指導した。その後は最後まで三点確保で降り、数度は安全に遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	跳んで降りようとした時に、危ないことを声掛けで知らせた。数度は安全に繰り返して遊んでいるので見守っていたが、事故発生時はおもむろに跳んでしまい間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	事故発生時、担当職員がホールで15人の園児を1名で保育していた。他の職員は保育室で保育していたため、事故発生時は状況を確認できなかった。	職員の人数、園児の人数に合わせた遊具の配置ができていなかった。	職員の人数、園児の人数に合わせた遊具の配置を検討する。	
597	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	17									2	2	17. 5歳	1.男児	●月●日受診し、治癒の診断。	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置		マニュアル、研修、職員配置等からは、事故に直接つながる問題点は見つからなかった。	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施			ハード面に不具合や点検上の問題はなかった。	1.集団活動中・見守りあり	縦置きの跳び箱に挑戦するのが初めてだった。	縦置きの跳び箱を実施する際には十分な注意を払い、咄嗟のアクシデントに対応できるようにサポートする。	1.いつもどおりの様子であった	横置きの跳び箱と違い距離があるため、跳び越える時にバランスを崩してしまい、前方に手から落下した。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	一人で二つの跳び箱をみており、咄嗟の事態に対応できる場所と距離にいなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	更に離れた場所で全体を見ていた。		担当職員が一人の場合は、跳び箱を一つにするなど、とっさの事態にも対応できる範囲で活動を実施する。	
598	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	79				18	27	34			9	7	17. 5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨骨折（右腕）	3.子ども同士の衝突によるもの	2.なし	1.定期的に実施	実施頻度（１　）回/	1.基準以上配置	預かり保育の利用が少ない園児（１号認定児）の怪我	日頃、預かり保育を利用しない園児への見守り・声掛けの強化	1.定期的に実施	実施頻度（２）回/	1.定期的に実施	実施頻度（２）回/	1.定期的に実施	実施頻度（２）回/		園庭で（砂の状況・芝生の状況等）滑りやすい箇所はないか点検の強化	1.集団活動中・見守りあり		日頃、預かり保育を利用しない園児への見守り・声掛けの強化	1.いつもどおりの様子であった	預かり保育を利用し、いつもより長時間、遊べることを喜んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	直前まですぐに声をかけられるよう見守っていたが、転倒した時には他児と話しており、他児とぶつかり転倒した瞬間は見ていなかった。職員の背後での怪我であった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	全体が見渡せる位置にいたが、転倒した瞬間は見ていなかった。本児の泣き声と担当職員の声に気づき、その後の対応を一緒に行った。		全体が見渡せる職員配置等の再確認	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
599	令和6年3月27日	2.認可外	16.企業主導型保育事業	5	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	5	1	2	2						7	5	13.1歳	1.男児	●/●　胃腸炎と診断	8.その他	1.負傷		1.意識不明		胃腸炎関連痙攣	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2回/年)	1.基準以上配置	ノロウイルス（胃腸炎）による痙攣（発症より３日目くらいに起こりうる可能性がある）	感染症による事故のため、防ぐことは難しい	1.定期的に実施	実施頻度(12回/年)	1.定期的に実施	実施頻度(12回/年)	1.定期的に実施	実施頻度(12回/年)	環境面では対象児の発達面で今回の事故に関して要因なし。胃腸炎関連痙攣は、胃腸炎発症より３日目くらいに痙攣の発症しやすく、３歳くらいまでは起こりうる。	感染症による事故のため、防ぐことは難しい。	3.個人活動中・見守りあり	胃腸炎症状が完全に完治ではなかったため、関連痙攣を発症した。	胃腸炎関連痙攣を防ぐことはできないが、胃腸炎による登園再開の目安での登園以降、数日は注意して様子をみる。	4.具合が悪かった(熱発・腹痛・風邪気味等理由を記載)	２日前胃腸炎と診断後症状かいふくし登園。病み上がりであったが、通常通り午前睡眠をとるために、保育士に抱っこで寝かしつけされていた。	1.対象児とマンツーマンの状態(対象児に接していた)	寝かしつけで対象児が泣いてしまったため、関係が深い保育士と交代し、対処児を寝かしつけをおこなっていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児と別室で活動見守りのため、保育をしていた。		感染症による事故のため、防ぐことは難しい。	
600	令和6年3月27日	2.認可外	16.企業主導型保育事業	5	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	12		1	11						5	4	13.1歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足骨折(腓骨)	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1回/年)	2.基準配置	子どもたちの遊びの中で手を繋いだりするが、複数名で手をつなぐと真ん中の児が転倒したりするときに手をつくことができない。	子どもだけで手をつなぐ時は職員が側についたり間に入るなど安全に遊べるように配慮する。	1.定期的に実施	実施頻度(12回/年)	1.定期的に実施	実施頻度(12回/年)	1.定期的に実施	実施頻度(280回/年)	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	１名、登園後にまだ眠たい児がいてベットに寝ていた。本児たちの歩くスペースの邪魔になっていた可能性がある。	自由遊び中に横になる児がいる場合は邪魔にならないゲート内などにベットを置くようにする。	1.いつもどおりの様子であった	自由遊び中、他児３人と手を繋いで室内を歩いていた。10mくらい進んだところで１人が転倒し順に対象児も右足を重心に転倒した。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	担任保育士は登園した児の荷物の片付けをしながら保育を行っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の園児と座って自由遊びの側につき、ブロック遊びなどの保育をしていた。	特になし	特になし	
601	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	7	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	1									2	2	18.6歳	1.男児	雨上がり後で滑りやすくなっていた	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	3.未実施		2.基準配置	雨上がりの遊具の使い方や遊びのルール確認が不足していた。	遊具が滑りやすく事故につながる危険がある場合は、使用中止の判断を行うことや、雨上がりでの遊具の状態を子ども達と共有し遊び方のルールを確認後、活動にはいる。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	雨上がり時の遊具使用時の危険性の認識が不足していた。	使い方、遊び方に注意喚起が必要であり、今後は活動前の遊び方を確認する。	1.集団活動中・見守りあり	雨上がりでの遊具の使い方が子ども達に伝わっていなかった。	雨上がりの遊具の使い方や、遊びのルールを確認を行う。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	いつもより活発に動いていて、注意深く活動の様子を見守る必要があった。	4.対象児の動きを見ていなかった	遊具の近くで他の児童を見ていたが、対象児童の落下には気付かず、対象児からの痛みの訴えもなく発見が遅れた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	遊具以外の場所での活動児童の様子を見守っていた。	雨上がりで、遊具や芝生が濡れていた為、滑ってしまった。	雨上がりの遊具の使い方や、遊びのルールを確認を行う。	
602	令和6年6月10日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	3	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	10									3	2	14.2歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左小指基節骨骨端線損傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	4	2.基準配置	-	事故防止マニュアルのチェックシートの確認に加え、部屋、遊戯室、園庭等の危険個所がないか確認し、全職員で改善策を考え、改善する。	1.定期的に実施	4	1.定期的に実施	4	1.定期的に実施	4	転倒時、本児は手をついたが、小指に体重がかかってしまった。	段差のある場所を登る、降りる、の運動遊びは、１歳児の発達状況をみて、実際のステージの階段ではなくマットと積み木など転んでも危険の無いばしょでできるようにする。そのために、お遊戯室の遊び場所をついたてにより分ける。	3.個人活動中・見守りあり	-	園児が、登る、降りる、走る等の足腰を使った運動遊びを安全な場所で十分に行い、転んだ時に身体をかばう転び方ができるよう、経験を多くできるようにしていく。危険個所で不必要なものは排除する。	1.いつもどおりの様子であった		2.対象児の至近で対象児を見ていた	すぐそばにいて、転倒の様子を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	１人はステージの反対側で遊んでいる園児をみていた。もう一人はステージから離れた場所で遊ぶ園児をみていた。	-	保育士間で見る子どもを状況に応じて分担し、意思疎通を取る。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
603	令和6年6月10日	1. 認可	2. 幼稚園型認定こども園	2	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	1. 0歳児クラス	5									2	2	13. 1歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	外傷性歯の脱臼、上唇小帯裂傷	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	4	2. 基準配置	-	今後も実際に怪我をした時、ヒヤッとした事の原因を追究し、改善策を職員間で共有していく。 裾がひっかっかる、等衣服による原因が無いよう気を付ける。	1. 定期的に実施	4	1. 定期的に実施	4	1. 定期的に実施	4	遊戯室の床は木で、柔らかくはないので、転倒時手をつけないとケガをする。	保育の中で、身体を使った遊びを多く取り入れ、しっかりと手をついて転ぶことができるように経験をさせる。	3. 個人活動中・見守りあり	転倒時、本児は手をついたが間に合わなかった。	今後の保育の中で、運動遊びを多くし、手をしっかりとついて転べるように経験が出来るようにする。	1. いつもどおりの様子であった		2. 対象児の至近で対象児を見ていた	すぐそばにいて、転倒の様子を見ていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	本児と少し離れたマットで遊んでいる園児を見ていたため、転倒時の様子は視界には入らず、音のみ聞いた。	-	保育士間で見る子どもを状況に応じて分担し、意思疎通を取る。	
604	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	7	9. 夜間・早朝（泊り保育）	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	7. 異年齢構成	4		1	3						2	2	15. 3歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施		2. 基準配置	マニュアルの整備に努める。職員配置は適正である。	事故の要因等を分析し、再発することのないよう共通理解に努める。職員会議等で安全意識を高め指導に反映させていく。事故防止の研修を実施し再発防止に取り組む。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	施設設備等は適正である。		1. 集団活動中・見守りあり	夏季で日照時間が長いことや、散歩コースに街灯がついているため戸外活動に出かけたが、薄暗い中での活動になり、日中よりも足元が見えにくかった。	夏季の時間帯での戸外活動の仕方について職員間で話合い必要な情報を共有する。	3. いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	普段から多動ぎみであるが当日は戸外での活動のためさらに活動的であった。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	園児のそばにつき見守るが転倒を防げなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	公園内を他の園児と歩いていた。本児の動きは見ていなかった。	多動ぎみの園児のため、保育士が手を離さずに一緒に行動するべきだった。	保育士が戸外活動の際の危険性を再認識し見守りを怠らないように配慮する。	
605	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	8	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	12									2	2	17. 5歳	2. 女児	なし	6. 水遊び・プール活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右肘骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	12	1. 基準以上配置	特になし	特になし	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	1	直径２メートルのビニールプールの高さは２０ｃｍのため、年長児童はまたいで出入りできる高さであるが、急いで出入りしようとすると足がひっかかり、転倒する可能性がある。	なし	1. 集団活動中・見守りあり	児童が急いでプールから出たためプールの外枠に足がひっかかったこと。	児童が急いでプールから出ないように注意する。	1. いつもどおりの様子であった	前日睡眠不足もなく、朝食もとり、体温や健康状態は平常どおり	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	２ｍほど離れたところで対象児をみていた担任保育士が、走らないよう対象児によびかけていた。そのすぐあとに担任がタオルを持っていこうとした時に、対象児の足がプールの枠にひっかかり、躓いて倒れた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	対象児が転倒した小プールから３ｍほど離れたところの別の直径５ｍのビニールプールの傍で１０名の年長組児童を見ていたので、対象児を見ていなかった。	特になし	プール遊びの際はプールのすぐ近くに保育士が立ち、対応する。	
606	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	7	8. 夕方（16時頃〜夕食提供前頃）	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	42	3	6	7	8	8	10			7	7	17. 5歳	1. 男児	初診の病院で経過観察（2週間）と言われ様子をみていたが、指がねじれた状態で骨がついていたので、大きな病院で手術することとなった。	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右手薬指付け根骨折	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	1	1. 基準以上配置	無し	事故、ケガ時の対応についてより詳しく確認する。	1. 定期的に実施	毎日	1. 定期的に実施	毎日	1. 定期的に実施	毎日	無し	無し	1. 集団活動中・見守りあり	無し	引っ越し鬼で、マットを陣地に使用していたので段差ができていた。陣地をマスキングテープなどで作り段差をなくす。	1. いつもどおりの様子であった	最近運動面で認められる機会が増え，積極的に集団遊びに参加する事が多くなってきて，当日も張り切ってゲームに参加していた。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	集団遊びでの他児のトラブルの仲裁、解決にあたっておりトラブル解決へ意識が向いていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭で遊んでいた（外遊び）を見守る。外遊びから、室内へ徐々に子どもたちが戻り始める時間帯だったので、何人室内へ戻ったかなど声を掛け合い、外の片づけを行っていたため。	特に無し	保育士の立ち位置の見直しや連携、待っている間子どもたちに友達が嫌がる事をしない等の確認をする。トラブルが発生した時に待機している子どもたちを見てもらうように職員に声がけをする。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
607	令和6年6月10日	1.認可	3.保育所型認定こども園	7	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	16									3	3	15. 3歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外顆骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	無し	活動内容に合わせた職員配置と事前の打ち合わせを徹底する。	1.定期的に実施	300	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	300	無し	無し	1.集団活動中・見守りあり	遊戯室の活動が自由に走りまわる環境になっていて、活動するための遊びの設定がされていなかった。	活動前に必ず遊びの静と動の活動を含んだ環境設定を行う。	1.いつもどおりの様子であった	遊戯室の活動が自由に走る環境になっていた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	他の職員が他児の対応をしていたため、職員一人で遊戯室全体に目が行き届かなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児が遊戯室に置いてあるベッドや遊具に登ろうとしていたところを止める対応をしていたため、対象児に目が行き届いていなかった。	活動内容に合わせた職員配置が出来ていなかった。	職員間で連携を取り、配置につく。配置を離れる際は声を掛け合う。他クラスの活動内容を確認し、職員に入ってもらう。	
608	令和6年6月10日	2.認可外	16.企業主導型保育事業	7	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	34				8	14	12			3	3	16. 4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手首の骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	6	2.基準配置	あまり行かない公園だから、危険を予測していなかった	どんな場所でも、危険を予測し、遊具の特性等への注意喚起を行う。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	遊び始める前に点検を行っているが、遊具に危険個所はなかった。	特になし	1.集団活動中・見守りあり	普段あまり行かない公園だった	遊ぶ前に危険な行動や遊ぶ前の約束をしっかりする	1.いつもどおりの様子であった	公園につき、保育士からの約束事を聞き、遊び始める。保育士に一緒に滑ろうと声をかけ、一緒に滑る。その後、友達と一緒に遊具のさくをつたえながら滑り始め、さくのなくなったところでたち滑りをしバランスを崩し落下する。対象児は、環境により興奮してしまう。	4.対象児の動きを見ていなかった	滑り台のさくがなくなる所とシーソーの間に立つ。シーソーから落ちた子がいてそちらに移動したため、対象児がたち滑りをして落下したことに気付かなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	１．テーブルの所でお茶の準備をしながら、周囲を見守っていた。２．園児が多くいたヘリコプター遊具に保育士一人がつき、順番に使用するよう声かけをしていた。	保育士配置が各遊具にされていなかった。	・保育士の配置に合わせて、遊具の数も合わせる。・遊具に上った子がいたら、必ず保育士が側につくこと。	
609	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	3	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	56			13	13	12	18			6	6	16. 4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷性歯脱臼（右上AB・左上A）	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置		職員の加配だけでなく、子どもの意識変化時期（卒園進級）の対応により一層注意する。	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	4～5	遊戯室と保育室の出入りや、柱の周囲は見通しがつきにくい。	園の中で衝突につながりやすい箇所は普段から子ども自身で気を付けられるよう声掛けをしておく。	1.集団活動中・見守りあり	片付けている子、遊戯室へ出る子など、子どもの動きが全体的に広がっていた。	出入りの場所や、最後まで保育室に１人配置する。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り元気に登園。遊びの片付けをしていない子を注意しようと、追いかけてぶつかったとのこと。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	集会の為並んでいる子とまだ並ばず動き回る子がいて、そちらに意識がいっていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	整列を促しながら、ぶつかったことを園児から告げられるまで気が付かなかった。	朝の申し送り時間帯とも重なるが、申し送りが始まるまで子どもから目を離さない。	保育室から遊戯場へ安全に落ち着いて移動する流れや仕組みを組み立て直す。	
610	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	17									2	2	17. 5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足首剥離骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	2	1.基準以上配置	特になし	事故防止の為、子どもの筋力作り向上の為、保育をいま一度考え直す会議を行い職員で話し合う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	特になし	3.個人活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	鬼ごっこをして遊んでいたが鬼役で友だちを追いかけるときにふざけてしまい、足をひねってしまった。	4.対象児の動きを見ていなかった	保育士１人は少し離れたところで子ども達を見ていた。もう一人は対象児から見えない築山の裏側にいて動きを見ていなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他のクラスは園庭に居なかったので見ていない。	「足をひねった」と言う子どもの訴えに捻挫ではないかと思い込みや先入観をもってしまった。	子どもの訴えに対して丁寧に聞き取りを行っていく。	
611	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	77				25	25	27			7	4	17. 5歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕の肘骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置		・鉄棒の扱い方を再度確認し、危険な扱いをしていないか目を配る。	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	1回/2年	1.定期的に実施	365		特になし	1.集団活動中・見守りあり		・鉄棒の扱い方を再度確認し、危険な扱いをしていないか目を配る。	1.いつもどおりの様子であった	お友達が鉄棒を上手にくるくる回っていて自分もしてみたくなる	2.対象児の至近で対象児を見ていた	側についていたが、とっさに手を離したため落下直後すぐに対応・処置をする	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	体制の中から職員が対応に当たる為にぬけることを周知し他の職員で他の園児を怪我無く見守る方に回る。		・鉄棒の扱い方を再度確認し、危険な扱いをしていないか目を配る。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
612	令和6年6月10日	1. 認可	3. 保育所型認定こども園	4	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	29	0	4	8	7	6	4	0		9	9	17. 5歳	1. 男児	事故当日、上記病院にて受診し「打撲」との診断を受ける。1ヵ月の経過観察後、●月●日に再受診した際に、レントゲンに「歯に線のようなものが見える」とのことから骨折の疑いがある為、●月●日に再度受診し、その間経過観察する。	2. 室内活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	「打撲」	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	4	1. 基準以上配置	積み木（20cm×20cm×20cm）の使い方については園児の発想を尊重していた。	マニュアルに則り、安全な遊び方を指導する。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	1	2. 不定期に実施	12	なし	ハード面において、危険な箇所はなかった。	1. 集団活動中・見守りあり	ホールでは、端の方で積み木遊びの他、中央では鬼ごっこをして遊んでいた。	各遊びに職員が配置するようにする。	1. いつもどおりの様子であった	バランスを崩して転倒した。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	バランスを崩した当該児に気づき、直ぐに駆け寄ったが間に合わなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	離れた場所で他児と関わっていた為、当該児の活動は見ていない。	なし	各々がしっかりと園児の側で活動を見守っていたので、改善点はなし。	
613	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	5	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	43	1	6	4	9	9	14	0		5	5	15. 3歳	1. 男児	2週間ほど前に室内の床面に抗菌剤を塗布した。	2. 室内活動中	1. 負傷		4. 創傷(切創・裂創等)	2. 顔面(口腔内含む)	小児創傷（2針縫合）	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	1	2. 基準配置	登園後の身支度の為、自室に職員に付き添われ入室し、ロッカーに靴下を片付けようとしたところ気持ちが急ぎ、小走りになり足がもつれたため前方に倒れ、ロッカーの角に額の左側をぶつけた。	室内では走らないように徹底する。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	普段から日常的に行っている準備の為、職員1名が少し離れた場所（1～2mくらい）で全体的な見守りを行っていた。	今後は身支度の準備をしている園児に対してはさらに注意をし、保育士がそばにつき、見守るようにする。	1. 集団活動中・見守りあり	合同保育での参加の為、気に入った玩具を早く使用するために本児の気持ちが焦っていた。	子どもたちに、どのような場面や状況でも急いだり、焦ることなく行動するように普段から声掛けや指導を行う。	3. いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	登園直後だったこともあり、タイミング的に遊戯室内に玩具を出し始めた時間だったので、本児の遊び始めを少しでも早くしたいとの思いで気持ちが焦り、室内でも走って行動してしまった。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	園児とは１メートルほど離れた場所で、園児の行動を見守っていたところ、前方に転倒したため急いで抱き起こし、額の傷を確認した。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当職員は近くにいた他の職員に助けを求め、事務室に園児を抱きかかえ運び込み、清潔なガーゼで改めて止血し、身体全体に異変がないかを確認した。	園内、室内では走って行動しないように徹底していなかったため。	今後はさらに園児の安全管理（行動のルールの順守）を徹底し、適切な声掛けを行う。	
614	令和6年6月10日	1. 認可	3. 保育所型認定こども園	5	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	8		4	4						3	3	13. 1歳	2. 女児	特になし	2. 室内活動中	1. 負傷		4. 創傷(切創・裂創等)	2. 顔面(口腔内含む)	下唇裂傷、上顎歯肉裂傷	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	1	1. 基準以上配置	特になし	事故後、事故についての原因、保育に改善すべき点があるか話し合いを持つ。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	その都度	特になし	特になし	1. 集団活動中・見守りあり	フープ遊びではフープを掴んで転がしたり（保育者と）保育者が回したフープを掴む等の遊びの経験はあったが、２歳児のように汽車に見立ててフープの中に入る遊びは初めてだった。合同保育を予想した配慮が必要だった（2歳児の真似をして遊ぶ可能性があること）。	保育者が見本となってフープの遊び方を伝えていく。ひとりひとりの発達状況を配慮した関わりを行う。	4. 具合が悪かった(熱発・腹痛・風邪気味等理由を記載)	事故当日から咳き込んでいた。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	異常があった場合、とっさに動ける状態でいたが、一瞬のことであり防ぐことはできなかった。転倒後、直ぐにかけより抱き上げて状況判断をし、医務室へと搬送。患部を確認して冷やし止血する。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の子ども達を保育する。	特になし	事故後、事故についての原因、保育に改善すべき点があるか話し合いを持つ。	
615	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	3	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	24									2	2	18. 6歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	前歯のぐらつき	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施		2. 基準配置	走っていた中で起きた事故、全体保育中であれば以上児と未満児がぶつかる事も考えられる未満児、以上児の体格差も大きいので未満児が怪我をする事が考えられる。	子どもが広い空間を走りたくなる気持ちがあるので、周囲を見る。前を見る等を意識する事や空間の状況に応じて走らない事を職員が伝えて行く。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	12	走っていた中で起きた事故、全体保育中であれば以上児と未満児がぶつかる事も考えられる未満児、以上児の体格差も大きいので未満児が怪我をする事が考えられる。	遊戯室は走って遊んでいい所だと、子ども達へ周知しているが遊び方によってぶつかる事も考えられるので周知する方法を年齢毎に工夫していく。	1. 集団活動中・見守りあり	手作り眼鏡をかけ、視界が悪い状況で前を見ずに走っていた為。	視界が悪い状況で走らず、歩いていたら大きな衝突を防げた。	1. いつもどおりの様子であった	通常通り登所し、健康状態も通常通りだったが、お買い物ごっこの取り組みに期待を示していた。	1. 対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	担当職員は、周囲を気にかけながら次の行動の確認をして、他児と会話や遊んでいた。ぶつかった瞬間は確認していないが即対応していた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他職員はクラスの保育に入っていた。事務所では振興局による指導監査中だったが、主任が報告を受け、対応した。		30人に対して2人の保育士が同じ空間に居て起こっています。子どもの行動を制限するのではなく子ども達も意識して活動できるように配慮していく。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
616	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	3	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	17									2	2	18.6歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	4.上肢(腕・手・手指)	左母指切創　左母指欠損	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	2	1.基準以上配置	職員2人体制だったが、他の子にも目線が行き、一瞬死角を作ってしまった。	職員間でお互い連携をとり、死角を作らないようにしていく。	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	2	2.不定期に実施			特になし	1.集団活動中・見守りあり	本児は普段からハサミやのりを使って上手に製作活動をしていたので、保育士も対面に座っていたがどこか油断するところがあった。	普段からやっているからと油断せず、危険な行動を常に想定し、注意を促す声掛けをする。	1.いつもどおりの様子であった	紙や空き箱などを使って自由に製作中に、硬い部分を切ろうとしたところ、誤って指先を切ってしまった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	担当保育士が対面に座り、本児がハサミを使って製作活動をしていたことを見ていたが、ケガの瞬間は見ていなかった。本児が「切っちゃった」と言ったことでケガを認知する	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	同じ部屋にいたが、他の子を見ていた。	対面には配置していたが、他の子の様子も見ていて、ケガの瞬間は目を離していた。	危険な道具（ハサミなど）を使うときは、必ず側につき目を離さないようにする。正しいハサミの使い方を指導する。硬くて切れない時は手伝ってあげるようにする。	
617	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	23									2	2	18.6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施		1.基準以上配置		事故防止のための学習の強化	2.不定期に実施		2.不定期に実施		2.不定期に実施			遊具チェックシートを作成して定期的に行う	1.集団活動中・見守りあり		該当なし	1.いつもどおりの様子であった		2.対象児の至近で対象児を見ていた	跳び箱の着地点で着地介助していた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	もう1つの跳び箱の着地点で着地介助していた		園児を支えられるように、もっと近くで見守るべきだった。飛び方を教えていたが、飛べない子には無理せず取り組むよう伝えていく。	
618	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	7	9.夜間・早朝（泊り保育）	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	25					9	16			4	4	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折、右足中指骨折　全治3ケ月	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	3	1.基準以上配置	ホールは、走らないように指導しているが、目が離れている時に転んで事故となった	きまりについて守れるように徹底する	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	園児の特徴を踏まえて、日常的に対処する必要がある	行事を行う場合は、上記のことをしっかり確認して行う	1.集団活動中・見守りあり	各園児の特徴を踏まえて、見守り体制をしっかりとる必要がある	行事を行う場合は、上記のことをしっかり確認して行う	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	行事の喜びで興奮ぎみであった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	もっとそばで見ていればよかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	気になる子はしっかり見ていることが必要である	各園児の特徴を踏まえて、見守り体制をしっかりとる必要がある	行事実施について、担当の打合せを入念にする	
619	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	8	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	58			11	11	18	18			8	8	14.2歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外顆骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置		園児の行動に留意し、前をよく見ないで走っているなどの、他児と衝突する危険のある場面を見逃さないようにする。	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日		安全点検の実施の継続	1.集団活動中・見守りあり	2歳児クラス～5歳児クラスの複数クラスの合同保育（自由あそび）中であった。各年齢での動き・体格の違いが、今回の事故の要因にもなった。	複数クラスでの合同保育中の、園児の遊びの設定・遊ぶスペースの区分けなどに留意することで、危険防止の配慮を行なう。	1.いつもどおりの様子であった	●●線（道路）側から園舎側に向かって走っていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園庭全体の状況を見ながら保育していた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	園庭全体の状況を見ながら保育していた。		園児の行動に留意し、前をよく見ないで走っているなどの、他児と衝突する危険のある場面を見逃さないようにする。	
620	令和6年6月10日	2.認可外	18.その他の認可外保育施設	2	7.午後	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	2									2	2	16.4歳	1.男児		8.その他	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	異端骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	3	2.基準配置		危機管理ファイルの内容確認を学期以外にも行う（年度当初、冬期など）	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	8	1.定期的に実施	1		建物内の死角になりやすい場所など職員で再確認する。	7.その他	排泄後、走って戻ったため、出会い頭に衝突してしまった。	排泄への移動について改めて歩くことを指導していく。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り歩いてトイレまで移動。排泄、手洗い後に友達（同じ４歳児クラスにいる支援児）に追いかけられると思い走って移動して、トレイ前の廊下の曲がり角でトイレに向かう別の４歳児と衝突して転倒。	4.対象児の動きを見ていなかった	2名いる4歳児担当の保育士のうち、1名は自身の担当している４歳児クラスの他児の対応を保育室内で行っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	2名いる4歳児担当の保育士のうち、もう一方の保育士は支援児を担当しており、支援児がトイレに行った対象児の後を追って廊下に出たため、支援児を追いかけるように一緒に廊下に出た際に、対象児の転倒の瞬間を見ている。他クラスの担当保育士は自身の担当するクラスで園児を見ていたため、対象児の動きを見ていなかった。		排泄時の移動だけではなく、廊下の移動の方法について繰り返し指導していく。事前の声かけ、確認を徹底していく。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
621	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	6		2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	53	4	9	13	0	13	14	0		1	1	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨遠位端骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置		改善策を確実に実施する体制を整備する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	9	1.定期的に実施	52		特になし	1.集団活動中・見守りあり	外の子に目が向いているときに、事故が発生した。	見守りの人数を増やすことが必要。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	運動会のテンションのまま滑り台に友達と競り合うように遊びに行ってしまった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	離れたところでほかの子ども達に話かけれその子から目を離した時だった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭での見守りを1人で行っていた。		職員間の増員を検討する。	
622	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	12	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	15	5	10							5	5	13.1歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左ひじ骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	2	1.基準以上配置		広い場所で遊ぶ際は、保育士の見守る場所を確認し合ったり、主任に加わってもらうなど、人員配置を厚くする	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	随時		遊び方によっては事故に繋がる遊具については、事前に危険を予測して使用の有無を決めたり、職員間でイメージを共有していく。、	1.集団活動中・見守りあり	積み木の道を作っていたが、立方体の積み木を持ち運んでその上にのってしまったのを事前に止められなかった。	立方体の積み木は転がりやすいため、0.1歳児クラスでは使用しない。	1.いつもどおりの様子であった	転倒した際は泣いていたが、どこかを痛がる様子はなく、通常通りであった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	転倒した本児を抱き上げ、頭部を打っていなかったことで安堵していた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	その様子を他の保育士も確認していた。		怪我の確認は、頭部だけではなく、全身を確認し、負傷箇所がないか確認すると共に、都度園長主任に報告する。	
623	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	12	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	3									3	3	17.5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	肘頭骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施		2.基準配置	職員配置等、遊戯室に十分保育士がいたのでソフト面に関しては事故の要因は無かった。	ヒヤリハットについて話し合ったことを踏まえて保育していく。	1.定期的に実施	60	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	6		特になし	1.集団活動中・見守りあり	鬼ごっこをする子や走り回ったりする子など様々な遊びをしていたことから事故が発生したと思われる。	同じ場所で遊びが混ざってしまわないように一つの遊びをみんなで行うよう促す等の工夫が必要だと考えた。	1.いつもどおりの様子であった	いつもと変わらず元気よく遊戯室で遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	友達と走り回って遊んでいた為、全体が見える少し離れた所から見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の遊びの対応をしていた為対象児の動きは見ていなかった。		かけっこをしていた為、全体が見える少し離れた場所から見ていた。集団遊びでの事故だったので人的面において防ぐのは難しかった。	
624	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	18									2	2	16.4歳	1.男児	事故当日に通院したが、まだ完治していない。	1.屋外活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	口唇裂創前歯の亜脱臼	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	48	1.基準以上配置		前をよく見て遊びを行うようにする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	12		園庭全体を保育教諭が見守り、配置に気を付けていく。	1.集団活動中・見守りあり		事前にルール等を伝え、安全に遊べるよう徹底していく。	1.いつもどおりの様子であった	鬼ごっこを行い、お友だちと一緒に走っていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	全体を見守りながら保育をしていた。衝突後すぐに声をかけ、患部の状態を見て保護者へ連絡をした。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	視線には入っていたが意識的には見ていなかった。		衝突を未然に防ぐことが出来なかったため、子どもの動きを予測して対応していく。	
625	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	1	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	2.1歳児クラス	1									0	0	13.1歳	1.男児	特になし	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	右額切創	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置		職員全員でこの事故を周知し危険となり得るものを見直した。このような見直しを定期の会議の中で行っていく。	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	6	1.定期的に実施	6		滑り止め、汚れ防止等のための玄関マットだが、少しの段差はあるので取り外した。今のところ取り外したことによる悪影響の報告はない。	1.集団活動中・見守りあり	1名	玄関前のマットを取り外し、周知した。	1.いつもどおりの様子であった		4.対象児の動きを見ていなかった	登所途中のことなので、職員は保育室で保育していた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	登所と途中であり、時差勤務で出勤いている職員は保育にあたっていた		近くにいた職員数人で連携できたことは今後も活用できる 玄関前マット等様々な可能性を起こりうることをもっと想定して対応すること	
626	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	1	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	12				3	5	4			2	2	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	若木骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	3	2.基準配置	なし	職場内・個人でもマニュアルの再確認	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	3	1.定期的に実施	12	なし	今後も定期的な点検の継続	1.集団活動中・見守りあり	なし	コーナーでの見守りと声かけ	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	遊戯室でのしっぽ取りゲームで皆のしっぽを取ろうと活発に走り回っていた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	走る子の邪魔にならないように、しっぽを取られた子を壁際に座るよう指示し、全体を見ていた。 本児の瞬間的な転倒には対応出来なかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	遊びに集中出来ない子の支援をしながら全体の見守りをしていたが、転倒には対応出来なかった。	なし	遊びの前の注意喚起と動きを抑える声かけ	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
627	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	3	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	54				17	21	16			7	4	18. 6歳	1.男児	●/●　発熱あり37.5℃　休んでいる。	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2	2.基準配置	何もないところで転ぶ。	発熱後の登園だったため、もう少し注意をはらう。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		遊戯室の床は、竹材の下にクッション材が引いてあり安全性は比較的高いと思われます。	1.集団活動中・見守りあり	・走っているところを見ていない為、走ろうとして転んだと思われる。	・園児の行動に十分に注意をはらう。	1.いつもどおりの様子であった	●/●　37.5℃で休んでいます。●/●　熱もなくいつも通り元気でした。	4.対象児の動きを見ていなかった	・自由遊びの終わりの時間で、片付けをしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	・自由遊びの終わりの時間で、片付けをしていた。	・職員7名と3～5歳児が50名くらいで片付けをしていた。・職員も周りにいた子ども達も転んだ所は確認できていない。	・園児の行動に十分に注意をはらう。	
628	令和6年6月10日	1.認可	3.保育所型認定こども園	2	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	40				10	12	18			6	6	18. 6歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	4	1.定期的に実施	4	1.定期的に実施	4	ホール遊びの際、コーナー分けの為、テーブルを仕切りに活用していた	仕切りにしていたテーブルに関して、事前にどうして出しているのか。の説明や乗り上げたり、乗り越える事で怪我に繋がってしまう等、再度子ども達と一緒に確認をする	1.集団活動中・見守りあり	普段から片付けをせずに動き回る事が多い子であったが、保育士も園児と一緒に片付けする方に気が向き、再度声掛けをしたり、片付けを行っているかの確認をしていなかった	全体を見渡しながら片付けの声がけをし、一緒に片付ける等の配慮をしていく。	1.いつもどおりの様子であった	普段から片付けをしたがらず、動き回っていて片付けを始めない姿が多々見られていた	4.対象児の動きを見ていなかった	片付けの声を掛けながら園児と一緒に片付けを行っていた為、事故発生時の対象児の動きを見ていなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	支援の必要な園児の側についていたり、片付けの声を掛けながら園児と一緒に片付けを行っていた為、事故発生時の対象児の動きを見ていない	複数の職員が居た事で、お互いに他の職員が居るからと安心していた	職員間でも声を掛け合い、全員が子どもの中に入り込んでしまわないように気を付ける保育士が一緒に片付けをする際も、全体を見渡すようにする	
629	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	26									1	1	17. 5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨遠位脱臼骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	死角になりやすい位置での事故だったため、保育士の立ち位置を考え全体に目が行き届くように環境設定を再度考えていく。	室内では玩具の入れ物を持ち歩かない寝そべって遊ばない等、遊ぶ際の約束や環境設定を話合った。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12	遊びの中で寝転がって遊んでいる園児は目に入っていたものの、振り返って戻ろうとした際に躓いてしまった。	遊びの中では寝そべったり、物を持って歩き回ったりすると危険だという事をクラスの中で伝えていくようにする。	1.集団活動中・見守りあり	保育士が時差出勤の為　この時間は1名の保育士しか部屋にはいなかった。	部屋の中では死角になる場所を作らないようにしていく。	1.いつもどおりの様子であった	対象児童がいつも通り遊びを楽しんでいたが、足元に寝転がっていた他児に気付かず躓いて転倒してしまった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児童は玩具の容器を持って歩いているところを保護者対応をしながら見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	別の場所で他の児童の様子を見ていた		危険を予測し、近くにいる職員同士で連携を取りながら事故防止に努めていく	
630	令和6年6月10日	1.認可	3.保育所型認定こども園	3	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	16					10	6			3	3	16. 4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足親指付け根骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2	1.基準以上配置		特になし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		特になし	1.集団活動中・見守りあり	靴を履いている子と履いていない子が混在していた。	遊びの種類、人数や状況によってどちらかに統一するようにする。	1.いつもどおりの様子であった		3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	足を踏まれた瞬間は見ていない。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	足を踏まれた瞬間は見ていない。		園児が靴を着用しているかの確認を行う。	
631	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	6.5歳以上児クラス	23									3	3	17. 5歳	2.女児	怪我をした当日は夜間当番医院を受診のため、紹介状をもらい翌日にA病院を受診	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	2.不定期に実施	1	2.基準配置		特になし	2.不定期に実施		1.定期的に実施	12	2.不定期に実施			特になし	1.集団活動中・見守りあり	年長児の胸の高さまである大型のロールマットであった	ロールマットで遊ぶときは必ず保育士が側につき遊ばせる。それ以外で子ども達のみで遊ぶことができないようにする。	1.いつもどおりの様子であった	普段通り遊戯室で元気に遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	遊戯室にて子どもの見守りはしていたが、マットから落下した瞬間は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	別の場所にて他児の様子をみたいた	合同保育であり、遊戯室で遊ぶ園児の人数も多かった。	職員の配置の見直しや、危険予測の把握をおこない、活動前に子ども達とも安全な遊び方について確認をしていくこととする。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名
632	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	35				10	15	10			3	3	17.5歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左小指基節骨骨端線損傷
633	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	5	7.午後	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	11									4	3	13.1歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	裂傷
634	令和6年6月10日	1.認可	3.保育所型認定こども園	5	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	28				12		16			4	4	17.5歳	2.女児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手小指第2関節骨折
635	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	28				8	6	14			4	4	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外側顆骨折
636	令和6年6月10日	1.認可	3.保育所型認定こども園	4	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	4.3歳児クラス	11									3	2	15.3歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	2.顔面(口腔内含む)	歯の亜脱臼

No	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
632	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	3	1.基準以上配置		特になし	2.不定期に実施	20	2.不定期に実施	20	2.不定期に実施			床が滑りやすくなっていないか、水筒の中身はこぼれていないか、汗がたれていないか?湿気はどうか考慮しながら環境を整えていく必要がある	1.集団活動中・見守りあり		現状のまま、園児の人数や支援児の人数を考えながら職員を配置し、必要であれば遊びに入り指導する。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り元気で、遊びなれている場所とボールで遊んでいた。ルールも守っていたが走ってボールを追いかけていて複雑な動きではあった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	全体を見ながらもけがが起こった際には対象児の近くで、対象児のいるグループの遊びを見守り時には声をかけていた。近くにはいたが助けられような位置にはいなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	近くに担当職員がいたため、違うグループの園児と遊んでいたため対象園児は見れていなかった。		現状のまま、園児の人数や支援児の人数を考えながら職員を配置し、必ず園児のみにならないように見守っていく。	
633	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1～2	2.基準配置		特になし	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	3～4	設置棚のためクッションガードを付けていなかった。	クッションガードを取り付けた	3.個人活動中・見守りあり		特になし	1.いつもどおりの様子であった		2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児を見守りながら廊下に出たが、児童がよろけた瞬間、手を伸ばしたが間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育室にて他の児童との関り・見守りを行っていた		事故及び事故防止の園内研修を実施し、再発防止に努めることとする。	
634	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	・危機管理マニュアルの再確認の不足があった	・マニュアルの見直しを行っていく	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	いつものように丘を登ったり下りたりしながら遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	他児もいたので全体に目を向けながら対象児も見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の遊んでいる様子を見守りしていた。	保育士から子どもたちへ丘を駆け下りるスピードについての注意事項等の伝達が不足していた	保育士の立ち位置の見直しや遊びに入る前に繰り返しルールや遊び方を伝えるようにする。	
635	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置		遊戯室で遊ぶ時は遊ぶ前にルールの確認をする。また、服を脱ぐ場所を決めると共に、子どもたちにも周りを見て着脱することも知らせる。	1.定期的に実施	6	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	12	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	様々な遊びが展開されていたため、周囲に気を取られやすい環境の構成だった。	遊戯室での遊び方のルールを徹底し、服を脱ぐ場所を決める。	1.いつもどおりの様子であった	好きな遊びを友だちと一緒に楽しんでいたため、気持ちが高揚していた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	遊戯室にマルチパネを組み合わせて遊ぶ幼児とブロックやままごとなどで遊ぶ幼児の様子を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	遊戯室にマルチパネを組み合わせて遊ぶ幼児とブロックやままごとなどで遊ぶ幼児の様子を見守っていた。	幼児が遊びに夢中になり楽しくなると、気持ちが高揚し周囲を見ずに行動する危険性がある。	幼児が落ち着いて遊びに集中できるように声がけを徹底する。	
636	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2	1.基準以上配置		今後も必要に応じ、園内研修等を実施し、職員全体で共有していく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		特になし	1.集団活動中・見守りあり	子どもの動き(躓き)を予測することができてなかった。	子どもの突発的な動きや危険を未然に防げるように注意したり、安全に活動ができるように配慮する。	1.いつもどおりの様子であった	普段から穏やかな性格で、落ち着かない様子などは日頃から見受けられない。事故当時はたまたま躓き、友達と手をつないでいたため手が出なかった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	いつも通りの散歩体制として、最前列の配置につき列を引率する。 歩き始めてすぐに、本児自ら転倒したため、防ぐなどのカバーには至らなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	散歩列の中央と最後部に位置していたが、その間にいた本児には手が届かなった。	子どもの突発的な動きを予測することができず、防ぐことができなかった。	子どもの動きを予測したり、危険を未然に防げるように注意するなど、安全に活動ができるように配慮する。	

No	初回掲載年月日	概要／認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期／月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制／発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳／0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故／年齢	性別	特記事項	事故状況／発生時状況	事故の転帰	死亡／死因	負傷／負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析／ソフト面／マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面／施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面／教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面／対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
637	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	8	6.午睡中	1.施設敷地内(室内)	1.0歳児クラス	5									2	2	6.５か月	2.女児	特記事項なし	8.その他	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	左前額部切創	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	新しく採用した職員への各種マニュアルを使用した確認をしなかった事と日常の保育活動の安全性等への指導・確認不足。	事故防止に関する研修会（園内研修）の計画的実施と日常の保育活動の見直し。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	各種安全点検については、特に問題はないと考えるが、点検項目等について見直してみたいと思っている。	点検項目の見直しと確認。	5.睡眠(午睡)中	午睡中に他の仕事をしていたこと事も要因の一つであると思う。	午睡中は子ども達の様子を常に把握する事の確認。	1.いつもどおりの様子であった	午前寝をしていたため、午睡の時間になっても寝なかったために、枕に寄りかかるように座らせておいた。首が据わって間もないためにバランスを崩して倒れるようになってしまった。	4.対象児の動きを見ていなかった	首が据わって間もない（５ヶ月）の園児がバランスを崩した時に気がついた保育士が、行事の準備でハサミを使用していた手で支えようとした。その時ハサミを持ったままで支えたので園児の額を切ってしまうことになった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育室にいた他の職員は、他の園児の午睡のチェックをしていたため、園児が怪我した段階で気がつき応急処置（止血）した。	もう１人の職員（０歳児担当）は、遊戯室で４，５歳児の日本太鼓の指導をしていた。０歳児人数に対する保育士の配置的には問題ないが、保育室にいたとすると事故は防げたかもしれない。	４，５歳児の太鼓指導の時間帯の見直しと日常の保育活動についての確認。	
638	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)													16.４歳	2.女児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左第３指中節骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施		1.基準以上配置	－	特になし	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	24	2.不定期に実施		－	特になし	7.その他	防犯カメラにて、対象児の怪我に至った経緯を確認する。	保護者及び園児に、帰る際は保護者と手を繋いで帰るよう周知する。	1.いつもどおりの様子であった		3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	転んだ瞬間は見ていなかったが、対象児が泣きながら帰る姿を目撃する。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	転んだ瞬間は見ていなかったが、対象児が泣きながら帰る姿を目撃する。	いつもより早めの迎えで、対象児も気持ちが高揚していたと考えられる。	保護者と手をつないだり、歩いて帰るように繰り返し知らせていく。	
639	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	31				9	10	12			3	3	16.４歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2	2.基準配置	近くに職員が付き注意喚起はしてたが、すぐに援助できる場所にいなかった。	・遊びの様子を把握し、職員間で声を掛け合い安全を確保する。 ・ハザードマップの見直し。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12		石等の撤去や築山の野草管理。	1.集団活動中・見守りあり	子ども自身が危険であることを意識し、考えられるよう具体的な場面を想定した投げかけ、確認の場が足りなかった。	定期的な子ども達との確認。 一人一人の発達に合わせた援助。	1.いつもどおりの様子であった	普段と変わらずいつも通りだった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	築山での遊びの様子を確認し、危険な遊び方に関してはその都度声をかけていた。近くの大型遊具で遊ぶ園児の対応をする為に離れたタイミングで転倒する。	2.担当者・対象児のを動きを見ていなかった	築山で遊んでいることは確認していたが、他児の遊びの見守りをしており、注視はしていなかった。	築山での危険な行動を制止した時点でケガに繋がる可能性は考慮することができた。別な遊びに誘ったり、安全を確保できる遊び方の提示が不足していた。	園庭での遊び方、保育士等の配置、安全確保のための声の掛け合いやフォロー体制の確認と実行。	
640	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	19				7	6	6			3	3	15.３歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	上前歯2本折れる	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2	1.基準以上配置	本児が特定の子どもの動きに敏感であることから、友達への関わり方について担任以外の保育士も注意して動きを見守ってはいたが、ほかの子どもと遊んでおりその瞬間は目が離れていた。	ほかの子どもと遊びながらも、気になる子どもの動きに気付き行動を予測して、どちらかの子どものそばに移動する、もしくは走るのを止めるための対応をする。	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	随時	2.不定期に実施	随時	子どもが今好きな遊びや集中できる遊びを設定していたが、遊びも後半になり飽きてくる子がいる中での環境設定が必要だった。	一日の疲れが見えてくる時間なので遊具設定の工夫をした上で、様々な事態が起こりうる予測を常にする。	3.個人活動中・見守りあり	座って遊ぶ遊びの中で体を動かしたくなった子どもの姿があった。	体を動かしたい様子があった時は、職員体制と場所を考えた上で、片付けて活動を変化させていく工夫をする。	1.いつもどおりの様子であった	普段通り登園し、変わった様子はなく保護者からの連絡事項もなかった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	担任が保育当番だったため、本児を常に視界に入れていた。特定の子どもの近くでほかの子どもと遊んでおり動きを把握していたが、斜めの位置だったため走っていったことに気付くのが遅かった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	もう一人の担任も保育当番だったが、ほかの子どもの物を取りに保育室に入り、出てきたところで子ども二人がつかみ合っていた。3人目の職員は離れた場所でほかの子どもとやり取りをして遊んでいたため気付くのが遅れた。	遊びの約束や遊具設定の工夫をしていて、本児に気を付けて見守っていたが、どの職員も目が離れ本児からの距離も離れていた瞬間だった。	予測が足りずとっさのことに対応しきれなかった。様々な事態が起こりうる予測が必要である。	

No	初回掲載年月日	概要：認可・認可外	概要：施設・事業所種別	事故発生時期：月	事故発生時期：時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳：0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故：年齢	性別	特記事項	事故状況：発生時状	事故の転帰	死亡：死因	負傷：負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面：マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面：施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面：教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面：対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
641	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	8	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3.2歳児クラス	22									4	4	14. 2歳	2.女児	特に無し	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右脛骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	基準以上の職員配置だったが、保育中に業務上の連絡が必要な場面があった。	特に運動遊び中は、連絡のタイミングに注意する。連絡をあとに回す等の配慮をする。	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	48		安全点検を、続けていく	1.集団活動中・見守りあり	排泄を終えた順に保育室前のボルダリングに移動していた。複数の保育士は、二手に分かれていた。	ボルダリング前に集まった子どもの人数が、多くなってきたため(5名)トイレを担当していた保育士に移動を依頼するところだった。ボルダリングの保育士の人数強化。	1.いつもどおりの様子であった	日頃からボルダリングに慣れ親しんでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	ボルダリングの本児の位置が、まだ低かったためそばにいなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	排泄指導に関わっていた		保育者は、目の前の子どもだけでなく周囲（二手に分かれたグループの状況等）にも気を配り、声を掛け合いながら保育をする。	
642	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	7	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	11									1	1	16. 4歳	1.男児		8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手中指薬指骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	・職員配置に問題はなかった　・担当職員がドアの後ろ側を見ずに閉めてしまった	保育士は前後左右にも目を付けて保育にあたることを再度確認した	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	28	1.定期的に実施	4	給食室の扉は木製でなくアルミ製であったが、手を入れることを防止するものがなにもついていなかった	給食室の扉に手入れ防止のシートをつけた	3.個人活動中・見守りあり	朝移動の際に並ぶ場所を他の場所にすべきだったかもしれない	朝の移動時間の廊下の混み具合にもよるが、給食室の前は極力避けるようにする	1.いつもどおりの様子であった	列の先頭におり、一番扉に近かった。	4.対象児の動きを見ていなかった	普段なら確認をしているが、この日に限ってしなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	朝の移動の時間のため、それぞれの職員が各クラスにいたり、玄関の対応をしていた。給食室の職員と担当保育士がほぼ同じタイミングで男児が指を挟んでいることに気づいた。	・●月に採用され複数担任をしていたが、●月から事情がありその保育士が●歳児の担任代行を行っていた。慣れていなかったという部分はあるかもしれない。・●歳児１１名を１名で担当。	当該保育士には今後気を付けるよう面談を行った	
643	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	3	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	11		1	2	4	1	3			2	2	16. 4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	上前歯の神経壊死	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施		2.基準配置	コロナ禍で、朝の早出保育の際に、マスク有りの以上児とマスク無しの未満児とで空間を分ける為、２部屋を使い、間の扉から両方を見るようにしていた。その上での、声の掛け合いの連携のミスにより、今回は、事故の発生に気づくことが遅れたと考えられる。	コロナ感染症が五類になったことにより、現在は同じ一部屋で早出保育を行っている。また異年齢保育であることや、登所児童の受け入れの為の担当職員の出入りもあることから、事故発生時刻の８：００からは、保育補助を入れて3人体制で保育を行っている。	1.定期的に実施	60	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施		－	２，3歳児の席を椅子ではなくカーペットなどでスペースを分かりやすくし、安定して座ることができるようにした。	1.集団活動中・見守りあり	３，４，５歳児が椅子に座って、テレビを視聴しているタイミングであった。椅子の大きさはどれも同じサイズの物であった。	3歳児など、年齢の低い児童用のマットなどを用意して、安定して座ることが出来るようにした。	1.いつもどおりの様子であった	朝の受け入れ時に、気分がのらない時など、壁際に立って、気持ちが落ち着いてから、他児のいる側の椅子に来て着席をするというパターンが多く、この日も同じような流れで、はじめは立っていたが仲良しの友だちが登所してきたきっかけで、促されて着席をしに向かったところだった。	4.対象児の動きを見ていなかった	ちょうど玄関先に登所してきた親子がおり、受け入れのため、隣室の職員に声を掛けず、部屋を出てしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	対象児のいた部屋の隣で、未満児の保育を担当していたおり、声を掛けられなかったことから隣室の動きを察知するのが遅れてしまった。	担当者が不在になることのリスクを考えて、隣室に声をかけ、両方を見てもらうことをせずに、玄関に出てしまった。	職員数の少ない時間帯だからこそ、声掛けをしあい、共同して保育をすることの重要性を再確認した。	
644	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	5.4歳児クラス	13									2	2	17. 5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折、左肘関節関節拘縮	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置		職員会議の中で事故が起きた経緯や原因を周知し、どのような場面でも起こりえる事と安全面の重要性を再度確認する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		散歩当日の朝に職員が公園などの下見を行うことは継続し、当日の子ども達の動きにより、遊ぶ範囲を決め安全に遊べるような配慮を行う。	1.集団活動中・見守りあり	クラス担任が不在の中の活動であることと、全面を使った回数が少ないという状況、子どもの経験を考慮し、遊びの範囲を定めて提供すべきであったと考える。	クラスの活動としては進級後２回目、担任が公休であり代替え職員が対応することも踏まえ、危険予測をし、事前に公園内の遊ぶ範囲を決めておく。	1.いつもどおりの様子であった	公園内の階段付近で遊んでいた際、足を踏み外してしまった。	4.対象児の動きを見ていなかった	公園内の階段上の広場に全児集まっていた為、中央付近で子ども達の様子を見ながら一緒に遊んでいた。階段付近には職員はおらず、本児の転倒した際の泣き声に気付き、転倒したことを知った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	本児が転倒した公園内の階段の反対側で子ども達を見ながら一緒に遊んでいた。本児が転倒した際の泣き声は聞こえなかった為、把握ができていなかった。		保育士間で声を掛け合い、子ども達の動きに目配りを行っていく。公園内の階段は転落、転倒の可能性があることを把握し、子ども達にも活動前に知らせておく。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制												事故			事故状況							事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事者		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳									うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他								死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】							理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
645	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	12					7	5			2	2	17.５歳	2.女児		8.その他	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	前歯左側の脱臼	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	4	2.基準配置		事故が起きた際の状況と対策、改善点について全体で話し合う	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		引き続き安全点検を実施していく	1.集団活動中・見守りあり	仲が良すぎるあまり、おふざけがエスカレートしてしまった	事故が起こらないようにもっと色々な角度から声がけをしていく室内の使い方や遊具の配置など安全に遊べる環境を作る	1.いつもどおりの様子であった	普段と変わりなく友達と楽しく関わって過ごしていた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	鉄棒をしている園児につき、見守っていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他のコーナーを見ていた		順番待ちをしている子ども達の動きにも注意を払う（一定の距離を保つように）	
646	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	23									1	1	17.５歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	4.上肢(腕・手・手指)	左肘関節脱臼、靭帯損傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	随時	2.基準配置	なし	戸外遊びはできるだけ複数の職員で見守る	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎日	なし	使用していた遊具、園庭の整備に不備はなかった	1.集団活動中・見守りあり	・児童の発達・身体状況や遊具の使い方に問題はなかった ・遊んでいた場所が悪かった	柵の付近では遊ばないよう子供達に伝えていく	1.いつもどおりの様子であった	柵のコンクリート付近では乗らない約束をしていたが、本児が砂よりもコンクリートの方が走りやすいことを知っていたため、つい乗ってしまった	4.対象児の動きを見ていなかった	本児から「転んだ」と言われたため、傷を確認後、どのように転んだか本児から状況を聞いた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員はいなかった	なし	全体を見まわせる場所にいるようにする	
647	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	8				2	3	3			2	2	16.４歳	2.女児		8.その他	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	下顎裂創・肥厚性瘢痕・刺激性皮膚炎	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	特になし	危機対応に関する研修に参加し、臨機応変に危機対応できるようにする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	点検時に念入りに点検し、年度始めに点検確認表も見直す。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	特に普段と変わった様子はなかった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	全体の様子を見守りながら、他の園児と遊んでいたが、転倒した音と泣き声で本児を確認したら顎が切れ出血していたため、すぐに医務室へ連れて行った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	事故時は預かり担当職員２人がみており、他の職員はみていなかった。	すべり台使用時は上靴を脱いでおり、滑り終わって靴下のまま走ってしまったため、滑って転んでしまった。	改めてホール内は走らないことを指導した。	
648	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	7	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	7									1	1	17.５歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手小指第二関節の骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施		2.基準配置		体操等を行う際の環境構成として、安全に行える場所を選択することが必須であることを職員間で改めて確認した。	1.定期的に実施	60	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施			テーブル、椅子などを片付けてから、動きの大きな活動を行う。	1.集団活動中・見守りあり	・出席児童数が少なく保育室にスペースがあったため、保育室で準備体操を行った。・周りに椅子や机がある環境だった。	・ホールの広いスペースで体操をする、または保育室で行う際は周りに椅子や机を避けて十分にスペースを確保して体操を行う。	1.いつもどおりの様子であった		4.対象児の動きを見ていなかった	・児童の前に立ち準備体操を行っており、クラス全体の状況は見ていたが本児の細かい動きまでは目が届いていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	・保育者一人が保育を担当していたため、保育室内に他の職員はいなかった。	・一人ひとりが十分なスペースが確保できているか、周りに障害となる物がないか確認をしてから準備体操に取り掛かる必要があった。	児童一人ひとりの動きや環境構成に目を配る。	
649	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	9		4	2	1	1	1			3	3	14.２歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置		子どもたちの動きを予測し危険がないように目を離さないようにする。必要に応じて座って待つなど助言をし少しでも危険を回避できるようにする。	1.定期的に実施	12	3.未実施		1.定期的に実施	12		今後も引き続き点検を行い、ケガ等のないようにしていく。	1.集団活動中・見守りあり	本児の兄も一緒に遊んでいたため気持ちが高揚していた。	合同保育中はいつも以上に丁寧にかかわりを持ち、危険のないように配慮していく。	1.いつもどおりの様子であった	本児の兄（●歳児）のことが大好きで、自宅でも常に一緒に遊んでいる事から、いつも通り走っている兄を追いかけて足がもつれてしまったと考えられる。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	砂場用具の片づけをしながら、遠くから見守っており、本児が転倒したのをみてすぐに駆け寄り対応した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	テラス近くで遊んでいる子どもの対応をしており、見ていなかった。	特になし	子どもの動きを予測し、職員間でさらに連携をしていく。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
650	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	7	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5. 4歳児クラス	23									2	2	16．4歳	1. 男児	特になし	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	随時	2. 基準配置	なし	戸外・運動遊びはできるだけ複数の職員で見守る	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	毎日	砂が滑りやすかった	適宜、園庭に水を撒き、滑りにくい環境をつくる	1. 集団活動中・見守りあり	本児の発達・身体状況及び活動中の動き方に問題はなかった	運動遊びの際には、転倒など怪我をする可能性があることを伝え、どんな時に起こりやすいかなど、子ども達と考えていく機会をつくる	1. いつもどおりの様子であった	複数の園児とボールを追いかけていたため転ぶ可能性が考えられた	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	クラス全体の動きを見るために全員を見渡せる場所にいた	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	周囲の園児を見ていた	なし	・大丈夫だろうではなく、危険かもしれないと日頃から心がけておく ・子どもだったらどうするか、どうなるかという行動パターンを想定しながら、職員間で声を掛け合う	
651	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	5	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	4. 3歳児クラス	10									3	3	15．3歳	1. 男児	左肘が脱臼しやすい	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕外顆骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	3	1. 基準以上配置	–	遊具の遊び方については指導計画があり、子ども達への指導する際、保育者も確認をしているので、継続して行っていく。施設外の遊具については、より入念に事前に使用上の注意点を確認し、子ども達に指導する。また、現在、マニュアルを見直しているので、園外保育についても検討をしている。	3. 未実施		2. 不定期に実施	1	3. 未実施		–	利用前の安全確認及び職員が不慣れな施設等については事前に下見をして危険箇所や避難経路等の確認をより慎重に行っていく。	1. 集団活動中・見守りあり	リニューアルされた遊具の対象年齢が3歳児以上で利用可能だった。また、当日は天気も良く、職員の引率を3名とすることができたため園外保育を実施した。	園外保育について、引率者数、天候、行き先、行き方等を十分検討した上で行う。	1. いつもどおりの様子であった	園にはない遊具だったが、他児と保育者と一緒に遊んでいた。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	遊具の遊び方等の指導後、引率した保育者と園児全員で遊具を使用し、子ども同士の衝突や転倒等に随時注意を促したり、園児の補助をしたりしていた。本児は着地の際、何度かバランスを取るため手をつき、また立ち上がってジャンプする、と繰り返し遊んでいたため、声かけをしつつ遊びを見守っていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	園外保育だったため引率の職員以外は動きを把握することはできなかった。	–	園外保育のため通常より多くの保育者で引率し、指導も行い、一緒に遊具を使用することで危険を回避できるよう配慮していた。また、本児は肘が外れやすいこともあり、事前に保育者間で確認をしていた。より注意深く子どもの状態の確認等、事前の確認を行い保育にあたると共に、事故発生状況・対応について会議等を通じて職員が共通認識を持てるようにしていく。	
652	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	6	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	26				10		16			4	4	17．5歳	2. 女児	特になし	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左足関節外下部裂離骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	5	1. 基準以上配置	今回の事故の要因は友達とケンカをし、急いでその場を去ろうとして滑り台降り口に躓いてしまった	固定遊具を使用の際には急がずルールを守って遊ぶこと	1. 定期的に実施	24	1. 定期的に実施	24	1. 定期的に実施	12	固定遊具での遊び方の再確認	遊具は業者より点検済　遊び方の確認	1. 集団活動中・見守りあり	友達とトラブルを起こし、その場を去ろうと急いで固定遊具を使用していたと思われる。	そばで声をかけトラブルの仲裁が必要だった。	3. いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	とても活発に遊んでいた。ただトラブルの多い子でこの日も友達とケンカ中だった。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	対象児と滑り台の反対側にいた。躓いた際には見ていたが助ける距離にはいなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	３歳児職員も一緒にいたが、対象児と離れた所で遊んでいたため、気づかなかった。	３歳児も一緒にいたが、それぞれのクラスの子ども達を見ていた。	担任同士、お互い声をかけ合い、ルールを守らない行動、トラブルには声をかける。	
653	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	6	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	5. 4歳児クラス	5									1	1	16．4歳	1. 男児	特になし	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右上腕部骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	12	2. 基準配置	個々の運動能力を十分に把握していなかった。遊んでいる子ども同士、ぶつかりあったりお互いの妨げになったりしていないか、場の設置の仕方が十分でなかった。	個々の運動能力の把握と遊びの適性の確認を行い、いろいろな場面での事故予測を行っていく。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	12	カラー積み木の形状による安定性の違いの認識不足。	年齢やホール内の状況によって使用する遊具、おもちゃに配慮する。	1. 集団活動中・見守りあり	友達の姿に刺激を受け、やってみようとする挑戦意欲が行動につながった。	園児の挑戦が事故に繋がらないよう、遊び場の設定や保育教諭の配置を考える。	1. いつもどおりの様子であった	友達４人とホールのカラー積み木で遊んでいた。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	他児の遊びを見守っていたため、対象児が落下する瞬間に、手を差しのべる距離にいなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育室（別室）で他児の遊びを見守っていた。	園児に手が届き身体を支えられる距離での見守りができなかった。また、職員を各コーナーに配置していたが、子どもの興味によって遊び方や遊ぶ遊具、場所が変わることで、一人一人の具体的な遊びの導線の把握をすることが難しかった。	園児ごとの遊びの危険度に目を配り、危険度の高い園児については、遊ぶ側に寄り添い身体を支えられる距離での見守りをしていく。また、子どもの遊びを具体的に把握するための職員の配置や、安全に遊んだりすることのできる距離をつくっていく。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
654	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	7	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	26					16	10			3	2	16.４歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	10	1.基準以上配置	子どもの動きを予測できなかったことによる声掛けや確認不足	活動の節目の子どもの動きと床の状況に危険となるものはないか、子どもの動きを予測した職員の目配りや動線の安全の確保が必要である。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12	土曜日の異年齢の人数や活動で、普段と違う場所や人と過ごすリスクがあることで保育室内の玩具や物の置き場所など予測できない。	４歳児と５歳児で過ごすときの保育室は、低い年齢の子ども（４歳児）の保育室で過ごすようにする。	1.集団活動中・見守りあり	遊んでいた時の玩具の散乱状況に加え、子ども達の様々な移動や動きがあり、動線となる床の上の安全確保もできていなかった。	転倒や怪我が予測される子どもの動きや床の状況把握・安全確保を意識することと職員間の声掛けを徹底する。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	プール後と週末の疲れも少し見られていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	普段とは違い、４歳児、５歳児の異年齢で過ごしたので、子どもの動きの予測が十分できなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	子どもと一緒に片付けることを優先していた為、子どもの動きへの注意が不十分であった。	普段と違う異年齢の子どもと過ごしている状況や年齢の違いでの動きを予測した職員の目配りや動線の安全の確保が十分できていなかった。	週末の異年齢の活動でのヒヤリハットの検証も行うべきである。	
655	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	7	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	10									1	1	16.４歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2	1.基準以上配置	無し	日々の子供の活動等について情報共有をする。安全管理マニュアルの確認。環境構成の配慮、子どもへの注意喚起（3歳以上児）	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	環境の整備が甘かったと思う。梅雨の時期で湿気があり床が滑りやすかったかもしれない。	事故状況の共有と何故発生したかを深堀し環境設定配慮を再確認	1.集団活動中・見守りあり	友達と走り回っている中での転倒であった。全体を見守り危険な場面では声掛けしている。	活動前の環境設定や子どもの予想される活動がしっかりと保育に活かされるようにしていかなければいけない	1.いつもどおりの様子であった	健康状態良好で元気に遊んでいた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	全体が見えるようホールの真ん中に立ち、遊びを見守っていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	１０名を１人でみていた。転倒後すぐに報告し、看護師にみてもらった		遊びの中で予想される子どもの姿を把握していく	
656	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	16					9	7			4	2	17.５歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折、右肩関節挫傷、右手関節挫傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置		様々な遊びが展開されている中で、園児の動きを確認するために保育者同士の声かけをする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12		遊具の使い方の確認を園児と一緒に行う。	1.集団活動中・見守りあり	マットと積木を並べ、跳び越えて遊んでいた。子どもたちで積木の位置を替えて遊んでいた。	挑戦する気持ちを受け止めながら、危険な場面に声がけできるようにしっかりと見守る。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	積木とマットを使い、活発に遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	長縄跳びや鬼ごっこをしている園児の動きを見て、積木遊びをしていることは、分かっていたが、その瞬間目が離れてしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の園児遊びを援助していた。		様々な遊びが展開しているときは、ひとつの遊びに保育者が集中しすぎることがないように、全体の動きを見るようにする。	
657	令和6年6月10日	3.その他	7.小規模保育事業	6	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	6		5	1						0	3	14.２歳	1.男児	風はあったが、気温は高かった。	1.屋外活動中	1.負傷		1.意識不明	1.頭部	軽度の熱中症と風邪気味	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	3	1.基準以上配置	給水間隔が普段より長くなってしまった(40分弱)。	30分間隔で水分補給をするように徹底する。	3.未実施		2.不定期に実施		3.未実施		－	園外保育に出かける場合、先発した職員が周りの環境に危険等がないか確認を行う。	1.集団活動中・見守りあり	風はあったが、気温が高かった。	気温が高い時は、園外保育を中止する等考慮する。	1.いつもどおりの様子であった	保育者に「疲れた」との訴えはあったが、いつも通り遊んでいた。休もうとしてベンチに戻り、うつ伏せに寝そべった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	保育者が一緒にいたが、他児に目を向けた後に再度本児を確認したところ、うつ伏せになり反応がない為、駆け寄った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	自分が担当している園児を中心に見ていた。	本児の体調の変化に気付かなかったため、本児を重要視せず、他児と同程度の注意しか向けていなかった。	一人一人の動きを把握し、把握し切れない時は、職員同士声を掛け合うようにする。	
658	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	34									4	3	17.５歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		6.その他	2.顔面(口腔内含む)	鼻の周辺の腫れ	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	他児に気を取られて視線が外れていた可能性がある。	事故予防マニュアルを確認し、職員への周知を行う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	事故が起きたのは平らな床面であったが、周りに階段や柱があり保育者のチェックポイントが多い。	複数の保育者でゲームを見守り、見逃しのないようにする。	1.集団活動中・見守りあり	ゲームの特性上、動きが不規則で咄嗟の動きに対応できずに正面衝突した可能性がある。	ゲーム開始の前に子どもたちとルールを確認し集中して参加できるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	朝から、健康視診をしながら本児の様子を見ていたが、いつも通り元気に遊ぶ姿が見られた。日頃から動きが活発である。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	ホールでしっぽ取りゲームを進めていた。しっぽを取られた子どもやルールを守れていない子どもへの声掛けをしていた。他児と本児が衝突し、泣いて鼻水が出ていた為、他の職員へ本児の側に来てもらうように声掛けする。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	ティッシュペーパーを持ち本児の側へ駆けよる。鼻血も出てきた為処置をする。	落ち着きのない子に声をかけながら全体を見守っていたので、視線がそれていた可能性も考えられる。	複数の保育者がいる場合など立ち位置に死角のないよう配慮する。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項
659	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	80	2	9	10	16	22	21			16	16	17.5歳	2.女児	
660	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	4	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	11			4	7					3	2	14.2歳	1.男児	特記事項なし
661	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	6	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	45				15	15	15		●●少年自然の家職員	2	2	15.3歳	2.女児	
662	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	16									3	0	16.4歳	2.女児	特になし
663	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	7	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	22									3	3	15.3歳	1.男児	特になし

No	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策
659	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	3.未実施		2.基準配置	－	雲梯を行う場合は必ず教職員が付いて見守っていく。一番高い所が170cm、低い所でも150cmあることを園児に伝え、充分に気を付けて遊ぶ事を教える。	1.定期的に実施	随時	1.定期的に実施	6	1.定期的に実施	随時	－	雲梯下の地面を柔らかにするため芝を植えた。
660	2.室内活動中	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)	左下肢挫傷、左腓骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施		2.基準配置	－	事故予防に関する研修の機会を設けるなど、ソフト面での体制を強化する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	随時	－	引き続き定期・随時の点検を徹底する。
661	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	朝の自由遊び中、複数の保育者で監視体制をとることにしていたが、目を離したタイミングで起きた。	自由遊び中、全体を監視する、園児の側で見守るなど役割を明確にした監視体制を強化する。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1回/週	1.定期的に実施	1回/週		園児が遊ぶコーナーには保育者が側で見守る体制をつくる。
662	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	鬼ごっこをしていたため、走ることに意識が向いてしまい、体制を保てずに転倒に至ってしまったと思われる。	保育士は子ども達と遊びながらも全体や個々の子どもの遊ぶ様子に十分に気を付けていく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	随時	転んだ際に前に出した腕を床に強く打ったものと考えられる。	子どもの活動の予測を行いながら、転倒時に危険と思われるものが床にないか等、遊ぶ場所の安全に注意して活動を行う。
663	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	3.未実施		1.基準以上配置		危険な行動があった場合はその都度注意していく。	2.不定期に実施	1	2.不定期に実施	1	2.不定期に実施	1		少しでも危険な所がある時は、その場で遊ばない。

No	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
659	1.集団活動中・見守りあり	少し離れた所で、石けん遊びを行っていたため、手に石けんが付き滑りやすい状態になっていたことも考えられる。	雲梯のつかみ方を順手でつかむように指導する。必ず教職員がついて見守っていく。石けん遊びを行う場合は雲梯との同時使用を行わない。職員が安全を確認後使用させる。	1.いつもどおりの様子であった	雲梯に上がる。左手で一番目の横棒をつかみ右手をつかみかけた際、手が滑りそのまま臀部から落下する。背中をつき、その後自分で起き上がった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	9：40　本園児に見てと声をかけられ、一連の行動を見ていた園長が、本園児が落下する際に瞬時に受止める等の対応が出来なかった。本児に話しかけて意識の有無と怪我の状況を確認する。若干の腫れは見られたが、本児は落ち着いており痛みを訴える事もなかった。職員室で冷湿布を行い経過観察を続けるも、痛みを訴えたり腫れがひどくなる様子も確認できなかった為、クラスに戻らせ継続観察を続けた。11：15右肘周辺に腫れが見られるようになったとの担任からの報告を受け園長が確認し、簡易ギプスを施した。家庭に電話し受診を進めた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	当日はフリー参観日であり多くの園児と保護者が園庭にいたため、複数の職員が1人の児童を見ていることが出来なかった。	－	子ども達の経験と体力に合わせて遊びを見守る。	
660	1.集団活動中・見守りあり	－	基準配置に慢心せず、引き続き集団活動中の見守りを徹底する。	1.いつもどおりの様子であった	ホール内でソフト積み木からジャンプして遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	同じホール内の、対象児が目に入る場所で他の園児と遊んでいた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	同じホール内で、他の園児と遊んでいた。	－	基準配置に慢心せず、引き続き集団活動中の見守りを徹底する。	
661	1.集団活動中・見守りあり	自由遊び中、遊戯室内に保育者はいたが、本児が遊んでいるコーナーに保育者がいない状況だった。	園児が遊ぶコーナーには必ず見守る保育者がいるよう体制をつくる。	1.いつもどおりの様子であった	重ねた大型のソフトカラー積み木に座っていたとみられる。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	全体を監視する役割を担っていたため、他の園児の動きを確認していたタイミングだった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	遊戯室内で、他の園児と遊んだり、各保育室で他の園児を見守っていたり、連絡ノートの確認等を行っていた。		連絡ノート等の確認は、朝の自由遊び以外の時間でするようにし、遊戯室で監視をする保育士の数を増やす。	
662	1.集団活動中・見守りあり	好きな遊びや気の合う友達との遊びをそれぞれ分かれて遊んでいた。	分散している遊びの様子や全体の把握など、遊びの状況を見ながら関わっていく。	1.いつもどおりの様子であった	気の合う友達と一緒に鬼ごっこを始め、走っていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	子ども同士で始まった遊びだったので、近くで見ていた。本児が側を走り去っていったと思った後、床に倒れた音がしたので駆け寄った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の子の遊びのトラブル対応や担当児の遊び等に関わっていたりしていた。	子ども同士で楽しむことができる年齢ではあるが、遊び方や遊びの内容を見て配慮や補助を行っていく。	子どもの活動中も安全に見守りながら、危険につながる場合は声をかける など行動を予測して見ていく必要がある。	
663	1.集団活動中・見守りあり	お遊戯室にカーテンがあり、日中は開けてまとめている。	カーテンで遊ばないように徹底する。	1.いつもどおりの様子であった	カーテンに隠れて遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	カーテンで遊ばないお約束をしていたが、遊んでいたので職員が注意した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	お遊戯室は広いので、ちらばって子どもたちを見ていた。	本児はカーテンに隠れていたので、その場に走ってきた子もお互いが見えていなかった。	子どもたちの動きを気を付けて見ていく。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
664	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	9	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	13									1	1	17. 5歳	1. 男児	本児はこだわりが強く、切り替えが出来ず癇癪を起すなどの行動が見られる為、子育て相談や医療機関を受診している。	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	2. なし	2. 不定期に実施	随時	2. 基準配置	事故当時は、年中児と合同保育をする直前であり、園児１３名に対し保育士１名だった子どもたちの行動に時間差が生じるため、全員に目が行き届かなかった	事故予防マニュアルを早期に完成させる	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	遊戯室は清掃後であり、本児も内履きを履いていた。特に滑りやすい環境にはなっていなかった	安全点検については引き続き実施する	1. 集団活動中・見守りあり	運動会の練習や実習生（大学生・中学生）が入っていたことで子どもたちに疲れや興奮状態が見られていた	夕方の職員が少なくなる時間帯は子どもたちが気持ちを落ち着けて過ごせるよう努める	3. いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	体調は悪くはないが、朝より気持ちの浮き沈みがみられた。遊戯室に入り荷物をかけた後は座って待つ約束をしているが、本児は直ぐに座ることなく遊戯室を走り回っていた。	4. 対象児の動きを見ていなかった	本児と同じ空間にはいたが、遊戯室に移動後荷物かけの準備や他児の対応をしており、本児が転倒した様子は見ていなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	合同保育の時間帯だったが、年中児はまだ遊戯室に移動していなかった	遊戯室に移動し、荷物をかけた後の指示（座って待つこと）が、徹底されていなかった	遊戯室に移動した後の約束を再度子どもたちに伝える	
665	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	5	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5. 4歳児クラス	18									3	3	16. 4歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右肘骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	1	1. 基準以上配置		本児が走りだした時、１名の保育士が後ろから見ていた。本児はよく走り回る傾向があり、今後も複数保育士で見守り・声掛けを継続する。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	使用前後毎		今後も危険箇所がないよう職員間で情報を共有し、危険箇所は迅速に修繕する。	1. 集団活動中・見守りあり		全職員で声掛けをし見守る。	1. いつもどおりの様子であった	朝も元気に登園し、その後も普段どおりだった。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	1名の保育士が後ろから見ていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭に保育士が固まっておらず、互いに距離をとっていた。		怪我に気をつけるように声掛けをする。担任間で連携する。	
666	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	5	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	7. 異年齢構成	35					19	16			6	5	16. 4歳	2. 女児	特になし	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右上腕骨通顆骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	12	1. 基準以上配置	遊具で遊ぶ際の職員配置に不備があったと考えられる。	下見の際、危険を伴う遊具への職員配置を工夫する。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	園内における安全点検の目を、園外保育の際に活かせなかった。	園外保育の際、遊び始める前に再確認を行う。	7. その他	保育士５名が見守っていたが、本児が雲梯を渡ろうとした際は誰も側にいなかった。	４歳児にとっては高さがある雲梯であり、保育士が常時見守るようにすべきだった。	1. いつもどおりの様子であった	本児の前にいた男児が雲梯を渡ったため、自分も出来ると思い渡り始めた。	4. 対象児の動きを見ていなかった	雲梯がある反対側には保育士がいたが、本児の姿は見えない場所だった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれの固定遊具に付き添っていた。	高さのある雲梯は落下して怪我をする可能性があると予測することが出来なかった。	危険な遊具から目を離さず、保育士が付くようにする。	
667	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	6	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	94	7	17	17	18	17	18			20	20	15. 3歳	2. 女児	典型発達である。	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左前腕骨折（橈骨、尺骨）	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	12	1. 基準以上配置	–	上記に記載した通り、マニュアルや研修は行っており、職員の配置も基準以上であり、改善策は見当たらない。	1. 定期的に実施	2	1. 定期的に実施	2	2. 不定期に実施	頻	階段が見通せる場所ではなく死角になりやすい位置であること木製の階段で、滑り止め加工はしてあるものの、滑りやすい材質であること	子ども達が部屋を移動する際（特に２階から１階への移動時）保育士が危険のないよう声をかけ、見届けるようにする。滑り止めの強化（子ども達が滑りやすい箇所に直接貼り付ける。）	3. 個人活動中・見守りあり	–	部屋を移動する際の注意事項や、約束について確認する時間を毎日とり、子ども達の意識を高めるとともに、階段昇降時のルールのイラストや注意を促すメッセージを階段や階段付近に掲示し、子ども達が視覚的な情報から正しく理解できるようにする。子ども達が部屋を移動する際は保育士が危険のないよう声をかけ、見届けるようにする。	1. いつもどおりの様子であった	年長、年中児への憧れがあり、階段での飛び降りや、滑って降りるなどしを真似してしまったのではないかと推測される。	4. 対象児の動きを見ていなかった	子どもが保育室から出て、廊下や階段部分に行った時には、できる限り見届けるルールにはなっているが、事故当時は子ども達の要望に応えての遊具の準備やトラブルになりそうな児童の見守りのため対応できなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	子どもが保育室から出て、廊下や階段部分に行った時には、できる限り見届けるルールにはなっているが、事故当時、登園の受け入れや、ぐずっている児童への対応で対応できなかった。	–	職員が出勤する時間までは子ども達が遊ぶことのできる場所を制限し、階段を使用しないようにする。３人の職員の配置や役割分担を再確認し、対応可能な保育環境を検討する。	
668	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	6	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	3. 2歳児クラス	14									3	3	15. 3歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	前歯乳歯1本欠落、口腔内裂傷	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	数	2. 基準配置	乳歯が抜けた場合の乳歯の保存方法(牛乳や生理食塩水に浸して乾燥させないようにする）について理解不十分だった。	事故予防について職員会議等を使って定期的に研修を行うとともに、抜けた乳歯の扱い方について共通理解を図る。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	–	定期的な安全点検を継続するとともに、直ちに安全策を講じ、危険の除去を徹底する。	3. 個人活動中・見守りあり	–	個人活動中の園児の動きをしっかりと見守ることができるよう、保育者は園児の動きから目を離さないようにする。	1. いつもどおりの様子であった	下痢気味ではあったが、いつも通り元気に活動していた。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	他の園児の動きも確認しつつ、対象児が車のおもちゃで遊んでいるところを至近距離で見ていた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の園児の動きも確認しつつ、担当者の位置や対象児が車のおもちゃで遊んでいるところも視界に入っていた。	–	保育者同士が連携し、園児一人一人の動きを把握できるような位置取りを工夫する。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
669	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	32					16	16			4	4	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左脛骨骨幹部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2	2.基準配置	保育士はそばについていたものの、園児の突発的な飛び降りを、阻止出来なかったのが原因の一つに考えられる。	想定外の突発的行動が起きうることを踏まえ安全な見守りについての意識の持ち方を再確認した。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	固定遊具の使い方で安全な使用法を子どもたちに伝えきれていなかった。	職員の立ち位置や役割分担（遊びを見る職員・全体を見る職員）を徹底する。	1.集団活動中・見守りあり	固定遊具の作りから、遊具使用法の確認が必要。	正しい固定遊具の使用法を伝えるとともに、保育士の見守りを徹底していく。	1.いつもどおりの様子であった	いつもどおり元気に固定遊具で遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	子どもたちを危険のないように見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園児の見守りは職員が分担している。他職員は園児と一緒に遊んでいた。	今回、飛び降りてきた園児との接触によるもので、接触された園児がバランスを崩したということで起きた事故なので、突発的な園児の行動に注視が必要と考える。	保育士の見守りと、想定外のことも起きうるということを保育士は十分理解したうえで保育にあたる。	
670	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	6	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	16									3	3	17.5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左小指基節骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	13	1.基準以上配置	副担任（非正規職員）１名が７～８名の園児を遊戯室で保育していた。主担任に比べて、研修の機会が少ない職員だった。	非正規職員の安全管理に関する研修の機会を増やす。また、服務倫理委員会の内容や、ヒヤリハット事案の状況と改善策を今まで以上に全職員でしっかりと共有していけるように改善する。	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	24	2.不定期に実施	6	雨天時で湿気が多く、転びやすい要因があった。	天候や、園児の気持ちの変容に応じて、遊びの場を変えたり、言葉かけを工夫したりしていく。	3.個人活動中・見守りあり	天候や、場の雰囲気からケガの起こりやすい状況だった。	ケガの起こりやすい状況下においては、遊びの種類や場の選択、環境設定の工夫等について普段以上に配慮していく。	1.いつもどおりの様子であった	遊戯室で友達と鬼ごっこをして走っている時に、滑って転び、床に左手小指をぶつけた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	鬼ごっこをしている様子を全体的に見守っていたが、対象児が転んだ直後の場面は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育室でその他の園児７～８名を保育していた。	自由遊び時に遊戯室で走り回る鬼ごっこをしていた。園児の希望だけでなく、保育者が天候や状況に合った遊びの提案・場の選択をする必要があった。	天候や場の状況に応じた言葉かけ、環境設定をしていく。	
671	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	7	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	15									2	2	15.3歳	1.男児		8.その他	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	右瞼裂傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	6	2.基準配置	排泄後の手洗の際に流し台の前でつまずき転倒した。	手洗場に保育士が必ず付くようにする。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	排泄後に手を洗おうとして、トイレから離なれた保育室の手洗場の手前で走ってしまった。	排泄後はトイレの水道で手を洗うようにする。	7.その他	保育士が手洗場のそばの落ちていたご飯粒を拾ったタイミングで男児が転倒してしまい、手を差し伸べたが間に合わなかった。	転倒した際に怪我が予測される場面では他の作業を行わない。	1.いつもどおりの様子であった	急いで手を洗おうと走ってしまった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	保育室の手洗場につき、排泄後にトイレから出てくる子どもたちの手洗を順に見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	トイレ内で他の子どもの排泄介助をしていたため見ていなかった。	保育士がそれぞれ離れた場所で子どもたちを見ていたため一瞬目が離れてしまった。	3歳児の行動を予測し、子どもたちから目が離れない環境設定をする。保育士同士が近くで声をかけ合えるようにする。	
672	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	8	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	15					7	8			3	3	18.6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	2～3	1.基準以上配置	・安全管理に対する認識の甘さ。	・安全管理に対する意識向上。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎	2.不定期に実施		・特になし。	・特になし。	1.集団活動中・見守りあり	・遊具の正しい使い方の指導不足。	・遊具の使用法の指導。 ・遊具の配置の見直し。	1.いつもどおりの様子であった	・運動遊びを楽しんでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	・他の遊具に付き、対象児が使用していた遊具には職員が付いていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	・遊戯室にはいなかった（各担当職務遂行中）	・職員の認識不足。	・活動前の話し合いによる共通理解と連携。	
673	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	8	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	42	0	6	7	10	9	10	0		6	6	18.6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷性歯の亜脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	6	2.基準配置	誕生日会は遊戯室にて主任保育士も含め７名の保育士で４３名の子どもを保育をしていたが、事故発生時には、５歳児担任が給食の検食のため５分間遊戯室から離れ、６名の保育士で保育を行っていた。	職員配置の基準は満たしてはいるが、担任が抜けたときに怪我をしてしまったので、保育士一人一人が自分のクラスだけでなく、子どもたち全員を保育するようにしていく。	2.不定期に実施	12	1.定期的に実施	50	2.不定期に実施	12		安全点検はこまめに実施しているので、引き続き危機管理に徹底しながら行っていくようにする。	1.集団活動中・見守りあり	上履きを履き忘れたことと、振りがある歌を歌う場面にも関わらずすぐ後ろに椅子が置いてあったことで、お尻が椅子に当たってしまい前のめりに倒れて事故が起きてしまった。	子どもの行動を予測し、周りに危険がないかどうかの危機管理が足りなかった。今後保育士一人一人の危機管理を見直し、徹底していく。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り変わりなく元気に過ごしていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	５歳児担任保育士は給食の検食のために遊戯室を５分間離れていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	自分のクラスの子どもを見ていて、５歳児をしっかりと見ている保育士はいなかった。	担任保育士が５歳児から離れる際に、その場にいた全保育士に伝わるよう声を掛けなかったこと、離れることが分かっていた司会の主任保育士や他のクラスの保育士が５歳児にしっかりとつかなかったことで、危険な行動に気が付けなかった。	担任保育士が離れた時点で、司会をしていた主任保育士、他のクラス担任の保育士が５歳児にも目を配り、振りがある歌を歌う前に、子どもの行動を予測し、注意喚起をすべきだった。声を掛け合い、保育士全員で見ていくようすることと、危機管理を徹底する。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
674	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	1	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	21									3	2	18.6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置		室内では走ったりスライディングをしない。	2.不定期に実施	12	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	毎		ハード面として改善することは思い当たらないが、室内での過ごし方を子ども達と活動度に再確認する必要はある。	3.個人活動中・見守りあり		活動前に子ども達に落ち着いて過ごす事を伝える	1.いつもどおりの様子であった	自由時間中で、好きなパズルを自分の好きなタイミングで取りに行く事が出来る「自由感」と、本児のもともと持っている活発な面により、日頃から注意を受けているはずのスライディングを行ってしまった様子	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	自由時間で子ども達を見守っていた。スライディングをしているところは目撃しており、危ない事であることは声をかけて注意はしていた。しかしながら、泣いたり、痛がる様子がその時にはなかったために、また子どもからも痛みの訴えが無かったため、骨折していることには全く気付く事が出来なかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	加配の子どものそばで見守っていた。		室内では落ち着いて過ごす。	
675	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	25									2	2	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)	左足関節捻挫	8.その他	1.あり	2.不定期に実施		2.基準配置		活動するにあたり、適切な職員の配置を行っていましたが、引き続き配置数には気をつけ目配せにも注意していきたい	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	開園時は毎日実施	1.定期的に実施	開園時は毎日実施		引続き、定期的に実施していく。	1.集団活動中・見守りあり		今後も、戸外遊び中、子ども達全体の動きが見えるところに立ち見守ったり、変わったことがないか気を配ったり、または何か問題があったらかけつけたりして適切な対応ができるようにしていく。	1.いつもどおりの様子であった	ブランコを両足のつま先で止めようとし左足の甲が地面につき、バランスを崩して尻もちをついた後も、元気に走っていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	本児が、ブランコで遊んでいる横で見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	同学年2クラスで戸外遊びをしていたので、もう一クラスの担任もいたが、別の場所で子供たちを見ていた。		ブランコの止め方を、改めて子ども達と確認したり、ケガがないか、変わった様子はないか子ども達の様子を今後もしっかり見て、状況に応じて適切な対応が出来るよう。職員間で今回の情報を共有する。	
676	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	11	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	24									4	4	14.2歳	2.女児	食物アレルギーのため除去食提供（小麦・大麦・卵）	5.食事中(おやつ含む)	1.負傷		6.その他		食物アレルギーによるアナフィラキシーショック	6.アナフィラキシーによるもの	1.あり	2.不定期に実施	2	2.基準配置	除去食対応にも関わらず保育士が誤って本来のおやつのミニドックを配膳してしまった。	本児用お盆での提供。提供前に栄養士・園長・クラス内での声出し確認、担当保育士が必ず付く。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	24		・椅子・テーブルの固定。・おやつ・昼食前後の消毒。・食後の清掃・消毒 以上の徹底	6.食事(おやつ)中	除去食の配膳が最後になってしまった。	個人のお盆を使用し担当保育士が最初に配膳をする。	1.いつもどおりの様子であった	席に座り配膳を待っていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	配膳後本児が一口食べたのに気づき職員が急いで止めた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他児の対応をしていた。	除去食対応にも関わらず保育士が誤って本来のおやつのミニドックを配膳してしまった。	本児用お盆での提供。提供前に栄養士・園長・クラス内での声出し確認、担当保育士が必ず付く。	
677	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	2	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	40				14	11	15			4	4	18.6歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外顆骨折・左上腕肘頭骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	園外保育に対するマニュアルの内容、人員配置に問題はないと考える。	マニュアルの再確認を行う。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12	遊具の傾きや破損はなく、ルールを守れば安全に遊べるものであった。	特になし。	1.集団活動中・見守りあり	園外の遊具だったことから、普段遊び慣れていないことから、遊び方を誤り怪我につながった。	遊ぶ前に子どもたちに遊び方を指導すること、そばについた際は、その場で指導が必要。	1.いつもどおりの様子であった	元気に登園し、歩いて●●公園まで向かった。公園内でも、活発に遊ぶ姿が見られた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	公園内に遊具が３つあるが、１つに１人職員がついて子どもたちが安全に遊べるように近くで見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	公園内の遊具に１人ずつ職員がつき、残りの職員は、全体をみていた。	近くにいた職員が、飛び降りるところを止めることが出来なかった。事前に遊び方について子どもたちに注意を促していたが、再度注意する必要があった。	職員間での連携が取れなかったわけではないが、怪我につながるおそれがあることを職員間できちんと共有することが必要。	
678	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	68									4	4	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右環指打撲、右環指末節骨骨折の疑い	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	2	1.基準以上配置	本来、世話に行くはずのフリー職員が休憩時間を間違えた為、他学年から職員を頼んだ。	正しい時間に休憩をとる。人が少ない場合は対応できる職員が来てから世話を行う。	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	24	2.不定期に実施		–	ブロックを置かずにドアを改修する必要性があるのか検討する	7.その他	–	ブロックを動かすのは、大人が行う。	1.いつもどおりの様子であった	保育者よりも先に、子ども達だけで1.2分程先に行き、世話をしようとブロックを持った。	4.対象児の動きを見ていなかった	職員が靴を履き替える等、世話をする準備をしてから向かった為、子どもたちの動きを注意して見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育室にて、動物当番以外の子どもの保育をしていたため。	–	保育者も一緒に行けるよう、子どもと一緒に準備をする。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
679	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	8	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	175	2	6	8	53	57	49			41	32	16.４歳	1.男児	特になし	5.食事中(おやつ含む)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨頚部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	廊下に出た際には、廊下も見守る	トイレに行った際の廊下の様子も見守る	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎日	廊下に中央線を設け、右側歩行の指導	廊下を走らない指導を改めて行う	6.食事(おやつ)中	預かり保育中の安全確認	預かり保育中も廊下に出た際には見守る	1.いつもどおりの様子であった	おやつの準備中で、友だちよりも早く行こうとするため走ったようだ	4.対象児の動きを見ていなかった	保育室でおやつの準備を進めていたため	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当保育者と共に保育室の準備をしていた	２人で保育室にいて、廊下を見ている保育士がいなかった	廊下、トイレに行く際にはそちらを見る保育士も必要である	
680	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	7.午後	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	15									3	3	15.３歳	1.男児	身長：約90ｃｍ　体重：約15ｋｇ（●月時点）	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	非開放骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2	1.基準以上配置	–	担任の先生の経験不足からくるため、スキルアップの必要性	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	–	特になし	1.集団活動中・見守りあり	一人ひとりの間隔が不十分であった。	広い運動室または園庭で、かけっこの練習を行う。間隔も広くとる。	1.いつもどおりの様子であった	朝は静かにお部屋で過ごし、自由遊びではお友達と関わる中で、笑顔もあり活発に動く様子が見られた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	走り出す子ども達７名の全体を見ていた。（一番端の位置にて）「よーいどん」の合図をし、走り出した子を後ろから見ている形となり、本児が転倒したときには既に先に転んだ園児が本児に覆いかぶさった状態だった。すぐに駆け寄り二人を抱えて起こす。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	お帰りの準備のため、他の園児の支度や荷物の確認等を行いながら、７人の子どもたちが走る様子を見守っていた。	帰り支度の合間に行おうとしたため、子ども全体の活動が統一されておらず、保育士もかけっこの練習に集中できる状況でなかった。	年齢的な部分も踏まえ、特にケガを伴うかも知れない体を動かす活動を行うときは、計画的に安全を確保できる上で行う。	
681	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	18									4	4	14.２歳	2.女児		5.食事中(おやつ含む)	2.死亡	6.その他	0.死亡	0.死亡	急性脳腫脹型脳症	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	本事案はソフト面の不備等に起因するものではないと考えている。	引き続き危機管理マニュアルの内容を中心に園内研修等を行う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	本事案はハード面の不備等に起因するものではないと考えている。	引き続きAEDをいつでも使用可能な状態にする。	3.個人活動中・見守りあり	本事案は環境面の不備等に起因するものではないと考えている。	引き続き園児体調不良時の対応が適切に行われるよう配置基準以上の職員配置を行う。	4.具合が悪かった（熱発・腹痛・風邪気味等理由を記載）	発熱前は普段と変わった様子は見られず。発熱が認められ横になり休んでいる際に自力で起き上がり麦茶を飲んだ。その後視点集中・唇の血色の悪さ・嘔吐・けいれんが見られた。	1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	定時（10時）の体温測定により園児に発熱を確認した後、保護者に連絡し坐薬使用を相談。その後園児が視点集中・唇の血色の悪さが見られ他の職員に応援を要請するまでの間は園児とマンツーマンの状態であった。なお、担当職員が保護者に連絡している間は別な保育教諭が園児とマンツーマンの状態であった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	発熱以外の症状が出始めた際に応援の要請があり、担当職員のほか保育教諭２名が対応に加わった。（１名は担当職員と合流し園児の処置、もう１名が事務室へ事態の連絡。）	職員の対応（救急要請・応急処置）や連携（役割分担の判断）について問題はなかったものと考えている。	同様の事案が発生した際に対応できるよう救命救急講習受講を継続する。	
682	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	7	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	15					7	8			2	2	17.５歳	2.女児	●月●日ギプスが外れ完治した。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘頭若木骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	3	1.基準以上配置	平均台の設置位置が横向き。	職員及び子ども達へ、けがをした状況を周知する。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	13	1.定期的に実施	24	特になし	平均台のぐらつき等を点検する。		平均台の設置向きを変える。	子ども達へ、平均台はまたがず、横を通るよう知らせる。	1.いつもどおりの様子であった		2.対象児の至近で対象児を見ていた	近くにいたためすぐに気づき、砂を払う。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭にはいたが、他の子ども達を見ていた。	特になし	危険と思われる個所への人員配置をする。	
683	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	7	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	16									2	2	18.６歳	2.女児	R●.●に同部位を腓骨遠位端骨折	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右腓骨遠位端骨折、右前距腓靱帯損傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	なし	ソフト面に起因しない為、記載なし	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	１回/2年、保育士・用務技士24	1.定期的に実施	200	なし	ハード面に起因しない為、記載なし	3.個人活動中・見守りあり	活動に入る前の移動時であったが、本児の気持ちに急ごうとする気持ちや朝のぼんやりした気持ちがあったのかもしれない。	本児のせっかちな性格に気を付け、落ち着いて移動するよう声掛けをする。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	他児と同じ方向、木陰に向かっていつも通り歩いていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	痛がる様子があった為、確認し、患部を冷やして様子を見た。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	木陰に誘導する声をかけ全児の動きを見守っていた。	歩いて移動するという何気ない行動の中でも怪我は起こりうるという意識が欠けていた可能性がある。	骨折した経験があることを踏まえ、特に動きを気を付けて見守る。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
684	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	7	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	16	1	2	2	4	2	5	0		3	3	16.4歳	2.女児	なし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上肢（腕）骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2	1.基準以上配置	登園時の受け入れは複数職員で1部屋で行うルールを守らなかった。	園児受け入れ場所を必ず１部屋とし、検温等保護者対応の場所を未満児クラス入口とするルールを安易に変更しない。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	60		受け入れをする部屋に必要備品（検温器）やおもちゃなどを揃えて、保育にあたる。そのことにより、一部屋で保育し、必ず職員が子どもを見守る。	2.集団活動中・子ども達のみ		子どもだけでいる場所で、どのようなことが起こるのかを再認識するとともに、その危険性を自覚し、保育室や職員の配置を考えて保育にあたる。子どもたちだけでその場にいるという状況をなくし、必ず誰か一人は、子どもたちの様子を把握する。「誰も見ていなかった」ということがないようにする。今後、登園児は未満児クラスの玄関で検温を行ない、未満児クラスのみで過ごす。（この時間、２部屋に分けての保育は行なわない。）	1.いつもどおりの様子であった	7：40いつもとおり元気に登園	4.対象児の動きを見ていなかった	保育士が両方の部屋が見える廊下に出て、一人で交互に部屋の様子を見ていた。　転倒した瞬間は、お遊戯室内を見ていなかった。両方の部屋を交互に見ているということは、どちらか一方に背を向けることになる意識がなかった。事故が起きた時は、保育者がその部屋の中におらず、子どもだけの時間を作ってしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園児受け入れのため保育室外で検温をしていて気づかなかった。	普段の登園後は、以上児クラスで過ごしているが、この日は登園後、お遊戯室で自由遊びをしていた。登園児が増え、未満児が落ち着いて遊べなかったので、怪我につながると思い、お遊戯室→２歳以上児、未満児クラス→０・１歳児に分けて保育をした。登園児の受け入れは、各玄関で行なった。（この時、お遊戯室→●●、未満児クラス→●●がついていた。	子どもだけでいる場所のその危険性を自覚し、保育室や職員の配置を考えて保育にあたる。子どもたちだけでその場にいるという状況をなくし、必ず誰か一人は、子どもたちの様子を把握する。「誰も見ていなかった」ということがないようにする。今後、登園児は未満児クラスの玄関で検温を行ない、未満児クラスのみで過ごす。（この時間、２部屋に分けての保育は行なわない。）	
685	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	8	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	25									3	3	15.3歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨尺骨遠位端骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	2	1.基準以上配置	事故現場が築山裏で死角となってしまった	危険箇所と思われるところは職員配置の徹底をする。全職員共通理解	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	290	高所での遊び方（飛び降り、ふざけ合い、走り回り、押す等）のルールの徹底ができていなかった。	危険箇所や遊び方の見直しを園児と共に行う	1.集団活動中・見守りあり	数人での追いかけっこが盛り上がり、皆ハイテンションになる	子どもの気持ちが盛り上がりすぎていると見られた所で注意を促すべきだった	1.いつもどおりの様子であった	追いかけっこに夢中になり、逃げる際に勢い余り後ろの子に押される	2.対象児の至近で対象児を見ていた	片付けの時間となり、他の場所で遊んでいる子に声かけをしていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	「痛い」と言う声に気づき、すぐに現場に駆けつけ、負傷確認をし、職員室へ連れて行く	片付けと共に園児を集合させることを並行して行えなかった	死角になる場所に職員が行き、片付けを行う	
686	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	8	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	12									1	1	17.5歳	1.男児	なし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	中足骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施		1.基準以上配置	当日、1人の担任は遅番だったため、1人で見ていた。	フリー保育士の配置	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		基準より広い保育室	3.個人活動中・見守りあり		複数の園児がいる場合は、寝転がらないよう指導する。	1.いつもどおりの様子であった	活発な園児である。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	近くで見守っていたが、防ぎきれなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童を見ていた		けがをする可能性を常に考え、保育する。	
687	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	2	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	26									3	2	18.6歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右脛骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	特になし	気をつけて活動するよう再度注意喚起する	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	４8業務委託による点検は数年に開催	1.定期的に実施	毎	特になし	気をつけて活動するよう再度注意喚起する	1.集団活動中・見守りあり	楽しみながらも気をつける	気をつけて活動するよう再度注意喚起する	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り	2.対象児の至近で対象児を見ていた	ドッジボールの各チームのそばで見ていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	ドッジボールの各チームのそばで見ていた	特になし	気をつけて活動するよう再度注意喚起する	
688	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	50	0	0	0	14	18	18			4	4	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	随時	2.基準配置	なし	ソフト面に起因しないため記載なし	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	24	2.不定期に実施	随時	なし	ハード面に起因しないため記載なし	3.個人活動中・見守りあり	転んでそれほど痛くなかったと思われるので、おそらくその場に保育士がいなかったことと、遊びたい気持ちが先にあったと考えられる。	転んだ場合、自分では大丈夫と思っていても、近くにいる保育士に転んだことを伝えるように知らせる。	1.いつもどおりの様子であった		1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	職員とは関わっておらず、本児が三輪車にのって遊んでいたものと思われる。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	周りの状況を見ながら、対象児を確実に見てはいなかった。	環境設定には、ほかの職員も周りの状況を見て対応するべきであった。	外遊びの時には、必ず全体を見ている保育士と子どもと関わる保育士といたほうが良い。1対1で関わっていたとしても、クラスの子どもが何処で遊んでいるかということの把握も必要。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
689	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	12									1	1	15.３歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右脛骨亀裂骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施		1.基準以上配置	当日は、担任保育士がお休みだったので、代替（主任）保育士が保育をしていたため、日頃の子どもの動きの把握が不十分であった。	事故当日は、保育士１人の配置であったが、怪我をした園児が発達障害の診断を●●小児科より受けており、人的配置が必須であると判断したので常勤２人配置としている。	1.定期的に実施	4	1.定期的に実施	4	1.定期的に実施	4	今回の事故に関しては、ハード面に関係が直接ないので、従来行って来たチェックリストと振り返りの作業を踏襲し、安全性の視点を重視してゆく。	コロナ対策で、備品や玩具を消毒する事が多くなったので、消毒液での劣化なども含め安全点検を行ってゆく。	1.集団活動中・見守りあり	３才児１２名が横並びに並び、スタートしたが、１２人が横並びになった事で子ども同志の間隔が狭く、ぶつかりやすい状況だった可能性がある。	かけっこをする時は、一度に走る人数を少なくして、走りながらぶつかる事がないよう、保育士が間隔を調整する。	1.いつもどおりの様子であった	他児同様にグラウンドで遊んでいた、かけっこも一緒に行った。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	かけっこの途中で危険な場面もあるため、一緒に走りながら子どもの様子を見守った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	室内で次の生活の準備を行っていた。	体の使い方が下手な本児である。そのことを踏まえ見守りをしていたが、それ以上に大きな事故となってしまった。	危険な場面を想定し、様々な体の動きを踏まえて環境、保育設定を行っていく。	
690	令和6年6月10日	1.認可	3.保育所型認定こども園	1	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	19									2	2	18.６歳	2.女児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右尺骨近位端骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	3.未実施		1.基準以上配置	保育士が近くで見守っていたが一瞬の出来事で、落下を防ぐことができなかった	遊具の使い方の指導や見守る体制の見直し	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12	特になし	ハード面に起因しないため記載なし	1.集団活動中・見守りあり	しっかり見守っている中での事故であった	子どもの動きを想定してもっと注意深く見守る必要があった	1.いつもどおりの様子であった	比較的雲梯で遊ぶことが多く、慣れている	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児が落下するときに近くで見守っていたが防ぐことができなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	対象児以外の子どもたちを見ていた	遊具に対しての慣れと、慎重さが欠けていた	遊具を使用する前に、その都度約束や使い方を確認する	
691	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	3	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	60	0	0	0	16	21	23			4	4	18.６歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	随時	2.基準配置	なし	ソフト面に起因しないため記載なし	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	24	2.不定期に実施	随時	なし	ハード面に起因しないため記載なし	3.個人活動中・見守りあり	どのような飛び方のボールでもよけずに取ろうとする。	ドッジボール時のボールのとりかたの経験を重ねる。よけることも必要であることを伝える。	1.いつもどおりの様子であった	ドッジボールは積極的に参加しどんなボールでも飛んで来たら取ろうとする	2.対象児の至近で対象児を見ていた	ドッジボールは一人で見守り、その後指の動きや本児の生活の動きを観察する	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の子どもの動きを把握するためいろいろな所で、子どもたちを見守っていた	ボールをとる時の手の出し方等を話してはいたが、実際は事故が起こってしまった。	ドッジボールを経験しながら、覚えていくことが必要だと思う。	
692	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	2	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	8									1	1	16.４歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足外踝の剥離骨折と外側靭帯の損傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	12	1.基準以上配置	・思い切り走って遊んでいる中で、夢中になってしまい注意力が散漫になっていた。	・寒い時期には手首や足首を回したり準備運動をしてから遊び始めるようにする。鬼ごっこが楽しくてテンションが高くなり過ぎているように見受けられる時には、一旦落ち着かせるような活動に誘導する。	2.不定期に実施		1.定期的に実施	12	2.不定期に実施		逃げることに夢中で、思い切り走って勢いがあった為。	園庭の石や凹み等、転びやすそうな箇所の点検と直し	1.集団活動中・見守りあり		園庭の石や凹み等、転びやすそうな箇所の点検と直し	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	・担任も一緒に鬼ごっこしていて、追いかけるのが嬉しくて興奮気味だった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	一緒に遊んでいた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	室内にいる園児と一緒にいた。	思い切り走っている中で夢中になっていて、周囲を見ようとする注意力が散漫になっていた。	走って遊んでいる時など、転倒した際危険があることをもっと意識をさせるべきだった。	
693	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	1	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	14									2	2	18.６歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首の若木骨折（正式名称ではないとのこと）	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	特にない	途中からゲームに加わる園児がいる際は、一度ゲームを中断する。中当て中はジャンプをしないように園児に伝える。	1.定期的に実施	250	1.定期的に実施	50	1.定期的に実施	250	特にない	何もない園庭（地面）での怪我であり、特に改善策はない	1.集団活動中・見守りあり	特にない	ゲーム時に起こりえる危険を予め園児に伝え、注意喚起する。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	本児の大好きな活動であり、登園の際にすでにゲームが始まっていたことで、早く加わりたい気持ちがあった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	園庭で一緒にゲームに加わっていたため、2人とも対象児を近くで見ていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭で他のクラスの見守りをしていた	対象児は中当てが大好きな活動であるため、ワクワクした気持ちからフィールド内でジャンプをしていた。	ゲーム時に起こりえる危険を予め園児に伝え、注意喚起する。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
694	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	24									2	2	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右第5指基節骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	事故防止マニュアルをすぐに思い出せなかった	定期的にマニュアルの確認を行う	1.定期的に実施	290	1.定期的に実施	51	1.定期的に実施	290	使用していたボールが硬かった	幼児にあった硬さのボールで遊べるようにする	3.個人活動中・見守りあり	投げたボールをキャッチすることに慣れていなかった	柔らかいボールを使えるよう準備する	1.いつもどおりの様子であった	転がしドッチボールから普通のドッチボールに興味をもち、ボールを投げて遊ぶことが楽しく、保育者や友達を誘いボール遊びをしていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	友達と遊んでいたため、近くで見守っていた。本児がボールを取り損ね、指にボールが当たり、痛みを訴えたため、指を確認。握ったり、ひらいたりできたため、様子を見た。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	午睡後、まだ部屋に残っていた子どもの対応をしていた。	痛みを訴えた後も、本児が遊びを続けた	痛みを訴えた時は、すぐにやめさせる	
695	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	5	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	20									3	3	15.3歳	1.男児		8.その他	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	本児と今回関わった児童の関係が、この間特に緊密になり、ふざけて遊んでいるとき、少しエスカレートしてしまったと思われる。	あそんでいる姿は把握していたが、今回のことから、起こりうる可能性を視野に置き、声掛け等更に配慮する。	1.定期的に実施	4	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	4		昼寝布団の上で遊んでいた時の怪我の発生を、クラス全員にも伝えて、遊ぶ時の注意点を確認したり、担当職員で再確認する。	3.個人活動中・見守りあり	この間、家にも遊びに行くほど仲良くなっていたので、遊びが激しくなっていたと思われる。	遊び方をもう少し注視(声掛け等も含め)するべきだった。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	給食が早くに食べ終わり、着替えも済ませ、遊びたい気持ちが強くあったと思われる。そこへ仲良しの友達が来たので、お互いに興奮気味になってしまった。絡み合うように遊んでいて、本児が腹ばいになっているとき、他児が背中に乗って重たかったとのこと。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	給食の片付け等をしていた。他児のほうが、まだ着替えていなかったので、早く着替えるように声をかけていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	食べるのが遅い児童の対応や、テーブル等の片付けをしていた。		室内は、着替えをしていた4～5人と、着替え終えて、遊んでいたのが３人のみで、安心していたところがあったので、起こりうる可能性を意識していく。	
696	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	2.1歳児クラス	8		8							4	4	13.1歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	ヒヤリハットを報告しあって危険な場所、行為、遊び方など話し合ってきたが、徹底されていなかった。	研修を当番等で出られない職員は研修記録を回覧するだけだった。研修は回数を分けて、全員が参加できるようにしていく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎日	「いつもじょうずにできているから」という保育教諭の慢心があったのではないか。	事故予防マニュアルの内容を加えたり、全職員で確認しあったりする。	1.集団活動中・見守りあり	緊張感が薄れていたのではないか。	子どもから、目を離さないようにする。	1.いつもどおりの様子であった	園でも家庭でも、滑り台の階段を登ることが好きで、喜んで遊んでいた。	1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	「いつも上手に上がれているから、」という気持ちがあった。お尻を軽く支えながら、階段を上がるのを見守っていた。今日も上手に上がれたと思い、他にも登りたい子はいるかなと、後ろを振り向いた時に本児が転落してしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	コンビカーに乗る子(２か所)、ブランコで遊ぶ子をそれぞれ、２，３人ずつ見ていた。	戸外遊びをする前に、保育教諭同士で安全に遊ぶ確認ができていなかった。	１才児が使用するのに適した固定遊具だろうか、考え直す。	
697	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	41				9	14	18			3	1	17.5歳	2.女児	特になし	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首の骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	特になし	7.その他	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	前を歩いていた弟が転び、それを避ける事ができず、躓いて前に倒れた。	4.対象児の動きを見ていなかった	保護者に子どもを引き渡し、保育室から本児が出た為、見る事できなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保護者に子どもを引き渡し、保育室から本児が出た為、見る事できなかった。	特になし	特になし	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
698	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	6	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	39				13	12	14			4	4	16. 4歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右中指骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	2	1. 基準以上配置	－	今後の研修の際には、このような事例があったことを引き続き職員に周知していく。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	－	室内で遊ぶ際、安全スペースが確保できるよう遊具の位置に気を付ける。	1. 集団活動中・見守りあり	－	合同保育中の人数が多い時には、活動の場を分けて、子ども達の密集を防ぎ、安全に遊べるスペースを確保する。	1. いつもどおりの様子であった	他児から「この子を抱っこして」と言われたため。	4. 対象児の動きを見ていなかった	対象児から少し離れた位置にいたこともあり、発生時を見ていなかった。泣いている声に気付き反応したが、すでに転倒した後だった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	ホール全体を見ていたり、他の子どもと遊んでいた為、その瞬間は見ていなかった。	声掛けで防ぐことができた可能性がある	子ども同士の抱っこはしないよう、子ども・職員に周知する	
699	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	8	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	5. 4歳児クラス	12									2	2	16. 4歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	基節骨骨折（右手小指）	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	1	2. 基準配置	－	引き続き、事前に走らないことを伝える。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	2. 不定期に実施	使用の都度	－	引き続き、点検を行う。	1. 集団活動中・見守りあり	－	落ち着いて行動できるよう声掛けをする。	1. いつもどおりの様子であった	普段から慌てて行動する傾向があり、当日も早く列に並びたい気持ちがあり慌てて列に向かって走っていた。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	玩具の片付けをしている子どもの側につきながら、並んでいる子どもの様子も見ていた。本児が走って列に並ぼうとする姿が見られたので、走らないよう声掛けをしたが、耳に入らず制止が間に合わなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	動きの大きい（支援が必要な）他児の側についていたため、見ていなかった。	－	子どもに声をかけながら怪我のないよう行動を見守る。	
700	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	7	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	13									1	1	18. 6歳	1. 男児	特になし	8. その他	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕顆上骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	1	2. 基準配置	特になし	特になし	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	特になし	特になし	2. 集団活動中・子ども達のみ	保育士は、前に転倒した時に児童達は両手が出ると考えていた。	身体の使い方を知れるよう様々な活動を取り入れていき、大きな怪我に繋がらないようにしていく。	1. いつもどおりの様子であった	今回は咄嗟のことで両手をつくことができなかった。	4. 対象児の動きを見ていなかった	他の児童の保護者対応で降所の手順を伝えるため対象児から目を離していた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	１人担任のクラスの為、他の職員は配置されていなかった。	コロナ禍期間、運動活動の時間量が少なくなり、子ども達が怪我をしにくい身体の動かし方など経験量が少なかった事も要因と考えられる。	個々に子どもの動きを把握し、危険な行動が続く場合は、他のクラスにも協力を求めるようにしていく。運動活動を意識して取り入れ、身を守る動きを伝えていく。	
701	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	8	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	3. 2歳児クラス	14									3	3	14. 2歳	1. 男児	特になし	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左第一中足骨剥離骨折	8. その他	1. あり	2. 不定期に実施	1	2. 基準配置	特になし	特になし	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	特になし	特になし	1. 集団活動中・見守りあり	日頃から本児の体幹の弱さを感じていたが、絨毯に足を引っ掛け、骨折する事は予測していなかった。	改めて役割分担の内容を明確化して児童の行動を把握できるように全体を見守る職員を作る。児童の体幹の弱さを把握していたので、運動活動を意識して取り入れ、身体作りをしていく。	1. いつもどおりの様子であった	・体幹が弱く、足を引きずって歩くことが日々、多い。歩き回りながら足が上がらず絨毯に引っ掛けた可能性がある。	4. 対象児の動きを見ていなかった	・全体に玩具の片付けするように声をかける。室内を走り回る児童がいたので、危険がないか目で追いながら声をかけ対応する。そのため対象児から目を離していて全体の児童の把握が出来ていなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	・片付け後に牛乳を飲むため、机の設置をしていたため、対象児から離れていた。・他の児童と共に玩具の片付けをしていたため対象児から目を離していた。	保育士3人の中で役割分担はされていたが、全体をお互いに見ていると考えていて怪我の原因について把握ができなかった。	複数担任の場合、リーダーになる職員は、全体を見るようにする。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
702	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	7	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	14									3	3	15.3歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右腓骨遠位端骨折(剥離骨折)	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	数	2.基準配置	-	定期的にマニュアルの読み合わせや、ヒヤリハットより子どもの動きから予想できる対応を職員会議等で考えていく	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	48	-	引き続き安全確認チェックを行い環境を整えていく	3.個人活動中・見守りあり	-	子どもの動きを予測しながら安全に遊べるように見守りを続けていく	1.いつもどおりの様子であった	8:00に登園。クラス内で保育をいていたが、本児の落ち着けて活動できる遊戯室に移動し活動をする。その活動の中で、平均台渡りを楽しんでいた。	1.対象児とマンツーマンの状態(対象児に接していた)	1対1加配児のため、保育士がそばで見守り平均台渡りも手を添えて活動していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児はクラス活動中だったため、他の職員はいなかった。	-	子どもの動きを予測しながら、すぐに対応できるように引き続き見守る	
703	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	7	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	12	3	9							4	4	13.1歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷性歯の脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	5	2.基準配置	おもちゃの管理、現場を離れる時の声掛け	0歳児はおやつや食事で3人の食べ終わりに差があるので動き出すことと食べ終わらない子がいるため声の掛け合いが必要だった	1.定期的に実施	50	1.定期的に実施	50	2.不定期に実施	3	0歳児の3人の担任一人担任のため3人の月齢により動きが違い一人だと動きの違いについていけないのでまわりの職員に声をかけていくことが必要である。	動きに違いがあるのでおもちゃや周りの環境を整える必要がある。	1.集団活動中・見守りあり	0歳児担任が休みで1歳児クラスと合同で人数が多く子どもの様子が見えにくい	合同保育の場合流れをお互いに確認する必要がある	1.いつもどおりの様子であった	おやつを食べ終わり立ちだし、おもちゃを口に入れて動き出した。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	まだ食べ終わってない子の様子を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	0歳、1歳の合同保育でフリーが一人入っていて0歳が落ち着いていたので1歳の手伝いをしていた。	0歳児と1歳児のおもちゃが発達的に違い1歳児クラスでおやつを食べていたため普段からなじみのないおもちゃがあった。	合同保育の場合おもちゃの管理を考える必要あった。(おもちゃを出さないなど)	
704	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	7	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	49				15	16	18			5	5	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右ひじ骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施		1.基準以上配置		マニュアルの再度確認し、職員全体で共有する	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		施設不備などないよう、職員確認時に徹底する	1.集団活動中・見守りあり	鉄棒あそびをしていた	見守りの強化、今回の事故をきちんとマニュアルに残し今後の事故防止強化につなげる	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	鉄棒あそびが楽しく、得意になっていたので新しい技に挑戦した	2.対象児の至近で対象児を見ていた	2つの鉄棒あそびを見守っていたが、落下する瞬間には間に合わなかった	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	園庭遊びの際、危険な所には必ず職員が見守っていた		再度、園庭遊び中の危険個所の確認を職員全体で共有し見守り強化をはかる	
705	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	10									2	2	18.6歳	1.男児	普段から落ち着きがなく活発なお子様であり、事故発生当時もやや気分が高揚していた。	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	なし	園内研修、職員会議等で事故発生時の詳細と事故防止策として話し合い、全職員に周知する	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	なし	年長児なので就学に向けて様々な経験をすることは重要だと思う(イスを持って移動するなど)ので、安全な環境を維持しながら進めていく	1.集団活動中・見守りあり	1)プレイルームの壁面に気を取られ、補助の保育士の声掛けも届いていないようだった。 2)ほとんどの子がテラスからクラスに入室している様子を見て、当該園児は焦った様子であった。 3)補助保育士が担任保育士ではなかったので、指示が入らない様子が見受けられた。イスの背もたれのパイプに腕をかけたので再度注意をしたが、一度保育士の顔を見て走り出し転倒した。	1)焦って走らないように先頭職員は間隔を見ながら全体が見られるように歩き、危険な場合は止まって指導出来るようにする。 2)危険な行為を見たらすぐに止めて、指導をする、もしくは、保育士が対応する。	1.いつもどおりの様子であった	・作品展の片付けで、少し気分が高揚していた。 ・普段から活発な園児で、注意する声掛けが多かった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	・年長児は順次降園し、10人であった。担任はイスの持ち方、歩いて行く事を声掛け、テラスを通りクラスに戻る。先頭の担任はクラス入り口で、室内とテラスを歩いている園児の様子を見守っていた。 ・手伝いに入っていた3歳児クラスの職員が最後尾の当該園児のそばにおり、前を見る事、イスをきちんと持つ事、歩く事が出来ていなかったので声を掛けていた。走り出したので危険を察知し、制止しようとしたが間に合わなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	・プレイルームを出てテラスのところで事故が発生し、他のクラスの担任はおやつの片付けをしていた。 ・3歳児の担任は順次降園の保護者対応などしており、偶然にも転倒した瞬間を見ていた。	1)当該園児は、作品展の片付けで、気分が高揚していた。また、プレイルームの壁面に気を取られ、保育士の声掛けも届いていないようだった。 2)ほとんどの子がテラスからクラスに入室している様子を見て、当該園児は焦った様子であった。 3)担任保育士ではなかったので、指示が入らない様子が見受けられた。イスの背もたれのパイプに腕をかけたので再度注意をしたが、一度保育士の顔を見て走り出し転倒した	1)焦って走らないように先頭保育士は全体と間隔を見ながら歩き、危険な場合は止まって指導出来るようにする 2)危険な行為を見たらすぐに体を止めて、指導をする 3)気分が高揚していると感じた時は水分補給や、読み聞かせなどして落ち着かせてから、次の行動に移る	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制												事故			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事者		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳									うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他								死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】							理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
706	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	9	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	39					20	19			5	5	17. 5歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右上腕剥離骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	1	1. 基準以上配置		ヒヤリハット報告の他に、事故予防についても園内研修を設けるようにする。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	1回/日		現在も鉄棒の下に人工芝は敷いているが、事故防止のため日々危険個所の点検を行う。	1. 集団活動中・見守りあり	園庭で遊ぶことが久し振りだったので、事前に遊ぶ時の注意事項を子ども達に伝えるとともに、職員もそのことを認識するべきだった。	鉄棒使用時は必ず職員がその場に居るようにしているが、落ちる瞬間に職員が手を出せず防ぐことができなかった。引き続き鉄棒は職員が付ける時以外使用しないようにし、子どもが落ちても対応できるような体制を整える。	1. いつもどおりの様子であった		2. 対象児の至近で対象児を見ていた	対象児が手を放してしまった際に対応できるよう、補助をしていたが、不意に対象児が手を放してしまった際に、対応ができなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭が横長に広いので、点在してそれぞれ至近の子どもを見ていた。		至近の子どもを見ながらも、周りの状況の把握に努めるようにする。	
707	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	9	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	26					13	13			2	2	17. 5歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	1	1. 基準以上配置		子どもの行動を予測し、危険が回避できるよう危険予知訓練を研修等で行う。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	0. 5	1. 定期的に実施	毎日		子どもの人数を確認し、多い場合は合同をせずに広いスペースで過ごす。	1. 集団活動中・見守りあり	子ども自身、周りをよく見て行動する等、安全教育をしていく。	子どもの行動を予測し、危険が回避できるよう危険予知訓練を研修等で行う。	1. いつもどおりの様子であった	いつも通りの状況であった。	4. 対象児の動きを見ていなかった	全体を見ていたため、けががをした本児がけががをした瞬間は見ていなかった	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	転んで倒れていたところは見た。		常に子どもが見えるような位置で見守りをする。	
708	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	4	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)													15. 3歳	1. 男児		7. 登園・降園中(来所・帰宅中)	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右脛骨骨幹部骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	1	2. 基準配置		今回は、母親と登園中の出来事だったため、改善策はない	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	1		母親と登園中の出来事だったため、特になし	7. その他		こどもたちに階段を降りるとき、ジャンプしないように指導する。	1. いつもどおりの様子であった	元気に母親と登園してくる。	4. 対象児の動きを見ていなかった	預かる前の状況のため、担任は見ていない。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	通りかかった職員が、声をかけて対応した。		母親と登園中の出来事だったため、特になし。	
709	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	1	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	43				13	14	16			4	3	18. 6歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕骨通顆骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	3. 未実施		2. 基準配置	担当職員２人のうち１人は担任以外のフリーの保育士だった。	担任以外が応援で保育に入る際はより一層子どもの状況を情報共有して保育にあたる。	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	12	手作り遊具に破損等は見られなかった。	ハード面以外に要因が考えられるため、改善策はなし。	3. 個人活動中・見守りあり	職員４人で４４名を園庭で見るにあたり全体を見ている担当を決めておらず、それぞれがそれぞれの保育をして連携が取れていなかった。	職員全体で園庭での保育の連携について再度確認する。	1. いつもどおりの様子であった	以前から園庭には設定していることはあったが、対象児は初めて遊んだ手作り遊具だった。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	・対象児の遊びは見ていたが５歳児で危ないことをするとは思わなかったので、他児の対応をするためにそばを離れた。 ・応援者は危ないと思ったが、対象児は５歳児で経験がある、遊び方はクラスで確認していると思った。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	・担当クラスの園児と作成した氷を見ていたため、対象児を見ていなかった。 ・伝い歩きをしていた特別支援児についていたため、対象児を見ていなかった。	ケガにつながるかもしれないという危険予測が不足していた。	職員全体で過去におこったヒヤリハットから振り返りや検証をおこなったり、イラストや写真を使った危険予知トレーニングをおこない安全に対する視点を養う。	
710	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	2	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	13									2	2	17. 5歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	3	1. 基準以上配置	特になし	職員配置を増やし、要所要所で見守る	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	1回/週	1. 定期的に実施	1回/日	特になし	避難用として設置されているため、現時点では構造的に改善は難しい。	1. 集団活動中・見守りあり	・スロープを固定する為の縦の柵に小指が引っかかった。 ・乾燥している時期の為、滑りやすかったか。	訓練時など避難用らせん滑り台は必ず職員が付ける時に利用とし、目的を持って使用する。	1. いつもどおりの様子であった	・柵を握っていなかった。 ・寒さの為、柵を握りづらかったか。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	・子どもたちが滑り降りてくるのを下で見守っていた為、本児と至近距離ではなかった。 ・手を離した本児に柵を持つように伝えていなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	・集会が始まるため見ていなかった。 ・５歳児が避難用らせん滑り台を滑り降りることを他職員は知らなかった。	・避難用らせん滑り台の要所要所に見守る職員がいなかった。	・滑る時の柵を握る位置や握り方を伝えていく。 ・避難用らせん滑り台の上下に職員が付き一人一人の滑り方を把握していく。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
711	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	2	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	10									1	1	18.6歳	1.男児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足踝剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2	1.基準以上配置	予測は困難であった。	外遊びのルールについて職員間で話し合う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	段差などもなくつまずく要因はなかった。	引き続き安全対策に努める。	3.個人活動中・見守りあり	体の動き	好む遊びを把握し動きを予測する	1.いつもどおりの様子であった	危険な様子はなかった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	危険な様子はなかった。スライディングをすると思わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他クラスの園児をみていた。	危険な様子はなかった	特に見当たらない	
712	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	12	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	74				24	25	25			5	5	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足首くるぶし付近骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	特になし	該当なし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	該当なし	3.個人活動中・見守りあり	特になし	該当なし	1.いつもどおりの様子であった	普段と変わりなく園庭での遊びを行っていたが、それだけに危険への意識が薄れていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	本児の後方にいて目撃したが、体を支えるには間に合わなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	本児が走っていて少しバランスが崩れたように見えたが、怪我に至る認識ではなかった。	なし	今回の状況では職員が事故を防ぐことは困難であるが、可能な限り未然に防げるよう児童の行動を注視する。活動の切り替わりの際等は特に気を付ける。	
713	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	12	8.夕方(16時頃〜夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	10				1	4	5			2	2	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	肘の外果骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	滑り台を利用する際は、一人ずつ座って滑る、物を持ったまま滑らない。	滑り台を利用する際、複数の子が遊んでいる際は行き来する子ども達がぶつからないよう、方向を示す。鬼ごっこ等をしながら行うと周囲が見えなくなり危険なため、しないよう伝える。	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	1	2.不定期に実施	12	対象児の想定外の行動により、施設・設備などでは防げなかった。	定期的に行う	1.集団活動中・見守りあり	公園は園のすぐ側にあり、約週3回利用している	本児にも声をかけており、大人は二つの固定遊具を見渡せる位置にいたため、改善するところはない。	1.いつもどおりの様子であった	繰り返し遊ぶことをとても楽しんでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	滑り台と鉄棒の間に立ち、滑り降りる子を見ていた。複数の子が滑り台であそんでいたため、滑り台を繰り返し続けようとした本児の行動を見届けることまではできなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	滑り台で遊んでいる以外の子をと関わっていた。	なし	本人が滑り台で遊ぶことにより、高揚していた為、そのような時は行動を見届ける。	
714	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	2	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	5.4歳児クラス	17									2	2	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	2	1.基準以上配置	安全認識、危機管理不足	事故予防マニアルの作成、事故予防の園内研修、外部研修への参加	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	公園の環境全体・安全面を確認する。	1.集団活動中・見守りあり	4歳児に向けての安全教育の欠落、保育者の安全過信がみられた。	保育者への「見守り」の再教育と各年齢(クラス)にあった安全教育が必要である。	1.いつもどおりの様子であった	日頃より落ち着き無く、多動な傾向にある。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	保育者２名二手に分かれ見守っていた、対象園児より距離があった為「木から降りて」と声をかけた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の職員はかなり遠くにおり、木から墜ちる所は見ていた。	適切な保育内容が、担任同士で共有されていなかった。	年齢にあった保育の設定、日頃からの子どもと保育者の関りを園内で見直していく。	
715	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	2	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	15									2	2	18.6歳	2.女児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2	2.基準配置	児童への啓発活動は随時行っているが、修了間近になり、気持ちの緩みが出てきている。	今後も所庭へ出る際は、職員が複数名いられるように体制を整えていく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	所庭の地面の状況は問題なかった。	引き続き、定期的な所庭の点検が必要。	3.個人活動中・見守りあり	コロナ禍により、子どもの体力の低下や身のこなしの乏しさが考えられる。	準備体操も継続して行い、他児への注意喚起を行いながら、体を動かす遊びを取り入れていく。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	いつも通り、準備運動も行った後の鬼ごっこであったが、大股で走っていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	対象児の動きを見ている職員はいなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	対象児の動きを見ている職員はいなかった。	午睡明け、おやつ後の所庭遊びは準備運動をより念入りにする必要がある。	所庭での遊びの場合、児童全体を見渡せる職員の配置を考える。	
716	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	2	1.朝(始業〜午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	80		13	15	16	18	18	0		22	16	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	顔面打撲外傷性脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	事故防止について,職員の意識が薄れていた。	遊びのルールについての確認を年度当初に行うだけではなく，週案会議等でも定期的に確認をしていく。	1.定期的に実施	50	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	290	施設の安全点検をする際に危険個所としての認識が足りなかった。	園児が衝突する危険性を考え，すべり台の支柱をウレタン製の棒状のクッションで保護する。	1.集団活動中・見守りあり	園庭には2歳児から5歳児が出て遊んでいたため，衝突も起こりやすい状況であった。	全年齢で振り返りを行い，園庭の利用時間など工夫し安全に遊べるようにしていく	1.いつもどおりの様子であった	友だちと誘い合い，追いかけっこをしていた。振り返りながら走り周りが見えていない状況で，前を向いたとたんにすべり台の支柱に顔面をぶつけてしまった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	やや離れたところから，対象児が追いかけっこをしているのを見ていた。対象児の動きを予測できず声かけができなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	2歳児の職員が近い距離で，対象児が追いかけっこをしている様子を見ていたが，対象児の動きを予測できず，防ぐことができなかった。	2歳児から5歳児が園庭で遊んでいる状況で，各年齢保育士は，基準配置をしていたが，全体を見て危険を察知することができていなかった。	自分のクラスだけではなく，全体を見ていくことを周知し，安全を確保していく。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
717	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	3	6.午睡中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	20								一時保育	17	16	18.６歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右前腕尺骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	1	2.基準配置		事故発生時の配置等に大きな問題はなかったと考える。「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」等を活用し、所内の情報の共有を徹底する。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	毎日		ハード面の問題は確認されなかった。また、点検は定期的に実施されており、安全は確認されていた。	1.集団活動中・見守りあり	午睡をしていなかったため、普段より疲れがたまりやすく、集中力が低下しやすいタイミングであったと思われる。	一人ひとりの体力や集中力の低下に留意し、保育する。	1.いつもどおりの様子であった	機嫌や体調共に普段通りの様子であった。所庭では、友達と一緒に鬼ごっこをしていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	担当保育士は全体を見守りながら、他の子どもの遊びにも参加していた。本児が転倒したことにはすぐに気がつき、対応した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	事故時に所庭で見守りをしていたのは担当保育士のみだった。		子どもたちが午睡をしていない時など、普段より疲れやすく、けがをしやすい状況を十分に配慮したうえで、保育を行う。	
718	令和6年6月10日	1.認可	3.保育所型認定こども園	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	2	0	1				1	0		2	2	17.５歳	2.女児	特になし	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨遠位端骨折並びに左尺骨の骨折	4.玩具・遊具等施設・設備の安全上の不備によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	転倒の要因となった平均台に対する危険認知度がなかった。	安全委員会において、再度危険に対する認識を高める	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	転倒の要因となった平均台が、通路に置かれていた。	平均台は通路から撤去	7.その他	1.　対象児は、園庭・保育室で自由遊びしていた後、迎えに来た保護者に引き渡す。2.　事故を担任は気付いていない。	事故に気づいた保育士は、担任と残りの職員に知らせ、状況把握と速やかな対応を行う。（ほうれんそうの共有）	1.いつもどおりの様子であった	普段から、当該児が、１歳児のいる保育室に行くことがある。	4.対象児の動きを見ていなかった	以上児の延長保育担当は、以上児の室内で遅番の保育をする。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	未満児の延長保育担当は、１.２歳の保育室内で1.2才児の保育をする。	保護者に引き渡した後のため、対象児に意識が向けられていない。	1.　引き渡し後であっても、在園中は、児童の行動に保護者と共に安全意識を持つこと。2.　事故後のケガの把握、その後の経過の把握（ほうれんそうの徹底）	
719	令和6年6月10日	1.認可	3.保育所型認定こども園	6	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	55	0	9	10	10	12	14	0		8	8	17.５歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨骨幹部開放骨折、左尺骨骨幹部骨折、左上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	1.子どものやりたいことの理解を深め、約束事など子どもと話し合いを積み重ねていなかった。	1.　発達に合わせて，　挑戦したい気持ちを理解し、体をたくさん使う体験を増やす。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	飛びついた枝にぶら下がることが可能か、話し合っていなかった。	枝にぶら下がることによる折れる危険性と木に対する労りを伝える必要がある。チャレンジする気持ちとやっていい状況を話し合う	3.個人活動中・見守りあり	木登りを自由遊びの中でどのように取り入れていくか、保育者同士の共有化が不足していた。	園庭や自由遊びの中で育まれる姿の再構築⇒個々の保育者の考え、各クラスの保育者の考え、園全体の考えへと双方向で構築する。	1.いつもどおりの様子であった	いつもの木を対象にした遊びから発展し、別の木に向かって新たな挑戦をした。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児の動きを担当職員一人が見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれのクラスの子どもたちと関わっていたので、複数の目で対象児の行動を視る観点がない。	自己成長につながるチャレンジと捉えていた。	1.　失敗と成功を繰り返し、試し行動する行為を尊重することで、自己成長につながる。2.　ケガの可能性についても、見通しを持ち、言葉かけるかどうか検討する。	
720	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	16									1	1	17.５歳	2.女児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左踝剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	3～４	2.基準配置	普段からヒヤリハット報告書の提出は行っていたが、具体的な検討会はしていなかった。	要因の分析や事例検討を強化していく。	1.定期的に実施	１～２	2.不定期に実施		2.不定期に実施		保護者、職員との手作り園庭であるが、点検表はあるが安全対マニュアルの作成はなかった。	安全点検マニュアルの作成と点検表を再検討する。	1.集団活動中・見守りあり	他児に気を取られることがなく、全体的に落ち着いて遊んでいた。	本児の位置が等が職員からみえない位置であったため、職員が寄り配慮し、死角を見逃さないよう行動する。	1.いつもどおりの様子であった	対象児がいつもと同じような行動をしていたので、気に留めることがなかった。	4.対象児の動きを見ていなかった	築山で対象児の動きが見えないところにいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当職員一人で見守りをしていた。	当日の保育士の立っていた位置が本児の行動の様子が見えにくい位置であった。	今後は保育士がなるべく子どもたちの様子が死角になって見えないことのないよう注意しながら見守る。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因
721	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	3	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	30				15	15				4	3	17. 5歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右橈骨尺骨骨折	1. 遊具等からの転落・落下
722	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	5	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	21									3	3	17. 5歳	1. 男児	特になし	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの
723	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	2	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4. 3歳児クラス	20									9	8	15. 3歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右大腿骨骨折	8. その他
724	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	5	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	28									1	1	17. 5歳	1. 男児	特になし	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの

No	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策
721	1. あり	2. 不定期に実施	不定期	1. 基準以上配置		教え方、補助の仕方を全職員で学び、園児にも回り方等を指導していく。通常1台の鉄棒で2名同時に利用しているが、1人で回ることが難しい園児の場合には、1台に1名での利用とする。	1. 定期的に実施	24	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	複数		鉄棒下にゴムマットを敷いている。砂等で鉄棒が滑る際にはすぐに拭く。
722	1. あり	2. 不定期に実施	3～4	1. 基準以上配置	外遊びを見守る保育士の人数は足りていたが、1人先に入室する際に声かけをしていなかった。	見守り人数が減る場合には、職員同士声をかけあい、立ち位置を確認し合う。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	12	所庭の地面が乾燥し、滑りやすい状況であった可能性がある。	所庭遊びをする際には、所庭の地面のコンディションを確認し、滑りやすい場合は水を撒く等行う。
723	2. なし	2. 不定期に実施	4	2. 基準配置	園庭に出る前に児童に遊び方を話しているが、安全な戸外遊びについて職員の認識が十分でなかった。４人の職員の見守る位置が適切ではなかったのではないか。園庭内での遊び方（内容）が周りの状況を踏まえて適していたのかが問題。	事故予防マニュアルを作成する。職員は、ひとり一人の遊び方を把握し、危険が予測された場合は、未然に防ぐことができる位置に立ちその都度、注意をはらう。園庭のスペースと児童数を考慮し遊びの内容や遊び方を工夫する。密集度を考慮し、園庭使用の時間配分をする。園庭で立ち位置から見守られる範囲を検証し、職員の立ち位置を明確にする等、因果関係を究明する。安全な保育について園内研修を持ち、周知すると共に安全な保育について意識を強化していく。児童には、遊びについて教材を活用し安全や危険を認識できるよう繰り返し伝えていく。	2. 不定期に実施		1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	毎日	見守りの範囲が広範囲でなく、見落としてしまうスペースが生じてしまった。	全体を見守る体制をとるが、死角になる箇所を把握し職員を配置する。
724	1. あり	1. 定期的に実施	1	2. 基準配置		基準配置ではあったが、保育教諭２名以上で見ることも可能な状況だった。場面に応じて、事故のリスクが高いと思われる場面では、基準配置以上の保育体制を準備するべきであった。	2. 不定期に実施	3	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	12		登り降りを楽しむ遊具であるが、走って楽しむ場合もあることを考え、配置場所の再検討や職員間での遊具の特徴の把握などの対応を実施する。

No	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
721	1. 集団活動中・見守りあり		高さの違う2つの鉄棒に２名ずつ、計4名の園児がいた。技などで援助が必要な際には1回に利用できる園児の数を減らす。	1. いつもどおりの様子であった	他児と交代しながら鉄棒で遊んでいた。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	２つの鉄棒の中間で見守りや補助を行っていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	2名は砂場を見守り、1名はグラウンドを見守っていた。		危険予測をし、落下の可能性がある子に対しては注意深く見守り介助する。	
722	1. 集団活動中・見守りあり	追いかけ遊びのため、タッチの際に力が入った可能性がある。	追いかけ遊びの際にボディタッチをする時の位置や強さ等を事前に子どもたちに伝える。	1. いつもどおりの様子であった	特に変わった様子なし	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	自由遊びの時間だったため、『どろけい』だけでなく、その他の遊びをしている子どももいた為、全体を見渡せる位置にいた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	固定遊具で遊んでいる子がいたため、固定遊具のそばで見守りをしながら、全体の動きも見ていた。	本児の体幹が弱く、以前より転ぶ姿がよく見られていた。	身体の姿勢保持や、いろいろな身体の動きを意識した遊びを保育に取り入れ体幹を鍛える。	
723	1. 集団活動中・見守りあり	それぞれの立ち位置から4人の保育士が見守っていたが、実習生と児童の遊び（鬼ごっこ）の動線をしっかり予測できていなかった。限られたスペースで児童が遊びたい遊びに対し、十分なスペースを確保して行われていたか、遊びの内容に問題があった。	きめ細かな見守りを意識し安全な環境の中で戸外遊びを行う。密集度を下げクラス数を減らす。十分なスペースを確保し遊ぶ。児童からのやりたい遊びに対し、他児童の遊びの状況を十分把握したうえで行う。	1. いつもどおりの様子であった	いつも通り元気に登所し過ごしていた。	4. 対象児の動きを見ていなかった	担当職員は、対象児と至近距離ではなく、園庭中央部に位置し対象児と反対方向の他児童の遊びを見ていた。実習生の動きを把握できず、対象児と衝突する瞬間を見逃してしまった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれの立ち位置で違う方向で児童を見守っていて、対象児の方向を見ていなかった。実習生の動線の予測ができていなかった。	園庭にいた４人の職員が、広範囲を見渡せる位置に立ち遊び方を把握し見守る必要があった。	園庭にいる職員の見守り範囲を広げる。全体を把握し見守りができる職員を増やす。	
724	1. 集団活動中・見守りあり	前日雨天で体を動かして遊ぶことができず、児童が気持ちを発散できていなかったことが考えられる。園庭のメンテナンス日であったため、普段頻繁に遊ばない遊具での事故だったも考えられる。	前日からの当日の子どもの様子をよく見て、安全に遊べるように遊具の特徴を踏まえた保育体制を整備する。園庭が通常通りに使用できないことを意識し、園庭全体を見渡せるように配慮するべきだった。	1. いつもどおりの様子であった	いつも通り元気であった。	4. 対象児の動きを見ていなかった	対象児から１０ｍ程離れた所で他職員と連絡をとっていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当職員１名で見ていた為、他の職員はいなかった。		場面に応じて、職員配置を工夫しながら増員したり、また配置場所を考えるなど、見守りの体制を見直す。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										教育・保育等従事者		事故			事故状況							事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事者		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳									うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他								死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】							理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
725	令和6年6月10日	2.認可外	18.その他の認可外保育施設	5	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	27					15	12			5	5	16.４歳	1.男児	対象児：身長約90ｃｍ 体重約13ｋｇ 衝突児：５歳児女児 身長約110ｃｍ　体重約21ｋｇ	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘　脱臼・骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置		遠足事前打ち合わせの際に考えられる子どもの行動を話し合い、そのための事故防止策を考える。	3.未実施		3.未実施		3.未実施		初めて行く公園であった	下見の際に事故が起こりうる場所を気にして行う	1.集団活動中・見守りあり	遊んでいる子どもたちの動きが交差してしまった。	子どもたちの動きを予想して、交差しないようにする。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	遠足ということもあり、対象児に限らず、みんなテンションが高く楽しんでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	それぞれの遊具や遊びに一人ついている。お互いの動きを見ながら移動していた。フリスビーにも一人ついていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	幅広く動き回る園児を見ていたので、対象児だけを見ることはできなかった。	初めての遊具に夢中になり、子どもの動きが交差する形になってしまった。	保育士が動きを予測して衝突などが起きないよう声掛けを行う。	
726	令和6年6月10日	2.認可外	18.その他の認可外保育施設	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	7	1	1	2	2	1				3	3	16.４歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置		保育施設で起こりやすい事故についてや室内外の危険箇所について研修、話し合いを行っている。また、職員体制にも余裕があった。	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	1		園庭は、大きなケガや事故に繋がらぬよう芝を植え環境を整えている。	1.集団活動中・見守りあり	異年齢児で園庭遊びをしており、年齢ごとに担当保育士を決めてあった。年齢により遊びや活動範囲がかなり異なり、自分の担当児とのかかわり（遊び）に集中し過ぎてしまった。	児との遊びにしっかりかかわることは大切だが、全体を把握する必要性を改めて周知徹底する。	1.いつもどおりの様子であった	園庭で仲の良い男児と追いかけっこをしていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	担当児が安全に遊んでいることを確認し、関わっている子どもに持ち場から離れることを伝え移動した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	0歳児1名、1～４歳児6名を3名の保育士で見守りをしていたが、うち1名が持ち場を離れ、他保育士2名で児の見守りをした。1名は0歳児を抱きながら滑り台、1名は1，2歳児と砂場で遊んでいた。保育士2名はその他の児の遊ぶ様子を把握しておらず、鉄棒で遊んでいた事にも気が付いていなかった。その為、保育士1名はバランスを崩し、鉄棒から落下する瞬間、もう1名は落下後に気付く状況であった。保育士が席を外した事は承知していたが、全児の様子を見ていなかった	持ち場を離れる事を児に向けて伝えることで、周囲の保育士にも状況は伝わっていたが、他保育士に向けて伝えるべきであった。	園庭遊びに限らずいかなる場合であっても、全児の行動を把握できるように保育士の立ち位置や保育士間の声の掛け合いの徹底に努める。	
727	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	29									4	4	17.５歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右外果剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	5	1.基準以上配置	園外を歩いた為、疲労感があった	つまずいたスノコの撤去をする	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	園児の通り道にすのこが設置されていた	手洗いを行うために敷かれたスノコであった為、手洗いを室内で行う	1.集団活動中・見守りあり	すのこが園児の通り道に設置されていた	園児の通り道に不要なものは整理し撤去する	1.いつもどおりの様子であった	通常の速度で入室	4.対象児の動きを見ていなかった	他児や後始末に行っていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	スムーズに入室できるように声かけをしていた	通常行っている行動の為、注意を促すことがなかった	園児の状況を考慮し、園児の人数を制限しながら入室する	
728	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	46			20		26				6	6	14.２歳	2.女児	前日の雨で園庭が湿っていた。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	2	2.基準配置	保育者が4人から3人へとなるときに，3人体制での動きになることへの意識が薄かった。	・タイヤ遊びについては，桜の木から滑り台方向に進む約束はあったものの，遊びの約束のタイヤについては記載がなかったため，ルールに加え周知した。・２歳児の年齢や発達に合わせ，登る時には一人ずつ手を繋いで登ることを確認し周知した。またタイヤで遊ぶ時は，数名が同時に遊んでいたので，一人が終えてから次の子が遊び始めると言うように順番に一人ずつ遊ぶようにした。・固定遊具は，保育者と一緒に遊ぶことをその都度伝えてきていたが，２歳児クラス１期であることをふまえて改めて遊び方の確認をしていく。・担任が一人園庭から離れる場合は，担任間に声をかけ，安全を確保してから離れる。また保育者が一人抜ける場合は，他の担任一人ひとりがそれまでよりも視野を広く持つ事を意識する。一人抜けることで固定遊具など子どもの活動が難しい時には，別の遊びに誘いかけるなど遊びを見極め，危険のないよう配慮していく。・子どもたちの様子をみて，一度にできる固定遊具をリーダーがその時々で決めながら確認し合う。・父が降園時に本児と園庭で遊んでいたことがわかった。他の保護者も遊ばせている姿がよく見られる。登降園時は遊具で遊ばないことをしっかり保護者に伝えていく。	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	240	雨あがりでいつもよりも靴底に水分が含まれすべりやすくなっていたと考えられる。	・本児の靴裏が滑りやすくなっていた。週末に持ち帰りサイズや靴裏の確認をしてもらうよう保護者にお願いした。毎週末に声をかける。・前日に雨が降っていた。滑りやすい様には感じなかったが，雨上がりということも考慮するべきだった。・タイヤに砂をかけて遊ぶ姿があり，滑りやすくなってしまうので，遊具には砂をかけないように伝える。	3.個人活動中・見守りあり	・タイヤから子ども全員が離れていったことを確認したが，その後タイヤに背をむけてしまっていた。楽しんでいたので再び遊びに来ることも考慮すべきだった。	・子どもの発達に合わせて，遊びの内容を見直したり補助をしたりする。・タイヤからのジャンプは，巧技台の低い台から始め，慣らしていく。	1.いつもどおりの様子であった	事故前，保育者とタイヤで遊んでいた。本児は別の遊びをしようと離れたがタイヤに戻り遊び始めた。	4.対象児の動きを見ていなかった	対象児がタイヤから離れ別の遊びへ向かったことを見届けた。４歳児の園児が，虫を見つけ担当職員へ「大きな虫見つけたよ，見て」と声をかけたため，担当職員はそちらに向きを変えて関わった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の遊びを見守ったり，一緒に遊んだりしていた。また，担当職員がタイヤ辺りにいたため，注目しなくてはという認識が薄かった。	・他クラスとの横の連携の意識が薄かった。	・保育者同士が声の掛け合いをしながら怪我に繋がらないように気付きを発信していく。・離れていても特に固定遊具には気をかけていく。・保育者の注目が同じところに行きがちになってしまうので，声をかけ合いながら保育者の立ち位置を意識する。・子どもたちと遊ぶと死角ができてしまうので，全体を見る役割を作る。・自分のクラスのみではなく，全体にも気をつけながら他クラスと一緒に保育をしていくことで死角を減らしていく。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
729	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	6	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	56			10	11	19	16			8	8	18. 6歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外顆剥離骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	1	2. 基準配置	短時間保育士、保育士パートを含む全職員での危機管理研修の周知が不足していた。また、子どもの活動や、子どもに経験してほしい事を職員間で共有し、そのためにブランコを外していたが、その他にもどのような配慮が必要か共有する場が足りなかった。	短時間保育士、パート職員を含む危機管理研修を7.8月に再度行う。子どもに経験してほしいことを職員間で共有し、そのための環境構成や職員の援助に関する話し合いを持つ。保育士の子どもに背を向けないような立ち位置について、再度話し合いを行う。教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応の為のガイドラインを再度周知する。ガイドラインに基づく具体的な指針を策定する。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	支柱にぶら下がる遊びをしているときには、ブランコは2台外してあったが、本児の着地した地面が硬かった。支柱の円周は18.5センチあり、本児が握ると約3センチ余る太さである。	支柱にぶら下がり遊ぶ際には、着地点にマットを敷く。行わない場合やブランコ使用時にはマットを倉庫に片付ける。	1. 集団活動中・見守りあり	最近支柱にぶらさがれるようになり、うれしくなり気持ちが高揚していたと考えられる。	個々の運動の発達段階や経験、子どもの思いに添って声をかけていく。	1. いつもどおりの様子であった	いつも通りに朝の受け入れをし、室内で遊んだ後、戸外に出て、虫探しを楽しむ。他児が支柱で遊び始めるのを見て、その後本児も支柱で遊びはじめる。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	対象児と3メートル離れた滑り台で他園児と関わっていた。過去にもその遊びを本児はしていたので、見守っていた。普段より大きく揺れたわけではなかったが、防ぐことができなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他園児との虫探を探したり、子どもに共感したり、子どもが探究できるような関わりをしていたため、、見ていなかった。	事故当時、園庭には2～5歳児合計56名、園長主任を含む8名の職員がいた。他の職員もいるという意識から、職員一人一人が目の前の子どもを見ながらも全体に視野を広げられていなかった。	異年齢児で園庭に出ているときは、園児数もいるが職員数もいるため「誰かが見ているだろう」という気持ちが出てしまう場面がある。クラス担任及び保育士パートを含めての声掛け及び、目配りをしていく。子どもがじっくりと遊びこめる環境作りをさらにしていく。	
730	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	4	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	12		2	2	4		4			6	4	17. 5歳	1. 男児		7. 登園・降園中(来所・帰宅中)	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	数	1. 基準以上配置	－	無し	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	170	1. 定期的に実施	280	－	無し	7. その他	登園前に転倒したことや、土曜日の受け入れが２階で行われ、いつもと違う生活の流れだったため、気持ちが高揚していたと考えられる。	普段から落ち着きのない児童のため、体、行動の本児自身でコントロールする力を身に着けていくように、静と動のメリハリのある運動を取り入れる。	1. いつもどおりの様子であった	いつもと変わらない姿であり、母と一緒だとなお動き回る。本棚にぶつけた。強打した様子ではなかった。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	受け入れのため、母と話をする。登園前に転んでしまったこと、お迎えが早くなることの内容で約2分程の時間での出来事であり、同じ空間ではあったが手が届く距離ではなかったため防ぐことはできなかった。走り始めた時に、仕度をするように声をかけ促した直後にぶつけた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育室内で他園児の保育にあたっていたため、見ることができなかった。	－	・普段から落ち着きのない児童のため、言葉がけでなく、体を止めながら促すことも必要だった。・受け入れ時に子どもがすぐに保育室に入るように見直し、職員に周知する。	
731	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	6	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	38					18	20			5	5	18. 6歳	1. 男児	特になし	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左肘関節骨折	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	7～8	2. 基準配置	周囲や前を見ずに走ったことに問題があったのではないかと思われる。	走る時には周囲に気をつけて走るように伝えていく。	1. 定期的に実施	51	1. 定期的に実施	51	1. 定期的に実施	毎日	特記なし	特記なし	1. 集団活動中・見守りあり	園庭に出ていたのは５歳児のみではなく，４歳児も出ていた。近くにいる園児は，自分のクラス以外も見守るようにしている。	保育士一人が見守ることができる人数が状況によって変わってくるので，職員同士で声をかけ合い，危機管理面に留意していく。	1. いつもどおりの様子であった	特定の友だちと遊ぶことが多く，激しい遊び方をすることはあまりない。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	近くで大縄跳びを回していたが，本児の方を向いていたので衝突した場面を見ていた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	固定遊具について補助していた。	特記なし	特記なし	
732	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	6	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5. 4歳児クラス	18									2	2	16. 4歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	2	1. 基準以上配置	該当なし	該当なし	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	毎日	1. 定期的に実施	毎日	該当なし	該当なし	1. 集団活動中・見守りあり	該当なし	該当なし	1. いつもどおりの様子であった	普段と変わりなし	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児以外の子どもたちを並ばせようと目配りする視野が狭く、本児の行動に気付いていなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	計測する方に目が行ってしまい、見ていなかった。	ボール拾い中に本児が転倒前に足首をひねらせるような行動を数回にわたってしていた。	体育保育や運動能力測定後に子どもたちへの身体の痛いところなどがないか声をかけたり視診をする。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
733	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	3									2	1	16.４歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	特になし	その場にいた職員が各々ヒヤリハット報告書を書き、持ち寄って振り返りを行った。それをもとに事故報告書を作成し、職員全体で事故の要因・分析、改善策を共有し再発を防ぐ。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	子どもの動線上、テーブルから椅子が少し出ていた。	使用後の椅子をテーブル下に収めることを習慣化する。	3.個人活動中・見守りあり	室内を走って移動した。	子どもが急いでいるときには「ゆっくり行こうね」と声を掛ける。また、室内で走ると危険なことを、日頃から伝えていく。	1.いつもどおりの様子であった	隣の保育室に行こうとした際、上履きを履いてから行くよう職員に言われた。ロッカーに戻って靴下・上履きを履いて、走って行った。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	隣の部屋に行こうとした本児に、上履きを履いてから行くよう声を掛けた。本児がロッカーに戻って上履きを履き、隣の保育室に向かって走って移動する際、職員は本児が転倒することを予測できなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	隣の保育室の出入り口から本児が走ってくる姿を見たが、本児の足が椅子に引っかかった際、転倒を止められなかった。	子どもが自ら見通しを持って行動しようとした際、「これをしてから」といったん引き留めてしまったことが、本児を急がせてしまった。	子どもの気持ちを考え、動きを予測できるよう意識する。（慌てることを予測してそばに付く。又は移動先に上履きを持っていき、そこで履けるようにする。）	
734	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	16									1	1	17.５歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	４・５	2.基準配置		研修項目の実践を増やす。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		一人一人が環境整備の徹底を意識し、報告・連絡・相談を密にする。	1.集団活動中・見守りあり		子どもの様子・状況に応じた保育をする。落ち着かなければ無理のない保育を提供する。	1.いつもどおりの様子であった	本児や、並んでいる他児も落ち着いていた。接触などのトラブルはない。いつも通り穏やかに過ごしている。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	縄を回しながらも、周囲に目を配り保育していた。本児のその場跳びをする姿も見ている。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	同じ空間で戸外遊びをしていたクラスもあったが、離れた空間にいた為、該当児の姿を見ていない。		運動をする前は、準備体操等を取り入れる。体をほぐしてから遊び始める。	
735	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	7	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	70	5	14	13	11	9	18			22	17	18.６歳	2.女児	特記なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足首不全骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置		事故報告（ヒヤリハット含む）が全職員周知できる機会を増やした 毎週1回各クラスで特に気になったヒヤリハットについて昼礼で報告	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		活動前後の安全点検の徹底	1.集団活動中・見守りあり	園庭が狭く、園児が密集し接触しやすく、それを避けるため転倒しやすい環境だった。	園庭を使用する時間帯を乳児クラス、幼児クラスで分けて園庭内の人数を調整する。	1.いつもどおりの様子であった	体調不良の様子、他児とのトラブルもなく普段通りに過ごせていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	子どもたちの様子が把握できるよう全体が見渡せる場所にいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	一人担任のため、他の職員はいなかった		できる限り活動に見合った職員配置ができるよう配慮し、死角のない状態の保育に努めた。	
736	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	5.4歳児クラス	17									2	2	17.５歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	職員配置は子どもの人数に対して十分に配置されていたが、事故を防ぐことができなかった	クラス全体を見る大人、危険を予測し必要な時にすぐに声掛けできる大人と役割を決めて保育をする	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	保育環境は危険のないように確認しているが、子どもの特性や情緒に合わせ、遊ぶ場の安全を確認していけるよう、職員間で情報を共有し合う必要がある	子ども達の状況や様子をクラスから細目に発信し、子どもの興味、関心に合わせどんな場所で何を取り組んでいきたいか会議等で共有していく。	1.集団活動中・見守りあり	周りに何があるか等を大人と一緒に確認し、気を付けて遊ぶことを子どもたちに伝えていく。	遊ぶ中で注意することを職員間で確認するだけでなく、子どもたちに対しても事前に声掛けをしていく。	1.いつもどおりの様子であった	普段の様子と変わりなく、散歩先での斜面滑りを喜んで遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児が上から滑っていく姿を見ていたが、咄嗟的に衝突を止めることができなかった	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	対象児が上から滑っていく姿を見ていたが認識していたが、他児のケガの手当てを行っていた。	子どもの動き、情緒を考慮していたが咄嗟的に衝突を止めることができなかった	子どもの動きを見守り、危険を予測して職員間で声を掛け合っていく。	
737	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	11									4	3	14.２歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	上ＡＡ外傷性亜脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	年齢の特性として視野の狭さ、物などに衝突したりするということがあるが（事故防止マニュアルより）その点についての認識の甘さがあった。	年齢の特性や常に潜在的なリスクがあることを再認識する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	保育室の手洗い場（陶器）は、保護などされていない。	保育室の手洗い場（陶器）は、使用しない時はカバーをする。手洗い場の周囲が濡れていたらその都度拭く。児童に手洗い場の近くで遊ばないように声をかける。	1.集団活動中・見守りあり	本児は他児の真似をしてトイレに行き、ズボンを下げたと思われる。	本児の特性を捉え、行動の予測及びそれに対する大人の配慮（声かけの内容、行動の静止など）を担当だけでなく職員間で再確認する。	1.いつもどおりの様子であった	普段、トイレで排泄はしていないが、他児の真似をしてトイレに行き、ズボンを下げたと思われる。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	保育士１名は全体をみていたが、対象児から離れた場所にいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育士１名はトイレで他の児のトイレ補助をしていた。保育士１名は室内で児童の降所準備をしていた。	本児は一斉の声かけなどで行動に移ることが難しいと理解していたが、声をかけた後の動きを止める行動が遅れてしまった。	声かけと同時に側に付き、行動を止める事や見守るなどより丁寧な対応をする。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項
738	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	15									3	3	16.４歳	2.女児	
739	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	1	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3.2歳児クラス	7									2	2	15.３歳	2.女児	2か月早く出産している。気管支炎や喘息で入退院を繰り返している。そのため発育的に歩行が不安定で転びやすい。●年●月に未熟児のフォローアップを病院にて色の識別や記憶力の低さがあるとのこと。歩き方等は問題ないと言われたが園として筋力の低さや歩き方を気にしている。
740	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	1	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	18									4	3	15.３歳	2.女児	
741	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	23									3	2	18.６歳	1.男児	

No	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策
738	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置		保健年間計画にまとめてあることを確実に実施できるよう、職員間で確認し、コミュニケーションを取りながら保育していく。
739	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足第１，２中骨骨折（左足甲）	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	テラスでの遊び方や手順を決めていなかったため、遊ぶ前に子どもにも約束事を伝えられてなかった。	テラスの遊び方や手順を決めていく。また、職員間で声のかけ方など決めて行く。
740	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨下端の骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	迎えに来る時間帯で、保育士も子ども達も落ち着かない状態になりやすかった。	「…ちゃんのお母さんがお迎えに来たけどみんなはここに居てね」など声かけをして常に落ち着いた状態を保つ
741	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手指打撲傷、左小指中節骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施		1.基準以上配置		職員配置、指導はなかった。

No	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策
738	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	1		園庭のチェックは毎日目視で、また定期的にチェックしているが、より丁寧に行っていく。	1.集団活動中・見守りあり	本児はトップを走っていてスタート間もなく転倒。他児との接触等なく、転倒してしまった。	リレーをしていた場所に問題はなく、他児とのトラブルもなく本児が一人で転倒してしまったケースのため、特に改善点なし
739	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		安全チェックを行っていく	1.集団活動中・見守りあり	靴を履いていなかった	テラスに出る前にゴザや靴の用意をし、担任間で確認していく。
740	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	冬場で乾燥しており普段よりも床が滑りやすい状況だった。	マット、仕切り、テーブルなどの配置を考慮する。 （走りにくい配置）	1.集団活動中・見守りあり	落ち着いていたため危険予測が出来なかった。	仕切りやマット、テーブルなどの配置を考慮する。 落ち着いている時でも子どもの行動を予測しながら見守る。
741	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	使用毎	1.定期的に実施	毎日		使用する器具、施設に問題はなかった。	1.集団活動中・見守りあり	跳び箱の実技は最終回（全４回）であり、経験はしていた。	毎週行われている体操教室であり、跳び箱の実技に関しては最終回であり問題は見られなかった。

No	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
738	1.いつもどおりの様子であった	機嫌よく園庭遊び、リレーごっこにも参加しており、特記すべき内容はなし	2.対象児の至近で対象児を見ていた	リレーのスタート付近で見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	園庭全体を見守ることができる位置より見ていた。		担任3名で園児18名の動きを把握できるよう連携を強化する。	
739	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	テラスに出た後、他児と一緒に５メートル先に裸足で走っていった。保育者の靴を履く声かけで保育者に向かって走った。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児から５メートルほど離れた所に保育者がいた。他の子どもの靴を履く介助をしていて対象児に声をかけた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	廊下に出たときであったので対象児童を見ていなかった。	テラスに出る際に子どもたちに声をかけて安全に促すべきであった。	複数の職員での保育体制を整えていく	
740	1.いつもどおりの様子であった	普段から転びやすく、危険な姿があった。 日中は保育士に甘え他児とのトラブルがあり、やっと手に入れた絵本を持っている事に満足し手離せずにいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	他の子と遊びながら見守っていた。本児が走り出すとは予測していなく突然走り始めたのをとめられなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	降園する時に、友達とタッチをしたいという気持ちを理解し、待つ対応をとった。	迎えの時間は子どもが興奮し急に走り出すことがあるという危険予測が不十分だった。 絵本を持ち歩いていた本児に座るよう声かけはしたが、絵本を手離せず置くところまでは完結しなかった。	物を持って走ることが危険なことを子ども達に繰り返し伝える。 迎えに来た喜びを共感しつつも速やかに退室するようにしていく。	
741	1.いつもどおりの様子であった	積極的に跳び箱の実技に取り組んでいた。講師からも跳び方に問題なし、と言われていた。事故時は子どもたちの中で跳び箱の成果発表をしていた。跳び箱に手をついた際にたまたま手のつき方がずれ、打撲・骨折となってしまった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	跳び箱のそばで講師が補助についていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	跳び箱のそばで担任が見守りをしていた。		子どもの様子をよく観察する。 異変があったときにはすぐに対応できるようにする。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
742	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	12	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	4. 3歳児クラス	25									4	3	16. 4歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施		1. 基準以上配置		職員配置に問題は見られなかった。	1. 定期的に実施	毎日	1. 定期的に実施	使用毎	1. 定期的に実施	毎日	公園の芝生には石や木の枝など、足に引っ掛かりそうなものはなかった。	使用する場所に問題は見られなかった。	1. 集団活動中・見守りあり	担任たちが全員追いかけっこに参加してしまっていた。	担任のうち１名は子どもたちの観察のために、見守りをしたほうがよかった。	3. いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	園外保育で公園に行くことを楽しみにしており、いつもよりも活発な状態であった。保育室でも一人で動いていたり、転倒することも多く見られていた。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	集団で追いかけっこをしており、対象児のそばで担任が見ている（一緒に走っている）状況だった。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の担任・保育補助の職員もそう遠くない距離にいた。	担任たちが全員追いかけっこに参加してしまっていた。	担任のうち１名は子どもたちの観察のために、見守りをしたほうがよかった。	
743	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	12	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	9	0	1	1	2	0	5	0		3	2	16. 4歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	肘関節骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	1	2. 基準配置	楽しすぎてテンションが上がり、バランスを崩したため	気持ちが高ぶりすぎている際には声をかける。走っていると、思わぬ転倒、怪我につながることを子どもたちに伝えていくと共に、保育士も注意して見守る。	1. 定期的に実施	12	2. 不定期に実施		1. 定期的に実施	毎日	走ってバランスを崩した。	走っていると、思わぬ転倒、怪我につながることを子どもたちに伝えていくと共に、園庭につまずくようなものはないか使用する時は点検する。	1. 集団活動中・見守りあり		見通しの良い場所でも何が起こるかわからないので、すぐ駆け寄れる体勢でいる。	1. いつもどおりの様子であった		2. 対象児の至近で対象児を見ていた	すぐに抱き起すと泣き出した。その後はすぐに泣き止んだ。左腕を見ると傷なし、腫れなし、赤みなしだった。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	お漏らしをしていたため室内に入れた。	その後も様子を見た。	土曜日保育時の対応の見直し	
744	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	2	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	7. 異年齢構成	143	9	21	22	27	32	32			4	3	16. 4歳	2. 女児	●年　左大腿骨骨幹部骨折　その後、変形治癒矯正手術で体幹ギプスにて固定。●年●月　両大腿部の装具で過ごしていた。	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右足首骨折　左足首骨折疑い	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	2	2. 基準配置		看護師不在の土曜保育もしているため、本児用の緊急フローを別途作成し、職員共有する	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	1	以前から使用していた外用ベビーカーのバックルが着脱の際に固く注意を要することがあった	ベビーカーを変更する	1. 集団活動中・見守りあり		ベビーカーを別のものと交換する。事故防止チェックリストにベビーカーの点検を実施し、些細なことでも声に出し職員間で共有する	1. いつもどおりの様子であった		1. 対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	帰園時間になり、ベビーカーに乗り、園児最後尾にから移動する。自動ドアが二重にあり、2枚目を通ろうとした際に、下のレール（隙間）にタイヤが引っ掛かり、止まる。すると該当児が転落してしまった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	該当児以外の園児の対応をしており先に進んでいた。		ベビーカーに乗った際、移動の際にはバックルなどがきちんと装着されているか2名でチェックする	
745	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	12	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	38									6	6	18. 6歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	左1番歯亜脱臼	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	2〜3	1. 基準以上配置	初めての他園との交流行事(さらに勝負事)であったので、行動予測がし切れなかった	初めての経験に関するリスクの確認を事前に行う	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	日ごと	３ゲーム目で、前のゲームからそのまま使用し地面の整備などはしていなかったので、地面の肌が見えていた可能性はある。	2ゲーム終了で少し間をとり、地面・ボールなど、環境面の確認を行う	1. 集団活動中・見守りあり	休んでいる友だちの分も頑張ろうという気持ちが他児より強かったが、そのことを踏まえた本児の見方が少し弱かった	初めに声かけをするなど、気負わずにできるような導入をしていく	3. いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	ひどく興奮している様子はなかったが、当日を迎えるまでの期待感も高く、休んでいる子の分まで頑張ろうという気持ちが強かったので昂ぶりは多少あった.	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	審判だったのでコート中央の外側に立つ。ゲームが始まっているのでコートの外側から見ているが、ボールの行方を追いながらだったので、事前に防ぐのは難しかった	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の子と一緒にコートから少し離れたところで応援している。	前日から全体的に張り切っていたこと、１・２ゲームに勝ったことで、さらに気分が高揚していたと思われる。職員も初めてのことで多少の高揚はあったかもしれない	2ゲーム終了で少し間をとり、水分補給などで1呼吸おくなど、気持ちを鎮める	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
746	令和6年6月10日	2.認可外	17.地方単独保育施設	9	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	9	0	0	0	3	4	2	0	0	2	2	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	外傷性歯牙亜脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施		1.基準以上配置			3.未実施	0	3.未実施	0	3.未実施	0		公園のためなし	1.集団活動中・見守りあり			3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)		1.対象児とマンツーマンの状態(対象児に接していた)	戸外では、絶えず走り回っている。固定遊具で遊ぶことは殆どなく、ぎこちない動きである為、突然、滑り台に向かった時には後ろから見守っていた。手を繋いだり、身体に触れる事を拒絶するので、見守る体制を取った。転倒時、瞬間手を差し伸べたが間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	その他の園児と関わっていた。		今後も本児においては、遊び・行動についての個別対応を続けていくと共に対応の仕方を職員間で共有する。	
747	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	13									2	1	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外顆骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置		・事故が起きた時は全職員に周知し、正規職員だけではなく、非常勤職員にもマニュアルに基づく研修を行っていく。	1.定期的に実施	12	3.未実施		2.不定期に実施	2		・危険とされた箇所は本社に報告し、修繕や改修を進めていく。玩具や備品については定期的に点検をしていく。	3.個人活動中・見守りあり	椅子が引かれた時にスペースが狭くなる	椅子が後ろに引かれた場合も考慮して机と机の間隔を十分にとる。	1.いつもどおりの様子であった	母親の側に行ったが、忘れ物をして１度ロッカーに戻ったため、早く母親のそばに行きたいという思いから焦っていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	本児が１度保護者の元へ行くのを見送った後は他へ視線を向けた(連絡帳をとりに行った)ため転倒する瞬間は見ておらず、またベランダ付近にいたので転倒した本児にすぐに手の届くところにいなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	非常勤職員はベランダで水やりをしている児を見守っていたため、本児を見ておらず、手の届く場所にもいなかった。		常に保育室全体をへの意識を緩めず、危険に注意して見守り、危険を察知した時は、手が出せたり、声掛けが出来るように努めていく。日頃から室内を走行する危険性を伝えていくことを継続する。	
748	令和6年6月10日	1.認可	9.居宅訪問型保育事業	1	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	1.0歳児クラス	1									1	0	13.1歳	1.男児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折（全治４～６週間）	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	事故予防についてはマニュアルの配布のみとなり、周知徹底ができていなかった。	マニュアルの読み合わせ実施。事例ごとに対処方法を検討し、緊急対応について全体に共有する。（●月●日実施）	3.未実施		3.未実施		2.不定期に実施		地面がコンクリートであったため、衝撃が大きかった。	歩行の安定しない児は、土などの柔らかい地面の場所で活動する。	3.個人活動中・見守りあり	受傷児は歩行が安定しないため、すぐにバランスを崩して転倒する。	土など、柔らかく歩きやすい地面の場所で活動する。	1.いつもどおりの様子であった	遊歩道で自由に探索を行う。	1.対象児とマンツーマンの状態(対象児に接していた)	受傷児の背後に立ち、探索の様子を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	なし。	転倒の予測ができておらず、支えられる場所についていなかった。	あらゆる危険を予測し、すぐに児を支えられる場所に保育者を配置する。	
749	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	1	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	1.0歳児クラス	14									7	3	10.9か月	1.男児		8.その他	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	上唇小帯挫傷	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	・職員は、清潔な手で、本児の対応にあたるべきと考えてしまい、オムツ交換台に寝かせた本児から、離れてしまった。	・想定される0歳児の事故、配慮すべき事項について、経験者であっても定期的に研修、確認を行う。・職員同士がそれぞれの動きを把握し、声を掛け合い、児童から離れない、離れる際の必須対応等、安全確保優先意識を職員全体で繰り返し確認する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	・オムツ交換台（高さ７４㎝）に安全ベルトが付いていないものを使用していたが、そのための必要な配慮がされていなかった。・ペーパータオル、手袋、お尻拭きシート等オムツ交換に必要な物品が少し離れている。	・オムツ交換台にベルト付きのものに更新する。更新するまでは、低マットで対応する。・ペーパータオル、手袋、お尻拭きシート等オムツ交換に必要な物品を手の届く場所に設定する。	3.個人活動中・見守りあり	７名の職員がいたが、全体を把握している職員がいなかった。個々の保育になり、他児がどのような状況であるか把握できておらず、声掛けもできていなかった。	担当の園児だけでなく、どこで誰が何をしているか関心を持ちながら常に保育する。気が付いた時には、声を出して安心、安全を確認する。日頃より互いに声を掛け合い、助け合える環境を作っていく。	1.いつもどおりの様子であった	いつもと変わらず元気であった。	1.対象児とマンツーマンの状態(対象児に接していた)	沐浴室で他の職員は近くにはおらず、一人で対応していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育室で他児と関わっていた。		・おむつ交換やシャワーが必要な場合には、安全確保のため、状況に応じて2名での対応を行うこととし、職員間で意識できるよう、デイリープログラム＜職員の動き＞に追加する。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
750	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	1	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3.2歳児クラス	22									4	4	15.３歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	前額部挫創	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	12	1.基準以上配置	日頃から室内・戸外でも転びやすい子であるため、靴は適正なサイズか等確認し、準備体操をしてから遊ぶようにしていた。	身のこなしもまだ不十分であり、24名の大きな集団ではなく活動を分けていく。また遊び方についても事前に知らせてから遊ぶようにしていく。	1.定期的に実施	13	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	200	・コンクリートの上に砂があった為、滑りやすい環境だった。	・階段付近にバイオマットや屋外用階段角カバーを設置し、滑らないよう環境整備していく。	1.集団活動中・見守りあり	・コンクリートの上に砂があった為、滑りやすい環境だった。	・園庭で遊ぶ前に、砂を掃いたり、水をまくなど滑らないようにしていく。	1.いつもどおりの様子であった	通常どおり、父と登園し活動に参加していた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	2歳児14名で、担任職員2名で保育をしていた。一人は広場で鬼ごっこを、一人は砂場の保育に配置していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	2歳児8名と担任職員2名は、園外保育に出ていた。他担任職員1名は当番時差で出勤していなかった。		・階段付近では走らないよう、園児に知らせていく。	
751	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	1	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	4.3歳児クラス	11									2	2	16.４歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	下顎A外傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施		1.基準以上配置		転倒しやすいので、職員が一緒に行動できるようにしていく。道の形状が変わる時などは個別にも声をかけていく。	1.定期的に実施	未実施	1.定期的に実施	未実施	1.定期的に実施	未実施		散歩先の地面の形状や硬さを子どもと一緒に認識し、歩く速さ等に気を付ける。	1.集団活動中・見守りあり	気温の低い日であり、体が動き難い、足が上がり難い状況であったことが考えられる。	特に冬季は、意識して準備運動を行っていく。	1.いつもどおりの様子であった	当該児は、登園時いつもどおりの様子であった。散歩では、他児と手をつないで歩き、目的地に到着後は手を放し歩き始める。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	職員１名は先頭を歩き、当該児は後方を歩いていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の職員は当該児の後ろを歩き、後方で他児の対応をしていた。	当該児と2名の保育士の距離が少し離れてしまった。	段差があるような場所だったので声がけが必要だった。	
752	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	12	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	19									1	1	18.６歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施		2.基準配置		ヒヤリハットを記入し、毎回事例を振り返り検討し、職員間で情報共有していく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	48	今回事故が発生した場所は幼児であればジャンプできる高さではあるが、同時に転落リスクも考えられる。また石が多くありつまずくことでの転倒転落リスクが高い。	ジャンプしたときに起こりうる事故を伝えておく。石の除去など定期的に点検を行う。	1.集団活動中・見守りあり	高さのある遊具（設備）で遊ぶ際の注意事、約束事が徹底されていなかった。	安全に登る、無理をしない、転倒した際の身のこなし方（受け身）を繰り返し伝え怪我防止につとめる。	1.いつもどおりの様子であった	体調に問題もなく普段と同じ様子で元気に遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	数名の園児から砂場で遊びたいとの訴えがあったため、保育者は砂場の遊具を出していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員は配置していない	・事故や怪我への注意が必要な児は落ち着いて遊んでいたため、いったん目を離し砂場の遊具の準備を始めてしまった。・受傷時目立つ外傷がなかったためすぐに骨折を疑わなかった。	・常に全体の状況が把握できる状態にない場合は、場を離れて物をとりに行かない。応援を呼ぶなど職員配置を検討する。・肘内障などの既往歴がある場合や高さのある場所からの転落時は保育士で判断せずすぐに看護師に診察依頼する。	
753	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	1	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	16				6	7	3			3	2	16.４歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)	左足関節靱帯損傷	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	5	1.基準以上配置	延長保育前の時間帯であり、３，４，５歳児の合同保育であった。順次、迎えに来た保護者へ引渡しをしている中で子どもの訴えに気がつかなかった。	・静かに遊んでいる子に対しても、一人一人の子どもの動きを見るようにする。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	・朝、点検はしているが保育中は玩具などが床に落ちていて滑る可能性はある。	・常に室内に玩具などが落ちていないか、危険につながらないようにしていく。	1.集団活動中・見守りあり		・日常の保育の中で、足首など鍛えるような運動を取り入れる。	1.いつもどおりの様子であった	・いつもどおり、着席して遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	・本児は動きも落ち着いていたので、離れたところから見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	全体の遊びを見ながら、保護者に引き渡しをしていた。	・動きが少ない子であっても、子どもの動きには注意する。	・歩いていても、足を痛めることもあるという意識を持ち保育をする。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
754	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	4.3歳児クラス	12									3	3	16.4歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	3～4	1.基準以上配置	配慮が必要な児に対して事故に繋がる前に止めることができなかった。	本児の特性を、職員会議などで毎月全職員に共有してどの職員がクラスに入っても本児の気持ちが高ぶった際にクールダウンを促せるように園全体で本児を見ていく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	年齢や特性に沿った、園外での活動や環境への安全面の配慮が欠けていた。	活動で利用する公園の危険箇所を再度、職員間で話し合い、そこで遊ぶ際に注意すること、どのような遊びをするかを定期的に検証する。	1.集団活動中・見守りあり	本児が、集団から外れたところで一人遊びをしており、保育士が手を伸ばして事故を防止できる位置で見守る範囲を超えてしまった。	一定の輪から外れてしまった本児を含めて、全体を見る位置に保育士が立つ。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	普段からとても活発で、集団に入らずに１人で動き回っている姿が多い。当日は登園時よりいつもに増して活発な姿が見られていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	以前より、集団に入らず１人で好きなことを見つけて遊ぶ姿があり砂山で遊ぶことも多かったため、砂山で遊んでいることは把握していたものの、少し離れたところから様子を見ていた。遊具で遊んでいる子が多かったため、そちらに目が取られ、砂山に背を向けていることもあった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	本児が砂山にいることは把握していたものの、他児が遊具で遊んでいたため、そちらに気を取られていた。	自分の気持ち（欲求）を抑えたりすることがまだ難しく、保育士が止めると癇癪を起こすことも多い児であった。今回も本児の行動を目で追ったり、そばで関わり言葉をかけていたが、砂山を走っている際、後ろ側の方も子ども達が見える位置に保育士が立つ必要があった。	普段から遊びなれている公園ではあるが、色々なことを予測していきながらさらに配慮をし、保育士の立ち位置や動き方など声を掛け合い視野を広げて保育をしていく。子ども達にも遊び方やルールなどを伝えていきながら、危険な場所や行動など、一緒に考えていけるようにする。	
755	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	9	0	0	0	3	5	1	0		2	2	18.6歳	1.男児	特記事項なし	1.屋外活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	1.頭部	額裂傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	1	2.基準配置	公園での遊び方、注意事項など研修を実施した日は開園前であり、その他にも多くの研修項目があったため、各項目の理解が薄くなった	戸外遊びに特化した内容の研修、話し合いを実施する	3.未実施		2.不定期に実施	1	3.未実施		滑り台使用の適正年齢（３歳～１２歳）や、園児の身体的な発達を考えて使用する遊具を決めた事が問題であった	適正年齢、発達面だけでなく、その時の子どもの様子を見て安全に遊ぶことができる遊具を保育者が選択する事	1.集団活動中・見守りあり	本児の第一言語は中国語であり、日本語が不得意である。しかし、翻訳機で中国語に変換して伝えても理解が追い付いていない事も多々ある。家庭では習い事を多く行っているため外で遊ぶことがあまりない様子。そのため戸外に出ると喜び、興奮する事が多い。	保護者と本児の様子を伝え合い、大事な事を繰り返し伝えていく。また、長く日本に住む事を考えている家庭のため、今後は家庭でも日本語の習得を目指して動いてもらえるよう依頼し、園としてもサポートを行う。	1.いつもどおりの様子であった	普段と変わらず活発に活動しており、保育者の注意が理解できない様子であった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	滑り台に向かって左側の降り口付近にて、全体の様子を見ていた。発生当時は対象児から少し離れていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	もう一つの遊具で遊ぶ他児を見ていた為、対象児は見ていなかった。	特記事項なし	本児と遊び方について見本を見せ伝え理解しやすいようにし、危険個所が多い遊具がある場合は、職員人数に応じて遊具の使い方に配慮する。	
756	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	2	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	19									2	2	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)	右足関節外側靱帯損傷	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	5	1.基準以上配置	・午睡がなくなったこと。休み明けなど子どものへの配慮が不足していた。	・子どもの状態を把握し、状況に合わせた保育をする。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	・園庭は段差、凹凸がある。	・くぼみに土を入れる、バイオマットを敷くなどして、凸凹を防ぐ。外遊び前に水を撒く。	1.集団活動中・見守りあり	・休み明けと午睡をしていない年長児が、思い切り走る活動は適さなかった。	・子どもが落ち着いて遊べる状態を作ってから、活動を促す。	1.いつもどおりの様子であった	・数人の園児と鬼ごっこをしていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	・鬼ごっこをしている子ども達の様子を見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	全体の遊びの様子、危険が無いか周囲の点検をしながら対象児の付近にいた。	・子どもの状況と活動、場所があっていない。保育士の配慮不足だった。	・子どもたちの状態を把握し、落ち着かせてから次の保育を促す。	
757	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	1	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	15									2	2	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足関節外踝剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1～2	1.基準以上配置		足首手首などさらに準備体操をする。	1.定期的に実施	4	1.定期的に実施	50	1.定期的に実施	50		遊びの見守りをする際、子どもの動きに敏感に反応し、危険と感じる動きに対し注意喚起の言葉をかける、動きを止める等の対応する。	1.集団活動中・見守りあり	寒い時期で身体が動きにくくなっていることも考えられる	足首手首などさらに準備体操をする	1.いつもどおりの様子であった	体調の変わりなく、靴も今までと同じもので特段変わりない	2.対象児の至近で対象児を見ていた	園庭で鬼ごっこをしていた子どもたちを見ていたが、本児だけが砂場方面に走ってきて、振り返るのを見た。他児が追いかけてこなかったため方向を変えた瞬間転倒したので、声をかけると、歩けるが走ると痛いと伝えてきた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	全体の子どもの動きを見ていたが、本児が走って行き、振り返り方向を変えた時転倒したのは見えた。		遊びの見守りをする際、子どもの動きに敏感に反応し、危険と感じる動きに対し注意喚起の言葉をかける、動きを止める等の対応する。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
758	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	2	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	6.5歳以上児クラス	14									2	2	17.５歳	2.女児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右外踝剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	随時	1.基準以上配置	今年度●月に捻挫しており、日頃から転倒が多く体幹が弱いのも要因	戸外で遊ぶ際は更に準備運動をして身体十分にほぐしてから遊ぶ。手首、足首は特に念入りに行い、寒い日には遊ぶ場所や遊び方にも気をつける	1.定期的に実施	随時	1.定期的に実施	随時	1.定期的に実施	随時	転んだ箇所が少し傾斜のある場所だったのでバランスが取りにくかった	芝生に傾斜がついていること、今回の事故のことを散歩マップに載せて全体周知する	3.個人活動中・見守りあり	日頃から転倒が多く体幹が弱っていたことが考えられる	体幹を使うような運動遊びを取り入れて身体を動かす時間を多く確保していく	1.いつもどおりの様子であった	身体を動かす遊びを好み、仲の良い児と誘い合って鬼ごっこをして走っていた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	５歳児クラス１５人全体の動きを把握する為、15メートル程離れた場所で見守っていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	担当職員と離れて子どもたちの遊びを見守り、本児が転倒した際にすぐに駆けつけた	なし	準備体操をより丁寧に行い、手足の筋肉を解してから遊ぶよう引き続き徹底する	
759	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	2	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	22				8	6	8			3	3	18.６歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手第５指骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	10	2.基準配置		資料や注意喚起があれば、職員全員に周知し、常に安全管理の意識をもって保育にあたるよう徹底していく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1回/月		今後も毎月の安全点検で室内の環境については、危険がないか確認をしていく。	1.集団活動中・見守りあり	ボールを足で蹴って遊んでいるところに手を出した。	蹴っているボールに手は出さないよう児に伝えていく	1.いつもどおりの様子であった	仲の良い児と集まり、サッカーをしていた	4.対象児の動きを見ていなかった	全体を見ていて、トラブルがなかったため気づけなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の対応をしていて見ていなかった。	食事や入室などの節目節目で、異変がないかの視診が漏れた。児が職員に訴えづらかった。	丁寧な視診を心がけ、少しでも異変があれば声を掛けて見逃しが無いようにしていく。 子どもたちにも何か変だと思ったり、怪我をしたら直ぐ職員に伝えるよう指導する。言いやすい環境を作っていく。また、友達が言えずに困っていたら、知らせて欲しいことも伝える。 節目節目で手の使い方や歩き方、身体の動きなど丁寧に見るよう意識していく。	
760	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	2	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	13									2	2	17.５歳	1.男児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	亜脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	他クラスが片付けをして、4歳クラスのみとなった。丁度、片付けをする時間になる時に、男児たちが氷オニをして、該当園児が砂場に侵入して転倒してしまった。職員は一人はご飯の準備をして、もう一人は園庭で少しずつ片付けをしていた。	特になし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		年に一回、業者にお願いして補充をしていたが、もう少し回数を増やしていくか、砂場の掘り起こしなどをこまめにしていく。	1.集団活動中・見守りあり	他クラスが砂場をしている時は入ることはなかったが、いなくなってからブルーシートで閉じてあると、その上を走ってしまった。	氷オニの最中は砂場の上に、入らないように伝えていった。	1.いつもどおりの様子であった	他児と一緒にサッカーや氷オニをして遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	子どもたちとサッカーをしながら、子どもたちの様子を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	片付けの時間になるまでは、子どもたちと遊んでいた。その後はご飯の準備の為に、保育室に戻って準備をしていた。		特になし	
761	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	2	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	15									1	1	17.５歳	1.男児	なし	2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷性歯牙脱臼	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	落ち着いた雰囲気で遊んでいたが、子どもたち同士が狭い空間の中で遊んでいた。急に動く事が、普段の保育の中で見られていた。事前に何時に片付けをするか伝えていたが、片付けの言葉掛けによって、他児が動いてぶつかってしまった。	他児に口を近づけすぎないことを伝えていった。該当園児だけではなく、子どもたち全体に、周りを見る事を伝えていった。 保育者の言葉掛けも子どもたちが今、どんな状況で、どのような空間にいるのか確認してから声を掛けるようにしていった。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		特になし	7.その他	遊びはとても落ち着いた雰囲気の中で遊んでいた。しかし、初めに食べ終わった児は狭いスペースの中に複数の児がいた。他の場所で遊べるようになっても該当園児含め何名かは狭いスペースに残っていた。	狭いスペースでは絵本を読むなど遊びを限定していけば、他の場所に子どもが移動したと予想されるので、遊ぶ環境をより改善していった。	1.いつもどおりの様子であった	食べ終わった	4.対象児の動きを見ていなかった	食後の片づけ、掃除をした後は子どもたち全体が見えるところで座って他児と遊んでいた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	職員は1名だったので該当なし		特になし。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
762	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	2	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	2.1歳児クラス	12									3	3	14.2歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	左A歯の破折、左BA右A歯の亜脱臼、歯肉裂傷、オトガイ打撲	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置		園外保育先の危険箇所、留意点をまとめたものを作成中である。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	2.不定期に実施	毎日		引き続き、活動前には転倒等のリスクがないか公園内の安全面の確認を行う。	1.集団活動中・見守りあり		日々の子どもの姿も含め、年齢に合った遊びの場所であるか、都度確認していく。	1.いつもどおりの様子であった	探索活動をしていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	次の場所へ移動するため子ども達に声をかけ促していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の子ども達の探索活動につきながら、担当保育士の動きは把握していた。	本児が転倒した際、保育者それぞれの位置がすぐに防げる場所にいなかった。また段差を降り終わる前に、次の場所へ誘うような声かけをし、結果的に子どもの気持ちを焦らせることになってしまった。	子どもを誘導する際は、保育士間で連携をとり、声がけのタイミングにも留意し、安全を確保した上で誘導する。	
763	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	2	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	19									2	1	15.3歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外顆骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置		事故防止に関する研修の徹底の必要	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	2.不定期に実施	12	築山の衝撃が強い（硬い）	山の特性を職員が理解して、遊び方を伝える。危険な行動は止める。	3.個人活動中・見守りあり	見守りが行き届いていなかった。	クラス担任はもちろん、見守りをしている職員で立ち位置を確認しあう	1.いつもどおりの様子であった	朝から様子はいつも通りであった。体操をして元気に走りだしていた。手をつく意識がよりいつも以上にあったのかとも思われる。	4.対象児の動きを見ていなかった	離れたところにいたため、見えていながった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	築山や近くの遊具にも職員が見守りをしていたが、当該児童が転倒したところの動きは見ていなかった。		職員の見守りの立ち位置を確認して声をかけてから移動を行う。	
764	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	10	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	18									1	1	17.5歳	2.女児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	剥離骨折（右足甲）	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	毎月	1.基準以上配置	活動が頻繁になる秋口に向けての再確認が不十分であった。	活動が頻繁になる秋口には、マニュアル等の見直しを強化していく必要がある。	2.不定期に実施		2.不定期に実施		2.不定期に実施		より安全に行う為に保育室の床のクッション性（反発性等）が不足していることへの見直しが必裕。ジョイントマットを敷く。	走り側転などの際には、なるべく保育室の床にジョイントマットなどを敷いて行う。	1.集団活動中・見守りあり	本児なら大丈夫だろうという普段からの安心感もあった為、子どもの小さな変化に気付けていなかった。	体操の際には、職員が体操をしている子どもの動きを確認出来るようにし、保育補助職員は、他の子ども達を見守る。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りに体操をたのしんでいたが、オーバーワークとなってしまっていたのかもしれない。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	他児も見ながらの対応だった為、対象児の小さな変化に気付けなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	別のクラス保育をしていた為。	日常的に慣れている活動であった為、見落としがあった。	体操中は着地後にゆっくりと次の行動に移すように声をかける。・子どもの小さな変化にもすぐに対応できるよう、普段の動きや様子をしっかりと把握し、少しでも違う様子が見られた際にはすぐに声掛けをしていく。	
765	令和6年6月10日	1.認可	7.小規模保育事業	2	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	14	4	6	4						5	5	14.2歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷性歯の破折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置		事故予防マニュアルの読み合わせを行い、職員間で事故予防に努める。動きの活発な子どもに対し複数の職員で見守れるよう配置を工夫する。改めて事故予防マニュアルを全職員で周知するよう徹底する。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日		対象児が集中できる遊びを提供し、広いスペースには子どもの数を考慮し、区切りを作るなど走りたくならないような環境設定を工夫する。	1.集団活動中・見守りあり		子どもの気持ちを受け止め、今なにをしたいのかを先を見据えて考えられるようにする。また、パズルなど集中できる遊びを促したり、広いスペースに仕切りをつけるなど環境に配慮していく。	1.いつもどおりの様子であった	日頃から落ち着きがなく走り回る子どもである。事故防止と他の子どもの影響を考え、園全体でも本児に対し走らない対策を職員間で思案中であった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	保育士が対象児以外の子に話をしているときに、走り出した。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	室内で走らない事を常日頃から注意をし、走ってはいけない理由を伝え、当日も見守ってはいたが、突然走り出したため間に合う事ができなかった。		全職員に対し、事故防止の安全対策について意見を出し合い実践をし対象児にあう方法を探していく。また、夕方のお迎え時間の際には保護者対応をしながら全体を見渡せるように立ち位置を考える。	

No	初回掲載年月日	概要: 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期: 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制: 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳: 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故: 年齢	性別	特記事項	事故状況: 発生時状況	事故の転帰	死亡: 死因	負傷: 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面: マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面: 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面: 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面: 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
766	令和6年6月10日	2.認可外	18.その他の認可外保育施設	3	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	10									9	4	13.1歳	1.男児		8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右小指基節骨骨折	4.玩具・遊具等施設・設備の安全上の不備によるもの	1.あり	2.不定期に実施	3	1.基準以上配置	職員の数が多く、かえって教師達の怪我に対する危機感がゆるんでいたのかもしれません。お散歩から戻った園児と、ランチの支度を行なっていた園児、トイレをした園児と、複数の園児が手洗い場・トイレ付近で混雑していたことも要因だと考えております。	普段はお散歩の時間をクラスごとにづらしておりますが、当日は「●●●」で預かり保育のみだったこともあり、一日のスケジュールが通常と異なり、お散歩の時間が重なってしまったので、今後このようなことがないよう徹底いたします。	1.定期的に実施	12	遊具なし		1.定期的に実施	48	ドアの隙間を覆い隠すカバーを設置しておりませんでした。	指挟み防止用のカバーを設置いたしました。	7.その他	子ども用トイレが1カ所のみで混雑	トイレを増築	1.いつもどおりの様子であった		4.対象児の動きを見ていなかった	担任教師は他の児童の手洗い・ランチの支度を行なっておりました。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	2名の教師が対象時のそばで他の児童のトイレ・手洗いを手伝っておりましたが、対象児童がドアに手をかけていたことには気づかずにいました。	ドアを子ども達自身で開け閉め可能な状態でいたことが安全面で問題があったと考えております。	ドアの上部に鍵をつけ、普段、基本的に開閉しないようにしました。	
767	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	49				15	17	17			5	5	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)	両足関節捻挫、右足部打撲傷、右足関節外側靭帯損傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	10	1.基準以上配置	斜面で走っていて転んだ際の怪我。斜面での鬼ごっこは危ない面が多い。注意が必要だった。	斜面での追いかけっこではなく、平らな場所で行うよう環境を考え、子ども達にもそれを伝えていく。子ども達が斜面に行かないような職員配置にする。	1.定期的に実施	週1回	1.定期的に実施	4	1.定期的に実施	週1回	斜面での鬼ごっこやおいかけっこはしないよう場所を選ぶ必要があった。	斜面では、鬼ごっこやおいかけっこなどの遊びは行わない。	1.集団活動中・見守りあり	斜面でのおいかけっこは注意を要することは分かっていたので、遊ぶ場所や内容を考えるべきだった。	土手での遊びの工夫を考える。（鬼ごっこ等のような追いかけっこではない遊びをする）	1.いつもどおりの様子であった	約束事を守ろうとする性格だが、お友だちに誘われると断れない場合がある。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児から少し離れた場所で園児全体を見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	5人の職員がそれぞれ範囲を決めて離れた位置で見守りをしていた。	斜面に駆け上がったら転ぶことも考えて注意して見守るべきだった。	鬼ごっこ等の追いかけっこは土手ではせず、土手ならではの遊びをし、職員の配置をする。	
768	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	3	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	19									2	1	18.6歳	1.男児	休み明けは落ち着かない様子が多い。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足外踝剥離骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	担任と短時間職員の２名体制で担任保育士が全体を見守る保育になった。	職員が声を掛け合い子どもの様子を共有して安全に見守る立ち位置につくようにする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	状況に合わせた遊び方についての検討確認が不足している。	安全点検と共に職員間で具体的な注意点等を再確認する。	3.個人活動中・見守りあり	タイヤは園庭に常備された遊具で、子どもたちがいつでも使えるように２．３個積み重ねた状態だった。	子どもの姿に合わせて遊具の使い方を再度伝え、安全に見守られるまで違う遊びへ誘っていく。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	休み明け落ち着かない様子が見られた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	園庭には５歳児クラスのみでそれぞれが好きな遊びを始めていたので全体を把握していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の子どもたちの動きについていたため対象児の動きは見ていなかった。	いつも遊んでいるから大丈夫だろうという過信が保育士にも対象児にもあった。	気になる様子がある時は、間近で対応出来るような立ち位置で見守り、必要に応じた対応が出来るようにする。	
769	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	1	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	25									2	1	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	２～３	1.基準以上配置	後ろを気にして走っていたため前を横切る友だちの動きに気付かなかった。	まわりにも気持ちを向けぶつからないように気を付けることを知らせていく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	広くない園庭の１/４ほどは他の遊びで使用し、氷オニは残りのスペースを使用し行っていた。	遊びの内容と園庭の使い方を考えて配慮していく。	1.集団活動中・見守りあり	広くないスペースで複数の子どもが様々な方向に走っていた	スペースの大きさと子どもの人数・遊びの内容等を考えた活動内容にする。	1.いつもどおりの様子であった	氷オニをして遊んでいる時に　前を横切って走ってきた友だちの足に躓き転倒した。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園庭中央で園庭全体を見守っていた。対象時からは５～６メートルはなれたところであった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	トイレに行った子に付き添い　もどってきたところであった。	氷オニをしていて後ろを気にして走っていたため、他児の足につまずいたとき身をかわせなかった。	転倒しそうになった時に身をかわせるようにコントロールできる身体づくりをおこなっていく。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
770	令和6年6月10日	2.認可外	18.その他の認可外保育施設	3	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	16	0	0	1	3	5	7	0		4	3	15.３歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	溺水による肺水腫発症の可能性あり	7.溺水によるもの	2.なし	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	・当日は年長児組がいない、普段よりも子どもの人数が少ないなどの気のゆるみがあった。 ・「年長組がいないから人数が少ない」ではなく、「年長がいない＝小さい子の比率が多い」というより気を引き締めないといけない、という気持ちが無かった。 ・夏のような川遊びではなく、川の水量もいつもより少ないということもあり、川の危険を意識し切れていなかった。	・「全体を把握する」職員の役割を明確にする。 →場から一歩引いて、人数確認、当日の遊び場の危険個所の把握、職員の立ち位置の確認、遊んでいる時の子どもたちの様子の把握などをして、他の職員と必ず情報共有をする。 ・年中・年長児担当と1～2歳児・年少児担当の職員を分け、それぞれが年齢に応じた活動場所を再考する。 ・リスクマネジメントの感度を上げるため、書籍や現場の写真を使って、危険予測のシミュレーションを定期的（1回／月以上）に実施 ・安全管理マニュアルの作成	3.未実施		3.未実施		3.未実施			（野外保育のため毎回遊ぶ場所が異なるため）当日の遊び場の危険個所の把握	1.集団活動中・見守りあり	・フィールドの危険箇所の確認が出来ていなかった。 ・子ども（保育）の距離が離れすぎる形になってしまった。 ・いつもあそび慣れている場所だという油断があった。	活動場所の中でリスクが高い場所を職員全員で再確認する。子どもの年齢によって無理のない活動場所を選ぶ。子どもの安全を第一に、ただし禁止事項が増えないようなおとなの見守りを強化していく。	1.いつもどおりの様子であった		4.対象児の動きを見ていなかった	他の児童に他の活動場所に行こうと誘われた。誘われた方向がよりリスクの高い場所だったため、児童を残してその場を離れた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員もそれぞれ別の園児とあそんでいた。事故が起こった場所は、他の職員から目が届かない場所であった。	・子どもに対して大人の数が多いので、誰かが見てくれているだろうという気持ちで、職員間の声かけが不十分だった。 ・当該児は、ぐっと動きが多くなっていたタイミングだった。木に登ったり、水に触るなどが増えていた。児童の成長を念頭に入れた見守りが不十分だった。	・職員一人ひとりがその日感じたこと、自分が見た子どもの姿をツールを使って共有する。週ミーティングでも取り上げて、日常の保育に役立てる。	
771	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	2									1	1	18.６歳	1.男児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	幼児会議を通して遊びを深く掘り下げた話し合いができなかった。	年齢発達や場所に合った遊び方を共有し、実践していく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	テラスの構造を考慮した安全環境の整備が足りなかった。	テラスの安全点検や怪我に繋がることを予測し、環境整備を行う。	1.集団活動中・見守りあり	保育士が子ども達と一緒に遊びながらその場所が遊びに適しているか、危険個所はないかなど体感で危険を察知することで、注意すべきことの予測ができたと考える。	幼児クラスの職員でテラスの環境を生かした遊びを考えていく。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	午前中は久しぶりの散歩に行き、鬼ごっこ（ドロケイ）をして楽しんだ。午睡がないこともあり夕方は疲れから抑揚していたと考えられる。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	室内で遊んでいる子もいたので、テラスと保育室の間に立ち、見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれのクラスで保育していた。年長児がテラスで走っていて危ないと感じながらも発信することはなかった。	テラスを開放し遊び場にし、保育室にも子どもが居る保育を担任一人で行うことには無理があった。職員間の連携が必要であった。	一日の遊びの強弱や子どもが興奮していることを察知して対応するために一人ひとりを深く捉えていく。テラスの使い方について幼児ブロックで確認する。	
772	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	11	1.朝(始業～午前10時頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	4.3歳児クラス	13									5	5	16.４歳	2.女児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	裂傷（受診●/●・●/●・●/●・●/●　4回）	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置		危機管理マニュアルを再確認する。	1.定期的に実施	6	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日		今回の件に関しては道中でのことなので記入無し。	1.集団活動中・見守りあり	友だちと手をつないでもう片方は何も持っていなかったが、うまく手が付けずにアスファルトに打ち付けた。手が付ける身体を作る。	朝のリズム体操、雑巾がけを定着させ、9時出発の散歩前に身体の状態を確認する。	1.いつもどおりの様子であった	いつもと変わらず友だちと手を繋ぎ歩いていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	保育者は全体的に見守りながら、歩いていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	至近距離ではないが、保育者は全体的に見守りながら、歩いていた。		徒手運動（雑巾かけ）を行い自分の身体を支えられるようにしていく。毎日●●リズムを行い体幹を鍛えていく。	
773	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	1	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	6	0	4	2	0	0	0	0		2	2	13.１歳	1.男児	事故当初受診した歯科医院では、歯の長さの違いは成長段階の違いによる可能性があるので経過観察となったが、保護者の意向によりセカンドオピニオンで受診したところ、本件診断となった。	2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷性歯の埋入	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	３～４	1.基準以上配置	研修を通じて職員への周知、職員は研修をふまえての保育実施が足りなかった。（事故防止に関する職員の意識の格差）	各年齢における指導計画作成時に予想されるリスクについての職員間での共有と点検の徹底及び意識の向上。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎回	1.定期的に実施	毎回	課題のある箇所は把握していたが、改善が未実施であった。	点検結果の集約、整理後の協議、改善と周知、情報共有の強化。特に出入り口のコーナー環境をより安全な配置に変える。	1.集団活動中・見守りあり	職員間での、環境整備に関する意識の差がある。	子どもの年齢や発達をふまえた、保育環境の整備、安全に遊べるように努めること。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りの動きであったが、急な動きの変化で転倒の際、事故防止となる職員手が届かなかった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児転倒の際、至近距離にいたが、転倒の際手が届かず、顔が床面にぶつかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の職員は、もっと近くに他の子どもがいたので、事故を防ぐことはできなかった。	個々の発達や特性をふまえた、臨機応変な職員の動き方にも転倒を避けきれなかった要因もあった。	個々の発達特性をふまえ、臨機応変な動き方の周知をする。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
774	令和6年6月10日	1. 認可	3. 保育所型認定こども園	2	2. 午前中	3. 施設敷地外（園外保育先・公園等）	6. 5歳以上児クラス	32									26	21	18. 6歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		6. その他	2. 顔面（口腔内含む）	下顎前歯欠損	8. その他	1. あり	1. 定期的に実施	1	1. 基準以上配置	現場にいた3歳児の担任一人が5歳児クラスに入り見守る。	現場に人員を園から1人配置する。状況をみていた職員が病院に連れて行く。	1. 定期的に実施	1回/日	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	24		ハード面の安全に問題はない。	1. 集団活動中・見守りあり	本来グラウンドで遊びに使う用具ではないネットを使って遊んでしまった。	ネットを遊びに使わないことと、ネットの必要性を知らせ子どもに周知する。戸外で遊びに入り込めるように遊びの工夫をし、必要な用具の提供をする。	1. いつもどおりの様子であった	グラウンドでは遊びへの期待が高まり興奮気味であった。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	全体を見渡せる場所で大縄を回しながら見守っていた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた（至近距離にいた）	子どもと鬼ごっこをしながら見守っていた。	ネットを揺らしているのは確認していたが特に注意をしなかった。ネットが歯に引っかかるかもしれないという予測ができなかった。	遊びに参加していない児に対して遊びを提供する。	
775	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	12	2. 午前中	1. 施設敷地内（室内）	3. 2歳児クラス	10									4	2	15. 3歳	1. 男児	なし	2. 室内活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面（口腔内含む）	左前歯打撲	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	2～3	2. 基準配置	風船を追いかけるという遊び自体が、子どもにとって周りを意識しずらいものであることを考えると、保育する職員がその点を踏まえてより安全留意した保育が必要であった。	子どもの咄嗟の動きも想定し、職員の付き方なども含め、十分な安全対策を心掛ける。	1. 定期的に実施	1回/日	1. 定期的に実施	1回/日	1. 定期的に実施	1回/日	なし	子どもの視線が床にいかない状況の場合、引き続き床面の安全対策を継続していく。	1. 集団活動中・見守りあり	なし	引き続き動きのある遊びでは広い空間を利用しながら、子どもの咄嗟の動きがあった場合でも安全が確保できるように保育環境を整えていく。	3. いつもより活発で活動的であった（理由を記載）	広い空間で風船を追いかけるという遊びなので、対象物に夢中になり、周りを意識しずらい状況であった。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	正規保育士は、1人を追いかけて見ているという状況ではなく、全体的に安全を確保できるように保育していた。看護師は離れたところで、本児の転倒の様子を見ていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	正規保育士1名は、急にホールを出ようとした児童に付き添って、ホールから出ていた。会計年度年度職員（資格なし）は他の児童と遊んでいた。	なし	遊びによっては夢中になり興奮しがちなので、子ども達の気持ちを落ちつけさせるような働きかけが必要である。	
776	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	10	2. 午前中	3. 施設敷地外（園外保育先・公園等）	5. 4歳児クラス	23									3	3	17. 5歳	2. 女児	●●医療センターで●月●日に鼻の陥没箇所を鼻の穴から器具を入れて持ち上げる手術を行い、●日まで同病院に入院していた。顔面の手術傷などはなかった。鼻の外側からプロテクター保護を行い、●月●日にプロテクターを外す予定であったが、集団保育なので安全面を考え、●月●日までプロテクターをつけていた。	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	2. 顔面（口腔内含む）	鼻骨骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	その都度	2. 基準配置	園外保育先の公園であり、遊び慣れていない遊具であった。遊具が学童用であり、幼児用ではなかった。	園外保育で利用する施設の確認を行う。	2. 不定期に実施	頻	2. 不定期に実施	頻	2. 不定期に実施	頻	園外保育先の公園の遊具その他について乳幼児の使用に適合していたかどうかということがある。園児は喜んで遊具で遊んでいた。	園外保育で使用する遊具の安全確認を園外保育の都度行う。	1. 集団活動中・見守りあり	園外保育での見守りは園内以上に行っているが、環境面での見逃しがある場合があるかもしれない。	園外保育に行く公園等の遊具の確認をし、乳幼児に適した遊具かどうかの判断を行う。	1. いつもどおりの様子であった	園児は活発に活動しており、特に大きな問題となることはなかったので園外保育に行った。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	遊具の近くで職員は見守っていた。園児が遊具で遊んでいるときも応答の言葉をかけていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	園外保育に付き添った職員は園児全体の活動を見守ることのできる位置で把握しようとしていた。	雲梯にぶら下がっていた幼児自身は雲梯をぶら下がり渡ることに自信があり、余裕があったために手が滑り落下したと考えられる。	慣れている遊具であっても十分に注意することを園児に促す。	
777	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	1	2. 午前中	3. 施設敷地外（園外保育先・公園等）	6. 5歳以上児クラス	18									16	12	17. 5歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢（腕・手・手指）	基節骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	都度	1. 基準以上配置	保育者同士のコミュニュケーションや、声の掛け合い。	保育者同士さらに声掛けと確認。目視の徹底。	1. 定期的に実施	１２以上	1. 定期的に実施	12以上	1. 定期的に実施	１２以上	固定遊具で鬼ごっこ中テンションが上がってしまった。	遊ぶ前に、固定遊具の使用方法の再確認を行う。	1. 集団活動中・見守りあり	保育時子どもたちの身体確認を行っていない。また、聞いていない。	痛い所・怪我した箇所を聞く。また、着替時身体確認を行う。	1. いつもどおりの様子であった	いつもと全く変わらない様子。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	見守りながら対象児は遊んでいた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた（至近距離にいた）	４方向で、対象児を含み見守りながら遊んでいた。	ぶつかった時に、すぐに確認はするが、遊びを止めてしまう恐れがあるので状況を見る。	４方向の立ち位置。（監視・監視プラス遊ぶ１人・遊び２）声を出し確認し合う。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
778	令和6年6月10日	1.認可	7.小規模保育事業	4	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	3.2歳児クラス	7									2	2	14．2歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	乳歯陥没	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2	2.基準配置	新年度、職員の異動が多く職員にとっても慣れない環境での保育となり、危険個所の共有や安全配慮に対しての周知ができていなかった。	過去のヒアリハットを見返し、戸外・室内での危険個所をあらためて確認。職員会議にて周知、共有する。事故予防マニュアルの見直し。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎回	1.定期的に実施	1	公園に設置されている遊具や段差に対しての危機感がたりなかった。	環境を考慮し月齢にあった遊びを楽しむ。	1.集団活動中・見守りあり	石製の椅子や滑り台、ジャングルジム等が配置された、比較的小規模公園にて子どもの目線が上部に向かい、周囲に目が向かないシャボン玉を追いかける遊びを行った。	子どもの月齢や活動時期（年度初）を留意し、公園の広さや遊具の配置などを考慮して活動場所を選ぶ。	1.いつもどおりの様子であった	シャボン玉を追いかけることで気持ちが高揚し、かつ、目線より高いシャボン玉を追うことで転倒しやすい状況となった。※年齢的な発達の段階においてもつまずき易さはあった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	シャボン玉を吹きながら、そのシャボン玉を追いかける子ども達の様子を見ていた。公園内にある階段でシャボン玉を追いかけて遊んでいる子供には危険を感じた為、段に登らず平地で楽しむよう促したが、その後もシャボン玉を行っていたところで、当該児が職員の手の届かない場所で転倒。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	7名の園児で戸外活動を行い、階段に上がったり、外に飛び出す子どもがいるため、階段付近にて声掛けしながら、全体を見守っていた。	年度初めで一人ひとりの子どもの特性や発達に配慮した活動や見守りが十分でなかった。	・再度、一人ひとりの子どもを丁寧に観察し、記録も参考にしながら、特性や個性を職員間で共有する。・安全に対しての研修を園内外で実施参加し、一人ひとりの保育力の向上、安全への意識の向上に努める。	
779	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	6.5歳以上児クラス	18									2	2	17．5歳	1.男児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨骨折、左尺骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	慣れた遊び場で、担任2名での引率とした。引率の職員数は十分であったが、遊び方としては全体の見守りと別の遊具下の見守りに分かれてしまい、対象遊具の見守りが出来ていなかった。	落下や滑るなどリスクのある遊具には必ず見守りが出来る配置となるよう、職員数だけでなく遊ぶ遊具の数を適宜検討する。	1.定期的に実施	6	1.定期的に実施	52	1.定期的に実施	52	滑落のリスクがある遊具であった	高さがあり危険であったり、滑落のリスクのある遊具には大人が付き添えるよう配置を考える。	1.集団活動中・見守りあり	年度当初であり、園児に気分の高揚等あった可能性がある。	園児の心理状況を踏まえ、遊びの前には改めて危険のないよう注意しながら遊ぶよう声掛けする。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	年長児に進級し、本児が自信をもち最近特に活発・意欲的であった事、年度当初の気持ちの高揚を踏まえた動きとなっていた事に気付けなかった。	4.対象児の動きを見ていなかった	落下のリスクがある遊具の見守りが出来ておらず、本児の落下の瞬間が確認出来ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	普段遊び慣れた園庭とは異なる園外であり、十分にリスクを考え、安全に保育出来る範囲での活動となっていなかった。	遊具の数と職員の人数を考慮した活動をしていなかった。	園外保育の際は特に、安全に保育出来る範囲での活動となるよう留意する。	
780	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	19									4	4	15．3歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨遠位端骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	12	2.基準配置	職員の配置人数は問題はなかった。	ソフト面での改善ではなく、保育状況を改善が必要である。（該当項参照）	1.定期的に実施	6	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	300	パネルシアターでは子ども達が決まったスペースに集まる活動であるため、実施者以外に子ども達を見守る職員が必要であった。事務作業はその時間でなくてもできることであったため、職員の動きに問題があったと考える。	パネルシアター実施者以外に子ども達を見守る職員を配置する。	1.集団活動中・見守りあり	パネルシアターを見ている子ども達を見守る職員がいなかった。	パネルシアター実施者以外に子ども達を見守る職員を配置する。	1.いつもどおりの様子であった	最後尾でパネルシアターをみており、隣には仲の良い子がいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	パネルシアターを実施していた保育士、配膳していた保育士が、本児が他児とじゃれ合っていたことを確認している。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の食事介助、事務作業中であったため、本児の動きはみていなかった。	パネルシアターでは子ども達が決まったスペースに集まる活動であるため、実施者以外に子ども達を見守る職員が必要であった。事務作業はその時間でなくてもできることであったため、職員の動きに問題があったと考える。	パネルシアター実施者以外に子ども達を見守る職員を配置する。	
781	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	5.4歳児クラス	16									2	2	16．4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	上顎右側乳中切歯外傷性歯牙脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	散歩先の地図、写真などを作成し、危険個所を共有している。	公園の写真などをとり、職員間で危険個所の共有をしていく。	1.定期的に実施	4	1.定期的に実施	4	1.定期的に実施	12	公園の危険個所などのチェックは到着してすぐに確認し、職員間で共有している。	職員間で公園の危険個所（すべりやすい場所、落下物の有無、障害物など）の共有をしていく。	1.集団活動中・見守りあり	1歳児クラスからコロナ禍となり、戸外での経験が減り、思いっきり走ったりする機会が減ったことも体づくりの観点から要因の一つと考えられる。	子どもが危険回避ができるよう乳児期から体づくりをしていく。また、危険個所を子どもたちへ声かけていく。	1.いつもどおりの様子であった	走りたい気持ちが高まって、先頭で走り始めてすぐの転倒。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	全体を見ていて、本児が走っているのは見ていたが、本児の後から追いかけていた子どもたちの死角となり、転倒する姿は見えなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の子どもをみていた。	公園の危険個所などのチェックは到着してすぐに確認し、職員間で共有し、子どもたちに声かけをしている。	職員間で危険個所を共有し、遊ぶ前に、その場所での遊び方のルールを必ず伝える。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
782	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	14									4	4	15.3歳	2.女児	【本児】身長：約101cm、体重：約19kg【抱え上げた他児】身長：約93cm、体重約14kg	2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面（口腔内含む）	外傷性歯牙破折	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	思い込みによる観察不足（落ち着いて遊んでいたため危険性がないと思った）	職員の配置を考える（最低1名は全体を見る）、目を離す際は職員間で声をかける	1.定期的に実施	50	3.未実施	0	1.定期的に実施	50	周囲に硬い物のある狭い場所（食事用テーブルと壁の間）を遊びの場としていた普段机上遊びをしている場所でもあるためその場で遊ぶことを制限していなかった	保育者から園児への声掛け（机上遊びをしない場合はテーブルスペースに入らない）、テーブルと壁の間隔を広げる	3.個人活動中・見守りあり	周囲に硬い物のある狭い場所（食事用テーブルと壁の間）で遊んでいたことに対しての危険性を考えられなかった	常に安全な環境で遊べるよう職員間で話し合う、（狭いスペースでの遊びを楽しんでいたため）他に落ち着いて安全に遊べる場所をつくる	1.いつもどおりの様子であった	他児とごっこ遊び（本児が赤ちゃん役・他児が母親役）をしていた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	他児と落ち着いて遊んでいたため、一時的に目を離した	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他園児の見守り、給食準備	活動の切り替わりの時間で職員が多方面に目を向けていた	活動が切り替わる時間は特に職員間での声掛けを密に行う	
783	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	4	1.朝(始業～午前10時頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	12		2		3	1	6			3	3	17.5歳	1.男児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面（口腔内含む）	上顎左側乳中切歯外傷性歯芽脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	観察不足（全体の観察をしていなかった。）	職員同士の声の掛け合い。気になる子へ見守りをして傍に付く。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	12	・公園に到着した時点で遊ぶ予定の遊具を見回り点検したが、遊ばない場所の方の遊具の見回り点検を怠った。	・公園に到着後は、全範囲の遊具や危険個所の点検を行う。	1.集団活動中・見守りあり	異年齢の少人数で戸外活動する公園としては、広範囲のため活動可能な場所を分けて使用していた。	異年齢の少人数で戸外活動する公園としては、目が届きやすい範囲の狭い公園を選択する。	1.いつもどおりの様子であった	滑り台を使用してはいけない事を約束していたが、遊びたくなり慌てて階段を上がってしまった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	他の固定遊具で遊ぶ園児の安全を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	小さい年齢の子に付き添っていた際に対象児を見ていなかった。	対象児の特性をしっかり把握していなかった。	対象児の特性を全職員で共通理解する。	
784	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	10					7	3			1	1	17.5歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢（足・足指）	剥離骨折（右足踝）	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施		1.基準以上配置	職員配置や危険個所の共有などに問題はなかったと思慮する。	特になし。	1.定期的に実施	4	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	毎日実施している教具の消毒の際に、点検も行っている。	丸太は直径40センチ程度、高さ20センチ程度である。砂場にも、石や他の教具が落ちていることもなく、問題はなかったと思慮する。	特になし。	1.集団活動中・見守りあり	丸太は直径40センチ程度、高さ20センチ程度であり、高さも大きさも問題はなかったと思慮する。	高いところからジャンプする際は、着地に気を付けるよう、声掛けする。	1.いつもどおりの様子であった		3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園庭に園児（4・5歳児）が10名おり、おのおのが好きな活動（遊具、砂場など）していたため、全体を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭には職員が1名しかおらず、他職員は保育室内で他児の保育を実施していた。	園庭での園児の人数や活動内容、職員の配置に問題はなかったと思慮する。	特になし。	
785	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	16					8	8			2	2	18.6歳	1.男児	身長約118cm、体重約21kg 発生時の天候は晴れ。最高気温18.8℃、最低気温6.5℃。比較的暖かく過ごしやすい日であった。	1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面（口腔内含む）	下顎歯肉挫傷	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	2	1.基準以上配置	遊び始める前の遊具の安全点検をしていなかった。遊ぶ場所の範囲を指定していなかった。また、ブランコ近くに職員はついていなかった。落下の瞬間を見ていた職員はいなかった。事故直後、二次災害防止のため他児を1カ所に集めることができていなかった。	公園到着後遊び始める前に遊具の安全点検を行い、児童へ注意点を伝える。広い公園では遊ぶ範囲を指定する。担任不在の時は、遊具の使用を制限する。事故発生時は他児を1カ所に集め二次災害の防止に努める。状況を確認し、首から上の事故においては救急搬送またはただちの受診をする。事故後、可能であれば全員直ちに帰園する。「事故後の対応マニュアル」および「戸外活動安全対策マニュアル」を更新し、定期的に周知・研修を行う。	2.不定期に実施		2.不定期に実施		2.不定期に実施		遊び始める前に遊具の安全点検をしていなかった。遊ぶ場所の範囲を指定していなかった。遊具の使用を制限していなかった。当該児童は普段から動きが激しく、注意を要した。	公園到着後遊び始める前に遊具の安全点検を行い、児童へ注意点を伝える。広い公園では遊ぶ範囲を指定する。担任不在の時は、遊具の使用を制限する。「事故後の対応マニュアル」および「戸外活動安全対策マニュアル」を更新し、定期的に周知・研修を行う。	1.集団活動中・見守りあり	教会での卒園式リハーサル後であり、疲れや開放感から注意力散漫になりやすい状況であった。職員1名は加配児童につき、もう1名も公園外へ出ようとする児童の対応のため出入口付近にいた。ブランコの危険よりも公園外へ出ていく危険の方が高いと思われた。職員同士は声を掛け合い、2名とも全体を見ながら役割を分担していた。受傷の瞬間は見ていなかった。	広い公園では遊ぶ範囲を指定する。担任不在の時は、遊具の使用を制限する。リハーサル後は、園近くの遊び慣れた狭い公園まで戻ってから遊ぶか、帰園する。加配児童がいる場合で、通常より園児数に対し職員数が少ない場合は応援を要請する。固定遊具には職員を一人配置する。保育中、職員同士声を掛け合う。	1.いつもどおりの様子であった	8：09　登園。特変なし。風邪症状なし。保護者からの引継ぎ事項なし。●/●卒園式のリハーサルのため、教会に向かって出発。教会に到着。リハーサル後、職員2名と園児16名が●●公園へ移動。5歳児クラス8名はブランコ周辺におり、順番にブランコを使用していた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	4歳児クラス8名が出入り口付近におり、公園外に出て行ってしまう恐れがあったため、出入り口付近から全体の見守りを行っていた。当該児童がブランコに乗っており、大きく漕ぎすぎてはいないことを確認していた。落下の瞬間は見ていなかった。事故直後対象児のもとへ駆け付け、応急処置を行った。その後5歳児担任に応援要請を行った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	公園の出入り口付近にて、公園から飛び出す恐れのある加配児童についていた。	5歳児クラス担任は片付けのため教会に残っており、不在だった。	広い公園で遊ばせる時は、遊ぶ範囲を指定する。担任不在の時は、遊具の使用を制限する。園児数に対し職員数が少ない場合は応援を要請する。固定遊具には職員を一人配置する。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
786	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	2	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	3. 2歳児クラス	6									2	2	15. 3歳	1. 男児	―	1. 屋外活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	―	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	1	2. 基準配置	・要配慮児が1名いたが（要配慮児を入れて）6名だったため2名で散歩に出た。（2歳児クラス10名のうち1名がインフルエンザで欠席。）もう1名の担任は有休だったため残り3名を主任が保育室で見ていた。・普段は2歳児10名に対して2名担任＋要配慮児担当として1名配置しているが、このは散歩に行くのが要配慮児を入れて6名だったため保育士2名で散歩に出た。職員配置での不足は無かったが、要配慮児の見守りを考慮すると、活動によっては1名付き添うべきではなかったか。・マニュアル等の周知はできていたが、事故の防止に繋がる研修等が不足していた。	・要配慮児への配慮が必要とするクラスでの保育内容や登園人数、メンバーによる活動場所においては様々な想定をしながら、安全な保育を行うための適切な保育内容と活動場所について話し合っていく。・的確な意見交換ができるように、園内研修（クラス内でも）を更に進めていく。・要配慮児と共に散歩に出る際は危機管理、安全性を視野に入れ、配置に余裕を持たせる。難しい場合に遊ぶ場所、遊びの内容をもう一度、担任間で話し合い、要配慮児以外の子を保育士1名でも安全に保育できるようにする。・活動内容によっては、散歩時にもう1名付き添うことも当日の人数により、その都度確認していく。	2. 不定期に実施	12	2. 不定期に実施	多数	1. 定期的に実施	1	・散歩に出る子どもたちの発達段階と遊ぶ場所が合っていなかった。	・活動計画においては、活動内容(石畳等は転倒の危険がある場所である等)について様々な想定をして計画を立てていく。	1. 集団活動中・見守りあり	・柱のそばにいた際の対象児と他児の2人の距離が近かった。子どもの遊びに対してその後の動きの想定ができていなかった。・2歳児が危険を意識できるような声掛けが不足していた。	・走って逃げるような集団遊びをする際には、段差のある地面の堅い石畳のある場所ではなく、平らで地面が土などの場所を選ぶ。・子どもたちに事前にわかり易くルールを伝えていく。	3. いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	・あそびが始まってから、鬼に見つからないようにと、いつもより、そわそわしていた。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	・担任1名は一緒にむっくりくまさんを行っており、対象児から少し離れた場所から全体の様子を見ていた。転倒は把握できたが手の届く距離ではなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	・対象児から離れた場所で配慮児と1対1で関わっていたが、柱の陰から倒れる対象児の上半身が見えた。	・始めは手をつないで一所に留まっているが、途中から鬼から逃げる内容の集団遊びだった為、段差のある地面が堅い石畳の場所では、１名の職員のみで援助しきれなかった。	・要配慮児が散歩に出る際は配置に余裕を持たせ、活動内容により可能であれば散歩にもう一人付き添う。	
787	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	5	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	19									1	1	18. 6歳	2. 女児	無し	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	3. 未実施		2. 基準配置	事故予防に関する研修を行っていなかった。	事故予防に関する研修を定期的に行い、全職員と共有することで危機管理意識を高める。	2. 不定期に実施	1	2. 不定期に実施	1	2. 不定期に実施	1-2	箱椅子が目立たなかった。	箱椅子を目立つ色にするなどして、子どもが意識しやすくする。	1. 集団活動中・見守りあり	足元を見ずに箱に足を掛けたことには気づいたが、体重をかけるとは思わず声をかけなかった。	乗らないことを再度周知していく。椅子として用意している物であることを伝え、乗る物ではないこと、使い方を再確認する。子ども達にも安全危険に対する意識がもてるように指導していく。	1. いつもどおりの様子であった	手洗い、身支度を終え自由な遊びに向かった。足元を見ずに友達とお喋りをしながら段差に乗ろうとしたところバランスを崩し転倒してしまった。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	担任保育士はクラス全体を見ながら子ども達へ支度を促す声掛けをしていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	補助者は園庭から保育室へ移動中だった為、担任1名が室内、補助1名が園庭で子どもを誘導していた。	対象児は視野に入っていたが、乗るような想定外の行動になり、転倒するとは思わず声を掛けなかった。	子どもの動きを先読みし、危険の可能性を知らせ予防に繋げていく。環境面の見直しを行う。	
788	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	4	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	13		1	2	3	5	2			14	13	16. 4歳	1. 男児	特になし。	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右橈骨近位部の若木骨折	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	12	1. 基準以上配置	職員が子どもの遊んでいる様子をしっかりと見守ることが出来ていなかった。ハイハイマットでの正しい遊び方を伝えておらず、跳ねたり子どもたちが一つの場所に集まってしまったりしている姿があった。	室内にいる子ども全員の人数に対して職員の人数は多かった。しかし、職員同士で話している時間も長かった為、室内ではメリハリをつける。職員の座る場所を全体が見れる位置にすることを徹底し、全員が全体を見れるようにしていく。	1. 定期的に実施	2	1. 定期的に実施	48	1. 定期的に実施	48	特になし。	遊び方を職員間で共有していき、危険な遊び方をしている子どもに対して声をかけられるようにしていく。	4. 個人活動中・子どものみ	ハイハイマットで遊んでいた子どもの人数が多かった。	子どもの人数が多い場合は、別の遊びに誘っていく。また、ハイハイマットの正しい遊び方を伝えていく。	1. いつもどおりの様子であった	特に変わりなくいつも通り過ごしていた。幼児室等でも、横になっている姿が多く見られるため、ハイハイマットでも横になって遊んでいたことに職員が違和感を持たなかった。	4. 対象児の動きを見ていなかった	別の子どもと会話をしていたり、別の職員に目線を送っている際で怪我をした瞬間を見ていなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	職員同士でこれからの動きを話している職員や午後のおやつを配膳している職員と食べている職員がいて全体を見る職員がいなかった。	特になし。	特になし。	
789	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	3	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	48				17	22	9			5	5	16. 4歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右足中指基節骨骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	2	1. 基準以上配置		職員配置について検証し、職員配置の状況を見直し、必要に応じて職員が園児への声かけを行う。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	外遊びの際、本児は雲梯の遊びを始めてまだ日が浅かった。	児童が遊具から転落した際に備えて、クッションのために遊具下のマットを取り換える。	1. 集団活動中・見守りあり		雲梯等の大型遊具を使用する際の安全管理に努め、園児には雲梯や遊具から降りる際の注意喚起を行う。	1. いつもどおりの様子であった	いつもと変わりない様子だった。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	担任が雲梯について見守っていた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	園児の遊ぶ個所場所にそれぞれ職員が配置されていた。		雲梯や遊具の側に職員を配置し、事故が起きないように適宜声かけを行い、見守る。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
790	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	5	6. 午睡中	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	11					9	2			1	1	16. 4歳	1. 男児	特になし	8. その他	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右小指中節骨骨折	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施		1. 基準以上配置	当該児以外の児の対応を行っていたことに加え口頭のみでの注意に留まり、対象児のもとに直接行き、理解できるように伝えることができていなかった	口頭のみの注意で終えず、児の元に行き理解できるように伝える。また職員間で声掛けの判断基準を決める。	1. 定期的に実施	230	1. 定期的に実施	230	1. 定期的に実施	230	午睡時のコットの間隔がとても近くなっていたため、子ども同士が遊びやすくなっていた。	コットの場所を再設定し固定する。まあコットの間隔を子ども同士の手が届かない程度に空ける	5. 睡眠(午睡)中	入眠時であったが落ち着いた雰囲気作りに不足があった。	午睡前に絵本の読み聞かせを行い、気持ちの切り替えを行うとともに、入眠時にBGMを流すなど雰囲気づくりを行う。	1. いつもどおりの様子であった	他児と戦いごっこをしていた。	4. 対象児の動きを見ていなかった	対象児以外の児の対応を複数行っていた。対象児が転倒の際は他児に意識が向いていた。(後ほど防犯カメラでの確認)	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	休憩中であったため他職員は該当クラス内には不在(担任1名で対応)	状況判断および報告連絡相談の不足。	入眠するまでの時間は4・5歳クラスにおいても2名体制で保育を行う。	
791	令和6年6月10日	2. 認可外	18. その他の認可外保育施設	4	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	3. 2歳児クラス	5									2	0	14. 2歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折 ●月末に完治	2. 自らの転倒・衝突によるもの	2. なし	2. 不定期に実施	2	2. 基準配置	玄関対応の際に担任が抜けスタッフ1名になるタイミングだった。	玄関対応で少なくなった所で起きてしまったので合同にしたり、施設長に声を掛けて入ってもらう。	2. 不定期に実施	2	3. 未実施		2. 不定期に実施	12	施設や設備等は今回の事故とは関係ないが玩具数パズルは同じものがなく取り合いになる可能性はあった。	玩具の量など見直していく。	3. 個人活動中・見守りあり	4月初めに行う遊びではなかった。	子ども達の発達に合わせた玩具を提供し集中して遊べる環境にする。	1. いつもどおりの様子であった	他児と使いたいものが重なってしまい取り合う	4. 対象児の動きを見ていなかった	担任はお迎えのため玄関に行っていたため本児から目を離していた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	スタッフではあるが少し離れたところで本児を見ていたが取り合い時声はかけたが間に合わなかった。	担任が離れる際に声を他のクラスなどにかけずに行ってしまったこと	必ずスタッフ1人にはしないこと。周りにも声を掛けて見てもらえるようにする。	
792	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	3	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	21	3	5	4	3	2	4			24	21	17. 5歳	2. 女児	発達面でアンバランスさがあり、発達検査を受けるなどしている。	8. その他	1. 負傷		6. その他	5. 下肢(足・足指)	靱帯損傷	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	1	2. 基準配置		職員の立ち位置に気を付けていく	2. 不定期に実施	6	1. 定期的に実施	1	2. 不定期に実施			危険個所がないかを環境を考えるチームで危険個所をチェックする	7. その他	庭で遊ぶ園児と室内にいる園児がいた。いろいろな遊びをしている園児がいる状況。	職員の目視による子どもの動きの確認をする	3. いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	月初旬までお昼寝が日課に組み込まれていたが３月末で、小学校前にお昼寝をせずゆっくり過ごしていた。	4. 対象児の動きを見ていなかった	背後にいることはわかっていたが、飛びついて来ることは予測していなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	動きは見ていたが、防げる距離ではなかった。	職員の人数は十分であったが、日中の保育の担当ではなく夕方のみ担当する職員であった	日頃より職員同士で子どもの様子を共有する	
793	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	5	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	14	2	12							3	2	13. 1歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	2	2. 基準配置	事故発生後に報告書の提出、クラス内で共有	事故発生防止のため、職員間で共有する。原因・改善点を振り返る。	1. 定期的に実施	毎日	3. 未実施		1. 定期的に実施	毎日	フローリングの床	怪我の原因になりうるものがないか点検する	1. 集団活動中・見守りあり	井形ブロックが散乱しており歩行スペースの確保ができていなかった	コーナー遊びの充実を考え、歩行などする際の危険のない環境整備に努める	1. いつもどおりの様子であった	保育室を走り回っていた	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	他児の検温をしながら見ていた	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	離れた場所で遊んでいる他児を見守っていた	朝の受け入れや検温で保育士の手が取られている状態もあり、通常マットの上で遊んでいたブロックが散乱している状態だった	職員同士で連携し、危ない遊び方になっていないかやおもちゃの散乱等で歩行スペースなどの確保ができない状態になっていないか注意し、子どもたちの遊ぶスペースなどコーナーの充実を作っていく	
794	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	3	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5. 4歳児クラス	20									1	1	16. 4歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右足第5趾 基節部骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	3～4	2. 基準配置	園庭にでていた園児20名に対し、担任が一人で対応していた。	保育士の対応人数を増員して見守りが必要。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	毎日	2. 不定期に実施	4～6	園庭内で死角があり、全てを把握できない	園庭内の物の位置の考慮する	1. 集団活動中・見守りあり	園児が慌てて走ってしまった何故慌ててしまったのか、雰囲気？	事前に気を付けるようしっかり伝える	1. いつもどおりの様子であった	普段と変わった様子はなかった	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	園全体を見渡せる場所で見守りしていた	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他スタッフがいない状況	他、見守るスタッフの応援をする応援の意味	走るときは慌てないよう声掛けするなどの関りが必要	
795	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	5	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	3. 2歳児クラス	8									2	2	15. 3歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	前歯が折れた	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	2	1. 基準以上配置	室内で遊ぶ際のルールの把握が薄かった。	室内での遊び方マニュアルなど必要であったかと感じる。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	遊び方の工夫が必要だったかと感じる。その時期に風船を使って上に視線がいく遊びを行った事も原因の一つと考えられる。	8名の園児に2名の保育士は良かったが、子どもたちが全員室内で走って遊ぶ際に、順番を決めたりルールは必要であったと感じる。	1. 集団活動中・見守りあり	子どもたちの突然の動きに対応をすることが難しかった。	順番、ルール等をしっかりと子どもたちに伝え、危険が無いように遊びを行う。	1. いつもどおりの様子であった	いつものように元気に遊んでいて風船を追いかける様子があった。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	近くで対象児を見ていたが、転んでしまった子どもに気をとられてしまっていた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	一緒に見ていた職員も少し離れた場所から対象児を見ていた。	興奮していたこともあると思うので、子どもたちの様子を見落としていた事もあるかと感じる。	その日の子どもたちの様子、動きをしっかりと把握しておき、一緒につく保育士と共有をしておく必要性があると感じる。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
796	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	3.施設敷地外（園外保育先・公園等）	3.2歳児クラス	12									4	4	14．2歳	1.男児	当該児は注意散漫になりやすい。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢（腕・手・手指）	隆起骨折（橈骨・尺骨）	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	4	1.基準以上配置	研修で骨折時は激痛で動かせない痛みと伝えていたこと、またどのような状況で骨折が起きやすいか周知していなかったことで散歩中に骨折の危険性や可能性を考えていなかったため。	今回の事例を踏まえて骨折の起きやすい状況や痛みがありつつも動かせることを視野に入れて職員研修等で発信していく。	1.定期的に実施	1	3.未実施	0	1.定期的に実施	1	散歩時に通る道路であるがコンクリート部分であったため転倒した衝撃が強かったため。	コンクリート部分や硬い地面の場合は転倒時に大きな怪我に繋がりやすいことを考慮して注意深く散歩に出かける。	1.集団活動中・見守りあり	手を繋いでいた他児が転倒し、手を繋いだ状態で本児が転倒し手首が内側に入り地面についてしまったため。	手を繋いだ状態で転倒してもすぐに手を離し手のひらをつけるように伝える。	1.いつもどおりの様子であった	登園時に母と登園したかったが父と登園したため機嫌が悪いと母から報告あり。担任から見るといつもどおりの様子で過ごしていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	担当職員は一番後方で転倒した他児と別の児2名と手を繋ぎ歩いていた。本児の状況は常に視野に入っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員は本児よりも前方にいたため度々後方を気にしていたが、常に本児が視野に入ってはいなかった。	転倒が多い児と手を繋いでつられて転倒する可能性が高い状況の中で至近距離で見ている保育者がクラスのことを熟知していないフリーの職員だったため。	転倒が多い児と手を繋ぐ時は担任が見ることで注視していく、もしくはフリー保育士に伝達を細かく伝える。また注意散漫になりやすい児であるため歩行が安定している児と手を繋ぐように配慮する。	
797	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	3.施設敷地外（園外保育先・公園等）	7.異年齢構成	24					11	13			3	2	17．5歳	1.男児	晴れ	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢（腕・手・手指）	左肘顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	要因、特記はなし	常勤職員２名に加え保育補助も１名おり、適正の範囲内と考えられる。	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	12	2.不定期に実施	12	要因、特記はなし	公園の柵は２０ｃｍ程度で引っかかりなどは見当たらなかったので、適正の範囲内と考えられる。	1.集団活動中・見守りあり	本児以外に園児２人と遊んでいた。	友達に追いかけられた、押された、大人が急がせたことはなかったが行き慣れた公園でもちょっとしたことが事故につながることを全体に周知していく。	1.いつもどおりの様子であった	保育者が保育園に帰る話をした時に、走ることもなく柵をまたいだときに起こった。	4.対象児の動きを見ていなかった	保育者が公園から帰ることを児に伝えた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の子ども達に水を飲ませていた。	普段の散歩でいく公園だった。	保育士が急がせたことはなかったが、行き慣れた公園でもちょっとしたことが事故につながることを全体に周知していく。	
798	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	3.施設敷地外（園外保育先・公園等）	6.5歳以上児クラス	21									2	2	17．5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢（腕・手・手指）	左肘靭帯損傷・左橈骨頸部骨折疑い	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	１～０	1.基準以上配置	年度初めに職員の入れ替わりがあり、事故防止マニュアルの読み合わせが出来ていなかった。職員の散歩に対する危機管理意識が薄かった。	年度初めには、必ず事故防止マニュアルの読み合わせをする。また、変更点などマニュアルの見直しも適時行い、園外保育の危険性を周知する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12	ジャングルジムに滑り台が組み込まれている遊具だったが、階段に手すりは無く、階段の床板10cmと狭く転落が起きやすい状況に氷鬼と言った遊びが加わってしまった。	遊具が、年齢発達に合っているのかを園児を遊ばせる前に把握する。危険と思われる場所には保育士が立ち事故防止を行う。	1.集団活動中・見守りあり	保育士１名は土地勘があったが、もう一人は公園の場所も把握せずに道順や公園の安全性も解らずにお任せ状態で出発した。通常的に、こまめな人数確認は行っていたが、道順の確認は実施していなかった。	園外保育は、事前に公園の把握や道順を確認してから実施する。行き先の変更時は、必ず保育園に連絡を入れる。園側も、散歩ノートの記載内容に間違いが無いか出発時・帰園時等に確認する。	1.いつもどおりの様子であった	当該児は衝動性があり注意が必要な児であった。転落した直後は、保育士が当該児に状況を確認するもうまく話せず、ただ左肘を痛いと訴える。発見時には、本児は立ち上がっていたが、おそらく転落し、四肢を地面に付いたようで手掌・膝に砂が付いていた。他の部位の痛みの訴えは聞かれず。	4.対象児の動きを見ていなかった	ジャングルジムに手の届く所にいたが、「疲れた」と訴える他児をベンチへ異動させていた。転落場所は目視できる位置ではあったが、転落の瞬間は見ていなかった。ジャングルジムで氷鬼を以前他の公園でも行ったこともあり、問題なしと判断した。しかし、今回の公園は初めての公園で、十分な安全確認をしていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	公園の遊具で、ジャングルジムとバネつきテーブルがあり、両方が見える位置にいた。転落の際は、他児のトラブルに対応していたため、当該児の事故は見ていなかった。保育士同士の声の掛け合いが出来ていなかったため、転落時に気づくことが出来なかった。	当日身体計測があるのを職員が忘れてしまい、出発時間が予定より１５分遅くなってしまった。以前散歩に行った際にA公園（●●区）の近くを通り、園児が次はこの公園で遊びたいと話していたため、今回はそこまで行くことにした。しかし、その公園の手前のB公園で「ここで遊びたい」となり、予定を変更する。	配慮が必要な児童に対しては、職員間で確認をしあいながら安全に保育する。園外保育では、保育士同士の役割を決め、人数把握や子どもの行動の安全確認をする。	
799	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	3.施設敷地外（園外保育先・公園等）	7.異年齢構成	25				7	9	9			3	3	15．3歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹（首・胸部・腹部・臀部）	鎖骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2	1.基準以上配置	なし	なし	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	1	なし	なし	1.集団活動中・見守りあり	一斉に遊びはじめた。子どもたちのやりたい遊具が集中していた。	遊び始める前の約束事を丁寧に伝え、遊び始める際にはクラスごと等分けて移動するよう促す。	1.いつもどおりの様子であった	いつもどおりだったが、公園での遊びに興奮気味であった為、周りが見えていなかった可能性がある	2.対象児の至近で対象児を見ていた	遊び始める前に注意事項を伝え、遊び始めの合図をだした為、対象児を含め全体をみていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	1名不審物や危険なものがないか点検。もう1名は担当職員と共に見守っていた	一斉に遊びはじめた遊び始めるよう合図を出してしまった。一斉に走り出してしまうと転倒する可能性を想像できていなかった。	遊び始める際には、一斉に移動せず、数人づつ落ち着いて移動するよう促す。一斉に走り出すとどうなるか園児にも伝え子どもたち自身も気を付けられるよう伝える。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
800	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	10	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	41				14	14	13			3	3	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右中指中節骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	年数回	1.基準以上配置	幼児クラス職員が全員揃っていなかったため、児童に対する見守りの体制が整っていなかった。	朝の時間帯の職員配置を見直す。一人ひとりの子ども達を全体把握できる立ち位置で保育を行うなどヒヤリハット会議で怪我防止保育の意識を高める。	1.定期的に実施	12	3.未実施		1.定期的に実施	12	通る時にままごとコーナーが妨げとなっていた可能性がある。	ままごとコーナーの位置の変更を行う。	1.集団活動中・見守りあり	朝の受入れ時で、職員体制が整わず当該児童の動きをとらえカバーすることが困難だった。	登園直後は落ち着いて遊びに入れるように誘導しそばについて確認する。	1.いつもどおりの様子であった	転んだことや痛みなど担任に伝えることもなく、その後普段通り室内や園庭で遊んでおり怪我をした手を痛がることなく使用していた。	4.対象児の動きを見ていなかった	他児と関わったり保護者対応をしており、気付くことができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児と関わっていた。	-	子どもの動きを把握できるよう、保育者間で保育室での立ち位置などを確認し、互いに声を掛け合い安全な保育ができるようにする。	
801	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	4	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	11									2	2	17.5歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1～2	2.基準配置	担任保育士は保育室の掃除にあたり、絵本の読み聞かせをしていた保育士は4月から採用（中途）されたフリーの職員で、子どもたちの特性の把握や信頼関係がなく配置に配慮が足らなかった。	子ども一人ひとりの特性を共有し、信頼関係が築けるまでの一定期間は、子どもたちに慣れた保育士が保育にあたってくことや、子どもが制御できないような興奮状態になった時には他職員がフォローできる体制づくりや子どもが落ち着けるような働きかけが出来るようにしていく。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	特記事項なし	特記事項なし	1.集団活動中・見守りあり	絵本の読み聞かせをするときに後ろの児が見えにくいことを配慮して後ろの児のみイスを用意したが、椅子から落ちることが予測できなかった。	いつも座り慣れている椅子ではあるが正しく座れない場合、または状況に応じて声掛けや椅子以外で対応できるようにしていく必要がある。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	普段から活発で友達との関わりでもまわりの状況を判断できなくなってしまう気質の児である。当日は担任ではない新任の職員という事で、いつもより興奮状態であった上に絵本の内容が楽しかったことで更に拍車が掛かった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	担任からの指示のもと保育室を出た廊下で11人に読み聞かせをする。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担任は5歳児クラスの掃除をしていた。	いつもはフリー職員が掃除にあたるが、その日は読み聞かせをお願いし担任が掃除をした。まだ、園児との関りに慣れていない職員にお願いしてしまった。	絵本を読む前に子どもたちの様子を確認する。落ち着いた雰囲気なのか、興奮気味なのかを見極めてどんな絵本を読むかなど事前に担任とフリー職員とで打ち合わせをして読み聞かせができるとよかった。	
802	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	21									2	2	17.5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	左眉切創	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	11	2.基準配置	突発的な園児の行動を予測できていなかった	全職員でマニュアルの見直しと読み合わせを行う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12	危険な箇所という認識が低かった。	園児が衝突しそうな箇所はクッション性のあるもので覆うようにする走らないという抑止力になるようなマークを床や壁に貼る	1.集団活動中・見守りあり	-	あらかじめ、走らないで行くことを子どもたちに伝える。職員は危険予測をして子どもの行動をしっかり見ていく。	1.いつもどおりの様子であった	体操教室の後、普段と変わりなく自由遊びをしていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	担任1名は全体の自由遊びを見ていた。もう1名は休憩に行こうとしていた所、本児がトイレに行きたいと行ったので手を繋いで一緒に歩いて行き、手前の休憩室の扉の所で別れた。（トイレ入り口の7メートル手前）	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	トイレの中（入り口付近）にいた職員が、走ってつまずき枠に激突する瞬間を見た。直ぐ周囲の職員に知らせ、本児の介抱をする。		職員配置はクラス単位でなく、全体で回すよう協力体制をとる	
803	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	20									2	2	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右小指基節骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	職員の人数配置は適正ではあったが、職員の立ち位置や見守り方に不足があった。職員が二段の牛乳ケースの上に座ることが危険につながるという認識ができていなかった。	全職員に園庭全体を見守る立ち位置についてと牛乳ケースの取り扱いについて周知する。園庭遊びマニュアルの改正をする。	1.定期的に実施	4	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	240	いつも遊んでいる場所ではあったが、地面にあったタイヤの位置が牛乳ケースに近かった。	タイヤと牛乳ケースに距離をとった。	1.集団活動中・見守りあり	いつも通りの様子ではあったが、夕方だったため疲れがあったと考えられる。	疲れている様子があれば声掛けをして室内遊びを勧めるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	普段と変わりはなかった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	職員は園庭全体を見守っていたが、対象児の状況をみていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	職員は園庭の違うエリアの園児をみていた。	職員の見守る視線の向け方が足りなかった。職員間で役割を確認し合うことができていなかった。	常にケガに発展することを予測し見守りを強化することを職員間で話し合った。園庭遊び中の、職員それぞれの役割分担の確認をする。	

No	初回掲載年月日	概要 / 認可・認可外	概要 / 施設・事業所種別	概要 / 事故発生時期 / 月	概要 / 事故発生時期 / 時間帯	概要 / 発生場所	発生時の施設・事業体制 / 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 / 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 / 年齢	性別	特記事項	事故状況 / 発生時状	事故の転帰	死亡 / 死因	負傷 / 負傷状況	負傷 / 受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 / ソフト面 / マニュアルの有無	事故予防研修	事故予防研修 / 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 / 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 / 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 / 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
804	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	6				2	1	3			1	1	17．5歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上橈骨遠位端骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	遊具を誤った方法で使ってしまい、職員がそれに気付くことができなかった。	再度遊具の適切な遊び方を園児全体に伝え、職員間でも経緯や状況を共有し安全に遊べるように意識していく。	2.不定期に実施	3	1.定期的に実施	随時	1.定期的に実施	随時	–	引き続き、連結する際はしっかり固定し、安全確認をした上で遊びを開始する。	1.集団活動中・見守りあり	太鼓橋で大縄跳びの順番待ちをしていた本児が手すりに腰掛けたが、職員が気付くことができなかった。	遊具を使用して遊ぶときは、園児から目を離さないようにする。	1.いつもどおりの様子であった	自分の順番が来るまで時間がかかり、その間に手すりに腰かけてしまった。	4.対象児の動きを見ていなかった	縄を回している最中で、気付くことができなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	屋上では、１名の保育士が幼児６名を保育していたため近距離には他の職員はいなかった。	–		
805	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	29				10	10	9			4	4	16．4歳	1.男児	特記事項なし	2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	亜脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	3	2.基準配置	対人数上は問題なかったが、当日に突発的な体調不良で早退した職員が複数名いたため、通常に比べ余裕がない状況であった。玩具を取られた際に付近に職員がおらず、走りだした本児に対して止めることができるような位置にもいなかったことが要因と考えている。	・職員が少なく危険だと判断される場合は、清掃時間をずらす等、臨機応変に対応する。また、一斉に清掃せずに１クラスずつ清掃する等、安全対策を確保したうえで清掃を実施する。・職員が少ない場合は、安全のために保育士同士の声掛けや連携をいつもより意識して行うようにする。・ホールで合同保育時等、普段と違う環境下や異年齢での保育の際には、スペースが広くなり人数が多くなるため特に職員の立ち位置には注意し、どの角度からも全体が見渡せるようにする。	1.定期的に実施	294	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	294	ソフト面のみ問題があったため、特記事項なし。	特記事項なし。	3.個人活動中・見守りあり	玩具は多くも少なくもなく、適正であった。走り回るようなスペースも設けておらず、机上遊びでコーナーわけをして過ごしていた。	特記事項なし。	1.いつもどおりの様子であった	遊んでいたブロックを他児に取られたため、取り返そうとして走った際に転倒した。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	１名の職員がホール全体の園児を見ていたが、本児の付近にはおらず、トラブルに気が付かなかった。本児が走り出した際に止まるように適切な声掛けができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	もう1名の職員はちょうど保育室の清掃が終わったことを確認したので付近にいる園児と一緒に保育室に戻る準備を始めており、保育室とホールを行き来している状態であった。	保育者同士の声掛けが不十分で安全に見守ることができていない状況であった。	・その場を離れる際に保育士同士で声を掛けあい、それぞれの立ち位置が適正であるか確認する。・園児同士の喧嘩等でマンツーマンで対応しなければいけない状況になった時は、応援を呼び、全体から目を離さないようにする。・走ってはいけない状況の時に、何度注意しても走ってしまう園児に対しては、保育者がすぐに止められる位置に立つ。	
806	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	26					12	14			4	4	17．5歳	2.女児	身長：約110cm、体重：約20kg	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左下腿脛骨骨幹部骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	3	1.基準以上配置	ブランコに関しては、普通のブランコ・タイヤブランコ・ネットブランコなど種類に関わらず約束事に「中に入らない」「順番・並ぶところを教える」のみの記載であった。	ブランコ全般に関しては「強く揺らしたり急に止めたりしないこと」「勢いよく着地しないこと」など基本的な注意点も加える。また、今回使用していたネットブランコに関しては、「脚を伸ばした状態で乗ること」「盤面から脚を飛び出させないこと」「乗っている子ども同士が接触しないように座らせること」を注意点に追加する。	1.定期的に実施	6	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	12	該当遊具の点検及び事故発生後の検証より、遊具の不備や故障はなかった。	今回に関してはハード面での問題はなかったと考えられるため、改善点なし。引き続き遊具の点検を継続していく。	1.集団活動中・見守りあり	該当遊具は幼児2名での使用が可能であり、事故発生時は幼児2名に対し正規保育士1名が見守り・補助についていた。使用方法にも問題なし。	今回に関しては環境面での問題はなかったと考えられるため、改善点なし。引き続き、遊具の正しい使用方法について子どもたちに伝えていく。	1.いつもどおりの様子であった	事故当日は本児の体調・身体状況ともに問題はなく、準備運動をしてから園庭に出て遊んでいた。本児と5歳児クラス女児の2名が、ネットブランコに横並びで足を伸ばした状態で乗っていて、微かに揺れている状態で突然本児が痛みを訴える。他児や遊具が本児の脚に当たったり、地面に勢いよく脚を下ろしたりはしていなかった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	乗っているすぐそばで見守っており、緩やかにブランコを揺らしていた。（本児たちが「もっと揺らして」と要求する程度）急にブランコを止めたり揺らしたりはしておらず、ほぼ止まっているような状態で本児が脚を痛がったため、揺れを完全に止めた。本児にどこが痛いのかを尋ねるが泣いて答えないため、別の職員を呼んで事務所に連れて行った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	本児と5歳児の2名に対して保育士1名と配置は十分であったため、他の職員は特に注視はしていなかった。事故発生後は本児が「痛い」と訴えていたため、担当職員とは別の職員が抱っこで事務所に連れて行った。	ぶつけたわけではなかったため、患肢のレントゲン写真を見ながら整形外科医と原因を分析した。今回は、両足ともに伸ばした状態でブランコに乗っていたが、乗っている状態で本人が体勢を整えようとするなどで患肢に不自然な力が入り、捻ったようにして骨が折れてしまったのではないかという見解となった。	ブランコは、背筋を伸ばして脚に不必要な力が入らないような体勢で乗るよう、保育士・子どもたちに伝えていく。また、今回は違ったが、他児の脚が当たったり、大きくブランコを揺らして遊具が身体に当たったり、勢いよく地面に足を着いたりすることで大きな怪我をする可能性があることを念頭に置いて、遊具を使用していく。	
807	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	41					21	20			3	3	17．5歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘剥離骨折・左上腕外側顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施		2.基準配置	遊ぶ前の園児への指導が不十分だったかもしれない。	見守りをする際の立ち位置や注意喚起の声かけを的確にする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎日	園庭の地面の状態が走りにくい状況をつくっていたか。	園庭を整備し、少しでもつまずく原因になる物を取り除く。	1.集団活動中・見守りあり	２クラスが合同で遊んでいたため、２種類以上の遊びが混在していた。	鬼ごっこをしている園児と他の遊びをしている園児が接触しないような場の工夫をする。	1.いつもどおりの様子であった	鬼ごっこの際、自らが鬼になり追いかけることに夢中だったため、園庭に座っている園児に気づかず衝突、転倒した。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	当該園児の転倒を目撃。転倒直後、肘を確認。曲げ伸ばしもでき、外傷や腫れ、赤みもないことから、濡らしたタオルで冷やし様子をみた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の園児の遊んでいる様子を見ていた。	職員が園庭に座っている子が衝突の原因になることを察知していれば防げたのではないか。	危険を予知し衝突の可能性がある場合には声かけをして回避する。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
808	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	3	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	21									3	3	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	4～5	2.基準配置	子どもの人数に対する配置基準に沿って保育活動を行っていた	今回の事故に対し、職員会議で経過を共有・改善策を話し合い、該当クラスだけでなく職員皆の危機管理能力に繋がるようにする	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	12		転倒防止のため、園庭の地面を平らにならす。環境整備の際に定期的に整える	1.集団活動中・見守りあり	突発的な出来事に対応できなかった	三輪車で遊ぶ際の約束事を、担任から子どもたちに話し、一緒に確認する	1.いつもどおりの様子であった	三輪車で立ちこぎをし乗っていた。その後、停車した状態で立ちこぎの体勢からサドルに座ろうとし、左足をペダルに掛け、右足を上げた際にバランスを崩して三輪車ごとゆっくり左側に転倒する	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園庭への水まきを終え、ホースリールを巻きながら、遊ぶ子どもたちを全体的に見ていた職員園庭で、子どもたち全体の動きを見ていた職員	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	固定遊具で遊ぶ子どもたちを、そばで見守りながら、園庭全体も見ていた職員		三輪車の遊び方、使用方法の確認、改善策を職員で話し合い共有した	
809	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	20									4	4	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左前腕骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	3～4	2.基準配置	児が左腕をぶつけた後、おんぶをする時や保育士の促しに対して、自分で動かす様子が見られた。又保護者が迎えに来た時には、他児と手をつないで嬉しそうに走って帰る姿が見られたため、けがの予測がつかなかった。	児が左腕をぶつけた後、いつもより動きがおとなしかった事等を考慮し、対応を行う必要があった。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	ジャングルジムなど固定遊具から飛び降りると怪我をする事がある。	固定遊具で遊ぶ時は職員が側について、園児の遊び方を見て声掛けや遊び方を伝える。	1.集団活動中・見守りあり	ジャングルジムで遊んでいた児が飛び降りると予測がつかなかった。	ジャングルジム等固定遊具で遊ぶ時は、遊び方によっては同じように怪我をする可能性があるため、子どもたちに固定遊具の安全な使い方を伝える。	1.いつもどおりの様子であった	ジャングルジムに登り自分で降りていたが、２段目から地面に飛び降り、しりもちをついた後、左腕を地面にぶつけた。	1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた)	本児が遊んでいるジャングルジムにつき側で見守っていたが、突然２段目から飛び降りたため制止ができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭で他児が遊んでいる所に関わっていた。	本児の様子を職員間でも情報共有して関わる必要があった。	固定遊具を行う時には職員が安全な遊び方を伝え、危険な場面があった時には、そのつど声をかけ気をつけて見ていくようにする。	
810	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	7	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	23									2	2	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右尺骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	活動内容が、狭い廊下では不適切であった	保育内容、保育場所についてクラス内で再確認を行った	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施		2.不定期に実施		-	廊下などの狭い場所での運動遊びは行わないなど職員間で共有する	1.集団活動中・見守りあり	他の活動後に、身体を使う遊びを続けて行い、身体を落ち着かせる時間を取らなかったことにも要因があると考える	静と動の遊びを組み合わせ、無理な活動はしない	1.いつもどおりの様子であった	活動の切り替わり後の落ち着いていないまま遊び始めたことで、落下後、踏みとどまることが出来ずに転倒した	2.対象児の至近で対象児を見ていた	廊下で遊んでいる子、全体を見ていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育室で遊んでいる子を見ていたため、対象児の動きを見ていなかった	-	慣れていない運動遊びを提供する際は、綿密に話し合いを行い配置等の確認をしていく	
811	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	42				14	14	14			8	8	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手小指基節骨骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施		1.基準以上配置	クラス会議で遊びの様子でのヒヤリハットを出し合い、次の日の保育に活かせるような確認がなかった。	子どもが大人数で遊んでいる場合は必ず見守るようにする。	2.不定期に実施		2.不定期に実施		2.不定期に実施		子どもたちもサッカーが上手になってきて、ボールに勢いがつき、手で受け止めた時に勢いよく当たった。かなり柔らかいボールだったがもう少し柔らかいボールのがよかったのか。	子どもたちが扱うボールの硬さや大きさを確認し、柔らかいものを用意する。	2.集団活動中・子ども達のみ	保育士がその場面を見ていなかったことと、本人の訴えが遅かったため発見が遅れた。	保育者同士声を掛け合いながら、全ての遊びに対して見守る（一緒に遊ぶ）保育者がいるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	自らボールで遊ぶことを選択し、友だちと一緒に楽しんでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	異年齢児での活動だったこともあり、子どもだけで遊べる5歳児よりも３、４歳児クラスの遊びに保育者が必要だった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担任から遊びの様子などを聞いていたこともあり、子どもだけで安全に遊べると思っていた。他のクラスの子どもの遊びを見守っていた。	異年齢児合同保育だったため、保育者の人数は多かったが、子どもも多かった。他クラスの職員に子どもの様子を伝えることなく遊び始めてしまった。	誰も見ていない状況を作らないようにする。遊びが盛り上がると激しい動きになってしまうことなどを他クラスの職員にも伝達しておく。	
812	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	6	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	52				15	18	19			3	3	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左第3指中節骨骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	12	1.基準以上配置	-	引き続き、マニュアルを活用しながら事故防止に努める。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	-	今後も現状通り安全点検を行う。	1.集団活動中・見守りあり	-	少しでも体に痛みがあった時は、すぐに担任に知らせることを子ども達に周知する。	1.いつもどおりの様子であった		2.対象児の至近で対象児を見ていた	子ども達がお昼寝袋からバスタオルを取り出して布団に敷く様子をそばに座って見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)		-	引き続き、子ども達の様子をよく観察しながら見守る。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
813	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	2	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	21									2	1	15.3歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	保育の慣れが危険予知への意識の希薄さに繋がっていた。	ヒヤリハット活動の推進、他の事故事例を共有し、危険予測能力を培い、重大事故を未然に防ぐ。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	滑らないように素足で遊ばせたが、床面が想像以上に滑りやすい状態であった可能性がある。	ホールの床面をモップ拭きしてから活動する。	1.集団活動中・見守りあり	活動中、見守り体制があったため、特になし	活動中、見守り体制があったため、特になし	1.いつもどおりの様子であった	転倒するまで元気に遊んでいたが、転倒後痛がり泣く、頬が痛いということで冷やす。その後は保育室で遊び始める。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	転倒後、保育室に戻り頬を冷やす。本児が痛いと言った部位は頬だけだったので頬を冷やした。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の子ども達とホールで遊び、部屋へ戻ってくる。	転倒した際、他の部位も打撲していた可能性があったが、痛がる部位以外を確認しなかった。	痛みを訴えた部位だけでなく、他の部位もしっかり確認していく。	
814	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	27									5	4	15.3歳	1.男児	言葉は喃語が出るくらいで、要求などがある時は大人の手を引き伝えようとしたりする。行動を制止されると声をあげたり、自分の頭をたたいたり壁に打ちつけたりと自傷行為もみられる。じっくり遊んでいても急に走り出し部屋を飛び出そうとする姿があり、保育士が1対1でついている状況である。突発的な動きが多く、目が離せない。大人の反応をみて楽しんでいるような姿もあるので、状況を見ながら制止をしたり見守ったりしている。	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	母子末節骨骨折	4.玩具・遊具等施設・設備の安全上の不備によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	事故防止の意識を今以上に高めていく必要がある。	事故予防の研修の回数を増やし事故防止の意識を高めていく。	1.定期的に実施	1〜2	1.定期的に実施	1〜2	1.定期的に実施	1〜2	通常解放している扉のため、閉めた時の安全面の配慮が不足していた。	本児が怪我をしたドアに指が挟まらないようレール上部にクッションを取り付ける。担任間で園児の行動を予測し、環境の見直しを行なった。	3.個人活動中・見守りあり	本児の成長とともに行動範囲が広くなり、予想以上に自分で出きることも多くなっている。	担任間で園児の行動を予測し環境の見直しを行なった。	1.いつもどおりの様子であった	保育士と遊んでいる途中、保育士の気を引こうとする行動であった。	1.対象児とマンツーマンの状態(対象児に接していた)	大人の動きを試している様子もうかがえたので見守りをしていた。引き戸を動かした際、止めに入ったが間に合わなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	集団の中で過ごすことが難しい本児であったので、個別に遊びが楽しめる場所を作り保育士と一緒に過ごし、ほかの職員にいつでも声をかけられる場所にいるようにしている。	本児の担当は資格保有者で経験豊富な保育士である。2歳児クラスからの持ち上がりで本児とは信頼関係がとれている。	他の職員も本児につくようにし本児の情報共有をし関わり方の改善ができるようにしていく。	
815	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	7	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	27									5	5	14.2歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	10	1.基準以上配置	風船に手を伸ばして触るという子どもの気持ちが昂る遊びの設定だったが、危険を伴うという意識が職員に薄かった。	子どもの気持ちが先行して、前の園児を待つなどのセーブが効かないことが予想されるので、保育士の付き方を考えるべきだった。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	–	夢中になると周りが見えなくことも十分に考えられるので、間隔をとったり子どもが待機する場所を決めて設定する。	1.集団活動中・見守りあり	様々な運動が出来るような設定を考えて保育していたが、予想以上に子どもの気持ちが高揚してしまう設定になってしまった。	サーキット遊びという巡回しながら遊ぶ設定では、風船にタッチするという設定は好ましくなかったので、2歳児に予想される姿での設定を考える。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	運動遊びということで、いつもより活発に動いていた。普段の遊びの中では経験できない動きでもあり、気持ちも高揚していた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児が視界に入る至近距離で、他児を含めて危険の無いように傍についていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	必要な箇所にそれぞれ付いていたので、各設定で遊ぶ他の園児に注目し、必要に応じて援助していた。	他に注視すべき園児がいたため、そちらを気にしつつ風船の遊びにも目を向けていたが、危険を伴う遊びという認識はなかった。	風船に手を伸ばしている時は周りが見えなくなるので、保育士が傍に付き危険の無いように援助する。	
816	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	5	8.夕方(16時頃〜夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	16									1	1	17.5歳	1.男児		8.その他	1.負傷		6.その他	4.上肢(腕・手・手指)	左第５指中節骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	数	2.基準配置	新年度の、生活安全指導(新しい保育室での安全な過ごし方)がまだできていなかった。	環境の変化に合わせた、部屋の使い方、子供の見守りについて定期的に話し合う機会を作り、児に対しては、クラスで生活安全指導を行う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	特になし	3.個人活動中・見守りあり	保育士が、他の児のトラブルの対応中で、対応できなかった。	新年度が始まり子どもたちの生活リズムと新しい環境での過ごし方が整うまでは職員を増やして配置する。	1.いつもどおりの様子であった	最初はワミーボールを使い1人で遊んでいた。その後、AとBとCもワミーでキャッチボールをしていた為、本児が仲間に入れてほしいと申し出る。BとCは受け入れ、Bが「４人で遊ぼう」と提案している。しかし、Aはうけいれていない。そんな中、Bが「ボールを1つにしよう」と提案し本児・B・Cで遊びだすが本児がボールをとろうとしたりするとAがさえぎっていた。その後、Aがボールを2個持ったタイミングでCがAに「1個ちょうだい」といい、Aが投げたため、本児が受け取った。そのため、トラブルとなった。	4.対象児の動きを見ていなかった	別の場所で他児のトラブルがあったため、そこを対応していた。本児が泣いていることで、女児が気づき、職員を呼び、本児へ近寄るが、子ども同士で解決できることと思い、「自分たちで話し合ったらどうか」と声をかけて、食事の準備へ行く。		他職員なし	ビデオにて本児の動きを確認して分析を行った。	以前からAはトラブルが多かった。その為、職員配置を増やしAの行動を重点的に見守る。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項
817	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	15									2	1	17.5歳	2.女児	
818	令和6年6月10日	2.認可外	6.認可保育所	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	23									2	1	17.5歳	1.男児	
819	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	6	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	1									3	3	17.5歳	2.女児	
820	令和6年6月10日	1.認可	3.保育所型認定こども園	8	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	16									2	2	18.6歳	1.男児	●月●日一度目の病院受診。●月●日二度目の病院受診し完治。

No	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策
817	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施		1.基準以上配置	－	特になし	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	毎日	－	特になし
818	1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)	左脛骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置		なし	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	地面状況、天候、自然環境に問題なし	なし
819	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	左前歯亜脱臼、右前歯歯根破折疑い	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	8	1.基準以上配置	靴下をはいて室内で小走りに動いたため滑って転倒した。	室内では走らないと知らせる。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	床が綺麗に掃除され、いつもより滑りやすくなっていたことも考えられる。	滑りやすいので走らないことの注意喚起。
820	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足第二指骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	2	2.基準配置	特記なし	職員の配置人数は特に問題なし	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	48	水筒がステンレス製であり、底に角があった。水筒をかけるフックが頭の高さにあり、その位置から足に落ちてしまった為に骨折となってしまった。	水筒はロッカーには掛けず、籠に入れて床面に置くことで落下を防止する。

No	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
817	1.集団活動中・見守りあり	子どもたちも上達し、自信をもって参加するようになっていた。跳ぶために助走し、勢いもあったことから、腕を着いたときの衝撃も大きかったと思われる。	発達に合わせ段階を追って取り組みを重ね、補助やマットなど安全面も考慮し活動をしてきたが、今回、事故が起こってしまった。跳び箱活動は中止し、他の身体活動を展開する。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り登園し、体育活動に参加。事故の後に、本児より、足の爪が痛かったことを聞く。（家庭でドアに挟み爪が割れたとの事。右足親指）家庭より、事前にその話はなかった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児は３段の跳び箱レーンに並び順番が来て跳び箱を跳ぶ。保育士は跳び箱の近くにおり、跳んだ後の着地でバランスを崩しマットに右腕を着くのを目の前で見る。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	もう１名の職員は、隣の４段跳び箱のレーンの近くにいる。	本児は跳び箱も上達し、５段を跳ぶ日もあった。事故までは、当日も何回か上手に跳んでいた。足の爪を痛めていた事は、事故後に本児より聞く。その後、保護者に「本児から足の爪を痛めていることを聞いたのだが」と尋ね、状況を知る。	足の爪を痛めていたことを事前に知っていれば、その後の活動で配慮もできた。	
818	1.集団活動中・見守りあり	園庭で自由遊びをさせることに慣れており、意識の低下があった。今回も安全に遊べるものと考えていた。	多様な運動や遊びの経験ができる保育計画づくりを行う。	1.いつもどおりの様子であった	大丈夫と思って実施した。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	大丈夫と思って見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	大丈夫と思って見守っていた。	回転しながらジャンプした後に着地の動作を適切に行うことができなかった。	骨折するか否かは骨に対する衝撃力の強さで決まる。回転を加えたジャンプから地面に着地する際には、脛骨に大きな負荷がかかりスパイラル骨折が起こりやすい。骨折には後遺症が残る深刻な事故も含まれるため、見守りの強化と保育環境の整備を徹底していく。	
819	1.集団活動中・見守りあり	朝の支度をする場なので、広さがない所で小走りなった。	走る場所でないことの注意喚起。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りの様子だが、いつもは歩いて母の傍にいた。その日の朝は、走っていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	職員は1歳児担任で弟を受け入れの為、弟の動きを主に見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員は、保育室の遊びのコーナーで1歳児の遊んでいる子どもたちをみていた。	特になし。	1歳児クラス担任は対象児の担任ではないが、動きには気を付けてみる。	
820	1.集団活動中・見守りあり	特になし	今後、幼児クラス（３，４，５歳クラス）は上履きをはいて過ごすようにしていく。	1.いつもどおりの様子であった	いつもどおりであった。	4.対象児の動きを見ていなかった	自由に水分補給が出来るようにしていたが、水筒の保管場所が職員の目の届かないところだったため。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	加配児の対応をしていた。	特記なし	水分補給は、職員が目の届く場所で行うようにする。またその様に園児に伝える。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因
821	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	7									3	3	13.1歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足親指付け根骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの
822	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	19				8	11				2	1	15.3歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯牙破折	3.子ども同士の衝突によるもの
823	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	15	5	10							3	3	12.11か月	2.女児	なし	2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	右頬部挫創	5.他児から危害を加えられたもの
824	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	11	4	4	3						3	3	14.2歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯冠破折根尖性歯周組織炎	2.自らの転倒・衝突によるもの

No	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策
821	1.あり	2.不定期に実施	2～3	1.基準以上配置	子どもが転倒しやすい年齢、その後に歩いていたこともあり、大きな怪我を疑わなかった。最悪を想定してその場、その後の確認が必要と思われる。	怪我を疑い丁寧な視診の徹底。	2.不定期に実施		3.未実施		2.不定期に実施	12	遊べるエリアを広げた	遊べるエリアを広げた
822	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	・夕方のお迎えが重なる時間帯で、送迎園児誘導を重視してしまったこと・担当保育者の危機管理意識軽視	・全体を見渡せる位置、危険と感じた時にすぐに仲介や状況把握ができる体制を意識する・3～5歳児担任で夕方の保育の流れと活動内容、職員の動きから危険個所を出し合った。合同保育（異年齢）活動内容を職員数に合わせてコーナー設置や教材提供の具体的対策を協議、明日から取り組みながら死角や危険個所がないか、適する遊具についても検討を重ねていく	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1～2	保育室の広さと活動内容、園児の動線を踏まえた状況の判断不足	園児の自由遊びの姿から、危険個所の確認と改善を行う
823	1.あり	1.定期的に実施	3	1.基準以上配置	事故発生場所についていた職員は2歳児クラスの今年度入職の新人職員。2歳児クラスに園長がサポートに入り、2歳児クラスの担任が0.1歳の合同に入った。職員の退勤時間とも重なり動きが多く、子どもも落ち着いていなかった。	職員人数配置基準を満たしていたが、降園時間で退勤の職員もいるので、職員の移動を減らし、落ち着いた環境を作る。	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	100	2.不定期に実施	100	なし	玩具や施設の問題はこの事故との関連なし
824	1.あり	1.定期的に実施	2	2.基準配置	－	特になし研修は実施、研修報告あり、配置基準に問題なし	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	48	－	特になしマットは防炎マット使用基準外のものは使用していないため問題なし

No	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
821	3.個人活動中・見守りあり	歩行が不安定な状況で複数人の子どもがいた	遊べるエリアを広げた	1.いつもどおりの様子であった	もともと歩行が不安定なところがある	2.対象児の至近で対象児を見ていた	遊びエリア内で子どもと一緒に過ごしていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	7名の子どもに対して2名の保育士が子どもと一緒に遊び、1名がエリア外で引き渡し等を行っていた	年齢的に転倒することに保育士が慣れてしまっていたこともあり、転倒した際に外傷がなかったことで見落としてしまった。	転倒や少しの怪我でも疑われるようなことに際しては視診、触診、子どもの様子など複数の職員で確認し、気になる様子が見られたら怪我の様子がなかったとしても保護者に伝えるなど丁寧な対応をとる	
822	1.集団活動中・見守りあり	実態に応じた人員配置と担当職員の役割確認不足、危険が予想される園児への注意喚起の欠如	配置職員の役割確認の徹底、人員配置の工夫	1.いつもどおりの様子であった	4歳男児に関心がありブロックやごっこ遊びを共有するのではなく、4歳男児3～4人に近付きボディタッチし相手が振り向くと自分の席に走って逃げる行為をこの日も始める	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	本児を含め戦いごっこが始まったため保育士が近付いて口頭注意し他の遊びへ促す	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	保護者迎えの園児に使ったおもちゃの片付けを促しながら、遊んでいる子ども達を見守っていた	保育者の危機管理意識の欠如　保育者は危険を察知したが、幼児への周知に至らなかったため危機管理が十分でなかった。	騒々しくなりそうな場合は①一度子ども達を集めて保育者を注目する活動（パネルシアター、スキルがあれば素話でも大丈夫）で保育室の雰囲気を落ち着かせること②保育室での過ごし方の確認を必ず行うこと	
823	1.集団活動中・見守りあり	職員の連携を図って注意をしていたが、他児の対応をしている間に死角となって事故が起きてしまった。	普段から噛みつく姿があったり、その日は特に他児に関わって噛みつこうとする姿が見られていたため、職員が交代するときに連携を図っていたが、事故が起きてしまった。引き続き職員間で情報共有をして、子どもが安心して過ごせるように、どの職員がいても同じ対応ができるようにする。死角をなるべく作らないように考慮しつつ、死角となる場面もできてしまうこともあるので、その場合には子どもが遊びこめる環境を作るなどの安全管理に努める。	1.いつもどおりの様子であった	普段から、他児が楽しく遊んでいるものなどへの興味が強く、相手の反応を気にせず近づいたりおもちゃに手を出す姿があり、いつも通りの様子だった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	申し送りを受けて、落ち着かない様子の児（かみついた児）を注意深く見守っていたが、他児の様子を見ていて本児が死角となり噛みつく姿に気づくことができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれ傍にいる園児を見ていたため、見ていなかった。	かみついた児は日中に1歳児クラスの他児に1回、合同保育中も0歳児クラスの他児に1回、かみつく寸前で保育者が止めるということが数回あった。落ち着かない状況の中で、職員の目が行き届かない瞬間があった。	注意不足や経験不足から死角を作ってしまったり意識が逸れてしまった。死角を作らない立ち位置や視野を広げて保育に取り組めるようにする。	
824		保育室内の環境面。広い空間での遊び方や行動範囲の想定の甘さ。	保育室内をコーナー化し、一人ひとりが落ち着いて好きな遊びを十分楽しめるスペースの確保。	1.いつもどおりの様子であった	鍋蓋で、「おうまさん」になりきり「ぱかぱか」言いながら進んできた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	保育室内より、全体をみながら本児の遊びを見守る。転倒時手を伸ばしたが防ぐことはできなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	1人は保護者対応、1人はオムツ交換、本児に対しては目が離れていた	職員同士の声かけや連携不足、危険予測の甘さ、本児へままごと玩具の正しい使い方や遊び方の声かけがなかったこと。	保育室遊びのエリアから出る際は、互いに連携をとり声かけをする。厳しい状況のときは「今は厳しい」など断る。職員一人ひとりの危機管理、危険予測認知を高めるための研修を行い意識を高める。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因
825	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	8	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	7					4	3			1	1	16. 4歳	1. 男児	特になし	2. 室内活動中	1. 負傷		6. その他	1. 頭部	脳震盪	3. 子ども同士の衝突によるもの
826	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	8	3. 昼食時・おやつ時	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	9	0	0	0	7	1	1	0	0	2	2	15. 3歳	2. 女児		5. 食事中(おやつ含む)	1. 負傷		2. 骨折	2. 顔面(口腔内含む)	左頬骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの
827	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	7	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	5. 4歳児クラス	13									2	1	17. 5歳	2. 女児	令和●年●月●日降園直後に痙攣・意識障害にて救急搬送後、保護者の依頼で抗痙攣薬であるブコラム口腔用液を園で預かる。	8. その他	1. 負傷		1. 意識不明		部分てんかん	8. その他
828	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	8	9. 夜間・早朝（泊り保育）	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	4	0	0	1	2	1	0	0		2	2	17. 5歳	1. 男児	自閉症 愛の手帳総合判定２度	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの

No	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策
825	1. あり	1. 定期的に実施	3	1. 基準以上配置	園として、頭部外傷の際の救急対応について職員周知や研修等がされていなかった為、事故発生時に職員が本児から目を離し、子どもの痙攣に気付けなかった。	●月●日の職員会議にて「頭部外傷の際の救急対応研修」を実施し、今後最大限のリスクは減らした上でも事故が発生した場合には、職員が子どもから目を離さずに救急対応ができるようにする。※頭部外傷の救急対応については、応急手当マニュアルの⑤頭部外傷について読み合わせ、嘱託医に共有いただいた「頭のけがとその対応」「発生後のチェックリスト」を確認の上、マニュアルやチェックリストに沿った救急対応ができるよう事故対策シュミレーションを行った。	1. 定期的に実施	2	3. 未実施		1. 定期的に実施	48	遊びの対象年齢を確認の上、ルールを守って遊べていたが、マットを3枚使用し三方向に子どもが動けるよう環境設定していた為、衝突のリスクが高かった。又、部屋の広さに対してマット、自由に動けるスペースの割合が狭く子ども同士の距離が近くなっていた。	担任は、遊びの対象年齢だけでなく、園の環境に適した遊びなのかを考えた上、事前に施設長に安全面に問題ないか確認してもらい、問題がなければ実施する。施設長の確認がない場合は、実施不可。
826	1. あり	1. 定期的に実施	12	1. 基準以上配置	当日は欠席が多く、職員配置に関しては余裕を持った配置になっていた。いつもよりも園児数がすくなかったので職員は気持ちにゆとりがあった分、危機管理に対しての意識が甘くなっていたことは否めない。人員に余裕があっても事故が発生することについて職員一人一人が考えていく必要がある。	月1回の事故予防研修を実施して終わりではなく1カ月後にどのように運用しているのか更なる課題等を話し合う時間を設けることで個々の危機管理を高めていく	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	毎日		普段と異なる座席配置を行う際は、事前に子どもたちに分かりやすく説明
827	1. あり	1. 定期的に実施	2	1. 基準以上配置	特になし	持病による発作に対応できるよう予め児の疾患をし、職員へ周知する。発症前後の対応について、園長、主任、看護師、担任と役割分担をする。	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	毎日	1. 定期的に実施	毎日	特になし	持病の発症（転倒防止）に対応できるよう、クッション性のあるものを床に敷く。
828	1. あり	2. 不定期に実施	2	1. 基準以上配置	本児が該当の乗り物遊具に不慣れであったことを踏まえ、補助につくなどの対応が出来ていなかったことが要因として考えられる。	該当の乗り物遊具を提供する際は必ず補助が出来る位置での見守りを行う。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	51	提供場所の床や壁に緩衝材などがなかった。	緩衝材を用いて該当遊具を提供することは難しいのでソフト面の対策を徹底する。

No	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
825	1. 集団活動中・見守りあり	初めて取り組む遊びではなかったが、事故当日はマットの数を1枚増やした為、子どもが遊びに慣れていなかった。	安全を踏まえ、子どもが遊びに慣れるまでは、2グループに分け、少人数で取り組む。	3. いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	普段は集団遊びに入らないことの方が多いが、ゲームに興味を示し参加していた。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	対象児と他児が衝突する場面を見ていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の対応をしていた為、保育室から離れていた。	担任が他児の対応の為、パート保育士へ遊びを説明し引継ぎ保育室を離れたが、遊びの配慮事項が理解できていないパート保育士が実施することになってしまい、遊びの危険リスクがより高くなってしまった。	パート保育士が実践したことのない遊びは、引き継がない。パート保育士に引き継ぐ場合は、安全面の配慮事項が分かり安心して保育できる環境を整えた上で引き継ぐ。	
826	1. 集団活動中・見守りあり	お盆保育期間で欠席園児が多かったため、直前になって座席を変更した口頭のみの説明で、当該児はどこに座ったら良いか理解していなかった	普段と異なる座席配置を行う際は、事前に子どもたちに分かりやすく説明 不用な椅子やテーブルは事前に片付けて安全な動線を確保する	3. いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	普段とは異なる座席になり、どこの座席なのか探し歩いていたため落ち着かない様子であった。	4. 対象児の動きを見ていなかった	他児の着替え処理の為、当該児に背を向けていた。事故発生後に当該児の泣き声で事故に気付いた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	至近距離ではなかったが、担任保育士が他児の対応をしていたため、口頭で空いている席に座るよう指示を出した。その後、配膳を行いながら当該児を見守っていた。	担任保育士が一人の児の対応に気がいってしまい、他の児の見守りや他の職員への声掛けや共有ができていなかった。また普段より園児数が少なかったので危機管理に対して意識が欠落していた。	上履きのサイズの確認をしていく	
827	1. 集団活動中・見守りあり	特になし	持病が発症した場合、他児を速やかに別室へ誘導する。児が発作で転倒したときの想定を考慮して行動に注視し、安静にさせる。	1. いつもどおりの様子であった	室内に座りブロックで遊ぶ等、普段の昼食後の様子と変わらなかった。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	普段と様子が変わらなかったため、通常の保育と変わらず近くで遊びを見守っていた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	普段と様子が変わらなかったため、通常の保育と変わらず近くで遊びを見守っていた。	特になし	持病による発作に対応できるよう、普段と変わった様子があれば連絡し合う。必要に応じて事務所に報告し、発作に備え体制を整える。	
828	3. 個人活動中・見守りあり	子どもが少なく、日中より思い思いに遊んでいたが、見守りが甘く、補助につけていなかった。	ソフト面、改善策に同じ。	3. いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	当日に初めて提供した遊具であり、本児も興味を持っていた。	4. 対象児の動きを見ていなかった	見守りを行っていたが、保護者がお見えになった瞬間に目を離してしまった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	延長保育中ということもあり、閉園準備を進めていた。	保護者の迎えが来た際に、保護者対応と見守りの分担がなされていなかった。	迎えに来る保護者がいることを想定し、その場を離れる際には代わりに見守ることができるよう助けを呼ぶ。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
829	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	21	0	4	4	3	5	5	0		5	4	17.５歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯髄炎	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置		布を引きずって歩いていたため、持ち歩くときは畳むことを伝える。子どもの動きを確認をしながら危険なことは言葉で伝える。他クラスにも共有し、未然に防ぐための対策（職員の配置や改善策）を職員に周知したうえで保育に臨む。	1.定期的に実施	4	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		遊具、施設の安全確認は行うことができていたので、ソフト面で改善をしていきたい。		年長児になって初めての課業後。少し疲れていた可能性は考えられる。	部屋ですごしている子どもの人数が19名だったので決して多い人数ではなかった。お集りをしたり、グループ毎で活動するよう少人数で過ごすなどの工夫をしていく。	1.いつもどおりの様子であった	普段と変わった様子はなく、おままごと遊びを楽しんでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	他児の着替えの援助や水分補給を行っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他児の着替えの援助やトイレの介助を行っていた。		生活行為の援助に保育者が集中してしまい、遊びの近くに位置づいている保育者がいなかったので、自分たちで遊べる年長児であっても、遊びの場にも大人がいられるようにしていく。	
830	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	24				6	8	10			2	2	17.５歳	2.女児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足関節外果骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	怪我をした際の動きが普段の活動とは異なる動きだった。重大事故に繋がることを予測出来なかった。	怪我の種類や起こしやすい動き等について職員間で共有をする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	検討した結果、特に要因は考えられなかった。	検討した結果、特に要因は考えられなかった。	1.集団活動中・見守りあり	検討した結果、特に要因は考えられなかった。	検討した結果、特に要因は考えられなかった。	1.いつもどおりの様子であった	友だちと一緒に運動遊びやごっこ遊びを行っていた。近くに妹（3歳児）が遊びに来た為、妹が遊べるごっこ遊びをしていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	他児が休息を取りたいと担当職員に話をしに来た為、他児と一緒にテラスに行き園庭を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	3歳児の子ども達でトラブルになりそうな様子が見られた為、担当職員の指示の下で、その子達を近くで見ていた。	昨年度●月より芝化。本児にとっては慣れておらず、バランスを取りにくい環境の可能性があった。	お茶を飲む、声掛けをする等して気持ちをクールダウンする時間を設ける。また、気持ちが高ぶっている子どもの近くに職員が付けるように職員間で連携を取っていく。	
831	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	19				12	7				3	3	15.３歳	1.男児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右第一中足骨　骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	複数の遊びが始まったところであった。そこでの予測が出来ていなかった。	各遊びの場所を保障すると共に交わる際の予測を共有する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	昨年度末芝生化し、根付くまで裸足で過ごしている。	芝の根付くのを待たず、靴を履いて過ごす。	1.集団活動中・見守りあり	検討した結果、特に要因は考えられなかった	検討した結果、特に要因は考えられなかった	1.いつもどおりの様子であった	他児と一緒に水道と砂場を行き来し、遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	色水遊びの場所を保障すると共に物を取りに園庭から室内へ移動していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当職員が移動したことに気付き、全体を見ようと移動する。また水道付近の３歳児に声をかけていた。	昨年度末より芝生化し、遊び方が変わってきているところで対応する職員の予測が今まで通りではいかなくなっている。	園庭責任者の在り方の確認・ 予測がつくまでの異年齢活動一時中止	
832	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	6	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	13					13				1	1	16.４歳	2.女児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	運動遊び、戸外活動への導入、声掛けの配慮不足	活動前の約束やルールの確認と声掛け、スペースをとる環境設定	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	週１回	園庭が芝生化になり、養生したばかりで慣れていなかった	週１回の芝刈り機を担当者を決めて環境を整える	1.集団活動中・見守りあり	園庭が芝生化になった初日だった	かけっこの安全な遊び方を保育士が一緒に遊び、指導する	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	園庭が芝生になり、本児や子ども達が２ヶ月ぶりに遊ぶことになり、気持ちが高揚していた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	こども同士がかけっこを同時に急にスタートしたため、声掛けとスペースをとることが 間に合わなかった	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	園庭で全体の子どもを見ていたため、すぐに対応できなかった	戸外では子どもの行動範囲が大きく広がるため、 ルールや約束を守りながら安全な園庭での遊びかたを園全体に浸透させていく	週１回のミーティングにて事故防止について共有し、安全管理していく	
833	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	10									2	2	14.２歳	2.女児	身長：約90㎝、体重：約11kg、特に身体的な発達遅延や以上は無し。	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2	2.基準配置	今年度に入り、園長主任が異動や退職により変更があったが、施設や備品の点検は行っているが過去の積み重ねもあるが、変更後に園内のリスク検討をしていない。	お子様の成長に合わせて定期的に年に2～３回程度園内のリスク検討会の場を設け、そこに対する事故や怪我防止に努めていく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	木製の椅子の足に傷防止のクッションがついているが、ほこりや汚れ、経年劣化からすべりが悪くなっていたのか、椅子の転倒が多く、改善を検討していた。	椅子の足にチェアソックスを装着し、椅子の滑りを良くしたり、座り一の変更を行い、椅子転倒の多い児を壁を背に座るようにすることで転倒を防げるようにしている。	3.個人活動中・見守りあり	配置基準値内の5対1の職員配置となってはいたが、活動が分散しており、2か所以上に園児が分散してしまっていた。	職員の配置に対して、園児が分散し過ぎてしまっていたので、活動の切り替え時は特に園児が分散しないよう環境設定をしたり、必要に応じて他保育者に声をかけ、補助依頼をしていく。	1.いつもどおりの様子であった	特に体調不良があったり、健康面の異常があったりすることはないが、遊びに空きやすく、繰り返しパズル等の遊びを変える様子があったため、他児に比較して椅子から立ち上がる回数は多かった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	至近距離で見ていたが、机を挟んでいた上、他４名も別々の場所に座っており、特にまとまっていない状態の５名のお子様を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	活動が分かれいていた為、もう１名の担任保育者は室内に下り、該当児を見ていなかった。	人数が分散されることで園児は集中して遊びこむことは出来ていたが、該当児が空きやすく、パズルなども何度も替えに行く様子が見られ、その度椅子から立ち上がっていた為、転倒の可能性が上がってしまっていた。遊びを変える頻度も多い場合は、どうしても立ち上がる頻度も多くなるので、本児に活動変更を見出していく必要がある。	長期的視点で、本児の興味関心のある遊びを見つけ出し、それに集中できる環境を設定していく。また、併せて、椅子の座り方についても定期的に指導していく。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
834	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	5	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	6. 5歳以上児クラス	19									2	2	17. 5歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左肩骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施		1. 基準以上配置	広い公園内に園児が拡散しており、職員の配置が曖昧かつ遠かった。	お散歩マニュアルに、お散歩マップや　降園毎の遊具の使用方法等の詳細を追記する	1. 定期的に実施	1	2. 不定期に実施		1. 定期的に実施	毎日	遊具の特性の把握が不十分だった。滑りやすい材質、円状の遊具、突起物のサイズが小さいという特徴があり、遊具の外に登る遊び方は適切ではなかった可能性がある	お散歩先の遊具の特性を理解し、発達に応じた使用方法を検討する	1. 集団活動中・見守りあり	他園の子ども達もいる中で、遊具が多く、範囲が広い中、大人二人で誰が何で遊んでいるのか把握することは困難であった。	その場の柔軟な状況判断で、遊具を絞る、遊び方や場所を指定する、他の低年齢の子ども達が帰るまで他の遊びを提案するなどの対策をする。動きの少ない遊びをしている園児を担当する保育士が全体を見るなどの、立ち位置と役割を明確にする。	1. いつもどおりの様子であった	雲状の遊具の上に登って遊んでいた。左側から降りようと黒色の突起物に左足をかけようとしたところ体制を崩して左側に転落した。そのまま遊具の側で、腕を押さえながら座り込んで泣いていた。担任とベンチで安静にしていたが、一時したら腕を押さえながらも他の園児が遊んでいる場の近くを歩いてまわっていた。帰園時の横断歩道で、手をあげようとした時に痛みがあり泣きだし、泣きながらの帰園となった。	4. 対象児の動きを見ていなかった	保育者は遊具の反対側を見回っていたので見ていなかった。他の園児から本児が泣いていると報告を受け、本児に駆け寄る。本児をベンチへ誘導し、外傷がないことと痛む部位を確認する。他の職員を呼ぶが遠くて聞こえず。本児が落ち着いたため、雲のような遊具の見守りに戻る。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	もう1人はシーソーに付いていたため、事故には気が付かなかった。シーソー終了後に近くの砂場へ移動。その時に泣いている本児に気が付き、担当職員に事故について聞く。その後、雲状の遊具に10名（他園児も含む）程度いたため、危険だと感じ、雲の遊具の側で見守りを行った。	前年度のクラスでは行ったが、今年度のクラスでは初めて行く公園だった。担任が変わっている中、公園に行くねらいや注意点を保育士同士で事前に確認できていなかった。やリーダーの指示ではなく、各々の保育士が考えて立ち位置を決めていた。	活動のねらいや注意点を付き添う保育士が共有しておく。広い公園では特に、把握できる範囲と活動内容に絞り、保育士同士の声が届く位置で見守りを行う。公園に人が多い時は、使用する遊具を絞ったり、体操や鬼ごっこなど活動内容を変更して低年齢児が帰った後に遊具を使用するなどの臨機応変に状況判断を行う。	
835	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	6	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	6. 5歳以上児クラス	17	0	0	0	0	0	17	0		2	2	17. 5歳	1. 男児	特になし。	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	1, 2	2. 基準配置	初めての体験で不慣れであることや、数回繰り返し遊んでいることから、疲れがあることを十分に汲み取ることが出来なかった。身体の支える位置や子どもとの距離等、援助を強める必要があった。	子どもの経験や気持ちを丁寧に汲み取り、無理のない程度で挑戦ができるようにし、援助していく。今後も必ず遊具に職員を配置すると共に、見守る際は、不測の事態が起きてもすぐに対応が出来る位置に立つようにする。	2. 不定期に実施	12	2. 不定期に実施	1	2. 不定期に実施	12	気温も高く、汗をかいていた。手汗で滑りやすく、しっかりと握ることが困難な状況を予測することが出来なかった。雲梯をする際に子どもの足から地面までの距離が少しあったにも関わらず、着地の仕方を伝えていなかった。	気温が高く汗をかく状況がある際は、子どもたちの手が滑りやすくなることを伝える。また、雲梯の遊び方、着地の仕方をしっかり伝えていく。慣れてくるまでは、保育者が支えていく。	1. 集団活動中・見守りあり	雲梯の仕方を詳しく全体に、伝えることがなく始めてしまった。	初めての遊具では、やり方を詳しく全体に説明をしていく。個別で行う際は、手をしっかり握ることを都度声掛けを行っていく。	1. いつもどおりの様子であった	普段行き慣れていない公園で、初めての遊具もあり、興味を示し挑戦していた。保育者の支えの下、挑戦しながら行っていたが、補助なしでやりたい気持ちがあり、保育者に見守っててほしいことを伝えた。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	初めての雲梯もあり、援助をしながら活動をしていた。数回繰り返していた際に、一人でやってみたいとの対象児の意思を尊重し、対象児との距離を少し置きながら見守ってはいた。側にはいたものの、対象児が落下する瞬間に手を差し伸べたが間に合わなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	雲梯がある場所とは、反対の滑り台で遊んでいる児を見ていたこともあり、落下時は見ていなかった。	初めて行く公園であったこと、今までに雲梯をする機会が少なかったこと等補助の経験が足りなかった。雲梯での事故の予測が乏しく、経験不足であった。予測を詰める必要があった。	対象児の意志を尊重しながらも、部分的な補助をしていく。子どもたちと共に、雲梯のやり方、危険事項を伝え共通認識を持っていく。	
836	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	4	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	1						1			2	1	17. 5歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	2	2. 基準配置	5歳児であっても靴下を履いたままの状態は、床が滑りやすいとの注意意識が希薄であった。	事故予防マニュアルは年齢別にチェックリストが作成されているが、必ずしも年齢にとらわれず、一つ一つの点検事項を職員が理解していくようにした。	1. 定期的に実施	1回/月	1. 定期的に実施	1回/毎日	1. 定期的に実施	1回/月	子どもが次の遊びの間に、靴下を履いたまま滑りやすい床の上で回し蹴りした。	座って落ち着いて活動できるよう、絵本や玩具を設定する。	3. 個人活動中・見守りあり	遅番の時間で疲れていることが予測されたが、靴下を履いたままの状態で回し蹴りをする子どもを止められずに転倒させてしまった。	疲れが出てきている遅番時は、落ち着いて遊べるよう、遅番玩具を見直し絵本やブロックなど座って遊べる玩具を設定する。	1. いつもどおりの様子であった	通常通り変化なし	1. 対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	該当児童から向かって正面に立っていたが、体の左側を向けて立っており、カーペットに向かおうと体を該当児童に向けたときに該当児童が転倒した。腕を伸ばしたが間に合わず支えることができなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	水道の掃除をしていた。	職員がすぐに支えられる位置にいなかった。	座って遊ぶよう伝え、絵本や玩具を準備して環境を整える。幼児は靴下、上履きを履いての保育が基本であるが、遅番で使用する乳児クラスでは上履き、靴下を脱いで過ごし、走ったり回ったりしないことを伝えることを徹底する。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
837	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	20				13	6	1			3	3	15.3歳	2.女児	言葉が遅く、●●センターに月2回通所している。言葉は、ほぼオウム返し。言葉の理解はできることもあれば、できないこともあるが理解力は乏しい。生活の流れはルーティーン化しているので、できている。登れる箇所は所かまわず登ってしまうこともあり注意している。落ち着きがなく部屋から出てしまうこともあり、職員が一人付いていないと危険が伴うこともある。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施		2.基準配置	夕方、園庭遊び中、三輪車、四輪車、追いかけっこ等の遊び	遊び方によっては危険が生じる場合がある為、過信せず遊具使用の際には職員同士の声掛けを必須にしながら見守りを行うよう徹底する	2.不定期に実施		1.定期的に実施		2.不定期に実施		遊具点検は月1回行うようにしている。鉄棒や雲梯などの運動遊具使用の場合は、保育者の人数や子ども達の年齢により使用できる、できない(✕)を子ども達に伝えるようにし、✕の札を見える数か所にぶら下げる等している。使用する場合は、職員がその場につくようにしている。	片付け、消毒の際に点検し、破損しているものは処分する	1.集団活動中・見守りあり	本児は高いところに登ることが好きで、以前から同じようなことをしていて、声を掛けると降りることもできていた。今回も同じように声を掛けたが、いつもは前に飛び降りるのに後ろに降り、いつもと体制違っていた。	高いところに登ることが好きであることを忘れないよう、目を離さないよう気を付ける。本児にできる限り一人付き危ない行動を未然に防げるよう徹底する。	1.いつもどおりの様子であった	本児の様子はいつも通り活発であり、じっとせず走り回っていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	本児の後を追いながら遊んでいたが、本児の素早い行動は目で追いながら他の園児の声掛けに耳を傾けていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	元気よく走り回っていることは目に留まっていた。せわしなく走り回っていたことは把握していた。鉄棒に登ったことは見ていなかった。	少し離れた場所にいても担当職員が、本児が鉄棒に近づいた時に一番近くにいた職員に咄嗟でも声が欠けられると良かったのかもしれない。	担当でなくても、子どもの見守りを全体でする際には子どもの把握をしっかり行うよう徹底する	
838	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	6	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	33				11	10	12			3	3	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右小指基節骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	5	2.基準配置	ヒヤリハットの振り返り、職員との共有など行っているが、環境面などにも注意をしていく。	事故の起きやすい場所や時間帯の周知を再度行う。	1.定期的に実施	12回以上			1.定期的に実施	12回以上	棚があることにより、通路が狭くなっていたかもしれない。	躓きやすいものを置かない。	1.集団活動中・見守りあり	夏祭りが近かったこともあり、楽しみで興奮していたかもしれない。	週末や夕方は子どもも気分が高まりやすいので、落ち着く環境を作る。	1.いつもどおりの様子であった	普段からすごく落ち着きのある園児というわけではない。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	年長クラスのため保育士がつきっきりというわけではなく、他クラスの様子を見ながら声かけをしていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他児と同じように声かけをして見守っていた。	走っていたことを注意されると思い、事故時に言えなかったのではないか。	転んだ際にすぐに気づけるように全体が見える位置に保育士がいるようにする。	
839	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	24									4	4	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右踝剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	転んだ児は違和感があった。職員の声かけや怪我の確認をしなかった。	見守っていた２名の職員が転んだことの把握していた。転んだ児に対して、声かけや怪我の確認をすることができる状況であった。今後は、必ず大丈夫と判断せず声をかけるよう職員同士対応していく。	1.いつもどおりの様子であった	集団遊びに自ら参加していた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	転んだことも把握はしていたが、痛がる様子もなくドッジボールを続け走り回っていたため、問題ないであろうとドッジボールの流れを継続し、児への声かけも怪我の確認もしなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	それぞれの自由遊びの子どもをみていたため、現場はみていない。	児は、違和感を職員に伝えなかった。	転んだ際、児への声かけと怪我の確認をする。 普段と違う状況や痛みなどがあった際は、職員に伝えられるよう、子どもたち全体に話した。	
840	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	31				12		19			4	4	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	6	2.基準配置	本児の普段の生活から、ボディイメージや危険予知能力が未発達であることを把握していたが、その点についての認識の甘さがあった。	本児の特性を捉え、行動の予測及びそれに対する大人の配慮（声かけなど）を担当だけでなく職員間で再確認する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	300	園庭が乾燥し滑りやすくなっていた。	園庭が乾燥している時には、滑り防止に散水などをする。	1.集団活動中・見守りあり	本児のボディイメージが未発達であり、ボールの上に乗り上げ転倒したと思われる。	ボール遊びの基本や瞬発力や制止力をつける遊びや経験を日々の生活に取り入れる。	1.いつもどおりの様子であった	普段からボール遊びをしていたが、蹴ろうとしてボールの上にのってしまい転倒した。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	保育士１名は全体をみながら、離れた場所（ブランコ）から本児の動きをみていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	保育士１名はすべり台について４名の児童をみていた。保育士１名は砂場で１０名の児童をみていた。保育士１名は対象児の近くで一緒にボール遊びをしていた。保育士１名はブランコについて４名の児童をみていた。		本児の特性を捉え、 行動を予測し声かけをする。	

No	初回掲載年月日	概要：認可・認可外	概要：施設・事業所種別	事故発生時期：月	事故発生時期：時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳：0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故：年齢	性別	特記事項	事故状況：発生時状況	事故の転帰	死亡：死因	負傷：負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面：マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面：施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面：教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面：対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
841	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	6	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	26									3	3	17.５歳	1.男児	●月●日手に玩具を持ち走っていた時、地面にあった直径5ｃｍほどの窪みに足を取られ前方に転び、置いてあったタイヤに顔をぶつけ、上右Ａ・上左Ａ歯上の歯肉を裂創し、嘱託歯科医（●●歯科医院）を受診する。打撲による歯肉の裂創と診断される。歯肉の腫れはあるが、歯への影響はなし。裂傷部を消毒し、自宅で口腔内消毒用にアズレン含嗽散剤が処方された経過あり。	2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷性亜脱臼	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	1.定期的に実施	1～２	2.基準配置	事故防止マニュアルに従い、事故防止に努めているが、より一層強化する必要があったと考える。	●月●日にも同じ児が同じ部位の外傷事故が起きており、事故の瞬間も見ている職員がいなかったことから、子どもの動線や職員の付く配置等担当間で再確認し、安全保育に努める。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	保育室前の廊下スペースで読み聞かせを行なっていた。	保育室とは違った空間の時は、通常よりも子どもたちや職員の位置に配慮が必要である。	1.集団活動中・見守りあり	読み聞かせをした職員は担当ではなかったため、いつも以上に子どもたちは嬉しさがあり、気持ちの高揚があった。	様々な職員が保育に係るところでは子どもたちが落ち着いて参加できるよう声掛けなどを含めた環境設定をしていく。	1.いつもどおりの様子であった	当日は変わりなく、普段通り過ごしていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	本児以外の他児達が多数移動しており、そちらの方に付いていたため事故が起きた瞬間は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	１名は●●児と共に部屋にいた。もう１名は食後の片付けに従事していたため、その場にいない状況であった。	事故防止マニュアルに従い、事故防止に努めているが、より一層強化する必要があったと考える。	●月●日にも同じ児が同じ部位の外傷事故が起きており、事故の瞬間も見ている職員がいなかったことから、子どもの動線や職員の付く配置等担当間で再確認し、安全保育に努める。	
842	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	18	1	5	1	6	1	4			6	5	13.１歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	右上眼瞼挫創	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	保育所独自の取り組みとしてもヒヤリハットＰＪを中心に常日頃事故防止に取り組んでいる。今回の事故発生時にも、本児の受傷の状況を複数で観察・把握し、経過を追った。異年齢で過ごす土曜日保育で、乳児が多い中職員配置は十分であった。	配置された職員間で保育内容、手順等声を掛け合い確認する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	乳児が多い中、生活する部屋が幼児クラスと一緒に過ごしていた。	乳児クラスと幼児クラスの生活場所を別に設定して落ち着いた環境を整える。	1.集団活動中・見守りあり	手洗いの水道からテーブルまでが部屋の対角となり導線が長かった。また、１歳児クラスの児童が多く肘掛け椅子４脚とテーブル付き食卓イス１台を準備していたが、１歳の児童にテーブル付き食卓イスは適していなかった。	洗面台近くにテーブルを設置し出席児童の数児童の体格に適した椅子を準備する。	1.いつもどおりの様子であった	食卓いすに片足を上げて座ろうとし、バランスを崩して倒れそうだった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	バランスを崩して倒れそうだったので、慌てて抱き上げて座わらせようとした。少し離れたところでテーブルを拭くなど配膳準備をしていたが、危険を感じ慌てて近づき抱き上げて座わらせようとした。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	朝のおやつ前に手洗いを行い、椅子にすわるように誘導していた。３名職員がいたが、食卓椅子を使用する本児の近くには誰もいなかった。	テーブル付き食卓イスに登ろうとしている児童を見てあわてて抱き上げようとした。	テーブル付きの食卓イスは立ち上がったり転落の危険も考えられるためそばについて離れないようにする。	
843	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	9	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	8									2	2	13.１歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	脱臼(前歯)	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置		なし	1.定期的に実施	１回／日	3.未実施	4	1.定期的に実施	１回/日		なし	7.その他	押してしまう園児が他の子と離れている場所にいたので、一番近くにいた子には注意を払っていたが、遠くにいた対象児に向かうとは予想できなかった。	押してしまう子にはしっかり職員が付くと共に、座って遊べる遊びを展開していくようにする。手洗い場の回りには使用する時以外はマットでガードするようにしていく。	1.いつもどおりの様子であった	トイレにいこうと声がかかり、真っ先に入口の方に向かい、入口が開くのを待っていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	入り口付近にて、子ども達に声を掛けていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	対象児を押してしまった子に主につきながら、全体を見ていたが、トイレに行くように声掛けたことで他の子に多少意識が行ってしまったところもあった。	職員が2人しかいない中で、配慮した園児に1人ついた状態でトイレにいくのは無理があったと考えられる。	職員同士連携を取って、しっかり押してしまう子につくようにし、職員が揃っている時に、トイレに行くなどの次の活動に配慮する。配慮した園児があまりにも落ち着かない時は、気分転換に部屋の外に行くなどの配慮をしていく。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制												事故			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事者		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳									うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他								死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】							理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
844	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	20					10	10			2	2	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右環指基節骨頸部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	6	1.基準以上配置	・園内研修に子どもの遊びや発達、配慮すべき点をさらに取り入れると良かった。	・研修を通して配慮すべき点を具体的に学んでいく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1～2	・安全点検の時に床の状況を確認をし、上履き、裸足の必要性に気づけるとより良かった。	・定期点検に床の状況の確認を行う。	1.集団活動中・見守りあり	・当該児童が[redacted]であり、運動能力(身体の使い方)を把握しきれていなかったことも影響していた。配慮不足であった。・ゲーム内容によっては裸足(上履きをぬぐ)の方が身体のバランスをとりやすかった。	・[redacted]への対応は、様子を把握しながらより丁寧な配慮をしていく。・活動における事前準備では、子どもの動き、気持ちの高揚も予測しながら計画していく。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	・4.5歳児が室内で石ゲーム（歩行している中、音楽が止まったら身体も止めるゲーム）をしていて転倒。右手をグーにしたままの状態で床についてしまう。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	・保育士(A)は対象児を含む12名(5歳9名.4歳3名)と一緒にゲームをしていた。一緒に動いていた為、鮮明に子どもの動きは把握していたが、瞬間的な動きで転倒し手が出せるよう状況ではなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	・保育士(B)は卓上あそびをしている子どもと一緒に遊んでいた。転倒した姿は目視できたが、細かな動作までは見えていなかった。(・保育士(C)は午前中(9時~12月時)のみ他園へのヘルプへ行き不在だった)	・転倒時、子どもを支える必要があったが、間に合わなかった。・職員も一緒に動いていたことで、援助ができなかった。	・活動時の子ども達に向けた指導(具体的な言葉がけ)を丁寧に行う。・職員は、身体を子どもの動きに合わせて直ぐに手を出せるように、活動における様々な状況を予測していく。・活動が分かれると時は職員間の連携を丁寧に行う。・職員配置に不足は無かったが、今後、活動内容における配置はその都度、考慮して対応する。	
845	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	16				8	8				3	1	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施		1.基準以上配置	－	再度雲梯で遊んでいる時の職員の付き方を確認した。必ず目に入る位置にいるようにする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	雲梯下に安全マットが敷いてあったが、転んだ際は雲梯下から出てしまうことが考えられる。	安全マットの上に柔らかい人工芝を敷いて範囲を広くした。	3.個人活動中・見守りあり	－		1.いつもどおりの様子であった	1人で雲梯で遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	雲梯から1m離れたのぼり棒との間に立ち、両方を見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	職員が1人雲梯から8mほど離れた場所から見守りっていた。	－	引き続き、雲梯で遊んでいる際には近くで見守る。	
846	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	20					9	11			5	5	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手示指の基節骨剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2	1.基準以上配置	－	職員配置について検証し、職員配置の状況を見直す。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	雨が降り始め滑りやすくなってきていた。	敷いてあるものの変更もしくは滑り止めなどを敷く。	1.集団活動中・見守りあり	敷いてあるものが濡れると滑りやすくなることが今回わかった。	敷いてあるものの変更もしくは滑り止めなどを敷く。	1.いつもどおりの様子であった	いつもと変わりない様子だった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	担任1人とパート職員の計２人で保育していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	３歳児の職員はクラスの子どもたちと４時半ごろ入室し、室内保育をしていた（担任１人とパート職員１人）	雨はまだ小降りで、子どもたちが遊んでいたのでもう少し外で過ごそうと考えていた。	天候が悪くなったらすぐ入室する。	
847	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	1.0歳児クラス	6									3	3	13.1歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	口唇、上唇小体裂傷、左中指末節骨骨折	4.玩具・遊具等施設・設備の安全上の不備によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	急な職員の休暇等でクラスの職員が一時的に不足を生じる場合がある。	不足時には必ず他クラスからの応援を入れる。	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	2	チェックリストから漏れた施設、遊具、玩具の不具合	複数名によるチェックの強化	1.集団活動中・見守りあり	当該クラスのクラス内月齢差が大きく、配置基準以上に職員が必要なことがある。	一時的に他クラスからの応援を入れる。	1.いつもどおりの様子であった	園児はおとなしく手すりにつかまっていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	職員１名が当該散歩車を押していた。散歩車内に園児が乗っていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の園児（月齢の高く、歩いていた子）の手を引いていた（散歩車の至近距離で）	当該クラスのクラス内月齢差が大きく、配置基準以上に職員が必要なことがある。	一時的に他クラスからの応援を入れる。	
848	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	2	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	7									1	1	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	下顎部裂傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2	2.基準配置	テラス階段付近の整備、危険周知の声掛け	職員のリスクマネージメント力に繋がる教育	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	24	テラス階段が遊びの領域となる	園庭と通路の可視化による区分け	2.集団活動中・子ども達のみ	遊びの中でルールや危険行動についての教育的導入ができていなかった	「危ない」を伝える保育を取り入れていく必要がある	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りであったが、鬼ごっこであり逃げることに必死、夢中になり、危険やリスクに対して注意が向かなかった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	全体的な動きとして把握はしていたが、個人の動きまでは把握していなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の保育に関わっていた	見守り体制の改善が必要	テラスからの見守り要員を配置する	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項
849	令和6年6月10日	2. 認可外	16. 企業主導型保育事業	4	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	15		6	9						6	4	14. 2歳	1. 男児	
850	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	6	6. 午睡中	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	29	0	0	9	15	4	1	0		5	5	16. 4歳	2. 女児	直近で同症状があり救急搬送された（令和●年●月）
851	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	3	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	57					30	27			5	5	17. 5歳	2. 女児	特になし
852	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	3	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	5. 4歳児クラス	18									2	2	16. 4歳	2. 女児	特になし
853	令和6年6月10日	2. 認可外	18. その他の認可外保育施設	11	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	16		5	11						5	2	15. 3歳	1. 男児	発生時の天候：晴れ

No	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策
849	1. 屋外活動中	1. 負傷		6. その他	5. 下肢(足・足指)	右脛骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	2	1. 基準以上配置	なし	更に全体へ目が行き届くよう、教員間の声掛けと人員配置の見直し。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	なし	なし
850	4. 睡眠中(うつぶせ寝以外)	1. 負傷		1. 意識不明		てんかん	8. その他	1. あり	2. 不定期に実施	1	1. 基準以上配置	特になし	睡眠時のチェックの徹底・発作時の対応の確認と共有	1. 定期的に実施	12	3. 未実施		1. 定期的に実施	毎日	特になし	ハード面に改善すべき点が見当たらないため
851	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左肘関節骨折（●月●日診断）	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	3	2. 基準配置	園外の遊び場所においての研修が不足していたため立ち位置などを見直すべきことも要因として考えられる。	マニュアルの見直しをしている。見れる範囲を考え、遊び場所の設定をする必要がある。	1. 定期的に実施	220	1. 定期的に実施	220	1. 定期的に実施	220	楽しい遊具であるため、子どもも活発に動かしたりしてしまう。遊具の正しい使用方法を共通理解につなげる確認の時間を持つ。	月1回のチェック以外にも、特にケガが起きた場合にはその都度確認し改善していく。
852	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左足関節外果骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	4	1. 基準以上配置	担任がマニュアルを活用していなかった。	マニュアルは、全職員が確認できるところにあるが、定期的に内容の確認を行う。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	園庭の点検は、朝と定期的には行っていたが、遊ぶ直前の点検は徹底されていなかった。	今後は、遊ぶ直前の園庭の確認も徹底する。
853	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左脛骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	1	2. 基準配置	怪我当該児の動きの考察がかけていた。	職員間で活動的な子供には特別な配慮を確認し合う。	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	1	2. 不定期に実施	1	毎朝の施設安全点検	毎朝全職員で施設の安全点検を行う。

No	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
849	1. 集団活動中・見守りあり	なし	本人の欲求の高まりを察知し、出来るだけ早めに声を掛ける。	1. いつもどおりの様子であった	よく走り回る園児で、つま先で走るような前のめりの走り方が多く、日頃より「ゆっくり歩く」「踵から足の裏をつけて歩く」という声掛けを行っていたが、本人の理解には中々及んでいなかった。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	日常的に行っている遊びの中であり、該当児に関しては、フラフープを使って遊んでいたのは本人のみ。保育者がマンツーマンで遊んでいた。他児については遊具等で別の遊びを行っていた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他児については遊具等で別の遊びを行っていたため、全員が近くにいたわけではないが、全体を見回しながら保育を行っていた。また、全体を俯瞰する保育者も配置していた。	なし	本人の欲求の高まりを察知し、対応している保育者に声を掛ける。	
850	5. 睡眠(午睡)中	特になし	環境面に改善すべき点が見当たらないため	1. いつもどおりの様子であった	健康状態も平常と変わりなし、自らコットで入眠した	1. 対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	対象児を正面にして午睡チェック（５分毎にチェック）を行っていた	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	本児が咳込んだため、体を横に向け様子を見ていた	本児の持病による発作	発作に対する予防策はない	
851	1. 集団活動中・見守りあり	休みの職員はいなかったが、早番で1人帰っていた。	職員の配置は、ドーナツ型の回転遊具やロープを渡る遊具、ブランコには必ず職員がつくようにし、遊び始める前に確認のお話をした上で、子どもの遊ぶ状況によりその都度伝えること、また、職員間で連携して危険な時は声をかけたり行動を止めるようにする。	1. いつもどおりの様子であった	興奮状態であるが、好奇心より立ってしまったことが事故につながったとみている。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	気になる子どもであるため、マンツーとまではいかなくても、すぐそばに付き添い注意をしていた。しかし立ち乗りし手を離してしまい、職員が間に合わず転倒してしまう。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれの場所で子どもたちを見守っていたため。	ゾーニングを考え、ゾーンごと（鉄棒、回転遊具付近）に職員が見守っていることが適切であった。	職員の配置は、子どもの発達状況や遊ぶ状況によりその都度考え、職員間で連携していく。危険な時は声をかけたり行動を止めるようにする。	
852	1. 集団活動中・見守りあり	いつも、準備体操を行っていたが、当日は体操を行わなかった。	しっかり準備体操を行い、体を十分に動かしてから活動する。	1. いつもどおりの様子であった	本児が、隠した帽子を鬼である保育士が探しており、遊びを楽しんでいた。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	本児の近くにいたが、鬼として隠された帽子を探していた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	少し離れた所で全体の様子を見ていた。	本児の気持ちが高揚していたが、そのまま活動を進めていた。	園児18名で職員2名配置されており、子ども達と一緒に遊ぶ保育士と全体を見守る保育士がいたので、人的要因は満たしていた。はじめての遊びで、気持ちが高揚している時には、保育者が声かけ等により子どもを鎮静させてから活動を行う。	
853	1. 集団活動中・見守りあり	とっさの出来事で未然に防げなかった	職員間で声を掛け合いながら予想し未然に動けるように整える。	3. いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	室内活動中から活発	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	予想外の動きだった	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	とっさの判断にかける	対象児童以外も同時に見ていた	加配など必要な部分を事前に話し合う	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
854	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	23					10	13			3	3	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	6	1.基準以上配置	園外保育マニュアルに沿って対応する	保育士はそれぞれの場所につき、立ち位置に問題はなかった	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	235	遊ぶ前に遊具、危険個所、危険物の点検を行う	点検を行った際、遊具に破損などの問題が見られなかった	1.集団活動中・見守りあり	ブランコに乗っていて突発的に手を離してしまった	遊びを始める前に遊具の遊び方の確認や約束事を伝える	1.いつもどおりの様子であった	普段は、鬼ごっこ等友だちと身体を使って遊ぶ事が多いが当日は、本児自らブランコを選択し遊んでいたところ突発的に手を放してしまった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	保育士は全体的な安全把握をしながらブランコについていた。本児が手を放し落下した際、ブランコが当たらないように止める事を優先した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	・別の遊具(滑り台)についていた・別園児数名と鬼ごっこをしていた	手を離さないように伝えながら見守りをしていたが園児が手を離し落下した為、ブランコが当たらないように止めた。	・危険個所、遊べる範囲、遊具の使い方やマナーを保育士同士で確認し、子どもたちにも話をする。・立ち位置や役割を決め、連携を取りながら保育にあたる。（子どもたちの動きを把握、約束を守っているか等）等の園外保育活動マニュアルに沿って対応することを常に念頭においておくこと。	
855	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	2	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	14									2	1	18.6歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	6	2.基準配置	鉄棒マニュアルには「子どもを落とさない」補助についての記載があったが、鉄棒での事故発生時においては、補助が不十分だった。	該当講師に限らず、講師全員に向けて各活動及び器具実施に関してのマニュアル確認テストを実施。合格ラインを満たさない場合には活動を行わない。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	都度	1.定期的に実施	12	なし	使用している器具や設備に問題はなかった。	7.その他	なし	体操教室実施における、環境設定・職員配置については問題がなかった。	1.いつもどおりの様子であった	いつもどおりの様子で体操教室に参加を行った。	1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	対象児と対象講師は、マンツーマンで鉄棒の前回り活動を行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当保育士は、全体を見ながら別の子どものケンカ対応を行っていた。	鉄棒での事故発生時において、鉄棒マニュアルを遵守した「子どもを落とさない」補助が不十分だった。	該当講師への指導および、講師全員に向けて各活動及び器具実施に関してのマニュアル確認テストを実施。合格ラインを満たさない場合には活動を行わない。	
856	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	1	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	18			3	5	5	5			2	2	16.4歳	1.男児	好奇心があり、体を動かすことが好き。人と関わることが好きで、友達との距離も近い。筋力もついてきた為、巧技台にも積極的に挑戦している。週１回療育に通い、生活面や友達とのかかわりで出来ること、わかることが増えてきている。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	前腕骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	保育士AとBで当該児の認識に差があった。新しくなった屋上の取り扱いに明確なルールを設けていなかったこと、危険個所の確認不足	屋上での子どもの姿から、ヒヤリハットや危険個所を出し合い一覧でまとめて周知する。屋上で保育をする職員は、現場の子どもの様子を伝え合う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎日	着地点には何も敷いていなかったが、ゴムチップのため、怪我をする可能性が低いと判断した。大型遊具から飛び降り、怪我をするかもしれないという危険予測が全体で認識されておらず、安全を守るための対策がとられていなかった。	屋上で保育をする前に、ヒヤリハットの一覧を確認する。職員は事故の着地点付近に立つ。	3.個人活動中・見守りあり	当該児が以前同じ所から飛び、着地できていた姿を把握していた為、職員の危険予測が低下していた。又、当該児が普段行わない鬼ごっこを他児と楽しんでいたため、夢中になりスピードが出ていたが、続けて楽しんでもらいたいと判断し、声を掛けずに見守った。又、夕刻のため全体が見えにくい状態だった。	子の姿に合わせて、屋上にいる複数の職員同士がかかわり方を共有する。事故の着地点に危険個所がないか確認する。屋上で遊ぶのは日没までとする。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	当該児合わせて3人で鬼ごっこをしていて、当該児は逃げる事に集中していた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	鬼ごっこをしている子、三輪車に乗っている子がいたため、声掛けをしつつ、周囲を移動しながら見守りを実施していた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	水道前付近にて2歳児を中心に見守りを行っていた。	屋上での保育に明確なルールがなかった。	屋上での保育についてのヒヤリハット一覧を作成	
857	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	1	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	36	5			10	11	10			6	6	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	2.顔面(口腔内含む)	左眼窩底骨折の疑い	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	幼児1クラスが外にいた状態で、●●組の子が順次外に出た来ていた。順次出ることで人数把握が難しくなることと、職員の連携が難しかったなどの要因が考えられる。	マニュアルの定期的な確認、職員の連携、声掛けなどの改善が必要	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	48	危険なポイントを意識して点検できるような工夫が必要	今後も点検はしっかり行う。玩具の点検は、危険なポイントを共有してみるようにする。	1.集団活動中・見守りあり	この日は園庭で遊ぶ子の人数も多くなかったが、多い日もある為遊びの内容も考慮しながら過ごしている。今後も引き続き行いながら改善する必要があると感じる。	園庭で遊ぶ子が多くならないように時間を決めるなどを引き続き行っていく。	1.いつもどおりの様子であった	いつもと変わらず遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	ぶつかった瞬間は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	全体を把握する保育士はいたが、ぶつかった瞬間は見ていなかった。	人員的にはいたが、ぶつかった瞬間は見ていなかったため気付くのが遅かったため対応も遅くなった。	全体を見る、鉄棒やアスレチックにつく、保護者対応等、役割分担を決める。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
858	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	1	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4. 3歳児クラス	16									2	2	16. 4歳	1. 男児	３歳児クラスから５歳児クラスまで、保育室の外側でテラスがつながっているため、行き来は自由に出来る。	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左側鎖骨骨折	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	4	1. 基準以上配置	特になし	特になし	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	2. 不定期に実施	12	特になし	特になし	4. 個人活動中・子どものみ	特になし	特になし	1. いつもどおりの様子であった	昼食の準備が出来るまで、自由に過ごしているので、天候もよくテラスにでてあそんでいた際に、寝そべっていた。	4. 対象児の動きを見ていなかった	室内で、昼食の準備をしている職員Aと外遊びから室内に入ってきて、着替えをしている子どもを補助をしていた職員Bだったので、テラスにいる子ども達は、見守れていなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	室内で、昼食の準備をしている職員Aと外遊びから室内に入ってきて、着替えをしている子どもを補助をしていた職員Bだったので、テラスにいる子ども達は、見守れていなかった。	昼食前の自由遊びの時間は、クラスをまたいで子ども達が行き来をすることも多く、共有スペースでの子ども達の把握が難しい。	異年齢での交流は大事にしているので、各クラスの職員が連携をとり、死角の場所が無いように、見守るようにする。	
859	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	2	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	12	4	8							4	4	14. 2歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	数	2. 基準配置	『園内ルール』では、「保育士同士が同じ場所にいないようにする」としていたが、保育者によって理解に幅がある為、立ち位置や動き等、より具体的な理解が出来るよう、園庭での保育士の役割分担等、保育の振り返りをしながら共通見解が必要。	園庭の使い方について話し合いを行う。●月●日実施	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	毎日	年齢に応じて、固定遊具が適切なものか、保育の振り返りをしながら共通見解が必要。	園庭の使い方についての話し合いを行う。（●月●日実施）●年度～遊具の入れ替え等、園庭環境整備をしていく。（滑り台、鉄棒は●月●日●日、●日撤去済み）	1. 集団活動中・見守りあり	●年度に『園内ルール』を園内研修で作成しているが、少しずつ状況の変化もある為、固定遊具の使い方等、保育の振り返りをしながら定期的な見直しが必要。	固定遊具の使い方で、現状での不確かな事の確認を行った。（●月●日実施）	1. いつもどおりの様子であった	日頃、チャレンジしていた滑り台上りを意欲的に行い、上れた事を喜んでいた。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	対象児の上りたい気持ちを受け止め、すぐ近くで見守っていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	築山等で遊ぶ他児の動きを見守っていた。	『園内ルール』に沿って、側面から登る園児の傍に付き添っていたが、ヘリコプターが低空飛行しており、園児にもヘリコプターを見せてあげようと、そちらに保育士の意識が向き、目を離してしまった。「付き添う」とは、どのような事なのか保育者で共通見解が必要。	「付く」とは、高さのある場所では、降りるまで「手をつなぐ」「支える」等、園児の身体に具体的に触れてサポートする。	
860	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	11	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	4. 3歳児クラス	7									2	1	16. 4歳	1. 男児	今回の怪我が要因でできた傷に、本児がもとよりもっている『逆さまつげ』があたり、傷の治りが芳しくない。	2. 室内活動中	1. 負傷		4. 創傷(切創・裂創等)	2. 顔面(口腔内含む)	左眼球、玩具衝突による打撲、擦過傷	5. 他児から危害を加えられたもの	1. あり	2. 不定期に実施	12	2. 基準配置	こどものペースに合わせた保育が出来ずに、保育室移動を促したため、子どもの癇癪を見極められずに止められなかった。落ち着いた行動をとれていればあるいは防げたかもしれない。保育補助の方の経験が浅く、その点を加味したうえで保育士が全体を見るべきであった。	保育補助、パートの方に対する研修も必須である。3歳児クラスには配慮が必要な子が2人おり、保育士等の配置をできるだけ慣れた者にする。	2. 不定期に実施	50	2. 不定期に実施	30	1. 定期的に実施	30	使用していた玩具は対象年齢に問題はなく、日頃、集中して遊び込めているもの。Aは癇癪を起すと気持ちが切り替えられず、どんな玩具も投げてしまう可能性がある。	A児の気持ちにできる限り寄り添いながら、特に場面の転換時には気持ちの区切りをつけられる様に進めていく。部屋を移動する、玩具を片付ける、など状況によって事前に予測を立てて行動するようにする。	1. 集団活動中・見守りあり	落ち着いて過ごすべきであったが、片づけを促した際に、激しく嫌がり癇癪を起し興奮してしまった。	子どもの特性（今回はA）をよく理解している職員がそばで対応できる様にする。特性を全員がしっかりと把握し、適切に行動できるように職員の教育をする	1. いつもどおりの様子であった	Aのそばでいっしょに遊んでいた	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	保育士は少し離れたところで全体の遊びを見守っていた	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	傍で一緒に遊んですごしていたが、咄嗟のことに対処できずに怪我が起こってしまった	今回の件では、Aに1対1で離れずに一緒に過ごしてもらうように伝るべきであった。	配慮が必要な子について、職員会議で共有し、その子の個性が全職員がしっかりと理解できるように、職員会議で話し合い、共有し、アルバイト、スタッフ共に閲覧できる共有ノートを使用し周知する。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
861	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	2	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	40				13	12	15			3	2	18. 6歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	剥離骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	1	1. 基準以上配置	特になし	マニュアルの整備、研修は実施しており職員配置も基準以上だったためソフト面での改善策はないと思われる。	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	1	園庭の転倒した場所付近には石やボールなど躓く要因となるものがなく、また足が引っかかるような凹凸も見られなかったため、園庭内でバランスを崩し転倒したと思われる。	園庭遊び前に園庭の目視確認をすることを改めて職員へ周知徹底する。園庭に子どもが入る前には、園庭を整地しできる限り小石等を取り除くこととする。園児が足のサイズにあった靴を履いているか確認する。	1. 集団活動中・見守りあり	特になし	保育人数に対する園庭の広さも遊びの動線も問題なく、使用している遊具もなく当該児も配慮を必要とする園児ではなかったため、環境面においては改善策がないと思われる。	1. いつもどおりの様子であった	特に普段と変わりがなかった。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	園庭全体の見守りを行っていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	遊具（すべり台）で遊んでいる園児をみていた。	特になし	職員配置数は基準以上であり、当該児が配慮が必要な園児ではなかったため人的面においての改善策はないと思われる。	
862	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	7	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	22				9	6	7			4	3	16. 4歳	2. 女児	特に無し	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右上腕骨瘤骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	12	1. 基準以上配置	・運動に関する補助の仕方や子どもの様子をあまり知らない補助員が鉄棒の補助についていた。	・子どもの運動力の様子を知っている保育士が補助につく。・安全に配慮した活動内容と、適所への保育士配置を行う。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	毎日	1. 定期的に実施	毎日	・点検の周知内容が人によって違っていた。	・点検リストを見直し誰もが同じように安全点検できるようにする。	1. 集団活動中・見守りあり	・遊びの設定を最初していた事から子どもの興味が薄れ、違う種目を増やしてしまった。・子どもがまだ自分で出来ないことでも、他の子のできる姿を見て同じことをしようとした。	・活動を変えるときは保育士間で連携をとり状況を確認し合う。・子どもの様子や、運動能力に合わせた種目を組み立てていく。・発達に合わせ段階的に習得していくものは、子どもができるからとやらせるのではなく適切な補助の中で行うようにする。	3. いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	運動はあまり得意ではないが周りの友達の姿を見て、真似をするように自分から鉄棒に上がり行ったことのない前回りを行った。	1. 対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	鉄棒の補助についていったところに本児が来て自分から鉄棒によじ登った。本児の左側に立ち手を離さないよう声を掛けていた。本児が回わった際に怖くなり急に手を離したので体をつかもうをしたが左手のみつかみ右側から落下してしまった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の遊具の補助に各自が付いていた。	・各場所に保育士が補助につき離れられなかったため、危険につながる場面に他の保育士が気が付くことが出来なかった。	・子どものやりたい気持ちを尊重することでも、危険につながることは避けさせることも考慮する。その判断が出来る保育士が補助につく。	
863	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	7	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	17				4	7	6			3	3	18. 6歳	1. 男児	（１）●●クリニック（２）●●病院	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	10	1. 基準以上配置	・誕生会とおやつ作りを実施する中で、保育者間での具体的な動きの確認が不十分であった。	・1日の流れの定着に向け、１日の流れを担任間で読み合わせし、不明点を確認する。・振り返りの時間を厳守し、振り返りと打ち合わせを確実に実施する。会議等で振り返りの時間が持てなかった場合は、付箋に記入しノートに貼って共有する。・マニュアルについては定期的に内容について確認し、改訂日や確認日を記入する。	1. 定期的に実施	3	1. 定期的に実施	294	1. 定期的に実施	294	・普段とは違うテーブル配置だったため、子どもが戸惑ったと推測される。	・テーブルの配置等に配慮し、保育室内で安全に過ごせるようにする。・担任間で、配置を図式化するなど可視化をして打ち合わせをする。	1. 集団活動中・見守りあり	・日常の保育で、移動時の行動に対して、安全教育が徹底できていなかった。・普段とは違う環境で興奮している子どもがいた際、気持ち替わるように視覚的に環境を構成していく働きかけが不足していた。	・日頃の保育の中で、安全教育として室内での過ごし方を伝えられるよう保育者が姿を見せていく。・保育内容の中で大切にしたい事を事前の打ち合わせで明確にし、子どもに関わる。	1. いつもどおりの様子であった	・本児が座ろうとした座席にコップがないことを保育者伝え、保育者から隣の席から取ってくるよう促され、取りに行った。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	・おやつの喫食のために、本児にコップを隣の席から用意するよう促した。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	・隣のテーブルへ本児がコップを取りに行こうと移動し、転倒した様子を見ていた。	・事故発生時のテーブル配置をしたのは、クラス担任ではあるが、入職１年目で経験は浅く、打ち合わせしていたものとは異なる設定の仕方であったため、子どもも普段とは違う動きになってしまった。全員が保育室の環境をイメージできるような打ち合わせができていなかった。	・保育者間で事前に打ち合わせを行い、その時の状況、子どもの様子に応じた関りを行う。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
864	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	18	0	0	0	6	5	7	0		3	3	16.４歳	1.男児	1●●整形外科 ２●●病院（治癒まで）	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外側顆骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	2	2.基準配置	危機管理マニュアルはあったが、職員間で周知されていなかった。また、平成元年に作成しその後、修正や見直しが行われていなかった。	保育士が持ち場を離れる際は声掛けをし、他の職員が児童の動きを把握しておく。また、事故防止マニュアルを全職員に対し研修を●/●に実施。誰もが対応出来るようにする。事故発生対応フローチャートも●/●に作成し、職員が見えるところに各教室に掲示した。	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	10	2.不定期に実施	220	その時間に必要のないものにはカバーをしていたが、一時的な椅子の置き場所にはしていなく、容易に登れる状態だった。	椅子や登りうる可能性がある場所にカバーや目隠しを行った。	1.集団活動中・見守りあり	保育室以外に椅子を置く場所がなく、重ねた状態で椅子を置いていたが、カバー等していなかったから登ってしまった。	椅子カバーを作成し登れないようにする。また危険行為を児童に理解してもらうように伝えていく。室内では日頃から危険行動を行う児童に対し、注意をし落ち着いた遊びをするように促す。保育士が持ち場を離れる際は他の職員が児童の動きを把握しておく。	1.いつもどおりの様子であった	畳のマットで友達と仲良く井型ブロックで遊んでいた。しかし玩具が汚れてしまい、そばにいた職員が離れた。その際に目に入った椅子に登りたくなってしまった。	4.対象児の動きを見ていなかった	常に児童を見守っていたが、事故が起こった30秒ほど、少し離れた水道に汚れた玩具を洗いに行き目を離してしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育士が持ち場を離れる旨声掛けしたが、他の二人の保育者に聞こえていなかった	他職員に対する声掛けが伝わっていないうちにその場を離れてしまった。	離れる際は必ず他の保育士に声掛けを徹底し、連携を図り、児童から目を離さない。	
865	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	6	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	37				14	14	9			3	3	17.５歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨外側顆骨折（左）	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	－	安全管理について再確認し、どんな時も保育者同士の連携を忘れずに声かけを常に確認し合うことを徹底する	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	人工芝なので滑りにくく、足がからまった可能性がある	環境特性を踏まえて対応していく	1.集団活動中・見守りあり	－	環境も踏まえて、早めに察知し可能な限りで防止できるとよい	1.いつもどおりの様子であった	園庭で一人で横歩きをしていたところ、バランスを崩し転倒し、左手をついた	4.対象児の動きを見ていなかった	降園時の保護者対応中だった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	砂場付近に一人、すべり台付近に一人いた	園庭全体を見ていた担当職員が保護者対応中に起きた	保護者対応をする時に他の職員に声掛けをし、引き継いでいく	
866	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	6	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	39				12	12	15			5	5	16.４歳	2.女児	療育手帳Ｂ１　自閉症スペクトラム	8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左第３指挫創　左第３指末節骨骨折	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	本児には、会計年度職員が１対１でついていたが、目を離さず本児だけを見ていてほしいとはっきり業務についての説明が不足していた。	上記の要因を踏まえ、本児へのかかわり方の再確認をし、業務内容を明確化した。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	288	1.定期的に実施	288	－	出入り口に指はさみ防止の緩衝材をつけた。	3.個人活動中・見守りあり	療育通園施設から保育園に戻ってきたばかりの環境	集団行動はとれないため、危険のないよう本児の行動把握に努める	1.いつもどおりの様子であった		1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	一緒に絵本を見ていたが、他児を手伝い、一瞬目を離してしまった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	寝具の片づけをしながら、子どもの様子には注意を向けていた。	－	担当職員だけでなく、園全体で連携をもって保育していく。	
867	令和6年6月10日	2.認可外	18.その他の認可外保育施設	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	7									1	1	18.６歳	1.男児	身長：約110cm 体重：約18kg	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右尺骨骨幹部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施		2.基準配置	ピアノの下に入った玩具を取ろうとして寝そべっている園児や、周囲の片付けをしている園児に対しての声掛けが不足していた。	園児１人１人に応じた状況の判断や危険行動を予測した関わり方をする。今後、事故予防研修を実施予定。（日程は未定）	1.定期的に実施	３回/日	1.定期的に実施	３回/日	1.定期的に実施	３回/日	隣のクラスとの間のパーティションを閉めており、部屋から出て隣のクラスに声をかけた。	隣のクラスとの間のパーティションを開け、様子が分かるようにする。	1.集団活動中・見守りあり	茣蓙の上で靴下のままで遊んでおり、片付け時も靴下のままであったため、躓いた際に滑ってしまった可能性がある。	「茣蓙の上で遊ぶ時は裸足になる、茣蓙から出て玩具を取りに行く時は上履きを履く」等の遊び方、片付け方のルールを作る。	1.いつもどおりの様子であった		3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	子どもたちの片付けを見守りつつ、内線を取り隣のクラスに伝達事項を伝える際に部屋から離れたので、怪我をした瞬間を見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	日中は、５歳児クラス保育者１名、３・４歳児クラス保育者２名で保育に入り、夕方17時以降は一つの部屋で３・４・５歳児が合同になり、保育者は１名で保育に入る。事故当日は、新型コロナウイルス感染症に感染した園児がおり、感染拡大を防ぐため、夕方17時以降も別の部屋で保育をしており、保育士各１名の配置であった。	伝達事項を伝えるために、部屋から出て子どもから離れた。	子どもから離れないように、パーティションを開け、部屋から出ずに伝達事項を伝えられるようにする。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
868	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	9	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	79	3	8	18	16	17	17			20	18	17. 5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘上腕骨顆上骨折（ひび）	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	2	1.基準以上配置	体育指導の時間帯への配慮や児童の身体能力、基礎体力の確認不足。	児童一人ひとりの身体能力を見極めるとともに、活動前の体調の有無の確認をしていく。児童にも跳び箱を行う上での注意事項や跳び方の確認を行っていく。また、年少のクラスからの基礎体力、体の力を育む運動活動を行う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		運動をする際、遊具の安全点検を実施したが、問題はなく、跳び箱とロイター板の設置状況にも問題はみられなかった。	1.集団活動中・見守りあり	体育指導の時間帯への配慮や児童の身体能力、基礎体力の確認不足	児童一人ひとりの身体面、体力、特性を配慮し、運動能力を十分見極め援助を行う。2歳児クラスより週２回の体育ローテーションと取り入れ、体幹や腕の力を育んだ上で跳び箱を行う。	1.いつもどおりの様子であった	当日は6段の横向き跳び箱を1巡目は飛ぶことに成功している。2巡目で、肘を痛めてしまった。	1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	本児が跳んだ時は、保育士が本児左腕を掴み補助。跳び箱の前側に両手を付き、跳び越えた。跳び越えた際には、臀部が跳び箱に少しついたが、両足で着地した。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	跳び箱は2台設置し、１台につき保育士1名が、児童に向かて左側で、児童の指導及び補助をしていた。	保育士4名が活動に参加し、保育士2名が跳び箱の補助及び指導をしていた。もう2名は、並んでいる児童への補助や指導をしていた。	跳び箱頂部の中央から後ろ側に手をつくよう指導を徹底する。保育士は、活動する児童の運動能力を把握し、共有していく。活動中も児童の動きに目を配り、少しの異変に気づける体制を整える。	
869	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	1.朝(始業〜午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	20									6	6	13. 1歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折（右足　すね）	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2〜3	2.基準配置	転ぶことを予想できたが保育者自身の気のゆるみから起きてしまった。	保育者同志で声を掛け合い防いでいきたい。	3.未実施		2.不定期に実施	約　4	2.不定期に実施	約　12	つまずく物がないよう、床面整備は気を付けている。	拭き掃除をする際には、些細なことでも見を落とさないようにする。	3.個人活動中・見守りあり	紙パンツを脱がせる時は保育者と向かい合って、きちんと脱がせられるまで動きに注意する。	上記のような交換の仕方を担任間で共有し徹底する。	1.いつもどおりの様子であった	トイレに行く準備で入口付近で機嫌よく歩きまわっていた。	1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	トイレ担当ではなく、おやつ後の片付け担当であったが、本児が待ちきれず動き回っていたため、先にトイレに行かせる事を手伝った方が良いと思い、本児にかかわった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の保育者もトイレに行くこども達にかかわっていた。	こどものトイレを優先しておやつの片付けを後回しにし、トイレに関わる保育者を多くした方がよい。	トイレに行く人数を減らし待ち時間がないようにする。こどもが落ち着いてから片付けをする。	
870	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	6	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	18									2	2	17. 5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨近位部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	3	1.基準以上配置	職員の配置確認不足、児童の状況把握不足、活動の選択ミスがあった	児童の状況把握、職員の配置の徹底及び、活動計画の安全性の徹底をはかる	2.不定期に実施	12	2.不定期に実施	12	2.不定期に実施	30回以上	環境面に問題なし	環境面での改善なし	1.集団活動中・見守りあり	給食終了後の園庭での過ごし方についての認識不足	職員の話し合いなどを通して、知識と経験を重ねる	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	普段通り	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	他児の対応をしていたため周囲の状況の確認不足	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	加配児の動きを見ていたため、対象児を見ていなかった	食後の集中力が低下する時間帯における鬼ごっこなど、激しい活動の選択が適切でなかった。	児童のコンディションや活動時間を考慮した活動の選択、転倒児童が出た際は、その都度一旦活動をストップし、児童の安全を確保するなど、活動の進行管理についても、再度検討する。また、歯科健診が行われていたとはいえ、発生から報告に時間を要したことについては早急に改善が必要。	
871	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	2	6.午睡中	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	22									4	4	15. 3歳	1.男児	なし	8.その他	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷性歯の脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2	2.基準配置	基準値以上の職員配置がなされ、人数については問題はなかった。マニュアルについては年に１度、職員会議にて読み合わせをしている。	必要に応じてマニュアルを確認する回数を増やしていく。（事故発生時の役割分担の確認・クラスの困り感を共有し事故防止に繋げる）	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	240	1.定期的に実施	240	特になし	引き続き、保育室内の事前確認を行ない安全対策に努めていく。	5.睡眠(午睡)中	本児は他児を追いかけて走っていた。他児が机の間をすり抜けるなど小回りで走っていたため、それを追いかけていた本児は足がもつれたのかバランスを崩し、転倒した。机を設置したままにしておくことのリスクは認識していたが、スペースを分けるために使用していた。このため、日頃より子ども達の行動には注意してきた。今では机で遊ぶ子や走り回る子は殆どいなくなったため、気を付けながら対応していたが、今回の件で机が要因の一つであると再認識した。	スペースを分けるために使用している机を食事の片付けが終わった後に片付ける様にする。	1.いつもどおりの様子であった	本児は日頃より、寝かしつけ中に布団にはおらず保育室内を走り回っていた。事故当日は、他児１名を追いかけており、小回りした際に足がもつれたのかバランスを崩し、転倒した。また、日頃より特徴的な走り方（すり足で走る）をすることがあり、事故の際もその走り方をしていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	本児の布団のスペースにいた職員がその都度本児に声をかけ寝かしつけを試み、本児と約束をして一度布団に戻ったが、他児が遊びだし、そのあとを追いかけて一緒に遊び始めてしまったところ、転倒した。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他児が遊びはじめたが他の子どもの寝かしつけをその他の職員も継続していた。口頭で注意を行っていた。	本児を含め３名の子どもが寝かしつけの際に走り回る傾向にあった。複数で走り回っている際はリスクを回避するために注意をし、その子どもに付いて寝かしつけを行っていたが、今回他児が走り始めた際には注意にとどまり、様子を見ていた。また、本児は日頃よりすり足で走る様子が見られ、転倒しやすい傾向があった。	当日は、本児と他児が走っている際にそれぞれの職員が注意を行ったものの傍について寝かしつける行為は行われていなかった。このため、本児の特性を鑑み、転倒するのではないかと予測しながら、怪我に繋がりそうな場面ではすぐに対応できるように心掛けていきたい。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
872	令和6年6月10日	2. 認可外	18. その他の認可外保育施設	5	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4. 3歳児クラス	12			2	7	2	1			2	0	15. 3歳	2. 女児	特になし	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	1	2. 基準配置	午前中の遠足にて疲れていた可能性あり。前回も行事の後に人工芝で骨折事故が発生していることから足の踏ん張りが効かずに転倒した可能性あり。人工芝にはつっかかる部分、滑りやすい部分などなく、転んだ場所も異なった場所ということから、午前中の活動量の違いによる疲労が原因のひとつであるという可能性が高い。	行事の後、園児の疲労がみられた場合はその後の活動を控えるようにする。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	特になし	特になし	1. 集団活動中・見守りあり	午前中、遠足で疲れていた可能性あり	午前中、遠足にて疲れていた可能性あり。そういった行事の後は園庭遊びは控えるようにする。また、遊具（プールヌードル）を持ちながら走っていたとのことで、遊具をもちながらの転倒であったため、手がきちんと着けなかった可能性あり。そういった遊具を持ちながら走り回らないよう気を付けていく。	3. いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	いつも通りの様子であったが、午前中は遠足であったため、普段よりも疲労感あったと考えられる	4. 対象児の動きを見ていなかった	２人の保育士が子供たちの保育をしており、１人の保育士が転倒した場面を目撃していたが転倒を防ぐことはできなかった	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	対象者が転倒した場面は目撃していたが、全体の子供たちの保育をしながらであり、転倒を防ぐことは出来なかった。	午前中、遠足であったため、園児たちはいつも通りの様子で疲労していた可能性高い。	遠足など行事の後は午後の外での活動は控えるなど、園児達の疲労についてもっと配慮が必要であった。また、遊具を持ちながら走り回らないようにする、特に遠足など行事の後は保育士が子供の様子を注意してみていく。	
873	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	6	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	47				20	16	11			7	7	15. 3歳	1. 男児	特に無し	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	4	1. 基準以上配置	各遊具に付き、様子を見ながら怪我の処置やトラブル対応をしていた。遊具で得意な子、挑戦したい子の人数に応じて、職員配置が足りなかった。	オープンするところを一か所にする。必要に応じて声を掛け合い、補助に付く職員を増やすなどの連携をとれるようにする。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	240	1. 定期的に実施	240	特になし	引き続き、これまで通り安全点検を実施していく。	1. 集団活動中・見守りあり	経験不足の年少児の初めての園庭鉄棒だったので、年少児が行う際に手を重ねてやり方を教えつつ、手を放してしまわぬよう、傍でずっと見守る必要があった。また、万が一の事を考えて、クッション材等を下に敷いていなかった。	年少が鉄棒経験が豊富になるまでは、職員がやり方を指導しながら、傍につくようにするとともに、鉄棒の下にクッション材があれば衝撃が吸収され安全に使用できていた。	1. いつもどおりの様子であった	友人同士のトラブルのすぐ後だったため、気持ちが高ぶっていた。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	３つの鉄棒の真ん中の鉄棒に立ち、全体が見渡せるようにしていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	各遊具につきながら、けがの処置やトラブルの対応をしていた。	新年度になってから、園庭で鉄棒をオープンにすることが少なく、経験が少なかったことを職員間で把握できていなかった。	他クラスのことも幼児職員全体で、振り返りでクラスの状況などを共有していく。	
874	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	3	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	7. 異年齢構成	18				10	8				3	3	17. 5歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左足関節外果骨端線損傷	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	1	1. 基準以上配置	合同保育中における職員配置のなかで戸外において各職員の見守り位置の確認を怠ってしまった。後日検証し広範囲での活動において子どもの動きを把握できる職員の立ち位置を話し合う。マニュアルを見直し、戸外活動においての子どもの見守り方や事故発生時のフローチャート、施設長・主任が不在時の報告や対処の確認、公園内の安全確認の仕方を追記するよう検討中。	マニュアルを定期的に読み合わせ確認し、事故防止徹底の意識向上を共有する。	1. 定期的に実施	280	3. 未実施	0	1. 定期的に実施	280	園外保育時、公園内環境の確認が足りていなかった。	活動前に公園内のチェック徹底。危険個所の共有を必ず行い、子どもの動きに合わせて保育者の見守り立ち位置を決めていく	1. 集団活動中・見守りあり	足場の悪いところでの活動には気を付けるよう配慮する必要があった。	広範囲にわたる広場では子どもの動けるエリアを限定し、保育者の見守りが常に届くようにするように考える。利用する公園の下見を行い、危険個所の確認や子ども達の最適な行動範囲を把握し、職員に共有していく。	1. いつもどおりの様子であった	子ども同士で遊ぶことを好み、保育者から少し離れたところで遊んでいた。	4. 対象児の動きを見ていなかった	広い場所で他児に気を取られ対象児の動きを把握できなかった。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	フリー職員が側につき様子を見守っていたがつまずきには気が付かずガードが出来なかった。	広い公園での子どもの動きの掌握が希薄であった為、足場の悪い場所での遊びに注意が向かなかった。	危険個所を共有した中で子どもの動きを把握できる保育者の立ち位置の確認をする。検証結果写真添付。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
875	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	42				12	14	16			3	3	17.5歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	2.顔面(口腔内含む)	鼻骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2	2.基準配置	職員の立ち位置について、業務マニュアルには全体を見渡すことに関しての記載はあるが、具体的な立ち位置や職員同士の間隔など明確な記載がなかったため、日ごとの全体把握の職員によって見渡せる範囲に差異があったことが考えられる。	本児の兄が走っていた場所は大型遊具の後ろ側に位置し、走らない約束になっている所だった。全体を見守っていた職員もすぐに気づかず声を掛けられなかったので、職員の立ち位置に気を付けていく。	1.定期的に実施	245	1.定期的に実施	245	1.定期的に実施	20	特になし	遊具等による怪我ではなかったため、改善点は特になし。	1.集団活動中・見守りあり	前日以前から雨天等で外遊びがなかなか行えずに発散ができていない状況が続いていたため、様子を見ながら短時間でも戸外に出ようと思っていた。本児も活発な性格のため、落ち着きにくい状況だったことが考えられる。また園の立地上、風が強く吹くと砂が飛んでしまい、園庭の隅に寄って足を取られやすくなったり、砂が剥げたところが滑りやすくなるため、転倒の要因になることも考えられる。	遊具の近くを走らないなど園全体での約束事を再度クラスごとに確認し、危険を予防できるようにした。職員会議や毎日行う昼礼等で情報を共有し、非常勤や派遣の職員も含めた全員が意識できるように周知した。また、風で隅に寄ったり表面が薄くなってしまった場合は、園庭の安全点検の際に砂を戻したり足したりすることで対応する。	1.いつもどおりの様子であった	兄と関わりたい思いが強く、手を出してしまったのだと思う。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	怪我直前の本児の動きは確認していたが、兄が走ってくる様子を見つけて注意することができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	落ち着きがなかったり手が出やすい児に付き添ってもらいながら、周囲の様子を見てもらっていた。職員同士が近くにいないよう心掛け、離れたところで見守っていた。	特になし	全体を見守る職員の立ち位置を意識、改善する。また、他の職員とも連携をしてすぐに気付ける配置をその状況に応じて判断していく。	
876	令和6年6月10日	2.認可外	16.企業主導型保育事業	8	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	48	1	9	11	11	9	7	0		13	7	17.5歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨・尺骨　骨幹部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置		子ども達を誘導する際は一斉に移動することを防ぎ、落ち着いて移動するように声掛けを行う	1.定期的に実施	3	3.未実施		1.定期的に実施	1		室内では歩いて、落ち着いて行動するように声掛けを行う	1.集団活動中・見守りあり	保育者の周りに子どもがまとわりついていたため保育者がすぐに反応できない状況であった	ある程度の距離を確保しながら全体を見れるようにする	1.いつもどおりの様子であった	本児は、父親と母親が別居しており当日は父親と登園した。普段からある事で特別なことではない。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	全体の指導を担当していた為、職員の周りに園児がいる状態で見ていたため、すぐに助けられる状況ではなかった	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他園児の相手をしている時に、本児が走っていることに気が付き目をやったその瞬間の出来事だったため手を出すことが出来なかった	全体がざわざわした状態で、水分補給場所に一斉に集まる状況になり競い合ってしまったのかもしれない	水筒は一か所に集まらないよう、分散して配置する。水分補給のタイミングをずらして、集中を防ぐ。	
877	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	6									3	3	17.5歳	2.女児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足関節外果骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	職員の見守りの偏り、誰かが見ているだろうという意識	見守り方法の再確認（全体を見る職員の配置）	1.定期的に実施	4	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	子どもが走りたくなるような広さ	机を並べる、部屋を仕切るなどして、広い空間を作らない	1.集団活動中・見守りあり	保育士も片づけに集中していた	見守りに専念するという意識を持つ	1.いつもどおりの様子であった	片づけ前は机に座って絵を描いていた	4.対象児の動きを見ていなかった	片づけに集中し、死角があった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	片づけに集中し、死角があった	特になし	全体に目を配るよう指導する	
878	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	18				9	2	7			2	2	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	3	1.基準以上配置	研修内容が落とし切れていない	個別対応での園内研修実施	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	300	平屋の園舎で見渡せる環境が望ましい。	現状では、見渡せる環境でないが、保育士が立つポイントを工夫して見渡しながら見守れるよう心がける	1.集団活動中・見守りあり	保育士の力量によるが、5歳児は常に複数担任の対応が難しく、大声を出さざるを得ない場合がある。	園庭が広く使える分、子どもがスピード感をもって走り回れることに配慮して見守り、子どもに声かけを工夫していく	1.いつもどおりの様子であった	他の園児たちと夢中になって遊んでいた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	鬼ごっこを声かけしながら見守っていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の園児とともに見守っていた	保育士の力量によるが、常に複数担任の対応が難しく、5歳児は運動能力が活発で高く、制止の声が届きにくい場合がある。	マンツーマン保育でない限り、現状の配置基準で事故予防の改善はしずらいが、集団保育だからこそ体験できる子どもの遊びを制限することなく、見守っていけるよう声かけを工夫していく。	
879	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	23					11	12			3	3	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外顆骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	3	1.基準以上配置		ボールの蹴り方だけでない体の使い方が身に付く遊びを行い、ケガにつながらない遊び方が身に付くようにしていく	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日		今後も活動前の点検を実施し、職員間で情報を共有、それに基づき遊び方を決定し、安全に活動できるようにしていく	1.集団活動中・見守りあり	右足でボールを蹴ったが足がボール上部を滑り蹴れなかった	運動遊び（ボール遊び）の経験を増やし蹴り方が身に付くようにしていく	1.いつもどおりの様子であった	ボールを蹴ろうとした右足がボールの上を滑り、左足を軸に左斜め後方に転倒。地面と上体の間に左腕が挟まった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	広場を2つに分け鬼ごっことボール遊びをする子ども達を見守っていたところ、鬼ごっこをしていた子どものうち２名が滑り台をしようと走っていったため、２名に声をかけた。本児らボール遊びの児、鬼ごっこのその他の児も視界に入れながら声をかけていたが本児のそばにはいなかったため助ける事ができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	４歳児クラスがアスレチックで活動中の為、２名ともアスレチックに配置していた。５歳児クラスの動きにも視界に入れながらアスレチックの活動を見守っていたが離れていたため本児を助ける事ができなかった。		ボールを投げる、蹴るといった動きをこれまで以上に遊びの中で実施し子ども達が身に付くようにしていく	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
880	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	5	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	25									1	1	16.４歳	2.女児	特になし。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	特になし。	引き続き、マニュアルの読み合わせと研修の継続。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし。	特になし。	1.集団活動中・見守りあり	特になし。	特になし。	1.いつもどおりの様子であった	健康面等に変わりなし。	4.対象児の動きを見ていなかった	クラス全体を見ていたので落下の瞬間は確認できていない。※防犯カメラにて確認出来た。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員はいなかった。	特になし。	見届けられるよう保育を行う。	
881	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	20				7	7	6			2	2	16.４歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	目じりの裂傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	3	2.基準配置	一つの部屋で動きの異なる遊びをさせていた。安全な環境設定について注意不足であった。	安全に子どもが遊ぶ環境設定について職員で研修をし、共有する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	玩具入れの安全性について	玩具入れの安全性について安全性について見直し安全対策を行う。	1.集団活動中・見守りあり	体操をするコーナーと玩具で遊ぶコーナーの区分がはっきりしていなかった。	体を動かす遊び、玩具を使った遊び、など動きの違う遊びの環境設定を考える。	1.いつもどおりの様子であった	保育室で体操をしていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児のそばにいたが、転倒する動きに対しして対応は出来なかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	対象児から離れ保護者対応をしていた。	全体を見る配慮が足りなかった。	全体を見つつ個々に配慮する。子どものとっさの動きに対応できるように子どもの動きを予想する。	
882	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	30					15	15			3	3	16.４歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	4.上肢(腕・手・手指)	左手関節捻挫（左橈骨遠位端不全骨折の疑い・左橈尺骨靭帯損傷の疑い)	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	みんなで一緒につながって滑りたいという要望に応えて、スピードがでないように気を付けて滑っていたものの、本児が急にブレーキをかけた事に気付くのが遅れ、勢いよく保育士の足が本児の手にあたってしまった。	滑り台は滑り終わってから、次の子どもが滑るようにする。または間隔をあけて滑るようにする。保育士は見守りに徹する。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	園庭の遊び方は決めているが、公園ごとの遊び方（固定遊具）のルール決めをしていなかった。	公園ごとの遊び方（固定遊具）のルール作りを話し合う。	1.集団活動中・見守りあり		公園ごとの遊び方（固定遊具）のルール作りを話し合う。	1.いつもどおりの様子であった	担当保育士のそばで遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児童の他の児童がみんなと一緒に滑りたいと要望したことに保育士が応え、担当保育士の前を対象児童が滑っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童の見守りをしていた。		公園ごとの遊び方のルールを確認、マニュアル作りを進める。	
883	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	26				10	10	6			4	3	16.４歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左前腕骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	４～５	2.基準配置	職員間で、ケガ・事故による認識、子どもの突発的な動きに対する予測ができていなかった。	事故防止マニュアル、安全管理マニュアルの確認を繰り返し行う。園庭の危険箇所を職員間で再確認する。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	足置き台が、子どもの活動線上に設置されていた。	毎日使用している箇所であっても、子どものケガや事故につながるかの可能性を考え、職員間で園庭危険箇所について確認する。	1.集団活動中・見守りあり	異年齢保育時は、年齢ごとのあそびに伴う動きの違いがあった。	異年齢保育時のマニュアル、園庭危険箇所の作成・整備。	1.いつもどおりの様子であった	他児の対応をしていた担任の傍で立っていた。動き出そうとしたところ、あしもとにあった靴を履くための足場に右脛脛が触れてバランスを崩し、後ろに転倒。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	他児の対応をしていた。対象児の傍に居たが、本児が転倒した時は、咄嗟に手が届く距離ではなく支える事は出来なかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	対象児の傍には担任がいたので、他児の様子の見守りをしていた	園庭で遊んでいた園児の状況が把握できるように、全体が捉えられるそれぞれの位置に保育士がいたが、本児の動きが予測できていなかった。	子どもの突発的な動きを予測し、事故に対する危険性を再認識する。	
884	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	14									3	3	14.２歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	鼻背部裂創	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	－	「子どもの行動は想像の範囲を超えることがある」という認識を常に持ち、保育を行うよう、職員会議で今回の事例について振り返り、意識の統一を図った。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	雨具掛けの下の部分の角は落としてもらっていたが素材的には堅かったため。	雨具掛けの下に緩衝コーナークッションを貼った。	3.個人活動中・見守りあり	トイレに行く前に全員で座って待っていたため、密集した状況になっていた。	トイレに行く際は半分ずつわけて行くことにした。	1.いつもどおりの様子であった	「トイレに行くよ」との職員の声掛けで立ち上がり、本児は職員と雨具掛けのわずかなすきまからトイレに行こうとし、職員の足につまずき転んでしまった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	職員と雨具掛けの間はとても狭かったのでその場所を通るとは思わなかったため、本児が転んだ際の対応が遅れてしまった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	至近距離にはいたが、転びそうになった時に未然に防ぐことができなかった。	職員が立ち上がった後ろを通ろうとして職員の足につまずき転んだ。	子どもは狭い場所等は関係なくどこでも通ろうとするので、子どもたちと一緒に座る際にはいろいろなことを想定したうえで行動するようにする。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
885	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	6	7.午後	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	21									3	2	16．4歳	1.男児	●/●ギブスが外れる。外傷部に気を付けながら普段の生活に送る。●/●最終通院予定	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢（腕・手・手指）	左肘骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	10	1.基準以上配置	●月●日から園内での裸足保育を始めたため、裸足での活動に慣れていなかった。	事故報告会（自園）で状況確認を行う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	天候等（湿気が多い）で室内でも滑りやすくなる場所があることを確認し、職員間で共有する。	引き続き安全点検を大切にしていく。	1.集団活動中・見守りあり	午後の活動を１４時半めどに終了しているため、活動終了間際で配慮不足だった。	職員間で子どもたちの様子に目視、確認を忘れない。	1.いつもどおりの様子であった	普段と変わらない様子だった。	4.対象児の動きを見ていなかった	担任２名が全体の子どもたちの様子をみていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育補助は子どもたちと一緒に走っていた。	子どもたちに、走り方やスピード等の配慮の声掛けをもう少しすべきだった。	いつ何時何が起こるかわからないので職員間で子どもたちの様子に目視、配慮、職員間での声かけを重視する。	
886	令和6年6月10日	1.認可	3.保育所型認定こども園	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	40				14	12	14			4	4	17．5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢（腕・手・手指）	上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	4	1.基準以上配置	職員間で園庭の使い方、遊び方について話し合えていなかった。	事故予防に関する研修頻度を増やす。	1.定期的に実施	4	1.定期的に実施	293	1.定期的に実施	293	午前中は雨が降っていたため、ぬかるみができていた。	園庭の水のたまりやすい場所やぬかるむ場所へカラーコーンを置き、注意を図る。	3.個人活動中・見守りあり	午前中は雨が降っていたため外遊びができず、延長保育中は体を活発に動かしたい状況であった。	外遊び前に遊具だけでなく、地面の状況も確認する。遊び方や雨上がり後は滑りやすい等、子どもへ指導する。	1.いつもどおりの様子であった	体を動かして遊ぶことが楽しく、活発になってきていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	園児が活発に走り出したため、危ないと感じ始めていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	延長保育中に、異年齢で園庭で遊んでいたため、他の遊具の場所を見守りしていた。	広い園庭での少人数鬼ごっこでも、状況が重なるとケガに繋がってしまう事を考えられなかった。	職員間での役割分担を明確にする。職員一人ひとりが役割だけでなく、全体を把握する。	
887	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	40				12	11	17			4	4	18．6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢（腕・手・手指）	左手首骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	8	1.基準以上配置	一人は全体を見る、一人が見守りが必要な遊具に位置する、と職員の中で周知していたが、別の場所でトラブルが起きると、見守りが必要な遊具から離れることがあった。また園庭のハザードマップをまだ作っていない。	トラブルが起きると、子どもの仲介に入るために、遊具を離れてしまっていた。他の職員に声をかけ、見守りを代わるか、トラブルの対応に他の職員に行ってもらうなどしていく。また、「今は雲梯おやすみにするよ、先生が来るまで待っていてね」と子どもに伝え、離れる時にはしない、ということをルールにする。園庭のハザードマップを作る。	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	247	1.定期的に実施	35	遊具点検の際目視で行っている。子どもの身長から地面までの高さが人それぞれ異なる。また、子どもの掴まる握力も人それぞれで異なる。一人一人の状態を把握する。落下時の地面の状態にも問題があるかもしれない。	遊具点検の際には、目視ではなく手で触り破損やささくれが無いかチェックする。子どもの身長から地面までの高さや、掴まる握力を考慮し、落下した時の衝撃を減らす為に、白砂を増やし、地面を柔らかくする。マットの使用も考える。	1.集団活動中・見守りあり	３歳児が１４：１５頃園庭で遊び始め、４・５歳児が１４：３０頃園庭で遊び始める。園庭の遊具は全て使って遊んで良いとしていた。（滑り台、雲梯、登り棒、ジャングルジム、シーソー、鉄棒、ゆらゆら橋）	子どもの人数や、年齢、発達を考えて、遊びの場を工夫する。遊具の使用を制限する。「今日は滑り台と砂場で遊ぶよ」と使う遊具を限定してから外へ出るようにする。	1.いつもどおりの様子であった	対象児は雲梯の端から端まで行けるようになった。雲梯をするのが好きで、外に出ると雲梯をする姿があった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	担当職員は、最初は雲梯にいて補助していたが、近くの滑り台で子ども同士のトラブルがあり雲梯から離れた。その時に対象児が雲梯から落下した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	一人は鉄棒にいて、手を離さないよう、危険がないよう見守っていた。一人は迎えの子どもがいたので、支度をさせ保護者の元に返した。一人は滑り台近くの子ども達の遊びを見守っていた。	異年齢保育の時間になり、園庭に出ている子どもの数が多かった。また、見守り・補助が必要な遊具が多く、職員が遊具に位置せざるをえなくなり、全体を見る職員がいなかった。また迎えの子どもが来た時に、一人職員が園舎にいる職員を呼びに行き、園舎にいる職員に支度を頼んだ。玄関付近で園庭全体を見守っていた。	１４時以降の異年齢保育時間中に、３歳児が外へ行く時には、４・５歳クラスはホールで遊ぶなど、交代して園庭に出るようにする。一人は全体を見守り、一人は危険な遊具に位置し見守る。また、雲梯など見守りが必要な遊具から離れる時には、他の職員に声をかけ見守りを変わる。必ず補助が必要な遊具には手の届く位置にいる。迎えの子どもがいた時には、園舎にいる職員に声をかけ支度をしてもらう。	
888	令和6年6月10日	1.認可	3.保育所型認定こども園	6	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	10		1	3	2	3	1			6	6	16．4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面（口腔内含む）	外傷性脱臼歯	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1～2	1.基準以上配置	−	環境面と同様	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	2.不定期に実施	数	−	遊具等不使用のため無し	1.集団活動中・見守りあり	事故発生時は、子どもの人数は少ないが、広いプレイルームで保育士一人で目を行き届かせるのは難しさもあると感じた。	早朝保育時、8：00出勤の職員が来るまでは保育室の1室で静の遊びをできるようにし、8：00からはプレイルームに出ても良いこととする。	1.いつもどおりの様子であった	普段からブロック等じっくりと座って遊ぶよりも、体を動かしたり、走って遊ぶことの方が多い。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	友だちと走っていた対象児の行動は把握していたが、少し離れた場所でほかの子どもと一緒にいたため、事故は防げなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	玄関で登園する子どもの受け入れをしていた為その場にはいなかった。	環境面と同様	環境面と同様	
889	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)													17．5歳	1.男児	特になし。	7.登園・降園中（来所・帰宅中）	1.負傷		6.その他	4.上肢（腕・手・手指）	右環指基節骨骨端線損傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2	1.基準以上配置	特になし。	遊具を使用する前に、その都度、遊具の扱い方、遊び方についての約束を園児に話す。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	特になし。	日々、破損等がないか点検していく。園児・保護者へ再度、遊び方の注意をする。	7.その他	特になし。	常に大人が見守り、危険な場面を見かけた場合は、声掛けをする。	1.いつもどおりの様子であった	保護者が負傷したことを認識していないため、園へ報告せずに帰宅した。	4.対象児の動きを見ていなかった	保護者に引き渡した後であり、報告もなかったので、把握できていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保護者に引き渡した後であり、報告もなかったので、把握できていなかった。	特になし。	園庭で遊ぶ場合は、園児をしっかり見守ってもらう事を保護者へ伝える。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
890	令和6年6月10日	1.認可	3.保育所型認定こども園	6	3.昼食時・おやつ時	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	2.1歳児クラス	12									5	5	13.1歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右尺骨骨幹部骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	1～2	2.基準配置	一時的にでも保育者の意識が一つの場に向いてしまうなどして死角が出来てしまった可能性がある。	事故防止危機管理マニュアルにある通り、常に保育者の立ち位置を考慮し、子どもの行動に注意を払うことを徹底していく。また話し合った内容を随時更新していく。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	身体機能が未熟であるため、鉄棒にぶら下がったまま足を上げたり、揺れたりすると反動で腕に予想以上の負荷がかかる可能性がある。	鉄棒や遊具で遊ぶ際には保育者が傍について危険な遊び方や、不自然な動きが無いよう注意する。遊び始める前に遊具や広場を点検し、安全を確認してから遊び始める。	1.集団活動中・見守りあり	複数保育者がいることで自分の担当場所を意識し過ぎ、一人ひとりが全体を見ようとする意識が薄くなり、気を付けていたつもりでも見ていなかった場面があったかもしれない。	本児が自分で遊びたい気持ちを認めつつも、遊具に乗る時などは必要に応じて保育者が手を添えるなどして手伝い、安全に遊べるようにする。子どもや保育者の人数に応じて散歩先を決め、安全に遊べるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	公園では鉄棒にぶら下がったり、滑り台を滑ったり、遊具に乗ったり体をたくさん動かして楽しんでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	鉄棒やシーソー、ベンチ辺りに立ち、鉄棒にぶら下がる子どもたちの様子を見守ったり、シーソーで遊ぼうとする子には違う所で遊ぶよう声をかけたり、ベンチに座る子もいたので一緒に座ったりしながら落下などの危険がないように見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	滑り台や鉄棒、遊具などについて見守ったり、全体が見渡せるフリースペースにも職員が一人立って危険そうな場面では声をかけることで近くにいる職員が対応するなど連携していた。	一つの遊具に子どもが集まりすぎるとトラブルや怪我に繋がる可能性がある。	保育者が意図的に他の遊具に誘うなど子どもを分散させる工夫をし、安全に遊べるようにする。	
891	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	13									1	1	17.5歳	2.女児	膝が脱臼しやすい為、かばう癖があり、走り方がぎこちない	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足第5中足骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	4	1.基準以上配置	–	重要事故事案として事故報告書№2を記入し、教頭、担当主任、担任で事故分析を行う	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	–	今回の事故に関しては、施設や設備が原因ではないため特になし。	1.集団活動中・見守りあり	金曜日で子どもたちに疲れが溜まっている状況だったと予想される	疲れが予想される週末はゆっくり過ごすなど子どもたちの状況に合った活動を取り入れていく	1.いつもどおりの様子であった	普段から転倒することが多く、鬼ごっこ中も近づいてきた他児を避けられないことがある	2.対象児の至近で対象児を見ていた	至近距離で見ていたが、対象児を含む子どもたちが走っていたためすぐに転倒を防げなかった。″	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	13名だったため、他の保育者はついていなかった	本児の普段の生活での転倒の多さに対し、手立てや適切な対応ができていなかった	体力運動能力面において、専門家から子どもたちの現状に合った向上のための運動や遊びを教えていただく。子どもたちの現状に合わせた無理のない保育内容を取り入れ、子どもたちの不足していると考えられる能力面に必要な手立てを日々取り入れていく	
892	令和6年6月10日	1.認可	3.保育所型認定こども園	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	16	1	3	2	5	2	3			4	3	17.5歳	2.女児	本児は、身長約128cm、体重約37kgと体格のよい児である。	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手首骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	4	2.基準配置	異年齢保育の為、低年齢児のところに職員がつき、他児は見守りをしていた。	職員の見守り位置が重ならないように決め、保育にあたる。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎日	なし	壁床等、破損個所がないか確認する。	1.集団活動中・見守りあり	異年齢保育をしていた為、３歳未満児の方に見守りの目が行きがちであった。	延長保育時は、事故・ケガが発生しやすい時間帯でもあるので、静かな遊びコーナーを４つに分け、落ち着いて保護者の迎えを待てる環境作りをする。	1.いつもどおりの様子であった	鬼ごっこをするとみんなで決めたが、本児は別の遊びがやりたかった。同じクラスの子と壁タッチを片手でしていたが、その子がいなくなっても一人で楽しんでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	０歳児を見ながら全体をみていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	０歳児を見る職員、１歳児、２歳児、３歳以上児を見る職員とそれぞれ分散していた。	壁タッチの遊び自体が、危険であるという認識ではなかった。	５歳児ではあるが、危険回避は難しい。壁タッチは、手の付き方に課題があるので、危険なのでやらないように子ども達に話をする。	
893	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	20									3	3	16.4歳	2.女児	特になし。	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘頭骨骨折　右前腕打撲	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2	1.基準以上配置	特になし。	遊んでいる付近で様子を見守る際、遊具で遊んでいる場合は積み方や乗り方のバランスなども気を付けて見ていくことを職員で共有する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	特になし。	日々、危険な遊び方をしていないか見守っていく。園児へ再度、遊び方の注意点を声掛けする。	7.その他	足元をよく見ないでソフト積み木を踏んだこと。	常に保育者が見守り、危険な場面を見かけた場合は、声掛けをする。	1.いつもどおりの様子であった	友だちと一緒に遊んでおり、体調もいつもどおりの様子だった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	保育室で遊ぶ子も数名いたため、保育室と対象児のいる遊戯室全体をみていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	対象児の付近で様子を見ていた。	ソフト積み木のへリに足を乗せてバランスを崩した時、すぐに手を出せなかった。	対象児の運動能力なども考えて、手を貸すなどの補助をすることも必要。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
894	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	4	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	11					4	7			1	1	16. 4歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	4	2. 基準配置	年度初めの職員の入れ替わりがある時期でもあったため、活動の仕方について、もっと職員間での確認が必要であった。	活動の際の安全対策について、職員間で今一度確認を行うとともに、遊戯室での活動の際の職員配置を考える。	1. 定期的に実施	1回/週	1. 定期的に実施	1回/週	1. 定期的に実施	1回/週	着地場所が着地の衝撃を吸収するのに不十分だった。	着地場所に敷くマットをより軟らかいものにしたり、何枚か重ねたりして、衝撃を吸収しやすくする。	1. 集団活動中・見守りあり	必ずそばでの見守りが必要な活動であったため、その場を離れるのであれば、他の職員に助けを求めるべきであった。また、園児への安全指導が不足していた。	職員が活動の様子をしっかりと見守り、それができない状況になるのであれば、活動を一旦止めるか、他の職員に声をかけて協力を依頼する。また、園児に対しても、遊具の使い方や遊び方等について、きちんと指導を行うべきであった。	1. いつもどおりの様子であった	昨年から馴染みのある遊びのため、楽しみながら繰り返し飛び降りていた。	4. 対象児の動きを見ていなかった	事故発生の直前までは、職員が傍について見守り、補助を行っていたが、他児からの呼びかけに対応するためその場を離れ、事故発生時の状況を見ていなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員は、遊戯室にはいなかった。 園長は、遊戯室にて活動し始めたことを確認していたが、職員が傍につき補助をしていたため、声をかけることはなかった。	必ずそばでの見守りが必要な活動であったため、その場を離れるのであれば、他の職員に助けを求めるべきであった。	職員が活動の様子をしっかりと見守り、それができない状況になるのであれば、活動を一旦止めるか、他の職員に声をかけて協力を依頼する。	
895	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	5	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	31					15	16			5	5	17. 5歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右肘内側の骨折	1. 遊具等からの転落・落下	2. なし	1. 定期的に実施	8	1. 基準以上配置	職員の配置が鉄棒の使用を想定しない配置だった。	職員に対して安全教育の研修を定期的に行う。	1. 定期的に実施	3	1. 定期的に実施	3	1. 定期的に実施	12	鉄棒の下が砂地であった。高い場所からの落下ではないが、落下した時にクッションになるようなものがあるとよかった。	落ちても怪我のしにくい素材を鉄棒の下に敷くなど、安全対策を行う。(ゴムチップマット、ラバーターフなど)	3. 個人活動中・見守りあり	園児の動きに合わせ、職員の配置を変える必要があった。	職員は、園庭全体の園児の様子を把握し、園児の遊びや動きの状況の変化に迅速に対応するべきだった。	1. いつもどおりの様子であった	特に落ち着きがなかったり不安な様子などはなく、いつもどおりの様子であった。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	近くにいた職員は、本児が視界に入っていたものの、危険認知が遅く、「落ちるかも」という視点では見ていなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の滑り台の補助や虫探しの園児の対応をしていた。	・園児に対して、鉄棒の使い方や危険性などの安全教育を行う必要があった。 ・職員への危険認知の研修が必要だった。	・集会やクラスでの活動時に遊具での遊び方や危険性について安全教育を行う。 ・職員の安全研修の実施。	
896	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	8	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	26				7	4	15			5	5	16. 4歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右肘頭骨折　右モンテジア脱臼骨折	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	1	1. 基準以上配置	危険と思う、または感じる部分などの考察を今まで以上に、より細かなものにしていく必要性があるのではないかと考えられる。	更に職員で考える場を増やし、自園での危険と思われる、または感じられる部分の共通理解と考察を増やしていく。	1. 定期的に実施	48	1. 定期的に実施	毎日・都度	1. 定期的に実施	毎日・都度	遊具が周囲にあるが、スペースには余裕があるため、一人一人が運動・活動しやすい場でもある。	運動・活動しやすい場ではあるが、保育室内と比較し、気持ちの高揚も伴い、児が活発に動くことが考えられるので、さらに職員は、余裕のある人数で、遊具のそばや適所に必ずつくようにし、必要な場合は、遊具を移動したり片付けたりする。	1. 集団活動中・見守りあり	走るスペースの確保はできていたが、各コーナー分けの明確さが不足していたのではと考えられる。	引き続き、活動内容に相応しい十分なスペースの確保と必ず職員は適切な場所につき、子どもの様子を見守っていく。	1. いつもどおりの様子であった	他児（同クラス）と一緒に横並びに走っていた。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	朝の受け入れや、他の子どもたちと一緒に保育室で遊んでいた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	登り棒・お相撲・絵本・ブロックの遊びのエリア・個別対応児のそば等に職員がそれぞれついていた。転倒の瞬間は、見ておらず、転んだ後に気づいた。	園児の人数に対し、職員人数に問題はなかったが、その瞬間の職員の目線や姿勢が本児の転倒の際に間に合わなかったと考えられる。また本児と他児の距離感・体格差等も考えられる。	職員数が十分で、それまで見守っていても、目線や姿勢が対象場面から外れることは考えられるので、広いスペースでは、今まで以上に声の掛け合いや確認を徹底する。また、年齢差・体格差・運動機能の発達等にも十分に配慮し、安全を徹底する。	
897	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	8	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	22					12	10			2	2	17. 5歳	2. 女児	事故発生は●月●日だが●月●日に違和感（口の中のできもの）を本児が家族に訴え●月●日に歯科受診しレントゲン検査により発覚する。事故発生時は痛がる様子等は見られなかった。膿が確認でき多少ぐらつきがあることで経過観察しながら必要な治療を行っていく。	2. 室内活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	上の前歯の1本の神経がなくなっている（レントゲン検査）	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	4	2. 基準配置	遊具の使い方を子ども達とも日々確認していく。	遊具での起こりうる事故を把握し見守りや必要な援助を徹底していく。ぶつかった場所などの確認を必ず行い、その後の様子も注視していく。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	50	1. 定期的に実施	240	遊具、玩具の安全点検について担当職員に任せきりになってしまうことがあった。日々の点検の確認を心がける。	遊具・玩具の点検の報告を職員みんなで周知し、必要に応じて迅速な対応をしていく	1. 集団活動中・見守りあり	運動会まえの練習で活動や運動量が多くなっていた。生活の中でゆったりと落ち着ける時間もつくるようにする	見守る職員同士でも声を掛けあい、より危険を察知できるようにしたり、子どもたちから目を離す時間ができないようにしていく。	1. いつもどおりの様子であった	事故発生前、発生時、発生後ともにいつもと変わらない様子だった。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	・年中児１２名を中心に見守り。いつも危険が予想される箇所にいるようにしているが、本児が日頃から落ち着いていて危険な行動がないことからほかの児童のそばで見守っていた。本児が自ら事故発生後報告する。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	・年長児10名を中心に見守り。年長児をみていたため事故発生時の本児の様子には気付かなかった。	話がしっかりできる年齢だとその言葉を鵜呑みにしてしまい確認が疎かになってしまうことがあった。	事故が発生した場合には程度にかかわらず、その後の様子に注視し、保護者に状況を説明、家庭での様子もみてもらえるようにする。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
898	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	5.4歳児クラス	19									8	5	16．4歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	コロナ禍で体を動かす機会が減り、体の動かし方がうまくいかなかった。	子ども達に安全な走り方など体の使い方を知らせる。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12	普段利用しないコミセン体育館での練習だったため慣れていなかった。	使用前には安全点検を行う。	1.集団活動中・見守りあり	コミセンの体育館での練習回数が少なく慣れないうちに予行練習を行った。	保育園で練習を重ねてから、コミセン体育館で繰り返し練習する。準備体操をしっかりする。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	障害物競走だったため、他児に負けないように走っていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	担任は、スタート位置で対象児を含む４人を送り出した後、その場で４人の子ども達の走る様子を見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	障害物のハードル、網、跳び箱に１人ずつ職員が付き危険な時にすぐ対応できるようにし、ゴールでは、職員２人がゴールテープを持ちゴールする子ども達を迎え入れていた。	もうすぐゴールだという気の緩みと早くゴールしなければという焦りで、気持ちに体がついていかず足がもつれた。	一緒に走る人数や用具の配置にゆとりを持たせる。競技中の安全確保について職員に周知する。	
899	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	29					14	15			2	2	17．5歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足首骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置		３ヶ月に１回は事故について集計をし、事故が起きやすい場所や時間帯など把握して、事故の再防止に務める。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		今回の事故は、走っている時に本児が自ら転倒した際の事故の為、ハード面においての改善策は特になし。	1.集団活動中・見守りあり	園庭で鬼ごっこをする際は、外の広い所で勢いよく走るので、転んだりぶつかったりしないように、保育士の観察がより必要。	鬼ごっこ等、大勢で走ると子ども同士でぶつかったり転倒しやすいので遊ぶ際には人数を制限したり、走る時には前をよく見たりと、子ども達に伝えて見守るようにする。	1.いつもどおりの様子であった	普通に走っていたが、直線からカーブで転んだ。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児も含め、数名の他児と鬼ごっこをして走っていたため、本児が転んだ時に手を差し伸べることができなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)		走る時にはぶつからないように前を見て走るよう伝えていたが、カーブなど速度を落として走るなどの注意事項を詳しく本児に話していなかった。	鬼ごっこなど大勢が活発に動く遊びの時には、人数や動きなど注意深く子ども達の様子を観察し、転倒を未然に防ぐように声をかける。	
900	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	8	7.午後	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	18									3	3	15．3歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	前歯脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置		職員の配置については十分であると考える。	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	24	おやつ食べ終わりの片づけ時という事で、テーブルが複数台設置されている状態が、本児の行動を誘引したと考えられる。	使わなくなったテーブルから即時、片付けていく。	1.集団活動中・見守りあり	・おやつが終わった園児から各々の所持品を始末する状況だったため、各々の動きがそれぞれバラバラであった。・スムーズに進めている園児に対しては安心して任せており、特に声掛けはしなかった。・本児にとっては、机の位置が両手を置くのに丁度よい幅であったと思われる。	・保育者は両手が丁度置けることに気づき、本児の活発な性格からもこの後の動きを想定し、前もっての声掛けをする。・各々の動きがバラバラのため、職員の職務分担を明確にしておく。	1.いつもどおりの様子であった		2.対象児の至近で対象児を見ていた	まだおやつを食べている子どもの対応に1名、おやつ片付けをしている子どもの対応に1名、所持品の始末に係っている子どもの対応に1名と、それぞれが分担していたものの、職員全員がクラス内を把握していた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	手助けの必要な園児に対して援助の対応をしていた。	・机がいくつも出たままになっていると、室内も狭くなり、子どもが机で遊んでしまいたくなる状況が起こってくると予想される。・机の片付けの必要性に職員も気づくべきであった。	・使用後の机を片付けていく職員分担を決めておく。・スムーズに所持品の始末を進めている子にも目を向け、次の行動への声掛けをする。	
901	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	42									2	2	18．6歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2	2.基準配置	－	・遊戯室での環境面は危険な状況ではなかったが、今後は子ども達に危険な動きが見られた場合は声をかけて注意したり、子ども達の瞬発力や判断力を身に着けられるような遊びも保育に取り入れて危険防止に努めたい。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	－	・遊戯室での環境面は危険な状況ではなかったが、いつでも事故は生じる可能性があることを念頭に置いて、今後は子ども達に危険な動きが見られた場合は声をかけて注意したり、環境を整備し職員間で危険防止に努めたい。	1.集団活動中・見守りあり	－	女児3～４名と穏やかに遊んでおり床に玩具が散らかったりしておらず、他児が走り回っていたが危険な状況ではなかったと思われる。	1.いつもどおりの様子であった	遊戯室にて大型ブロックを組み立てて車を作って遊んでいた所タイヤ部分に躓き転倒。大型ブロックの上に右ひじを打ち付ける。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	転倒に気が付き右ひじを押さえて泣いている。椅子を用意し右ひじを楽な高さで置けるようにし、氷を準備し冷やす。指先や痛みの確認を行い主幹教諭に伝えてから母親に連絡し現状を伝える。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	遊戯室から保育室に他児を移動させ、静的活動に変更し穏やかに過ごせるようにする。	－	対応はスムーズであったが木曜日で3件病院を受診して頂いたので前もって休診などの情報を知っておきたい。	

No	初回掲載年月日	概要：認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期：月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制：発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳：0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故：年齢	性別	特記事項	事故状況：発生時状	事故の転帰	死亡：死因	負傷：負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面：マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面：施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面：教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面：対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
902	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	36				17		19			27	27	17．5歳	2.女児	身長：約108cm、体重：約18kg	1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	上顎前歯2本(AA)の破折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	重大事故が起こった時、遅くとも起こった次の日には、職員間で周知、原因として、予防策を話し合う。	園全体で事故について話し合い、情報の共有を図る。原因を考え職員配置や危険箇所について再度認識し、事故予防について意識し、取り組む。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	日頃より、破損、紛失を知らせるように早期発見、対応に心がける。	遊具の点検を行っている。今回は遊具に関連した事故ではなかった。	1.集団活動中・見守りあり	雨が降る中、カッパを着て、長靴を履いて鬼ごっこをして遊んでいた。	天気や気候によって園庭等の危険度が変わる。今回は雨の日であったため、カッパで視界が制限される、また長ぐつは動きにくく転倒しやすいこと等を伝える必要があった。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り保育室での着替えを行い、雨のためカッパを着用して園庭で鬼ごっこをして遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	他の場所で他の子どもを見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の場所で他の子どもを見ていた。	職員も園庭で遊びを見守っていたが、他の子どもの話を聞いたり、トラブルに対応する等していると園庭で遊んでいる子どもたちを見守っている職員が少なくなる。	事故が多い危険箇所には必ず職員を配置する。また、見守る姿勢について話し合う。他クラスの子供を見ることがあるため、各クラスの子供の特徴を細かく知り周知する。	
903	令和6年6月10日	1.認可	3.保育所型認定こども園	7	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	11				4	4	3			1	1	17．5歳	1.男児	なし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足親指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	8～10	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	夏場で床が滑りやすくなっていたか、つまずきやすくなっていた可能性がある	活動を始める前に床に異常がないか確認する	1.集団活動中・見守りあり	普段は内履きを履いているが、夏場はだし保育を行っているため、はだしでのころがしドッチボールの経験が少なかった。	活動を始める前に子ども達にボールの転がし方や注意点を確認し伝える	1.いつもどおりの様子であった	本児は転がってきたボールを避けようとしたときに右足の指をひねって転ぶ。痛がっていたので、離れた所に移動させ様子を見る。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	近くで転がしドッチボールを見守る	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	その場にいた職員は1名の為、他の職員はなし	本児は少し落ち着きがなく、注意散漫なところがある。	落ち着きがない場合は、注意して見守ったり話をしてゲームに集中できるようにする。	
904	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	7	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	31									4	4	17．5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		6.その他	2.顔面(口腔内含む)	左頬部打撲擦過創	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	12	1.基準以上配置	職員は、配置されていたが、ちょうど慌ただしい時間帯だったので、その瞬間を見逃してしまった。	落ち着いて行動できるようにしていく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	使用の都度	－	遊具、用具を使用していなかった。	1.集団活動中・見守りあり	－	活動の切り替わりの時にも、目を離さないようにする。	1.いつもどおりの様子であった	遊戯室の片付けをした後、友達を追いかけ相手と別方向に走り出しぶつかった。	4.対象児の動きを見ていなかった	２名は対象児から少し離れたところで、遊具の片付けを行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	２名は、保育室に戻り、他児の着替え介助、食事準備をしていた。	片付けが終わりかけた騒がしい時間帯で、「片付けが終わったら舞台側に集まって」の指示が上手く伝わっておらず事故が発生してしまったと思われる。	片付け前に事前に終わったらどこに集まるかを伝えておくなど見通しを持って行動できるように声をかけておく。	
905	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	7	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	29									4	4	17．5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足親指骨折（ヒビ）	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	3	1.基準以上配置		職員全員がマニュアルを再確認する。	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	48	床面の状況の確認	活動前に活動場所の環境（湿度や温度による床面の状況）の確認、職員の配置場所の確認、見直しをする	1.集団活動中・見守りあり		事前に場所を確認しておくことで、滑るなどの危険を予測し、環境を整えて活動を始める。	1.いつもどおりの様子であった	しっぽ取りで、走っていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	担任２名のうち１名は、しっぽを取られた児の待機場所（離れた場所）で、子どもたちの活動を見守りし、１名は児と一緒にしっぽ取りに参加しながら全体を見守りしていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	一緒に活動していた２組担任２名のうち１名は、しっぽを取られた児の近くで全体を見守りし、他の1名は児と一緒にしっぽ取りに参加しながら全体を見守りしていた。	活動への参加方法（見守り方法、立ち位置等）	職員の配置場所を見直し、子どもの見守り方法、立ち位置等を確認し見直す。	
906	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	4	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	20					5	15			2	2	17．5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足小指の付け根内側部分	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	子どもの姿に関する共通理解が不十分だった。	トラブルになった際の行動が気になる子どもについて研修を行い、共通理解を図る。	1.定期的に実施	13	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	12	床面が滑りやすかった。	転倒事故を減らすために床面にマットを敷く。	1.集団活動中・見守りあり	食事、トイレ、遊びの部屋３つ、手洗い場など多くの場所で活動していた。	子どもの姿を見ながら、現在３部屋の遊びの部屋を減らす。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	トラブルとなった際、保育士と話をし、一度保育室を出て行ったが、しばらくして保育室に戻り、相手を蹴ろうとした。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	廊下と保育室にいる子どもを見ていた。対象児が保育室に戻り、トラブルの相手を蹴ろうとしたことに気付き足が当たらないように間に入ったが、転倒してしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	食事、午睡、トイレ、手洗い場、遊びの部屋など、それぞれの場所で子どもを見ていた。	複数の場所の見守りを行う必要があった。	遊びの部屋を減らすことで廊下の見守りを行う職員を配置する。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
907	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	5	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	16									2	2	18.6歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手人差し指第一関節骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	4	2.基準配置	跳び箱をする前の指導が不十分だった可能性が考えられる	運動遊具を使用する際の事前指導と個別指導を丁寧に行う	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎日		点検はこれまで通り行う。使用直前にも点検、確認を行う。	3.個人活動中・見守りあり	職員の人数と設定した運動遊具の種類、使用方法が適切だったか	跳び箱を正規の跳び方で使用するならば、単独設定をする	1.いつもどおりの様子であった	チャレンジ精神が旺盛で意欲的に取り組んでいた	1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	跳び箱は危険を伴う可能性がある遊具と認識し、そばで見守る	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の運動遊具で子どもの見守り、援助を行う	危険が伴う遊具と認識はしていたが、具体的な指導が不十分だった	運動遊具を使用する時の発達に応じたポイントを確認しなおす	
908	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	8	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	26									2	2	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈尺骨骨幹部骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	2.なし	3.未実施		1.基準以上配置		ヒヤリハット会議を3カ月に1回行っているが、今回の事故を受け、各クラス・園全体で話し合いを行った。	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	数	2.不定期に実施	数	保育室内での事故だったが、周囲に障害となる棚や物は置いていなかった。	物的環境ではなく、子どもたちの気持ちの高ぶりや関わりによるものと考えられる。	1.集団活動中・見守りあり	円になっててをつないだり、肩をくんだりしていたため、バランスを崩して転倒した。	周囲に危険な箇所はなく、密集していた状況に配慮すべきであった。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	ごっこ遊びの役割が初めてであったため、他児らと共に気持ちが高揚していた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児らのグループの動きを把握しながら、そばで別グループの対応をし始めて目を離した瞬間のことだった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	同じ保育室内で別グループの子とかかわっており、対象児の泣き声で気づく。		対象児他数名の状況について細かく確認しておくことはできた。	
909	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	8	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	17			2	5	4	6			2	2	15.3歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左ひじの骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2	2.基準配置		土曜保育の保育について再度注意すべき点を職員間で話し合い事故防止に努める。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		園内のチェックリストで、遊具、玩具の点検を行っていき事故防止に努める。	1.集団活動中・見守りあり		椅子の上に立っていた際はすぐに声を掛けたり、危険な行動が多い園児などには個別の対応を続けていく。	1.いつもどおりの様子であった	ホールに設置してある絵本コーナーの椅子に立っており、バランスを崩してマットの上に転倒する。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	本児が泣いたため駆け寄り、静かな場所へ移動した後、どこが痛いのかなどをゆっくり聞く。お茶を飲む際やハイタッチを促した際も右腕しか動かしていなかったため主幹保育教諭と看護師に状況を伝える。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	担当職員が本児の対応をしている際、他の園児や全体を見守っていた。		事前に整形外科の時間や休診の情報を調べ保護者の方に伝える事が出来た。その後保護者の方から●●整形外科が細かな骨まで見てくれる病院と聞く事が出来たので園全体で把握しておきたい。	
910	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	21									2	2	16.4歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手指基節骨剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	4	1.基準以上配置		事故後、職員会議を行い園全体で事故の内容を確認し再発防止を行う。また、事故が発生した場合は、保育者にすぐに伝えるように子ども達に伝えた。健康教育でもけがをした場合は同様の内容を伝えている。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		今回の事故は、現場を確認できなかったが起こりうるリスクを常に考えながら、環境を整えていくことを職員会議を行い園全体で事故の内容を確認し再発防止を行う。	1.集団活動中・見守りあり	机の高さと椅子の高さが事故の原因である可能性があった。	今回の事故は、現場を確認できなかったが、起こりうる状況を考え、机に椅子をしまう際に手指を挟まないような方法を、子ども達へ知らせていき、職員も全体で把握していくこととした。事故後、職員会議を行い園全体で事故の内容を確認し再発防止を行う。	1.いつもどおりの様子であった	事故当時、本児は痛みを訴えることなく、いつものとおり過ごしていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	事故当時、本児は痛みを訴えることなく、いつものとおり過ごしていたため、事故に気づくことがなかった。事故は、一瞬の出来事であると思われ、その一瞬を見逃していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	事故当時、本児は痛みを訴えることなく、いつものとおり過ごしていたため、事故に気づくことがなかった。事故は、一瞬の出来事であると思われ、その一瞬を見逃していた。		事故後、職員会議を行い園全体で事故の内容を確認し再発防止を行う。	
911	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	1	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	19									2	2	16.4歳	1.男児	特記事項なし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨外顆骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1～2	1.基準以上配置	次々登園してくる子への対応、業務内容が多く、自由遊びを見守るといっても一人ひとりには目が届いていなかった。	片時も目を離さないということは困難。業務内容（コロナ対応）の見直し。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特記事項なし	特記事項なし	1.集団活動中・見守りあり	出していた玩具の量が多かったように思う。座って遊んでいる子につまづいたようなので、本児が移動する際の通路が狭かったのかもしれない。	玩具の種類や量を考慮したり、子どもと玩具の動線を確かめる。担任が設定する時は配慮しているが、遅番補助等の担任以外が入る時も、同様の環境構成にしてもらうよう事前に伝えておく。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	人形や布団で遊んでいた。他児も座って人形遊び。何らかの理由で、本児は移動しようと、他児が遊んでいるところを通った。その際、他児につまづく。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	事務所に欠席児の確認をしに行ったり、給食摂取人数や本日の活動をボードに書き入れるために部屋から出ていたので、実際の状況はみていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	部屋にいて、他児の対応や遊びの見守りを行っていたが、本児のつまずきには気が付かなかった。	担任２名とも発生状況を目撃しておらず、本児や他児からの聞き取りで、座って遊んでいた女児につまづいて手をいて床についたことが分かった。普段から、本児は人の間を割って動くことがある。	例えば、本児が走り回っていたとしたら、注意を促したり止めるようにしたと思う。不慮に起こりうる転倒は、何人かの大人が見ていたとしても防げないこともあるので、対策が難しい。大勢いる個所には留意して目を向けたり必要に応じて環境設定を変える。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
912	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	7	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	15									2	1	17. 5歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	骨折・脱臼	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	2	1. 基準以上配置	園児にルールやマナーを繰り返し伝えきれていなかった	園児にルールやマナーを繰り返し何度も伝える	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	マット、運動器具に関しては不備はない	運動器具など使用する場合、不備はないか再度確認する。年齢的に無理な高さではなかったと思われる。	1. 集団活動中・見守りあり	園児が真面目に取り組んでいなかったことを注意したが聞き入れることが出来なかった	園児にルールやマナーを繰り返し何度も伝える	3. いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	他の友達とふざけていた	1. 対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	体操教室の先生が対象児を見ていた	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	保育教諭はふざけていた園児を何度も注意した		危険行為をしていたら何度も注意する	
913	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	4	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	11		2	3	1	2	3			4	4	16. 4歳	1. 男児	診断書（言語発達遅滞、自閉症スペクトラム障害疑い）	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右第一中足骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	12	1. 基準以上配置		引き続き１対１の配置をし、安全な環境を維持できる様にする。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	随時		少しの段差でもスロープを付け、転倒及び衝突リスクを下げる。	3. 個人活動中・見守りあり		大好きな保育士のもとに歩み寄る本児に対して引き続き受け入れ、信頼関係をより一層深めていく。	1. いつもどおりの様子であった	体の使い方も柔軟になり、思う通りに体を動かせることができるようになると、普段の園生活の中で高い場所に上ったり、衝動的に飛び跳ねたり走ったりする姿が顕著に見られていた。	1. 対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	本児にマンツーマンで関わっていた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	本児に目をかけながら４メートル先の手洗い場で手を洗っていた。		・個別保育を要する児であり、当日も目を離すことなく丁寧な保育をしていた。成長と共に衝動的な行動や突発的に跳んだりはねたりする姿が顕著に表れてきている。引き続き、安全を考慮しながら注意深く保育していきたい。・極端な偏食が見られ（白飯しか食べず）、栄養面の偏りもあり、骨が折れやすいように思われる。今まで以上に安全な環境を整えるとともに細心の注意も払っていきたい。またこれまでの信頼関係のもと、保護者にも食事面と行動面の姿を共有しながら、本児の成長を見守っていきたい。	
914	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	3	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	18									3	3	18. 6歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左第５指第三関節基節骨基部骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	12	1. 基準以上配置		・ボールは両手を使って胸で受ける様、事前に子どもと話をする。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	随時		・ボールの空気チェックをする。空気が入っていない不完全なボールは取り除いておく。	3. 個人活動中・見守りあり		・本児の行動が遊びの中で徐々にエスカレートしてしまう傾向が強いので、周りに危険なものがないか、また本児にとって刺激になるものは排除する。	3. いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	元々、多動及び衝動性の特性をもつ本児。当日は集団から離れて個別で関わってもらっていたため、特別感を感じていたのかいつにも増して活発だった。	1. 対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	本児にマンツーマンで関わり、キャッチボールの相手をしていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他職員はクラスの保育を主体として運営していたため、園内のホールで保育中。		本来、卒園式の練習をしている時間だったが、本児の気がかりさ（多動及び衝動性、注意欠陥）故、当日練習には取り組めず、個別保育をしている最中の事故であった。１対１でゆったりと本児と関わることができ、当日は本児の心を満たすことができたように思われる。今後も可能な限り強制ではなく、本児の意思に寄り添った保育を大切にしていく。	
915	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	5	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	5		3	2						1	1	14. 2歳	1. 男児	なし	1. 屋外活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	歯の破折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	1	1. 基準以上配置	他児への危険防止の対応をするため、転倒した子の傍から離れてしまった	滑り台は下から登らないようにする	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	48	2. 不定期に実施	12	滑り台の下から登ろうとしたが斜面で、すべりやすくバランスを崩してしまった	施設等に問題はないが、斜面を登るには転倒しやすいことや、上から降りてくる子との衝突を想定し、下からのぼらず、安全な遊び方をつたえながら誘導する	1. 集団活動中・見守りあり	1～5歳児という発達段階の違う年齢の子が近くで遊んでいた	遊具は以上児と未満児で時間を分けて使用したり、使用する遊具を限定するなど工夫をする。	1. いつもどおりの様子であった	機嫌よく園庭に出て、興味のある滑り台に行き、下から上ろうとした。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	始めはそばで見守っていたが、近くで危険な行動をしていた5歳児の対応をするのに、本児から離れてしまい、本児がバランスを崩したときに対応が間に合わなかった	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	広い園庭なので、他の保育士は各場所の遊具で遊ぶ子どもを見ていた。	1歳児が遊具を使用する際には目を離さないようにする。	全年齢が園庭に出ている場合は、活動場所を決めたり、年齢ごとに使う遊具を区切るなどの工夫をし、安全に見守られる職員配置が行えるようにする。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
916	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	2	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	24				4	10	10			3	3	16．4歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	下唇裂傷右前歯打撲	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	12	2. 基準配置		翌日職員会にて状況・原因を明確にし、延長保育時の見守りの意識について再確認すると共に、安全改善策として職員の立ち位置や動きについて見直し、当日より実施する。職員で話し合い、再度延長保育についての対策会議を行い、けがが起きた際の状況から改善できることはないか考えることとした。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	2. 不定期に実施	登園日毎日（小型）６回/年（大型）		定期的な点検を確実に行うと共に、遊びの様子から常に安全対策を行う。	1. 集団活動中・見守りあり	遊びの盛り上がりから、ウレタン積み木で作ったアスレチックに並ぶ子どもの列の後ろを回り込むルートを走る鬼ごっこに発展した。人との接触はなかったが、混みあったところを人や物を避けるように進んでいた。	遊びの盛り上がりで子どもたちなりに考えて、遊びの場はより遠く、広くへ発展していく。様々な方向に進むものと心得、見守りを欠かさない意識で必要があれば注意喚起の声をかける。平均台を置く場所についても、子どものあそびの様子を考慮しながら安全に使えるよう見守ると共に、周辺での遊び方を子どもたちとも再確認し、危険がないよう遊べる方法について一緒に学んでいけるようにする。	1. いつもどおりの様子であった	同じクラスの子どもたちと列になって鬼ごっこを楽しむ姿があった。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児が転ぶ姿は遠くから確認したので、距離があり、間に合わなかったがかけ寄った。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	３名で当番にあたっていたが、１名は対象児のグループが鬼ごっこをしている姿はとらえていたが、転倒した瞬間は、1名は他児のトラブルの仲裁に入り、もう1名は違う遊びの見守りを行い、視線は別方向だった。		担当職員が遊びこんでしまわないよう、見守りを最優先に行うことの意識確認を行う。また、見守りの目が欠ける時には、事務室などの他職員に応援要請をし、常に3人の見守り体制が欠けないようにする。担任でない職員が当番にあたる時の、配慮が必要な子どもへの対応について、トラブルが起きた際の対応がスムーズにいくように情報を共有する。	
917	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	6	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	38				12	10	16			3	3	17．5歳	2. 女児	・外履き靴を新調し靴が大きめだった。（事故後の母親との話から…靴購入時に、販売者に靴のマジックテープをしっかり留めて履くように言われていたとのこと）	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右上腕顆上骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	24	2. 基準配置	-	・職員全体でマニュアルの再確認を行った。・長時間にわたる保育の職員体制、職員の立ち位置の確認。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	毎日	・風が強く、砂埃が発生しやすい状況。園庭とテラスがフラットな構造でテラスに砂が流れやすい。	・砂が入りやすい環境なので、テラスをこまめに掃く。	3. 個人活動中・見守りあり	・走り込んでいて、身体のバランスを崩した。	・子どもの人数、状況に応じて保育にあたる職員の人数を増員する。	1. いつもどおりの様子であった	・長時間にわたる保育中にバナナ鬼遊びをしていた。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	・対象児から離れたところで見ていたため、転ぶ瞬間を防げなかった。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	・園庭全体を見まわしていたが、転ぶ瞬間に間に合わなかった。転ぶ瞬間は、他児の対応をしていた。	・対象児が、普段から親しんでいる遊びを行っていたので、安心していた。	・落ち着いて遊んでいても、突然の事態が起こることがある。危機管理意識を持ち、保育にあたる。	
918	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	8	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	5. 4歳児クラス	7									1	1	16．4歳	1. 男児	特になし	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	2. 顔面(口腔内含む)	鼻骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	2. なし	1. 定期的に実施	1	2. 基準配置	室内の安全面について再確認していく。押入れの縁前に段ボールの衝立ことがあることで安全であると認識していた。	転倒した際の動きを予測し、子どもの背の高さは安全ガードで覆うようにする。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	1回/日	1. 定期的に実施	1回/日	段ボールの衝立が置かれているため、押入れの縁にぶつかることは予想していなかったので安全ガードが付けてなかった。	押入れの縁に安全ガードを付けた。	1. 集団活動中・見守りあり	ジャンプしながら前に進んでいき距離感がわからず段ボールの衝立にぶつかり、そのまま前方に倒れる。その先に押入れの縁があることに気づかなかった。	降園時間前の自由遊びの時間は、室内で落ち着いて遊ぶように声掛けをする。子どもの様子に気を配り、動きが激しくなる前に声を掛ける。	1. いつもどおりの様子であった	運動会に向け縄跳びに取り組んでいるので、対象児は「縄跳びの練習をする」と言いながら友達とジャンプをしていた。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	保育士は室内全体の見えるところに立ち、他児の様子も見ていたため対象児の近くにはいなかった。対象児がジャンプしている様子は確認していたが、転倒する際に段ボールの衝立の先にある押し入れの縁に、鼻骨をぶつけることは予測できなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	担任は一人のため、保育室に他の職員はいない状況だった。	室内でブロック遊びをしている子どもの近くで、縄跳びの練習で友達とジャンプをしていた。	ジャンプをし始めた時点で落ち着いて遊ぶよう声をかける。また座ってできる遊びを提案する。	
919	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	7	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	5. 4歳児クラス	17									2	2	16．4歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	剥離骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	2	1. 基準以上配置	-	多岐にわたる研修の実施	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	-	特になし	3. 個人活動中・見守りあり	コップ袋の紐が二重紐であったため、フックにかけた状態での開閉が難しくなっていた。	コップ袋の紐を一重紐に切り替えると共に、コップ片付け時の注意喚起を行う。	1. いつもどおりの様子であった		3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	コップ袋に入れるのに手間取っている様子を確認していた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の対応等をしていた。	-	園児一人一人に対する一層の理解と観察を行う。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
920	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	8	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	約12				約10	1	1			2	2	17. 5歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右肘骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	職員会議や朝礼、職員回覧板	2. 基準配置	本児は日頃から活発で、よくケガをする。遊び方が激しいときがあるので気を付ける。	クラスにて、遊び方の確認をする。外あそびの職員配置を再確認する。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	2	1. 定期的に実施	12	業者の遊具点検異常なし。	子ども達の様子を見ながら、遊び方が安全か見ていく。	1. 集団活動中・見守りあり	本児は日頃から活発で、よくケガをする。(年少、年中骨折)今回で3回目。遊び方は担任が常に気にかけていた。	鬼ごっこの時は遊具に上がらないことは伝えていたが、職員に周知し徹底する。	1. いつもどおりの様子であった	鬼ごっこの時は遊具に上らないことは、クラスで約束していた。しかし追いかけられて捕まらないように慌てて上がって勢いがつき落ちた。(遊具の写真と本児を診た救命士より)	4. 対象児の動きを見ていなかった	一緒に鬼ごっこをしていた。鬼役となり他の園児と関わっていたため対象児を見ていなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	鬼ごっこ以外の外あそびを見ていたため。	朝の自由遊び時間特に8：00～9：00は保育士が揃っていない。保育室で朝の片付けをしている園児もいる。保育士間で連携をとり安全に気を付ける。	園児が外あそびに出たら必ず、保育士も外にでる。一緒に活動をしつつ子どもから目を話さないようにする。	
921	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	7	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	22									3	3	18. 6歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右第3趾末節骨骨折	8. その他	1. あり	2. 不定期に実施	職員会議や朝礼にて周知	2. 基準配置	午睡後で保育士3人は片付け、おやつの準備、加配児に付くなどの行動をしていた。	保育士の連携は日頃からできているが、再確認する。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	2	1. 定期的に実施	12	水筒の置き場所は問題ないと思う。	水筒の置き場所は問題ないので改善策はなし。	1. 集団活動中・見守りあり	年長児なので、生活面は自立している。お茶を飲むことに見守りはいらない。	上記のことから、改善策はなし。	1. いつもどおりの様子であった	午睡後で上靴を履いていなかったことが、骨折という事態になったのではないか。	4. 対象児の動きを見ていなかった	担任は午睡後の片付け、おやつの準備をしていた。加配担当保育士は、加配児についていた。5歳児なので、お茶は自分で飲むため、その場所にはいなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	上記と同じ。	午睡中は裸足になる。起きて上靴を履く前に、水筒を取りに行った。	午睡後も上靴を履くように声掛けをする。	
922	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	7	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4. 3歳児クラス	21									2	2	15. 3歳	1. 男児	骨折の為歩行禁止。	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右足脛螺旋骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	1	2. 基準配置		職員会や園内研修で戸外遊び、遊具の使い方等安全面の配慮、発達・発育と事故の関係、事故の生じやすい場所等を共有する。	1. 定期的に実施	25	1. 定期的に実施	25	2. 不定期に実施	園児の使用後確認		遊具の点検は定期的に実施している。異常の場合は早急に対応している。	1. 集団活動中・見守りあり	他に5歳児1クラス、4歳児2クラスも一緒に遊んでいた。遊びたい遊具で遊んでいた。	ヒヤリハット事例や事故が発生した時は、予防策について、園児に指導する。	3. いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	運動あそびをあまり好まないが、雲梯に興味を示し何度か挑戦していた。当日、4・5歳児の園児が雲梯をやっているのを見て興味持ち、雲梯をやろうとした。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	●●●組担任A…園児が鉄棒でも遊んでいたため、鉄棒と雲梯(小)が見れるところで見ていた。●●●組担任B…砂場・ジャングルジムの方を見ていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	●●●●組担任…雲梯(大)の近く ●●組担任…西の遊具 ●●組担任…●●遊具	雲梯に慣れていなかった。	雲梯に慣れていない場合、雲梯の近くで見守る。	
923	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	9	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	59		8	5	15	12	19			15	15	17. 5歳	1. 男児		8. その他	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右上腕骨外顆骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	1	1. 基準以上配置	降園後の園庭開放時で保護者の見守り下であった。常時は園長が園庭で見守りを行っているが、園長・副園長が不在であった。	保護者への園だよりで見守りの強化の周知。園庭開放時に職員が立ち会う。	1. 定期的に実施	週1	1. 定期的に実施	2	2. 不定期に実施		落下個所を確認。マットの状態も確認。	マットの劣化など点検したが異常なし。十分な厚さあり。	7. その他	短時間の降園で保護者の出入りや延長への移動など、人の動きが多い時間	園庭開放時の遊び方を子どもたちに指導。	3. いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	運動会に向け、雲梯ができるようになり、挑戦してみようとする意欲が高まっていた	4. 対象児の動きを見ていなかった	降園後のため、子どもたちが順次降園するため、保護者の引き渡しの対応をしていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	クラス担任は降園児の保護者のへの引き渡し対応や延長児を各へクラス移動など、それぞれ自分の役割を行っていた。	短時間保育児の降園と延長保育への移動など、それぞれが動いて、園中庭開放の子ども達に目をことができなかった。	園庭開放時に園長副園長のどちらかが園庭に立ち必ず見守りをする。	
924	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	6	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	1									2	2	17. 5歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		6. その他	5. 下肢(足・足指)	右第5趾挫創　右第5趾爪剥離症	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	2	1. 基準以上配置	-	ヒヤリハットマップの見直しを定期的に行う	1. 定期的に実施	24	1. 定期的に実施	2	1. 定期的に実施	12	砂場から、水道までは少し離れている	砂場で泥遊びをする際は、近くに水をいれたタライ等を置く。	1. 集団活動中・見守りあり	裸足で遊ぶ際の注意点を事前に子どもたちに伝える。	砂場で泥遊びをする際は、近くに水を汲んだタライ等を置く。水道に汲みに行く際は(裸足の時は特に)、走らないように促す。	3. いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	水遊びが好きな事もあり、気持ちが少し高ぶっていた。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	少し離れた場所から園庭で遊んでいる様子を見て、本児が水道に向かっている所は見たが他児が保育室で着替えていたので、目線を他児に向けていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	砂場で他児と関わっていたので、本児の動きを見ていなかった。	園庭で遊んでいる子と、保育室で着替えをする子がいたので、1名はどちらも見える場所で子どもたちの動きを見ていた。	保育士同士の連携を密にする。子どもたちの動きによっては、落ち着いてから活動できるように話したり、静の時間を設ける。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
925	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	11	0	1	2	2	2	4			4	3	15.3歳	1.男児	発達面の遅れはないが、日によって注意獲得行動、友達とのトラブルがみられることがある。	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	6	1.基準以上配置	本児の特質（そそっかしい）は職員で共有していたが、発達上配慮が必要というところまでの認識は微妙な状態。	本児の特質（そそっかしい）に配慮し、情報共有を行う。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	本児が欲しい玩具があり、気持ちに焦りがあったかもしれない。	簡易的なパーテーションを置いて動きを抑制する。	3.個人活動中・見守りあり	本児の遊びが充実していた分、嬉しく気持ちが高揚し、動きが機敏となった。	簡易的なパーテーションを置いて動きを抑制すると共に、「ゆっくりでいいよ」等、個別に言葉かけをしていく。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	咳はでていたものの、元気は良かった。遊びが充実し、意欲的に活動していた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	本児の近くでブロック遊びを見守っていた。移動先も視野に入っていたが、瞬時に転倒したため間に合わなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	一人はすぐ隣のコーナーで他児とおままごとをして関わっていた。視野には入っていたが瞬時の本児の行動には対応できなかった。もう一人は別部屋で４．５歳児を保育していた。	職員数は足りていたが、欠勤の職員もあり、いつもよりは職員数は少なかった。	欠勤の職員がいた時には、いつも以上に職員の連携を図るようにする。	
926	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス												15.3歳	1.男児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		6.その他	1.頭部	頭蓋骨陥没	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	降園時で担任と挨拶を交わした後、母親が他の保護者と会話をしていて子どもから目を離していたため事故が起こったと考えられる。	保護者には登降園時は子どもから目を離さないよう声をかけたり手紙で周知する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	1回/日	銅像の高さが子どもにも上りやすい高さになっている。	設備の破損など丁寧に点検し、職員間で園にある設備の点検管理等について協議する。登らないように張り紙で注意を促す。	7.その他	母親が他の保護者と会話をしていたため、子どもから目を離してしまった。	保護者へ子どもから目を離さないように促す。	1.いつもどおりの様子であった	母親から離れて一人で銅像に登っていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	保護者引き渡し後だったので、室内にて降園を待つ園児のそばにいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保護者引き渡し後だったので、室内にて降園を待つ園児のそばにいた。		降園後であっても園内において危険な遊び方をしていないか目を配り、必要に応じて保護者に声かけをしていく	
927	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	6.5歳以上児クラス	16									2	2	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左小指の骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	2	1.基準以上配置	特に無し	スポーツ教室参加後は、何事も無かったように思える場合も怪我や体調の確認をする。	3.未実施		3.未実施		3.未実施		特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	慣れない場所、初めて会うコーチや他園の園児もいる中での活動であり、事故が起こりやすい状況だった。	落ち着かない園児には適宜声をかけ、注意を促す。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	サッカー教室をとても楽しみにしており、当日もはしゃいでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	コーチが指導をしてくれていたので、少し離れた場所から全体を見ていた。大勢の園児が盛んに動き回っており、本児から事故直後の訴え等も無かったため、どの時点で怪我をしたのか確認できなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	大勢の園児が動き回っていたため本児の動きは確認できなかった。、	特になし	保育士それぞれの見守り範囲を明確にする。	
928	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	21				7	10	4			4	4	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘関節部分骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	–	今回の事故を職員全員に周知し様々な危険について予測、話し合い事故予防マニュアルの作成を行う。	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	1	2.不定期に実施	1	鉄棒の高さが飛び越えてみたいと思えるような高さであった。	鉄棒の使用方法（正しい使い方）を園児に徹底する。	1.集団活動中・見守りあり	鉄棒を飛び超えて遊ぶという考えは予測がつかなかった。	園庭遊びの際には、遊具の使い方を伝え、約束ごとの再確認を行う。	1.いつもどおりの様子であった	友達数人と鉄棒付近で遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	体調を崩した他児に声を掛け、様子を見ていたため本児のいる場所への配慮が欠けてしまった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他児とかかわりながら見ていたので本児の細かい動きまで目が行き届かなかった。	迎えにきた保護者に対応する職員や他児を見ている職員同士の声掛けが足りなかった。	個別対応が必要な時や保護者対応などで場所を離れるときには必ず他の職員に声掛けをする。	
929	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	7	7.午後	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	12									19	15	15.3歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	年齢による発達や運動能力の理解を活動内容に活かせたか。	年齢による発達の理解や、個々の運動能力について更に職員間で共有する。	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	48～	ホールの床の状態(温湿度による状態)が運動遊びに適切だったか。(ワックスが効きすぎていないか等)	季節や気候によるホールの床の状態を確認し運動遊びが行える状態か確認をすることを職員間で共有・周知する。	1.集団活動中・見守りあり	上履きを履き、ホールでの運動遊びのため、運動靴での運動遊びとは違う身体の動かし方だった。	年齢や個人差による運動能力の把握、対応に努める	1.いつもどおりの様子であった	普段から活発であるが、気持ちがたかぶっている様子はなく担任の話を聞き運動遊びを楽しんでいた。	1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた)	運動遊びの安全性を考慮し、2人ずつ距離をとって走り出すことができるよう合図を行う。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	ホールを使用する人数を調整するため、クラス毎、時間を決めて使用していたため他の職員はクラス保育をしていた。	園児数は少なかったが、運動遊びは活発に動くことから怪我が伴うと予測が重要。	園児数に関係なく、職員配置を2人以上にする。	

No	初回掲載年月日	概要：認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期：月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制：発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳：0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故：年齢	性別	特記事項	事故状況：発生時状状	事故の転帰	死亡：死因	負傷：負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析：ソフト面：マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面：施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面：教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面：対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
930	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	5									35	31	15. 3歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	3	1.基準以上配置	かえるの表現遊び中にふざけており、正しいやり方でジャンプしなかった為、着地に失敗をした。	ふざけず落ち着いて活動できるよう注意をする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	51	1.定期的に実施	51	クラスは広く開けていて、転んでぶつかったりするようなものの近くでは行っておりませんでした。	特になしです。	1.集団活動中・見守りあり	クラスは広く開けていて、躓いたりするものも落ちていませんでした。	特になしです。	1.いつもどおりの様子であった	たまにふざける傾向はあり、今回も同様にそういう傾向がみられました。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	担任として全体を見渡せる位置に居ました。ジャンプ着地直後は、ふざけているようには見えましたが、痛みを訴えたことで異変に気付きました。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	リトミック講師はピアノを弾きながらの為、今回の園児を特に注視してはいませんでした。	正しいジャンプの仕方をしてなかった。	ジャンプをする前に、正しいやり方を見せる。	
931	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	11	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	27									1	1	18. 6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	前歯の位置の移動	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	なし	職員会議などの際に、ガイドラインの読みあい、それぞれの事故やケガについて具体的な改善策・対応を話し合っていく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12	なし	室内の環境の整備が適切か、新しい活動の都度、確認していく。	1.集団活動中・見守りあり	午後の時間帯の、室内遊びの展開が足りなかった・指導不足であった。	落ち着いて遊べるような環境設定。室内での遊び方について指導していく。	1.いつもどおりの様子であった		3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	事故がおきた際にはすぐにかけより対応した。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他児と関わりながら、全体を見ていた。	担任が不在であったこともあり、園児の事故につながりそうな行動の予測が不十分であった。	園児の性格や特性や、クラス全体を把握している職員が配置できない場合は、時間に余裕をもって引継ぎをし、十分に情報を伝える。	
932	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	21									4	3	15. 3歳	2.女児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯の動揺	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2	2.基準配置	その日の計画内容は、当日の朝に講師からもらっている。実施内容が多く、クラスの子ども達の現状と見合っていない部分があったが、十分に確認と調整ができなかった。子ども達が落ち着いて取り組めない要因となったとも考えられる。	その日に行う内容を外部講師と確認し、その時にどのような点に注意するか、その時に予測される子どもの動きまで共有し、声をかけあいながら事故防止に努める。事前に活動内容を確認できるようであれば、クラスの現状と見合う内容への変更を提案したり、クラスでもどのような点に注意をし見守り・補助などをするか話合い、共有する。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	2.不定期に実施	240	運動用のマットを使用。マットに特に問題はない。	マットや床に問題はないため、特になし。	1.集団活動中・見守りあり	今回が2回目の体操教室であり、子ども達も意欲や期待感があり、気持ちが高ぶっていた。マットを早くやりたいという気持ちから、待ちきれず押し合うような状況となった。	時間を短くし、2グループに分かれて少人数で行うことで、落ち着いて取り組めるようにする。待っている時は、座るなど、他のケガにつながらないような工夫をする。	1.いつもどおりの様子であった	マット運動のため順番を待っていたので、問題はなかった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	本児の近くにはいたが、マンツーマンでの対応で対応していたのではなく、覆いかぶさった児の動きを止めることが出来なかった。活動（マット運動）をする本児とその後ろで待っている子どもたちの双方の対応が困難だった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	自分の担当しているグループのマットについていたため、他の職員は対象児を見ていない。	子どもも、講師・保育士も体操教室が2回目という点において、不慣れな面や子どもの動きの予測が不十分な部分があった。全体を把握し、手の足りていないところを補助できる立場の職員（フリー）がいてもよかった。	人数を少なくすることで、ひとりひとりに目を向け、対応できるようにする。それでも対応が難しい場合には、フリーの職員の配置、内容の変更などを考慮する。	
933	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	4									4	4	15. 3歳	1.男児	なし	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左第一中足骨骨折、左第二中足骨骨折、左第三中足骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置		事故予防マニュアル、事故予防に関する研修の実施及び職員配置については問題なし。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	4	1.定期的に実施	12		登り棒下部への安全マットの設置依頼を検討する。	7.その他		保護者が保育室に迎えにきてから、園児の引き渡しを行う。また、保護者への伝達事項がある場合は、園児引き渡しの前に行う。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	元々かなり活発な園児であったが、その日は雨で戸外に出れず、走り回りたい気持ちが強かったことが予測される。降園時に、遊ぶ習慣があった。また、3歳児はやってはいけない登り棒を降りた経験があり、興味をもっていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	短時間で済む話であったこともあり、話をする際に目を離してしまったこと。走り回るなどの行動をする本児を、口頭注意だけでなく、すぐに止めにいかなかったこと。担任がすでに母親に引き渡された状態であると解釈をしていたこと	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	遅番職員は、担任、母親が現場にいることで、自身の責務はないと考え、他児の保育に戻った。	園児が園庭に一人で出ることはないという思い込みから、目を離したこと。	保護者に引き渡し後に話す場合は、危険が予想される場合、他の保育教諭に園児の保育を依頼する。また、担任や保護者が話しながら、園児を抱くなどの対応をとる。常に子どもから目を離さない意識を改めてもつこととする。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制												事故			事故状況						事故発生の要因分析																										掲載更新年月日
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事者		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳									うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他								死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】							理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
934	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	22									3	3	15.3歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	単純骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施		2.基準配置	遊び方：該当遊具の遊び方の確認。事前に降り方の助言があると良かった。	安全な遊び方の指導を行う。	2.不定期に実施	実施頻度 1 回/年	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3回以上		遊具構造上の問題ではないが、劣化している部分もある為、修理を行う。	3.個人活動中・見守りあり		保育教諭同士が連携し、子どもの遊び全体が見られるような配置を考えていく。	1.いつもどおりの様子であった	普段と変わらない様子	4.対象児の動きを見ていなかった	直前まで一緒にブランコで遊んでいた。一緒に砂場に移動したが、当該園児が一人で汽車の遊具に戻り遊んでいた際の事故。落下の瞬間を保育士は見ておらず、泣き声を聞いて対応にあたる。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	事故があった遊具が視野に入る所で他児と遊んでいたが、注視していた訳ではない為、事故の瞬間は見ていない。事故後、園児をなだめたり外傷がないか目視の実施。		子どもの遊ぶ能力を把握し、援助・見守り等、適切な対応が出来るようにする事。	
935	令和6年6月10日	1.認可	3.保育所型認定こども園	8	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	20	1	6	6	3	4	0	0		14	14	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2	1.基準以上配置	担任不在の為、職員配置の見直し。	安全面の改善を話し合う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	12	バランスストーンを部屋の隅に置いた。	バランスストーンの置き方の見直し。	1.集団活動中・見守りあり	担任不在で普段の本児の様子が把握できていなかった。	会議等で伝達をしっかりしていく。	1.いつもどおりの様子であった	外で遊べなかったため室内で体を動かして発散して遊んで楽しそうだった。	4.対象児の動きを見ていなかった	職員で全体を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	職員全体で見守っていた。	本児ははしゃぎやすい性格である。	動きをセーブする。	
936	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	8									2	2	18.6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置		運動会の競技の跳び箱の活動中で教師が補助について行っていた（目前で見ていた）が、事故が起きてしまった。助走段階から跳び箱に手をつき着地までをイメージさせて活動するよう細心の注意を払い指導補助していきたい。	1.定期的に実施	50	1.定期的に実施	200	2.不定期に実施	50		日々の点検はしているが、直接園児が触れるものだったり、行事の時だけ使うものに関しては経年劣化していないか丁寧に確認し手から使うようにする。	1.集団活動中・見守りあり	運動ができる子で普段から跳べていたので補助にはついていたが手は出さなかった。	普段からできているから大丈夫という概念を持たず声掛けや見守りを強化するようにする。	2.いつもより元気がなかった(理由を記載)	リレーの練習を頑なにやりたがらなかった。見学したいと言っていた。体調が悪いわけではないと思ったがいつもより元気はなかったように思う。	1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	普段から跳べている段数だったので見守りはしていたが手を出しての補助はしなかった。跳んだあと教師がいる側と反対の方に転んだので咄嗟のことで手を差し伸べれなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	もう一つの跳び箱で他児の補助をしていたため見ていなかった。		いつも跳べているからと安心せず常に危機管理をもって対応していく。	
937	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	62									6	6	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	3	1.基準以上配置	特になし	くもの巣遊具で遊ぶ際には必ず近くで保育者が見守ることを再確認する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	2	2.不定期に実施	3	特になし	改善策なし。現在実施している点検を引き続き行う。	3.個人活動中・見守りあり	子どもとくもの巣遊具での遊び方の確認が不十分であった。	くもの巣遊具は必ず保育者が近くにいる時に遊ぶことを子どもと再確認する。	1.いつもどおりの様子であった	動きや体調等は普段通りで、友達と一緒に遊具で遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	コーナーに付き、見守っていたため、事故発生時の本児の様子を見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	隣の複合遊具の見守りを行っていたため、事故発生時の本児の様子を見ていなかった。	遊具の見守りの職員配置が不十分であった。	遊具の見守りの職員配置を再確認し、声を掛け合っていく。	
938	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	7.午後	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	26									3	3	16.4歳	1.男児	なし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	2.顔面(口腔内含む)	上前歯歯根軟骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2	1.基準以上配置		適切な声掛けによる安全距離の確保、水分補給時のルールの明確化	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12		なし。（ハード面で事故に関係するものが水筒であり対応なし。）	1.集団活動中・見守りあり		教育活動の間の休憩においても安全確保のための配慮を強化する。	1.いつもどおりの様子であった		4.対象児の動きを見ていなかった	最も近くにいた職員は２ｍほどの距離であったが視界に入っていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	同室にいた他の職員２名も視界に入っていなかった。		役割分担のなかで全体を見る職員がいるように努める。	
939	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	6	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	31					17	14			2	2	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	（左手小指側ひじから下辺り）骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2	2.基準配置		職員の配置も全体の見える位置にいた為、改善策なし。	1.定期的に実施	293	1.定期的に実施	293	1.定期的に実施	293		園庭の広い場所で転んだ為、危険な場所ではなかったので改善策なし。	3.個人活動中・見守りあり	鬼ごっこをしていてぶつかり、よけきれなかった。	周りをよく見ることを、その都度伝えていく。	1.いつもどおりの様子であった	鬼ごっこをしていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	全体を見える位置に立ち、目をくばっていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	本児の転んだ場所が見えない位置ではなかったが、他児のトラブルに対応していた為、見ていなかった。		どういう状況かまで細かな所まで目を配る。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
940	令和6年6月10日	1.認可	3.保育所型認定こども園	5	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	14									3	3	14.２歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	5.下肢(足・足指)	挫創　約１０ｃｍ	4.玩具・遊具等施設・設備の安全上の不備によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	－	色々な状況を想定したマニュアル作成と対策会議を行う。またヒヤリ・ハットの活用をする。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	水槽が固定されてなかった	水槽はプラスチック製のものを使い必ず固定する（カメの水槽は前の建物に移動）	1.集団活動中・見守りあり	－	職員は複数人で保育するようにする	1.いつもどおりの様子であった	２階ホールにて他児４名と水槽のカメを見ていた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	５名のなかの１名が排便をし、その交換をしていた。片付けの時後ろで本児がカメの水槽に手をかけているのに気付かず水槽が足に落ちる	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の部屋で２才児９名を２人で保育していた。	－	必ず複数の保育教諭で保育するようにする	
941	令和6年6月10日	2.認可外	16.企業主導型保育事業	7	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	19	4	4	2	4	2	3	0		4	2	15.３歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右尺骨近位端骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	特になし	ソフト面に関して問題なし	1.定期的に実施	240	3.未実施		1.定期的に実施	240	特になし	ハード面に関しても問題なし	2.集団活動中・子ども達のみ	列に並んでいる子ども同士の距離が近かった。	遊び方、環境構成について、見直しを行う。	1.いつもどおりの様子であった	特になし	2.対象児の至近で対象児を見ていた	立っていた位置と反対方向に倒れてしまったので、手を出すことができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	別室で０−2歳児を保育していた。	特になし	人的面に関して問題なし	
942	令和6年6月10日	1.認可	3.保育所型認定こども園	7	7.午後	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	16									3	3	14.２歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右第1趾末節骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	担任と長時間保育士の入れ替えの時間で、手薄になってしまったところがあった。	保育士の入れ替えの時間だったため、手薄になってしまった。一人一人の子ども達を見落としてしまった所もあった。1人はオムツ交換の為にトイレ、一人は絵本を読み聞かせる、一人は全体を見る等保育士3人の役割を決め声をかけあうようにする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	220	トイレから出て、テラスに走り転倒した。いつもは、机や椅子などが出してあり、玩具の入っている棚が置かれている。今回は片付けてあり直進できる状況になっていた。	保育室で走ることがないように、机を出したり、衝立を出しコーナーの設定をする。	1.集団活動中・見守りあり	絵本を読んでいる場所がトイレより遠くであったこともあり、保育室を走り出す原因となり転倒につながった。	絵本を読んでいる場所を考え、走り出さずすぐに絵本を見ることができるように、トイレの近くに読み聞かせのコーナーを設定するべきであった。	1.いつもどおりの様子であった	他児が絵本を読んでいることに興味を示したのか、その方向に走っていった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	全体を見守れるような位置にいたが、本児の動きを止めることができなった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	トイレでのオムツ交換をおこなっていたことで、死角になっていた。他児に絵本聞の読み聞かせをしていたので、止めることはできなかった。	担当職員が全体を見ていても、長時間移行の時間帯だったため、長時間保育士も「自分が見る」という気持ちは薄かった。	移行の時間は特に注意する必要があるため、保育士の立ち位置や役割を自覚するために声をかけあう必要がある。	
943	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	7	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	23									5	5	15.３歳	2.女児	なし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕部下部顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	2	2.基準配置	経験が少なく、とっさの時の対応が遅れてしまった。	園内でのヒヤリハット等の話し合いの場を増やし、様々な事例を知っていくことで、とっさの時の対応ができるようにしていく。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	遊具の足をかける高さの幅が、対象児には広かったのではないか。	普段使用しない遊具を使う場合、遊具の配置や環境を見直していく。	1.集団活動中・見守りあり	遊具の遊び方についての説明が不十分だった。遊びに慣れてきていたため、順番を守れない子もいた。	遊具の遊び方についての説明が不十分だった。遊びに慣れてきていたため、順番を守れない子もいた。	1.いつもどおりの様子であった	遊具から降りようとしたところ、足を踏み外してしまった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	他の子どもが降りようとしていたため、その補助をしていた。同時に対象児も降りようとしているのを確認し、視界の中に入れていたが踏み外した時支えようとしたが間に合わなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の遊具についていたため、すぐ手の届くところにはいなかった。	マットのないところへ落下したので、マットの配置が不十分だった。同じ空間での遊びが続いてしまい、遊びに慣れてしまっていた。	状態からの予想だけでなく、全身の状況や本人の訴えなどを丁寧に聴き取り病院の選択も気をつける。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項
944	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	2		1			1				2	2	16．4歳	1.男児	
945	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	7	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	12									2	2	14．2歳	1.男児	祖母、母が熱性けいれんを起こしたことがある。令和●年●月●日　新型コロナウイルスにかかり発熱し、けいれんを起こした。（38.0℃）令和●年●月●日　夜、自宅で40℃近い発熱があり、けいれんを起こした。令和●年●月●日　夜、自宅で発熱（39.7℃）、3分ほどけいれんを起こした。
946	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	7	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	20					11	9			1	1	17．5歳	1.男児	
947	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	47									3	3	18．6歳	2.女児	特になし

No	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策
944	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	4.玩具・遊具等施設・設備の安全上の不備によるもの	2.なし	3.未実施		2.基準配置	枠の上は歩かないとしていたにも関わらず歩いてしまったこと。保育士も同じように歩いたことで本児から目を離してしまったこと。	玩具の安全な使い方を職員に周知する。土曜保育だからと言って遊び方を変えない、また、遊び方によっては人数が少ないからといって目を離すことの無いようにする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	12	特になし	特になし
945	2.室内活動中	1.負傷		1.意識不明	1.頭部	熱性けいれん	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	特になし	保育士・看護師5名を0，1歳児に配置し、水遊びで配置が変更される場合にも基準を満たすようにしている。	1.定期的に実施	12	3.未実施		1.定期的に実施	48	園庭にテントを出しているが、日陰の広さが不十分だったため、日差しを浴びて体が熱くなってしまった可能性がある。	園庭にテントを増やし、タープを使って日陰になる範囲を広げる。
946	2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕関節内出血	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	特になし	配置基準を満たせるよう、配慮している。	1.定期的に実施	12	3.未実施		1.定期的に実施	48	特になし	机の配置など、保育室内の環境構成については基本的に変更なく、いつでも同じ環境の中で遊べるようにしている。遊びの内容に応じてコーナー分けをしている。
947	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足首剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施		2.基準配置	特になし	ずべてが見渡せる場所に保育者が配置できるようにする。	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	48	特になし	ウレタンマットの下に滑り止めを敷いた。

No	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
944	3.個人活動中・見守りあり	本児とその妹のみの保育の為、本児のやりたい遊びをするようにしたが、やりたいことをなんでもしても良い環境にしてしまったこと。	通常とは違う遊び方や玩具を使用する場合は、必ず保育士同士で安全面を確認しあうようにする。	1.いつもどおりの様子であった	本児は遊びが楽しくなると約束事を忘れ遊びに集中することがある。保育士もまた、楽しくする為に気持ちが昂り遊んでしまった。	1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた)	通常は、枠の上は歩かないようにしていたが、本児が遊びたいことをさせてあげたいという思いがあり、本児の考えに沿って遊びを進めていた。加えて、はじめは本児一人で遊んでいたが「先生も一緒にしよう」という本児の誘いに一緒に遊んであげようとの思いから保育士も歩いてしまった。その際、「じゃあ、一人が渡ったら次の人」と約束はしたものの、保育士が渡り始めた際に本児の位置や行動までしっかりと把握していなかった為、すぐ後ろをついてきていることに気が付かなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	土曜保育の為、他の職員は夕刻の掃除に取り掛かっていた。	枠の上は歩かないようにしていたにも関わらず本児の意向を汲み遊びを進めてしまいその際、枠の強度・安定性など危険なく安全に遊べるかどうかといった見通しがしっかりできていなかった。	子どもの気持ちは汲みつつも、その遊び方が正しいかどうかの判断および確認はしっかりと行い、安全に遊べないと判断した場合は園児がしたいことでも行わず違う遊びを提供するようにする。	
945	1.集団活動中・見守りあり	水遊びを楽しんだ子どもたちが室内へ戻る際にエアコンの電源を切っているが、風邪気味のため室内で過ごしている子もおり、室内外での気温差があった。	・園庭に出る時間は、1人目の園児が出てから最後の園児が室内へ入るまでを30分以内にして、遊び中にはシャワーやジョウロなどで体にも水を浴びるようにしている。・水遊び前後に水分補給をしている。・室内外の気温差が大きくなりすぎないよう室温を調節する。また、クラス全体の園児の体調に配慮し、風邪症状が見られる子が増えてきている場合には、室内にてゆったりと過ごせるようにして保育する。	1.いつもどおりの様子であった	登園時、保護者と別れる際に、珍しく寂しそうにしていた。保護者の姿が見えなくなると、普段通り元気に過ごしていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	着替えを終えていた本児の水分補給に付き添った後、他児を含めて室内遊びを見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の室内遊びを見守っていた。	特になし	担当保育士2名で立ち位置に配慮しながら、室内遊びを見守るようにしている。	
946	1.集団活動中・見守りあり	遊び途中でトイレに向かう際、他児におもちゃを取られないよう、急いで戻ってくる姿も見られる	給食後、子どもたちのペースに合わせてゆったり遊び過ごしている。トイレに行くタイミングも個々に応じて向かうようにし、混雑によるトラブルを防ぐようにしている。園児が離席する際には保育士が玩具を預かり、急がず戻って来れるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	保育士のそばにいることが多く、遊びに集中することが少ない。	4.対象児の動きを見ていなかった	トイレの出入り口付近、室内全体を見渡せるよう立ち位置を意識していた。本児が室内に戻ったことを確認した後、他児との関わりのため、ぶつかった場面は見ていない。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当職員のみであった。	特になし	室内では歩いて移動することを、日頃から習慣づけていくよう、声掛けをする。遊びコーナーでのトラブル対応が多いが、立ち歩いている子への意識を高める。	
947	1.集団活動中・見守りあり	特になし	遊具での使い方、あそび方を改めて考察し、禁止事項について子どもたちに伝えて、徹底を図る。遊具で遊ぶ際は見守りと声かけを徹底していく。	1.いつもどおりの様子であった	走ったり、跳んだり体を動かすことを積極的にしている。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	子どもたちのあそびに関わりながらも全体をみまもっていたが、事故発生時は対象時の近くにいなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	全体を見守りながら子ども達と関わる。	特になし	様々な場所を意識しながら全体を見守れるようにする。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
948	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	7	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	17									2	2	17. 5歳	2. 女児	特になし	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右大腿骨骨幹部骨折	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	3. 未実施		2. 基準配置	この日は防災訓練があり、その後にシャワーを浴びた。他の学年との兼ね合いで、予定とは違う順番となり少し子どもを急がせたところがあった。	行動するのに時間的余裕を持つようにする。子どもには廊下や保育室は必ず歩くよう伝え、徹底する。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	4	1. 定期的に実施	随時	特になし	通り道には物を置かないようにし、広くしておく。	2. 集団活動中・子ども達のみ	シャワー設置場所と着替えの場所には保育士がついていたが、間の通り道にはついていなかった。	シャワーを浴びに行く動線を広く開けるようにする。	3. いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	その日は暑かったので、シャワーを浴びることができるということで、気持ちが高まり走ってしまった。	4. 対象児の動きを見ていなかった	シャワーの設置場所にいたため、対象児の動きを確認できていなかった。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他のクラスの保育士が見える位置にいたが、逆走してくる子がいること、ぶつかることを予測していなかったこともあり対応ができなかった。	着替え等に手がかかり、子どもが歩いて通るところには気が向いていなかった。	着替えの位置からは見えるので、歩いていけるように声をかけていく。	
949	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	4	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	2. 1歳児クラス	16									3	3	14. 2歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左肘粉砕骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施		2. 基準配置	死角になるところの為、より注意して見守る	見守りを徹底していく	1. 定期的に実施	2	1. 定期的に実施	2	1. 定期的に実施	12	特になし	業者に点検を依頼している。マットのない所ではぶら下がらないようにしていく	1. 集団活動中・見守りあり	保育者の見守りの立ち位置	死角がある為、見守る位置を再度確認する	1. いつもどおりの様子であった	普段は物静かなお子さんであるが、よく遊ぶ友達が先に柵にぶら下がっていて、つられるようにぶら下がったのではないかと思われる	4. 対象児の動きを見ていなかった	対象児が転倒した瞬間に気付いた	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	対象児が転倒し他の保育者や他児が集まっていたので気づいた	1歳児がぶら下がるには高さがあったため遊ぶのを止めるべきであった。	床にマットが敷いてあるところがあるためそちら誘導していく。	
950	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	6	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	84				25	29	30			6	6	16. 4歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右上腕の下側の骨折(正式名聞いていません)	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施		1. 基準以上配置	職員への見守りの徹底、子ども達への注意喚起も行う	見守りを徹底していく	1. 定期的に実施	2	1. 定期的に実施	2	1. 定期的に実施	12	特になし	業者に点検を依頼している。前を向いて走るよう声を掛けていく。	1. 集団活動中・見守りあり	職員の配置は適正であったが、子ども達の見守り方を見直す	今回の事故を職員間で周知し、見守りを見直す	1. いつもどおりの様子であった	普段から園庭を走り回ったり、山から駆け下りてきたり活発な子である。	4. 対象児の動きを見ていなかった	対象児が転倒した瞬間に気付いた	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	対象児が転倒し他の保育者や他児が集まっていたので気づいた	対象児が走りながら振り向き際だったため、防ぐことは難しいと思われる(ビデオで確認)	保育者の配置を今一度確認をしていく	
951	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	8	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	5. 4歳児クラス	27									4	4	16. 4歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左第5趾中足骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	1	2. 基準配置	・常に体を良く動かして遊ぶ児童で、転んだ時も自分でしっかり手をついていたが、足をひねって転んだことが要因と思われる。	・遊戯室での活動で起こりうることを予測し、子どもたちと一緒に、考える機会を持つ。	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	2	1. 定期的に実施	5	・床の状態はどうだったか検討したが問題なかった。	・遊戯室床のモップ掛け等行い、必要以上に滑らないようにする。	1. 集団活動中・見守りあり	・しっぽを取られないように左右確認が必要な遊びは、バランスを崩しやすい。	・バランスを崩しやすい遊びは、広い外で行うようにする。	1. いつもどおりの様子であった	・意欲的に、しっぽ取りを楽しんでいた。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	・全体を把握し、ゲームを進めていた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	・子どもの様子を見守っていた。	・必要人数の配置だった。	・遊戯室での活動内容の確認・検討を職員間で話す。	
952	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	9	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	7				3	1	3			1	1	18. 6歳	1. 男児	特になし	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左母趾基節骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	12	2. 基準配置	保育士の危険予知能力の低さ	今回の事故内容やそれ以外の危険予知トレーニングを行う。	1. 定期的に実施	293	1. 定期的に実施	293	2. 不定期に実施	293	特になし	特になし	1. 集団活動中・見守りあり	子ども達に座っているように声はかけたものの、虫を追い出すために動き始めた子に対して、座るように声をかけず走らないでと声をかけ、保育士と一緒に虫を追い払っていた。	虫が居た場合は、子どもと一緒ではなく、子ども達を落ち着かせてから、保育士が虫を追い払うことや隣の部屋に居る保育士と連携をとることを、職員間で共通理解をした。	1. いつもどおりの様子であった	保育士に歩くようにと声をかけられたが、急ぎ足で歩き回っていた。	4. 対象児の動きを見ていなかった	虫と、他児に気がいっていて、本児の動きを把握できていなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員はいなかった。	保育士が、年長児だったため、虫を追い払うことに対して、あまり危険だとは思わなかった。	虫を追いかけた子どもたちに声掛けはしたものの、あまり危険とは思わなかったことに危険予知の低さを感じた、怪我後の報告の遅れも問題。意識の持ち方について、職員間で話し合いをした。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
953	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	9	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	38				20	18				6	6	15. 3歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右鎖骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	1	1. 基準以上配置	雨上がりで本児が長靴を履いてきており、走りにくかったことが予想される。転びやすい状態であったことから気を付けてみていく必要があった。	保育士の人数的には十分であったが、特に長靴を履いている子には保育士で協力して注意してみていくようにする。	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	2	1. 定期的に実施	5	園庭がぬかるんでおり転びやすい状態であった。	ぬかるみのない部分で遊ぶことができるよう誘導したり、裸足になってあそぶよう声かけをしたりしていく。	1. 集団活動中・見守りあり	自由あそび時であり、保育士の人数は十分いたが転んだときに手をかすことはできなかった。	他の保育士で協力し合いながら、長靴を履いている園児には特に気を付けて近くでみていくようにする。	1. いつもどおりの様子であった	喜んで戸外にでて、園庭を走っていた。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	担当保育士は近くで対象児の様子をみていたが、転んだときには支えることはできなかった。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	近くにはいたが、他児もいたため手は届かなかった。	痛みに鈍感な面があり、気づくのに時間がかかってしまった。	本児が痛がらなくてもすぐに受診をするべきであった。	
954	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	9	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	5. 4歳児クラス	11									1	1	16. 4歳	2. 女児	なし	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左足甲の骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	1	2. 基準配置	なし	なし	1. 定期的に実施	12 3	1. 定期的に実施	96 48	1. 定期的に実施	48	なし	なし	7. その他	舞台の近くで並んでいたこと	舞台から離れたところで並ぶようにする。 舞台の階段は、歩いて移動するように子どもに伝えていく。	1. いつもどおりの様子であった	保育士と他児が部屋の移動中、本児が舞台の階段を登り、ジャンプして降りた様子。	4. 対象児の動きを見ていなかった	遊戯室から保育室に戻る際、本児は一番後ろに並んでいた。途中で一番後から付いてきていないことに気づき、遊戯室をみにいった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	加配保育士は、別室で保育していたため、担当職員のみで保育していた。	遊戯室から保育室に移動する際、最後の児まで確認しなかったことで、児が舞台に上がっていたことに気付かなかった。	遊戯室から保育室に移動する際は、最後まで子どもたちを見守り、危険な行動をする前に止めれるにする。	
955	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	9	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	18									2	2	16. 4歳	1. 男児	特になし	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右手第５指骨折（全治1か月半)	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	1	2. 基準配置	跳び箱を使う際の遊び方や補助の仕方が適切でなかったことも要因のひとつとしてあげられる。	園児すべての着地をサポートできるような流れや跳ぶ順番を考慮した計画を立て実施する。	1. 定期的に実施	実施頻度毎日	1. 定期的に実施	6	1. 定期的に実施	毎日	発達や理解の差、また体の動かし方を考慮した上での適切な器具の提供ができていたかも確認する必要がある。	跳び箱の上部に手をつく位置を表示することで、安定して体を支えることができるように促す。	1. 集団活動中・見守りあり	子どもの発達や体力、実施状況に応じて起こりうる可能性を予測した上での保育士の位置を含めた援助方法の不足があった。	子どもの姿に合わせ、負荷がかかりすぎないように回数調整をし、遊びの段階を踏んだ保育をする。	1. いつもどおりの様子であった	転倒後、右手小指辺りを触り気にする様子は仕草はあったが、保育士が尋ねると痛みはないと訴え、継続して遊ぶ。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	患部の腫れや赤みを確認するが、特に変化はなかったことや、本児からの痛みの訴えがなかった為遊びの様子を見守った。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	クラス保育中で、クラス担任のみの配置であったこと、怪我についての報告がなかったこともあり、状況が把握できていなかった。	怪我の状況をクラス担任間の把握のみで、他職員との共有がなされていなかったこと。	・怪我をした時は必ず上司または他保育士に伝達し、複数の目で確認したのち受診等適切な対応がとれるようにする。 ・全身の跳躍運動、腕の支持力を身につけられる遊びを継続的に取り入れる必要性を職員間で共有する。	
956	令和6年6月10日	1. 認可	3. 保育所型認定こども園	10	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	5	0	2	3	0	0	0			2	2	15. 3歳	1. 男児	特に無し	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	上腕骨内顆骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	2.3	2. 基準配置	職員の配置が不十分であった。	１名の保育士が片付けするときには応援を依頼する。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	2. 不定期に実施	随時	保育室の環境の見直し。	棚だけでなく床面の玩具等の安全点検、確認をする。	1. 集団活動中・見守りあり	保育室内での遊び方(走らない等)の伝達	危険が予測される場合には、事前に知らせる	1. いつもどおりの様子であった	普段通りの様子で、靴下も脱ぎ保育士の後ろを歩いていた。	4. 対象児の動きを見ていなかった	他児3名と話している時、対象児は保育士の背後を通ったため転倒する場面を確認できなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	おやつを食べている他児に付き添っていたため、見ていなかった。	園児全員を把握できる立ち位置ではなかった。	常に園児全員を把握できる立ち位置となるよう気を付ける。	
957	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	8	3. 昼食時・おやつ時	1. 施設敷地内(室内)	5. 4歳児クラス	26									2	2	16. 4歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右肘　尺骨肘頭骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	6	1. 基準以上配置	活動の切り替え時は特に気をつける	室内での転倒で骨折する可能性があることを周知し、子どもが移動するする際は気をつけて見守る	1. 定期的に実施	2	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	毎日	特になし	すれ違いしやすいよう子どもの動線を広く確保する	3. 個人活動中・見守りあり	他クラスの子どもの動きに気をつけながら、込み合わないよう配慮する	歩くときは周りの状況に気を付けることを繰り返し子どもたちに伝える、転んだ時に手が出るよう敏捷性を育てていく	1. いつもどおりの様子であった	図鑑を取りに行くため歩いていたが周囲の確認をしていなかった	4. 対象児の動きを見ていなかった	保育室中央で掃き掃除をしていた	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育室中央で掃き掃除をしていた	全体を見守る保育士体制が必要	保育士が子どもたちの動きを把握し、動線を広く確保し、危険のないよう見守る	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
958	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	9	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	5. 4歳児クラス	10									2	1	17. 5歳	1. 男児	●●市●●センターに半年に１度受診。不注意の傾向の診断。	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左手薬指骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	1	2. 基準配置		引きつづき本児の様子を日々確認し、感情が高ぶりすぎないような早めの声かけ等をしていく	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12		扉にクッション材をつけた	1. 集団活動中・見守りあり	扉に指つめ防止がついていない	扉にクッション材をつけた	1. いつもどおりの様子であった	朝の登園の受け入れの時間帯でもあり、部屋の中が落ち着かない状況であった。その中で、自分の思いを友だちに受け入れてもらえず、感情が高ぶっていった。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	落ち着かない様子は把握できたため、近くで友だちとの関わりの援助をしていたが、急に部屋から飛び出して扉を閉めたためにその行動をとめることはできなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の園児の要求に応えるため、室内ではあるが少し離れた場所にいた。		引きつづき本児の様子を日々確認し、感情が高ぶりすぎないような早めの声かけ等をしていく	
959	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	9	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	36	2	3	7	4	13	7	0		7	3	17. 5歳	2. 女児	なし	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右肘剥離骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	1	2. 基準配置		安全計画の見直しを職員全員で行う。	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	1	2. 不定期に実施	3		玩具の点検を月に１回行う。	1. 集団活動中・見守りあり	安全マット下に砂が溜まっていて、マットの衝撃の吸収率が悪い。	安全マット下の砂を、月に１回、取り去り、マットの衝撃の吸収率を上げる。	1. いつもどおりの様子であった	いつもと変わらず、午前中は、運動会の玉入れ、体操を行い、そのあとは暑かったので室内で遊び、給食もよく食べた。午睡もし、夕刻も元気であった。１７時にうんていを保育士がそばで、見ていてやっていたが、手を滑らせて地面（安全マットの敷いてある地面）に落下した。	1. 対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	うんていを対象児が、渡り始めてからうんていの中央あたりに、立って見ていた。３分の２くらい渡ったところで落下したが、少し離れていたので、受け止めることができなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	２人のうち、１人は、子どもの水分補給の準備をテラスで行っていた。もう１人は、うんていをしていない子どもの保育をしていてみていなかった。	子どもがうんていをするときは、最初から最後まで子どもの動きに合わせてそばにつくようにする。	子どもがうんていをするときは、最初から最後まで子どもの動きに合わせてそばにつくようにする。	
960	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	4	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	13	0	1	3	1	3	5	0		7	1	16. 4歳	1. 男児	特になし	7. 登園・降園中(来所・帰宅中)	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右尺骨遠位端骨折右橈骨遠位端骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	4	1. 基準以上配置	降園時、園児を引き渡し後は、遊具で遊ばずに帰るということが徹底していなかった。安全な滑り台の滑り方をしていなかった。	降園時、園児を引き渡し後は、遊具で遊ばずに帰るということを再度全職員に周知し、子どもたちにも話をした。遊んでいる子を見かけた時は、声をかけるようにする。安全な滑り方を子どもたちに話した。	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	48	1. 定期的に実施	毎日	特になし	特になし	7. その他	特になし	特になし	1. いつもどおりの様子であった	いつも通り、祖母が迎えに来たため時間外担当職員が対応をした。	4. 対象児の動きを見ていなかった	降園時、園児を引き渡した後の当該園児の行動は把握していなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	遊んでいる様子は見ていなかった。	保護者に引き渡しをした後の園児の行動を把握をすることに意識がなかった。	保護者に引き渡しをした後は、しばらく見守るようにする。	
961	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	6	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	21									2	2	17. 5歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左橈骨近位端骨折・左肘関節痛	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	12	2. 基準配置	特になし	職員全員が、安全に対して常に学び話し合う。子どもに関しては一人ひとりの様子を把握し、連携し合っていく。	1. 定期的に実施	48	2. 不定期に実施	48	1. 定期的に実施	3	床の状態に異常はなかった。	特になし	1. 集団活動中・見守りあり	本児が上靴を履いていなかったことが、事故発生後わかった。	活動前、登園後は上靴を履いているか確認する。	3. いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	楽しくて気分があがり、保育教諭の声が届かない状況だった。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	全体の様子を見守っていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	集団から外れている子の対応をしていた。	特になし	危険を伴いそうな時は、気持ちが落ち着くよう、一度休憩をとるなどしていく。	
962	令和6年6月10日	2. 認可外	5. 幼稚園	5	3. 昼食時・おやつ時	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	4. 3歳児クラス	15									4	2	16. 4歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		4. 創傷(切創・裂創等)	2. 顔面(口腔内含む)	顔面創傷(おでこ)	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	1	1. 基準以上配置	特になし。		1. 定期的に実施	26-28	1. 定期的に実施	26-28	1. 定期的に実施	3-4	公園遊具のため、特にありません。	職員配置位置の見直し・職員同士の連携の確認。	1. 集団活動中・見守りあり	人工芝だったため、足が引っ掛かりやすかった。	走っていることに気が付く前から走らないよう呼びかけを行ったり、昼食の介助をしていた職員は、後片付けが終わった後「歩いて行こうね」等の声掛けをしてから遊びに送り出す。	3. いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	遠足だったため、気分が上がっていた。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	目の前で走っていることに気づき、走らないよう声をかけたが、その後すぐに転んでしまった。すぐに止血を行い他の先生への呼びかけを行った。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当職員二以外の二人は昼食をまだ行っている子と終わった子の介助を行っていた。	周りのお友達が食事を終えて遊び始めていたため、早く遊びたいと言う気持ちがより高まり事故につながった。	全員が食事を終えるまでは遊び始めるのではなく、座ったままでも行える別の活動を行い、再発防止に努める。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
963	令和6年6月10日	2.認可外	16.企業主導型保育事業																13.１歳	1.男児			1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	6			●月●日(●)に熱性けいれんがおき、●●に入って5日間欠席したため、連休明けに体力が落ちていると保育士間で共有され、怪我のための違和感だと気が付けなかった。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	4	1.定期的に実施	12		場所、日時が不明のため具体的な改善策はなし	7.その他		場所、日時が不明のため具体的な改善策はなし		場所、日時不明		場所、日時不明		場所、日時不明		場所、日時が不明のため具体的な改善策はなし	
964	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	19	2	4	3	3	4	3			20	20	15.３歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右尺骨骨幹部骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	6	1.基準以上配置		固定遊具を使用する場合の危険性について検証し、予想される子どもの行動について考え、見守りの仕方について職員に周知する。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	使用後毎回		今も実施しているが、鉄棒や雲梯など、落下が考えられる遊具の下のマットに砂が上がっていないか見て、取り除くなど環境を整えていく。	1.集団活動中・見守りあり		保育者の見守りのもとで体を動かす経験を積んでいくことで、転んだ時に身を守れる体づくりをしていく。	1.いつもどおりの様子であった	本児の身長にあった高さの鉄棒で遊んでいた。（本児の身長は９７cm、鉄棒は６５cmの高さ）	4.対象児の動きを見ていなかった	3歳児クラスの子ども・職員全員が園庭に出ていた。砂場や鬼ごっこをしている園児に職員がついて遊んでいた。本児がいた鉄棒付近には保育者はいなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	低鉄棒で遊んでいたため、そばにつく職員はいなかった。		低鉄棒であっても、保育者が気を付けて見守る体制を取っていく。	
965	令和6年6月10日	1.認可	3.保育所型認定こども園	6	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	3.2歳児クラス	6									2	2	14.２歳	2.女児		8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	2	2.基準配置	長靴を履いてはしごに昇り降りしていたこと。	職員・保護者間での事故現場に面した裏口をこどもと使用する際の危険について、認識共有する。	1.定期的に実施	12			1.定期的に実施	12	–	園児がはしごに登らないように、保護者に注意喚起の掲示をする。(職員に対してはルールとして徹底する)	1.集団活動中・見守りあり	園の所有物ではないはしごが出入り口に面して設置されている。	園児がはしごに登らないように、保護者に注意喚起の掲示をする。(職員に対してはルールとして徹底する)	1.いつもどおりの様子であった	はしごに昇り降りするなど、意欲的に探索したり行動する姿が見られる	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児の様子を視認していたが、何度か遊んでいる場所でもあり、転落するであろうという予測が甘くなってしまっていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	対象児以外の園児に目を向けて対応していたので、対象児の転落を視認できなかった。	職員の怪我や事故に対する予測行動及び意識の甘さが要因といえる	職員間の連携や声掛け、怪我や事故に対する予防対策を改めて話し合い、園全体で怪我や事故予防対策を徹底して進めていくこと。	
966	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	27									3	3	17.５歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左環指末節骨骨折	4.玩具・遊具等施設・設備の安全上の不備によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2	1.基準以上配置	日頃から楽しんでいる環境であったため、危機管理意識が薄くなっていた。	事故や怪我が起こった後の検証をしっかりと行い、常に危機管理意識を高く持つよう周知していく。	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	24	巧技台の接続部分に隙間が見られた。	隙間ができないように、接続部分を覆うようにする。その他、子どもが手を入れそうなすき間がないかを点検し、覆うなどの処置を行う。	3.個人活動中・見守りあり	日頃から遊んでいた環境であり、特に子どもにも変わった様子は見られなかったため、怪我を予測していなかった。	日頃から、怪我が起こるかもしれないという意識を持ちながら環境を見直していく。	1.いつもどおりの様子であった	友達と一緒に巧技台に登っ台て滑り台を滑って遊ぶことを繰り返し楽しんでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	他にも運動遊具が出ていたため、滑り台からは少し離れたところに立ってはいた。滑り台も気にしながら両方を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	一人がテラスの子どもを見たり、保育室の子どもを見たりと、子どもの動きに合わせて見守っていた。もう一人は支援加配の為、子どもと一緒に廊下に出ていた。	日頃の保育と同じ環境であったという思いが危機管理意識を薄くさせていた。	同じ環境であっても危機意識をしっかりと持って、子どもの近くで見守りを行う。	
967	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	7	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	19									2	2	16.４歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	橈骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	3	2.基準配置	–	自身で転倒し目立つ外傷等が無くても、転んだ時の体勢により児によっては骨折する場合がある可能性を考慮しながら、見守るようにする。	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	24	–	施設・設備には問題が特になかった。	1.集団活動中・見守りあり	–	活動時は安全に活動できるよう遊具配置を考慮しながら見守ったり、園児自身が危険回避の意識がもてるように事前や最中に呼び掛けたりしていく。	1.いつもどおりの様子であった	特に変わった様子はなかった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	遊戯室全部を使い、サッカー遊び、トランポリン遊び、レスキュー遊びの中で全員がしたいことを選び体を動かして遊んでいた。担任は、近くで見守りが必要なトランポリンのそばに位置しながら全体を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児に寄り添い遊んでいたため、本児の動きをずっと把握し見守ることが難しかった。	遊戯室という広い場所で遊ぶ際は、全体を隅々まで見守ることが難しく、自らの転倒でも骨折につながる怪我が起こるという認識が足りなかった。	職員配置人数によっては、特に隅々まで見守りが難しい広い空間等、傍で見守りが必要のある遊具を避けるなど準備する遊具を厳選し、全体把握がしやすい活動を考慮していく。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
968	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	8	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	22									4	4	16.４歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	右上Ａ外傷性歯の脱臼・外傷性歯の破折、左上Ａ外傷性歯の脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施		2.基準配置	子どもが全体に落ち着いて遊んでいると判断し、担任が1人で保育をする状況になった。また、本児が机上の玩具を取ろうとしたが、容器が深く椅子から立ち上がらないと取れない環境だった。	戸外から保育室に戻るなどの活動の合間に、担任がそろわない状況の時は、お互いの立ち位置を確認し合い、全体の状況を把握することを徹底する。また、机上の玩具が椅子に座って取れる容器の高さを考え、浅いものに変更する。	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	24		事故との関連性は無かった	1.集団活動中・見守りあり	－	容器の大きさを改善し、立ち上がらず机上にある玩具をとれるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	大きく変化はなく、落ち着いて遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	落ち着いて遊んでいたため、他児に関わっていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	別の場所にいた。	職員の連携	行動をする場合、保育室から出る場合は、声を掛け合う。	
969	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	1.0歳児クラス	6									2	2	13.１歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	前額部挫創	8.その他	2.なし	3.未実施		1.基準以上配置	延長保育への切り替えと降園の時間が重なった。	延長保育への切り替えと、降園の時間が重なったため、遊びの場所の配置を変え保育を行った。	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	48	・延長保育への切り替えと降園の時間が重なった。・０．１歳児の２クラスが一つのフロアを使っており、０歳児の遊ぶ場所が1歳児が通る通路になっていた。	・0歳児の遊ぶ場所が1歳児が通る通路になっていたので遊ぶ場所の配置を変えた。・角が丸い棚だったが、棚に緩衝材を付けた。	3.個人活動中・見守りあり	・延長保育への切り替えと降園の時間が重なった。・０．１歳児の２クラスが一つのフロアを使っており、０歳児の遊ぶ場所が1歳児が出入口に行く通路になっていた。	・0歳児の遊ぶ場所が1歳児が通る通路になっていたので、遊ぶ場所の配置を変えた。・棚に緩衝材を付けた。	1.いつもどおりの様子であった	ロッカーの近くに立っており歩き出した所、歩いていた保育者にぶつかり、跳ね返って棚にぶつかった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児の様子を見ながら、少し離れたところで0歳児クラスの子どもたちと遊んでいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	1歳児の子どもを保護者に引き渡した後、１歳児クラスに戻ろうと歩いていた。		事故防止のため棚等の備品には緩衝材を添付したり配置を見なおし対策を万全にする。	
970	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	62					30	32			10	10	17.５歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置		事故内容の職員への周知・職員の意識向上	1.定期的に実施	24	2.不定期に実施	1	2.不定期に実施			遊具下に緩衝材を敷く	3.個人活動中・見守りあり	いつもしている活動と思い油断があった	遊具近くでの見守り	1.いつもどおりの様子であった		2.対象児の至近で対象児を見ていた	雲梯のそばで児が渡っている姿を見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	雲梯から少し離れたところで児の渡っている様子を見ていた。	いつもしている活動と思い油断があった	遊具近くでの見守り	
971	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	64									6	6	16.４歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	3	2.基準配置	前々日の降雨で、地面がぬかるんでいたにも関わらず転倒する危険性を察知することができなかった。	これまでに起こった事故の事例、ヒヤリハット事例を振り返るとともに、園内で注意が必要な場所について話し合いを行うことで職員の危険予知能力の向上を図る。	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	24	園庭内に大雨で乾ききらない部分及び朝露でぬかるんでいる部分があった。	ぬかるみになって滑りやすいところは、砂を撒き滑りにくくする。	3.個人活動中・見守りあり	走って遊ぶことを想定しての環境確認が不十分であった。	保育士がその日の保育内容を行う上で活動場所の危険個所がないか確認する。	1.いつもどおりの様子であった	いつもどおり遊び終わり、休憩の為保育室に一旦戻ろうとしていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児を含め子どもが保育室に戻るよう促していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	その他の子どもをみながら保育室に向かっていた。	他の子どもの対応をしながら走る子どもを見ていたため、注意を促す声掛けができていなかった。	落ち着いて保育室に戻るように声掛けをする。	
972	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	55									11	10	15.３歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘関節脱臼骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	2	2.基準配置	子どもの危険な行動に気付けなかった。	職員が過去のヒヤリハットや怪我が起こった状況等の振り返りを行うことで、危険予知能力の向上に努める。	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	25	1.定期的に実施	24	本児がこの場所で遊んだ経験がなく、土管の長さが分かっていなかった。	3歳児の築山の使い方を再検討する。土管の端が分かる目印をつける。	3.個人活動中・見守りあり	気持ちが昂っている様子に気付けなかった。	子どもの動きに注目し、気持ちが昂っている時にはいったん落ち着くように声をかける。	1.いつもどおりの様子であった	運動会の練習中、自分の出番が終わり、じっと待っていることが苦手で、いつもどおり自分の行きたいところで遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	近くにはいたが、動きが危ない他の児童を見ていたので手を出す、又は、受け止めることができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の場所で遊んでいる子どもの人数が多くそちらで一緒に遊んでいた。	本児にとっては初めての場所で、遊び方や土管の距離感なども十分認識できていないにもかかわらず他の児童と同じような遊び方をしていたことに保育者が気付けていなかった。	土管から転落するかもしれないという事故予測をして、有事の際には直ちに対応できる位置で保育者が見守るようにする。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
973	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	28									2	2	18.6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左中指基節骨骨端線損傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置		活動に合わせて職員の増員をする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施			遊戯室は開放的になり子どもの動きが活発になりやすい場所なので、遊び方に十分気をつける。	1.集団活動中・見守りあり		各コーナーにあった広さの確保と、場所を仕切る。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	友達を追いかけていて、いつも以上に情緒面は、高揚気味であった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	縄跳びを回していた職員のすぐそばを対象児が通り抜け、縄跳びを固定するポールに当たった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当している遊びのコーナーを見ていたため、対象児の動きを見ていなかった。		情緒面で高揚している様子が見られたときは、早めに声をかけ気持ちを落ち着かせるようにする。	
974	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	84	5	12	14	20	20	13			20	16	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2	1.基準以上配置	園庭から室内へ入る際、職員の見守りはあったが、ゆっくり回っていて転倒するという予測はできていなかった。	転倒するおそれのある歩き方など怪我につながる可能性も考慮し、危険予測し、適切な声掛けが必要。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施		園庭につまづくような突起物はなかったが転倒の要因となるようなものが無いようにする。	園庭の凸凹整備や障害物の有無の確認を常に気を付ける	1.集団活動中・見守りあり	入室の為の混雑や動線は適切であったか	入室のタイミング・子どもの動線を考慮し、転倒などが起こらないよう気を付けていく	1.いつもどおりの様子であった	１人でくるくるとゆっくり回りながら歩いている時にバランスを崩して転倒し、地面で左肩を打撲。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	室内へ入る子どもたちを見守りながら、５歳児とともにおもちゃの片付けをしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	室内に入ってきた児の着替えや給食の準備についていた。	子どもの動きを予測しながら見守りができていたか	転倒するおそれのある動きかもしれないと危険予測をし、事前に適切な声掛けを行う。	
975	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	40				13	13	14			5	3	17.5歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)	左足首靭帯損傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	12	2.基準配置	特になし	マニュアルあり、研修実施、職員配置基準も満たしているため、特になし。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	2.不定期に実施	48	特になし	施設、遊具、玩具の安全点検を定期的に行っているため特になし。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	園庭遊びのマニュアル通りに職員を配置し、見守っていたため、特になし。	1.いつもどおりの様子であった	転倒した際に、当該児童に「大丈夫？」と声を掛けたが、当該児童は特に痛がる様子もなく遊びを続けていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	子どもと遊ぶ担当、全体を見渡す担当に別れ、園庭遊びの見守りを行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児と遊んでいたため、当該児童が転倒したところは見ていなかった。	新年度ということもあり、子どもからの訴えに頼るだけでは怪我の発見は難しかったと感じている。５歳児年長であることから、痛みを我慢する姿もあることを踏まえ、「痛かったら我慢しないで教えてね」と声をかけるなどの対応が必要だった。	今回のケガから職員間で保育を見直し、改善策を職員に周知した。	
976	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	53									4	4	17.5歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨遠位端骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	特になし	なし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	293	1.定期的に実施	12	八角ジムの中心部には芝が元々敷かれていたが、周囲にはなかった	八角ジム周囲に芝や保護用マットを敷く	3.個人活動中・見守りあり	特になし	なし	1.いつもどおりの様子であった	友だちと八角ジムに登っていて、降りようとして手が滑り、転落した。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児が八角ジムで遊んでいる事は認識していたが、他児への対応をしていた為転落した瞬間は見ていなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	遊具（八角ジムを含む）全体を見守っていた。対象児が転落した瞬間をみていた為すぐに駆けつけた。	特になし	なし	
977	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	6	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	20									27	25	18.6歳	2.女児	特に無し。	8.その他	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足甲の剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	特になし	職員の危機管理意識を高める	2.不定期に実施	3	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	3	特になし	廊下の正しい歩き方について、掲示等で園児の注意を促す	7.その他	特になし	トイレ前に園児が落とした水滴等が、無いか注意する	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り、順番を守ってトイレに行こうとしていた	4.対象児の動きを見ていなかった	担任の保育士の一人は、トイレの中で指導していた。もう一人の保育士は、トイレから帰った園児の保育のため、保育室にいた。たまたま廊下を歩いていた他のクラスの保育士が気が付いて、担任に知らせた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担任の保育士の一人は、トイレの中で指導していた。もう一人の保育士は、トイレから帰った園児の保育のため、保育室にいた。たまたま廊下を歩いていた他のクラスの保育士が気が付いて、担任に知らせた。	特になし	トイレだけでなく、廊下の園児にも十分注意する	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項
978	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	13									1	1	16.４歳	2.女児	
979	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	30				10	10	10			3	3	15.３歳	2.女児	右鎖骨周辺に腫れ。40℃の発熱が続く。CT検査MRI検査したが、骨は正常。首から右鎖骨周辺関節に膿がたまっているとのこと。●/●から2週間入院となる。血液検査結果は異常なし。
980	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	7	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	58					39	19			6	6	18.６歳	1.男児	
981	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	6	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	23									2	2	17.５歳	2.女児	なし
982	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	20				7	6	7			2	2	16.４歳	2.女児	

No	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策
978	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右第五弛趾骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	10	2.基準配置	特になし	マニュアルあり、研修実施、職員配置基準を満たしているため、特になし
979	1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右胸鎖関節関節炎	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	事故発生後の事故内容の把握確認について曖昧な部分があったため、発生事故から予測される対応につながらなかった可能性がある。	事故発生後の対応について統一した対応ができるように職員周知する。また 事故内容について、現場検証や防犯カメラの記録映像の確認を行い、事実把握に努める。
980	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨骨幹部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施		2.基準配置	本児が転倒場面は、担当保育教諭が離れていたため、状況確認は本児と周りで遊んでいた子どもの情報とで行った。	園庭遊びの様子の状況把握を、役割分担や声を掛け合うなど連携を取りながら安全に遊べるように見守りを十分にする。
981	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右小指骨折	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	子どもが階段前に並んでいた。また、そこに直ぐ保育士がつくことが出来ていなかった	子どもが階段前で待つことなく移動できるような職員配置をとる
982	2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	左頬部裂傷	4.玩具・遊具等施設・設備の安全上の不備によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	特になし	マニュアル有り、研修実施、職員配置基準も満たしているため特になし。

No	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策
978	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	随時	2.不定期に実施	随時	特になし	施設、遊具、玩具の安全点検は随時行っているため、特になし
979	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	●●●●バランスボール「（マックス65cmサイズ）10年前に購入。使用時は直径50cm程であった。適応推奨の大きさのボールを使用していなかったため、バランスをとることができなかった。	バランスボールの撤去。他に怪我につながるような玩具がないか確認するとともに、年齢に適応した玩具を使用する。
980	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	適宜	ブランコ待ちの列があり、常設のタイヤの間が狭くなっていた。	狭くなっているところを安全に通行できるように、子どもの動きに注意を払い、状況に応じて、安全に通行できるよう促す。
981	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎日	その他考えられる要因・特記事項なし	上記の為、改善策はなし
982	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	52	玩具の点検は行っていたが、使用中に不備が発生した。	週１回のおもちゃの洗浄、消毒時の点検に加えて、使用前には事前に点検をする等点検の回数を増やす。

No	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
978	1.集団活動中・見守りあり	こどもの年齢と特性を考えたところ、ねらいに即した環境ではなかった。	・こどもの年齢や特性を踏まえた遊びの工夫をする。・遊びの内容とねらいを考えて場所を選ぶ。・遊びの内容によって上靴を着用する。	1.いつもどおりの様子であった	13人で「引っ越しゲーム」をしている最中で、場所を移動していた。	4.対象児の動きを見ていなかった	ゲームを見守っており、全体を見ていたが衝突の瞬間は見ていなかった。		保育士1名の配置であった。	動きの激しいゲームであるため、より広い場所を選択するほうが良かった。	こどもの年齢や特性を考慮し、あそびの内容に合わせた場所を選ぶ。（近隣のグラウンド等）	
979	1.集団活動中・見守りあり	自由遊びが多種多様なため、見守り範囲が広くなり、把握が不十分になってしまった。	自由時間の園庭見守り職員配置人数を3人増やす。担当者の監視範囲を決め園児の見守りを行う。監視が不可能だと判断した時には、見守り可能な遊びに限定する。	1.いつもどおりの様子であった	特に変わりなし	4.対象児の動きを見ていなかった	3歳児クラスの担任は2名いたが、発生時2人とも室内作業をしていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	園庭の監視担当者（応援の職員）は至近距離ではないが、園庭の園児を見守っていた。	監視担当者が園児と一緒に遊んだりするなどして見守り出来ない時間を作ってしまっていた。	園児の怪我を発見した場合は、必ず担任のもとへ連れて行き、正確に状況説明をする。状況が分からなければ担任が園児を事故現場へ連れて行き話を聞くようにする。	
980	1.集団活動中・見守りあり	好きな遊びを十分に取り組めるように、個々の遊びの理解を丁寧にしていく。	色々な遊びがある中で、狭いところを勢いよく走り抜けると危険だと認識できるよう、その都度伝えていく。	1.いつもどおりの様子であった	ブランコの柵とタイヤの間を走り抜けていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	周りの子ども達の声掛けで本児の転倒に気付き、声をかけ状況把握をした。本児が腕の痛みを訴えたため、職員室へ同行し患部を冷やす処置を行った。しばらく冷やし、様子を見ていたが、午後になり、再度痛みを訴えたため、確認したところ腫れがあったため動かさない方がよいと判断し、固定した。その後、迎えに来られた保護者へ状況を伝え受診していただくことになった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった		ブランコ待ちの列があり、タイヤとブランコ柵の狭い通路での起こりうるアクシデント認識を持つことが必要であった。	遊具と遊具の間の道幅が狭い所を走ると、転んだり、人にぶつかったりするなど危険が多い事をもう一度子どもたちへ伝えていく。	
981	7.その他	建物の構造上、保育室に戻るためには階段を使用しなければならない。子ども達だけで階段の昇降するのは危険な為、必ず保育士が付き添っている	階段の前は椅子付きのテーブル等に腰掛ける。少人数づつ集まる等広いスペースを作る	1.いつもどおりの様子であった	朝の集会後の移動時	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	自分の上靴を取りに靴箱前にいた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	フリー保育士はテラス前で外靴を脱ぐ子ども達を見守っていた	互いに先頭をめぐって自分が先に並んでいたと主張していた	並んで待つことでトラブルが起きているので、並んで待つのではなく、各自準備が出来たら担当保育士の所へ行って次の指示を聞くようにする	
982	1.集団活動中・見守りあり	使用前は異常はなかったが、カチューシャを外す際に金属部分がむき出しになった。	おもちゃの点検を頻回に行ない、安全確認をしっかりと行う。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	母が保育参加に来ており、いつも以上に気持ちは高まっていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	食事の配膳を行いながら全体を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	子どもたちに片づけを促しながら、他の子どもの対応をしていた。	当該児童は保護者と遊んでいたため、保護者に任せていた。	子どもたちが保護者と一緒に遊んでいるときも、保育士がこまめに目を配りながら遊びの様子を確認する。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制												事故			事故状況						事故発生の要因分析																										掲載更新年月日
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事者		年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳									うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他								死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】							理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
983	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	23									2	2	15.3歳	2.女児	右目弱視。当日は雨天だった。	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	基節骨亀裂骨骨折から骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	特になし	マニュアルあり、研修実施、配置基準を満たしているため、特になし。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	300	特になし	施設、遊具、玩具の安全点検を定期的に行っているため特になし。	1.集団活動中・見守りあり	広いスペースではなく、部屋の入口付近にタオル掛けを置いていた。	設置場所を改善する。（室内の広い場所又はテラススペースに設置する）	1.いつもどおりの様子であった	当該児童はトイレから帰ってきたところだった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	他児に１対１で関わりながら、当該児童をみていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	描画活動をしていた。	視力が弱いことを配慮したかかわりや、見守りができていなかった。	他児とかかわりながらも、当該児童の動きを意識・把握し、危険予測を行いながら、行動に応じた言葉かけや対応を行う。	
984	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	8	7.午後	1.施設敷地内(室内)	1.0歳児クラス	2									1	1	12.11か月	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	下前歯２本脱臼、歯槽骨骨折	4.玩具・遊具等施設・設備の安全上の不備によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	・０歳児の発達や予想される動きを分析していなかった。・玩具の正しい使い方を認識できていなかった。	子どもの発達に合わせた正しい玩具の使用方法、環境構成を定期的に確認し合う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	木製玩具につかまり立ちをすることの危険性に気づけなかった。	木製玩具は本来の方法で遊ぶようにし、子どもがつかまり立ちする時の支えにはしない。	1.集団活動中・見守りあり	・本児はつかまり立ちを頻回に行う発達段階であったが、保育士は本児が一人で木製玩具を支えにつかまり立ちすることを止めなかった。・事故要因として、本児が木製玩具のスロープ部分を噛んだまま、姿勢のバランスを崩したことも考えられる。	・木製玩具につかまり立ちをしたまま、その玩具のスロープ部分を噛んでいたことも原因として考えられるため、玩具は正しく使用し、つかまり立ちをする際の支えにしない。・怪我をした木製玩具と同じ高さの棚や立ったまま支えとしているものを噛む可能性のあるものは撤去する。	1.いつもどおりの様子であった	おやつを食べた後で機嫌が良く、つかまり立ちをしていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	１名の児におやつを食べさせながら、遊びのコーナーにいる本児の動きを時々確認していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	※保育士1名で保育していたため、他の職員はいなかった。	子どもの動きと玩具の正しい使い方を認識できていなかった。	子どもと１対１で過ごす時（食事、おむつ交換）は、もう一人の子どもを安全なサークル内に入れて、見守る。	
985	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	7	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	55				30	20	5			2	1	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	特になし	マニュアルあり、研修実施、職員配置基準を満たしているため、特になし。	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	特になし	施設、遊具、玩具の安全点検は行っているため、特になし。	1.集団活動中・見守りあり	コーナー遊びには参加せず、アスレチック型遊具で遊んでいた。	児童が目的をもって遊べるよう、遊びのコーナーを複数設置する。	1.いつもどおりの様子であった	当該児童および周囲の園児の話から聞き取ったところ、危険な遊び方をしていた様子はなく、ロープを持ってスロープを降りていた際にバランスを崩して転び、うまく手を付けなかったと考えられる。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園庭でコーナー遊びを展開しており、当該児童が転んだ瞬間は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	登園してくる児童の受け入れのため門付近におり、当該児童からは離れていた。	・複数の職員がプールの準備を行っていた。・プールの準備をする職員と、こどもたちを見守る職員の人数を決めていなかった。・定められた登園時刻を過ぎて登園する児童の受け入れのため、職員が児童から離れることがあった。	・園庭にいるこどもの人数や遊びに合わせて教職員の人数を増やし、見守りながら遊びを展開できるようにする。・プールの準備をする職員は１名とする。・登園時刻（9:00）を遅れないよう保護者に再度周知する。・プール設置後の教員配置（グラウンド側と園庭側への分散）について、グランドには１名、園庭には2名以上と、具体的に決めて見守る。	
986	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	19				6	6	7			2	2	18.6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	眼球打撲、網膜振盪症	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	12	1.基準以上配置	特になし。	マニュアル有り、研修実施、職員配置基準も満たしているため特になし。	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	48	特になし	施設、遊具、玩具の安全点検も定期的に行っているため特になし。	7.その他	自由遊びのコーナーの間隔が狭い。	コーナーの間隔を広くするため、机の位置を変更した。机の角、側面に保護テープを付けた。	1.いつもどおりの様子であった	積み木で遊んでいたが、次の遊びに移行しようとしていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	傍で積み木のコーナーを見守っていたが、当該児童がバランスを崩した時には手が届かず支えられなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	降園する児童の保護者対応をしていた。	児童の行動を予想できていなかった。	児童の行動を予測し、事前の声かけや環境の改善を行う。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
987	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	7	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	12									1	1	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	特になし	マニュアル有り、研修実施、職員配置基準も満たしているため特になし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	施設、遊具、玩具の安全点検を定期的に行っているため特になし	3.個人活動中・見守りあり	マットを使用し環境に配慮していたため特になし	受傷の際もマットの使用をしていたが、今後もマットの使用はもちろん、余裕を持ったスペース、安全確保に努める。	1.いつもどおりの様子であった	いつもどおり体操をしていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	立った状態からブリッジをする活動を見守っていた。		1人担任のため他の職員はいなかった。	いつもどおりの活動のひとつではあるが、怪我をする可能性があることを十分に理解し、より注意して取り組む必要があった。	受傷時もマットの傍で見守っていたが、すぐに補助ができるように手を添えておく等の配慮も必要であった。	
988	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	6.5歳以上児クラス	62									7	5	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	数	1.基準以上配置	特になし	マニュアル有り、研修実施、職員配置基準も満たしているため、特になし。	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	300	1.定期的に実施	52	特になし	施設「●●」での事故であるため、施設所管。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	今後も園外保育での見守りを強化していく。	1.いつもどおりの様子であった	ブロックを積み上げて遊んでいた際、バランスを崩して転倒した。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	各遊具につき、遊びの援助や見守りを行っていたが、事故の瞬間は他児に注意がいき、当該児童の転倒には気が付かなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	移動しながら見守りをおこなっていたが、事故の瞬間は見ていなかった。	役割分担をして見守っていたが、他児の対応で目を離す瞬間が発生した。	引率人数の増加、および常に死角が無いように見守る等、職員配置を工夫する。	
989	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	2	7.午後	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	31									10	10	17.5歳	2.女児	なし	8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	母指末節骨骨折、母指爪下血腫	8.その他	1.あり	3.未実施		2.基準配置	合同保育の中、ドア開閉時の職員の見守りが不足していた。	研修の実施、全職員で事故予防マニュアルを見直し、確認をする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	指はさみ防止クッションが挟まっていなかった。	指はさみ防止クッションの劣化等見直しをする。	1.集団活動中・見守りあり	クラスの子ども達が一斉に動く時間でないため、色々な場所で一人一人が違う動きをしており、全員の動きをずっと、見守ることができていなかった。	担当職員を中心に他の職員と話しあい、見守る場所を分担する。特に危険が伴う場所(ドアの開閉)は、必ず目を離さないようにする。	1.いつもどおりの様子であった	おやつを食べ終わり、廊下にある水道で、うがいをし、コップを片づけて室内に入ろうとした時に、先に食べ終わって遊んでいる友達の様子が気になり、サッシのドアを見ないで思い切りしめてしまった。	4.対象児の動きを見ていなかった	まだ、おやつを食べている子がいたので、廊下の様子も気にかけながら、食べている子の対応をしていたため、ドアを閉める瞬間を見られなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	全体の様子も気にかけてはいたが、それぞれが担当している子どもの様子を中心に見ていたため、対象児がドアを閉める瞬間は見られなかった。	サッシのドアの開閉は、危険であることを認識し、閉めた時に指はさみ防止クッションとなる物を用意し、挟むようにしていたが、外れているのに気付いてなかった。	サッシのドアには、閉めた時に隙間ができるよう、指はさみ防止クッションを新しく付け替える。また、全てのドアにきちんと挟まれているか点検し、劣化しているものは付け替え、はずれていないかを、常に確認するようにする。	
990	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	8.夕方(16時頃〜夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	10			4	4		2			5	5	17.5歳	1.男児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	4	2.基準配置	安全対策、見守り中でも事故は起こる。	定期的に事故を共有し　評価する	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	2	特になし	園庭に異常は無かった	1.集団活動中・見守りあり	特になし	一日の体力の変動を　考慮する	1.いつもどおりの様子であった	転倒時泣いていたが　後で身体のバランスが崩れたと本人から報告あり	2.対象児の至近で対象児を見ていた	転倒後すぐ　看護師に状況を報告する	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	転倒後すぐ　看護師に状況を報告する	特になし	各人　定型どうりに　動けた	
991	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	16									1	1	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左小指基節骨頚部骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	特になし	マニュアル有り、研修実施、職員配置基準も満たしているため、特になし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	2.不定期に実施	随時	特になし	施設、遊具、玩具の安全点検も定期的に行っているため、特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	痛がる様子も、指をかばうような不自然な様子もなく、通常通り過ごす。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園庭全体を見渡せるところで、子どもたちの遊んでいる様子を見守っていた。		担任1人のため他の職員はいない	特になし	特になし	
992	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	8.夕方(16時頃〜夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	35				5	7	23			4	4	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	3	2.基準配置	園門付近のタイル（コンクリート）になっている奥の部分は、行ってはいけない決まりになっていた。	外遊び時、職員は見守りと共に危険カ所の点検を目視、巡視で行う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	8	園庭のタイル（コンクリート）になっているところは、転倒したら大けがにつながる可能性があるため、走ってはいけない決まりになっていた。	目印となる三角コーンを置き、子ども達が走り抜けられないように環境を整える。	3.個人活動中・見守りあり	本児は友達と遊びながらその場所へ行ってしまった。もしくは駐車場が見える所なので、人影が見えて行ってしまったのかもしれない。	目印となる三角コーンを置き、遊ぶ時のルールを子ども達と確認する。	1.いつもどおりの様子であった	普段から活発に遊ぶ様子があり、当日も園庭で活発に遊んでいた。遊びに夢中になると、安全・危険の予測が難しくなってしまう傾向がある。	4.対象児の動きを見ていなかった	園庭での自由遊び中であった。園庭全体を4人の保育教諭で見守っていた。園門付近は保護者の出入りがあるため、園門は見ていたが奥のタイルまでは見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員は安全に配慮しながら、他の子ども達とかかわっていた。	広い園庭ですべての子どもたちの動きを職員が把握しきれなかった。また、子ども達も遊びに夢中になりルールを守れていなかったことが要因と考えられる。	職員は園庭全体を見まわして、危険な遊びや、ルールを守れていない状況があったら声掛けを行う。子ども達と遊ぶ前にルールを確認する。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
993	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	10	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5. 4歳児クラス	60									7	7	18. 6歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右第5指基節骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	2. なし	3. 未実施		2. 基準配置	本児の受傷時は特に痛みの訴えはなく、活動終了後疼痛の訴えがあったため、状況確認は、受傷後に本児に聞き取りを行った。	運動遊びの状況把握に努めていく。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	適宜	跳び箱の高さへの配慮 跳び箱の段数の設定	跳び箱の段数と段数の設定方法について考える	1. 集団活動中・見守りあり	跳び箱を跳ぶことに対する経験不足跳ぶことに勢いづいていた	跳び箱の跳び方、手のつき方について説明していく。経験する回数を増やす 危険が伴うことへの意識づけを行い、跳べるようになっても、丁寧に挑戦していけるように配慮する	1. いつもどおりの様子であった	順番通りに跳び箱を跳んでいた 跳ぶことが楽しくなっている状況	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	跳び箱の横に立ち、転落などが起きないように、見守ったり、跳ぶのを介助していた	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	運動会練習中の各ポイントに立ち、安全確保に努めていた	一人の職員が見るのではなく、子どもの状況を担任も含めて伝達しあうことが不十分であった	運動能力を過信しないように高さの設定を議論する	
994	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	2	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	28									2	2	18. 6歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左小指基節骨骨折	8. その他	1. あり	1. 定期的に実施	12	2. 基準配置	ボールを受ける際に、胸の位置でなく、腕を前に出して受ける姿があった。	ボールを受ける時は、胸の位置で安全に受けとめることを伝える。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	2. 不定期に実施	12		適宜ボールの空気の入り具合や、破損の確認をする。	1. 集団活動中・見守りあり		ソフトドッチボールなどやわらかいボールも使用できるようにする。	1. いつもどおりの様子であった	クラスでドッジボールに取り組んでいることもあり、友だち同士でドッジボールを使ってキャッチボールをして遊んでいた。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	適切なボールの使用や、安全に遊んでいることを確認し、園庭で見守りをしていた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	園庭全体を見守っていた。		ボール使用時に起こる事故やケガについて把握し、子どもの様子から予測してその場で指導する。	
995	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	3	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	80			20	20	20	20			7	7	16. 4歳	1. 男児	特になし	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	2	2. 基準配置	事故予防に関する職員意識の甘さがあった	研修に積極的に参加し、職員全員が事故予防について意思統一をする	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	園庭の地面の状態はどうだったか(乾燥で滑りやすくなっていなかったか、凸凹などはなかったかどうかなど	乾燥がひどいときは、水をまいたりして滑りにくくする、地面の整備を行うなどの対策を行う	3. 個人活動中・見守りあり	危険な遊び方をしていないか常に子どもの動きを注視できていたかどうか	見守りを確実に行うとともに、子どもにも遊び方のルールを指導する	1. いつもどおりの様子であった	園庭で遊んでいた	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	園庭全体を見ていた	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他のこどもと一緒に遊んでいた	年度末で、子どもも職員も園庭遊びに慣れてきて気が緩みがちになりやすい	子どもは予測不能な動きをするものと考え、見守りにつく職員は常にあらゆる場所に目をむける	
996	令和6年6月10日	1. 認可	3. 保育所型認定こども園	3	7. 午後	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	6. 5歳以上児クラス	30									3	3	18. 6歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	1	2. 基準配置	マニュアルにそって、応援依頼・報告をしなかった。	職員会議で安全マニュアルついて話し合う機会を増やし、対応について繰り返し確認する。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	園外の遊具を使用するにあたり、安全な使い方を知らせなかった。	遊具の安全な使い方を知らせると共に、保育士の安全確認を行う。	1. 集団活動中・見守りあり	遊びの数が多い為、保育者が安全確認すべき場所が分散してしまう。	遊びの数を限定し、保育者の目が届く状況を作る。	1. いつもどおりの様子であった	本児の手の届かない遊具で遊ぶ。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	本児が一人うんていをすると言った為、手を添えたりせず近くで見守っていた為、落下する時に助けることが出来なかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	校庭でドッチボールなど、他の遊びをみていた。	遊びの数が多かった為，目の届かないところがあった。	使用する遊具を限定する。遊びの約束を子ども達と行う。	
997	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	3	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	13									1	1	18. 6歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	2	1. 基準以上配置		見守りの人数を状況に応じて考えるなど体制を見直していく	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12		点検時以外でも安全面についてはその都度確認していく。	1. 集団活動中・見守りあり		マットの状態等安全に使用できるものか点検し、見守りができる体制を考えていく	1. いつもどおりの様子であった	逆上がりの練習をしていて、鉄棒から手が離れて落ちてしまい、マットの上で左肘を打った。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	園全体で危険がないかを見守っていたので、普通に練習していた対象児のそばにはいなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	外遊びから入室して午睡準備をしている担当の子どもたちについていた	まだ一人でできないことを練習している時は、５歳児であっても力の使い方などわかっていないので、そばでつく必要があった。	鉄棒などの運動をするにあたっては、保育士も指導の仕方などを学ぶ必要がある。練習するときには、必ず大人の見守りが必要。子どもたちにも大人と一緒に練習するように伝える。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
998	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	63				22	22	19			3	2	18. 6歳	1.男児	同じクラスの子ども同士の衝突だったが、当人の身長が低く相手との身長差はあった	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	鎖骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2	2.基準配置	事故予防に関する職員意識が甘い	職員全体で研修に積極的に参加するとともに、園内でも事故予防に関するﾏﾆｭｱﾙを遵守するよう職員へ指導していく	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	倉庫の横や裏は死角になりやすい	倉庫の奥に職員を配置し、危険のないよう見守る	3.個人活動中・見守りあり	危険な遊び方をしていないか、死角になる場所での子どもの動きを予測しながら見守りができていたか	見守りを行う職員同士声をかけ連携をとりあうことで危険を見逃さないようにする	1.いつもどおりの様子であった	園庭で友達とかくれんぼをして元気に遊んでいた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	倉庫の奥に立ち、全体を見守っていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	遊具につき、他の子ども達と一緒に遊んでいた	かくれんぼをしていた為、子どもは死角となりやすい場所にいた	かくれんぼは子どもが死角になっていると理解した上で、危険のないよう見守る	
999	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	29				17	10	2			3	3	16. 4歳	2.女児	健康状態や発育などに特記事項はなし。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	園児数に応じて適切な人数の職員の配置は出来ていた。	事故の発生状況等について情報共有をし、事故防止についての意識を高めていく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	遊具からの転倒などではなく、平面での衝突・転倒が原因である。	今回は上記のような事案だったが、引き続き、遊具や施設の点検を定期的に実施し、安全な施設設備環境を整え、維持していく。	3.個人活動中・見守りあり	遊具で遊ぶ子、鬼ごっこなどをする子、と様々な遊びが同時に展開されていた。	遊びによって空間を分けられるように、コーンで区切るなどする。	1.いつもどおりの様子であった	園庭での自由遊びで、本児は遊具（ジャングラミング）で遊ぼうと遊具の側で立っていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	遊具（ジャングラミング）に登って遊んでいる他児の側についており、本児と他児の衝突を防ぐことが出来なかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	別の場所で、他児の遊ぶ様子を見守っていたため、見ていなかった。	連携を取り、分かれて見守り等を行っていたが、動静把握が不十分だった。	子どもの動きをよく見守り、衝突を防ぐことができるように、声掛けなどを行う。	
1000	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	6				2	3	1			2	2	17. 5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右腓骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	3	2.基準配置	担当保育教諭が2名本児の近くで見守っている状況であり、特に本児や本児以外の幼児がふざけている様子はなかった。	職員間で体づくりについての課題を周知し、体づくりの大切さを共有する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	身体の硬さや運動不足、瞬発力の低下など	当時、園庭に特に危険なものや障害物などはなく、広々と遊んでいた。	3.個人活動中・見守りあり	なし	見守り体制は整っていた。	1.いつもどおりの様子であった	鬼ごっこで鬼から逃げようと走り出した時に、本児のすぐ前を走っていた友達にぶつからないように咄嗟に走るスピードを緩めた時にバランスを崩し、右足を捻った。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	本児が良く見える位置で様子を見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	同じ鬼ごっこをしている他の幼児の様子を見ていた。	なし	園庭に６名の園児に対して２名の保育教諭が見守っていたため、体制は十分に整っていた。	
1001	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	3	7.午後	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	23									27	25	16. 4歳	2.女児	特になし。	8.その他	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左第3跡基節骨骨折　約2か月間の局所安静加療	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	特になし。	職員の危機管理意識を高める。	2.不定期に実施	3	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	3	特になし。	廊下・園庭に監視カメラを設置する	7.その他	特になし。	午睡中・後、トイレに行く際は、幼児は上靴を履くように指導する。	1.いつもどおりの様子であった	担任の先生を見つけて、喜んで駆け寄った	1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	駆け寄った園児を受け止めた際、誤って足を踏んでしまった（その時保育士は、踏んだという自覚はなかったし、園児も痛いと言わなかった。トイレ後保育室に戻って靴下を履く時、痛いと訴えた。）	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	まだ、ほとんどの園児は午睡中であり、廊下には他の保育士はいなかった。	特になし。	午睡中・後、トイレに行く際は、幼児は上靴を履くように指導する。	
1002	令和6年6月10日	1.認可	7.小規模保育事業	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	2		1	1						2	2	14. 2歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右脛骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2	1.基準以上配置	年度末で子どもたちも成長し保育もしやすい為、安全対策への意識が薄くなっていた	保育中のケガ防止のための注意喚起を定期的に行い、年度末の保育でも十分に配慮できるようにする	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	常時		保育室の何もない床での転倒の為、改善策はありません	1.集団活動中・見守りあり	保育中、ズボンの裾が長くなっていたことに気づいていなかった	常に子どもの姿をよく見て、ズボンの裾が長いことにいち早く気づき対応するべき	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	ピョンピョン両足とびで跳ねながら保育士の後をついて移動していた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	園児を隣の保育室に移動させていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育室に掃除機をあてていた	園児の裾がかかとにかかっていたことに気づけなかった	子どもの姿をよく見て、危険を伴う原因は取り除けるように細やかに配慮する	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
1003	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	92			20	20	25	27			23	22	14．2歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	●/●初診時：臀部・両足打撲 ●/●再診：右踝のやや上の骨にひび、全治二週間の診断 ●/●受診：全治1ヶ月に延長 ●/●受診：完治したとのこと	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	1＋α	1.基準以上配置	雲梯付近には複数の保育教諭がいたが、当該園児を見ていなかった。	水分補給や片付けの際保育教諭は、園児が各遊具から完全に待機場所へ移動したことを確認してから遊具から離れる。待機場所で園児に水分補給を行う保育教諭はお茶タイムの間、園児が待機場所を離れないよう指導する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	なし	1.集団活動中・見守りあり	水分補給のために園児の移動を促すため、当該遊具の見守りが手薄になった。	水分補給や片付けの際保育教諭は、園児が各遊具から完全に待機場所へ移動したことを確認してから遊具から離れることに加え、遊具付近に職員を一人配置し、園児が遊具に戻ってこないよう全体を見守る。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	水分補給のアナウンスと音楽が流れ、周囲の園児が待機場所へ向かっていたが、本児は雲梯付近で遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	雲梯の付近にいた職員は他の園児の対応や清掃をしており、当該園児を見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	水分補給時間帯のため、ほとんどの職員は待機場所で園児にお茶を飲ませていた。雲梯付近にいた他の職員は近くにいた他の園児を待機場所へ移動させるため声掛けをしていたが、当該園児への声掛けはなかった。	遊具付近に残っている園児を確実に待機場所まで連れて行かなかった。	各遊具の見守り担当者はシフトにより固定する。担当者は園児が待機場所に移動したことを確認してから遊具を離れる。お茶休憩中は園庭に職員を配置し、園児が遊具に戻ってこないよう見守る。	
1004	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	20									2	2	16．4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	シッポに気が取られ 他児と接触転倒する	保育士の見守り時の配置の見直し 侵入防止ガードの設置	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		ガードの設置 遊具の位置の変更	1.集団活動中・見守りあり		遊具の位置変更ガードの設置。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	ふだんより活発に動いていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	本児が接触した遊具周りなど走って近づいては危ない所を子どもたちへ伝える事。事故予防の為その場所付近で見守る。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	職員会議で危険個所の確認職員配置等再発防止へ向け確認する	特記事項無し	子どもたちの遊ばせ方 伝え方 見守り時の配置場所の確認	
1005	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	3	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	35	1	4	8	8	7	7			16	16	15．3歳	1.男児		8.その他	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷による歯の脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施		2.基準配置		職員の目が届くように職員間の連携を行うよう、周知確認を行った。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	コンビカーを使用する対象年齢を守れていなかった。	対象年齢の子どもが使用できるように職員に周知確認を行った。	7.その他		三輪車を含め、年齢に合ったペースで遊びが出来るように、場所の配置を見直した。また、スピードが出すぎないようなコースへと変更した。	1.いつもどおりの様子であった	三輪車より、コンビカーの方がスピードを出すことが出来るため、好んでコンビカーを選んで遊ぶことも多かった。	4.対象児の動きを見ていなかった	担任は、クラス周辺で、登所してくる子どもや保護者の対応を行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	三輪車やコンビカーで遊んでいる子どもたち全体を見守っていた。対象児が転倒した瞬間は見ていなかった。		年齢や発達に合った遊具や玩具で遊べるように、指導や配慮を適正に行う。	
1006	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	6	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	8									2	2	17．5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置		職員会議で今回の事故を振り返り、今後の再発防止について話をした。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		跳んで着地するのではなく、止まって降りることを徹底するとともに、着地地点にマットを敷く、側に付くなどし、安全に使用できるようにする。	1.集団活動中・見守りあり		活動や子どもの状態に合わせて、準備するコーナーや遊びを考慮し、安全に保育を行う。	1.いつもどおりの様子であった		3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	全体の遊びを見ながら本児にも目を向けていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	本児の遊びを見ていたが、至近距離ではなかった。		トランポリン使用の際には、側に付く。	
1007	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	16				7	9				3	3	15．3歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左脛骨骨折、左足間接捻挫	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	・事故が起こった際の3名の職員の見守りの位置は適切であったか？ 理由）事故が起こった瞬間は、誰も目撃できておらず、斜面で遊ぶこどもに対する注意が行き届いていなかった。	・職員の適切な見守りの位置について、特に自由保育になる時間帯のこども達の遊び方に留意しながら、危険度が高い場所の視認性を確保できる位置を職員間で共有し、日々の保育で実践する。	1.定期的に実施	1回/週	1.定期的に実施	4	1.定期的に実施	1回/月	・現状の斜面は、こどもたちとって恰好の遊び場であり、ストレス発散につながっており、喜ばれているが、転倒や接触による事故のリスクもあり、より安全面に配慮をする工夫が必要であると考える。	・園庭設計の専門業者に、斜面の形状の長所を活かしながら、こどもの行動心理に基づいてより安全に事故を防げる園庭の在り方を再検討する必要がある。	3.個人活動中・見守りあり	・4月から園庭を使い始めたばかりで慣れていない3歳児が、ルールを守って正しく園庭で遊ぶことが可能なのか！？	・斜面を滑るときはかならずお尻をつけてすべることを徹底させる。 ・斜面を滑るエリアをカラーテープで色分けしているが、このルール厳守を徹底させる。 ・日々の保育を通じて、子供たちの様子を感じながら、ルールを守って正しく遊べないと判断した場合は、一時的に斜面利用を禁止する必要がある。	1.いつもどおりの様子であった	斜面で接触した園児同士が追いかけっこをしていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	斜面に背を向けたかたちでの監視になっていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭の方を向いていたが、斜面から遠い位置からの監視になっていた。他園児とのかかわりに注意を取られて、接触時の状況を把握できなかった。		・職員の適切な見守りの位置について、特に自由保育になる時間帯のこども達の遊び方に留意しながら、危険度が高い場所に対して視認性を確保できる位置を職員間で共有し、実践する。 ・突発的に、適切な園児の見守り位置での監視が難しいと判断される場合は、斜面利用を一時的に禁止にする。	

No	初回掲載年月日	概要：認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期：月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制：発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳：0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故：年齢	性別	特記事項	事故状況：発生時状況	事故の転帰	死亡：死因	負傷：負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析：ソフト面：マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面：施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面：教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面：対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
1008	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	5	8. 夕方（16時頃～夕食提供前頃）	1. 施設敷地内（室内）	7. 異年齢構成	18	0			6	7	5	0		1	1	16. 4歳	2. 女児	なし	2. 室内活動中	1. 負傷		6. その他	2. 顔面（口腔内含む）	外傷性歯牙脱臼（上顎前歯2本）、口唇裂傷	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	12	2. 基準配置	事故の発生は、園児が保育室内で走っているのを保育者が止めることができなかったことに起因すると考えられる。	保育室内では走らせないことを周知徹底する。危機管能力の向上に努める。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12		転倒による事故を想定し、原因になるものが無いか常時チェックする。	3. 個人活動中・見守りあり		全職員で延長保育を担当しており、職員が異年齢の園児の対応に慣れていなかったことから、園児の特性を理解している職員が担当する。	3. いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	延長保育時間に起きた事故であり、通常の保育・教育の時間と比べ活発に活動していたと考えられる。	4. 対象児の動きを見ていなかった	延長保育時間のため、担当職員が当園児の行動特性を熟知していなかったといえる。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員は、0・1・2歳児を担当、園バスに添乗、翌日以降のクラスの準備や事務作業を行っていた、保護者のお迎えに対応していたため、見ていなかった。	事故発生時の担当職員は０歳児担当の職員であり、異年齢の園児の対応に慣れていなかったといえる。	延長保育時間において、園児の特性を理解している職員が担当する。	
1009	令和6年6月10日	2. 認可外	18. その他の認可外保育施設	3	2. 午前中	3. 施設敷地外（園外保育先・公園等）	7. 異年齢構成	19	0	6	6	4	2	1	0		4	4	14. 2歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢（足・足指）	骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	1	1. 基準以上配置	安全管理マニュアルに遊具の適正年齢の確認が記載されていない。	園内での確認ルール化	1. 定期的に実施	12	3. 未実施		1. 定期的に実施	12	対象年齢の確認ができていなかった	園児がその遊具を使いたがっても、対象年齢から外れている場合は使用しないようにする。	1. 集団活動中・見守りあり	園児一人一人に付き添うことは困難	年齢幅が広い異年齢活動を行う際は、遊具のない公園で活動する、もしくは室内保育を行う。	1. いつもどおりの様子であった	普段と変わりなく遊び始めた	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	対象児が遊具を昇っている下で、もう一人の園児を見ていたが、対象児が落下する瞬間に手を伸ばし受け止めたが、勢いによりしりもちをついた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	活動全体を見守っていた。	普段と違い、春休み期間のため一時利用が多く、注意がばらけてしまっていた。	保育士の加配ができないのであれば、上記のような状況であれば違う場所での活動を検討すべきだった。	
1010	令和6年6月10日	2. 認可外	16. 企業主導型保育事業	6	2. 午前中	1. 施設敷地内（室内）	3. 2歳児クラス	14									8	8	14. 2歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢（腕・手・手指）	左尺骨幹部骨折 左橈骨骨幹部骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施		2. 基準配置	職員配置人数は適切であった為、遊びを見守る職員の配置の見直しや安全対策に関する研修会の開催（内容や回数）の見直しを行う必要があります。	事故予防の為に大型玩具の使用方法や起こりうる危険を取り上げて、職員でどのように取り組んでいくのかを話し合う機会を持ちます。また、●●●様の巡回視察や、外部の保育に関わる安全管理などの評価機関に依頼し、想定される遊びや事故、その対応策をアドバイスいただき、その内容を園で実施していきます。事故発生後に、改めて●●●様へ巡回指導の正式申込をさせていただき、保育園の安全管理研修（外部講師）についても計画させていただいております。安全管理研修は、全保育士職員が対象で、保育中の安全管理や事故予防、事故後の対応などを専門的に講義していただきます。日程調整中になりますが、●月頃に開催予定になります。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	設備（遊具）的には問題はありませんでした。壊れた箇所などもありませんでした。	今後、巡回視察や外部機関に評価をして頂く際にも、アドバイスや改善事項のご意見をいただき改善していきます。日頃より遊具などについてもアルコール消毒など定期的に行っておりますので、その際にも不具合がないかなどの確認をしっかりと行って参ります。	1. 集団活動中・見守りあり	20×20×60立方体のブロックの回りにマットなどは敷いていませんでした。また、遊び中の保育士の目が行き届いていない状況もありました。	バランスを取りブロックの上を渡る事は、体操教室でも頻繁にしていますが、必ず保育士が目を離すことなく見守り、至近距離に配置し、子どもを支えられるようにすることや、体操教室と同様に危険が想定される箇所には安全マットを準備するなど、想定される危険に対して準備を行っておく必要があります。	1. いつもどおりの様子であった	●月●日（●）の朝の連絡ノートに、●曜日に自宅のソファーで飛び跳ねていて左腕が抜け、病院にいった後トランポリンをして左手首をねんざしたと報告がありました。●曜日はテーピングのようなものを巻いて登園していて園でも腕を動かさないようにしていました。保護者からは走り回ったり、外で遊ぶのは控えて欲しいと連絡ノートに書いてありました。翌日の●曜日には受け入れる際に保護者からもう大丈夫ですと言われましたので、戸外遊びを予定していたので連れて行ってもいいのか確認したところ、大丈夫との返事がありました。その後の３日間はいつも通り変わりない様子で過ごされていました。	4. 対象児の動きを見ていなかった	立方体のブロックの橋の側にはいたが、視線が反対側の遊具に向いていたので転倒した瞬間は見ていませんでした。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	サーキット遊びのそれぞれの遊具に付き、子どもを見守っていました。跳び箱の山に１名とプールバーの渡り道に１名を配置していました。	運動遊びをする時は、いつも以上に子どもが活発に動きます。また、子どもの月齢や発達によって動きも様々なので同じ遊びでも援助がいる子と、そうでない子がいることを把握する必要があります。援助が必要な子は特に見守り、転倒しそうになっても手を差し伸べられるように構えておく必要があります。また、遊びの中で起こりうる事故の想定も事前に職員同士で考え、その対策を行っておく必要があったと考えます。	子どもの動きを予想して、起こりうる危険を予測し、その場所に配置されたら責任を持って子どもの援助にあたる必要があります。また、外部機関からのアドバイスや研修会、同様の事例共有などを今後行っていきます。安全管理に対しての全保育士職員の意識を改めて高めていく教育が必要だと考えます。	
1011	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	4	2. 午前中	2. 施設敷地内（室外・園庭・校庭等）	5. 4歳児クラス	10									1	1	16. 4歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢（足・足指）	右脛骨骨幹部骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	3	2. 基準配置		保育所内では、事故予防に関する研修をアクシデントが起きた時など不定期にしか行っていなかったので、職員会議等を利用し、定期的に事故防止の研修を行っていく。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	12	マットは敷いていたが、雲梯の高さが高め（140㎝の高さの所に、5㎝のマットを敷いていた）だった。	雲梯は左から右へ高くなっているので、個人や年齢に合わせて使用する場所（高さ）を考慮する（本児の身長は99.4㎝）。マットの敷き方も見直す。	3. 個人活動中・見守りあり	本児から補助はいらないと言われ見守っていたが、本児の経験や技術を考慮して補助すべきだった。	子どもの身長、運動発達に応じた補助の仕方や、遊具の使用方法について、改めて園やクラスで話し合う。	3. いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	雲梯を２回補助ありで行う。３回目で保育士の補助を断り、一人で雲梯にぶら下がり、進もうとしたところ転落する。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	４歳児１０名と共に、園庭に出て雲梯の援助をしながら全体の見守りをする。２回目までは本児の体を支え補助していたが、３回目に「大丈夫」と言われたため傍で見守り、対象児が転落する際に受け止められなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	４、５歳児クラスのため、１名は５歳児の部屋遊びを見守る。もう１名は給食の喫食数の変更をするため、調理室に行っていた。	高さがあり、怪我をする可能性がある雲梯を保育士一人で見ていた。	個々の運動発達に応じて、援助の必要な子どもには、必ず保育士が側について補助をする。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
1012	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	2	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	94	5	8	16	18	23	24			29	29	14.２歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右脛骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2	1.基準以上配置	今回保護者から情報提供があるまで、当該児童が骨が折れやすいという情報を把握できていなかった。	保護者からの情報を全職員に周知する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	床が固く、ひざまづいた際に思わぬ衝撃となった。	足元にマットを敷くなどの対応をする。	1.集団活動中・見守りあり	段があることにより、思わぬ事故につながる。	なるべく段を避け、マットやゴザの上に座るようにする。	1.いつもどおりの様子であった	他クラスの発表を見るため、高さ２７cmのひな壇に座っていて、立ち上がった時に脱力したようにひざまづいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	すぐそばで見ており、すぐに助け起こし、様子を確認。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	クラスの子どもたちがまとまって座っており、職員は全員そばにいて見ていたが、転ぶというよりは「膝をついた」という認識であった。	今回保護者から情報提供があるまで、当該児童が骨が折れやすいという情報を把握できていなかった。	今後は常に当該児童を重点的に見ながら保育する。	
1013	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	2	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	191	4	15	26	37	58	51			31	31	17.５歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	2.顔面(口腔内含む)	鼻骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施		1.基準以上配置	担任は指導に気を取られ、安全に対する意識が低かった。外部の研修を受けた者と受けていない者がいるので、認識にばらつきがあった。対応マニュアルがあったにもかかわらず、それを生かせていなかった。	全体を把握して指示できる職員をできるだけ配置する。危険について気がついたことをすぐに伝えるとともに全職員に共有する。安全についての意識を高める。職員会議にて報告することで、職員全員が常に安全についての意識をもてるようにする。また、事故予防についての町内研修を、計画中。新たにチェックリストを作成し、誰でも適切な対応ができるようにする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施		レンガ歩道の縁が危険である。	プランターなどを置いて、子どもたちが勢いよく通らないようにするとともに、子ども自身が意識できるように注意を促していく。	1.集団活動中・見守りあり	縄跳びの指導に注意が向き、危険に対しての危機感が足りなかった。	起こりうる事故や危険について予測し、回避できるよう遊び方や内容を再確認する。園庭の混雑を避けるために活動時間を改善する。	1.いつもどおりの様子であった	短縄跳びの練習後、担任から声をかけられ、大縄跳びをしていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	縄跳びに対する意欲や自信がもてるよう、跳ばずに走り抜ける遊びを提案した。大縄跳びの片方を担任が持ち、片方を朝礼台の足にくくりつけていた。縄を走り抜けやすいように子どもの動きを見ながら縄を回すことを心がけていたが、足が引っかかったときに咄嗟に持っていた縄を放すことができなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	大縄跳びで遊んでいる以外の子どもたちに対し、短縄跳びの指導の補助をしていた。	他クラスの遊びとの関連で、レンガ歩道に近い場所で大縄跳びを行っていた上に、レンガ歩道に向かって走り抜けるようにしてしまったため、事故につながった。	活動内容や場所を考慮し、子どもの動きを予想し、連携しながらより広い視野で見守るとともに、安全に遊ぶことができるように、場所や距離、向きなどを考えて活動する必要がある。	
1014	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	8	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	17									12	11	16.４歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	3～5	1.基準以上配置	●月以降のヒヤリハットが少なくなっていたため、●月●日の全体会で意識を高めるように話していたが、危機管理が甘かったと感じられる。	もっと職員一人一人の危険に対する意識を高めなくてはならない。チェックシートを定期的に行い、意識を高めていきたい。	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	48	2.不定期に実施	5		設備面での不備はなかった	3.個人活動中・見守りあり	交通安全教室があったため、準備のために園庭にいた職員が移動する時だった。	久しぶりであったこともあり、遊具の使い方を子どもたちと確認すればよかった。	1.いつもどおりの様子であった	久しぶりに園庭で遊べることが嬉しく、船の遊具の先からジャンプをして遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児と離れたところで、遊具からジャンプしている場面は見ていたが、他の子どもに呼ばれ、そちらを見てる間に事故が起こった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当クラスの子どもに呼ばれ、砂場に行ったり、交通安全教室の準備に遊戯室に移動しようとしたりしていた。	ジャンプしていることを見た時点で、危険だと認識し、やめさせるべきだった。	危険察知の意識を高め、危険と感じられる場面では、事前にやめるよう言葉をかける。	
1015	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	7	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	22									2	2	16.４歳	1.男児	卵アレルギー	5.食事中(おやつ含む)	1.負傷		6.その他	2.顔面(口腔内含む)	卵アレルギー	6.アナフィラキシーによるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	マニュアルの徹底が不十分であった。配膳の仕方についての詳細を記したマニュアルがなかった。	マニュアルの徹底。配膳手順の詳細を記したマニュアルの作成。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	13	1.定期的に実施	12	通常、給食は食器による提供だが、夏休み中は弁当の形での提供	提供するまでのそれぞれの行程で献立や個人カード、弁当箱のふたを開けて実際の食品とを照らし合わせて確認することの徹底。	6.食事(おやつ)中	夏休みになり、普段と配膳室を担当する職員が異なっていた。	できるだけ同じ職員が担当できるようにするとともに、マニュアルを徹底し、誰でも間違いが起きないような体制を作る。確認を2名以上の職員で行うことの徹底。	1.いつもどおりの様子であった	提供された食事を食す。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	食事の内容の間違いに疑いを持たず、そのまま提供し、喫食の瞬間該当児から目を離しており、該当食材の喫食を止められなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	弁当に白飯を入れる際、同時に2つの弁当箱のふたを開け、白飯をよそった後、ふたをした際、ふたが入れ替わっていることに気付かなかった。	配食までの過程で弁当のふたを開けて内容を確認されておらず、間違いに気づかなかった。また、それぞれの行程で複数名での確認がおろそかになっていた。	喫食までのそれぞれの行程で献立や個人カードと実際の食品との確実な確認を何度も行う。他児との入れ替わりが起こらないよう、1つずつ確実に配膳する。	
1016	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	8	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	33									2	2	17.５歳	2.女児	なし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2	2.基準配置	事故発生時には保育教諭２名で保育。事前に活動内容や流れについて確認。通常は４歳児担当ではない保育教諭もこの日は保育をしていたが、日頃から保育に入ることがあった。	危険を予測した上で、保育内容によっては保育教諭の配置を増やす。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	毎日	特になし	遊ぶ前に床の状況を確認する。	1.集団活動中・見守りあり	３２人の内、約１０人ずつかけっこをしていた。スタートには３２人立っていて不規則に出発したため、隣との間隔が狭く、走り出しにくい状況であったように思う。（１名は、この活動は不参加）	少人数で、隣との間隔を十分取って、活動を行う。	1.いつもどおりの様子であった	いつもと変わりなく、体を動かして遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	主で保育をしていた。スタートの合図をし、走っている園児が転倒する瞬間は見えたが、転倒を防ぐことはできなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他児が泣いていたため、一緒に手をつないで、走っていたところ、本児が転倒する瞬間は見えたが、転倒を防止することはできなかった。	通常、預かり保育を担当している保育教諭がこの日欠席。急遽、他年育次の保育教諭が保育にあたる。	近距離で見守り・声かけを行う。安全に活動できるよう、職員を追加で配置する。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰
1017	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	8	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)													18.６歳	1.男児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷
1018	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	7	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	14	3	2	2	3	2	2			3	3	18.６歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷
1019	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	35				11	12	12			4	4	16.４歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷
1020	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	24									2	2	17.５歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷
1021	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	26									3	3	17.５歳	1.男児	無し	2.室内活動中	1.負傷

No	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策
1017		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨折の疑い	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	3		保護者に対して、園庭遊具の使い方の周知が不十分だった。	表示や声かけ等で、降園後の遊具の使い方や保護者の見守りについて周知していく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	１２＋１	1.定期的に実施	24	自由に遊べる遊具があること。	遊具を撤去する。撤去までの間は、遊び方について保護者へも周知できるようにする。
1018		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	不全骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2	1.基準以上配置	おやつ後の降所前の自由時間で子どもたちの気持ちも高ぶり、規範意識が薄れる。	おやつ後の時間は落ち着いて遊べるように集団遊びや静かに遊べるものを考える。運動など体を動かして遊ぶ場合は安全意識を持ち、職員の見守りを徹低する。	1.定期的に実施	6	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	特になし
1019		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置		安全研修の内容の定期的な再確認。ヒヤリハット記録での事象対策等職員間の周知。	1.定期的に実施	6	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		特になし
1020		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	6	2.基準配置		基準通りの配置であった。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	48		転倒の際、つまづいた物や危険な物は特になく、溝や凹凸などもなかった。
1021		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左前腕骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	4	2.基準配置	なし	なし	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	48	なし	なし

No	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
1017	7.その他	降園後の園庭遊びについて、保護者への注意喚起が不十分だった。（保護者の見守り、遊具の使い方について）	遊具の使い方について、メールや表示等を活用し、保護者へも周知する。	1.いつもどおりの様子であった	活発で体を動かして遊ぶことが好き。この日も母親・弟と園庭を走って遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	降園後の事故のため、職員不在	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	降園後の事故のため、職員不在	降園後の遊びについて、保護者の見守りに任せていた。	降園後の遊びについても、危険な遊び方をしている場合には声かけをしていく。	
1018	3.個人活動中・見守りあり	年長児は縄跳び、フープなど運動エリアで行っていたが、小ステージから跳びながら縄跳びをする等危険意識が低かった。	運動するエリアについて子どもが予想外の動きをすることを想定しながら安全に遊べるような場所を設定する。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	運動会で行う縄跳びについて上手できるようになり、跳ぶ形を変えながら縄跳びを跳んでいた。高さ20cmの小ステージがあり、そこから跳びながら降りようとし縄に引っ掛かり、転倒した。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	他にも運動エリアで主に年長児がフープをして遊んでいた。高さも２０cm程度で危険度が低いと思われ注意等声かけはせず、見守りをしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の園児の対応をしていたため、見ていなかった。	本来の縄跳びの安全な使い方ではなかったことと高さ２０センチという低いステージだったため、危険度は低いと考え安全意識が低かった。	おやつ後の自由時間は特に安全意識を高めて子どもたちの見守りをする。	
1019	1.集団活動中・見守りあり	物的危険度はなかったため園児遊びへの見守りの職員の危険意識が低かった。	職員が活動中の園児の見守りと事故防止のための安全意識の向上について再度確認する。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	対象児、加害児ともに遊びに夢中になり、興奮状態だった。	4.対象児の動きを見ていなかった	他の園児に対応しており事故発生を見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の園児に対応しており事故発生を見ていなかった。	自由あそびまた帰り前の時間で園児も気持ちの解放感から規範意識が薄れていた面もあった。	職員間で連携を取り、園児全体の見守りを徹底する。鬼ごっこ等のルールのある遊びができるように日頃から多く取り入れ遊べるようにしていく。	
1020	1.集団活動中・見守りあり		本児の履いていた外靴はサイズが大きかったり、脱げそうになったりすることはなかった。また、かかとを踏んで履いていなかった。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	芋植えを楽しみにして、早く芋を植えたい気持ちで焦り、走って畑へ向かい転倒する。	4.対象児の動きを見ていなかった	他の子どもと畑に向かっていたため本児の転倒した瞬間を見ていなかったが、表情が曇っていたので声をかけると、転倒したことは言わず「芋が植えれなかった」と答えたため芋を植えるよう対応した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	グループ（5人）ごとに順番に芋を植えていたので、それ以外の園児を部屋で保育していた。		畑へ向かう時は走って行かないよう、次の行動が落ち着いてできるような言葉をかける。	
1021	1.集団活動中・見守りあり	なし	なし	1.いつもどおりの様子であった	活発で運動遊びを好む。ドッジボールも積極的に楽しみ、競争心も高い。事故発生前も何度もボールを夢中で追いかけていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	ドッジボールコートの対角線上で２人の保育士が活動を注視しながらゲームの進行や声掛けを行っていたが、転倒に手を差し伸べることができる位置ではなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	1名同じ場所にいたが、少し離れた場所で他の作業をしており、注視はしていなかった。時折活動の様子は見ており、危険を感じる場面では気づいたとき声をかけていた。	職員の危険に対する予測が十分ではなかった。子どもたちへの安全に対する声掛けが十分ではなかった。	1.ルール説明をする際に、ボールを追いかけすぎるとどうして危ないのかということをわかりやすく説明したり、友だちと順番に投げたり譲り合うなどルールを子どもたちと一緒に考えていく。 ２.夢中になって過度にボールを追いかけていたり、複数名でボールを追いかける場面では転倒等のリスクがあることを常に想定し声掛けする。 ３.怪我につながるような危険が予想されたときは、ゲームの途中でもその都度声掛けする。場合によってはゲームを中断してルールや安全な遊び方について確認をする。 ４．遊びのあとや帰りの会などで遊びを振り返る際に、安全な遊び方についてよかった姿や気をつけた方がよかったことなど話し合う機会を設け、子どもの安全に対する意識が高まったり安全な遊び方が身につくようにする。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
1022	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	17			5	12					3	3	15.3歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷性歯の脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	子ども同士の距離感への抵抗	お友だちに触れられ抵抗感のある子への対応	1.定期的に実施	365	1.定期的に実施	365	1.定期的に実施	365	狭い空間での遊びを把握する。必ずすぐ対応できる位置に保育者を配置する。	ハウスの中がどの職員からも確認できるようにする。	1.集団活動中・見守りあり	ハウスの向きを考えどの職員からも入り口を確認できるようにする。	ハウスの入り口から職員が手の届くところで見守る	1.いつもどおりの様子であった	友だちに対して愛着行動を示すが、突然後ろから抱き着いたりするので、びっくりされることがある。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	ハウスの近くにはいたが、咄嗟の行動を止められなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	広い園庭にいたので、担任以外は対象者の動きを見ていなかった。	友だちに対して、急に抱き着いたりすることがよくある。	急に抱き着いたりしないように、普段から声掛けをしたり、近くで見守っていく。	
1023	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	4	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	7									2	2	17.5歳	1.男児	特になし	8.その他	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	上唇左側裂傷、上前歯(中央2本のうち左側)の脱臼	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	数	1.基準以上配置	・本児及び事故要因となった他児の行動(移動)を想定し、各所に職員を配置することができなかった	・職員会で本件に関する全員周知 ・何かをしながら子どもの援助をすることのないよう配置する	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	240	・死角があり、掃除しながら子どもの動きを把握することが難しい	・合同喫食の中止 ・行う場合は子どもが保育室に戻ってから片付ける等の手立てを行い、ソフト面でカバーする	1.集団活動中・見守りあり	・掃除をするために机を端に置いていたため走りやすい環境となった	・コロナ禍同様、各クラスでの配膳・喫食とし、机運びを中止した	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	・当日、参観日があり嬉しさから興奮状態だった・日頃より、移動手段が小走りだった・自分が先にしたい競争心があった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	・掃除と並行して見守りを行っていた ・5歳児なので、これくらいはできるだろうという過信があった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	・保育室で他の子どもの(着替え・歯磨き等)見守りを行っていた	・すべてが同時進行(着替え・歯磨き・掃除等)だった	・片付けや歯磨き等危険が生じる恐れのあることは他の作業と並行しない ・日頃から歩いて移動することを指導する ・運動遊びをし、動きたい気持ちを満たしていく	
1024	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	7	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	25				10	10	5			2	2	16.4歳	1.男児	なし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左第5指骨折	4.玩具・遊具等施設・設備の安全上の不備によるもの	1.あり	2.不定期に実施		2.基準配置	–	けがをした子どもへの対応、運動コーナーの組み方の話し合いをした。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎日	三角の飛び石からマットに飛び移った際に、マットが予想以上に柔らかく、体を支えるために強く手をついたことが原因と思われる。	マットの使い方、運動コーナーの組み方を考える。	1.集団活動中・見守りあり	–	遊戯室にいる職員の人数確保。近くのコーナーも見守りつつ、全体も見るようにする。	1.いつもどおりの様子であった	飛び石状の運動コーナーで遊んでいて、横に敷いていたマットに飛び移ろうとして、手をついたとき負傷	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	担任は遊戯室にいなくて他の室内活動中の見守りをしていた。痛みを訴えてきたので冷やして様子をみる	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	となりのコーナーについていた職員は、本児が転倒した時、すぐに起き上がり遊びだしたのでケガの様子を見に行くことはしなかった。	–	痛みを訴えてきた時、腫れなどの観察をより丁寧に行う。	
1025	令和6年6月10日	1.認可	4.地方裁量型認定こども園	5	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	11									2	2	14.2歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	2.顔面(口腔内含む)	歯茎骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	6	2.基準配置	その他特記事項なし	職員会の時に各保育室よりマニュアルを持ち寄り、ヒヤリハットの案件や避難訓練の想定に合わせたページを確認する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	随時	その他特記事項なし	今後も整理整頓を心掛け、危険や異常に気付きやすくする。	3.個人活動中・見守りあり	静的な遊びの環境として、ブロックと絵本を用意していたが、遊びが見つかりにくい様子であった。	ブロックと絵本だけでなく、子どもの様子に合わせ、遊びたくなる魅力的な環境を作る。	1.いつもどおりの様子であった	他の子どもが何をしているのか遊びを見て歩いていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	ブロックのそばに座って位置し、遊ぶ他児の様子と合わせて見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	絵本コーナーの近くに座って位置し、他児が「読んで」と選んだ絵本を受け取り、数名と読もうとしていた。	本児が遊びたくなるような環境ではなかった。	遊びに誘う言葉をかけたり、興味の持てる遊びが選べる環境を用意したりする。	
1026	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	5	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	16									3	3	13.1歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	6	2.基準配置	子どもが分散している時の職員の立ち位置や動きが適切ではなかった。	子どもが落ち着いてから、職員は次の準備を行う。	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	48	隣の部屋に机を取りに行っていた。	机や椅子の出し入れをしながらでも子どもの動きが確認できる所へ片付けられるように収納する場所を変える。	1.集団活動中・見守りあり	机を出したままその場を離れた。	その場を離れる際には、他の職員に声をかけ他の職員が側にいるようにし安全を確保する。	1.いつもどおりの様子であった	部屋の中で歩行を楽しんでいた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	おやつで使用する机を1台出し、もう1台を取りに行っていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	絵本の読み聞かせをするため、他の子どもを集めていた	・朝のおやつの準備は、1名の保育士がおやつを準備している間、2名の保育士で全ての子どもを保育しなければならなかった。子どもが分散しているにも関わらず、読み聞かせの子どもに集中し本児の動きを把握していなかった。	・保育室内での保育者の立ち位置を確認し、子どもたちの状況把握に努めながら保育を行うことを確認した。	
1027	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	5	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	18									1	1	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	6	2.基準配置	全体に目を向けることができていなかった。	子どもの動きを確認しながら、全体が見える位置で援助していく。	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	48	ブロック遊びの近くで戦いごっこをしていた。	ブロック遊びのコーナーを設置する。	1.集団活動中・見守りあり	部屋の中で走りまわったり等する子どもへの対応や配慮が足りなかった。	朝の準備の動線を考えると同時に準備の終わった子どもの遊び方を考える。	1.いつもどおりの様子であった	朝の準備を終え、座って遊んでいた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	朝の準備をしている子どもの援助をしていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	一人で保育をしていたため、他の職員はいなかった。	他の子どものかばんの準備等の援助をしており、全体の様子が把握できていなかった。	全体の様子を確認しながら援助を行っていく。	

No	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項
1028	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	19									3	3	17.５歳	2.女児	骨形成不全の既往歴あり。骨折しやすい状態である。
1029	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	11									2	2	15.３歳	2.女児	
1030	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	22			2	8	7	5			3	3	15.３歳	1.男児	
1031	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	6	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	34					17	17			4	4	16.４歳	2.女児	特記事項なし

No	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	負傷 受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策
1028	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左脛骨遠位部骨折左腓骨遠位部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置		危機管理マニュアルを再度整備、事故防止についての研修等にも積極的に参加し、園内研修等も実施しながら職員に周知する。
1029	2.室内活動中	1.負傷		6.その他	4.上肢(腕・手・手指)	左側腕肘関節のひび	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	保育士の子どもへの理解、潜在危険への理解と把握が不十分だった。	保育のチェック表を活用し、日々の保育の振り返りや評価反省をしながら保育を行う。
1030	2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	乳中切歯損傷	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	異年齢での集団保育中であった。	基準以上の職員で保育を行っており、職員配置上では問題なかったが、異年齢での集団保育中であり、それぞれの発達や動きを把握して見守る必要があった。
1031	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	１～２	1.基準以上配置	・業者が知っている保護者だったので、近くで見ることができる木の柵と外デッキに集まったため。	・保育士は、子どもたちの様子を把握し、いつもと違う状況の時には、近くに行き、危険のないよう声を掛け、見守っていく。

No	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策
1028	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		遊戯室は広く、濡れると滑りやすくなる事を再度クラスで話をし説明する。	1.集団活動中・見守りあり		活動が終わった後で、子どもと保育者数人ずつでクラスへ移動している最中の出来事であった為、保育者同士声を掛け合いながら、全体へ目を向け子どもから目を離さないようにする。
1029	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	遊びの状況から職員の配置を考える必要があった。	職員同士が声を掛け合い、遊びの見守りの死角をなくす。	1.集団活動中・見守りあり	走ると危ないことを伝えることができる立ち位置で遊びを見守る必要があった。	子どもへの的確な対応、指示や迅速な指導ができる立ち位置を確保する。
1030	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	対象児の前方でN児が転んだ箇所が、マットとフローリングの境目であった。少しの段差や、摩擦の違いでも転倒のリスクを高めた可能性がある。	園児の動線上にマット等、転倒のリスクを高めるようなものを置かないようにする。	1.集団活動中・見守りあり	片付け中、歩きながら子どもが同じ場所に集まるような状況であり、園児同士で衝突するリスクがあった。	歩いている状況でも園児同士の衝突のリスクがあることを職員間で確認する。
1031	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	・知っている保護者を見ようとして外デッキに乗っていた。	・特に複数の子どもが同じところにいると、危険な場合があるので降りるように声掛けをする。	1.集団活動中・見守りあり	・担任は園庭にいたがすぐ近くにいなかった。	・園庭にいる子どもたちの行動を把握し、危険なことのないよう注意を払っていく。

No	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
1028	1.いつもどおりの様子であった	健康状態良好	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	遊戯室に残り、雑巾がけをしていた数人の子どもたちに対し保育者が全体をみていた。本児の近くにはいたが、ケガが起きた瞬間は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	雑巾がけをしていた他の子どもを見ていた為、本児のケガの瞬間は見ていなかった。		複数担任で、活動の部屋を移動する際には、自分が移動する事を伝え、一人が全体を見守るようになることを、お互いに声を掛け合い意識付けしながら保育をする。	
1029	1.いつもどおりの様子であった	登所時からいつもと変わった様子もなく元気に過ごしていた。友だちが走りだしたので、自分もつい走りだした。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	すぐ傍ではなかったが、視界に入る場所で対象児を含む子ども達の遊びを見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児のお迎えに保護者の方が来られたので、保護者対応をしていた。	子どもの遊びを予測し、保育士間で声を掛け合ったり、見守りの立ち位置を子どもの動きに合わせて保育したりすることで、もっと丁寧な見守りができた。	子どもの動きを予測して、保育の流れを組み立てる。	
1030	1.いつもどおりの様子であった	・転倒した他児の様子を見に行こうと近づいた。・服の裾を両手で持ちながら歩いていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児の側で動きを見ていたが、咄嗟の出来事で防ぐことができなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	対象児を含め、全体の動きを見守っていた。	対象児の歩き方から、衝突や転倒の際にかばい手が出にくいことを認識できなかった。	服の裾を持ったり、ポケットに手を入れたりする等、咄嗟にかばい手が出ない状況で歩くと危険であることを子どもたちと確認する。	
1031	1.いつもどおりの様子であった	・いつも比較的活発な方であり、特にいつも通りの様子だった。	4.対象児の動きを見ていなかった	・担任は園庭の桑の木のあたりにいた。本児のすぐ近くにおらず、動きを把握できていなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	・本児は、０歳児クラスのすぐ前のところの外デッキにいた。０歳児クラスにいた保育士は、本児が転倒したのを見た。０歳児クラスの保育士は、●歳児クラスの子ども一人と一緒に本児を起こし、担任に転倒したことを伝えた。	・外にいる担任が近くで見える位置にいなかった。	・園庭をあらゆる方面から子どもたちを見ていくよう、声を掛け合っていく。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
1032	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	14									1	1	16.４歳	1.男児	事故当日　A整形外科でレントゲンを撮り、上腕骨顆上骨折と診断される。ギプスで固定する。●月●日B病院を受診。手術はせずに、このままギプスの固定を２週間続けて様子を見る。 完治までは１～２カ月かかると言われる。 ●月●日　経過は順調。ギプスの固定で様子をみる。 ●月●日　家でギプスが外れた為、受診。 ●月●日　経過は順調。ギプスの固定で様子をみる。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	特になし	事故マニュアルの確認・再検討を行う。	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	24	柵の下にはクッションブロックを敷いているが、設置部分の金属が露出していた。	金属部分の保護	3.個人活動中・見守りあり	ブランコ付近では遊ばないように伝えていた。	先生が見えない所では遊ばないよう伝えていく。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	普段は追いかけっこをしていることが多い。柵で遊ぶことはない。	4.対象児の動きを見ていなかった	ブランコ付近で遊んでいる子に声をかけようとした際、本児が柵から手を離したように落ちる瞬間を目撃した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他クラスの園児と遊んでいた。	この日は担任が休みで、他職員が入っていた為、本児が普段と違う行動をとったのかもしれない。	園庭で遊ぶ時、１名は子どもと遊ばず全体を監視する。他職員が入る時は引継ぎを十分にしておく。	
1033	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	21				5	12	4			2	2	16.４歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘の骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	基準以上の職員配置はできていたが、事故発生時、他児の対応をしており、本児に目を向けれていなかった。	事故発生時の状況を改めてもう一度全員で振返り、見守りの死角が生じないようにする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	マットの上で遊ぶ際には上靴を脱ぐ指導をしていたが、靴下の状態でマット外に出たため、滑って転倒した。	マット外に出る時は上靴を履くというルールが身につくよう保育をする。	1.いつもどおりの様子であった	友達と一緒にレゴブロックをして遊んでいたが、別の遊びに移ろうと思ったのか、移動する際少し小走りになったよう。上靴を脱いでいた為、くつしたのままのこともありバランスを崩して転倒。	4.対象児の動きを見ていなかった	同じ部屋にいたが廊下側におり、転倒時に気づくことができなかった。転倒後本児に駆け寄った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	クラスを移動し、保育に入るが、転倒していることに気付き声をかける。担任が傍に行ったので、全体を見ながら保育する。	それぞれが他の児の対応をしていたため、本児が転倒しそうな状況にあることに気付けなかった。	保育士が２名いたが２名とも転倒時に児に目が向いていなかったため、役割を明確にし、死角が生じないような保育を徹底する。	
1034	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	45				22	23				4	4	17.５歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足関節外側靭帯損傷・右腓骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	特になし	基準に則った、職員配置をしていた。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	事故現場について、地面の凹凸はなく、ぶつかる様な物もないため、危険な個所はなかった。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	園庭でスキップをして遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園庭で少し離れたところから見守っており、転倒に気づきすぐに対応した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	対象児以外のクラス内の児の対応をしていた。	特になし	特になし	
1035	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	2	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	29									2	2	17.５歳	1.男児	特になし。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	モンテジア脱臼骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	－	今回は本児の不注意で転倒しているが、改善点としてクラス全体で戸外遊びの約束を再確認した。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	－	現場は見通しの良い平らな地面だった為、改善点なし。	1.集団活動中・見守りあり	－	遊ぶ前に子ども達への声掛けの徹底	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りの様子であった。体調は良好、笑顔もあった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園庭全体の見守りと職員配置を考えて、すぐ動ける場所に立っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	すぐに園長、主任に知らせる。母親に電話連絡。	職員の連携は取れており、主任や園長までの連絡はすぐに行えた。事項に関する改善点は特になし	通常通りの業務を行っていた。問題はなかった。	
1036	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	12		6	6						3	3	13.１歳	1.男児	身長約７８cm体重約８キログラム。歩行開始１４か月。低体重のため、病院でホローを受けている。発達が緩やかである。	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕手指骨折（小指と薬指の間）	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	3	1.基準以上配置	職員の保育経験の年数が浅い(１名７年目、１名３年目、１名保育経験はあるものの担任としては１０数年ぶり）ので、危険意識があまりなかったり保育の時の立ち位置が十分わかっていない面がある。	子どもをも守るときの保育士の位置の確認。子どもが転倒した際、体のチェックの仕方について職員で共通理解をする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12	施設が古く、段差も多い。通常は柵に扉がついていて、必要な時だけ開けるようになっている。あとからつけた既成の柵なので、柵の脚などにぶつける可能性もある。	柵の脚は、緩衝材で包み、ぶつけても衝撃を少なくする。	1.集団活動中・見守りあり	－	保育士の人数はいるが、どこに視点を置くかという意識が大切。全体で共通理解をしていく必要がある。	1.いつもどおりの様子であった	２歳児が移動し，同年齢の友達もほふく室に２名入っていったので、本児も付いて行った際、つまづき転倒する。	4.対象児の動きを見ていなかった	部屋に入ってきた２歳児を見て１歳児担当保育士①がA児の耳が赤いことに気づき、２歳児担当保育士③に知らせる。A児の耳を見るために保育士②がつま先を立ててほふく室に入っていく子どもたちに背を向けて座る。保育士②は他の１歳児を見ている。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の園児を見ていた。	－	移動が確実に終わってから、気になることを確認をする。子どもに背を向けない。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
1037	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	8	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	55				12	20	23			4	4	18. 6歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左側上腕骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	3	2. 基準配置	個々の遊具についての危険性や対応についての研修ができていなかった。	各遊具について、安全に遊ぶための対応について確認し、職員間で共通理解する。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	2. 不定期に実施		雲梯が少し高めの位置にある。	雲梯の下にはマットを敷く対策をしている。	3. 個人活動中・見守りあり	園児が園庭のいろいろな場所で遊んでいた。	遊びによって必要な場合は、主任等が保育の応援に入る。	1. いつもどおりの様子であった	友達と一緒に何度か雲梯に挑戦していた。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	雲梯で遊んでいる園児の様子を目で追いながら、隣の登り棒に登っている園児の対応をしており、対象児が落下する瞬間に手を差し伸べたが間に合わなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員は、それぞれ砂場、色水遊びコーナー、鉄棒近くで他の園児の対応をしており、見ていなかった	雲梯で遊んでいる園児にすぐ対応できるところに職員がいなかった。	雲梯で遊ぶ園児がいるときは、必ず職員がそばにいるようにする。	
1038	令和6年6月10日	2. 認可外	16. 企業主導型保育事業	6	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	16	0	0	0	9	2	5	0		2	2	17. 5歳	2. 女児	無	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右上腕骨外顆骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	2	1. 基準以上配置	特になし	特になし	1. 定期的に実施	60	1. 定期的に実施	60	1. 定期的に実施	60	特になし	特になし	1. 集団活動中・見守りあり	安全に関するルールはあったが、これぐらいであれば大丈夫という保育士の見通しで活動を進めていた。実際の園児の行動と保育士の見通しに乖離があり、事故が発生した。	あらかじめゲームのルールや帰還ルートを園児に伝え、保育士がお手本を見せる。また保育士同士でルール確認の話し合いを行い、共通理解をする。	3. いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	初めて行うゲームだったこともあり、園児たちが興奮気味であった	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	至近距離にいたが、ゲーム中の園児もいたため全体をみており、対応が遅れてしまった	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	ゲームの順番を待っている園児の対応をしており、見ていなかったため	全体を見ている保育士はいたが、園児の咄嗟の行動に対応できなかった。	初めての活動の際は、いつも以上に想定外の事が起こる可能性を考慮し、イレギュラーに対応できるよう職員の配置等を工夫する。	
1039	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	6	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	11									1	1	18. 6歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外顆骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	12	2. 基準配置		事故の起きいる時間帯の職員配置について再度職員間で話し、違う視点から考えられることに基づいてマニュアルの見直しが必要であるか検討し、職員の立ち位置について再度確認し声かけをしながら子どもを見守る体制をとっていった。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12		子どもの状況に合わせて机の配置等を変えたことにより、落ち着いた気持ちで行動できるようになったため、ハード面での改善策は課題なし。	1. 集団活動中・見守りあり		室内の環境の見直し、いろいろな生活や活動の中での子どもの行動を予測しながらそれに合わせて環境を変えていくようにしていった。職員の意識が変化してきた。室内で走ることが事故につながったが気持ちの面でも落ち着いて行動できるような環境、時間や空間のゆとりなどについて職員間で話し環境の見直しなどをする。子どもの状況に合わせて机の配置を変えた。	1. いつもどおりの様子であった		3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	他の職員が保護者対応をしていたため、担任は降園準備をしている3.4.5歳児を見守り・支援・声かけ等を行いながら全体を見渡していた。対象児が回りの子どもに刺激を受け、慌てて降園準備をしていたため気をつけるように声をかけたが転倒してしまう。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	保護者対応をしていた。		担任一人で対応することが多いため何かあるときには声をかけ応援体制が取れるようにしていく。職員間で声を掛け合いながら安全に過ごせるようにした。	
1040	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	6	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	97				33	28	36			10	10	16. 4歳	1. 男児	特になし	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	12	2. 基準配置	研修等を行っていたが、危機管理についての意識や危険を予測する力が十分ではなかった。	職員会議やミーティングでの危機管理についての学びを、実践に活かせるよう、もっと充実させていく。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	24	2. 不定期に実施	12	地面はバイオクッションが敷かれていたが、雨で地面が少しでも削れると着地の時に不安定さを感じることがあった。	雨の後はこまめに地面に凸凹がないかを確認し、平らに整える。	3. 個人活動中・見守りあり	たいこ橋の一番高いところの一つ手前まで上って、ぶら下がり、下りることができるようになったばかりだった。	道具や体の使い方次第でけがにつながることがあるので、一人一人に合った援助を行っていく。	1. いつもどおりの様子であった	たいこ橋の一番高いところの一つ手前まで上って、ぶら下がり、下りようになったことがうれしくて繰り返し挑戦する姿があった。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	たいこ橋の横に立ち園児のすぐそばにいて、バランスを崩したとき手を差し伸べたが間に合わなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	砂場や登り棒、ドッジボールなどそれぞれの遊具や遊びに保育者がつき、他の子どもたちを見ていたため対象児を見ていなかった。	低いところでは、両手でぶら下がり、両足で着地し安全に遊べていたが高い所になるとバランスを崩し、片手でぶら下がったりお尻から着地したりするなどの姿が見られた。その都度、保育者が援助していたが、けがにつながるかもしれないという意識がなかった。	両手でぶら下がることやひざを曲げて両足で着地することなど体の使い方を具体的に知らせたり、一人一人の力に合った援助やアドバイスを行い、安全に遊べるようにする。職員会議やミーティング等で「けがにつながるかもしれない視点」や遊具の安全な遊び方について再確認し危機意識を高めていく。	

No	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項
1041	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	6	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	32									3	3	17.5歳	1.男児	
1042	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	8	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	19									4	4	13.1歳	2.女児	
1043	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	2.1歳児クラス	31									7	7	13.1歳	2.女児	
1044	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	46					21	25			5	5	17.5歳	1.男児	
1045	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	3	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	26									2	2	17.5歳	2.女児	
1046	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	75				25	22	28			7	7	16.4歳	2.女児	

No	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策
1041	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左モンテジア骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施		2.基準配置	降園時間帯で、迎えに来られた保護者の対応をするため、一瞬目を離してしまった。	降園時間帯の遊び方を職員間で話し合い、子どもと約束を確認する。また、保護者対応する保育士は、場を離れることをもう一人の保育士に伝え、危険の無いよう保育室全体の子どもの様子や遊びに目を向けるよう伝える。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	24	2.不定期に実施		椅子を並べて遊んでいた場所が、周りに棚やピアノがあり、空間が十分ではなかった。	園児椅子の置き場所や、遊びのコーナーの見直しをする。
1042	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	大腿骨骨折（右足）	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	職員の配置基準は満たしていたが、事故発生時、休憩に入る職員を補うために主任が1歳児保育室に入室しており、余剰人員がいればより細やかに子どもを見守れたかもしれない。	主活動中は休憩を控え、最大人数で保育ができるよう、調整を行う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	施設や設備に問題はなかった。	活動内容に合わせて遊戯室や戸外など場所を選択していく。
1043	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕の骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施		2.基準配置	－	職員会議等で情報共有	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎日	－	ハード面の要因は考えられないので特に改善点はなし
1044	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆部骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	3	2.基準配置		遊具の傍に必ずついて危険回避をする	1.定期的に実施	50	1.定期的に実施	50	1.定期的に実施	50		着地の際の見守り
1045	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左小指中節骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置		今回の事故について、全職員で共有し、発生後の対応等について確認した。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		マットの安全点検を常に行う
1046	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	6	1.基準以上配置		子ども自身遊びなれた遊具で緊張感が薄れダイナミックな遊び方になっていた。「できる」という油断が事故につながるので、注意して見守り必要なら子どもへ注意喚起する。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		保護マット上に落下したにもかかわらず起こってしまった。使用している園児の体格と遊具が適正かどうかを判断する。

No	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
1041	1.集団活動中・見守りあり	担任が目を離さず見守ることが難しい時間帯に園児椅子を遊びに使用していた。	日頃から一人一人が安全面を意識して使用できるよう、椅子の使い方（持ち方、運び方、座り方など）や、危険性など子どもたちに伝えていく。	1.いつもどおりの様子であった	普段は外遊びをしながら迎えを待つが、当日は雨のため室内で過ごしていた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	迎えに来られた保護者の対応をしており、椅子をまたぐ場面を見ていなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	遊びの様子は見ていたが、転倒を防げる距離ではなかった。	「大丈夫」「ケガをするような遊びではない」という思いが職員にあった。	「大丈夫」と思い込まず、思いもよらない行動をすることもあるので、様々な危険を想定して見守るよう周知する。	
1042	1.集団活動中・見守りあり	本児は、他児との接触を避けようとしたかもしれない。	グループ分けをしたり、人数調整、並び方の工夫をする。	1.いつもどおりの様子であった	音楽に合わせて体を動かしていたところ、自ら足がもつれて勢い良く転倒した。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	子ども全体を見守っていたため、転倒した瞬間手を差し伸べられる距離では無かった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	子ども全体を見守っていたため、転倒した瞬間手を差し伸べられる距離では無かった。	運動会のオープニングの際、全学年で踊る演目の導入であった。駆け足をする場面もあり、個々の子どもの発達段階に十分に沿えていなかった。	手をたたいたり音楽に合わせて体を揺らしたりするなど、個々の子どもの発達段階を踏まえたねらいを検討する。	
1043	1.集団活動中・見守りあり	－	該当遊具は2歳以下は使用しないようにする。	1.いつもどおりの様子であった		2.対象児の至近で対象児を見ていた	遊具に四つん這いの状態から滑り落ちたが、間に合わなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	遊具に四つん這いの状態から滑り落ちたが、間に合わなかった。	－	該当遊具は2歳以下は使用しないようにする。	
1044	1.集団活動中・見守りあり	活発な動きを好む	子どもたちと雲梯の遊び方を再確認する	1.いつもどおりの様子であった	日頃から活発で遊具を使いこなしている	2.対象児の至近で対象児を見ていた	雲梯にぶら下がるという正しい遊び方だったので見守った	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の子どもと遊んだり見守っていた		本児の特性を把握し、危険を回避できる場所で見守る	
1045	3.個人活動中・見守りあり	ボールを走って追いかけた	身体を上手に使えるようにする	1.いつもどおりの様子であった	転がっていったボールを追いかけ、ボールをつかむ時に、転倒した。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園庭で遊んでいる様子全体が見渡せる位置で、見守りを行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭の遊ぶエリアを狭め、担当職員1名で見守りできるようにしており、他の職員は保育室内にて別業務に当たっていた。		ボール遊びを広い場所や動きやすい場所で行うように提案する	
1046	3.個人活動中・見守りあり		午前中の活動や天気等によっては、注意力が落ちている時間帯ではある。状況によっては遊具の使用に制限を掛けたり、注意喚起のために子ども達へ声を掛けたりする。	1.いつもどおりの様子であった	雲梯は大好きな遊具で日頃から繰り返し遊んでいる	2.対象児の至近で対象児を見ていた	他にも雲梯で遊んでいる子どもがおり、そばにはいたが本児が落下した時手が差し伸べられるほど至近距離ではなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭内に分かれてそれぞれの位置で園児の見守りや園児・保護者への対応を行っていた		日頃から取り組んでいる遊び方で、保育士も危険を感じなかったようであるが、今回の事から注意深い観察や時には遊び方・使用時間帯等制限を掛けることも考慮していく	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
1047	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	5	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	9									2	2	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘の上腕顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	12	1.基準以上配置	園児数に対しての職員配置については充足しているが、遊びの範囲が広く職員の目が行き届かなかった。	職員の目が行き届く範囲に遊びを限定する。遊具を利用する児には必ず職員が付く。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		雲梯を利用する際は、必ずマットを敷くように周知徹底をする。	1.集団活動中・見守りあり		保育者の目が届く範囲に、遊びを限定する。	1.いつもどおりの様子であった		4.対象児の動きを見ていなかった	他児がぽっくり遊びをしており、対応をしていた為、見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の問いかけに対応していた為、見ていなかった。		遊具を利用する際は、職員が必ず見守る。	
1048	令和6年6月10日	1.認可	10.事業所内保育事業（認可）	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	77		15	16	15	17	14			11	11	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	8	1.基準以上配置	常に園児には、走ってはいけない場所や危険な場所・行動について、話し合う場を設け、実際に検証したりと周知していたが、園児一人ひとりの特性への配慮が不十分であった。	事故が起こりうる場所・事を話し合うだけでなく、園児の特性を踏まえ、事故が起こりうる可能性を共通理解し職員間で連携をとっていく。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	2	視覚的に、危険（走ってはいけない）等の対策がとれていなかった。	安全配慮フェンスにて、それぞれのコーナーを仕切ることで、走ってはいけない場所で走れない環境を整える。	1.集団活動中・見守りあり	視覚的に、危険（走ってはいけない）等の対策がとれていなかった。	安全配慮フェンスにて、それぞれのコーナーを仕切ることで、走ってはいけない場所で走れない環境を整える。	1.いつもどおりの様子であった	友だち数人と、じゃんけんゲームで遊んでいた。ライバル意識を強く持っている友だちとのじゃんけんで負けてしまい、悔しさからその場から逃げるように走っていく。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児だけでなく、その周囲の園児を見ていた。対象児が、走り出した時に、近くでいた２歳児の対応をしていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	止める間もなく、走りぬけていった。	普段から、衝動的な行動が多く、その日も、対象児には個別に他のことで危険な事について話していたが、対象児の特性を踏まえ起こりうる行動への認識の甘さがあった。	対象児の特性を把握し、起こりうることを分析し、そのために何をすべきかを常に職員会議等で全職員が把握し、対策・対応できることを考え実施していく。	
1049	令和6年6月10日	2.認可外	18.その他の認可外保育施設	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	1									2	1	18.6歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	事故後の研修が十分に習得できてなかった。	いつ事故が起きても同じ対応ができるように研修の回数を増やす。事故発生後のマニュアルを設置し定期的に確認する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	・クッションスツールは１９年程使用しており、かなり柔らかくなっているので、使用可能年数を超過している可能性がある。 ・Webカメラを設置していたが、事故後の確認を怠り、保存期間を経過していたため、事故状況の確認ができなかった。	・クッションスツールは全て処分した。 ・定期的に確認しているものの確認の記録や確認者等の記録がないので、詳細に点検項目を作成し、確認日、確認者等の記録を残すようにする。 ・Webカメラの動作確認を定期的に行う。 ・事故が発生した際は速やかにWebカメラの確認を行い、証拠保全に努める。	3.個人活動中・見守りあり	・クッションスツール(208cm×28cm×28cm)の上にマット(88cm×88cm×4cm)を重ねた所に座り、備品の本来の使用方法ではない使い方をしていたのが要因である。	・座らせる場合は椅子や床に座らせる。 ・清掃や消毒等を行い、通常の使用方法ではない状態が生じた際は、児童に近づかせないようにする。 ・テレビを見せるのではなく、一人一人をきめ細かく保育する。 ・子どもがいる間は環境の維持に努める。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り元気であった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	事故当時も目を離さず見ていたが、どのようにクッションスツールから落ちたか明確ではない。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	（施設側）ガラス越し保育室の見える隣の事務室にいた。保護者の迎えの知らせを受けたので保育室に向かう意向でいたが、保育室に向かう直前に事故が起きた。（保護者側）保育士２名とも保育室内の長机に座っていた。	–	・保育室で子どもを見ている職員ではなく、事務室にいる職員が開錠しに行くように、職員の動きを見直す。 ・子どもから目を離すことのないよう、保育士同士の連携を確実にする。	
1050	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	12									2	1	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨遠位端骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	12	1.基準以上配置	生活の切り替わりの時間（延長保育）と保護者のお迎えの時間で見守り体制が手薄になった	保育者同士の声掛けと引継ぎを徹底する	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	2.不定期に実施	12	園の生活の流れとして、16時半頃は生活の切り替わりの時間（延長保育）と保護者のお迎えの時間、お迎え後、親子で遊んでいる人が重なる為、混雑する	延長保育の園児はこれまで16時45分に入っていたが、16時30分に保育室に入るようにする	3.個人活動中・見守りあり	職員（保育者）がお迎えの時間帯に保護者対応をしており、子どもを見守る職員が手薄となった	見守り体制に死角が生じないよう、職員同士の声掛けや必要な時は、他クラス職員を呼ぶようにする	1.いつもどおりの様子であった	園庭のうんていにぶら下がって遊んでいたところ、右手が外れ片手で支えていたが左手も外れて落下。その際バランスを崩して自身の体と地面の間に右手を巻き込むように転倒。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	子どもの様子を離れた所で見ていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭で他の園児を見ていた	職員（保育者）がお迎えの時間帯に保護者対応をしており、子どもを見守る職員が手薄となった	見守り体制に死角が生じないよう、職員同士の声掛けや必要な時は、他クラス職員を呼ぶようにする	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
1051	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	6	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	24					9	15			1	1	17. 5歳	2. 女児	特になし	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	鎖骨骨折	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	4	2. 基準配置	異年齢児で遊ぶ際の子ども同士の遊び方や力の差について、情報の共有不足があった。	個々の性格や力を把握して、異年齢でかかわる遊びについて、全職員への情報共有を行なう。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	特になし	特になし	1. 集団活動中・見守りあり	園庭での遊び場所に対する、遊び方の注意不足があった。	相撲遊びの際は、マット等の上で行なうなど、相撲を行なう際のルールを話し合い、園児に伝える。	1. いつもどおりの様子であった	5歳児男児3人が相撲遊びをしていた所へ、本児も一緒にまざって相撲をした際に、右肩から転倒する。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	全員の園児を見ることができる位置で見守りをし、すぐに動けるようにしていた。園児が相撲遊びをしていたのは、把握していたが、5歳児男児と本児と相撲を始めて、すぐに本児が転倒したため、転倒を防ぐことが出来なかった。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の園児の横について、事故防止を図っていた。	年齢の異なる園児間における力の差に対しての配慮不足があった。	相撲などの、子どもが体を思いきり動かす運動遊びをする際は、注意深く見守り、異年齢で行なう場合は、遊び方を変えるように伝えることも必要。	
1052	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	8	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	17		4	3	1	5	4			4	4	17. 5歳	1. 男児	特になし	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右脛骨骨幹部骨折	8. その他	1. あり	2. 不定期に実施	1	2. 基準配置	特になし	事故予防研修などに参加し、職員間で事故予防の知識を高める。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	48	特になし	季節の物の入れ替えや行事前に、所長または副所長が施設の安全点検を加えて行う。	3. 個人活動中・見守りあり	特になし	じゅうたんの上で、回転したり、ジャンプすることはケガにつながることを子どもに周知する。	3. いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	いつもより感情が高ぶっている印象はあったが、本児が好むブロックでいつものように遊んでいた。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	２人の職員が見守るほぼ真ん中に本児が位置しており、本児からの距離はそれぞれ1.5・2.5メートル程度。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の子どもと遊んでいた。	特になし	職員の位置を職員間で共有し、見落としがないようにする。	
1053	令和6年6月10日	2. 認可外	18. その他の認可外保育施設	6	9. 夜間・早朝（泊り保育）	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	8	1		2	2	1	1	1		2	2	25. 学童(認可外)	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右前腕部単純骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施		2. 基準配置	子どもたちを見守り「危ないよ」と声かけをしていたが、子どもたちの動きによりシーソーが思わぬ動きをしたことにより今回のけがに至った。骨折に至るようなけがになることとは予想できなかった。	シーソー本来の遊び方をせず、危険が予想されるような荒い遊び方をする園児がいる場合には、保育室からシーソーを撤去する。	2. 不定期に実施		2. 不定期に実施		2. 不定期に実施		遊具の本来の遊び方以外の使い方をしていた。	遊具を正しく使う。または、危険が予想される場合には遊具を撤去する。	1. 集団活動中・見守りあり	当該児童と他児とは年齢差もあり、活発に激しく遊ぶようになることに注意が必要。	年齢差の子どもたちの活動時間には、それぞれの遊びができるよう遊具の工夫を行う。	1. いつもどおりの様子であった	異年齢児との交流中であった	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	子どもたちを見ており、「危ないよ」など声かけをしていたがシーソーで遊ぶことで骨折に至るようなけがに繋がるとは予想がつかなかった。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	乳児が就寝していたため乳児の傍にいたが、子どもたちの遊ぶ様子を見ていた。	特になし	危険が予想される遊びをしている場合は、遊具を撤去する。	
1054	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	8	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5. 4歳児クラス	21									2	2	16. 4歳	1. 男児	特に無し。	6. 水遊び・プール活動中	1. 負傷		2. 骨折	1. 頭部	(1)頭部打撲 (2)左後頭骨骨折 (3)左硬膜下血腫	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	数	2. 基準配置		職員の動きについて事前に打ち合わせをする。活動に必要な職員の配置をする。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	1	2. 不定期に実施			コンクリート製のプールの中では行わない。	1. 集団活動中・見守りあり	水を溜めていないコンクリート製のプールで、滑りやすい泡遊びを行った。たらいの外にこぼれた泡を拭き取れていなかった。	子どもの行動を予測して、活動内容に適した場所を選ぶ。活動を考える際に危険なことはないか考え安全対策を十分に行い、担任だけで判断が難しい場合は、周囲の職員に相談する。	3. いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	女児が先にプールの外に出た後、広くなったプール内を走り出し、たらいの周辺にこぼれた泡で滑って転倒した。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	他児が泡を見せた際に「すごいね」など声をかけつつ全体を見ていたところ、本児が走り出したことに気が付き「危ない」と声を上げたと同時に転倒してしまい、止めることが間に合わなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	先に女児とプールの外に出て着替えの援助をしていた。	先に女児がプールから出たため、本児が負傷した際、職員が1人だったことで、走ったことに気が付いても止めることができなかった。	活動をする際には、事前に職員の動きを細かく確認する。必ず担任2人体制で常に危険がないよう子どもたちを見守る。子どもの動きなどで気が付いたことがあれば担任同士でその都度声をかけ合い、けがや事故を防ぐことができるよう連携する。	
1055	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	6	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	3. 2歳児クラス	6									1	1	14. 2歳	1. 男児	特になし	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左第三・第四中足骨基部骨折（ひだりだいさん・だいよんちゅうそくこつきぶこっせつ）	2. 自らの転倒・衝突によるもの	2. なし	3. 未実施		2. 基準配置	特になし	職員間の連携により、事故防止策に取り組むこと。また、事故に関する研修を実施することが必要である。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	1	2. 不定期に実施	随時	特になし	遊びの道具の設置方法の見直し	1. 集団活動中・見守りあり	特になし	特になし	1. いつもどおりの様子であった	サーキット遊具の上を歩いたり、ジャンプしたりして遊んでいた。	1. 対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	対象児の手を持ち、ジャンプの補佐をしていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の園児の対応を行っていた。	子どもの予期せぬ行動を想定できていなかった。	子どもと遊ぶ中であらゆる危険を想定しながら関わっていったり、職員同士連携を取り合いながら保育をしていく。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
1056	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	8	1	7							3	3	14.2歳	2.女児	降園時ということで、0歳児1名も一緒の部屋で保育を行っていた。	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左母趾基節骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	降園時につき、0歳児担当保育士が降園バス担当になっていた。0歳児担当保育士が、その時たまたま部屋から出ていた。	部屋を出る時は、他のクラスに応援を頼み、しっかり見守りができる体制をとる。	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	4	おもちゃの片付けもできていたので、タイミング的に躓いたことが考えられる。	2歳になってもまだ歩行はしっかりしていないところもあると思われるので、しっかりと見守り、転んだ時に普段と様子が違っていたら早急に病院受診ができる体制が取れるよう、園長等に報告を入れる。	3.個人活動中・見守りあり	降園前の保育で0歳児と合同になった後、居残り保育の部屋に移動する前だった。	居残り保育の部屋に移動するために部屋を片付けていたが、片付けなどをするときには見守りが十分できないこともあるので、しっかり子どもの見守りも行う。	1.いつもどおりの様子であった	玩具の片付けを保育者と一緒にし、保育室の移動を待っていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	マンツーマンではなかったが、至近で本児の様子は見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	クラス全体の様子を見ていた。	部屋を出た保育士がいたので、その時は保育士が2名になっていた。	部屋を出るときは、ヘルプを出し、他の保育士に入ってもらうようにする。	
1057	令和6年6月10日	1.認可	3.保育所型認定こども園	9	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	65					33	32			6	6	17.5歳	1.男児	ホールにて年長中児で運動会ごっこをしていた。リレーを2回した後、ホールに引いているトラックを他児と走っていて、自ら転倒した。運動会練習後に、疲れと気分高揚している状態で走ってしまった為、転倒の原因になった。	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨遠位端顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2	2.基準配置	・子どもの動きに対応できなかったため	・園内研修により、日々の遊びの中での危険意識と高めていく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	・危険予知訓練を行なっており、その中には危ないと想定できる場所ではなかったため。	・園内研修により、いろいろな場所や想定を行って危険予知訓練を行い、意識をもつ。	1.集団活動中・見守りあり	・十分な職員は配置していたが対応できなかった。	・危険予知訓練を行い、職員で周知しながら訓練を行っていく。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	リレー直後で気持ちが高ぶっていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	近くにはいたが、目で園児を追いながら、リレーで差がついているグループをどのようにしたらいいか他の職員と話をしたり、ビブスを片付けていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	ステージ近くで、体操の曲をかけて一緒に体操をしたり、走っている園児に同じ方向で走るように声掛けをしていた。	リレー後気持ちが高ぶっており、職員もそれに気づき声をかけたが、声かけだけで終わってしまっていたため。	・活動や行動の節目には気持ちが落ち着くように声かけをし、次の行動に移せるようにする。危険予知訓練を行い、一人ひとりの意識を高め、職員で周知できるようにする。	
1058	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	4	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	18									3	2	14.2歳	2.女児	なし	5.食事中(おやつ含む)	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷性歯の打撲、下口唇裂傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	なし	引き続き安全点検を遂行しながら、園児が安全に過ごせるように職員が連携しながら保育をしていく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	立った状態で着替えをしていたことで、転倒したとき床で顔を打ち怪我をした。	床にクッションマットを置き、その上で着替えをするようにする。子どもの発達に合わせて、座って着替えをするようにする。	3.個人活動中・見守りあり	身体能力が十分に発達していなく、衣服の着脱時に体のバランスが崩れることを十分に把握できてなかった。	子どもの発達や状況を十分に把握し、担任が連携し対応をとることが必要である。	1.いつもどおりの様子であった	着ていた上衣の首回りが少し狭かったため、順調よく脱ぐことができず、体のバランスが崩れ転倒した。	1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	対象児の着替えを援助しながら、対象児ができること（上衣を脱ぐ等）は傍で見ていたが、対象児が転倒する瞬間に手を差し伸べたが間に合わなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	対象児の見えるところで、昼食後の片付けや午睡準備（着替えの援助等）をしていたが、声がけできなかった。	事故の起こしやすい場面の保育状況に応じた情報共有が十分にできてなかった。	全職員で安全管理・事故防止対策について共通認識を持ち、子どもの安全を最優先とする意識を徹底する。	
1059	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	25					10	15			2	2	16.4歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	3.未実施		2.基準配置	一斉に水分補給を促すタイミングであり、職員、園児とも園庭から園舎への移動の流れがあった。	事故予防について職員間で話し合う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	水分補給は保育室で行っており、園庭から園舎への移動が必要であった。ジャングルジムは、園舎とは反対側に設置されている。	居残り保育中の外遊びの時は、職員の目が届きやすいよう、水分補給をテラスで行うこととした。	1.集団活動中・見守りあり	水分補給のタイミングで、職員は保育室へ移動する園児に対応しており、園庭全体の見守りが十分ではなかった。	居残り保育中の外遊びの時は、職員の目が届きやすいよう、水分補給をテラスで行うこととした。	1.いつもどおりの様子であった	居残り保育中、園庭で自由に遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	他児へ水分補給の声掛けをしていて、園庭全体の見守りが十分ではなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の水分補給の対応をしていて、園庭全体の見守りが十分ではなかった。	水分補給のタイミングで、職員は保育室へ移動する園児に対応しており、園庭全体の見守りが十分ではなかった。	水分補給の際は、まず高い所にいる園児が地面に下りたことを確認してから、全体への声掛けをする。居残り担当保育士同士、連携を取り、水分補給時の体制や場所等について、安全に対応できるよう見直す。	
1060	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	71				24	22	25			13	13	15.3歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	（1）上左AB外傷性歯の打撲（2）Stom	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施		2.基準配置	ゴールしたら一度止まるよう声掛けができていなかった。待機場所が障害物に近いところにあった。	ゴールの傍に職員がいてスピードを落として戻れるようにする。待機場所を障害物がないところにする。	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	ゴールの待機場所が手洗い場の付近であった。	待機場所の周りに障害物がないところにする。	1.いつもどおりの様子であった	ゴールしてそのままシートに戻ろうとすると勢い余って近くにあった手洗い場のセメントに口元をぶつけた。	4.対象児の動きを見ていなかった	他のクラスの園児がかけっこが終わっていなかったのでみていなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	ゴールした他の園児を見ながら、待機場所にいて対象児を見ていた。	ゴールしたら一度止まるよう声掛けができていなかった。	ゴールのそばに職員がいてスピードを落としたまま戻れるようにする。	

No	初回掲載年月日	概要・認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期・月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制・発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳・0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故・年齢	性別	特記事項	事故状況・発生時状	事故の転帰	死亡・死因	負傷・負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析・ソフト面・マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面・施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面・教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面・対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
1061	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	3									3	0	15.3歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右第一中足骨々折	8.その他	1.あり	3.未実施		2.基準配置		事故予防に関する話を全職員で共有する。	1.定期的に実施	約50	1.定期的に実施	約50	1.定期的に実施	約290	保育士の目が離れていた。	必ず一人は手洗い場につくようにする。(トイレも同様)	1.集団活動中・見守りあり	手洗い場やトイレは保育室から死角となる。	子どもの行くところには、必ず一人はつくようにする。	1.いつもどおりの様子であった		4.対象児の動きを見ていなかった	一人は、支援を要する子どもについて別の部屋に行っていた。一人は、給水の準備をしていた。一人は、子どものトラブルに対応していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	3歳児クラス以外の年齢児のクラスの子どもを見ていた。	トラブル対応に1は必要だったと思うが、給水の準備は、全児手洗い修了後でも良かった。	手洗い場(トイレ)に一人つくようにする。	
1062	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	8	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	9					4	5			1	1	18.6歳	2.女児	雨天の為、ホールでの活動。	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左第5指基節骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施		2.基準配置		その都度、全職員で振り返りをし分析や改善を検討すること。今後も子どもの活動には静と動のバランスをよく考え、安全で楽しい活動に留意する。	2.不定期に実施	適宜	1.定期的に実施	1	2.不定期に実施	適宜		施設や設備等は耐久年数や老朽化を考慮し、安全に機能し保育を行うことができるように日頃より不備発見を心掛けて行う。	1.集団活動中・見守りあり	本児は、外野でボールを取り、内野の友達を当てることが楽しく、ボールを積極的に追いかけ、取っては投げることを繰り返し活動していた。	ゲーム中に休息を入れ、ずっとよく動く子どもに一呼吸おくタイミングをつける。	1.いつもどおりの様子であった	本児は明朗活発で、ルールを理解し守り、集団遊びや運動遊びを日頃より好む。当日も集団遊びに意欲的で、内野では上手にボールをかわし逃げ、外野では積極的に動いて取ったボールで、内野の友達を当てることを楽しんでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	日頃からしている遊びで、子ども達はルールを理解している為、担任はコートのすぐ傍で全体の動きを見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員はいなかった。		今後も運動遊びの時は、子ども達の動きに注意して見守ったり援助したりして安全に遊べるようにする。	
1063	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	6	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	16			2	2	8	4			4	4	16.4歳	1.男児	以前にも、家庭で転倒して同じ歯を打っていた。	5.食事中(おやつ含む)	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯根破折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施		2.基準配置	部屋での過ごし方を約束して、少し離れたところで様子をみながら他児に関わっていたが、本児はすぐに動きたくなることがあり、今回特にとっさの行動だったので止めれなかった。	再度子どもたちと安全な遊び方を確認する。また、子どもたちの行動に職員全体がより注意をはらうようにする。	2.不定期に実施	12	1.定期的に実施	52	2.不定期に実施	12	毎回食事をとるため、机を部屋の隅に出した状態で置いていた。(食事は遊戯室広い場所で全児でとっている)	できるだけ広いペースがとれるように机の配置を変える。	6.食事(おやつ)中	慌てて飛ばしたパズルを取りに行こうとした為、上靴の底が少し滑りやすい状態になっていたことも重なり滑ってしまった。また、丁度机を片付けている場所に滑り込み口を打ってしまった。	上靴を新しい物に変えてもらった。	1.いつもどおりの様子であった	持っていたパズルのピースを意図的でなく投げてしまったので、慌てて取りに行こうと焦ってしまった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	まだおやつを食べ終わらない園児に関わっていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の園児に関わっていた。	なし	食べ終わった子どもの遊び方を工夫したり、子どもとちとおやつ後の過ごし方を確認すると共に、複数の職員が注意をはらうようにする。	
1064	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	2	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	59				20	19	20			5	5	17.5歳	2.女児	特に無し	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨近位骨端線損傷	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	12	1.基準以上配置	特に無し	子どもが園庭で走る時は、周りの子どもに気を付けて走るよう指導する	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特に無し	遊具周りは障害になるような物は置かない	1.集団活動中・見守りあり	特に無し	園庭は常に見通し良くしておく	1.いつもどおりの様子であった	園庭のログハウスに肘を乗せて前にもたれていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	3.4.5歳児59名が園庭で遊んでいたので全体を見渡せる場所に、他の職員とは距離をおいて見守りをしていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	3.4.5歳児59名が園庭で遊んでいたので全体を見渡せる場所に、他の職員とは距離をおいて見守りをしていた。	特に無し	保育士は出来るだけ子どもの近くに立つ	
1065	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	7	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	18									2	2	17.5歳	1.男児		6.水遊び・プール活動中	1.負傷		6.その他	4.上肢(腕・手・手指)	左手関節打撲傷、左肘打撲傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	プールサイドからの監視の配置はしていたがプールの中は担任のみで行っていた。	職員をもう一人増やし子どもたちの状態に配慮しながらプールあそびを行う。	2.不定期に実施	1	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	1	プールの広さが人数に対してあまり余裕がない。	プールの壁際で待つのではなくもう少し内側からスタートする。	1.集団活動中・見守りあり	一斉に取り組んだので本児も早く拾いたいとの焦りがあったと思われる。	全員が一斉に取り組むのではなくグループ分けなどをし順番に行う。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	プールの活動は大好きなので積極的に参加していた。	4.対象児の動きを見ていなかった	石拾いの準備をしながら全体的な子どもたちの動きを見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	プールの中の子どもたち全体は見ていたが、個別の動きは注視していなかった。	プール活動にも慣れてきて子どもたちの動きも活発的になり、保育士の目も届きにくくなっていた。	職員同士で人数の把握を必ず行い、子どもの状態についても情報共有を行う。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
1066	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	7	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	19					1	18			2	2	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右脛骨幹部骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	6	2.基準配置	普段から他の雲梯でもそういうあそびをしていた	今回の事故を踏まえ、子どもたちと雲梯での遊び方について話合うようにする。また、職員同士も話合い、監視場所等についてもその都度改善する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	とくになし	今回のケースでは特に考えられない	1.集団活動中・見守りあり	とくになし	今回の事故を踏まえ、子どもたちと雲梯での遊び方について話合うようにする。また、職員同士も話合い、監視場所等についてもその都度改善する。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りの様子であった。	4.対象児の動きを見ていなかった	配置基準の1人に加え、もう1人見守りをつけ外遊び全体を2人で監視していた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	総合遊具付近で当該園児と他の園児の遊びを監視していた。	とくになし	今回の事故を踏まえ、子どもたちと雲梯での遊び方について話合うようにする。また、職員同士も話合い、監視場所等についてもその都度改善する。	
1067	令和6年6月10日	1.認可	3.保育所型認定こども園	6	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	16	2	14							2	4	13.1歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	12	2.基準配置	保育士がままごとコーナーにいなかった為。	保育士同士声を掛け色んな方向から見える位置にいるようにする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	260	柵や棚の位置	ジョイントマットの上でも骨折の危険があることを再度職員間で確認し環境の見直しをする。	3.個人活動中・見守りあり	落ちていた玩具につまずいた可能性も考えられる。	床に落ちている玩具や使ってない玩具はケガにもつながるのでその都度片づけるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	玩具で両手がふさがったまま移動していた為。	4.対象児の動きを見ていなかった	室内遊びの見守り中、本児の両手がふさがっていることに気付けなかった為。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	午後おやつの見守り、応対などをしていて見ていなかった為。	見守りやすい位置に保育士がいなかった為。	声を掛け合いながら常に見守りやすい位置に人員を配置する。	
1068	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	6	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	82	2	10	7	26	18	19			14	12	17.5歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	危険予知、園庭での職員の監視体制。	予想される危険を察知し、箇所箇所に職員配置をする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	毎日	遊具は毎月点検をし、遊具の下にも人口芝を敷いている。	今後も安全点検をし、危険個所があれば至急改善をする。	1.集団活動中・見守りあり	一つの遊具で遊ぶ子どもの人数や距離間に注意する必要がある。	一つの遊具で遊ぶ子どもの人数や距離間に注意し、職員がそばで見守る。	1.いつもどおりの様子であった	最近、雲梯ができるようになり、最後までいけることを喜び、いつも通り、気の合うお友だちと繰り返し遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	他のクラスも一緒に遊んでいたため、職員は、離れた場所から全体を見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他のクラスも一緒に遊んでいたため、近くにいた職員もいたが落下はとっさのことだったため手を差し伸べることができなかった。	分散して見守っていたが、保育士の予想危険度の中に入っていなかった。	子どもの特性を知っておき、けがや事故に合わないよう細心の注意を払うとともに、職員同士の連携をとっていく。	
1069	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3.2歳児クラス	13									3	3	14.2歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右大腿骨転子部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	他児の動きを真似てみようとするが、無理な体制となりやすい。	段差で遊ぶ時の注意点を改めて子どもに知らせ、保育士も危険個所から目を離さないようにする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	未満児用遊具が少ない。園庭が狭い。	遊具を減らす。園庭を広く確保する。	3.個人活動中・見守りあり	屋外遊びについての安全対策が足りなかった。	屋外あそびに入る前に子どもたちに安全な遊び方について知らせる。	1.いつもどおりの様子であった	屋外遊びを楽しんでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	他児の対応をしながら対象児の側にいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の様子を見ていた。	遊具で子どもの動きが見えにくい場所もあるので確認しにくい。	職員間で声をかけながら、安全確認を行う。	
1070	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	2									2	2	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕の骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	現場から園長への報告　その後の通報、保護者への連絡から病院への搬送についてはスムーズであったように思える	今後も緊急時の対応を職員全員が迅速に対応できるよう訓練を継続したい	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	12	鉄棒下の安全確保を要す	何らかのクッション材を敷くなどの措置	1.集団活動中・見守りあり		可能な限り人員を増員し目が届かぬことがないよう努める。	1.いつもどおりの様子であった		2.対象児の至近で対象児を見ていた	鉄棒近くに職員はいたが、落下するという予想ができなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	外遊びを見る職員以外は、園内での業務に従事していた。外遊びの他職員は他の園児を見ていた。		できる限り職員を遊具の近くに配置し、更に広い視野で見守りを行う	
1071	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	64					37	27			9	6	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折・左尺骨遠位端骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	3.未実施		1.基準以上配置		・マニュアルの作成をする・園内研修を実施する	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	鉄棒の下にマットを敷いていなかった	直接地面に落ちた時に衝撃を緩和するように鉄棒の下にマットを敷く	3.個人活動中・見守りあり	保護者がいる時にも鉄棒の上に立って遊んでいた	鉄棒の遊び方、鉄棒の上に立つとどうなるか子ども達と再度確認し、間違った使い方をすると怪我に繋がることを繰り返し伝える。	1.いつもどおりの様子であった	普段から保護者がいる時にも、鉄棒の上に乗って遊ぶことがあったようだ	4.対象児の動きを見ていなかった	保育室で子どもの午睡の援助をしていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭で遊んでいる子ども達を見守っていた。	園庭見守りはいたが、お迎え、バス、午睡の時間が重なる時間で人数が少ない時間帯であった。	出来る限り外の人員を増やすと共に園庭にいる職員は、特定の子どもを見るのではなく全体に目を向ける。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
1072	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	4	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5. 4歳児クラス	34									3	3	16. 4歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	顆上骨折	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	2	2. 基準配置	異年齢クラスと一緒に園庭で（戸外）活動をする	子どもの行動を確認し、周りを見ながら注意して走るように声を掛けていく	1. 定期的に実施	240	1. 定期的に実施	240	2. 不定期に実施	290		人数に対して、走るのに十分な広さがある等の確認を行い、場の使い方を見直していく	3. 個人活動中・見守りあり	練習後で自由に遊ぶ時間になり開放的になっていた	普段から気を付けることを声掛け、意識を持たせていく	3. いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	運動会練習後、戸外遊びが始まり遊びに入ろうとしていた	4. 対象児の動きを見ていなかった	他児の対応をしていた為、見ていなかった	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	周囲を見ながら園庭にいた。転倒した際に状態の確認をする	友だちとの衝突、転倒	遊ぶ前の声掛けや、保育士が目の行き届く場所に分散して立つ、見守るなど、職員の立ち位置を見直す	
1073	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	5	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	5				1		4			6	6	17. 5歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		6. その他	5. 下肢(足・足指)	左大腿打撲・皮下出血・筋損傷	4. 玩具・遊具等施設・設備の安全上の不備によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	1	1. 基準以上配置	事故予防に関しては研修報告のみになっていた。	事例研修・分析を行うことで環境構成の作り方、危機察知能力を培っていく	1. 定期的に実施	24	1. 定期的に実施	290	2. 不定期に実施		・玉入れ用のネットが破れていたため、カラーポリ袋をネットで代用し、使用していた。	・風を通さない素材を使用していたので使用をやめる。	3. 個人活動中・見守りあり	・急な変更で職員に余裕がなく始めてしまった。・突風が吹いた。	・風を通さない素材を使用していたので使用をやめる。	1. いつもどおりの様子であった	・他の園児や職員と共に遊戯の確認を行っていた。その際、突風が吹き片付け用のかごが転がったため、抑えに行こうとかごを追う。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	・園児と共に動きの確認を行っていた。突風で転がった片付け用のかごを抑えに行こうとした。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	・近くにいた職員は全員転がったかごに気を取られ玉入れのポールが倒れてきていることに気付かなかった。・少し離れた所から見ていた職員がポールが倒れてきていることに気づき「危ない！」と声をかけるが間に合わなかった。	・競技中は用具担当が決まっている為、ポールを持つ職員が責任を持ち対応していたが、競技ではない為対応があやふやになっていた。・競技中ポールを押さえていた理由を、職員全員が理解していなかった。	・急な予定変更をする際も各職員の担当を決めて行う。・職員間の共通理解を図る。	
1074	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	5	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	22					14	8			3	3	17. 5歳	1. 男児	特になし	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左腓骨遠位端骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	1	1. 基準以上配置	通常、同じ行動をとっても、ケガすることなく活動できていたので、本人にも職員にも油断があったと思われる。	改めて、気をつけて遊ぶことを園児に伝えること、職員も見守りを怠らないことを確認する。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	特になし	特になし	3. 個人活動中・見守りあり	スイミング教室の日で、年長児は、１４時以降4名と少なく、年中児との合同保育中だった。16時頃スイミング教室から戻ってくる園児のおやつ担当を年長児の保育教諭が行い、年少児、年中児の保育教諭が、戸外遊びの園児の対応をしていた。	木登りをする際には、保育教諭に伝え、誰かの見守りのもと行うように共通理解をする。	1. いつもどおりの様子であった	身体を動かすことは好きで、鉄棒で逆上がりを連続で10回以上したり、うんていやブランコなども得意で、遊具にもどんどん登って行ったりしていた。体力に自信はあるようだが、木登りにはあまり挑戦したことがなかった。	4. 対象児の動きを見ていなかった	年長児の担当保育教諭は、スイミング教室から戻ってきた子たちのおやつの担当しており、戸外に出ていなかった。木登りをしていた本児の状況に気付いていなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	年中児担当の2名、年少児担当の2名の計4名の保育教諭が戸外で活動する子どもたちの見守りをしていた。桜の木は、ブランコのすぐそばにあるが、年中児と年長児の合同保育時であり、年中児の特別支援対応の子の支援をしながらの見守りであったことから、本児が登っていたことに気付いていなかった。本児の泣き声が聞こえたことで、すぐに対応した。	危険な行動が見られた際には、担当外の職員も気をつけて見るようにする。	年長児の保育担当がスイミング教室の子たちのおやつ対応が終わるまでは、子ども自身も戸外に出ている職員へ援助のお願いを伝えるよう徹底する。	
1075	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	3	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	41				13	10	18			12	12	16. 4歳	2. 女児	●は毎週レントゲンを撮り経過を見る。●～●は２週間程度骨外れないよう固定の装具を着用。●●日完治。	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右上腕顆上骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	1	1. 基準以上配置	配置職員と怪我をした園児との距離が遠かった為。	鉄棒での遊び方を見て、鉄棒の上に乗ってる時は可能な限り、助けれる距離を保つなどの意識の共有を会議等で行う。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12		使用していた鉄棒に破損等の問題は無し。	1. 集団活動中・見守りあり	園児が様々な遊びを行っていた。	鉄棒での遊び方を見て、鉄棒の上に乗ってる時は可能な限り、助けれる距離を保つことができるように職員の配置箇所をバランスよくする。	1. いつもどおりの様子であった	鉄棒の技術が向上し、繰り返し行っていた。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	園庭西側を主に担当	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭東側を主に担当		鉄棒での遊び方を見て、鉄棒の上に乗ってる時は可能な限り、助けれる距離を保つことができるように、余裕をもって見守ることができる配置を行う。	
1076	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	9	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5. 4歳児クラス	20									2	2	17. 5歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	1. 遊具等からの転落・落下	2. なし	2. 不定期に実施	2	1. 基準以上配置	マニュアルに沿った実践研修を丁寧にする必要があった	鉄棒など危険を伴う遊具で遊ぶ前に、必ず実践研修を行う。また、園長と担任で子どもの状態に合わせた安全指導も行う。	1. 定期的に実施	3	1. 定期的に実施	3	1. 定期的に実施	3		設備に問題はないと考えられるが、鉄棒など危険を伴う遊具で遊ぶ前に、必ず実践研修を行う等事故発生防止に努める。	1. 集団活動中・見守りあり		鉄棒をするときは1対1で必ず行う。	3. いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	前回りが初めてできてうれしくて何度も鉄棒に挑戦している時に事故が起きた	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	対象児は見ていたが、周囲に数名子どもがおり、一人だけに集中しにくい環境だった	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	もう一人の担任も近くにいたが、別の子どもを見ており、手が届く範囲ではなかった	子どもの気持ちを落ち着かせ、必ず1対1で集中して指導できる環境を整える必要がある。クラス活動から全体活動への切り替わりの時間帯であった。	1対1で保育者も子どもも落ち着いて鉄棒ができるように、指導環境を整えることと、16時など保育が切り替わる時間帯には行わない。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
1077	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	28									2	2	16.4歳	1.男児	身長約109cm、体重約18kg、既往歴・持病なし、アレルギーなし、発達・発育状況は多少落ち着きの無さやこだわりの強さが見られ、●●センターを受診予定である。	2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷性歯の亜脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	3	1.基準以上配置	なし	職員の立ち位置を常に確認し合い、声掛けなどコミュニケーションをしっかり取りながら保育することを今後も意識していく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	48	なし	今後も必ず安全点検を行いながら、事故防止に努めていく。	1.集団活動中・見守りあり	なし	動線上に机など障害物がないかなどの確認を行う。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	身体を動かす事が好きで、落ち着きの無さが見られる。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	荷物の移動でよくある行動だったが、少し走っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	夕方のお集まり後で、子ども達の行き来があるので、各自の役割の配置にはきちんといた。	なし	落ち着きの無さも見られるので、「ゆっくり歩こうね」などの声掛けを行いながら安全に移動できるようにする。	
1078	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	28									2	2	16.4歳	1.男児	身長約105cm、体重約17kg、既往歴・持病なし、アレルギーなし、発達・発育状況は良好である。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手首骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	3	1.基準以上配置	なし	職員の立ち位置を常に確認し合い、声掛けなどコミュニケーションをしっかり取りながら保育することを今後も意識していく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	48	なし	今後も必ず安全点検を行いながら、事故防止に努めていく。	1.集団活動中・見守りあり	なし	今後もルールの再確認を行っていき、子ども達に伝えていく。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	身体を動かす事が好きで、特に跳ぶことが好きである。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	目の届くところにいたが、手を繋いでジャンプする瞬間は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	夕方で降園している園児もおり、1名で保育していた。	なし	いつも行っている遊びをしていたが、ルールを守れなかったので、再度子ども達に話をし、危険回避に繋げる。	
1079	令和6年6月10日	1.認可	3.保育所型認定こども園	5	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	48	3	11	6	5	14	9			10	9	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施		1.基準以上配置	当日の職員の配置について不足はなかった。	ただし、改善策として園庭・室内の子どもの状況や変動に応じ、職員の配置人数を対応していくように連携をはかる。	1.定期的に実施	54	1.定期的に実施	54	1.定期的に実施	54	事故後、固定遊具の再点検を行ったが、特に不備は見られなかった。	今回不備は見られなかったが、引き続き、遊具点検をしっかりと行う。	7.その他	木製の固定遊具内（雲梯・滑り台等一体型）で数名の子どもが遊んでいた。	職員が立ち位置など、職員全体で再確認を行う。また、子どもたちの状況などしっかりと伝達を行う。	1.いつもどおりの様子であった	最近雲梯が上達してきたこともあり、自分から活動の一環として取り組んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	他にも固定遊具で遊んでいる子が数名いた為、周りの様子が見えるように、少し引いた場所から見ていた。（雲梯も含め見える位置。対象児から3～4メートルくらい。）対象児が遊んでいる事は認識していたので、落ちたことに気付き、すぐに駆け寄った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	木製遊具の近くにはいたが、全体的な様子を見ていたので、対象児の動きはみていなかった。	保育士の視点ではふざけ合う様子はなく、順番で雲梯をしていたことを認識。しかし、様々な要因が重なり事故につながる可能性があるという想定が不足していた。	活動している園児の人数に合わせ、流動的に職員配置や立ち位置を検討する。また、“出来る”“出来ない”に限らず、ケガなどのリスクを予測しておく。	
1080	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	7	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	4									44	40	16.4歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	-	４．５歳児はほとんど雲梯ができるが、途中で降りることもある。今回は得意な子どもで体を大きく揺らしながら進んでいたため途中で落ちてしまったと考えらる。大きく揺らさない、滑らないようにしっかり握るなどの約束を徹底する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	再度検証した結果、縦棒2本はうまく渡れるようになると勢いがついて、体が横にぶれ落下しやすいので、横棒を数本入れ、体が大きくぶれず棒をしっかり握られるように、遊具製作業者●●●●に依頼する。	転倒した地面も人工芝が敷いてあり、安全は確保できていたと思う。	1.集団活動中・見守りあり	-	特に戸外の固定遊具においては、使用前の確認の徹底と滑りやすい状況に無いかを確認する。	1.いつもどおりの様子であった		3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	同方向の別遊具で遊んでいる園児を注視しており、当該園児もいつも通りの動きだったため危険だという認識がなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	27名の園児に対し職員２名体制で戸外遊びを行っていた。対象児の近くに１名。あと１名の職員は別方向で遊んでいた園児を見ていた。	-	殆どの４．５歳児が雲梯ができるが、体を揺らしすぎたり最後まで行きつかない場合の降り方などを再度徹底する。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
1081	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	12									1	1	17.５歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨尺骨遠位端骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	・今回は当該園児が降りようとしたタイミングで、意図的ではなかったにしても、他児が回転遊具を動かしてしまったことが転倒の要因と考えられる。	・遊具の使い方・遊び方を子ども達と一緒に確認し、正しい遊び方ができるように繰り返し指導する。・職員を配置するとき、危険リスクの高い遊具のそばには必ず職員を配置するようにする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	3	・回転遊具ならではの楽しさやおもしろさがある一方、使用時の約束事を守らないと危険リスクも高くなると思われる。	・回転遊具の点検の他、他の固定遊具の点検もおこない、問題がないか調べ、不具合がある場合は修理をおこなう。	1.集団活動中・見守りあり	・午後の保育時間は、子ども達の気持ちが開放的になっているため、動きもやや激しい活動状況であったように考えられる。	・子ども達の心の状況や体の状況（疲れ具合や集中力）などをよく見ながら、自由遊びの場面において環境の工夫が必要と考えられる。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	通常は、怖がりのタイプで、あまり回転遊具など激しい動きのものに乗ったりすることは少ないほうだが、この日は他児と一緒に楽しむ姿があった。	4.対象児の動きを見ていなかった	同じ園庭で、対象児の近くにはいたが、他の園児の対応をしていたため、転倒した瞬間は見逃していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	通常は、年長児も複数の職員で保育しているが、この時はもう一人の担当職員は、室内の掃除をおこなっていた。	・対象児の動きだけでなく、回転遊具を動かしてしまった園児の動きを職員がとめられなかったことが大きな要因であると考える。	・年長児といえども、園庭で遊ぶときは２人以上の保育者を配置する。また、回転遊具の使用をするときには、必ず保育者が近距離で見守りをおこなうようにする。その対応がとれない時は、他の職員にヘルプを要請する。	
1082	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	9	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	34			9	9	5	11			7	6	14.２歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置		毎日ヒヤリハット報告を実施し改善を図っていたが、新たに「ヒヤリハット報告書」を作成し、書面での記録・改善を合わせて行っていく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施		遊具が多すぎるので減らす。（職員の見守りが散漫になるため）	固定されていない遊具で必要のないものは撤去した。また、ブランコの隣同士の間隔が狭かった為、一つ飛ばしでブランコを外した。	1.集団活動中・見守りあり	朝の送迎時間帯、園庭に以上児・未満児が入り乱れ自由に遊んでいた。	朝夕の送迎時間帯は、園庭を二つに分け、以上児・未満児の遊ぶスペースを明確にした。	1.いつもどおりの様子であった	負傷した児童（2歳児）はぶつかった児童（5歳児）と隣同士ブランコに乗っていた。負傷した児童（2歳児）が別のブランコに移動しようとぶつかった児童（5歳児）の前を横切り、ブランコをこいでいた児童（5歳児）とぶつかった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	担当職員が状況的に危ないと思い、現場に向かっている最中に事故が起きた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	朝の受入れや担当クラスの園児と関わっており、上記の担当職員より事故現場の近くにいたが目が届いていなかった。	登園の時間帯、2歳以上児が園庭に出て遊んでいた。2歳児は朝のおやつがあるため9時前に保育室に戻る日程となっている。事故発生時、おやつの準備をする職員、外から保育室に子ども達を誘導する職員、登園してきた園児を受け入れる職員とバタバタしている状況だった。	朝夕の送迎時間帯がどうしてもバタつくので、担任が担当クラスの園児だけを見るのではなく、担当場所を離れる時など声を掛け合いながら合同で見守るよう今まで以上に徹底していく。また、職員の立ち位置を図で示し必ずその周辺で子ども達を見守るようにした。	
1083	令和6年6月10日	1.認可	3.保育所型認定こども園	6	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	147									6	6	14.２歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯の打撲	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施		1.基準以上配置		職員配置等ソフト面でのこれ以上の改善は現状難しい	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		静的活動と動的活動の刺激が混在しないよう環境設定を工夫する。遊びのゾーニングの検討	3.個人活動中・見守りあり		大多数の子どもが同様の活動を行っている際、その中でのトラブルに目を配りつつ、それ以外の活動を行う子どもの活動も保証できるよう職員間のポジショニングを考える	1.いつもどおりの様子であった	他児は保育室中央付近にてダンスを踊っていたが、当該児は両手にブロックを持ちままごとコーナーの方へ走っていき転んだ	4.対象児の動きを見ていなかった	他児と共にダンスを踊っており、当該児が転んだ場面には背を向けた状態であった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	当該児が走っていく様子を目視していたが、距離が遠かったため間に合わなかった。		大多数の子どもが同様の活動を行っている際、その中でのトラブルに目を配りつつ、それ以外の活動を行う子どもの活動も保証できるよう職員間のポジショニングを考える	
1084	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	14									3	2	16.４歳	2.女児	転びやすい。とっさの行動が不得意である。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手首の軽度の骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	4	1.基準以上配置	園庭に３クラス一緒になって遊んでいた為、場所によっては混雑している部分があった。	とっさの行動にも直ぐに対応できるよう全体を把握し、職員間でもしっかり連携しながら見守っていく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	使用時	3クラス同時に遊ぶには、園庭の広さと遊具が十分ではない。	園庭に出る人数や月齢も考えていく必要がある。	1.集団活動中・見守りあり	他のクラスの担任との連携と、配慮が必要な子どもの把握が不十分であった。	子ども自身への、周りの状況を見ながら危険回避できるような習慣付けと、職員間の連携の徹底。	1.いつもどおりの様子であった	健康状態良好。普段との変化は感じられなかった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園庭で遊んでいた子ども全体を見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	該当園児の近くで、全体を見守っていた。その他の職員も、それぞれに子どもたちと遊びながら見守っていた。	職員数も多かったため、注意が分散されてしまった。	職員の数に安心せず、職員一人ひとりが周りの状況をしっかりと把握できるようにしていく。	
1085	令和6年6月10日	1.認可	3.保育所型認定こども園	7	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	24				12	2	10			4	3	17.５歳	2.女児	なし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足薬指骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2	1.基準以上配置	－	活動をする前にどのような危険が潜んでいるかを想定して児童及び職員と共有する。	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	24	－	屋外遊技場などの広い場所で行う。	1.集団活動中・見守りあり	活動内容に対して人数が多かった	人数制限	1.いつもどおりの様子であった		2.対象児の至近で対象児を見ていた	一緒に活動を行いながら児童の様子を見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	一緒に活動を行いながら児童の様子を見守っていた。	－	活動中も接触や転倒などに気をつけるよう声掛けを行う。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
1086	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	4	1			2		1			3	3	17.5歳	2.女児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	4.上肢(腕・手・手指)	右手小指先裂傷	4.玩具・遊具等施設・設備の安全上の不備によるもの	1.あり	2.不定期に実施		2.基準配置	これまでに問題視してなかった場所での事故なので、改めて危険個所を職員全員で協議する。	危険個所は日頃から子ども達には約束事として口頭にて説明しているが、危険であることを文字・イラスト等で可視化させる。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	2.不定期に実施		これまでに問題視してなかった場所での事故なので、改めて危険個所を職員全員で協議する。	危険個所は日頃から子ども達には約束事として口頭にて説明しているが、危険であることを文字・イラスト等で可視化させる。	7.その他	水道メーターの蓋が重い物なので、子どもが持ち上げられないと思い込んでいた。	保護者の方には、用件が済み次第、子どもから目を離さず速やかに下園してもらうよう意識してもらう。	1.いつもどおりの様子であった	降園の時間で、保護者に引き渡しを済ませた後、同クラスの友達と仲良く玄関先で遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	遅番の担当職員が、保護者2名を対応していて（伝達事項等）、子どもの行動が視界に入っていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	降園の時間帯で、保護者の姉妹の下の子どもに気を取られ（2世帯各同クラスの姉妹・兄弟）年長の子どもには親と帰るまでは敷地内から出ない事だけを伝えていた。	保護者に引き渡した安心感があった。水道メーターの蓋を開ける予測がなかった。	危険な場所の再確認と可視化による注意喚起の声掛け。	
1087	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	25									3	3	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨骨幹部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施		1.基準以上配置	築山の上で追いかけごっこをしていて、逃げるのに必死であった。	築山の追いかけごっこの際は注意して遊ぶよう指導した。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	その都度（週１回以上）	園児本人が追いかけごっこに夢中で、周りが見えなくなり起こった事故。	特に修繕できない箇所であるため、改善はできないが、注意するよう指導を行った。	1.集団活動中・見守りあり	ある程度、注意を払いながら遊ぶ箇所である。	あまり事故の起こらない箇所であるため、当面は注意しながら見守る。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	友達と追いかけごっこをしていて、いつもより活動的であった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	築山を何人かで追いかけごっこをしていて、気にかけては見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	たまたま目を離している際に転んだため、目撃はしていなかった。	－	子どもたちへ危険な箇所であることを伝え、注意するよう指導を行った。	
1088	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	7	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	21				8	6	7			1	1	16.4歳	1.男児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左尺骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	登園や朝の会前の時間帯であったが、危機管理としての日常保育について配慮不足であった。	施設内・室内での過ごし方や、事故防止マニュアルの徹底を職員に図る。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	－	廊下での単独転倒のためなし。	1.集団活動中・見守りあり	玄関には園児受入3名。担任は各クラスで対応。以上児園児は自分達でクラスに行き、朝の準備。未満児は職員が各クラスに誘導。クラスや廊下には園児達が朝の準備の為、多数いる状況。	目配り声掛けを再度職員間で徹底する。	1.いつもどおりの様子であった	9時ごろ登園し、いつも通りの様子だった。	4.対象児の動きを見ていなかった	クラス担任は、クラスの中で子ども達のトラブル対応をしていた為、登園してきた対象児が廊下を走ってきていたのを見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	事故発生時間帯は、登園児童の受入職員3名、他の職員は各クラスに入ったり、他の登園してきた児童（未満児）の対応をしていた為、対象児の転倒は見ていなかった。	－	施設内・室内での危険性を再確認し、見守りや声掛けを怠らないよう配慮する。	
1089	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	28					18	10			2	1	16.4歳	1.男児	特記なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左第4指基節骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	職員配置を考え、死角になる部分や事故が起こりやすい場所、個々の特性などに配慮する。	前の人が滑り、居なくなったのを確認してから滑り降りる事や、職員の配置を見直し事故防止に努める。	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	24	特になし	遊具には問題なし。	1.集団活動中・見守りあり	園庭遊具の正しい使い方や遊び方を対象児に対して徹底周知できていなかった。また、言葉かけ等の日常的な注意喚起等が不足していた。	事故が起きた原因を分析し、どのような行動が危険なのかを理解してもらえるよう関わる。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	普段から活発な一面があるが、戸外あそびであったり担任が1人不在であったことから、普段よりも落ち着きがなく注意しなければならない状況だった。あそびの中で気分が高まり、危険な行動をとってしまったと考えられる。	4.対象児の動きを見ていなかった	園庭全体の見守りをしていたが、対象児を特に気にかけるということはできておらず事故発生に際して迅速な対応をすることができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	庭全体の見守りをしていたが、対象児を特に気にかけるということはできておらず事故発生に際して迅速な対応をすることができなかった。	対象児を特に気にかける必要があったにも拘らず、全体の中の1人としてしか見守りを行なっていなかった。	常に対象児の行動がわかるよう見守りの体制を整え、危険行動に迅速に対応できるようにする。	
1090	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	7	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	19				7	5	7			1	1	17.5歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	年中児男児。定型発達児。	事故予防研修は行っているので、職員もしっかりマニュアル通りに見守る事ができていた。一瞬でケガにつながる事になることを今一度周知していく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	365	特になし	公園の遊具、設備は問題なし。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	環境面での改善策はなし。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り、活発に遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	滑り台のそばにいた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	ブランコのそばにいた。	年中の男児。発達・発育に問題なし。順番待ちをしていて、集合場所に行こうとしていただけなので転倒するとは思わなかった。	集合など声掛けをするときは、各遊具の場所に行って、園児の近くで声掛けしながら一緒に歩いて移動する。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
1091	令和6年6月10日	2.認可外	18.その他の認可外保育施設	4	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	19									11	7	17.５歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	下唇裂挫創　上歯茎縫合	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	園庭見守り担当が手薄な時間帯だった。	マニュアルの各チェックリストの活用を強化する。園庭の子どもが全員各クラスへ移動するまで見守り担当を配置する。	1.定期的に実施	１回/日	1.定期的に実施	１回/日	1.定期的に実施	１回/日	太鼓橋下の衝撃吸収対策が弱かった	新たにマットレスを追加する。園庭遊びの時間終了の声掛けと同時に、太鼓橋にカバーを掛け、登れないようにする。	3.個人活動中・見守りあり	各保育者が担当クラスの子どもたちを各保育室に誘導する時間で、園庭の見守りが終わるタイミングでもあり、園庭の職員が手薄だった。	片付けの時間には遊具での遊びを終えられるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	普段と変わらず元気よく登園。特に変わった様子はなかった。	4.対象児の動きを見ていなかった	1歳児クラスのフォローに入っていた。新入園児の1歳児が泣いていたため、抱っこして１才児保育室に連れていくところだった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれが自分のクラスの子どもたちを保育室に誘導していた。	年長担任は、クラスの子どもたちを集合させ、次の活動である野菜収穫に向けて準備体制を整えるべきだったが、その場から離れてしまった。離れるときは、他の職員に声を掛けて見守りの引継ぎをするべきだった。	園庭の子どもが全員各クラスへ移動し終える最後の最後まで、見守り担当を配置する。	
1092	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	4	6.午睡中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	26				9	9	8	0		3	3	16.４歳	1.男児		8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施		1.基準以上配置		日頃から保育士間でもマットが滑りやすく危険な事もあることを意識しながら保育に当たるとともに、子ども達の行動や動きに注意する。	1.定期的に実施	4	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	290	寝具の種類は綿１００%。裏地も綿で滑り止めが無かった。	個人所有のマットの為買い替えてもらうことは難しいので、マットの敷き方を考慮する。	7.その他		マットを踏まずに歩けるよう通路を確保する。	1.いつもどおりの様子であった	元気いっぱいに両手を振って行進のように歩いていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	床を敷いてある部屋の机で、他児のカバンに薬があるか探していて、転ぶ瞬間は視界に入っていたが、一瞬の事なので転倒を防ぐことができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	一人は他児に薬を飲ませていて、もう一人はトイレにいる子どもの見守りをしていた。		子どもに室内での行動の仕方を伝える。	
1093	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	1	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	53	0	0	0	22	24	7	0		7	7	16.４歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨遠位端骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施		1.基準以上配置		身体機能の成長発達をねらいとして遊具環境として雲梯をおいている。高さに関しては、３歳児に合わせ施行しているため、これ以上の改善は難しい。販売元●●●●雲梯	1.定期的に実施	1回/月	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1		身体機能の成長発達をねらいとして遊具環境として雲梯をおいている。高さに関しては、３歳児に合わせ施行しているため、これ以上の改善は難しい。販売元●●●●雲梯	1.集団活動中・見守りあり		身体機能の成長発達をねらいとして遊具環境として雲梯をおいている。高さに関しては、３歳児に合わせ施行しているため、これ以上の改善は難しい。販売元●●●●雲梯	1.いつもどおりの様子であった	雲梯の経験もあり、いつも通り遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	雲梯の横で対象児の様子を見守っていたが、他児に声をかけられ、背を向けた瞬間、落下していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員は、他の園児の活動を見守っていたため、対象児の落下の様子を見ていなかった。		雲梯の安全な着地の仕方に、子どもたちに伝えていく。	
1094	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	26								担当講師	1	1	18.６歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施		2.基準配置		特になし	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日		特になし	1.集団活動中・見守りあり	鬼ごっこ遊びをするに適した場所か検討する。	いつでもケガにつながると意識して、細かい部分の声掛けもしっかりしていく。環境や人数に適した遊びを検討していく。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り楽しそうに遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	広場全体を見渡しながら子ども達の様子を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当職員が１人で保育を行っていた。	普段からよく鬼ごっこをしているので、そこから骨折につながると考えていなかった。	いつでもケガにつながると意識して、細かい部分の声掛けもしっかりしていく。環境や人数に適した遊びを検討していく。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
1095	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	3	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	36	0	0	0	11	16	9	0		6	6	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	二の腕骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	6	2.基準配置	子どもの思いもよらぬ行動（遊び等）に対して見守り、対応等の心構え	園庭での保育士の立ち位置を含め、安全面についての再確認を行う	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	ほぼ毎日	1.定期的に実施	ほぼ毎日	対象児が集中して遊んでいるときの思いもよらぬ他児の接触により、びっくりして転落。	他児にも安全な遊び方について丁寧に伝えるとともに職員間でも原因や安全面について話し合い、共有し、実践につなげていく。	1.集団活動中・見守りあり	上記記載以外にアスレチックの丸太が滑りやすくなっていることも考えられる。	ペンキ等ぬりかえることで滑るのを防ぐ、落下した時のことも考え丸太の下にウレタンマット又は、芝の設置をこころみる。	1.いつもどおりの様子であった	対象児が園庭のアスレチックの丸太を渡っているところに下からお友達にツンツンとされ、（対象児にとっては、お友達が視界に入っていない状態だったのか）びっくりし、そのまま約70㎝の高さの丸太から転落。強い痛みを訴えることなく、腫れや青あざ等がなかったことから保護者にその旨を伝え、帰宅となる。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	アスレチックに慣れていることもあり大丈夫だろうという思いと、担任は、他児の対応をしていた。他職員に声かけを行うべきだった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	園庭で遊んでいた全園児が、園庭からお部屋に入る時間帯ということもあり、園庭玄関側にて砂場の遊具片付けを促しや保護者対応、お部屋への誘導を行っていた。（対象児の至近距離にいたわけではない）	保護者のお迎え時間、園庭からお部屋に入る時間帯等、保育士の立ち位置、安全見守りが崩れやすい条件が重なったことも原因と考えられる。	毎日、朝、夕と園庭での3,4,5歳児合同保育時間があるので子どもの安全を最優先に保育士の立ち位置等再確認を行い、実践していく。	
1096	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	5	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	23	0	0	0	0	0	23	0		21	19	16.4歳	1.男児	・食物アレルギーのため、乳、卵、豆乳、サラダせんべい、米菓子除去食対応	5.食事中(おやつ含む)	1.負傷		1.意識不明		アナフィラキシー	6.アナフィラキシーによるもの	1.あり	1.定期的に実施	3	1.基準以上配置	検査結果を待って対応する。その間は、医師と保護者のアドバイスに従う。	原因がはっきりするまでの間、乳、卵、豆乳、サラダせんべい、米菓子除去。蕁麻疹などのアレルギー症状が出ないか、食後は注意して見守る。園内研修等を通して、救急対応とエピペン使用について、再確認する。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	検査結果を待って対応する。	食事中は席を固定し、一人掛けにすることで誤食を防ぐ。	1.集団活動中・見守りあり	原因不明のため、今後の検査結果により再度対応を検討する。	原因がはっきりするまでの間、卵、豆乳、サラダせんべい、米菓子除去。蕁麻疹などのアレルギー症状が出ないか、食後は注意して見守る。	1.いつもどおりの様子であった	おやつを食べ終えるまでは、異状なし。その後、アナフィラキシー症状。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	異常が見られたので、すぐに救急搬送を検討し、実施。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他児への対応。	不明	除去食対応の徹底。経過観察。アナフィラキシー症状がみられたときの対応の徹底。	
1097	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	23									2	2	17.5歳	2.女児	1か月間の固定	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手中指骨端骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施		1.基準以上配置		特になし	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日		特になし	1.集団活動中・見守りあり		特になし	1.いつもどおりの様子であった	毎日の体操（走り、柔軟～その他）全てにおいて、積極的に参加し楽しんでいる。当日もいつもと変りなく、元気に体操活動に取り組んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	本児の逆立ち歩き練習中～外部講師が、側につき本児の動きを見ながら声掛けする。バランスが崩れそうになるタイミングで本児の足をつかまえ補助するが、体勢が崩れてしまう。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	体操の内容レベル別に各コーナーに分かれ、各コーナーに担任（２人）外部講師（２人）がついていた。	逆立ち歩きをするにあたって、本児のやる気はあるが、体を支える腕の力が不十分だったのでは？と担任同志で話し合い分析することができた。	腕の力を強化する時間をしっかり設けるようにし、引き続き、各コーナーに大人が着き、見守り～声掛けを多く持つよう配慮する。	
1098	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	4.3歳児クラス	10									2	2	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足骨折(脛)	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	2	1.基準以上配置		特になし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	園内の施設・遊具・玩具については定期的に安全点検を行っているが、園外遊具についてはその都度目視による点検を行っている。	特になし	1.集団活動中・見守りあり		特になし	1.いつもどおりの様子であった	けがをしてしまった遊具で、何度も昇り降りを繰り返して遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	繰り返し遊んでいる当該園児を気にかけ見守っていた。時々サポートをしながら対応していたが、保育士を呼ぶ他園児の声に気を取られて目を離した瞬間に転落し、手を伸ばしたが間に合わなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	事故発生場所の隣にある小さな滑り台のわきで全体を見守りながら、当該園児の様子を見ていたが、瞬間的に手の届く距離ではなかった。		園児が高い場所で遊んでいる場合は、その場を離れず、目を離さないようにする。他園児の呼びかけがある場合も、安全管理を最優先とし、一声かけて待ってもらい、安全確認ができてから対応するように心がける。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制												事故			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事者		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳									うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他								死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】							理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
1099	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	5	6.午睡中	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	22									5	4	13.1歳	2.女児		8.その他	1.負傷		1.意識不明		熱性けいれん	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	1～2	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	特になし	特になし	5.睡眠(午睡)中	発熱による熱性けいれん	こまめな検温、健康観察を行う。	1.いつもどおりの様子であった		2.対象児の至近で対象児を見ていた	午睡から目を覚ましていたため、様子を見ていたが、痙攣を起こしたためすぐに救急車を要請した。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	午睡時間書類記入の為近くのテーブルに座り事務作業をしていた。痙攣後は動画撮影、事務所へ聯絡。	発熱による熱性けいれん	こまめな検温、日々健康観察を行う。痙攣が起こった場合は、救急車要請し救急搬送。痙攣時の動画撮影。水分補給や休息はこまめに行う。感染症発生時にはその都度保護へ配信を行う。	
1100	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	17	0	0	0	8	5	4	0		2	2	16.4歳	1.男児	今年度より特別支援保育を受けている。普段から活発で活動的である。認知・適応、言語理解でのアンバランスさがある。気持ちが昂ると、指示が通らない事がある。	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	若木骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施		2.基準配置		特になし	1.定期的に実施	1回/週	1.定期的に実施	1回/週	1.定期的に実施	1回/週		特になし	1.集団活動中・見守りあり	遊戯を行うのを楽しみにしており、興奮している様子が見られ、気持ちが昂り全力で走った事で、勢いがあり止まり切れず転倒したと思われる。	子ども達の気持ちが昂り興奮していたので、一度始まる前に話をし昂った気持ちを落ち着かせた方が良かった。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	運動会練習が楽しみで興奮し、気持ちが高ぶっている様子。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	遊戯の最中で、担任の近くで本児も踊り、移動の際に担任含め全員走った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担任含め、全員で遊戯を行っていたので、担任一人は見ていたが、もう一人の担任は自分の近くの児を見ていた為。		特になし	
1101	令和6年6月10日	2.認可外	18.その他の認可外保育施設	6	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	15			1	7	3	4			3	1	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨にひび	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	2	2.基準配置		園庭遊びの前に子ども達と園庭遊びの際に気を付けることを話す。写真を使って説明する。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1		施設の安全点検・遊具の安全点検を年４回に増やす（６、９、１２、３月）	1.集団活動中・見守りあり		園庭遊びの前に子ども達と園庭遊びの際に気を付けることを話す。写真を使って説明する。	1.いつもどおりの様子であった		2.対象児の至近で対象児を見ていた	近くで見守っていたが、急に飛び降りたので声を掛ける時間はなかった。手をついて落ちたので、すぐ駆け寄り怪我がないかチェックした。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	別の子ども達を見守っていた。		園庭遊びの前に子ども達に園庭遊びの際に気を付けることを話す。	
1102	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	69				10	24	35			10	6	17.5歳	1.男児	生後４か月の時に右腕を骨折し、骨形成不全の疑いと診断された経歴がある。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕（骨折及び脱臼）	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	2	2.基準配置	本児の既往症（骨形成不全の疑い）	・保護者に本児の病院での検査を依頼し、健康状態を知る。診断名が判明された場合は、●●課と連携をとり、今後の対応について考える。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	・木の根っこ突出	・ターザンロープ撤去 ・木の根っこを土で覆い、フラットにする。	3.個人活動中・見守りあり		特になし	1.いつもどおりの様子であった		4.対象児の動きを見ていなかった	園庭で全園児がそれぞれに好きな遊びをしている中、担任は他の園児と関わっていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	・本児の健康状態を知り、そのうえで、保護者や必要に応じて役所（●●課）と相談し、安全に過ごす為にはどのような配慮が必要か考え対応していく。		・本児の健康状態を知り、そのうえで、保護者や必要に応じて役所（●●課）と相談し、安全に過ごす為にはどのような配慮が必要か考え対応していく。	
1103	令和6年6月10日	2.認可外	16.企業主導型保育事業	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	55	2	12	22	11	8				12	10	15.3歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右脛骨腓骨骨幹部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	4	2.基準配置	普段から登り下りを楽しんでいるお山で発生した。	保育者の配置や声掛け。子どもの状態をよく知っている保育士が補助する。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	お山での遊び方に気を付ける	お山の周りに物がないか、着地時の確認。砂山の高さを低くし、頂上の平らな部分の面積を広げる。	1.集団活動中・見守りあり	遊び慣れている場所での遊びでも十分に気を付ける。	お山の高さの確認や年齢にあった遊びの見直し。個々の運動能力を十分に見極め、安全第一の援助をする。日頃から、準備体操の時間を設け怪我をしにくい体づくりを行う。	1.いつもどおりの様子であった	走り回ったり、ジャンプしたりしていた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	目も手も届く距離にいたが、事故が発生してしまった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	各クラスの園児の傍で遊びを見守っていた。	普段から、お山付近でのかけっこやジャンプについて気を付けて見守っていく。	今一度、保育者間で配置の確認を行なう。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
1104	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	7	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	9									7	6	16．4歳	2.女児		8.その他	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左母趾基節骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	4	1.基準以上配置		今回の事故においては、ソフト面の問題は無いと分析。よって、改善点は無しと判断する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日		今回の事故においては、ハード面の問題は無いと分析。よって、改善点は無しと判断する。	7.その他	登園後、自身の荷物整理を行ってから活動を開始する決まりになっているが、荷物（リュックサック、水筒）を持ったまま、トイレ内で追いかけっこをした。	登園後は速やかにクラスに入室し、荷物整理を済ませてから活動することを子どもたちと改めて確認していった。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	普段は、登園すると本児の在籍する4歳児クラスに向かうことが多いが、この日は弟の在籍する2歳児クラスに見送りに行った。2歳児クラスと4歳児クラスの間にある集合トイレ前で仲の良い友人と会い、気持ちの高ぶりから、荷物を持ったまま追いかけっこに発展し、つまづき転倒したと推測。	4.対象児の動きを見ていなかった	3～5歳児が使用する集合トイレであり、排泄介助も要らず、保育士はその場にいなかったため、見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	朝の異年齢児保育の時間帯から、各クラス保育へ移行していく時間帯。また、登園受入も並行して行うタイミングであり、事故のあったトイレに保育士はいなかったため、その他の職員も転倒する場面を見ていない。		事故の場面を見ていなかったことは大きな課題であり、早番職員の役割と立ち位置の確認を行った。	
1105	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	75			15	22	19	19	0		6	6	14．2歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	ひだり上腕骨外側顆骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置		園庭の下り斜面は走りながら降りるとバランスを崩し転倒する恐れがあることを職員で周知し、予測を持ち保育を行っていく。	1.定期的に実施	4	1.定期的に実施	4回・毎日	1.定期的に実施	4		毎朝行われている遊具点検、安全点検の際、芝が濡れていないか、滑りやすくないか等、注意してみていく（記録に残す） 園内ハザードマップに、怪我をした場所を危険個所として記載する。	1.集団活動中・見守りあり		子どもたちへ、下り傾斜は滑りやすいこと、走って下る際は気を付けること、を伝える。危険個所として、人員を配置する。	1.いつもどおりの様子であった	母親からの朝の受け入れで、体調は良い、園外活動も大丈夫であるとの連絡をうけていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	一緒にかけっこを楽しんでいた職員が本児の後ろ側から追いかけており、転倒の瞬間を目視で確認する。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	築山の上の監視職員（●●●）が転倒する本児を確認している		子どもたちへ、下り斜面は滑りやすいこと、走って下る際は気を付けることを伝える。危険個所として、人員を配置する。朝の園庭安全チェックで、芝が濡れていないか、遊びに適しているか、確認、周知を行っていく。	
1106	令和6年6月10日	1.認可	3.保育所型認定こども園	6	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	21									2	2	17．5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	開放性骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	3ー5	1.基準以上配置	毎日の習慣で、その都度「机の持ち方の注意事項」を伝えなかった。	その都度正しい机の持ち方を伝える。きちんと上履きを履く。一人で難しい時には友だちと持つ。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	使用前毎	1.定期的に実施	1回/週	机やイス等も倒れ、人に当たるとケガをする危険がある事を、もっと詳しく説明する必要があった。	現在ハード面の改善策を検討中	7.その他	普段同様に「机の移動」の声を掛けたが、集団活動後だったため、「しっかり持ち方を伝え、ふざけない」等の言葉を掛ける必要があった。	職員の意識改革(常に危険が潜んでいる)	1.いつもどおりの様子であった	机を運んでいた	4.対象児の動きを見ていなかった	ホールで体操道具をかたずけている最中	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	ホールから部屋に戻る際中	保育者が一緒に行動をとれたらよかったが、5歳児という事で、安心していたこと、いつも行っている行動だったため過信していたこともあった。	職員の意識改革(常に危険が潜んでいる)	
1107	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	17		3	1	1	4	8			7	7	17．5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕複雑骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	3	1.基準以上配置	子どもの体力低下やケガの傾向の実態の把握や分析	園内研修で子どもの体力やケガの傾向、対策などの共通理解を図る	1.定期的に実施	4	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	木の根っこが広がり、地面から浮き出ている	地面から出ている部分を切る	1.集団活動中・見守りあり	日頃から活発に走り回り遊ぶがつまずきも多く見られる	丈夫な体作りを園で取り組み、家庭へもお便りなど働きかけていく	1.いつもどおりの様子であった	日中は遊泳活動があり、疲れがあったと考えられるが、本児はいつものように活発に園庭で遊んでいた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	本児が滑り台や追いかけっこで遊んでいるのを把握していたが、転んでの骨折を予測はしていなく注意を払っていなかった	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	本児も含め、全体の遊んでいる様子を見守る	日中の活動が遊泳であったのと、午睡なしで疲れが出ていた。	疲れを考慮して室内でゆったりと過ごす。	
1108	令和6年6月10日	1.認可	3.保育所型認定こども園	8	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	21				9	7	5			3	3	17．5歳	1.男児	薬品アレルギー（ワイドシリン）	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手親指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	特になし	職員の見守りの位置とフローチャートの再確認をし情報共有する。	1.定期的に実施	開園日は毎日	1.定期的に実施	開園日は毎日	1.定期的に実施	開園日は毎日	様々な子どもの行動を予測し、先の対応を行う。	活動をする際に障がい物がないよう配慮する。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	休み明けには気持ちの高ぶりがある為発散する活動においては十分配慮する	1.いつもどおりの様子であった	体調は良好。いつも通りの様子	2.対象児の至近で対象児を見ていた	遊びの様子を近くで見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の様子の見守りをしていた。	特になし	同じ場所で活動する際は園児の人数を配慮する。	

No	初回掲載年月日	概要・認可・認可外	概要・施設・事業所種別	概要・事故発生時期・月	概要・事故発生時期・時間帯	概要・発生場所	発生時の施設・事業体制・発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳・0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故・年齢	性別	特記事項	事故状況・発生時状	事故の転帰	死亡・死因	負傷・負傷状況	負傷・受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析・ソフト面・マニュアルの有無	事故予防研修	事故予防研修・実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面・施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面・教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面・対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
1109	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	7	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	26									3	2	15.3歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	12	2.基準配置	コーナーの場所を意識できるような環境作りや声掛け等が不十分だった。	どんな場所でもケガが起こりうることを考え、環境や職員配置、子ども達への声掛けの工夫を行う。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	白線で引いた円周を走っているが、コーナーを意識できるような環境作りが出来ていなかった。	コーナーを意識できるよう、カラーコーン等でわかりやすいようにしていく。	1.集団活動中・見守りあり	3歳児にとって、円周コーナーを曲がる時のスピード調整が難しかった。	コーナーの角度を緩やかにし、子ども達でも安全に走りやすいようにしていく。	1.いつもどおりの様子であった	リレーで1番になりたいと張り切って腕を大きく振り走っていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	転倒した瞬間は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	並んでいる子ども達の所やスタート地点にいたため、転倒した瞬間は見ていなかった。	リレーの際に意識する点として、バトンの使い方中心となっていしまい、コーナー部分の説明等が不十分だった。	声かけや、コーナーで少しスピードを落とせるよう、職員の立ち位置やカラーコーンの設置を行う。	
1110	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	7	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	16					12	4			1	1	17.5歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	1回/日	1.定期的に実施	1回/日	1.定期的に実施	1回/日	日頃はトイレが隣接している保育室で午睡を行うが、今回はトイレが隣接していない保育室で午睡準備を行っていた。	園児がトイレに行く為保育室を出る際は、保育室とトイレを両方確認できる立ち位置を取るようにする。	5.睡眠(午睡)中	午睡をする保育室がいつもとは違う保育室だったことで保育室とトイレが離れていて、子どもの様子を確認しづらかった。	職員配置が一人ということを考え、トイレから離れている保育室で午睡をせず、トイレが隣接している部屋で午睡をしていく。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	Aくんと二人でトイレに行き、どちらがさきに保育室につくか競争した模様。その際にAくんと衝突し、床に左肘を強打している。	4.対象児の動きを見ていなかった	トイレに行く際は、保育室と廊下側を両方確認できる位置に立っていたが、午睡準備の際、保育室中側に移動してしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	出来るだけ複数の保育士で見るよう環境作りをしているが、その時は担任の保育士のみだった。	保育者が保育室と廊下側を確認できる立ち位置から移動したことで廊下側の子どもの様子を見ることができなかった。	保育室から子どもが離れる際は子ども達の動きを確認できる立ち位置を取り、危ない時などその都度声をかけていく。	
1111	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	24									3	3	17.5歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	閉鎖性骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	特になし	職員の立ち位置は問題なく園児の体調も良好。またとび方等にも問題はなかった。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	とび箱設置場所も事前に確認し、問題はなかった	1.集団活動中・見守りあり	特になし	職員の見守りや安全面も確保できていた。	1.いつもどおりの様子であった	体調面に問題はなく、練習にも意欲的であった	1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	なにかあったときにすぐに対応できるようとび箱のすぐそばで待機	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他職員も、それぞれ子ども達のそばで待機	特になし	とび箱をとび越えた時のフォームも着地も成功	
1112	令和6年6月10日	1.認可	3.保育所型認定こども園	6	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	6.5歳以上児クラス	34									4	4	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左尺骨近位端骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	2	1.基準以上配置		事故予防に関する研修を再度行い、事故防止に努める。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1回/日		適正年齢に合わない遊具を利用しない。	1.集団活動中・見守りあり	保育者が見守りながら並んで雲梯で遊んでいたが、保育者がいない反対方向からジャンプをし雲梯を掴もうとして落下。	約束事（保育者と一緒に雲梯を行う。保育者が見えないところ、いないところへは行かない。並んで順番を守って遊びに参加する。など）を再度確認し、子ども達に声掛けを行い伝えていく。保育者の立ち位置を再度話し合い、確認を行う。年齢に見合った遊具か再度見直す。	1.いつもどおりの様子であった	順番で並んで雲梯遊びを行っていたが、並んでいる反対方向から雲梯を掴もうとジャンプをする。雲梯を掴むことが出来ずに落下し、左腕を強打してしまう。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	順番で並んで雲梯遊びを行っていたので、他児の雲梯の見守り・援助を行う。本児も並んで雲梯遊びをする姿があったが、何度か並んだ後に反対側からジャンプをしている。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の遊具（階段や滑り台など）の見守りを行う。		約束事（保育者と一緒に雲梯を行う。保育者が見えないところ、いないところへは行かない。並んで順番を守って遊びに参加する。など）を再度確認し、子ども達に声掛けを行い伝えていく。保育者の立ち位置を再度話し合い、確認を行う。	
1113	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	2	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	36					15	21			2	2	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手首不全骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	転び方で骨折することもあるという認識が薄かった。	危機意識を持ち、危険はいつも隣り合わせであることを意識していること。事故防止委員会や研修を通して共通の理解をし保育にあたること。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	240	1.定期的に実施	240	園庭の状態や遊具周りの地面の柔らかさを点検し固い時には耕し、凹凸のある時には均しているが、隅々まで管理が行き届いていなかった。	毎日複数の目で園庭の状態を確認していき、異常がある時は細目に情報交換をしていく必要がある。	1.集団活動中・見守りあり	遊ぶ中で走った際に何かにつまづいて転んだ。手のつき方が悪く怪我につながった。	普段の遊びの中での怪我だが、職員は常に子どもたちの様子を気にかけながら見守り、危険が伴うようならば子どもに声を掛けて未然に防げるようにしていく。	1.いつもどおりの様子であった	友だちと遊びの中で走っていてその際に転び、内転したまま手をつき怪我に繋がった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	事故発生の近くで複数の子どもの様子をみていたが、事故前に他児のトラブルの仲立ちをしていた時に事故が起こった。すぐに駆け寄り対応し看護師に報告した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	離れた幼児遊具付近で複数のこどもの様子を見ていたので、本児の様子は見ていなかった。	常に十分注意を払って子どもたちの様子をみているが、気を引き締めて見守る必要がある。	常に子どもの行動を予測し、様々な場面に危険の可能性があることを職員同士共有・連携して注意を払っていく。	
1114	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	22									2	2	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)	靭帯損傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	なし	なし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	240	1.定期的に実施	12	なし		1.集団活動中・見守りあり	なし	なし	1.いつもどおりの様子であった	園庭を元気に走っていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	転んだりぶつかったりする様子も見られなかったので、本児の様子に気が付かなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	もう一人の職員は、園庭にいる他の園児を見ていた。	両足を滑らせながら急ブレーキをかけた時に、横向きに滑っていたことで片足（右足）に全体重がかかったのではないかと考えられる。	日常の遊びの中で、いろんな部分の身体を動かすことを経験していく。子どもたちに怪我に繋がることはどんなことがあるか等 気を付けることを伝えていく。	

No	初回掲載年月日	概要：認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期：月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制：発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳：0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故：年齢	性別	特記事項	事故状況：発生時状	事故の転帰	死亡：死因	負傷：負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面：マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面：施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面：教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面：対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
1115	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	26				8	9	9			3	3	15.3歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手首骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	3～4	2.基準配置	本児が、しゃがんで遊んでいるところに鬼ごっこをしていた子どもが本児に気づかず走り込んできて衝突し、転倒した拍子に右手首を殴打した。	園庭あそびの際の職員の配置を見直し、危険が伴いそうな勢いがある時には、早目に声をかける等職員の注意喚起を徹底した。	1.定期的に実施	240	1.定期的に実施	240	1.定期的に実施	240	なし		3.個人活動中・見守りあり	職員の見守りの配置の見直し。	園庭あそびの際の職員の配置を見直し、危険が伴いそうな勢いがある時には、早目に声をかける等職員の注意喚起を徹底した。	1.いつもどおりの様子であった	活発に走り回って遊び児童ではないため、自分のあそびに夢中になっていたと思われるが、しゃがみこんで遊んでいたため、走っている子どもの目に映らなかったとみられる。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	1対1で保育する年齢ではないので、自分の配置の範囲の子どもたちの様子を見て、状況に合わせて対応していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれの配置の場所から子どもたちのあそびを見守っていた。	本児が、しゃがんで遊んでいるところに鬼ごっこをしていた子どもが本児に気づかず走り込んできて衝突し、転倒した拍子に右手首を殴打した。	園庭あそびの際の職員の配置を見直し、危険が伴いそうな勢いがある時には、早目に声をかける等職員の注意喚起を徹底した。	
1116	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	53				16	21	16			4	2	17.5歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手小指基節骨骨端線損傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	5	1.基準以上配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	300	1.定期的に実施	300	1.定期的に実施	300	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	逃げることに夢中になり、他児の動きや狭い場所などに注意が向かず、危険を察知することができなかった。	周りの様子にも注意しながら遊ぶよう伝えていく。	1.いつもどおりの様子であった	一日通して暖かく、体も動きやすい日であった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園児が鬼ごっこをしていたのを園庭の中で見守っていたが、園児も走っていたため、咄嗟に防ぐことはできなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	園庭全体に目が行き届くよう、4名の保育士を配置していた。	楽しく鬼ごっこをしている中で、周りを見ながら避けて走る事が難しかった。	毎日体操や器具を使用した運動の時間等で他児や周辺のものを瞬時に避ける判断をしたり、瞬発的に動かしたりする力を養っていく。	
1117	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	12									2	2	16.4歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右モンテジア骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	午前中5歳児が中心になって組木の家を作っていた。その家の上にこの時間4歳児(本児と友達1人が上がって遊んでいたが、落下するかもしれないという認識が甘かった。	年齢発達ごとの危機管理についての認識の甘さが事故につながったと思われるため、各クラスごと子どもたちの発達と遊び環境の危険について話し合った。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	240	1.定期的に実施	240	固定遊具については危険な遊び方等の共通認識をしているが、組木については作り方で形状が変わるので、いつもと違う場面での危機管理が必要。	組木遊具の安全な使い方について職員間で周知する。	3.個人活動中・見守りあり	久しぶりに5歳児が午前に盛り上がって上手に組んだ組木の家が4歳児の目を引いたと思う。4歳児には危険意識がなかったと思われる。	組木で作った家のある園庭は3，4歳児も利用するので、入室時に片付けておくべきだった。	1.いつもどおりの様子であった	本児は活発で、友だちともかかわり毎日元気に遊んでいる。友だちのすることにも興味関心があり、事故の時も一緒に遊んでいる子がやっていることに手を出してしまったため手を払いのけられてバランスを崩してしまった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	組木はバランスよく組まれていて上にのぼっても不安定ではなかったため仲よく遊んでいる二人に危険を感じなかった。そばで見守り背を向けた直後の落下だったため、担任は大変悔やんでいた。4月担任が変わり4歳児の発達、運動能力個々の様子等十分把握していなかったため危険に対する認識が甘かったとも思われる。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	4歳児が7～8名戸外に担任とともに出ていた時、0歳児担当職員(昨年度3歳児のクラス担任)が戸外で掃除をしながら4歳児の子どもたちを見守っていた。落下し担任以外の職員もすぐ気づいて駆け付けられる場所にいたためすぐ対応したが、遊んでいる様子から危険は感じなかったとのこと。	新年度クラス担任も変わり、見守りの視点認識の甘さによる事故であると思われる。	どんな遊びにもリスクがあることを考えながら見守っていくよう職員間で危機管理マニュアルを再確認した。	
1118	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	46				17	14	15			6	5	15.3歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘の骨にヒビが入る	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	自分の場所に来てほしくなかったことから、突き飛ばすような対応をしてしまった。	押してしまった子どもは、自分のパーソナルスペースがあり、他児との関わりが難しいことを把握し各職員にも情報を共有する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	250	1.定期的に実施	12	築山にあるトンネルは視界が限られるため職員から見づらい場所もある。	子どもの人数やその時の状況に合わせて、使う玩具や遊具も考えていく。	3.個人活動中・見守りあり	迎えの時間ということもあり、保護者と話していると全体に目が行きづらい。	職員の人数も少なくなってくる為、クラス関係なく職員間で声を掛け合い、子どもの様子や動きを見守る。	1.いつもどおりの様子であった	築山で遊んでいた。一緒に遊びたいという思いから、友達に近付いた。	4.対象児の動きを見ていなかった	対象児の動きを見ておらず、横たわり泣いている姿があり気付いた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	築山上には職員はいたが、トラブルや泣き声に気付かなかった。	職員の築山での転落に対する危機管理意識が薄く、トラブルに気付かなかった。	転落、転倒の可能性がある遊具の近くには必ず職員がつき、子ども同士のトラブルにも瞬時に対応できるようにする。	
1119	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	77		12	14	17	19	15			11	11	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外顆骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	12	2.基準配置	・雲梯で慣れが生じ安易に考えての遊びに繋がった。	・雲梯に付いた職員が危険が生じそうなときにはその都度注意を促していく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	240	1.定期的に実施	52		・問題が生じたときには全職員に周知していく。	1.集団活動中・見守りあり		・遊びに慣れが生じてきているときはその都度声を掛けていく。	1.いつもどおりの様子であった	・雲梯が好きなため順番に並び何回も楽しんでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	・雲梯の場所につきやっている子の様子を見ていた。危ないときは声掛けをしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	・他の職員は自分の持ち場を見ていた。		・全体を見る職員が危険を感じたときに声を掛ける。	

No	初回掲載年月日	概要：認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期：月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制：発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳：0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故：年齢	性別	特記事項
1120	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	19				7	6	6			3	2	17. 5歳	1.男児	
1121	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	51		6	5	11	12	17			18	14	17. 5歳	2.女児	
1122	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	28				10	10	8			3	3	17. 5歳	1.男児	精神的、運動発達的に同年齢の児と比較し、若干幼い印象の児である。穏やかな性格ではあるが友だちは多くなく、性質や興味が似ている特定の男児と気が合い、普段から戦いごっこなどをして一緒に遊ぶ様子が見られる。
1123	令和6年6月10日	1.認可	3.保育所型認定こども園	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	87			19	22	24	22			9	9	15. 3歳	1.男児	
1124	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	12		2	1	3	3	3			2	2	16. 4歳	2.女児	

No	事故状況：発生時状状	事故の転帰	死亡：死因	負傷：負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面：マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策
1120	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左前腕の左橈骨・尺骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	1～2	1.基準以上配置	雲梯付近に監視役がいたが、他の遊具で危険な事例が発生しその場を離れてしまった。その際に、該当園児が雲梯を何本か飛ばしてやろうとして落下し、骨折した。誰もその現場を見ていない。その後防犯カメラで経緯を確認した。	雲梯は先生が見守っているときに遊ぶというルールを子どもたちに伝えた。雲梯を園庭の中でも見やすい位置へ移動した。
1121	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	数	1.基準以上配置	唐突に走り出した本児に対し、静止の声掛けができなかった。	鉄棒・縄跳びなど、動きが大きくなるあそびを実施している時は、周囲の子どもたちへの一層の注意をし、こまめに声をかける。夕方の園庭あそびについて、再度配慮の見直しを行い、整備していく。→外に出る時間をおやつ後から16：00からに変更し、職員が必ず園庭あそび及び門扉、お迎え対応についてから子どもたちを戸外に出すように変更した。また、お迎えの保護者がきた子どもたちには、帰りの支度をすることを伝えるとともに、すぐに向かえるように見守りを強化する。
1122	2.室内活動中	1.負傷		6.その他	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	鎖骨不全骨折（ひび）	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置		・室内で遊んでいたため、園児それぞれの遊びを見極め、危険が感じられる際は声を掛けるようにしていく。
1123	1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	なし	なし
1124	1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷性歯の亜脱臼	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置		事故（防災）防止委員会を開催し、事故についての職員の意識を高める。

No	ハード面：施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策
1120	1.定期的に実施	240	1.定期的に実施	240	1.定期的に実施	240	雲梯付近担当の監視役が他の遊具へ移動してしまうと見えにくい位置であった。	雲梯を見通しの良い位置へ移動した。
1121	1.定期的に実施	290	1.定期的に実施	290	2.不定期に実施	290	特になし	なし
1122	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	210	1.定期的に実施	210	・遊びの空間設定、玩具の量、使い方などへの配慮。	・静と動の空間を分けて遊ぶことや、玩具などが散らかりすぎないよう適量を用意したり、片付ける場所を明確にしたりしていく。また玩具の適正な使い方を知らせていく。
1123	1.定期的に実施	245	1.定期的に実施	245	1.定期的に実施	245	なし	なし
1124	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	240	なし	施設・設備には問題なし

No	環境面：教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策
1120	1.集団活動中・見守りあり	雲梯付近の定位置に監視役を配置していたが、他の遊具で危険な場面があり離れてしまった。その時に雲梯を何本か飛ばしてしまった。	監視役が雲梯付近を離れるなど見守れないときは雲梯を使用しないルールを作った。
1121	1.集団活動中・見守りあり	保護者のお迎えもあり、園庭でのあそびが煩雑になる時間なので、子どもたちのあそびへの集中力が続かなかったり、突然想定外の動きをする場合があった。	上記も記した通り、子どもが外へ出るための職員の時間や動きを再確認し、事故防止に努める。また、子どもたちにも話をして、お迎えが来たら、遊びに区切りをつけて、お迎えの保護者と帰ることを、ことあるごとに伝えていく。
1122	3.個人活動中・見守りあり	・夕方は一日の疲れが出やすい時間帯であることや保護者の迎えが次々とみえるので、園児たちも何となく落ち着かず、気持ちが高揚していたことも考えられる。	・室内で遊ぶ際、静と動の遊びを分ける工夫と、動のエリアには机や椅子などは片付けて広い空間を確保するなどしていく。夕方の時間帯で迎えが次々と見える中、対応の仕方も考えていく。
1123	3.個人活動中・見守りあり	なし	なし
1124	7.その他	雲梯棒での遊び方	雲梯棒を使用して遊ぶ場合には必ず職員が近くにつき補助をしながら使用する。

No	人的面：対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
1120	1.いつもどおりの様子であった	夕方の合同保育での外遊びの時間に雲梯を何本か飛ばして進もうとし、つかみ損ねて落下した。いつもならすぐに立ち上がるが、その場から動かなかった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	いつもと違い立ち上がらないのですぐに駆け付けた。すると、手首が折れ曲がっていた。すぐに他職員に応援を要請。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当職員と事務職員とで協力し事務所へ搬送。添え木をし三角巾で吊るす。保護者へ連絡し、お迎え時保護者とともに防犯カメラを確認した。	何本か飛ばして雲梯をやることが危険であることや安全な遊び方について子どもたちへ周知されていなかった。	安全な遊び方、遊具の使い方を日々伝えていく。	
1121	1.いつもどおりの様子であった	縄跳びには入らず周囲の様子を見ながら過ごしていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	縄跳びをしていた子どもたちが「ちょっと休憩」と縄跳びから外れたので縄をもったまま、休憩の子どもたちが戻るのを待ちながら周囲の様子を見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	それぞれの持ち場にいて、子どものあそびを見たり、お迎えの保護者に対応をしていた。	縄跳びの子どもたちが休憩に入った時点で、縄を寄せるなどの配慮があるとよかった。	道具を使った遊びをしている場合は、あそびへの集中の様子を見守りつつ、早目に道具を寄せて、片付けに入るよう配慮する。	
1122	1.いつもどおりの様子であった	・いつものように遊びを楽しもうとしていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	・至近や離れたところというより、同じ部屋の中で子どもたちと遊びながら、全体を見通していた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	・至近や離れたところというより、同じ部屋の中で子どもたちと遊びながら、全体を見通していた。	・全体を見守っていた。	・今回の事故を受けて、改めて全体を見守る際に、危機管理の研修で学んだ『意識的に見る』ということに焦点を当てて、園全体で周知していく。	
1123	1.いつもどおりの様子であった	キックボードに乗って遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	他の園児と遊びながら見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の園児と遊んでいたり見守っていたりしたので見ていなかった。	なし	なし	
1124	1.いつもどおりの様子であった	雲梯棒にぶら下がって次の棒を掴もうとした際、両手を離してしまい落下してしまった。	4.対象児の動きを見ていなかった	近くに職員はいたが全体の動きを確認するため少しの間、目を離してしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭の別の危険個所で他の園児の様子を見ていたため、見られていなかった。	危険を伴う状況への保育教諭の危機管理不足。	どういった状況が危険につながっていくのかを改めて話し合い、監視の仕方を考えていく。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
1125	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	23				12	3	8			5	5	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷による歯の脱臼	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置		事故（防災）防止委員会を開催し、事故についての職員の意識を高める。	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	240	なし	施設・設備には問題なし。	7.その他	クライミングでの遊び方	クライミングを使用して遊ぶ場合には必ず職員が近くにつき補助をしながら使用する。	1.いつもどおりの様子であった	クライミングを登ろうとしたときに足を滑らせてしまった。その際、顔の近くにあった手で持つ所に口を強くぶつけてしまった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	クライミングの近くに本児以外にも他児が遊んでいたため、一対一では見れらていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭内の整備や保護者対応を行っており、本児の動きは見られていなかった。	危険を伴う状況への保育教諭の危機管理不足。	どういった状況が危険につながっていくのかを改めて話し合い、監視の仕方を考えていく。	
1126	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	3	7.午後	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	18									2	2	17.5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯の打撲	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	3	1.基準以上配置	特になし	マニュアルあり、研修実施、職員配置基準も満たしているため、特になし	2.不定期に実施	10	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	48	特になし	施設、遊具、玩具の安全点検を定期的に行っているため、特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	活動中、見守り体制があったため、特になし	1.いつもどおりの様子であった	いつもの通り機嫌よく過ごしていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	近くで、こども全体を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	子ども達の降園の準備をしていた。	屋外での活動後ということもあり、気持ちが高揚していたことが考えられる。	クラスで、こども達と怪我に繋がる危険な行動について確認し、移動時は歩くことを意識するよう伝えた。こどもが通る動線には安全確保の対策を徹底する。	
1127	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	4	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	16									6	4	14.2歳	1.男児	てんかん・熱性けいれんの既往なし	5.食事中(おやつ含む)	1.負傷		1.意識不明		小児良性てんかんの疑い	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	3～4	1.基準以上配置	なし	特になし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	なし	特になし	6.食事(おやつ)中	なし	特になし	2.いつもより元気がなかった(理由を記載)	「いただきます」をした後もぼんやりしており、自分で食べる様子がなかった。最初の一口は援助され食べたが、その後は自分で食べていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	当該児童や後席の児童の食事介助を行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童の食事介助を行っており、当該児童の動きは見ていなかった。	なし	特になし	
1128	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	17									1	1	18.6歳	1.男児	●/●～インフルエンザAに罹患し、自宅療養中で受診ができなかった。自宅安静中でシーネ固定を外していたため、経過が長引いている。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左　小指PIP関節骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	2	2.基準配置	特になし	マニュアルあり、研修実施、職員配置基準も満たしているため、特になし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	施設、遊具、玩具の安全点検を定期的に行っているため、特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	活動中、みまもり体制があったため、特になし	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	５歳児クラスの好きな遊びであるドッジボールであり、試合形式で気持ちが高揚していた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	クラス全員参加で試合形式で行っており　担任保育士は審判をしながら見守りをしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担任1人で保育を行っていたため、他の職員はいなかった。	ドッチボールを楽しみ、気持ちが高揚していた。	活動中は、こどもたちに声をかけたり、高揚時には一旦集合し、落ち着いてから活動を再開する。	
1129	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	5	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	13									1	1	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯の亜脱臼（右上A）	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	2	2.基準配置	特になし	今後も研修等を通じ、一人一人の危機管理意識のより一層の向上に努める。	1.定期的に実施	2	2.不定期に実施	2	2.不定期に実施	2	特になし	定期的に安全点検を実施することに加え、ヒヤリハットなど職員の気づきを共有し、事故防止に取り組む。	1.集団活動中・見守りあり	子どもの人数に対してコートが狭く、ボールを受けようとしていた当該児童に対し、離れた所にいた3人の児童もボールを受けようと当該児童の傍に勢いよく集まったため。	子どもの人数に合わせてコートの大きさを考慮し、1つのボールに密集する事の危険性を伝え、約束をしてからドッジボールを開始する。	1.いつもどおりの様子であった	いつもと変わりなく元気に過ごし、友達と一緒にドッチボール遊びをしていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	担任はドッジボール審判のため、ドッジボールコート外側中心に立ち、全体を見ていた。当該児童は外野のためドッジボールコート外におり、当該児童がボールを受けようとした時、他児3名が当該児童と重なったため、当該児童にボールがぶつかった様子は見えなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	1人担任で5歳児13名を見守っており、所庭には5歳児以外にはおらず、他に当該児童の動きをみていた職員はいなかった。	特になし	見守りの立ち位置や視線の角度を、子どもの動きや状況に応じて対応する。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
1130	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	53			12	2	17	22			6	6	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	1.頭部	左側頭部打撲	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	事故後発見した職員が、本児が頭を強く打っていることに気づけなかった。	些細な傷に思われても油断せず、園内に看護師がいる場合には看護師に診せる。看護師がいない場合も１人で判断しようとせず、周りにいる保育者と連携を取りながら対応を考える。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	12	特になし	施設、遊具、玩具の安全点検を定期的に行っているため、特になし。	1.集団活動中・見守りあり	園庭で複数の遊びが混在していた為、転倒に繋がった。	遊び毎に、エリアを区切り、安全に遊べる環境を整える。	1.いつもどおりの様子であった	園庭で鬼ごっこに夢中になっていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	鬼ごっこをしていることは知っていたが、当該児童を常に見ていたわけではなかったので、転倒後に気づいた。転倒の様子は監視カメラで確認した。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	少し離れた場所で他児の見守りを行っていた。	各保育者が分かれて見守っていた。当該児童の近くにも保育者がいたが、事故発生時には当該児童を見ていなかった。	保育者同士声を掛け合い、どのエリアを見守っているか明確にすることで見落としがないようにする。	
1131	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	34				18		16			5	5	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘の骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2～3	2.基準配置	特になし	マニュアルあり、研修実施、職員配置基準を満たしているため、特になし	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	随時	1.定期的に実施	随時	特になし	施設、遊具、玩具の安全点検を定期的に実施しているため、特になし。	1.集団活動中・見守りあり	後ろを向いて走っている児童がいた。多数の園児が一斉に走っていたため、ぶつかりやすい状況だった。	人数を分けたり、走るルートを決めたりして子ども同士がぶつからないようにする。後ろを向いて走るなど危険な行為が見られたら、すぐに声をかけ注意する。	1.いつもどおりの様子であった	対象児は後方が気になったのか後ろを向いて走っていた。走ることに夢中になっていたため、注意が散漫になっていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	担任2名が2クラス合同で園児と追いかけっこをしていた。園児が入り乱れて走っている状況で、園児から逃げながら走っていたため、園児一人一人を見ることは難しい状況だった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	全体を見守れるように分かれて立っていた。	全体を見ていた職員が、当該児童が後ろを向いて走っていることに気付いたが、声をかける前に転倒してしまった。	走るときは前を見て走るよう、声をかける。	
1132	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	6.午睡中	1.施設敷地内(室内)	1.0歳児クラス	3									2	2	9.8か月	1.男児		8.その他	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	2	2.基準配置	十分な人員がある状況の中で休憩交代などを行っていけるようにする。	年齢別リスクチェックに抱っこひもの扱い、体位変換の留意点についてを追記する	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	3	特になし	特になし	5.睡眠(午睡)中	他児を起こさないように焦って対応してしまったため。	おんぶではなく、抱っこなど無理のない体位にするべきだった。	1.いつもどおりの様子であった	当該園児が体位変換中に体勢が嫌でのけぞってしまったため事故につながった。しかし事故後も再び眠りにつき、起床後も特に変わった様子はなく、高這いをして移動したり、つかまり立ちをして機嫌が悪い様子はなかった。	1.対象児とマンツーマンの状態(対象児に接していた)	他児を起こさないように焦り、おんぶでは寝つかなかったため、前抱きに体位を変えようと抱っこひもを緩めた時に、当該園児がのけぞってしまったため転落してしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	正規職員１名が休憩に出ており、休憩対応の職員が定められた時間にいなかった。	特になし	特に怪我がなかったため経過観察として軽視してしまったため、今後はより注意深くみていく。個人の判断ではなく、すぐに上司に報告し怪我の状況を複数の職員で確認していく。保育にあたっている複数の職員で連携を取り、対応していく。	
1133	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	8			1	1	3	3			2	2	16.4歳	2.女児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	7	2.基準配置	特になし	職員間で事故が起こった際、子どもの過ごし方について確認し合うとともに、職員配置について見直しをし、共通理解する。	1.定期的に実施	2回/月	1.定期的に実施	2回/日	1.定期的に実施	毎回/週	特になし	特になし	7.その他	跳ぶ、転がるなど運動遊びを十分に行ってこなかった。事故発生時の時間帯の長時間利用児は幼児がほとんどなので、使用する保育室は未満児保育室ではなく、幼児保育室の方が適しているのではないか。	運動遊びを保育の中に積極的に取り入れていく。17時30頃になると幼児が未満児保育室に移動して過ごし、順次降園していたが、その時間帯は幼児がほとんどなので、未満児が幼児保育室に移動してはどうか検討する。	1.いつもどおりの様子であった	年上児がフェンスに登り降りをしているのを真似をしてフェンスに登った。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	●●組保育室内で未満児の迎えにきた保護者対応をしながら、対象児等がテラスで遊ぶ様子を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	各保育室の戸締まり等を行っていた。	職員は対象児等に「危ないよ」と声かけをしたが、声かけだけでは伝わらなかった。	子どもの危険な行動に対しては、言葉かけだけでなく側について制止するなど安全面に配慮する。管理当番にあたる職員の戸締まり等の時間を工夫する等し、２人で保育にあたるようにして職員配置を見直していく。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	概要 施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等
1134	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	88	3	6	10	20	26	23			16	16
1135	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	25									2	2

No	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策
1134	17．5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	24	1.基準以上配置	特になし	特になし
1135	18．6歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足関節外果骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	6	2.基準配置	特になし	特になし

No	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
1134	1.定期的に実施	288	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	288	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	先頭保育者の後ろを歩く本児たちのみ、年少児を真ん中に３人で手をつないでいたため、２人で手をつなぐ場合に比べ、年少児がバランスを崩しやすい状況にあった。	園外保育の際は、２人で手をつなぐ。手をつないで歩くことに慣れていない園児とは、職員が手をつなぐ。	1.いつもどおりの様子であった	年少児と手をつないで出かける、初めての園外散歩であった。手をつないで歩いていた年少児が転倒したため、一緒に転倒した。	4.対象児の動きを見ていなかった	園児８８名での園外散歩中であったため、先頭保育者の後ろを歩く本児と、中間、後方の引率を担っていた担当職員には、距離があり転倒の瞬間を担当職員は見ていなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	先頭保育者は、本児の転倒する様子を至近距離で見ており、手を差し出したが間に合わなかった。転倒後すぐに外傷はないか確認したが、外傷は見られず、園に戻るまで受傷に気づかなかった。	口数の少ない児のため、痛みを訴えられなかった可能性がある。道路を横断中であったため、早足になり、バランスを崩しやすい状況にあった。	転倒し手を着いた場合は、外傷だけでなく、骨折の可能性があることを考慮し、視診を行う。道路を横断する際は、転倒の危険があるため、早足にはせず歩いて横断することを指導する。	
1135	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎	1.定期的に実施	毎	基準配置は満たしており安全な配慮はできていたが、緩やかな勾配のある斜面では、気を付けて下るように伝えるべきであった	遊ぶ前に、戸外で遊ぶときに気を付けることを子ども達と考えあい、守れるようにする。	1.集団活動中・見守りあり	芝山がでこぼこしている個所もあった	芝山の整備を実施する。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りであり、緩やかな芝山から小走りで下った	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	他児の子どもと活動中であった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の子どもと活動中であった	特になし	特になし	